別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　キンキダイガク 学校法人　近畿大学	
フリガナ 大学の名称	キンキダイガク 近畿大学　(Kindai University)	
大学本部の位置	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
大学の目的	教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、商学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学、社会学、国際学、情報学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。	
新設学部等の目的	Society5.0の実現に向けて第4次産業革命（IoT・ビッグデータ・AI等）が進展する中、AI活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザインなど、第4次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を養成することを目的とする。	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	備考
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	情報学部 [Faculty of Informatics] 情報学科 [Department of Informatics]	4	330	－	1,320	学士 （工学） 【Bachelor of Engineering】	令和4年4月 第1年次	大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	計		330	－	1,320				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	
	近畿大学　（令和3年3月認可申請） 情報学部 情報学科〔定員増〕　(330)　（令和4年4月） 理工学部 電気電子工学科〔定員減〕　(△20)　（令和4年4月） エネルギー物質学科〔定員増〕　(120)　（令和4年4月） 情報学科（廃止）　(△190) ※令和4年4月学生募集停止 近畿大学 理工学部 エネルギー物質学科　(120)　（令和3年4月届出予定） 令和4年4月名称変更予定（令和3年4月届出予定） 理工学部 電気電子工学科→電気電子通信工学科

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	備考
		講義	演習	実験・実習	計		
	情報学部	92科目	41科目	21科目	154科目	124単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	備考
			人	人	人	人	人	人	人	
新設分	情報学部　情報学科		12 (12)	14 (14)	9 (9)	1 (1)	36 (36)	0 (0)	54 (54)	
新設分	理工学部　エネルギー物質学科		6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	97 (97)	令和3年4月届出
新設分	計		18 (18)	20 (20)	12 (12)	1 (1)	51 (51)	0 (0)	－ (－)	
既設分	法学部　法律学科		31 (31)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	46 (46)	0 (0)	153 (153)	通信教育法学部法律学科分を含む
既設分	経済学部　経済学科		11 (11)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	62 (62)	
既設分	総合経済政策学科		6 (6)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	29 (29)	
既設分	国際経済学科		6 (6)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	29 (29)	
既設分	経営学部　経営学科		19 (19)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	71 (71)	
既設分	商学科		14 (14)	14 (14)	2 (2)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	55 (55)	
既設分	会計学科		9 (9)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	48 (48)	
既設分	キャリア・マネジメント学科		9 (9)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	42 (42)	
既設分	理工学部　理学科		17 (17)	16 (16)	6 (6)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	95 (95)	

	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
			人	人	人	人	人	人	人	
教員組織の概要	既設分	理工学部 生命科学科	5 (5)	5 (5)	5 (5)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	71 (71)	
		応用化学科	7 (7)	7 (7)	6 (6)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	69 (69)	
		機械工学科	11 (11)	8 (8)	7 (7)	1 (1)	27 (27)	0 (0)	79 (79)	
		電気電子通信工学科	9 (9)	7 (7)	4 (4)	3 (3)	23 (23)	0 (0)	89 (89)	令和3年4月名称変更届出
		社会環境工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	91 (91)	
		建築学部 建築学科	14 (14)	13 (13)	6 (6)	1 (1)	34 (34)	0 (0)	41 (41)	
		薬学部 医療薬学科	14 (14)	12 (12)	8 (8)	7 (7)	41 (41)	0 (0)	70 (70)	
		創薬科学科	5 (5)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)	
		文芸学部 文学科	14 (14)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	31 (31)	
		芸術学科	12 (12)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	51 (51)	
		文化・歴史学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	30 (30)	
		文化デザイン学科	4 (4)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	22 (22)	
		総合社会学部 総合社会学科	18 (18)	21 (21)	6 (6)	0 (0)	45 (45)	0 (0)	68 (68)	
		国際学部 国際学科	13 (13)	14 (14)	4 (4)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	36 (36)	
		農学部 農業生産科学科	6 (6)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	31 (31)	
		水産学科	7 (7)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	20 (20)	
		応用生命化学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	21 (21)	
		食品栄養学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	5 (5)	22 (22)	
		環境管理学科	5 (5)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	23 (23)	
		生物機能科学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	19 (19)	
		医学部 医学科	60 (60)	38 (38)	170 (170)	131 (131)	399 (399)	3 (3)	168 (168)	
		生物理工学部 生物工学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	
		食品安全工学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	13 (13)	
		遺伝子工学科	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)	
		生命情報工学科	4 (4)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	14 (14)	
		人間環境デザイン工学科	5 (5)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	14 (14)	
		医用工学科	5 (5)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	16 (16)	
		工学部 化学生命工学科	6 (6)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	
		機械工学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	14 (14)	
		情報学科	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	14 (14)	
		建築学科	6 (6)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	23 (23)	
		電子情報工学科	5 (5)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)	
		ロボティクス学科	6 (6)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	7 (7)	
		産業理工学部 生物環境化学科	8 (8)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	6 (6)	
		電気電子工学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)	

教員組織の概要	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
		人	人	人	人	人	人	人	
既設分	産業理工学部　建築・デザイン学科	5 (5)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	14 (14)	
	情報学科	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	13 (13)	
	経営ビジネス学科	5 (5)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	12 (12)	
	全学共通教育機構	0 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	82 (82)	
	教職教育部	11 (11)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	22 (22)	
	計	472 (472)	348 (348)	306 (306)	157 (157)	1,283 (1,283)	9 (9)	－ (－)	
	合計	490 (490)	368 (368)	318 (318)	158 (158)	1,334 (1,334)	9 (9)	－ －	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
		人	人	人
	事務職員	604 (604)	666 (666)	1,270 (1,270)
	技術職員	1,980 (1,980)	204 (204)	2,184 (2,184)
	図書館専門職員	16 (16)	10 (10)	26 (26)
	その他の職員	16 (16)	17 (17)	33 (33)
	計	2,616 (2,616)	897 (897)	3,513 (3,513)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	597,646㎡	146,434㎡	0㎡	744,080㎡	近畿大学短期大学部・近畿大学短期大学部通信教育部（必要面積1,600㎡）と共用。
	運動場用地	98,830㎡	321,841㎡	0㎡	420,671㎡	
	小計	696,476㎡	468,275㎡	0㎡	1,164,751㎡	
	その他	1,806,418㎡	0㎡	0㎡	1,806,418㎡	
	合計	2,502,894㎡	468,275㎡	0㎡	2,971,169㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	324,012㎡ (332,640㎡)	95,308㎡ (95,308㎡)	1,900㎡ (1,900㎡)	421,220㎡ (429,848㎡)	近畿大学短期大学部・近畿大学短期大学部通信教育部（必要面積5,500㎡）と共用

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	339室	256室	661室	79室 (補助職員103人)	8室 (補助職員　3人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	情報学部	36　室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	情報学部	2,396,678〔872,059〕 (2,339,329〔860,591〕)	21,713〔10,798〕 (21,701〔10,798〕)	92,308〔75,444〕 (88,719〔71,860〕)	49,573 (48,492)	39,590 (48,489)	513 (580)	学科単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	2,396,678〔872,059〕 (2,339,329〔860,591〕)	21,713〔10,798〕 (21,701〔10,798〕)	92,308〔75,444〕 (88,719〔71,860〕)	49,573 (48,492)	39,590 (48,489)	513 (580)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	35,926㎡	5,362	2,556,680	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	24,350㎡	屋内プール	野球場・武道場

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		2,792千円	2,792千円	2,792千円	2,792千円	－ 千円	－ 千円	届出学部全体
	共同研究費等		2,013千円	2,013千円	2,013千円	2,013千円	－ 千円	－ 千円	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	図書購入費	41,910千円	41,910千円	41,910千円	41,910千円	41,910千円	－ 千円	－ 千円	
	設備購入費	162,360千円	162,360千円	162,360千円	162,360千円	162,360千円	－ 千円	－ 千円	

経費の見積り及び維持方法の概要	学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
		1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	ー　千円	ー　千円	
	別途、学生健保共済会費、学部学生部会費、校友会終身会費が必要							
	学生納付金以外の維持方法の概要	手数料、寄付金、補助金、資産運用事業収入等で維持する。						

既設大学等の状況										
大学の名称	近畿大学大学院									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
法務研究科 法務専攻	3	－	－	－	法務博士 (専門職)	－	平成16年度	大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	※平成31年度より学生募集停止 (法務研究科)	
法学研究科 法律学専攻								大阪府東大阪市 新上小阪228番3号		
博士前期課程	2	10	－	20	修士 (法学)	0.55	昭和45年度			
博士後期課程	3	5	－	15	博士 (法学)	0.20	昭和47年度			
商学研究科 商学専攻								大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号		
博士前期課程	2	20	－	40	修士 (商学)	0.52	昭和27年度			
博士後期課程	3	5	－	15	博士 (商学)	0.13	昭和45年度			
経済学研究科 経済学専攻								大阪府東大阪市 新上小阪228番3号		
博士前期課程	2	20	－	40	修士 (経済学)	0.20	平成元年度			
博士後期課程	3	5	－	15	博士 (経済学)	0.00	平成3年度			
総合理工学研究科 理学専攻								大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号		
博士前期課程	2	30	－	60	修士 (理学)	1.49	平成11年度			
博士後期課程	3	2	－	6	博士 (理学)	1.16	平成11年度			
物質系工学専攻										
博士前期課程	2	40	－	80	修士 (工学)	1.07	平成11年度			
博士後期課程	3	2	－	6	博士 (工学)	0.66	平成11年度			

	大学の名称	近畿大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	総合理工学研究科								大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	メカニックス系工学専攻									
	博士前期課程	2	25	－	50	修士 (工学)	2.52	平成11 年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士 (工学)	0.50	平成11 年度		
	エレクトロニクス系工学専攻									
	博士前期課程	2	30	－	60	修士 (工学)	1.58	平成11 年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士 (工学)	1.16	平成11 年度		
	環境系工学専攻									
	博士前期課程	2	15	－	30	修士 (工学)	1.33	平成11 年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士 (工学)	0.83	平成11 年度		
	建築デザイン専攻									
	修士課程	2	10	－	20	修士 (建築学)	1.40	平成27 年度		
	東大阪モノづくり専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士 (工学)	0.45	平成16 年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士 (工学)	0.00	平成20 年度		
	薬学研究科								大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	薬科学専攻									
	博士前期課程	2	15	－	30	修士 (薬科学)	0.93	平成22 年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士 (薬科学)	1.83	平成24 年度		
	薬学専攻									
	博士課程	4	3	－	12	博士 (薬学)	1.74	平成24 年度		
	総合文化研究科								大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	日本文学専攻									
	修士課程	2	4	－	8	修士 (文学)	0.50	平成26 年度		
	英語英米文学専攻									
	修士課程	2	3	－	6	修士 (文学)	0.16	平成26 年度		
	文化・社会学専攻									
	修士課程	2	8	－	16	修士 (文化学)(社会学)	1.43	平成26 年度		
	心理学専攻									
	修士課程	2	6	－	12	修士 (心理学)	0.91	平成26 年度		

	大学の名称	近畿大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	農学研究科								奈良県奈良市中町3327番204	
	農業生産科学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士(農学)	1.95	平成17年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(農学)	0.16	平成17年度		
	水産学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士(農学)	1.10	昭和61年度		
	博士後期課程	3	4	－	12	博士(農学)	0.08	平成元年度		
	応用生命化学専攻									
	博士前期課程	2	14	－	28	修士(農学)	1.85	昭和60年度		
	博士後期課程	3	5	－	15	博士(農学)	0.00	平成元年度		
	環境管理学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士(農学)	1.30	平成17年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(農学)	0.50	平成17年度		
	バイオサイエンス専攻									
	博士前期課程	2	12	－	24	修士(農学)	1.70	平成17年度		
	博士後期課程	3	4	－	12	博士(農学)	0.16	平成17年度		
	生物理工学研究科								和歌山県紀の川市西三谷930	
	生物工学専攻									
	博士前期課程	2	16	－	32	修士(工学)	1.12	平成9年度		
	博士後期課程	3	3	－	9	博士(工学)	0.77	平成11年度		
	生体システム工学専攻									
	博士前期課程	2	18	－	36	修士(工学)	1.30	平成26年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(工学)	0.33	平成28年度		
	システム工学研究科								広島県東広島市高屋うめの辺1番	
	システム工学専攻									
	博士前期課程	2	45	－	90	修士(工学)	1.18	平成17年度		
	博士後期課程	3	5	－	15	博士(工学)	0.20	平成17年度		
	産業理工学研究科								福岡県飯塚市柏の森11番6	
	産業理工学専攻									
	博士前期課程	2	30	－	60	修士(工学)	0.51	平成25年度		
	博士後期課程	3	3	－	9	博士(工学)	0.55	平成27年度		
	医学研究科								大阪府大阪狭山市大野東377番2	
	医学系専攻									
	博士課程	4	45	－	180	博士(医学)	0.51	平成20年度		

	大学の名称	近畿大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	法学部						0.99		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	法律学科	4	500	－	2,000	学士 （法学）	0.99	昭和25年度		
	経済学部						1.01		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	経済学科	4	420	－	1,680	学士 （経済学）	1.03	平成15年度		
	総合経済政策学科	4	170	－	680	学士 （経済政策学）	0.98	平成15年度		
	国際経済学科	4	170	－	680	学士 （国際経済学）	1.01	平成18年度		
	経営学部						1.00		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	経営学科		585	－	2,340		1.01			
	昼間主コース	4	425	－	1,700	学士 （経営学）	1.00	平成15年度		
	夜間主コース	4	160	－	640	学士 （経営学）	1.05	平成15年度		
	商学科	4	405	－	1,620	学士 （商学）	1.00	平成15年度		
	会計学科	4	175	－	700	学士 （会計学）	0.97	平成18年度		
	キャリア・マネジメント学科	4	175	－	700	学士 （キャリア・マネジメント学）	0.98	平成19年度		
	理工学部						1.00		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	理学科	4	225	－	900	学士 （理学）	0.98	平成14年度		
	生命科学科	4	95	－	380	学士 （理学）	0.98	平成14年度		
	応用化学科	4	130	－	520	学士 （工学）	1.06	平成14年度		
	機械工学科	4	200	－	800	学士 （工学）	0.95	平成14年度		
	電気電子工学科	4	190	－	760	学士 （工学）	0.99	平成14年度		
	社会環境工学科	4	100	－	400	学士 （工学）	1.00	平成14年度		
	情報学科	4	190	－	760	学士 （工学）	1.03	平成14年度		※令和4年度より学生募集停止
	建築学部						1.04		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	建築学科	4	280	－	1,120	学士 （建築学）	1.04	平成23年度		
	薬学部						1.04		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	医療薬学科	6	150	－	900	学士 （薬学）	1.03	平成18年度		6年制学科
	創薬科学科	4	40	－	160	学士 （薬科学）	1.04	平成18年度		4年制学科
	文芸学部						0.99		大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	文学科		180		720		1.01			
	日本文学専攻	4	120	－	480	学士 （文学）	1.03	平成元年度		
	英語英米文学専攻	4	60	－	240	学士 （文学）	0.99	平成元年度		

	大学の名称	近畿大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	文芸学部								大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
	芸術学科		115		460		0.95			
	舞台芸術専攻	4	50	－	200	学士（文芸学）	0.95	平成元年度		
	造形芸術専攻	4	65	－	260	学士（文芸学）	0.94	平成元年度		
	文化・歴史学科	4	140	－	560	学士（文学）	1.01	平成元年度		
	文化デザイン学科	4	80	－	320	学士（文芸学）	0.99	平成28年度		
	総合社会学部						1.02		大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
	総合社会学科	4	510	－	2,040	学士（総合社会学）	1.02	平成22年度		
	国際学部						1.02		大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
	国際学科	4	500	－	2,000	学士（国際学）	1.02	平成28年度		
	農学部						0.99		奈良県奈良市中町3327番204	
	農業生産科学科	4	120	－	480	学士（農学）	0.97	平成17年度		
	水産学科	4	120	－	480	学士（農学）	0.99	昭和33年度		
	応用生命化学科	4	120	－	480	学士（農学）	1.00	平成17年度		
	食品栄養学科	4	80	－	320	学士（農学）	1.01	昭和42年度		
	環境管理学科	4	120	－	480	学士（農学）	1.05	平成17年度		
	生物機能科学科	4	120	－	480	学士（農学）	0.93	平成17年度		
	医学部						0.99		大阪府大阪狭山市大野東377番2	
	医学科	6	112	－	679	学士（医学）	0.99	昭和49年度		令和2・3年度のみの臨時定員変更(12) 令和3年度のみの臨時定員変更(5)
	生物理工学部						0.96		和歌山県紀の川市西三谷930	
	生物工学科	4	90	－	360	学士（工学）	0.99	平成5年度		
	食品安全工学科	4	90	－	360	学士（工学）	0.93	平成22年度		
	遺伝子工学科	4	90	－	360	学士（工学）	0.93	平成9年度		
	生命情報工学科	4	80	－	320	学士（工学）	0.99	平成22年度		
	人間環境デザイン工学科	4	80	－	320	学士（工学）	0.96	平成22年度		
	医用工学科	4	55	－	220	学士（工学）	0.96	平成22年度		
	工学部						0.98		広島県東広島市高屋うめの辺1番	
	化学生命工学科	4	85	－	340	学士（工学）	0.89	昭和34年度		
	機械工学科	4	100	－	400	学士（工学）	0.94	昭和34年度		
	情報学科	4	90	－	360	学士（工学）	1.08	昭和37年度		

既設大学等の状況									
	大学の名称	近畿大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	工学部								広島県東広島市高屋うめの辺1番
	建築学科	4	100	－	400	学士（工学）	1.00	昭和40年度	
	電子情報工学科	4	90	－	360	学士（工学）	1.02	平成4年度	
	ロボティクス学科	4	80	－	320	学士（工学）	0.94	平成4年度	
	産業理工学部						1.01		福岡県飯塚市柏の森11番6
	生物環境化学科	4	75	－	300	学士（工学）	0.93	平成16年度	
	電気電子工学科	4	65	－	260	学士（工学）	0.95	平成16年度	
	建築・デザイン学科	4	90	－	360	学士（工学）	1.01	平成16年度	
	情報学科	4	70	－	280	学士（工学）	1.11	平成16年度	
	経営ビジネス学科	4	120	－	480	学士（経営ビジネス学）	1.02	平成16年度	
	通信教育法学部								大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
	法律学科	4	2,000	－	8,000	学士（法学）	0.05	昭和35年度	
	大学の名称	近畿大学短期大学部							
		年	人	年次人	人		倍		大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
	商経科 第2部	2	80	－	160	短期大学士（経営学）	1.10	昭和25年度	
	通信教育部商経科	2	2,000	－	4,000	短期大学士（経営学）	0.13	昭和32年度	
	大学の名称	近畿大学九州短期大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		福岡県飯塚市菰田東1丁目5番30号
	生活福祉情報科	2	50	－	100	短期大学士（生活科学）	0.83	昭和41年度	
	保育科	2	70	－	140	短期大学士（教育・保育学）	0.73	昭和41年度	
	通信教育部 生活福祉情報科	2	300	－	600	短期大学士（生活科学）	0.11	平成9年度	
	通信教育部 保育科	2	600	－	1,200	短期大学士（教育・保育学）	0.62	昭和53年度	
	大学の名称	近畿大学工業高等専門学校							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		三重県名張市春日丘七番町1番地
	総合システム工学科	5	160	－	800	準学士（工学）	1.06	平成17年度	

附属施設の概要	・名　　称：近畿大学病院 目　　的：医学分野における臨床教育、臨床研究、臨床試験の部分を担い、また 地域に対する高度な医療の提供 所 在 地：大阪府大阪狭山市大野東377-2 設置年月：昭和50年5月 規 模 等：土地 1,970㎡, 建物 88,288㎡ ・名　　称：近畿大学奈良病院 目　　的：医学分野における臨床教育、臨床研究、臨床試験の部分を担い、また 地域に対する高度な医療の提供 所 在 地：奈良県生駒市乙田町1248-1 設置年月：平成11年10月 規 模 等：土地 164,545㎡, 建物 47,245㎡ ・名　　称：近畿大学水産研究所 目　　的：水産生物の養殖に関する研究並びに学生の実験実習 所 在 地：和歌山県西牟婁郡白浜町3153 設置年月：昭和35年4月(白浜、大島、奄美、浦神、新宮、富山の6つの実験場を設置) 規 模 等：土地 216,874㎡, 建物 19,731㎡ ・名　　称：近畿大学附属農場 目　　的：近代的農場経営並びに農学全般に関する教育研究 所 在 地：(湯浅農場)和歌山県有田郡湯浅町湯浅2355番2 (生石農場)和歌山県有田郡清水町楠本1643番21 設置年月：昭和33年4月 規 模 等：土地 414,507㎡, 建物 4,505㎡	

学校法人近畿大学　組織の移行表

令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
近畿大学					近畿大学				
法学部					法学部				
法律学科	500	－	2,000	→	法律学科	500	－	2,000	
経済学部					経済学部				
経済学科	420	－	1,680	→	経済学科	420	－	1,680	
総合経済政策学科	170	－	680	→	総合経済政策学科	170	－	680	
国際経済学科	170	－	680	→	国際経済学科	170	－	680	
経営学部					経営学部				
経営学科昼間主ｺｰｽ	425	－	1,700	→	経営学科昼間主ｺｰｽ	425	－	1,700	
経営学科夜間主ｺｰｽ	160	－	640	→	経営学科夜間主ｺｰｽ	160	－	640	
商学科	405	－	1,620	→	商学科	405	－	1,620	
会計学科	175	－	700	→	会計学科	175	－	700	
ｷｬﾘｱ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	175	－	700	→	ｷｬﾘｱ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	175	－	700	
理工学部					理工学部				
理学科	225	－	900	→	理学科	225	－	900	
生命科学科	95	－	380	→	生命科学科	95	－	380	
応用化学科	130	－	520	→	応用化学科	130	－	520	
機械工学科	200	－	800	→	機械工学科	200	－	800	
電気電子工学科	190	－	760	→	電気電子通信工学科	170	－	680	名称変更 定員変更（△20）
社会環境工学科	100	－	400	→	社会環境工学科	100	－	400	
情報学科	190	－	760	→		0	－	0	令和4年4月学生募集停止
					エネルギー物質学科	120	－	480	学科の設置（届出）
建築学部					建築学部				
建築学科	280	－	1,120	→	建築学科	280	－	1,120	
薬学部					薬学部				
医療薬学科	150	－	900	→	医療薬学科	150	－	900	
創薬科学科	40	－	160	→	創薬科学科	40	－	160	
文芸学部					文芸学部				
文学科					文学科				
日本文学専攻	120	－	480	→	日本文学専攻	120	－	480	
英語英米文学専攻	60	－	240	→	英語英米文学専攻	60	－	240	
芸術学科					芸術学科				
舞台芸術専攻	50	－	200	→	舞台芸術専攻	50	－	200	
造形芸術専攻	65	－	260	→	造形芸術専攻	65	－	260	
文化・歴史学科	140	－	560	→	文化・歴史学科	140	－	560	
文化デザイン学科	80	－	320	→	文化デザイン学科	80	－	320	
総合社会学部					総合社会学部				
総合社会学科	510	－	2,040	→	総合社会学科	510	－	2,040	
国際学部					国際学部				
国際学科	500	－	2,000	→	国際学科	500	－	2,000	
					情報学部				学部の設置（届出）
					情報学科	330	－	1,320	
農学部					農学部				
農業生産科学科	120	－	480	→	農業生産科学科	120	－	480	
水産学科	120	－	480	→	水産学科	120	－	480	
応用生命化学科	120	－	480	→	応用生命化学科	120	－	480	
食品栄養学科	80	－	320	→	食品栄養学科	80	－	320	
環境管理学科	120	－	480	→	環境管理学科	120	－	480	
生物機能科学科	120	－	480	→	生物機能科学科	120	－	480	
医学部					医学部				
医学科	112	－	672	→	医学科	95	－	570	令和2・3年度のみの臨時定員変更(12) 令和3年度のみの臨時定員変更(5)
生物理工学部					生物理工学部				
生物工学科	90	－	360	→	生物工学科	90	－	360	
食品安全工学科	90	－	360	→	食品安全工学科	90	－	360	
遺伝子工学科	90	－	360	→	遺伝子工学科	90	－	360	
生命情報工学科	80	－	320	→	生命情報工学科	80	－	320	
人間環境デザイン工学科	80	－	320	→	人間環境デザイン工学科	80	－	320	
医用工学科	55	－	220	→	医用工学科	55	－	220	
工学部					工学部				
化学生命工学科	85	－	340	→	化学生命工学科	85	－	340	
機械工学科	100	－	400	→	機械工学科	100	－	400	
情報学科	90	－	360	→	情報学科	90	－	360	
建築学科	100	－	400	→	建築学科	100	－	400	
電子情報工学科	90	－	360	→	電子情報工学科	90	－	360	
ロボティクス学科	80	－	320	→	ロボティクス学科	80	－	320	

令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
産業理工学部					産業理工学部				
生物環境化学科	75	－	300	→	生物環境化学科	75	－	300	
電気電子工学科	65	－	260	→	電気電子工学科	65	－	260	
建築・デザイン学科	90	－	360	→	建築・デザイン学科	90	－	360	
情報学科	70	－	280	→	情報学科	70	－	280	
経営ビジネス学科	120	－	480	→	経営ビジネス学科	120	－	480	
通信教育法学部					通信教育法学部				
法律学科	2,000	－	8,000	→	法律学科	2,000	－	8,000	
計	9,967	－	40,392		計	10,190	－	41,250	
近畿大学大学院					近畿大学大学院				
法学研究科					法学研究科				
法律学専攻					法律学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
商学研究科					商学研究科				
商学専攻					商学専攻				
博士前期課程	20	－	40	→	博士前期課程	20	－	40	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻					経済学専攻				
博士前期課程	20	－	40	→	博士前期課程	20	－	40	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
総合理工学研究科					総合理工学研究科				
理学専攻					理学専攻				
博士前期課程	30	－	60	→	博士前期課程	30	－	60	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
物質系工学専攻					物質系工学専攻				
博士前期課程	40	－	80	→	博士前期課程	40	－	80	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
メカニックス系工学専攻					メカニックス系工学専攻				
博士前期課程	25	－	50	→	博士前期課程	25	－	50	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
エレクトロニクス系工学専攻					エレクトロニクス系工学専攻				
博士前期課程	30	－	60	→	博士前期課程	30	－	60	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
環境系工学専攻					環境系工学専攻				
博士前期課程	15	－	30	→	博士前期課程	15	－	30	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
建築デザイン専攻					建築デザイン専攻				
修士課程	10	－	20	→	修士課程	10	－	20	
東大阪モノづくり専攻					東大阪モノづくり専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
薬学研究科					薬学研究科				
薬科学専攻					薬科学専攻				
博士前期課程	15	－	30	→	博士前期課程	15	－	30	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
薬学専攻					薬学専攻				
博士課程	3	－	12	→	博士課程	3	－	12	
総合文化研究科					総合文化研究科				
日本文学専攻					日本文学専攻				
修士課程	4	－	8	→	修士課程	4	－	8	
英語英米文学専攻					英語英米文学専攻				
修士課程	3	－	6	→	修士課程	3	－	6	
文化・社会学専攻					文化・社会学専攻				
修士課程	8	－	16	→	修士課程	8	－	16	
心理学専攻					心理学専攻				
修士課程	6	－	12	→	修士課程	6	－	12	

令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
農学研究科					農学研究科				
農業生産科学専攻					農業生産科学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
水産学専攻					水産学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	4	－	12	→	博士後期課程	4	－	12	
応用生命化学専攻					応用生命化学専攻				
博士前期課程	14	－	28	→	博士前期課程	14	－	28	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
環境管理学専攻					環境管理学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
バイオサイエンス専攻					バイオサイエンス専攻				
博士前期課程	12	－	24	→	博士前期課程	12	－	24	
博士後期課程	4	－	12	→	博士後期課程	4	－	12	
生物理工学研究科					生物理工学研究科				
生物工学専攻					生物工学専攻				
博士前期課程	16	－	32	→	博士前期課程	16	－	32	
博士後期課程	3	－	9	→	博士後期課程	3	－	9	
生体システム工学専攻					生体システム工学専攻				
博士前期課程	18	－	36	→	博士前期課程	18	－	36	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
システム工学研究科					システム工学研究科				
システム工学専攻					システム工学専攻				
博士前期課程	45	－	90	→	博士前期課程	45	－	90	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
産業理工学研究科					産業理工学研究科				
産業理工学専攻					産業理工学専攻				
博士前期課程	30	－	60	→	博士前期課程	30	－	60	
博士後期課程	3	－	9	→	博士後期課程	3	－	9	
医学研究科					医学研究科				
医学系専攻					医学系専攻				
博士課程	45	－	180	→	博士課程	45	－	180	
計	518		1,191		計	518		1,191	
近畿大学短期大学部					近畿大学短期大学部				
商経科 第2部	80	－	160	→	商経科 第2部	80	－	160	
通信教育部商経科	2,000	－	4,000	→	通信教育部商経科	2,000	－	4,000	
計	2,080		4,160		計	2,080		4,160	
近畿大学九州短期大学					近畿大学九州短期大学				
生活福祉情報科	50	－	100	→	生活福祉情報科	50	－	100	
保育科	70	－	140	→	保育科	70	－	140	
通信教育部					通信教育部				
生活福祉情報科	300	－	600	→	生活福祉情報科	300	－	600	
保育科	600	－	1,200	→	保育科	600	－	1,200	
計	1,020	－	2,040		計	1,020	－	2,040	
近畿大学工業高等専門学校					近畿大学工業高等専門学校				
総合システム工学科	160	－	800	→	総合システム工学科	160	－	800	
計	160	－	800		計	160	－	800	
近畿大学看護専門学校					近畿大学看護専門学校				
看護学科	80		240		看護学科	80		240	
計	80	－	240		計	80	－	240	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（情報学部情報学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群		自校学習	1前		1		○				1					メディア
				現代社会と法	1前		2		○								兼1	メディア
				環境と社会	1前		2		○								兼1	メディア
				技術と倫理	1後	2			○			1						メディア
				教養特殊講義Ａ	1後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
				科学技術の進歩と人権	1後		2		○								兼1	メディア
				暮らしのなかの憲法	1後		2		○								兼1	メディア
				住みよい社会と福祉	1後		2		○								兼1	メディア
				資源とエネルギー	2前		2		○								兼1	メディア
				心理と行動	2後		2		○								兼1	メディア
				企業倫理と知的財産	3後		2		○								兼1	メディア
				小計（11科目）	－	2	19	0	－			1	1	0	0	0	兼9	－
		地域性・国際性科目群		国際経済と企業の国際化	1前		2		○								兼1	メディア
				国際社会と日本	1前		2		○								兼1	メディア
				ビジネスモデルとマネジメント	1後		2		○				1					メディア
				教養特殊講義Ｂ	1前		2		○								兼2	共同
				メディアの読み方	3前		2		○								兼1	メディア
				小計（5科目）	－	0	10	0	－			0	1	0	0	0	兼5	－
		課題設定・問題解決科目群		日本語の技法	1前		2		○								兼1	メディア
				基礎ゼミ１	1前	2				○		11	14	7	1			
				基礎ゼミ２	1後	2				○		11	14	7	1			
				教養特殊講義Ｃ	1後		2		○								兼2	共同
				科学的問題解決法	3前		2		○								兼1	メディア
				プレゼンテーション技術	3後		2		○								兼1	メディア
				小計（6科目）	－	4	8	0	－			11	14	7	1	0	兼5	－
		スポーツ・表現活動科目群		生涯スポーツ１	1前		1				○						兼2	
				生涯スポーツ２	1後		1				○						兼2	
				小計（2科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼2	－
	外国語科目	第一外国語	英語	英語総合１	1前	2				○		1		1			兼4	メディア
				英語総合２	1後	2				○		1		1			兼4	メディア
				TOEIC１	2前	1				○		1		1				メディア
				TOEIC２	2後	1				○		1		1				メディア
				ライティング１	2前		1			○		1					兼4	メディア
				ライティング２	2後		1			○		1					兼4	メディア
				アカデミックイングリッシュ１	3前		1			○				1			兼4	メディア
				アカデミックイングリッシュ２	3後		1			○				1			兼4	メディア
				オーラルイングリッシュ１	1前	1				○				1			兼5	メディア
				オーラルイングリッシュ２	1後	1				○				1			兼5	メディア
				オーラルイングリッシュ３	2前		1			○				1			兼5	メディア
				オーラルイングリッシュ４	2後		1			○				1			兼5	メディア
				IT英語１	3前		1			○				1			兼1	メディア
				IT英語２	3後		1			○				1			兼1	メディア
				海外語学研修（英語）	1･2･3･4通		2				○	1						集中
				小計（15科目）	－	8	10	0	－			1	0	2	0	0	兼9	－

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	外国語科目	第二外国語	ドイツ語	ドイツ語総合１	1前		1			○							兼2	メディア
				ドイツ語総合２	1後		1			○							兼2	メディア
				ドイツ語総合３	2前		1			○							兼1	メディア
				ドイツ語総合４	2後		1			○							兼1	メディア
				小計（4科目）	－	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼3	－
			フランス語	フランス語総合１	1前		1			○							兼1	メディア
				フランス語総合２	1後		1			○							兼1	メディア
				フランス語総合３	2前		1			○							兼1	メディア
				フランス語総合４	2後		1			○							兼1	メディア
				小計（4科目）	－	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼2	－
			中国語	中国語総合１	1前		1			○							兼5	メディア
				中国語総合２	1後		1			○							兼5	メディア
				中国語総合３	2前		1			○							兼2	メディア
				中国語総合４	2後		1			○							兼2	メディア
				海外語学研修（中国語）	1･2･3･4通		2				○	1						集中
				小計（5科目）	－	0	6	0		－		1	0	0	0	0	兼6	－
			韓国語	韓国語総合１	1前		1			○							兼2	メディア
				韓国語総合２	1後		1			○							兼2	メディア
				韓国語総合３	2前		1			○							兼1	メディア
				韓国語総合４	2後		1			○							兼1	メディア
				海外語学研修（韓国語）	1･2･3･4通		2				○	1						集中
				小計（5科目）	－	0	6	0		－		1	0	0	0	0	兼3	－
専門科目		基礎科目		基礎微分積分学	1前	2			○					1				
				基礎線形代数学１	1前	2			○					1				
				基礎線形代数学２	1後	2			○				1					
				コンピュータ基礎	1前	2			○			1						
				確率統計	1後	2			○			1						
				情報処理実習１	1前		1				○			1				メディア
				情報処理実習２	1後		1				○		1					メディア
				基礎物理学および演習	1前		3		○	※							兼1	※演習
				基礎化学および演習	1前		3		○	※							兼1	※演習
				化学	1後		2		○								兼2	共同
				基礎生物学	1前		2		○								兼1	
				生物学	1後		2		○								兼1	
				情報システム基礎	1前			2	※	○		1						※講義 メディア
				情報システム応用	1後			2	※	○		1						※講義 メディア
				小計（14科目）	－	10	14	4		－		3	2	3	0	0	兼6	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	学部共通専門科目	プログラミング基礎１	1前	2					○	2	1	2			兼1	共同
		プログラミング基礎２	1後	2					○	3	3				兼1	共同
		ｅスポーツ	1前			2	○					1				メディア
		IoT	1後	2			○					1				
		オブジェクト指向プログラミング	1後	2			○			1						
		機械学習概論	1後		2		○			1						メディア
		情報学基礎ゼミナール１	2前	2				○		11	14	7	1			
		情報学基礎ゼミナール２	2後	2				○		11	14	7	1			
		プログラミング実習１	2前	2					○	1	5	2				共同
		プログラミング実習２	2後	2					○	2	3	3				共同
		データ構造とアルゴリズム	2前	2			○				1					
		ネットワーク技術	2前	2			○			1						
		離散数学	2前		2		○			1						メディア
		ITビジネス基礎	2前		2		○								兼1	メディア
		Webシステム	2後	2			○				1					
		オブジェクト指向設計	2後	2			○					1				
		ネットワークセキュリティ技術	2後		2		○						1			メディア
		情報学応用ゼミナール１	3前	2				○		10	14	7	1			
		情報学応用ゼミナール２	3後	2				○		10	14	7	1			
		人工知能	3前	2			○				1					メディア
		データベース論	3前		2		○					1				メディア
		情報理論	3前		2		○					1				メディア
		キャリアデザイン	3後		2		○				1					
		データマイニング	3後		2		○					1				メディア
		情報セキュリティ	3後		2		○			1						メディア
		情報と職業	4前		2		○				1					メディア
		社会情報学実習１	2前		1				○	10	14	7	1			共同
		社会情報学実習２	2後		1				○	10	14	7	1			共同
		社会情報学実習３	3前		1				○	10	14	7	1			共同
		社会情報学実習４	3後		1				○	10	14	7	1			共同
		卒業研究	4通	8				○		10	14	7	1			
		小計（31科目）	－	38	24	2		－		11	14	7	1	0	兼2	－
	知能システムコース	多変量解析	2前		2		○				1					
		応用数学	2前		2		○			1						
		機械学習１	2後		2		○				1					
		機械学習２	3後		2		○			1						
		実践機械学習	2後		2		○				1					メディア
		統計データ解析	2後		2		○				1					メディア
		自然言語処理	2後		2		○				1					メディア
		数理計画法	2後		2		○			1						メディア
		知能システムプロジェクト１	3前		2				○	2	2					共同
		知能システムプロジェクト２	3後		2				○	2	1	1				共同
		メディア処理	3前		2		○					1				
		音声言語処理	3前		2		○			1						メディア
		コンピュータビジョン	3前		2		○				1					メディア
		データモデリング	3前		2		○					1				
		HCI	3後		2		○				1					メディア
		医療情報学応用	3後		2		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）メディア
		知的エージェント	3後		2		○					1				メディア
		小計（17科目）	－	0	34	0		－		4	8	3	0	0	0	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門科目	サイバーセキュリティコース	OSとコンピュータアーキテクチャ	2前		2		○			1						
		暗号と情報セキュリティ	2前		2		○					1				メディア
		情報セキュリティ対策と管理１	2後		2		○				1					
		情報セキュリティ対策と管理２	3前		2		○				1					メディア
		情報数学	2後		2		○			1						メディア
		ブロックチェーン	2後		2		○								兼1	メディア
		サイバーセキュリティプロジェクト１	3前		2				○		2	1	1			共同
		サイバーセキュリティプロジェクト２	3後		2				○	1	1	1	1			共同
		ソフトウェア工学	3前		2		○				1					メディア
		セキュリティ解析技術	3前		2		○						1			
		モバイル通信	3前		2		○				1					メディア
		サイバー犯罪学	3前		2		○								兼1	メディア
		組み込みシステム	3後		2		○				1					
		セキュリティ技術評価と実装技術	3後		2		○				1					
		情報と社会	3後		2		○			1						メディア
		クラウドコンピューティング	3後		2		○				1					メディア
		ネットワーク演習１	3前			2		○			2	1				共同
		ネットワーク演習２	3後			2		○		1	1	1				共同
		小計（18科目）	－	0	32	4	－			3	4	3	1	0	兼2	－
	実世界コンピューティングコース	コミュニケーション論	2前		2		○				1					
		エンターテインメントコンピューティング	2前		2		○			1						
		人間中心設計論	2後		2		○			1						
		コンピュータグラフィックス	2後		2		○			1						メディア
		モデル最適化基礎	2後		2		○				1					メディア
		調査データ分析	2後		2		○				1					
		実世界コンピューティングプロジェクト１	3前		2				○	1	3					共同
		実世界コンピューティングプロジェクト２	3後		2				○	1	2	1				共同
		アドバンスドWebシステム	3前		2		○				1					メディア
		人工現実感	3前		2		○			1						
		インタラクション設計	3前		2		○			1						
		深層学習	3前		2		○				1					メディア
		サービスコンピューティング	3後		2		○				1					メディア
		複合システムデザイン	3後		2		○				1					メディア
		インタラクティブシステム	3後		2		○					1				
		深層強化学習	3後		2		○				1					メディア
		社会シミュレーション	3後		2		○					1				メディア
		小計（17科目）	－	0	34	0	－			4	6	2	0	0	0	－
合計（154科目）			－	62	207	10	－			12	14	9	1	0	兼54	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
全学共通科目の共通教養科目から14単位以上（必修科目6単位）、外国語科目から14単位以上（必修科目8単位）、及び専門科目から96単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。 専門科目のうち、必修科目として基礎科目から10単位、各コース必修科目（知能システムコース66単位、サイバーセキュリティコース70単位、実世界コンピューティングコース68単位）を修得すること。加えて知能システムコースのみ選択必修として「自然言語処理」「音声言語処理」「コンピュータビジョン」から2単位を修得すること。 学部共通専門科目のうち、知能システムコースでは「離散数学」「情報理論」「データマイニング」「情報セキュリティ」、サイバーセキュリティコースでは「離散数学」「ネットワークセキュリティ技術」「情報理論」、実世界コンピューティングコースでは「ネットワークセキュリティ技術」「情報セキュリティ」をコース必修科目とする。 外国語科目における英語科目の選択科目のうち、「オーラルイングリッシュ３・４」から1単位、「アカデミックイングリッシュ１・２」、「IT英語１・２」から1単位、専門科目における学部共通専門科目のうち、「社会情報学実習１・２・３・４」から2単位を選択必修とする。 （履修科目の登録の上限：半期24単位、年間48単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学部情報学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群		自校学習	1前		1		○								兼1	
				現代社会と法	1前		2		○								兼1	メディア
				環境と社会	1前		2		○								兼1	
				技術と倫理	1後	2			○								兼1	メディア
				教養特殊講義A	1前・後		2		○								兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・共同（一部）
				人権と社会１	2前・後		2		○								兼2	メディア
				暮らしのなかの憲法	2前・後		2		○								兼1	
				住みよい社会と福祉	2前・後		2		○								兼1	
				資源とエネルギー	2前・後		2		○								兼1	メディア
				人権と社会２	2後		2		○								兼1	
				企業倫理と知的財産	3後		2		○								兼1	メディア
				小計（11科目）	－	2	19	0	－			0	0	0	0	0	兼15	－
		地域性・国際性科目群		国際経済と企業の国際化	1前		2		○								兼1	
				国際社会と日本	1前		2		○								兼1	メディア
				国際化と異文化理解	1後		2		○								兼1	メディア
				ビジネスモデルとマネジメント	1後		2		○				1					メディア
				教養特殊講義B	1前・後		2		○								兼1	
				メディアの読み方	3前		2		○								兼1	
				小計（6科目）	－	0	12	0	－			0	1	0	0	0	兼5	－
		課題設定・問題解決科目群		日本語の技法	1前		2		○								兼1	
				情報処理基礎	1前	1					○		1					
				基礎ゼミ１	1前	2				○		5	10	6				
				基礎ゼミ２	1後	2				○		5	10	6				
				教養特殊講義C	1前・後		2		○								兼2	共同
				キャリアデザイン	3前		2		○								兼1	
				科学的問題解決法	3前・後		2		○								兼1	
				プレゼンテーション技術	3後		2		○								兼1	
				小計（8科目）	－	5	10	0	－			5	10	6	0	0	兼6	－
		現活動科目群	スポーツ・表	生涯スポーツ１	1前		1				○						兼9	
				健康とスポーツの科学	1前		2		○								兼1	メディア
				食生活と健康	1前		2		○								兼1	
				生涯スポーツ２	1後		1				○						兼8	
				小計（4科目）	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	兼12	－
	外国語科目	第一外国語	英語	英語演習１	1前	2				○		1					兼7	
				オーラルイングリッシュ１	1前	1				○							兼8	メディア
				英語演習２	1後	2				○		1					兼7	
				オーラルイングリッシュ２	1後	1				○							兼8	メディア
				TOEIC１	2前	1				○							兼6	メディア
				オーラルイングリッシュ３	2前		1			○							兼7	メディア
				アカデミックリーディング１	2前		1			○		1					兼6	
				TOEIC２	2後	1				○							兼6	メディア
				オーラルイングリッシュ４	2後		1			○							兼7	メディア
				アカデミックリーディング２	2後		1			○		1					兼6	
				ライティング１	3前		1			○							兼3	メディア
				科学技術英語１	3前		1			○							兼2	
				ライティング２	3後		1			○							兼3	メディア
				科学技術英語２	3後		1			○							兼2	
				海外語学研修（英語）	1・2・3・4通		2			○							兼1	集中
				小計（15科目）	－	8	10	0	－			1	0	0	0	0	兼31	－

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	外国語科目	第二外国語	ドイツ語	ドイツ語総合１	1前		1			○							兼2	
				ドイツ語総合２	1後		1			○							兼2	
				ドイツ語総合３	2前		1			○							兼1	
				ドイツ語総合４	2後		1			○							兼1	
				小計（4科目）	－	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼3	－
			フランス語	フランス語総合１	1前		1			○							兼1	
				フランス語総合２	1後		1			○							兼1	
				フランス語総合３	2前		1			○							兼1	
				フランス語総合４	2後		1			○							兼1	
				小計（4科目）	－	0	4	0		－		0	0	0	0	0	兼2	－
			中国語	中国語総合１	1前		1			○							兼4	
				中国語総合２	1後		1			○							兼4	
				中国語総合３	2前		1			○							兼1	
				中国語総合４	2後		1			○							兼1	
				海外語学研修（中国語）	1・2・3・4通		2			○							兼1	集中
				小計（5科目）	－	0	6	0		－		0	0	0	0	0	兼7	－
			韓国語	韓国語総合１	1前		1			○							兼1	
				韓国語総合２	1後		1			○							兼1	
				韓国語総合３	2前		1			○							兼1	
				韓国語総合４	2後		1			○							兼1	
				海外語学研修（韓国語）	1・2・3・4通		2			○							兼1	集中
				小計（5科目）	－	0	6	0		－		0	0	0	0	0	兼2	－
			ロシア語	ロシア語１	1前			1		○							兼1	
				ロシア語２	1後			1		○							兼1	
				海外語学研修（ロシア語）	1・2・3・4通		2			○							兼1	集中
				小計（3科目）	－	0	2	2		－		0	0	0	0	0	兼1	－
専門科目		学部基礎科目		基礎物理学および演習	1前		3		○	※							兼9	※演習
				物理学概論および演習Ⅰ	1前		3		○	※							兼6	※演習
				基礎化学および演習	1前		3		○	※							兼1	※演習
				基礎生物学	1前		2		○								兼1	
				微分積分学Ⅰ	1前	2			○			1						
				線形代数学Ⅰ	1前	2			○				1					
				情報処理実習Ⅰ	1前・後		1				○		1	1				
				情報システム基礎	1前			2	※	○		1						※講義
				物理学および演習	1後		3		○	※							兼8	※演習
				物理学概論および演習Ⅱ	1後		3		○	※							兼2	※演習
				化学	1後		2		○								兼2	共同
				生物学	1後		2		○								兼1	
				微分積分学Ⅱ	1後	2			○				1					
				線形代数学Ⅱ	1後	2			○					1				
				情報処理実習Ⅱ	1後・2前		1				○		1	1				
				情報システム応用	1後			2	※	○		1						※講義
				情報処理演習	2前・後		1				○						兼1	
				インターンシップ	1・2・3・4休		2				○		1					
				社会奉仕実習	1・2・3・4休		1				○		1					
				小計（19科目）	－	8	27	4		－		2	5	3	0	0	兼26	－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	学科共通開講科目	情報実習Ⅰ	1前	2					○	2	3	1			兼1	共同
		コンピュータ基礎Ⅰ	1前	2			○			1						
		情報実習Ⅱ	1後	2					○	2	3	3			兼1	共同
		コンピュータ基礎Ⅱ	1後	2			○			1						
		オブジェクト指向設計	1後	2			○			1						
		プログラミング実習Ⅰ	2前	3					○	3	3	4			兼2	共同
		情報数学	2前	2			○			1						
		確率統計Ⅰ	2前	2			○			1						メディア
		ネットワーク技術Ⅰ	2前	2			○			1	1					メディア
		データ構造とアルゴリズムⅠ	2前	2			○				1					
		数値計算法	2前		2		○				1					メディア
		言語理論とオートマトン	2前		2		○				1					メディア
		プログラミング実習Ⅱ	2後	3					○	1	4	2			兼2	共同
		確率統計Ⅱ	2後		2		○					1				メディア
		ネットワーク技術Ⅱ	2後		2		○			1		1				メディア
		データ構造とアルゴリズムⅡ	2後		2		○				1					メディア
		数理論理学	2後		2		○				1					メディア
		パターン認識	3前		2		○				1					メディア
		エージェント工学	3前		2		○					1				メディア
		自然言語処理	3前		2		○			1						メディア
		数理計画法	3前		2		○			1						メディア
		情報理論	3前		2		○					1				メディア
		人工知能	3前		2		○			1						メディア
		コンピュータグラフィックス	3後		2		○			1						メディア
		卒業研究ゼミナール	3後	1				○		6	10	6				
		暗号と情報セキュリティ	3後	2			○					1				メディア
		情報と社会	3後		2		○								兼1	メディア
		情報と職業	4前		2		○								兼1	メディア
		卒業研究	4通	8				○		7	10	6				
		教科教育演習	2前			1		○							兼1	
		職業指導	2通			4			○						兼1	集中
		エンジニアリングデザイン実習	1・2・3・4通			12			○	1	1				兼12	集中
		国際プロジェクトマネジメント実習	1・2・3・4通			12			○						兼1	集中
		理工学国際ゼミナール	1・2・3・4通			8			○	1	1				兼11	集中
		小計（34科目）	－	35	30	37	－			7	10	6	0	0	兼16	－
	情報システムコース	論理回路	2前		2		○					1				メディア
		コンピュータアーキテクチャ	2後		2		○			1						メディア
		オペレーティングシステム	2後		2	○						1				メディア
		情報システムプロジェクトⅠ	3前		2				○		2	1				共同
		データベース論Ⅰ	3前		2		○			1						
		画像処理	3前		2		○			1						メディア
		コンパイラ	3前		2		○					1				メディア
		プログラミング言語学	3前		2		○				1					メディア
		ソフトウエアプロセス	3前		2		○				1					メディア
		情報システムプロジェクトⅡ	3後		2				○		3					共同
		データベース論Ⅱ	3後		2		○			1						
		計算論	3後		2		○			1						メディア
		リアルタイムシステム	3後		2		○			1						メディア
		分散システム	3後		2		○				1					メディア
		符号理論	3後		2		○				1					メディア
		ネットワーク演習Ⅰ	3前・後			2			○	1	1					共同
		ネットワーク演習Ⅱ	3前・後			2			○		1	1				集中
		ネットワーク演習Ⅲ	3前・後			2			○		1	1				メディア
		小計（18科目）	－	0	30	6	－			4	6	3	0	0		－

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	選択	自由	授業形態 講義	演習	実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考	
専門科目	情報メディアコース	コミュニケーション論	2前		2		○				1					メディア
		ディジタル信号処理	2前		2		○				1					メディア
		認知科学	2後		2		○								兼1	メディア
		画像システム	2後		2		○					1				メディア
		情報メディアプロジェクトⅠ	3前		2				○	1	1	1				共同
		画像認識	3前		2		○				1					
		通信工学	3前		2		○				1					メディア
		Webアプリケーション	3前		2				○		1					メディア
		知能ロボット	3前		2		○					1				メディア
		色彩工学	3前		2		○					1				メディア
		センサシステム	3後		2		○				1					メディア
		情報メディアプロジェクトⅡ	3後		2				○	1	1	1				共同
		音声認識	3後		2		○			1						メディア
		機械学習	3後		2		○				1					メディア
		HCI	3後		2		○				1					メディア
		感性工学	3後		2		○				1					メディア
		社会心理学	3後		2		○				1				兼1	メディア
		小計（17科目）	－	0	34	0	－			2	5	2	0	0	兼1	－
合計（153科目）			－	58	194	49	－			8	10	6	0	0	兼119	－

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
全学共通科目の共通教養科目から15単位以上（必修科目7単位）、外国語科目から14単位以上（必修科目8単位）、及び専門科目から95単位以上修得し、合計124単位以上修得すること。 専門科目のうち、必修科目として基礎科目では8単位、学科共通開講科目と各コース科目から43単位を修得すること。 各科目区分における選択必修科目の必要最低単位数は、学科共通として、共通教養科目6単位、外国語科目における英語科目2単位（「オーラルイングリッシュ３・４」から1単位、「ライティング１・２」と「科学技術英語１・２」から1単位）、基礎科目2単位となる。専門科目における選択必修科目は、情報システムコースでは「データベース論Ⅰ・Ⅱ」から2単位以上、「エージェント工学」「自然言語処理」「人工知能」から2単位以上、「画像処理」「パターン認識」「コンピュータグラフィックス」から2単位以上、「情報と社会」「情報と職業」から2単位以上修得、情報メディアコースでは「数値計算法」「数理論理学」「数理計画法」から2単位以上、「コミュニケーション論」「言語理論とオートマトン」「自然言語処理」から2単位以上、「画像認識」「音声認識」「機械学習」から2単位以上修得する必要がある。 （履修科目の登録の上限：半期24単位、年間48単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（情報学部情報学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	自校学習	近畿大学の建学の精神は「実学教育」「人格の陶冶」であり、また、「人に愛される人、人に信頼される人、人に尊敬される人」を育成することを教育目的とする。近畿大学は創設以来、実社会に役立つ人材を育成する「実学」を中心とした実践的な教育と研究を行ってきた。様々な問題を抱える現代社会にあって、今こそ「未来志向の実学精神」が求められている。 この講義では、本学の教育理念、教育目標・目的を理解するとともに、情報学部で実施されている多様な先端研究に触れることを通じて未来志向の実学精神を育み、今後の学園生活を有意義に送ることができるよう意識付けを図る。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	現代社会と法	法律学の入門編として、自分の生活に法律がどのようにかかわっているのか意識し、社会で生活するうえで最低限知っておくべき法律を学び、公平公正を理念とする法律の思考過程を知ることでバランス感覚を養い、将来直面するであろう様々な問題に立ち向かうための思考力を養うことを目的とする。また、法の基礎知識を習得し、法律の基本的な構造を理解し、現行法の基本的な法典（憲法、民法、刑法）などの基本的特徴を理解できるようにする。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	環境と社会	地球上において生物は、環境からの影響を受けながら、お互いの相互作用の中で生命活動を営んでいる。この生態系の中にあって、現代では人間社会の活動が環境に悪影響を及ぼすようになってきた。大気・土壌・水質汚染の問題、衣食住、社会環境の変化など（様々な要因）がこれまで動植物の生命、健康に影響を与えてきた。さらに産業の発展や我々の生活環境の変化は地球温暖化に確実に影響を与えている。本講義ではこれら多岐にわたる環境と社会問題を取り上げ、特に最近の社会の環境変化がどのように影響を与えているのかを学び、サイエンスとして幅広い視野でそれらについて学び、持続可能な社会形成に向けた取り組みの在り方や問題意識をもって解決策を提案できるようになることを目標とする。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	技術と倫理	情報系に関わる研究者及び技術者が扱うデータは、医療情報を含む個人情報、財産や電子的認証に係る情報など、その改竄や漏洩によって深刻な損失が発生する可能性があり、法的或いはこれに準じた形式によって倫理の遵守が求められている。このため、情報工学に携わる者には、情報技術に於ける倫理に関して、その社会的背景や技術的な内容に対する広範な理解が求められる。そこで本講では、情報技術に関わる倫理について講ずる。本講は高校教員・情報の必修科目でもあることから、倫理的な枠組みに留まらず、利用者個人が守るべき事項についても言及する。又、発展が著しい情報工学領域では、最新の技術を取り込みこれを使い熟すという研究的な姿勢が求められる。そこで、研究上の倫理についても言及する。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	教養特殊講義Ａ	和の精神はどのように変化してきたのか伝統的な神社、寺院から現代建築に至るまで、日本の建築の多様な側面（寺社の相違、建築様式の意味、リノベーション等）を理解し、古今の和の精神のあり方を考察する。 （オムニバス方式/全15回） （42 石井　隆之・51 橋本　啓子/5回）共同 身近な日本文化、建築の紹介や「和」に関する発表およびディスカッションを行う。 （42 石井　隆之/5回） 和の精神に関する一般的な定義の紹介、 神道と仏教の共通点・相違点、神社とお寺の違いに関する講義、日本文化論の１つである「重なり志向」を取り上げ、建築と庭園などの観点から議論し、「和の精神」との関わりを論じる。 （51 橋本　啓子/5回） 日本の建築は、その独特の生活様式や社会、伝統文化、他国からの影響等と結びつくことでさまざまに特異な様相を発展させてきた。そのような日本ならではの社会と建築との多様なかかわりを講義し、日本の建築、都市等に「和の精神」がいかなるかたちで表れているのかを皆で考え、ディスカッションを行う。	ｵﾑﾆﾊﾞｽ方式 共同（一部）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	科学技術の進歩と人権	科学技術の進歩にともなって、人権問題はより高度で複雑で重大な問題になっており、政治や経済をはじめ社会にも劇的な影響を与えている。ＩＴ革命やゲノム革命の現実を紹介しつつ、それらが社会や人権問題に与える影響をより具体的に解説し、これからの課題について分析していく。 　具体的には人工生殖の進歩とゲノム革命がもたらす具体的な人権課題について論じるとともに、情報技術の進歩とＡＩが与える政治・経済・意識等の変容について分析する。さらに差別問題にも計り知れない影響を与えるＡＩの積極面や消極面について解説するとともに、ビッグデータ時代の課題について論じ、ビッグデータ活用の重要性とそれらのデータが人権・情報クライシスに結びついている現実も紹介していく。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	暮らしのなかの憲法	国民の暮らしの中に寄り添い、生活する上で極めて重要な規律として存在している憲法の基本的知識を学び、自分たちの生活の中で「憲法」がどのように関わっているかを理解し、また憲法上の問題を主体的に考えることを通じて、社会の潮流を把握し、物事に対する思考力を養い、生活の中での憲法問題を意識することを目的とする。 日本国憲法で保障される様々な権利や制度について、該当する条文等をあらかじめ読んでおいたうえで講義を受講する。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	住みよい社会と福祉	我が国において、人々の生活に起こりうる社会問題を正しく認識し、必要となる福祉の理念や制度を理解する。また福祉サービスや支援専門職の特性、高齢者・児童・障害者福祉、社会保障・公的扶助の特徴も理解する。 身近に起こりうる社会問題に関して、どのような問題が起こり、それに対してどのように解決していくのが適切であるか討議することで、具体的に考えることを促す。社会福祉における専門職の役割や日本の福祉の歴史展開なども学習する。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	資源とエネルギー	21世紀に人類が直面する問題として、エネルギー、環境、食糧があげられている。このうちエネルギー問題は、化石燃料の枯渇が近いと言われながらその消費量は増加の一途をたどっており、真剣に議論して解決の道を探っていかねばならない。近年の環境保護の動きから、太陽光や風力などの自然エネルギーが注目を浴びているが、エネルギー生産量、安定供給力、用地確保、コスト、寿命後の大量の廃棄物発生など多くの問題があり、安易な期待のもとにエネルギー問題を楽観視することはできない。この科目では、エネルギー資源、省エネルギー、各種発電技術についての知識を得るとともに、我々が今後何をすべきか、何を選択すべきかについて考える。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	心理と行動	心理学は人間のこころと行動を科学的に研究する学問であり、その分野は認知、知覚、学習、発達、人格、社会、臨床など多岐にわたる。本講義では、心理学の基礎的な用語・理論を広範囲に取り上げ、日常生活上の経験に近づけながら学習する。更に、心理学の知識を基に自己洞察や自己理解を深め、主体的な思考力を身につけること、心理学的知識を周囲の人々および社会全般を多面的に洞察・理解することに応用し、多様な人々と共生する力を養うことを目指す。	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	企業倫理と知的財産	企業は社会を構成する要素であり、その活動を通じて生産される商品およびサービスに全面的に責任を持つ。その規範が企業倫理であり、企業のあり方を考えるうえで、その目的である利益の追求に匹敵する重要な概念である。まず、この企業倫理について学ぶ。 世界各国において知的財産戦略が製品開発の現場で重要な課題となっている。優れた技術や製品を開発してもその成果の保護を怠れば何の意味もないだけでなく、大きな損害を被ることもありえる。創造力と研究開発成果を適切に評価することは、企業と技術者の倫理の問題でもあり、産業の国際競争力の生死を握っているといっても過言ではない。授業の２番目の内容として、知的財産権の必要性と内容について学ぶ。	
全学共通科目	共通教養科目	地域性・国際性科目群	国際経済と企業の国際化	ＴＰＰの試みやユーロ（経済圏・通貨）誕生の意義と展開、グローバル不均衡の問題や為替レートの大幅な修正など最近の特徴的な動きにも触れながら、こうした視点で国際経済と企業の国際化について身に付けておくべき要点を学んでいく。企業が国際経済の中で活動する際に関わってくる世界経済の様々な要因につき、貿易、金融（資本取引）、国際的な制度、国家間の経済協議などの項目を通じて国際経済の基礎理論および実務の基礎知識を習得し、その影響を自分で考えられるようになることを目標とし、それにより社会の色々な分野で直面するこれらの動きに対し、上手く対応して活躍できるような力を養う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共通教養科目	地域性・国際性科目群	国際社会と日本	国際社会に対して日本がどのような支援や貢献が出来るかを考えるとともに、現在行われている様々な貢献（政治的な貢献、経済的な貢献、民間による貢献）の具体的内容を正しく認識して、国際社会の一員として将来どのような貢献が出来るかを考える。国際社会に対する日本の貢献について、歴史的意義と政治的意義を理解し、現在日本が行っている具体的な貢献を理解するとともに、個人がそれらの貢献にどのようにかかわっていくかに対する意見を持てるようにする。	
全学共通科目	共通教養科目	地域性・国際性科目群	ビジネスモデルとマネジメント	企業活動や経営管理に関する基本的な考え方や、企業活動における法律や規範、代表的な経営分析手法、情報システムの問題解決に向けたシステム戦略などを学ぶことで、情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的な用語・概念を理解できるようになる。 さらに企業の実務経験者の講演や資料から、実際にビジネスモデルやマネジメントの分析を行い理解を深める。	
全学共通科目	共通教養科目	地域性・国際性科目群	教養特殊講義Ｂ	自然科学的アプローチ（統語論）と人文科学的アプローチ（認知意味論）の２つの手法を通して、人はどのようにしてことばを操り、他者の言葉をどのようにして理解しているのかという神秘的な能力を学際的に見つめることに主眼を置く。「人間の持つ言葉とは何か」を探ることで、同じ問題を考えるときに複数（ここでは2種類）のアプローチがあることを学び、「学際的なモノの見方」を持つ重要性を実感することで、多様な側面を見つめつつ、それらが根底では結びつき合うLiberal Artsの醍醐味を体感する。	共同
全学共通科目	共通教養科目	地域性・国際性科目群	メディアの読み方	メディア情報がどのようにして制作されているのか、その仕組みを、出版社で雑誌・書籍の編集を行なってきた経験をベースに、具体的に解き明かす。さらにメディア情報を「適切に取捨選択し、自分の仕事や生活に生かす」ための方法を知り、メディア情報の「読み方」から「自分の意思を表現する技術」まで、コミュニケーションスキルを習得する。情報の本質を理解する視点とスキルを学び、「聞く」「話す」「読む」「書く」技術を身につける。	
全学共通科目	共通教養科目	課題設定・問題解決科目群	日本語の技法	言葉は思考のための道具である。母語である日本語の能力がおぼつかないようでは、大学での学業も十分には成り立たない。また社会に出れば、会議、プレゼンテーション、人付き合いなどあらゆる場面での言語能力が求められる。大学でのよりよい学びの礎とするために、来るべき就職活動への備えとして、更には人生をより豊かにするために、この授業では「話す」、「読む」、「聞く」といった日本語の音声表現の特質と技法を学ぶ。授業では、テーマに沿った実技や発表なども取り入れる。	
全学共通科目	共通教養科目	課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ１	情報学部のカリキュラムは、1年次で基礎数学や情報学の基礎を学修し、2年次以降、人工知能をはじめとしたコンピュータの知能化技術を学ぶ知能システムコース、個人情報をはじめとして実世界の様々な情報を安全にやりとりするためのシステム開発・システム運用を学ぶサイバーセキュリティコース、IoTなど実世界計測技術と人工知能技術を組合せ実世界の様々な問題を解決することに資する専門知識を学ぶ実世界コンピューティングコースに分かれて専門教育を行う。本科目では、各コースで実施される専門教育に先立ち、学生が自身の将来を見据えたコース選択ができるよう、少人数ゼミナール形式で社会応用事例を交えつつ情報学の基礎的知識を修得することを目指す。	
全学共通科目	共通教養科目	課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ２	本科目では、「基礎ゼミ１」に引き続き、学生が自身の将来を見据えたコース選択ができるよう、知能システム、サイバーセキュリティ、実世界コンピューティングの各コースの概要説明を行う。また情報学部の専任教員がオムニバス方式で、情報学が社会のどのような分野において、どのように応用されているのか自身の研究内容を紹介しつつ解説を行う。コース説明や各教員の研究内容紹介をもとに、少人数ゼミナール形式での教員を交えたディスカッションを通じ、情報学の基礎的知識を修得することを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	共通教養科目	課題設定・問題解決科目群	教養特殊講義Ｃ	現代の日常生活には欠かせない存在である光について学習し、光を学ぶことを通じて防犯を考えることの意味について解説する。 （43 神田　宏）【犯罪予防】議論の前提として最初に現代日本が直面する犯罪の状況について概要を知った上で、 犯罪の発生要因とその機序（メカニズム）について学習し、 犯罪発生を食い止められるような防犯手法について考察する。 （44 松谷貴臣）【光と暮らし】光は、照明から通信、レーザーを用いた加工など幅広く利用されている。光の性質や発生原理を理解するとともに、各種照明器具の原理ならびにその応用例について解説する。さらに、【犯罪予防】で得られた知見を基に、最新の発光素子を利用した防犯用品等を自主的に考案・試作を行い、現代社会における光の役割を学習する。	共同
全学共通科目	共通教養科目	課題設定・問題解決科目群	科学的問題解決法	日常における様々な行為は、広義において問題解決プロセスの履行であると捉えることが出来る。問題解決プロセスにおいて、対象事象及び対象行為に対する５Ｗ１Ｈを明確にすることは欠かせない要件であり、明確にした情報を基にどの様な解決プロセス・交渉プロセスを設計するかが問題解決の一番のキーポイントであると言える。本講義では、問題解決に係る必要な基本思想から手法までを学習することを目的とし、人間の思考行為や事象の分解分析、問題解決に適した思考方法、相互交渉による譲歩等を排する問題解決法、交渉場面の設定および交渉における技術等についての講義を行う。	
全学共通科目	共通教養科目	課題設定・問題解決科目群	プレゼンテーション技術	与えられたテーマでのグループ内での演習・発表、全体への試行・実践プレゼンテーションを通して、アイディア・コンセプトを「分かりやすく伝える力」、「信頼関係を築く話し方」、「説得力のある表現力」、「場を巻き込む話の進め方」を学ぶ。基本的なコミュニケーション力やプレゼンテーション力の重要性を理解し、聞き手を説得するためのストーリーの作成、視覚効果を用いたわかりやすいプレゼンテーション補助資料の作成、論証と論理構成などを学ぶ。	
全学共通科目	共通教養科目	スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツ１	健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義を理解し、各種スポーツの基本的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、主体的に運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、生涯にわたり健康的な生活を営む能力を身につける。運動教材２種目を用いて授業が展開され、「生涯スポーツ２」と比較し、より基礎的・一般的なものを扱う。 身体的課題の達成（身体活動量の確保、技術･技能の習得、戦術･戦略の理解と応用 ） と心理的･社会的課題の達成（努力･意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー･礼節の実践）を図る。	
全学共通科目	共通教養科目	スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツ２	健康の維持・増進、体力・運動能力の向上とその意義を理解し、各種スポーツの基本的運動技術・技能・ルールを学ぶことによって、主体的に運動・スポーツを楽しむことのできる態度を養い、生涯にわたり健康的な生活を営む能力が身につける。１種目を用いて授業が展開され、「生涯スポーツ１」と比較し、より専門的なものを扱う。 身体的課題の達成（身体活動量の確保、技術･技能の習得、戦術･戦略の理解と応用 ） と心理的･社会的課題の達成（努力･意欲の程度、コミュニケーションの度合、マナー･礼節の実践）を図る。	
全学共通科目	外国語科目	英語	英語総合１	英語力の基盤となる文法知識を確認しながら、さまざまなエクササイズを通して、英語の4技能の向上を図る。ナレーションや会話を聞いて理解したり、音読して発音練習をしたりすることに加え、パラグラフ・リーディングやライティングなどを通し、英語のインプットとアウトプットのスキルを養成する。 本科目を履修することにより、①大学生にとって日常的なテーマに関するパッセージを読み、語彙を習得し、それに関連した短い英文を書けるようになる。②身近なトピックのニュースや日常会話を聞いて理解し、自分が知っている単語や表現を使って、英語で説明できるようになる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語科目	英語	英語総合２	「英語総合１」に引き続き、英語力の基盤となる文法知識を確認しながら、さまざまなエクササイズを通して、英語の4技能の向上を図る。ナレーションや会話を聞いて理解したり、音読して発音練習をしたりすることに加え、パラグラフ・リーディングやライティングなどを通し、英語のインプットとアウトプットのスキルを養成する。 本科目を履修することにより、①大学生にとって日常的なテーマに関するパッセージを読み、語彙を習得し、それに関連した短い英文を書けるようになる。②身近なトピックのニュースや日常会話を聞いて理解し、自分が知っている単語や表現を使って、英語で説明できるようになる。	
全学共通科目	外国語科目	英語	TOEIC１	TOEIC L&Rで高得点を取得するための訓練を行う。英語力の基盤となる文法知識を確認しながら、TOEIC L&R頻出語彙を習得することに重点を置くとともに、TOEIC L&Rと同形式の問題を繰り返し解き、英語のリスニングとリーディングの能力を向上させる。 本科目を履修することにより、TOEIC L&Rの出題形式に習熟し、語彙力を強化するとともに、実用的な英語表現を身に付け、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアやニュージーランドといった様々な英語圏の国の話者のアクセントに慣れ、実践的な英語力を身につける。	
全学共通科目	外国語科目	英語	TOEIC２	「TOEIC１」に引き続き、TOEIC L&Rで高得点を取得するための訓練を行う。英語力の基盤となる文法知識を確認しながら、TOEIC L&R頻出語彙を習得することに重点を置くとともに、TOEIC L&Rと同形式の問題を繰り返し解き、英語のリスニングとリーディングの能力を向上させる。 本科目を履修することにより、TOEIC L&Rの出題形式に習熟し、語彙力を強化するとともに、実用的な英語表現を身に付け、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアやニュージーランドといった様々な英語圏の国の話者のアクセントに慣れ、実践的な英語力を身につける。	
全学共通科目	外国語科目	英語	ライティング１	メールやスラックでの連絡など、自分が伝えたいことを英語で正確に書く力をつける訓練を行う。ラインやスラックでよく使用される表現や、メールやビジネスレターのスタイルを学び、できるだけ自分の知っている語彙を使って表現する練習を行うとともに、様々な場面で使用する語彙を習得し、正確な英文を書くための文法力を身につける。 本科目を履修することにより、文法力を向上させ、語彙力を増強し、様々なシチュエーションでの英文を正確に書くことができ、伝えたいメッセージをわかりやすく文章にまとめることができるようになる。	
全学共通科目	外国語科目	英語	ライティング２	「ライティング１」に引き続き、メールやスラックでの連絡など、自分が伝えたいことを英語で正確に書く力をつける訓練を行う。ラインやスラックでよく使用される表現や、メールやビジネスレターのスタイルを学び、できるだけ自分の知っている語彙を使って表現する練習を行うとともに、様々な場面で使用する語彙を習得し、正確な英文を書くための文法力を身につける。 本科目を履修することにより、文法力を向上させ、語彙力を増強し、様々なシチュエーションでの英文を正確に書くことができ、伝えたいメッセージをわかりやすく文章にまとめることができるようになる。	
全学共通科目	外国語科目	英語	アカデミックイングリッシュ１	これまで履修してきた英語科目の内容をさらに深め、専門分野の語彙や内容に配慮した英語の4技能のさらなる向上と定着を図る。専門的な内容を英語で理解できる英語力を養うため、まとまった量の理系分野の英文を読んで練習問題を解いたり、ニュースや講義を聞いて内容を要約したり、それをテーマにして英語でディスカッションやプレゼンテーションができるようになるための訓練を行う。 本科目を履修することにより、理系分野の語彙を増強し、専門的な内容の英語を読み、聞き、話し、書く力を身につける。	
全学共通科目	外国語科目	英語	アカデミックイングリッシュ２	「アカデミックイングリッシュ１」に引き続き、これまで履修してきた英語科目の内容をさらに深め、専門分野の語彙や内容に配慮した英語の4技能のさらなる向上と定着を図る。専門的な内容を英語で理解できる英語力を養うため、まとまった量の理系分野の英文を読んで練習問題を解いたり、ニュースや講義を聞いて内容を要約したり、それをテーマにして英語でディスカッションやプレゼンテーションができるようになるための訓練を行う。 本科目を履修することにより、理系分野の語彙を増強し、専門的な内容の英語を読み、聞き、話し、書く力を身につける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語科目	英語	オーラルイングリッシュ１	主にリスニングとスピーキングの基礎力を養うための訓練を行う。グループワークやロールプレイ等を通し、さまざまな場面で用いられる英語を学び、日常会話に必要な語彙や表現を身につける。また、身近なトピックについて口頭で簡単な説明ができるようにする。授業の一環として、e-cubeでの活動にも参加する。 本科目を履修することにより、英語で簡単な挨拶や自己紹介ができるようになるとともに、買い物や旅行などの場面で、英語母語話者との会話ができる力を身につける。	
全学共通科目	外国語科目	英語	オーラルイングリッシュ２	「オーラルイングリッシュ１」に引き続き、主にリスニングとスピーキングの基礎力を養うための訓練を行う。グループワークやロールプレイ等を通し、さまざまな場面で用いられる英語を学び、日常会話に必要な語彙や表現を身につける。また、身近なトピックについて口頭で簡単な説明ができるようにする。授業の一環として、e-cubeでの活動にも参加する。 本科目を履修することにより、英語で簡単な挨拶や自己紹介ができるようになるとともに、買い物や旅行などの場面で、英語母語話者との会話ができる力を身につける。	
全学共通科目	外国語科目	英語	オーラルイングリッシュ３	「オーラルイングリッシュ１・２」で学んだ内容をさらに深め、リスニングとスピーキングの能力向上のための訓練を行う。天気、スポーツ、健康、ペット、教育、メディア等のトピックについて、グラフやチャートなどのビジュアルを使用したプレゼンテーションを行い、英語で自己表現する力を養う。さらに、社会に出たあと国際人として仕事をする上で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。 本科目を履修することにより、英語で事務連絡をしたり、様々なトピックについて考えを述べたり、アイコンタクトやジェスチャー等をうまく使いながらプレゼンテーションをしたりするスキルを身につける。	
全学共通科目	外国語科目	英語	オーラルイングリッシュ４	「オーラルイングリッシュ４」に引き続き、リスニングとスピーキングの能力向上のための訓練を行う。天気、スポーツ、健康、ペット、教育、メディア等のトピックについて、グラフやチャートなどのビジュアルを使用したプレゼンテーションを行い、英語で自己表現する力を養う。さらに、社会に出たあと国際人として仕事をする上で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。 本科目を履修することにより、英語で事務連絡をしたり、様々なトピックについて考えを述べたり、アイコンタクトやジェスチャー等をうまく使いながらプレゼンテーションをしたりするスキルを身につける。	
全学共通科目	外国語科目	英語	IT英語１	これまでに身につけた英語力をもとに、IT関係の英語のインプットとアウトプットのスキルを学ぶ。よく見かけるIT用語の語彙リストを作り、初心者向けの説明文を英語で作成したり、様々なアプリの機能や便利な点、改善すべき点などを調べ、英語でまとめ、ディスカッションやプレゼンテーションをしたりすることによって、IT関係の英語を理解し、表現する訓練を行う。 本科目を履修することにより、IT関係の語彙を増強し、PCやアプリに関する英語を読んだり聞いたりして理解し、それを文章や口頭で説明することができるようになる。	
全学共通科目	外国語科目	英語	IT英語２	「IT英語　１」に引き続き、これまでに身につけた英語力をもとに、IT関係の英語のインプットとアウトプットのスキルを学ぶ。よく見かけるIT用語の語彙リストを作り、初心者向けの説明文を英語で作成したり、様々なアプリの機能や便利な点、改善すべき点などを調べ、英語でまとめ、ディスカッションやプレゼンテーションをしたりすることによって、IT関係の英語を理解し、表現する訓練を行う。 本科目を履修することにより、IT関係の語彙を増強し、PCやアプリに関する英語を読んだり聞いたりして理解し、それを文章や口頭で説明することができるようになる。	
全学共通科目	外国語科目	英語	海外語学研修（英語）	海外の学術交流協定大学との間で春期休暇期間・夏期休暇期間を利用して「短期語学研修」（英語圏）が実施されている。 この語学研修は、実践的な語学力の向上と異文化体験を通して得る国際感覚の養成と豊かな人間性を養うことを目的としている。また、将来の正規留学のきっかけとして活用することも可能である。 研修先大学の語学研修施設において一定のカリキュラムに沿って語学の研修を行い、授業だけでなく課外プログラムなども用意されている。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語総合１	日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学ぶ。また、ドイツ語圏の国やドイツ語の特徴についての概要も学ぶ。「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば５級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指す。	
全学共通科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語総合２	「ドイツ語総合１」に引き続き、日常のさまざまな場面で使われる会話を中心とするテキストに従って、文法事項の説明、語彙や表現の聴き取り、口頭練習などを段階的、反復的に行ない、ドイツ語の基本的な仕組みを学ぶ。また、ドイツ語圏の事情についても紹介する。「読む」「書く」「聴く」「話す」能力を総合的に養い、ドイツ語検定で言えば５級に相当する語彙と基本フレーズを習得することを通じて、実際に使える初歩的なドイツ語力の獲得を目指す。	
全学共通科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語総合３	「ドイツ語総合１・２」で学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などを行う。ドイツの日常生活で使用することが可能で、さらに買い物や家族の紹介など、様々な場面で簡単に応用できる表現を習得する。「ドイツ語総合１・２」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけることを目標とする。	
全学共通科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語総合４	「ドイツ語総合３」に引き続き、これまで学んだドイツ語の文法や基本構造をもう一度確認しながら、語彙や表現の聴き取り、口頭練習、ドイツ語作文の練習などを行う。ドイツの日常生活で使用することが可能で、さらに旅行など、様々な場面で簡単に応用できる表現を習得する。「ドイツ語総合１・２」で学んだドイツ語の知識をもとに、さらにドイツ語の表現力や応用力を養い、簡単な会話や文章が理解できる力をつけることを目標とする。	
全学共通科目	外国語科目	フランス語	フランス語総合１	フランス語は世界第二の国際語であり、世界の人々が英語の次に学ぶ言語であり、しかも英語と共通する単語も多いため、簡単に学ぶことができる。フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、バランスの取れた能力の育成を目指す。基本的な文法を、日常的な会話文をもとに楽しく学ぶことで、初歩的なコミュニケーションが図れるようになり、またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことが可能となる。	
全学共通科目	外国語科目	フランス語	フランス語総合２	「フランス語総合１」に引き続き、日常会話を楽しく学びながら、フランス語をさらに自由に使えるように知識を深める。「フランス語総合２」では、さまざまな動詞を使いこなし、語彙も身に付けながら、会話でいろいろな内容を表現できるようにし、また文法では過去形も学び、簡単な文章も読めるレベルまで進む。受講者は、フランス語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的なコミュニケーションが図れるようになり、またフランスの言葉と文化への理解を深め、より広い国際感覚を養うことが可能となる。	
全学共通科目	外国語科目	フランス語	フランス語総合３	「フランス語総合１・２」で学んだ内容を復習・活用し、新しい文法の知識を増やしながら日常的な会話を楽しく学び、文化的背景についても理解を深めながら、フランス語を使いこなすための能力の完成を目指す。フランス語ネイティブとの基本的な会話や、旅行先でフランス語を話すなど、検定4級が受験可能なレベルのフランス語を身につける。また、身の回りの直接的なことがらについて、フランス語で理解し説明することができる能力を身に付けることができる。	
全学共通科目	外国語科目	フランス語	フランス語総合４	「フランス語総合１～３」で習得した知識にさらに磨きをかけながら、フランス語の文法を完成に近づける。日常のさまざまな場面での会話文を楽しく学びながら、それらの表現を自分でも使えるように練習し、より幅広い分野の語彙も身につけて、簡単な文章なども読みこなせるようにし、フランス語圏の文化についてもより深く知る。受講者は、フランス語の文法知識を深めながら、フランス語を使っていろいろな表現ができるようになり、身の回りの直接的なことがらについて、フランス語で理解し説明したりできる能力を身に付けることができる。	
全学共通科目	外国語科目	中国語	中国語総合１	中国語を聞き、話し、読み、書くことに慣れ親しみ、初歩的な中国語を用いてコミュニケーションが図れるようにする。中国語の音節構造を理解し、発音表記（ピンイン）に習熟することを第一の目標とし、簡単な自己紹介や日常会話ができるよう、文法の基礎や数字・日付・時刻の表し方などについてもしっかりと学ぶ。中国語検定準4級の基本語彙と文法を身につけることを目標とする。あらかじめ単語の発音や文法に目を通したうえで受講し、発音や単語、文法事項を復習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語科目	中国語	中国語総合２	「中国語総合１」で学んだ基本単語・文法について復習を行い、これまで習熟したピンインを見て、一字一句正確に発音できることを目指す。また平易な文章を聞き、話すことができるよう中国語の基礎的知識を身につけ、初級レベルのコミュニケーションが図れるようにする。「中国語総合１」と併せて、中国語検定準4級程度の基礎語彙と文法力を身に着けることを目標とする。あらかじめ単語の発音や文法に目を通したうえで受講し、発音や単語、文法事項を復習する。	
全学共通科目	外国語科目	中国語	中国語総合３	「中国語総合１・２」で学習した単語や文法事項を復習しながら、単語量と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養う。主に「読む」と「書く」に重点を置き、中国語運用能力の基礎を身につける。中国語を読んで理解し、自分の言いたいことが書けること、また情報や自分の考えを場面や目的に応じて適切に伝えられることを目指す。「中国語総合４」と併せて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身に着けることを目標とする。あらかじめ単語の発音や文法に目を通したうえで受講し、発音や単語、文法事項を復習する。	
全学共通科目	外国語科目	中国語	中国語総合４	「中国語総合３」に引き続き、語彙と文法的な知識を増やし、自分の言葉で表現できる力を養い、総合的な中国語運用能力を伸ばす。日常会話で使用されるような様々な文例を用いて文法や表現について学び、「中国語総合３」と併せて、中国語検定4級程度の常用語彙と文法力を身に着けることを目標とする。「中国語総合１～３」と同様にあらかじめ学習範囲の単語の発音や文法に目を通したうえで授業を受講し、発音や単語、文法事項を復習する。	
全学共通科目	外国語科目	中国語	海外語学研修（中国語）	海外の学術交流協定大学との間で春期休暇期間・夏期休暇期間を利用して「短期語学研修」（中国語圏）が実施されている。 この語学研修は、実践的な語学力の向上と異文化体験を通して得る国際感覚の養成と豊かな人間性を養うことを目的としている。また、将来の正規留学のきっかけとして活用することも可能である。研修先大学の語学研修施設において一定のカリキュラムに沿って語学の研修を行い、授業だけでなく課外プログラムなども用意されている。	
全学共通科目	外国語科目	韓国語	韓国語総合１	韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることを目標とする。まずは文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進み、口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学ぶ。受講者は韓国語の文字を読み、書くことができ、さらにあいさつや自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。韓国語の文字と発音について、音声を聞いて練習する。	
全学共通科目	外国語科目	韓国語	韓国語総合２	「韓国語総合１」に引き続き、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力をさらに伸ばしていく。基礎的な語彙や文法に習熟し、さまざまな表現をくり返し練習することで、簡単な会話ができるようになることを目標とする。受講者は語彙と文法をバランスよく学び、初級段階のコミュニケーションができるようになることを目指す。あらかじめ次回学習範囲の単語を調べたうえで授業に臨み、学習範囲の文法事項について復習する。	
全学共通科目	外国語科目	韓国語	韓国語総合３	「韓国語総合１・２」の学習内容と復習し、さらに実践的な運用能力の獲得を目指す。これまでに学習した用言の基本的な活用を確認し、さらに多様な用言活用と表現について学ぶ。受講者がハングル能力検定試験５級から４級程度の文法項目と語彙を身につけることを目指す。受講者はあらかじめ次回学習範囲の単語を調べたうえで授業に臨み、文法事項について復習する。授業では適宜練習問題や小テスト、課題を課して習熟度の確認を行う。	
全学共通科目	外国語科目	韓国語	韓国語総合４	「韓国語総合３」に引き続き、実践的な運用能力を養っていく。 「韓国語総合３」と同様にさまざまな語彙や用言の活用、表現を学ぶとともに、韓国の文化などについても触れていく。受講者がハングル能力検定試験４級程度の文法項目と語彙を身につけることを目指す。受講者はあらかじめ次回学習範囲の単語を調べたうえで授業に臨み、学習範囲の文法事項について復習する。授業では適宜練習問題や小テスト、課題を課して習熟度の確認を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	外国語科目	韓国語	海外語学研修（韓国語）	海外の学術交流協定大学との間で春期休暇期間・夏期休暇期間を利用して「短期語学研修」（韓国語圏）が実施されている。 この語学研修は、実践的な語学力の向上と異文化体験を通して得る国際感覚の養成と豊かな人間性を養うことを目的としている。また、将来の正規留学のきっかけとして活用することも可能である。研修先大学の語学研修施設において一定のカリキュラムに沿って語学の研修を行い、授業だけでなく課外プログラムなども用意されている。	
専門科目	基礎科目		基礎微分積分学	微分積分学は、ある関数の局所的な性質を表す「微分」と、大局的な性質を表す「積分」によって関数の性質を明らかにするものである。解析学の中核となる分野であり、数学、自然科学、工学諸分野のみならず、経済学などの社会科学においても様々な現象のモデル化の道具として重要な位置を占めている。もちろん、情報学の分野においても、人工知能技術を始めとして様々な場面で必要となる。本科目では、工学的、情報学的応用を念頭に、微分積分学の基礎的知識を修得し、今後の学修で必要になる数理的な素養を身につけることを目指す。	
専門科目	基礎科目		基礎線形代数学１	線形代数学は、高校数学のベクトル（数学B）、行列（数学C）の延長線上にある科目であり、ここではではより大きな次元のベクトル、行列の取り扱いについて学ぶ。特に「基礎線形代数学1」では、ベクトルや行列の基本的計算法、空間図形の扱い、連立１次方程式の解法と解の構造を中心に学習する。 空間図形、ベクトル、行列に関して基本的な計算ができるようになるとともに、将来、それらの知識を各専門分野の問題に適用できるようになるための能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	基礎科目		基礎線形代数学２	線形代数学は、高校数学のベクトル（数学B）、行列（数学C）の延長線上にある科目である。ここではより大きな次元のベクトルや、行列の取り扱いについて学ぶ。特に「基礎線形代数学2」では、一次変換と図形、行列式、行列の対角化について学ぶ。 行列と一次変換、行列式、行列の対角化に関して基本的な計算ができるようになるとともに、将来、それらの知識を各専門分野の問題に適用できるようになるための能力を身につけることを目標とする。	
専門科目	基礎科目		コンピュータ基礎	コンピュータサイエンスについて本格的な学習を始める際の入門として、あるいは情報科学の基本的な枠組みについて学びたい者へのガイドラインとして位置づけている科目である。コンピュータ内部における情報の表現や情報処理の基礎、コンピュータの構成などを学ぶ中で、コンピュータ科学を学ぶ基盤づくりを目指す。コンピュータ科学を志す初学者の基盤としてコンピュータの基本構成と仕組み、コンピュータ処理の基礎概念を理解する事を目標とする。	
専門科目	基礎科目		確率統計	確率論・統計学は、人工知能、ビッグデータ解析など、情報化が進んだ現代社会の情報技術者にとって必須の基礎的知識である。本講義では、3セメスター以降に配当されている人工知能系、データ解析系の科目群を履修するために必要となる確率論・統計学の基礎的知識の修得を図る。正規分布をはじめとした代表的な確率分布の解説から開始し、点推定・区間推定などの仮説検定手法の解説を行い、実世界データに必ず存在する誤差・ばらつきを考慮したデータ分析手法の基礎の修得を目指す。	
専門科目	基礎科目		情報処理実習１	現代では、日常生活中の様々なサービスやモノの制御がプログラミング言語を用いて実装されている。本科目では、現在広く用いられているJavaScriptやpythonなどのプログラミング言語を取り上げ、基本的な内容に焦点を当てて学習する。本科目は情報処理実習2と合わせて内容を構成しており、その前半にあたる。本科目では、プログラミング言語におけるデータの取り扱い方法とその入出力、数値の計算、各種制御構造に関する基本的な知識について学習する。特にこの実習では、実際に動作する簡単な情報システムの作成を通じて、プログラムの動作原理や有用性に関する理解を深めることを目指す。	
専門科目	基礎科目		情報処理実習２	現代では、日常生活中の様々なサービスやモノの制御がプログラミング言語を用いて実装されている。本科目では、現在広く用いられているJavaScriptやpythonなどのプログラミング言語を取り上げ、基本的な内容に焦点を当てて学習する。本科目は情報処理実習1と合わせて内容を構成しており、その後半にあたる。本科目では情報処理実習1に引き続き、プログラミング言語におけるデータの取り扱い方法とその入出力、数値の計算、各種制御構造に関する基本的な知識について学習する。各回の授業では、要点の確認とプログラムの実行を通じて、その回のテーマに関する知識を深めた後、演習問題を実施して理解度を確認するという形で進める。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎科目		基礎物理学および演習	物理現象を理解するのに必要な微積分とベクトルを中心とする基本的な数学を始めに学習し、物理学でどのように使われるか理解する。そして物理学の基本的な考え方を理解することができるように授業を進め、基礎的な質点の力学を中心に剛体の力学まで学ぶ。演習で多くの問題に触れることにより、力学を広く理解できるように学習する。公式の暗記に頼るのではなく、論理的に考えることにより、物理現象を深く理解できるようになることを目標とする。	講義22.5時間 演習22.5時間
専門科目	基礎科目		基礎化学および演習	原子や分子によって組み立てられた物質の構造がその性質にどのように反映されるのか、また物質の変化、すなわち化学反応がいかにして起こり、その結果そのような生成物を与えるのか正しく理解し、化学的な考え方を身の回りで起こる現象の理解に応用するための基礎学力を養う。状態に関する基礎知識を学び、講義で得た知識を応用する力を身つけるために、講義と同時間の演習を連続して行う。「化学」を受講する際に必要な基礎知識を与える。	講義22.5時間 演習22.5時間
専門科目	基礎科目		化学	現代社会において人類の生活と活動を、物質とエネルギーの両面から支える大切な要素である化学の要点は、物質の構造と性質を構成粒子である原子および分子の性質から深く考え、理解し、物質の持つ多様な性質を人類の平和と安全のために賢く活かす途を探るところにある。基礎化学の知識を土台として、化学物質の性質がどのような場面で活かされるのか、また、その根幹に横たわる基本的な考え方は何か、についていくつかの具体例を通して学ぶ。	共同
専門科目	基礎科目		基礎生物学	細胞の構造と機能、生物体のつくりおよび生命の連続性を学ぶ。特に高等学校において生物を履修していない学生を対象とし、身近な生物と我々自身の細胞や組織で起きている現象を学習することで、自分の生命を学ぶという姿勢を持つことになり、理解を深められる。講義内容と関連した最新トピックスもわかりやすく解説し、現代社会における生物学の意義についても理解を深めることを目的としている。細胞や人の器官、ＤＮＡの構造等について学ぶ。	
専門科目	基礎科目		生物学	「基礎生物学」に引き続き、身近な生物と我々自身の細胞や組織で起きている現象を学習し、自分の生命を学ぶという姿勢を持つことで、理解を深め、自然と生物学に対する興味を深めることを目的とする。環境に対する生物の刺激応答、内部環境の恒常性維持、生命現象を支える物質的基盤、ホルモン、免疫、代謝などについて学ぶ。講義内容と関連した最新トピックスもわかりやすく解説し、現代社会における生物学の意義についても理解を深める。	
専門科目	基礎科目		情報システム基礎	情報化社会の時代といわれる現在、コンピュータの進歩は非常に目ざましく、多くの職業分野での変化が見られる。ついてはそれに対応するため、現代のＩＴ系事業に携わる技術者の前提知識を証明するものといえる基本情報技術者資格の取得を最終目標とし、一方でＩＴ社会への進出を目指す学生にとって今や必須である情報処理能力の学習を通じ、情報化社会に適応できうる基礎能力と、今後の情報処理関係授業に必要となる能力を養う。情報化社会の中で求められる経営戦略の基礎から、戦略実現のために用いられる情報システムの構成や機能、またこれらを開発するために必要な情報システム開発手法までより理解していく。	講義　10時間 演習12.5時間
専門科目	基礎科目		情報システム応用	「情報システム基礎」に引き続き、システム開発に必須となる情報システムの関連知識と今後の情報処理関係授業の基礎となる能力を養うとともに、基本情報技術者資格の取得を目指す。授業は、情報システム基礎で学習した内容の応用演習と位置付けし、前半は情報システム開発に必要な知識養成のための演習と解説を行う。後半は知識を更に発展させ、情報化社会に必須となるセキュリティや法的知識、及び基本情報技術者資格取得に向けた問題解答力を養成する。	講義　10時間 演習12.5時間
専門科目	学部共通専門科目		プログラミング基礎１	情報技術者として必要となる計算機利用の基礎について、Javaプログラミングを中心に進め、併せてシステム管理、文書作成についても学修する。使用するプログラミング言語として、現在最も普及しているオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを取り上げ、プログラミングの基本的な考え方について学修する。また、計算機を適切に運用するためのシステム管理についても取り上げる。さらに、学修内容を発信するための適切な文書作成の基礎を学修する。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学部共通専門科目		プログラミング基礎２	今日ソフトウェア産業において主流となっているオブジェクト指向プログラミングを、Java言語を用いて学習する。オブジェクト指向プログラミングとは、処理しようとしている問題の中に登場する「モノ」に着目し、その「モノ」の性質や動作をプログラムとして記述することで、「モノ」に問題を解決させるという技法である。これは、我々人間が暮らす現実世界の状態をプログラムの世界に反映させた、人間にとってなじみ易い考え方である。またJava言語は、数多く存在するオブジェクト指向プログラミング言語の中で、現在最も普及している言語である。授業では毎回プログラム作成及び報告書の作成を行う。	共同
専門科目	学部共通専門科目		ｅスポーツ	eスポーツはコンピュータゲームを用いたスポーツ競技である。ゲームは表現される世界の環境や規則が明確であるため、古くから人工知能の研究対象となってきた。さらに近年では、情報通信機器の性能向上やネットワークなどのインフラが整備され、複雑なゲーム性・強力なゲームAI・マルチプレイなど数多くの点において著しい発展を遂げている。本講義では、情報通信技術・人工知能・ゲーム理論など様々な観点からゲームを考察することで、情報学に関する諸技術がeスポーツにどのように活用されているか理解することを目的とする。また、実際にゲームをプレイすることで、eスポーツの作成・運用・運営に必要となる様々な知識および技術の基礎を学ぶ。	
専門科目	学部共通専門科目		IoT	実世界のあらゆるモノをインターネットにつなげ、そこで蓄積される様々なデータを人工知能などを使って解析し、新たな製品・サービスの開発につなげるIoT（Internet of Things）技術は、世界で進行しつつある第4次産業革命の核心的技術に位置づけられている。実世界に遍在する情報機器をネットワークで相互に接続し、各機器で計測された情報を計算機世界（サイバー空間）に入力、情報を統合することにより、実世界と計算機世界との間で情報や知識の共有を図ることが可能となる。本講義では、IoTを支える通信技術、センシング技術から、大規模データの解析、実社会サービスへの応用事例と課題など、IoTの現況について概説する。	
専門科目	学部共通専門科目		オブジェクト指向プログラミング	本講義は、同一セメスターで開講している「プログラミング基礎２」の連携科目である。Java 言語を用いてオブジェクト指向に則ったプログラミングを行うための事項を解説する。具体的には、オブジェクト指向プログラミングの重要な概念として、ポリモーフィズム、カプセル化、継承、抽象化について学習する。また、UMLによるクラス図との対応も確認する。この科目で修得した内容を、プログラミング基礎2において実践し、知識の定着を図る。	
専門科目	学部共通専門科目		機械学習概論	現代の人工知能技術の根幹を成しているのは、人が多様なデータから有用な規則や判断基準を導き出す過程を、確率論や統計学を活用して機械（コンピュータ）上で実現する機械学習手法である。この技術は情報学を専門とする技術者・研究者にとっては欠かすことのできないものとなっている。本講義では、現代の情報技術者が共通して備えておくべき機械学習の基礎知識を解説し、実用現場で用いられている諸手法を紹介し、今後のより深い学習への動機付けを行う。	
専門科目	学部共通専門科目		情報学基礎ゼミナール１	情報学部では、2年次から知能システムコース、サイバーセキュリティコース、実世界コンピューティングコースの3コースのいずれかを選択するとともに、研究分野が近い数人の教員が研究グループを作り、グループ単位での研究室配属を行う。3セメスターに開講する本科目では、研究グループごとに3年次以降の研究室単位で実施する研究に必要な基礎知識の修得を図るほか、少人数教育を通じて実社会の問題発見・解決能力の育成を図る。また本科目では、各研究グループに関連の深い研究分野のサーベイを通じた情報収集の実践に加え、論文作成・添削、研究プレゼンテーションを通して、成果を発信する能力の育成を行う。	
専門科目	学部共通専門科目		情報学基礎ゼミナール２	4セメスターに開講する本科目では、3セメスターの「情報学基礎ゼミナール１」に引き続き、研究グループごとに3年次以降の研究室単位で実施する研究に必要な基礎知識の修得を図るほか、少人数教育を通じて実社会の問題発見・解決能力の育成を図る。本科目では、ゼミナール形式で教員と学生とが研究サーベイ、論文作成、プレゼンテーションについてのディスカッションを行い、3年次以降の研究室で実施する専門研究に向けて、情報収集、情報分析、情報発信能力を実践を通じて身につけることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学部共通専門科目		プログラミング実習１	本実習はオブジェクト指向プログラミングでの重要な概念として、継承、抽象化について学習する。特にUMLによるクラス図との対応も確認する。続いて、グラフィカルユーザインタフェースや、探索問題とソート問題を解決する基本的なアルゴリズムを実装したプログラムを作成する課題に取り組む。最後に、この実習で学習した継承、抽象化といった様々な機能を利用し、UMLを活用した設計をしながら、やや規模の大きなプログラムを作成する。	共同
専門科目	学部共通専門科目		プログラミング実習２	本実習はオブジェクト指向設計への理解を深めるとともに、ある程度大規模なオブジェクト指向プログラミングの実践的な開発手法を学ぶ。最初にオブジェクト指向プログラミングを復習し、その後デザインパターンを用いて実装された複数のJavaのサンプルプログラムを通じて、具体的にオブジェクト指向設計を学ぶ。また、ソフトウェア開発で必要となるリファクタリングとソフトウェアテストについても学ぶ。	共同
専門科目	学部共通専門科目		データ構造とアルゴリズム	プログラムを実行する際に考慮すべき重要な項目として、信頼性と効率があげられる。これらを達成するためには、問題を正確に記述するアルゴリズムと、処理すべきデータの基本構造を的確に把握することが不可欠である。本講義では、プログラムの作成に実際によく用いられる、基本的かつ重要な種々のデータ構造とアルゴリズムを解説する。前半は連結リスト、スタック、キュー、ハッシュテーブルといった基本的なデータ構造、ソートアルゴリズムの解説を行う。後半では、代表的なグラフアルゴリズムとして幅優先探索、深さ優先探索、最短経路アルゴリズム、最大フローアルゴリズムの手順を学ぶほか、アルゴリズムを効率化するための代表的なテクニックとして、分割統治法、動的計画法、分枝限定法といった技法や、ナップサック問題、巡回セールスパーソン問題といった計算量の大きい問題に対する近似アルゴリズムについて学習する。	
専門科目	学部共通専門科目		ネットワーク技術	インターネットに代表されるコンピュータネットワークは常に進歩し続けているが、その基本的な構成は変化していない。本講義ではネットワークの基本構成から始め、インターネット、通信プロトコル、TCP/IP、IPアドレス、ルーティング、ネットワークサービスを学び、コンピュータネットワークの構築・設計に必要となる知識の習得を行う。コンピュータネットワークの知識を習得することで、通信プロトコルを理解し、さらに情報システムを活用したネットワークサービスの構築・設計などに役立てることができる。	
専門科目	学部共通専門科目		離散数学	本講義では情報分野で必要となる離散数学について学ぶ。まず、基数、基数の変換、数値の表現（補数表現、小数表現など）、算術演算と精度などコンピュータで扱う数値表現と集合（ベン図など）、論理演算の基本法則（ド・モルガンの法則、カルノー図、真理値表）などの情報で扱う基礎的な数学を学ぶ。また、コンピュータ、ネットワーク、セキュリティ技術を理解するために必要な、剰余演算（合同式、フェルマーの小定理など）、離散代数（群、環、体など）についても学ぶ。	
専門科目	学部共通専門科目		ITビジネス基礎	これからのIT人材に求められるのは、ITを活用した仕事を創る能力である。本講義は、情報知識をビジネスに役立てるためのビジネス企画の立案方法について学ぶ。イノベーションとは何かとそれを生み出してきた方法を学び、次いでサービスデザインという、ビジネスアイデアを顧客視点から設計する方法を学ぶ。到達目標は、現実にある課題を発見し、ひとりあるいはグループにて、課題を発見し、コンセプトを決め、ソリューションを出す、つまり新規ビジネスを企画できる様になることである。	
専門科目	学部共通専門科目		Webシステム	インターネットの爆発的普及に伴い、コンピュータ単体で完結するスタンドアローン型のシステムから、Webを介して情報をやりとりするWebシステムへの移行が急速に進んでいる。Webシステムを開発するためには、インターネットの仕組みについての理解に加え、Webブラウザ経由で送信されるクライアントシステムからのリクエストをサーバ側で処理するサーバーサイドプログラミングの知識も必要となる。本講義では、Webシステムの基盤となるプロトコル、Java Servletなどのサーバーサイドプログラミング手法および開発方法について解説する。	
専門科目	学部共通専門科目		オブジェクト指向設計	本講義は、同一セメスターで開講している「プログラミング実習２」の連携科目である。「オブジェクト指向プログラミング」において学習したオブジェクト指向の概念を活かし、生産性の高いソフトウェア開発を行うためのデザインパターンを学習する。デザインパターンは、プログラムの再利用効率を高めて生産性を向上させるための設計ノウハウを体系的にまとめたものである。本講義では、デザインパターンについて学修し、プログラミング実習２における実践を通じて知識の定着を図る。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学部共通専門科目		ネットワークセキュリティ技術	本講義ではネットワークを安全に管理、利用するための技術を学ぶ。まず、「ネットワーク技術」で扱わなかった高度なネットワーク技術について学ぶ。また、通信データの盗聴、不正接続を防ぐセキュアプロトコル（IPSec、SSL/TLSなど）、なりすましによる不正接続やサービスの不正を防ぐための認証プロトコル（OAuth、RADIUSなど）、ネットワークに対する不正アクセス、不正利用、サービスの妨害行為などの脅威に対する対策技術（フィルタリング、VPN、脆弱性検査、ポートスキャンなど）について学習する。	
専門科目	学部共通専門科目		情報学応用ゼミナール１	情報学部では、各学生は2年次に研究分野の近い教員数人で構成される研究グループのいずれかに配属、3年次からは各教員が主催する研究室に配属し、情報学の専門的な研究を実施する。5セメスターに開講する本科目では、「情報学基礎ゼミナール１・２」で配属されていた研究グループを構成する研究室のうち1つへ研究室配属を行い、研究室単位でネットワーク、情報セキュリティ、コンピュータビジョン、分散システム、人工知能、環境の知能化など各教員が専門とする分野の研究指導を受ける。	
専門科目	学部共通専門科目		情報学応用ゼミナール２	6セメスターに開講する本科目では、「情報学応用ゼミナール１」に引き続き、各教員が主催する研究室のいずれかに配属し、情報学の専門的な研究を実施する。少人数の研究室単位で、ネットワーク、情報セキュリティ、コンピュータビジョン、分散システム、人工知能、環境の知能化など各教員が専門とする分野において、関連研究の調査、研究計画の策定、実施、データの解析と結果の取りまとめ、研究成果のプレゼンテーションなど、4年次の卒業研究を実施するに当たって必要となる知識の修得を図る。	
専門科目	学部共通専門科目		人工知能	人工知能の技術は、人間の持つ知的な能力を機械により実現するものである。最近は機械学習分野の発展によって注目を浴びているが、古くから研究が行われている技術分野であり、機械学習以外にも重要な技術が存在し、様々な場面で利用されている。本講義では、問題解決、探索法を基礎とした人工知能の代表的な技術について解説し、実例を示すことで知識の定着を図る。また、知的処理を実現する枠組みとして計算知能と呼ばれる分野についても解説する。	
専門科目	学部共通専門科目		データベース論	本講義ではIoTにより収集される膨大なビッグデータを効率的に扱うために必要なデータベース技術について解説する。まず、データベースの種類や特徴、データベースモデルについて説明する。また、データベースの設計、作成、評価、運用方法について説明すると共に、SQLやKVSを用いたデータベース操作の方法やトランザクション処理、障害回復処理について解説する。さらに、企業会計システムや在庫管理システムで利用されているデータベースの応用技術やデータベースセキュリティ技術についても説明を行う。	
専門科目	学部共通専門科目		情報理論	本講義では情報通信分野で重要な理論である情報理論を学ぶ。まず、情報理論について概観した後、通信システムモデル、標本化定理について解説する。また、情報源符号化（情報源モデル、エントロピー、平均符号長、情報源符号化定理）、情報源符号（ハフマン符号、ラングレス符号など）、通信路の符号化（通信路モデル、通信路容量、平均誤り率、通信路符号化定理）、符号理論（誤り検出と訂正、パリティ検査符号、線形符号、巡回符号など）について学ぶ。	
専門科目	学部共通専門科目		キャリアデザイン	将来の進路、技術者としての職業観の形成を計るとともに、自分に適した進学・就職の目標を設定すること、およびその目標を達成するために必要な準備・対策に自主的に取り組み、自分の進路の決め方を学ぶ。主な課題は次の3つである。1. 業界研究・企業研究および自己分析を行って自分自身を把握する。2. 自分自身を取り巻く社会状況を理解する。3. 社会人基礎力やコミュニケーション能力の大切さを理解し、これらを高めて進路を決める準備を行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学部共通専門科目		データマイニング	これまでに学んだ応用数学、機械学習、データベース論の内容をもとに、推薦システムの構築および適用に必要となる諸技法について学修する。推薦システムとは、ユーザが行う情報選択を自動化し、個人に合う情報を提供するシステムである。また推薦システムは、膨大なデータの収集・解析を効率よく処理し、人間では気づくことができない新たな価値を提供するシステムである。 講義では、前半で推薦システムを構築するために必要となる膨大なデータの収集・解析方法、後半で推薦システムに関する諸技法について学修する。その後、問題設定から推薦システム構築までを実践することで、より深く理解することを目的としている。 授業は講義のみに偏らず、Pythonによる実践などを含め、データマイニングに関する理解を促すよう構成されている。	
専門科目	学部共通専門科目		情報セキュリティ	本講義では暗号と情報セキュリティの基礎技術について解説する。まず、情報セキュリティの目的、考え方、重要性を学ぶ。次に、情報資産に対する脅威、脆弱性と主な攻撃手法の種類（辞書攻撃、XSS、バッファオーバーフロー、中間者攻撃、DoS、標的型攻撃、ゼロデイ攻撃、など）、情報セキュリティに関する技術（暗号技術、認証技術、公開鍵基盤など）の種類、仕組み、特徴、その技術を使用することで、どのような脅威を防止できるかを学習する。	
専門科目	学部共通専門科目		情報と職業	情報通信技術の発展により情報に関わる働き方は多様化している。本講義では情報に関わる産業構造や雇用形態について解説する。前半は情報通信業の産業形態、情報システムのライフサイクル、情報通信業における職業であるシステムインテグレータ・システムエンジニア・分野ごとの職業であるネットワークエンジニアや組み込みエンジニア・業務ごとの職業であるサポートエンジニアやセールスエンジニア、そして情報通信業以外の業種における情報に関する職業ににについて解説する。後半は多様化する働き方として、副業・兼業、フリーランス、起業における事業計画・法人設立・運営について解説する。	
専門科目	学部共通専門科目		社会情報学実習１	本科目では、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げ、情報技術を駆使してその解決策を模索する企業連携型プロジェクトに学生を参加させ、プロジェクトに基づく教育（PBL）を通じて、学生の自主性、問題発見能力、問題解決能力を育成することを目指す。企業連携型プロジェクトでは、情報学部で推進する「学生中心プロジェクト」に参画する企業と共に産学連携の課題解決に取り組み、企業担当者や他の学生と共に解決のためのアプローチを試行錯誤する中で、学生一人ひとりが「自ら考え、実践する力」を実践を通じて修得することを目指す。特に「社会情報学実習１」では、グループ活動を通じた問題発見能力の滋養に焦点を当てる。	共同
専門科目	学部共通専門科目		社会情報学実習２	本科目では、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げ、情報技術を駆使してその解決策を模索する企業連携型プロジェクトに学生を参加させ、プロジェクトに基づく教育（PBL）を通じて、学生の自主性、問題発見能力、問題解決能力を育成することを目指す。企業連携型プロジェクトでは、情報学部で推進する「学生中心プロジェクト」に参画する企業と共に産学連携の課題解決に取り組み、企業担当者や他の学生と共に解決のためのアプローチを試行錯誤する中で、学生一人ひとりが「自ら考え、実践する力」を実践を通じて修得することを目指す。特に「社会情報学実習２」では、グループ活動を通じた問題解決能力の滋養に焦点を当てる。	共同
専門科目	学部共通専門科目		社会情報学実習３	本科目では、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げ、情報技術を駆使してその解決策を模索する企業連携型プロジェクトに学生を参加させ、プロジェクトに基づく教育（PBL）を通じて、学生の自主性、問題発見能力、問題解決能力を育成することを目指す。企業連携型プロジェクトでは、情報学部で推進する「学生中心プロジェクト」に参画する企業と共に産学連携の課題解決に取り組み、企業担当者や他の学生と共に解決のためのアプローチを試行錯誤する中で、学生一人ひとりが「自ら考え、実践する力」を実践を通じて修得することを目指す。特に「社会情報学実習３」では、企業と連携した実践的なアイディアソンやハッカソンを実施することで、これまでに習得した問題発見および解決能力のより一層の深化を図る。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学部共通専門科目		社会情報学実習４	本科目では、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げ、情報技術を駆使してその解決策を模索する企業連携型プロジェクトに学生を参加させ、プロジェクトに基づく教育（PBL）を通じて、学生の自主性、問題発見能力、問題解決能力を育成することを目指す。企業連携型プロジェクトでは、情報学部で推進する「学生中心プロジェクト」に参画する企業と共に産学連携の課題解決に取り組み、企業担当者や他の学生と共に解決のためのアプローチを試行錯誤する中で、学生一人ひとりが「自ら考え、実践する力」を実践を通じて修得することを目指す。特に「社会情報学実習４」では、連携企業等の現場における就労体験等を通じて、技術者としての将来像を具体化し、能力の滋養および適正の自己評価に取り組む。	共同
専門科目	学部共通専門科目		卒業研究	卒業研究では、「情報学基礎ゼミナール１・２」、「情報学応用ゼミナール１・２」で学修した知識に基づき、指導教員の専門分野に関連する研究テーマに基づき、実践的に研究を遂行するための指導を受ける。指導の内容としては、研究の進め方から始まり、文献の調査、研究テーマに関するコンピュータを用いた情報処理の実践、研究結果からの考察の仕方、報告書・論文の書き方、研究発表（プレゼンテーション）の方法、討論の方法などが含まれる。卒業研究を通じて、研究の方法を学ぶと共に基礎知識を広く応用して与えられたテーマに関する問題解決の能力を養うことを目指している。	
専門科目	知能システムコース		多変量解析	知能システムが対象とする情報はすべて多次元の数量データとして扱われ、そこから有用な情報を抽出したり、次の処理に適した形式に変換する処理があらゆる場面で必要になる。よって、多変量データの解析は機械学習、人工知能、各種メディア処理の基礎として欠かせない知識である。本講義では、回帰分析、判別分析、主成分分析、クラスター分析など多変量解析の基本事項を解説し、以降の専門科目群の内容を理解するために必要な知識を身につける。	
専門科目	知能システムコース		応用数学	知能システムコースで扱う機械学習を中心とする諸技術の原理を理解して適切に利用するには、技術の背後にある数理的な理論の理解が不可欠である。そのためには、微分積分学、線形代数学、確率論、統計学などの数学的知識が必須となる。本講義では、これまでに履修してきた微分積分、線形代数、確率統計の各科目の内容の発展的な内容、特に確率統計の発展的な内容であるベイズ統計や、線形代数の発展的な内容である行列分割などを中心に解説し、知能システムコースで開講されている専門科目群を理解するために必要な数学の基礎知識を修得する。	
専門科目	知能システムコース		機械学習１	現代の人工知能技術の根幹を成しているのは、人が多様なデータから有用な規則や判断基準を導き出す過程を、確率論や統計学を活用してコンピュータ上で実現する機械学習手法である。本講義では、機械学習手法の中でも、深層学習を初めとする昨今広く利用されている手法や、サポートベクトルマシン、統計モデルによる学習などの典型的な手法を取り上げ、それらの原理と応用例を解説する。さらに、機械学習一般に必要な概念である汎化能力とその評価についても解説して実践的な知識の定着を図る。	
専門科目	知能システムコース		機械学習２	現代の人工知能技術の根幹を成しているのは、人が多様なデータから有用な規則や判断基準を導き出す過程を、確率論や統計学を活用してコンピュータ上で実現する機械学習手法である。本講義では「機械学習１」に続き、様々な学習手法の原理と最新の応用例について解説する。本講義では「知能システムプロジェクト２」と連携し、典型的な手法を自ら実装してその原理の理解を目指す。これにより、今後もさらなる発展が予想されるこの分野において、最先端の技術を理解できる素養を身につける。	
専門科目	知能システムコース		実践機械学習	企業等で、機械学習の諸手法を効果的に活用して活躍するエンジニアとなるためには、諸手法の原理だけでなく、実データを処理する際の機械学習システムの構築、データの前処理、学習結果の解釈などについても習熟しておかなければならない。本講義では「機械学習I」で取り扱う内容と連携しながら、機械学習システム構築に必要な諸事項について解説する。講義の中では、実用場面に即したデータを用いて、実践的な知識の定着を目指す。	
専門科目	知能システムコース		統計データ解析	知能システムコースで扱う機械学習を中心とする諸技術の原理を理解するには、技術の背後にある数理的な理論の理解が不可欠である。そのためには、微分積分学、線形代数学、確率論、統計学などの数学的知識が必須となる。本講義では、これまでに履修した「多変量解析」「応用数学」で修得した知識をもとに多変量データを用いたモデル化・最適化などの内容を解説し、知能システムコースで開講されている専門科目群を理解するために必要な数学の基礎知識の修得を図る。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	知能システムコース		自然言語処理	自然言語は、人間にとって最も自然なコミュニケーション手段である。この自然言語をコンピュータに対するインターフェース手段として用いるための研究が自然言語処理(Natural Language Processing NLP)である。また、自然言語処理は人間同士のコミュニケーションの補助手段としても有用である、その技術の例として機械翻訳をあげることができる。 本科目では、自然言語処理における基本技術である形態素解析、構文解析、およびその中で用いられている諸概念や方法についてまず学習していく。	
専門科目	知能システムコース		数理計画法	数理計画法は現実の問題を数式による最適化問題として記述し、それをコンピュータを用いて解くことで、問題解決に役立つ情報を得ることを目的とする。数理計画法の方法論は多岐に渡るが、講義では線形代数と微分積分学を修得した学生を対象として、設計、生産、計画、制御など多方面で広く利用されている線形計画法と非線形計画法を中心に解説する。また、数理計画法に関する知識を情報システムの開発に活用できる能力を養うため、表計算ソフトのソルバーを用いた課題レポートにも取り組ませる。	
専門科目	知能システムコース		知能システムプロジェクト１	知能システムコースでこれまでに履修した内容の理解を促すために、これまでのセメスターで学習した様々な機械学習手法や、メディア処理手法を組み込んだアプリケーションを製作する。製作するアプリケーションは、Webアプリケーション、デスクトップアプリケーション、モバイルアプリケーションなど様々な形態とし、機械学習手法やメディア処理手法について深く理解するとともに、アプリケーションフレームワークの概要を理解することを目標とする。さらに、レポート作成などを通じて効果的な技術文書の作成についても学ぶ。	共同
専門科目	知能システムコース		知能システムプロジェクト２	知能システムコースでこれまでに履修した内容の理解を促すために、実用場面に即したデータを用いた実習課題に取り組む。この実習では、これまでに履修してきた映像・音声・言語などのメディアを扱う講義の内容を踏まえ、これまでに学んだ機械学習手法をこれらのメディア情報処理に適用する課題に取り組む。実習の中では、機械学習手法を適用する実践的な力を養成するだけでなく、レポート作成などを通じて効果的なプレゼンテーション技術についても学ぶ。	共同
専門科目	知能システムコース		メディア処理	音声・言語・画像などのメディア情報を扱う際には、それらの情報がもつ特徴を考慮しながら適切な処理を行う必要がある。例えば、音声・言語・映像は時系列データであり、また、多次元の数量データである。本講義では、「多変量解析」や「統計データ解析」で身につけた知識を活かしながら、メディア情報を扱うためのフーリエ変換、時系列フィルタリングなどについて学修する。本講義は同時期開講の「知能システムプロジェクト１」と連携して知識の効果的な定着を図る。	
専門科目	知能システムコース		音声言語処理	人間が発話した音声を処理しその内容を理解する音声認識は、スマートホンやスマートスピーカーなどでの入力インターフェースとして活用されており、今後も発展が期待される技術分野である。また、この音声認識の際に獲得される情報を利用して、音声を他の言語の音声に変換する「音声翻訳」も実用化されはじめている。本講義では、音声認識の原理や応用例について学ぶとともに、音声翻訳に必要な機械翻訳および、音声合成についても学び、それらの基礎知識を修得することを目標とする。	
専門科目	知能システムコース		コンピュータビジョン	コンピュータビジョンは、映像を通じて実世界に存在するモノ・コトを認識する技術であり、自動運転自動車や自律ロボットを始め多くの分野への応用が期待されている。さらに、昨今では機械学習の応用分野として活発な研究開発が行われている。本講義では、3次元復元、画像特徴量、畳み込みニューラルネットワークなどのコンピュータビジョンの基礎となる技術を解説し、人物検出・顔検出・人物姿勢推定などの応用例がどのように実現されているかを解説する。	
専門科目	知能システムコース		データモデリング	これまでに学んだ確率統計、機械学習の内容をもとに、統計モデリングについて学修する。データ解析における統計モデルとは、観測したデータを確率分布で近似することで、現象の説明・予測を実現する手法であり、様々な分野で応用されている。 講義では、「確率統計」で学んだ確率変数・確率分布の知識をもとに、ベイズの定理、母数およびモデルの推定法、ガウス過程を学修し、機械学習の諸技法を確率の観点から理解することを目的とする。 授業は講義のみに偏らず、Pythonによる実践などを含め、統計モデルに関する理解を促すよう構成されている。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	知能システムコース		HCI	Human Computer Interaction (HCI)は、工学、認知心理学、計算機科学、人工知能、社会学、言語学、デザイン等、多岐にわたる学問分野から構成されており、対象とするものも非常に広範囲に及んでいる。知能システムを開発する際にも、ユーザーである人間を考慮したシステム設計が重要である。本講義では、人間の知覚特性の基礎を学ぶとともに、インタフェースを構成する入出力装置、HCIのデザイン指針、及び、先端的なHCI技術による近未来のインタフェースについて学ぶ。	
専門科目	知能システムコース		医療情報学応用	（概要） 本科目では、情報学の医療分野への応用について概説する。人工知能を含めた様々な医療画像・情報の処理について応用方法を説明する。そして、偽陰性や偽陽性をはじめとした医療統計の用語並びにその計算方法、２群の有意差を確かめる検定、そして、実験の規模を決めるサンプルサイズの決定方法について説明し、遺伝子情報から有用な遺伝子の組合せを見い出すバイオインフォマティクスについて解説する。さらに、EHRなど電子カルテを含めた医療システムの情報化について触れる。 （オムニバス方式/全15回） （6 半田　久志/8回） 医療統計の基礎、医療分野での検定、バイオインフォマティクスについて説明する。 （7 木村　裕一/3回） 医療画像の撮影の仕組みや医療画像の特徴抽出処理、人工知能を用い　た医療診断について説明する。 （25 杉山　治/3回） 医療システムの情報科について説明する。 （6 半田久志・7 木村裕一・25 杉山治/１回）（共同） それぞれの担当者によって説明された内容についてのまとめを行う。	ｵﾑﾆﾊﾞｽ方式 共同（一部）
専門科目	知能システムコース		知的エージェント	本講義では、インターネットやパーソナルメディアといった次世代のテクノロジーに支えられた生活環境の中で、人間の仕事を支援する「知的」で「自律的」なソフトウェアをエージェントと呼び、そのようなエージェントに関する基礎知識を学ぶ。まず、環境に関する知識に基づき、達成すべき目標を目指して行為を遂行する合理的エージェントを学ぶ。マルチエージェントがそれぞれの計画を調整して遂行するために相互作用する方法、ゲーム理論を用いて交渉する方法などを学ぶ。最後に、環境との相互作用を通じて行為に関する学習を行う強化学習の概要を学び、実際にプログラムを作成して理解を深めることを目指す。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		OSとコンピュータアーキテクチャ	本講義ではコンピュータの基礎技術について解説する。まず、コンピュータの普遍的な基本構成から始め、命令セット、制御機構、演算機構、メモリ、入出力の各アーキテクチャを学習し、システム構築上で必要となる知識の習得を行う。また、コンピュータの基本ソフトウェアであるOSの役割・目的およびその基礎概念を学習する。また、システムの開発、運用におけるセキュリティ対策やセキュリティを強化したOSであるセキュアOS の仕組み、実装技術、効果を学習する。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		暗号と情報セキュリティ	本講義では暗号と情報セキュリティの基礎技術について解説する。まず、情報セキュリティの目的、考え方、重要性を学ぶ。次に、情報資産に対する脅威、脆弱性と主な攻撃手法の種類（辞書攻撃、XSS、バッファオーバーフロー、中間者攻撃、DoS、標的型攻撃、ゼロデイ攻撃、など）、情報セキュリティに関する技術（暗号技術、認証技術、公開鍵基盤など）の種類、仕組み、特徴、その技術を使用することで、どのような脅威を防止できるかを学習する。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		情報セキュリティ対策と管理１	本講義では情報セキュリティ対策と管理について学ぶ。まず、人的、技術的側面からの情報セキュリティ対策を学ぶ。次に、情報セキュリティ管理の考え方（情報資産、リスクマネジメント、インシデントなど）、リスク分析と評価などの方法（情報資産の調査、情報資産の重要性による分類、リスクの種類、情報セキュリティリスクアセスメント、情報セキュリティリスク対応）、情報セキュリティ継続（緊急事態、復旧計画、バックアップ対策など）の考え方を学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	サイバーセキュリティコース		情報セキュリティ対策と管理２	本講義では「情報セキュリティ対策と管理１」に引き続き、情報セキュリティ対策と管理について学ぶ。まず、技術的、物理的側面からの情報セキュリティ対策を学ぶ。次に、情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシを含む組織内規程）、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）や情報セキュリティに関係するその他の基準、情報セキュリティ組織・機関の役割（CSIRT、SOC、NISC、CRYPTREC、JPCERT/CC、各種届出制度など）について学ぶ。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		情報数学	本講義では応用数学のうちコンピュータ、ネットワーク、セキュリティ技術を理解するために必要な項目について学ぶ。具体的には、確率統計、数値計算、数値解析（二分法、補間法、オイラー法、ニュートン法、シンプソン法、誤差など）、グラフ理論（無向グラフ、有向グラフ、完全グラフなど）、待ち行列理論（サービス時間、到着間隔、平均到着率、平均サービス率、M/M/1など）、最適化問題（線形計画法、動的計画法、最短経路問題など）について学ぶ。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		ブロックチェーン	本講義では暗号通貨をはじめさまざまな領域で近年着目を集めているデータベース技術であるブロックチェーン技術について学ぶ。まず、暗号技術、ブロックチェーンネットワークなどのブロックチェーン基礎技術について学習する。さらに、最小構成のブロックチェーン・ソフトウェアを複数のコンピュータ上で実際に動作させ、ソフトウェアの改変、実験、観察等を行うことにより、ブロックチェーン・ソフトウェアを製作できる知識や技能を習得する。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		サイバーセキュリティプロジェクト１	現代組織においてはセキュリティインシデントの迅速な発見と対応が非常に重要である。セキュリティオペレーションセンターにおけるアソシエイトレベルのアナリスト業務を遂行するために必要なスキルを身に付ける。サイバーセキュリティ分析をサポートするために必要なオペレーティングシステムの機能と特性、ネットワークプロトコルおよびサービスの運用の分析のための知識、ネットワークインフラストラクチャの運用技術、さまざまな種類のネットワーク攻撃、コンピュータ、ネットワーク、ホスト、データへの悪意あるアクセスを防ぐための対策技術を理解することを目標とする。	共同
専門科目	サイバーセキュリティコース		サイバーセキュリティプロジェクト２	アプリケーション、システムの開発、保守や、これらの利用、運用の場面で、脆弱性への対処は必須となっている。本実習ではペネトレーションテスターの業務を遂行するために必要な知識、スキルを身に付ける。攻撃者視点での脆弱性の情報やその入手、脆弱性の検査、検査で見つかった脆弱性を使った攻撃についての理解、各種の攻撃手法によってシステムの情報がどこまで暴かれるかを知り、何を意識すれば安全なシステムを構築できるようになるかを把握、理解することを目標とする。	共同
専門科目	サイバーセキュリティコース		ソフトウェア工学	本講義ではシステム開発技術、ソフトウェア開発管理技術およびプロジェクトマネジメントについて学習する。まず、システム開発における要件定義、方式設計、詳細設計、構築、確認テスト、結合確認テスト、導入、受け入れ支援、保守・廃棄のそれぞれのフェーズで必要となる知識について学習する。次に、ソフトウェア開発管理における、開発プロセス・手法、知的財産適用管理、開発環境管理、構成管理・変更管理について学習する。さらに、プロジェクトマネジメントにおいて必要となる知識について学習する。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		セキュリティ解析技術	本講義ではセキュリティ機器、ネットワーク機器や端末のログなどを定常的に監視し、場合によっては起きた事象を分析して、脅威となるインシデントの発見や特定、連絡を行うセキュリティオペレーションセンターアナリストに必要とされる知識と技能を習得する。具体的には、WindowsやLinuxなどの各OSの特性、ネットワークセキュリティの原則、ネットワーク攻撃および保護法、セキュリティ監視、侵入データ分析法、インシデントへの対応法を学ぶ。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		モバイル通信	本講義では携帯電話や無線LANなどの無線モバイルシステムで使用される通信技術を学ぶ。まず、電波の特性、無線変調方式（ASK、FPSK、FSK、QAMなど）、多重化方式（TDMA、FDMA、OFDMAなど）などの無線通信の基礎を学ぶ。その後、無線LAN、無線PAN、携帯電話網、RFID等で使用されている無線通信技術およびセキュリティ技術を学ぶ。さらに、IoTシステムで利用される通信技術（LPWA、MQTTなど）について学習する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	サイバーセキュリティコース		サイバー犯罪学	本講義では、サイバー空間の脅威が増大し、その対策が一般国民にとっても大きな関心事となっている中、サイバー犯罪の現状や対抗手段、サイバー空間をとりまく法や規範等を取り上げる。具体的には、インターネット上の違法・有害情報、児童被害、情報セキュリティを脅かす犯罪、電子商取引に係る犯罪、サイバーテロとサイバーインテリジェンス、サイバー犯罪捜査と国際協力等について学び、サイバー空間の脅威についての理解を深めるとともに、それに対処するための知識を習得する。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		組み込みシステム	本講義ではIoT機器をはじめ世の中で広く利用されている組み込みシステムを実現するための諸技術を学ぶ。身近なシステムを例に組み込みシステムを概観したのち、組み込みシステムの歴史、組み込みシステムの構造、組み込みソフトウェアの特徴（リアルタイムOS、ミドルウェア）について学ぶ。また、組み込みシステム開発技術について学習する。また、車、ホーム、ビル、ファクトリで使用されている組み込みシステムについても学ぶ。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		セキュリティ技術評価と実装技術	本講義ではセキュリティ技術評価と実装技術について学ぶ。まず、セキュリティ技術評価基準、制御システムのセキュリティ評価（CSMSなど）、脆弱性評価の指標（CVSS、CVEなど）、セキュリティ情報共有技術について学ぶ。次に、アプリケーションセキュリティ（セキュアプログラミング、バッファオーバーフロー対策など）、マルウェア解析（サンドボックス、ハニーポット、エクスプロイトコードなど）、IoTシステムの設計・開発におけるセキュリティに関して述べる。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		情報と社会	情報通信技術（ICT）の発展は、社会におけるコミュニケーションの方法を大きく変え、経済、医療、教育、文化などの各方面でグローバルに活躍する人々の活動を支えている。本講義では、社会基盤としての情報システムとインターネット、および高度に情報化された社会における情報倫理と危機管理について学び、それらを利用する社会を考えながら、高度なコミュニケーションの実現方法や、実際の社会に役立つ情報システムをデザインするために必要となる知識を習得する。さらに、Society5.0を実現するための課題について議論し、その可能性の探求を通して、問題解決力を習得する。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		クラウドコンピューティング	本講義ではクラウドを利用する際に使用される技術について重点的に学ぶ。具体的には、クラウドサービスモデル（IaaS、SaaS、PaaSなど）、クラウドコンピューティング技術（サーバ仮想化）、クラウドネットワーキング技術（ネットワーク仮想化、インフラストラクチャ仮想化、vSwitch、VLAN、VXLANなど）、クラウドストレージ技術（RAID、SAN、NASなど）等を学習する。また、クラウドの利用方法や構築方法などの実践的な技能を習得する。	
専門科目	サイバーセキュリティコース		ネットワーク演習１	本演習ではネットワークに関するシスコ技術者認定に合格するために必要な知識と技能のうち、基本的な項目について学習する。具体的には、ネットワークやセキュリティに関する基本的な知識とスイッチやルータといったネットワーク機器の基本的な設定方法を学ぶ。少人数グループ毎に複数のネットワーク機器に対して設定を施しネットワークを構築する演習を実施することで、実践的な技能を習得する。	共同
専門科目	サイバーセキュリティコース		ネットワーク演習２	本演習ではネットワークに関するシスコ技術者認定に合格するために必要な知識と技能のうち、高度な項目について学習する。具体的には、ネットワークやセキュリティに関する高度な知識とスイッチやルータといったネットワーク機器の高度な設定方法を学ぶ。少人数グループ毎に複数のネットワーク機器に対して設定を施しやや高度なネットワークを構築する演習を実施することで、実践的で高度な技能を習得する。	共同
専門科目	実世界コンピューティングコース		コミュニケーション論	人間のコミュニケーション能力とその社会的意味について、人間の進化過程や認知心理学、記号論、メディア論による研究事例などを交えて、多様な側面から概説する。手紙から電話への変化が、コミュニケーションや社会構造に影響を与えたように、メディアのデザインが言語・非言語問わずコミュニケーション全般に大きな影響を与えている。さらに近年の情報通信技術・人工知能技術の発展に伴い、コミュニケーションの形態に大きな変化が起きつつある。この講義では、人と人のコミュニケーションから、人と人工物（コンピュータやロボットなど）との間のコミュニケーションまで、近年の技術開発動向に触れつつ概説する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実世界コンピューティングコース		エンターテインメントコンピューティング	エンターテインメント（娯楽）は人の心の健康を保つ重要な要素の一つである。エンターテインメントには、音楽やお笑い、映画やアニメ、テレビ、ゲームなど、人を楽しませるものであればあらゆるものが対象となる。昨今の情報技術の進展によって、エンターテインメントも情報技術を取り入れることが多い。ゲームなどのように情報技術そのものを使ってエンターテインメントを実現するものや、伝統芸能などのような古くから存在し、これまで情報学との関わりがなかったものと情報技術を組み合わせる場合なども増えている。 本講義では、情報技術を用いてエンターテインメントを創造するための技術、「面白さ」の基本要素を解明し評価方法を確立するエンターテインメント性、並びに、教育・エクササイズ・福祉などのさまざまな分野での応用事例について解説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		人間中心設計論	人間中心設計とは、システム開発を行う際に、そのシステムを利用するユーザの使いやすさ、満足度などを重視する設計方針である。システムを利用するユーザだけでなく、システムが配備される場所や、時間、運用のされ方など、システムを利用する人間を取り巻く環境を考慮した設計が重要である。そのため、人間中心設計の取り扱う範囲は工学、認知心理学、計算機科学、人工知能、社会学、言語学、デザイン等、多様な学問分野にわたっており、対象とするものも非常に広範囲に及んでいる。 本講義では、特にシステムのインタフェースについての人間中心設計に言及し、人間の知覚特性の基礎を学ぶとともに、インタフェースを構成する入出力装置、デザイン指針、及び、先端技術による近未来のインタフェースについて学ぶ。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		コンピュータグラフィックス	コンピュータグラフィックス(CG;Computer Graphics)は、映画、TV、ゲーム、出版などの映像分野において様々な用途に用いられている。ハードウェア技術の進歩、安価なCG作成ソフトウェアにより個人用PCでもCG画像を作成することができる。 　本講義ではこのようなソフトウェアで用いられる普遍的な技法に重点をおき講義を進める。ここで学ぶ技術はWindows環境におけるDirectXや、マルチプラットフォーム環境におけるOpenGL等のCGライブラリを使う上でも必須となるだけでなく、エンドユーザとしてCGアプリケーションを利用する際においてもより良いCG作成への道となる。具体的には、図形の描画手法から始め、３次元CGに必要な座標変換、モデリング、レンダリングなどの各アルゴリズムを学んでゆく。理解を深めるため、UNIX、Windows、 Mac等で広く利用されているオープン化されたCGライブラリ「OpenGL」を用い、簡単なCGプログラミングも行なう。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		モデル最適化基礎	モデルとは、結果となる目的変数と、その要因となる説明変数の関係を表す関数である。しかしながら、株価予測や消費者の購買行動予測といった実際問題においては、目的変数と説明変数の関係が複雑であるため、人手で高精度なモデルを構築することは困難である。そのため、モデルに挙動を調整するためのパラメータをもたせて、与えられたデータにおける目的関数と説明変数の関係を表現するために最適なパラメータを求める統計的アプローチが用いられる。結果として、最適なパラメータからなるモデルによって、人間でも気づかなかったような、データに内在する有用な目的関数と説明変数の関係性が特徴づけられる。本講義では、最適なパラメータを求めるための数値最適化法（最急勾配法やニュートン法など）から始めて、線形回帰モデル、非線形回帰モデルといった基礎的なモデルのパラメータを最適する手法について概説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		調査データ分析	社会調査は、人の社会活動における様々な現象を明らかにするために、人の社会活動に関するデータを収集し、分析することである。ビジネスにおけるマーケティングリサーチや、国勢調査などの行政調査など、様々な分野で行われている。社会調査は、インタビュー調査やアンケート調査、その他さまざまな調査方法を用いて行われる。数値で表される定量データや、数値で表すことが困難な定性データなど、多種多様な調査データを収集するため、収集したデータの性質を正確に理解し、データに応じて適切な方法を選択することが重要である。 本講義では、主成分分析、因子分析、クラスター分析、対応分析、数量化理論などのアンケート分析や、マーケティングリサーチなどで利用される調査データ分析手法について概説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		実世界コンピューティングプロジェクト１	実世界から観測される様々な種類のデータに対する解析手法についての演習を行う。具体的には、最も一般的なデータ形式であるベクトルから始めて、画像、時系列、文書データの解析に関する演習を行う。さらに、個人の生活や活動に関わるデータを扱う際に個人情報保護が極めて重要になってくることを踏まえて、プライバシーを保護したデータ解析についても演習する。最終的に、実世界からの異種のデータを統合的に解析する手法を実装する課題に取り組む。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実世界コンピューティングコース		実世界コンピューティングプロジェクト２	実世界コンピューティングコースの総まとめとして、実世界（フィジカル）とサイバー空間をシームレスに接続するサイバーフィジカルシステムの構築を行う。 サイバーフィジカルシステムを構築するために、①実世界のデータの収集方法、②機械学習や統計処理などによるデータの分析、③分析結果の実世界への適用、などの要素について体験する。また、それらを組み合わせるためのクラウドプラットフォームについても学修する。実習の最後には、グループワークによる自由課題に取り組み、これまでの履修内容が実世界における有用なシステム構築につながることを実体験する。	共同
専門科目	実世界コンピューティングコース		アドバンスドWebシステム	インターネットの爆発的普及に伴い、コンピュータ単体で完結するスタンドアローン型のシステムから、Webを介して情報をやりとりするWebシステムへの移行が急速に進んでいる。従来、Webシステムはサーバと呼ばれるコンピュータに搭載され、これにクライアントと呼ばれる利用者のコンピュータがアクセスし、クライアントから送信された要求にサーバ側のプログラムが答える形で実現していた。 近年は、通信速度の向上により、ネットワークに接続するコンピュータが増加し、サーバに大きな負荷がかかるようになっている。そのため、高度なWebシステムにおいては、負荷がかかる処理をクライアント側で行う、クライアントサイド技術が発展している。 本講義では、高度Webシステムを構築するために必要なクライアントサイドの技術についてJavaScriptによるプログラミング手法および開発方法について解説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		人工現実感	人工現実感とは、ユーザの五感を刺激することで、計算機上の仮想世界と、計算機の外である現実世界の継ぎ目を曖昧にし、人の知覚を拡張するための技術である。 人工現実感は、コンピュータ科学、ロボティクス、通信、制御工学や芸術、認知科学、人間工学など多岐の分野に及ぶ。視覚を刺激するコンピュータグラフィクス、ヘッドマウントディスプレイなどの視覚装置、嗅覚や触覚デバイス、3D音響技術や、それらをシームレスにつなぐリアルタイム処理技術などが必要になる。 本講義では、計算機上に人工的な環境を作り出し、その環境で存在している感覚を体験バーチャルリアリティ（VR）、現実空間に付加情報を表示される拡張現実（AR）、仮想世界と現実世界を融合させた世界を作る複合現実(MR)、並びに、これらの技術の動向について解説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		インタラクション設計	インタラクション設計とは、情報システムとユーザのやりとり（インタラクション）をデザインするための方法論である。人が情報システムを利用する際、情報システムと対話的なやりとりを行って望んだ結果に到達する。インタラクション設計では、この情報システムと人とのやり取りを効率的かつ容易に行えるよう、システムインタフェースを評価し、システムの改善を行う。 本講義では、ユーザビリティの評価・テスト手法、ユーザエクスペリエンスの定量的評価とその向上を図るためのインタフェースの設計プロセス、ゲーミフィケーション、並びにユーザインタフェースのプロトタイピングの方法論を解説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		深層学習	深層学習は、コンピュータが大規模データを解析して、データの特徴やパターンを学習する機械学習手法の一つである。その根幹であるニューラルネットワークは、人の神経網を模擬した数理モデルであり、人工ニューロンとその繋がりを用いて、入力されたデータの分類や未来のデータを予測する。深層学習では、このニューラルネットワークを多層にすることで、モデルを段階的に抽象化・一般化でき、データに内在する多様な特徴を一つのネットワークで説明することを可能にする。 本講義では、多層のニューラルネットワークを効率的かつ効果的に学習するためのテクニックについて講義する。さらに、人が作ったような画像や音楽などを生成するGenerative Adversarial Network、人と自然なインタラクションを行うためのQuestion Answeringなどについて解説する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実世界コンピューティングコース		サービスコンピューティング	サービスコンピューティングとは、コンピュータが提供する機能をWeb上の共通インタフェースを介して遠隔で利用可能にした「Webサービス」を組み合わせ、新しいWebサービスを作り出すための技術である。 「Society5.0」では、IoTやビッグデータ、AI、ロボット等の様々なシステムを横断的に連携・協調する必要があり、これらをサービスと捉え、組み合わせるサービスコンピューティング技術が求められる。 本講義では、Webサービスを構築するための技術であるXML、Web API、クラウド技術について概説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		複合システムデザイン	複合システムは、複数のシステムを組み合わせ、統合することで構築されるシステム（システムオブシステムズ）である。近年では、IoT(Internet of Things)や多種多様なクラウドプラットフォームの台頭により、複合システムの需要が高まっている。 本講義では、複合システムを構築するための方法論として、モデルベース・システムズエンジニアリング（MBSE）について学ぶ。具体的には、複合システムの開発プロセス、複合システムのモデルを記述するためのシステムモデル記述言語SysML、システムズエンジニアリングの事例紹介などを通じて、複合システムのデザインについて概説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		インタラクティブシステム	情報は、システムからユーザに一方的に提示されるのではなく、ユーザの要求や反応に応じて、適宜、修正・変更して提示されなければならない。本講義では、ユーザがシステムと対話しながら、効率的に情報を探索・分析するためのインタラクティブシステムについて解説する。このシステムは、様々な種類の情報を直感的に視認できる形でユーザに提示する「情報可視化」、ユーザとの対話操作を扱う「インターフェース」という2つのモジュールから構成されている。本講義では、バーチャルリアリティ技術を用いた情報可視化手法と視覚インターフェースについて解説する。さらに、近年のAIスピーカに代表される音声インターフェースについても概説する。	
専門科目	実世界コンピューティングコース		深層強化学習	昨今、実世界での様々な環境下で、適切な意思決定が行える知的なシステムの開発が求められている。環境は、例えばゲームの一場面、システムとユーザとの対話状況、ネットワーク上のリソースの使用状況などとして定義され、システムがどのような意思決定を行うかによって時々変化していく。本講義では、システムと環境との試行的な対話の繰り返しから、最適な意思決定を行うための方策を獲得する強化学習について解説する。特に、多数の層からなるニューラルネットワークを用いて環境を解析し意思決定を行う深層強化学習に焦点を当てる	
専門科目	実世界コンピューティングコース		社会シミュレーション	コンピュータシミュレーションは、ある現象を計算機上で模擬的に再現することである。 その主な目的は、再現された現象を観察することでその現象における新たな気づきを得ること、現象を再現できるシミュレーションモデルを構築すること、構築したシミュレーションモデルを用いて未来の現象を予測することなどである。 本講義では、乱数を用いてシミュレーションを実行するモンテカルロ法や、状態推定を行うためのパーティクルフィルタを中心としたシミュレーション技術、自己のルールを基に行動するエージェントを用いたエージェントベースシミュレーション（ABS）、複数のエージェントの相互作用を用いたマルチエージェントシミュレーション（MAS）や、それらを用いた社会シミュレーションなどについて概説する。	

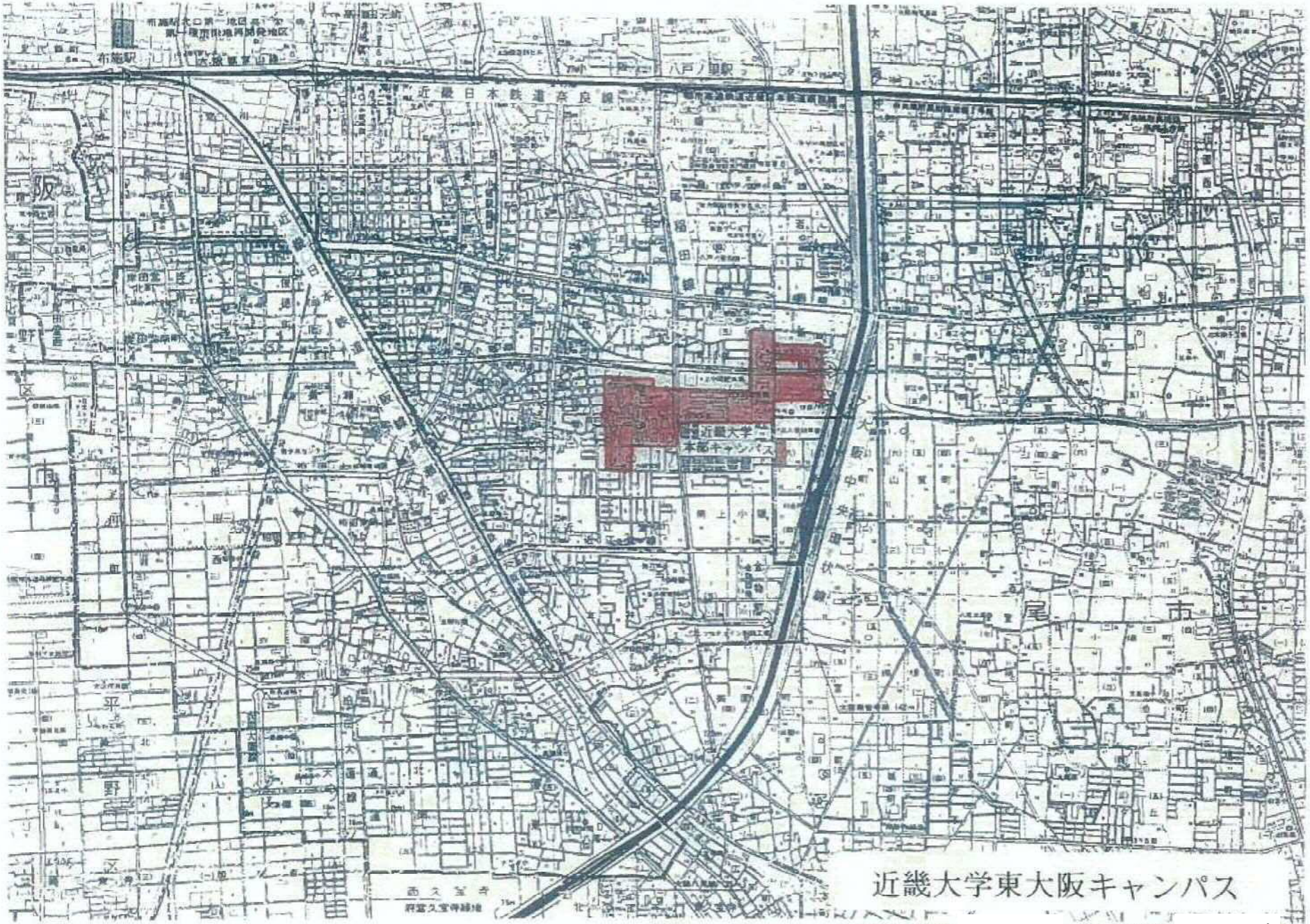
都道府県内における位置関係の図面

最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

1　近畿圏鉄道路線図

東大阪キャンパス（大学本部）

校舎、運動場等の配置図



近畿大学東大阪キャンパス

校地面積　472,403㎡　校舎面積　252,437㎡

近畿大学東大阪キャンパス

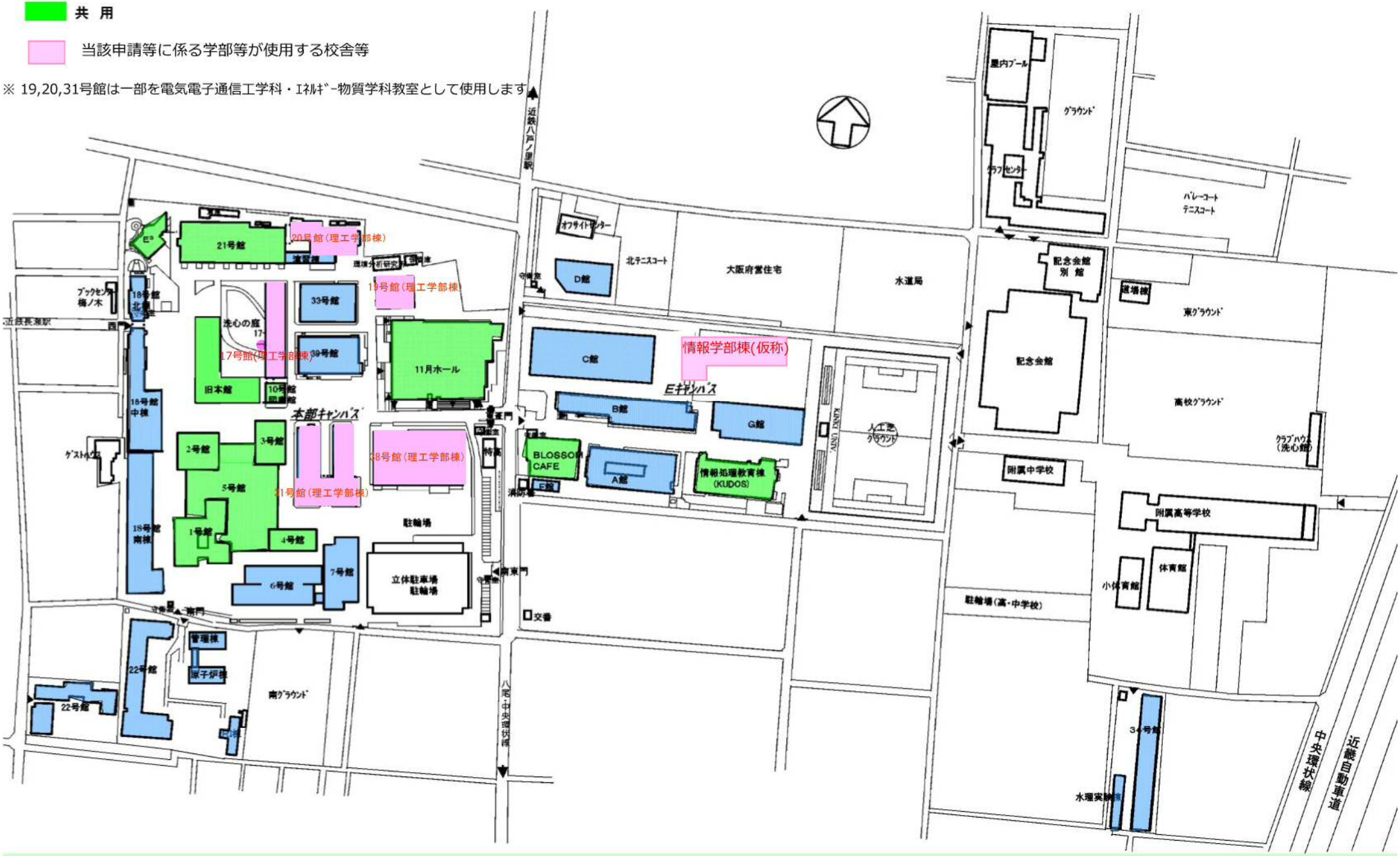
学校法人 近畿大学

専 用

共 用

当該申請等に係る学部等が使用する校舎等

※ 19,20,31号館は一部を電気電子通信工学科・ｴﾈﾙｷﾞｰ物質学科教室として使用します



近畿大学学則案

第１章　総則

（目的）

第１条　本大学は、教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、商学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学、社会学、国際学、情報学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。

２　本大学は建学の精神に沿った教育理念を実践するため、近畿大学教育方針を別記（１）に定め、学部､学科又は課程ごとに人材の育成に関する目的及びその他教育･研究上の具体的な目的を別記（２）に定めるものとする。

（自己点検及び評価等）

第１条の２　本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

２　点検及び評価等に関することは、別に定める。

（情報の積極的な提供）

第１条の３　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

（学部学科の構成及び定員）

第２条　本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。

学部・学科名	コース名	入学定員	編入学定員	収容定員
法学部				
法律学科		500名		2,000名
経済学部				
経済学科		420名		1,680名
総合経済政策学科		170名		680名
国際経済学科		170名		680名
経営学部				
経営学科	昼間主コース	425名		1,700名
	夜間主コース	160名		640名
商学科		405名		1,620名
会計学科		175名		700名
キャリア・マネジメント学科		175名		700名
理工学部				
理学科		225名		900名
生命科学科		95名		380名
応用化学科		130名		520名
機械工学科		200名		800名
電気電子通信工学科		170名		680名
社会環境工学科		100名		400名
エネルギー物質学科		120名		480名
建築学部				
建築学科		280名		1,120名
薬学部				
医療薬学科		150名		900名
創薬科学科		40名		160名
文芸学部				
文学科				
日本文学専攻		120名		480名

英語英米文学専攻	60名	240名
芸術学科		
舞台芸術専攻	50名	200名
造形芸術専攻	65名	260名
文化・歴史学科	140名	560名
文化デザイン学科	80名	320名
総合社会学部		
総合社会学科	510名	2,040名
国際学部		
国際学科	500名	2,000名
情報学部		
情報学科	330名	1,320名
農学部		
農業生産科学科	120名	480名
水産学科	120名	480名
応用生命化学科	120名	480名
食品栄養学科	80名	320名
環境管理学科	120名	480名
生物機能科学科	120名	480名
医学部		
医学科	95名	570名
生物理工学部		
生物工学科	90名	360名
食品安全工学科	90名	360名
遺伝子工学科	90名	360名
生命情報工学科	80名	320名
人間環境デザイン工学科	80名	320名
医用工学科	55名	220名
工学部		
化学生命工学科	85名	340名
機械工学科	100名	400名
情報学科	90名	360名
建築学科	100名	400名
電子情報工学科	90名	360名
ロボティクス学科	80名	320名
産業理工学部		
生物環境化学科	75名	300名
電気電子工学科	65名	260名
建築・デザイン学科	90名	360名
情報学科	70名	280名
経営ビジネス学科	120名	480名

（修業年限）

第３条　本大学の修業年限は、各学部４年とする。在学年数８年を超えることはできない。

２　薬学部医療薬学科、医学部の修業年限は６年とし、在学年数12年を超えることはできない。

第４条　（削除）

（大学院）

第５条　本大学に大学院及び法科大学院を置く。

２　大学院及び法科大学院の学則は、別に定める。
第６条　（削除）
（図書館、研究所、附属施設）
第７条　本大学に図書館、研究所、病院その他附属施設を置く。
第２章　学年・学期及び休業日
（学年・学期）
第８条　本大学の学年は、４月１日から始まり、翌年３月31日に終る。
２　学年は、これを２期に分け、４月１日から９月20日までを前期とし、９月21日から翌年３月31日までを後期とする。
３　学長は、前項の後期開始日を変更することができる。なお、後期開始日を変更した場合は、その前日をもって前期の終了とする。
（休業日）
第９条　休業日は、次のとおりとする。
（１）　日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、本学創立記念日（11月５日）
（２）　春期休暇　３月20日から４月９日まで
（３）　夏期休暇　７月21日から９月20日まで
（４）　冬期休暇　12月21日から翌年１月９日まで
２　学長は、前項各号に規定する休業日を変更し、又は臨時休業の日を定めることができる。
第３章　教育課程
（授業科目の区別）
第10条　本大学の授業科目は、全学共通科目（共通教養科目、外国語科目）及び専門科目に分ける。ただし、工学部については、総合科目、外国語科目、専門科目及び特修プログラム、産業理工学部については、人間形成科目、リテラシー科目、専門科目とする。
２　前項のほかに、学部によっては全学共通科目の中に学部基礎科目を設けることができる。
（授業科目及び単位数）
第11条　前条に規定する授業科目及びその単位数は、別表（１）のとおりとする。
２　留学生の教育課程については、前項に定めるほか、別表（６）のとおりとする
（授業の方法）
第12条　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
２　学部教授会は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、これにより修得する単位数は60単位を超えないものとする。
（授業内容等の改善のための組織的な研修等）
第12条の２　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
（履修単位）
第13条　各学部の学生は、次に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
（１）　法学部
全学共通科目は共通教養科目16単位以上、外国語科目18単位以上の計34単位以上、専門科目は94単位以上、総計128単位以上
（２）　経済学部
全学共通科目は共通教養科目16単位以上、外国語科目20単位以上の計36単位以上、専門科目は92単位以上、総計128単位以上
（３）　経営学部
全学共通科目は共通教養科目20単位以上、外国語科目18単位以上の計38単位以上、専門科目は86単位以上、総計124単位以上
（４）　理工学部
全学共通科目は共通教養科目15単位以上、外国語科目14単位以上、学部基礎科目11単位以上、

専門科目は84単位以上、総計124単位以上

（５）　建築学部

全学共通科目は共通教養科目14単位以上、外国語科目14単位以上の計28単位以上、専門科目は96単位以上、総計124単位以上

（６）　薬学部

医療薬学科の全学共通科目は共通教養科目12単位以上、基礎ゼミ２単位、専門基礎科目６単位以上、外国語科目12単位以上、計32単位以上

創薬科学科の全学共通科目は共通教養科目10単位以上、基礎ゼミ２単位、専門基礎科目12単位以上、外国語科目14単位以上、計38単位以上

医療薬学科の専門科目は156単位以上、総計188単位以上

創薬科学科の専門科目は93.5単位以上、総計131.5単位以上

（７）　文芸学部

全学共通科目は共通教養科目20単位以上、外国語科目14単位以上、計34単位以上、専門科目は90単位以上、総計124単位以上

ただし、英語英米文学専攻は、共通教養科目20単位以上、第二外国語科目４単位以上の計24単位以上、専門科目は100単位以上、総計124単位以上

（８）　総合社会学部

全学共通科目は、共通教養科目から24単位以上、外国語科目18単位以上の計42単位以上、学部共通コア科目６単位以上、専門科目は78単位以上、総計126単位以上

（９）　国際学部

全学共通科目は、共通教養科目及び外国語科目から計26単位以上、専門科目は100単位以上、総計126単位以上

(10)　情報学部

全学共通科目は、共通教養科目14単位以上、外国語科目14単位以上、学部基礎科目12単位以上、専門科目は84単位以上、総計124単位以上

(11)　農学部

全学共通科目は共通教養科目14単位以上、専門基礎科目４単位以上、共通教養科目及び専門基礎科目から２単位以上、外国語科目14単位以上の計34単位以上、専門科目90単位以上、総計124単位以上

ただし、食品栄養学科は、専門科目100単位以上、総計124単位以上

(12)　医学部

共通教養科目から18単位以上、外国語科目から11単位以上、学部基礎科目615時間以上、専門科目は4,735時間以上

(13)　生物理工学部

共通教養科目から16単位以上、外国語科目から14単位以上（うち第一外国語10単位以上）、学部基礎科目から６単位以上、及び専門科目から88単位以上、合計124単位以上（コンソーシアム科目は４単位を上限に共通教養科目として認め、また、学際領域選択科目は10単位を上限に専門科目として認める）

(14)　工学部

総合科目は16単位以上、外国語科目８単位以上、専門科目84単位以上、総合科目、外国語科目、専門科目、特修プログラム、他大学との単位互換科目のうちから16単位以上、総計124単位以上

(15)　産業理工学部

教養・基礎教育部門の全科目群から28単位、専門科目70単位以上、さらに教養・基礎教育部門、専門科目から26単位以上、総計124単位以上

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第14条　本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学を含む。）との協議に基づき学生に当該大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

２　前項の規定により修得した単位は、教授会の定めるところにより、本大学において修得したものとみなすことができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第14条の２　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

（入学前の既修得単位等の認定）

第14条の３　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が第１学年次に入学する前に大学又は短期大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を教授会の定めるところにより入学した後の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が第１学年次に入学する前に行った前条に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。

３　第14条第２項から本条第２項の定めにより修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

（教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程）

第15条　本大学に教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程を置く。

２　教員免許状を取得しようとする者は、所定の教職に関する科目を履修しなければならない。その授業科目及び単位数は、別表（２）―１のとおりとする。

３　前項の履修により本学において取得できる免許状の種類及び教科は、別表（２）―２のとおりとする。

（司書課程）

第15条の２　本大学に司書課程を置く。

２　司書の資格を得ようとする者は、別表（３）に掲げる単位を修得しなければならない。

（博物館学課程）

第15条の３　本大学に博物館学課程を置く。

２　学芸員の資格を得ようとする者は、別表（４）に掲げる単位を修得しなければならない。

（日本語教員養成課程）

第15条の４　本大学に日本語教員養成課程を置く。

２　日本語教員の資格を得ようとする者は、別表（５）に掲げる単位を修得しなければならない。

第15条の５　削除

（通信教育）

第16条　本大学に通信教育の課程を置く。

２　通信教育課程の実施は、通信教育部がこれに当る。

３　通信教育に関する規程は、別に定める。

（留学生別科）

第16条の２　本大学に留学生別科の課程を置く。

２　留学生別科規程は、別に定める。

第４章　試験・卒業及び学位記

（試験）

第17条　履修した授業科目については、試験その他適当な方法により、学業成績を評価する。

２　試験の実施に関する事項は、教授会においてこれを定める。

（成績の評価）

第18条　学業成績は、秀・優・良・可及び不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。また、前記にかかわらず単位を認定する場合は、認定とする。

（追・再試験）

第19条　病気その他正当な理由により受験できなかった科目及び不合格になった科目については、教授会で審議のうえ、追・再試験を行うことができる。

（単位）

第20条　合格した授業科目については、所定の単位を与える。ただし、医学部の専門科目については、単位制によらず時間制を採用する。

２　授業科目の単位は、１単位を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の計算基準によるものとする。

（１）　講義及び演習については、内容に応じて15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）　実験、実習及び実技については、内容に応じて30時間から45時間までの範囲で定める時間の授業をもって１単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、内容に応じて定める時間の授業をもって１単位とする。

（３）　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業製作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

（卒業の認定）

第21条　本大学に４年以上在学し、また薬学部医療薬学科については６年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得して、卒業資格を得た者には卒業証書・学位記を授与する。

２　医学部については６年以上在学し、所定の授業科目を履修し、卒業試験及び総合試験に合格して、卒業資格を得た者に卒業証書・学位記を授与する。

３　第１項の規定にかかわらず、法学部法律学科法曹コースにおいて所定の単位を優秀な成績で修得した者については、当該学部の定めるところに従い３年以上の在学をもって卒業を認め、卒業証書・学位記を授与する。

（学士の学位）

第22条　本大学を卒業した者は、次の区分に従って学士の学位を授与する。

学士（法学）	近畿大学	法学部	（法律学科）
学士（経済学）	近畿大学	経済学部	（経済学科）
学士（経済政策学）	近畿大学	経済学部	（総合経済政策学科）
学士（国際経済学）	近畿大学	経済学部	（国際経済学科）
学士（経営学）	近畿大学	経営学部	（経営学科）
学士（商学）	近畿大学	経営学部	（商学科）
学士（会計学）	近畿大学	経営学部	（会計学科）
学士（キャリア・マネジメント学）	近畿大学	経営学部	（キャリア・マネジメント学科）
学士（理学）	近畿大学	理工学部	（理学科、生命科学科）
学士（工学）	近畿大学	理工学部	（応用化学科、機械工学科、電気電子通信工学科、社会環境工学科）
		情報学部	（情報学科）
		生物理工学部	（生物工学科、食品安全工学科、遺伝子工学科、生命情報工学科、人間環境デザイン工学科、医用工学科）
		工学部	（化学生命工学科、機械工学科、情報学科、建築学科、電子情報工学科、ロボティクス学科）
		産業理工学部	（生物環境化学科、電気電子工学科、建築・デザイン学科、情報学科）
学士（理工学）	近畿大学	理工学部	（エネルギー物質学科）
学士（建築学）	近畿大学	建築学部	（建築学科）
学士（経営ビジネス学）	近畿大学	産業理工学部	（経営ビジネス学科）
学士（薬学）	近畿大学	薬学部	（医療薬学科）
学士（薬科学）	近畿大学	薬学部	（創薬科学科）

学士（農学）	近畿大学	農学部	（農業生産科学科、水産学科、応用生命化学科、食品栄養学科、環境管理学科、生物機能科学科）
学士（文学）	近畿大学	文芸学部	（文学科、文化・歴史学科）
学士（文芸学）	近畿大学	文芸学部	（芸術学科・文化デザイン学科）
学士（総合社会学）	近畿大学	総合社会学部	（総合社会学科）
学士（国際学）	近畿大学	国際学部	（国際学科）
学士（医学）	近畿大学	医学部	（医学科）

第５章　入学・編入学・転学・外国留学・休学・退学・除籍・復学・再入学及び復籍

（入学の時期）

第23条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

（入学資格）

第24条　本大学の各学部に入学を志願することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

（１）　高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者

（２）　通常の課程による12年の学校教育を修了した者

（３）　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

（４）　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（５）　文部科学大臣の指定した者

（６）　高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

（７）　その他本大学において、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学選考）

第25条　入学を志願する者は、所定の手続と同時に別表（７）に定める入学検定料を納め、本学が行う選考により、合格した者について入学を許可する。

（入学手続）

第26条　入学を許可された者は、指定された期日までに別表（７）に定める入学金、授業料その他の学費を納入するとともに、学生規程に定める手続に従い入学手続を完了しなければならない。

（編入学）

第27条　本大学の医学部を除く各学部の第３学年次又は第２学年次において欠員がある場合、次の各号のいずれかに該当する編入学志願者について選考のうえ、編入学を許可することがある。

（１）　学士の学位を有する者

（２）　大学第２学年修了者、短期大学卒業者又は高等専門学校卒業者その他同等以上の学力を有する者

（３）　大学第１学年修了者その他同等以上の学力を有する者

（４）　高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

（５）　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であること、その他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

第27条の２　医学部に欠員がある場合は、他の大学の医学進学課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認めた者について選考のうえ、編入学を許可することがある。

第27条の３　編入学者の修業年限は、別に定める。

（転学）

第28条　本大学から他の大学に転学しようとする者は所定の手続をとらなければならない。

２　転学に関する取扱は、別に定める。

（転部・転学部・転学科）

第29条　本大学の学生で、他の部又は学部・学科・専攻に転籍を志願する者については、関係学部に

おける選考のうえ、これを許可することがある。

（外国留学）

第29条の２　本大学は、本大学の協定又は認定する外国の大学へ留学を希望する学生を、教授会並びに国際交流委員会で審議のうえ、留学させることができる。

２　前項の留学期間は、学長の承認を得て第３条に規定する修業年限に算入することができる。

３　留学に関する規定は、別に定める。

（休学）

第30条　病気その他やむを得ない理由で３ヵ月以上就学できないときは、その事実を証明する書類を添えて、保証人連署のうえ願い出て、その許可を得て休学することができる。

２　休学期間は、休学を許可された日から当該学期末又は当該年度末までとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することができる。

３　休学できる期間は、連続して２年以内、通算して修業年限以内とする。

４　休学中の期間は、在学年数に算入しない。

５　休学中は、別に定める在籍料を納入しなければならない。

（復学）

第31条　休学者が休学の理由がやんだときは、保証人連署のうえ、復学を願い出てその許可を得て復学することができる。

（退学）

第32条　退学しようとする者は、その理由を記し、保証人連署のうえ願い出なければならない。ただし、やむを得ない事情のある場合はこの限りでない。

（除籍）

第32条の２　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍とする。

（１）　第３条及び第27条の３に定める在学年数を超えた者

（２）　第30条第２項に定める休学を許可された期間を超えてなお復学又は退学しない者

（３）　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

（４）　新入生で学生証の交付手続を行わない者、その他本学において修学する意思がないと認められる者

（５）　１年間以上にわたり行方不明の者

（再入学）

第33条　正当な理由で退学した者が、再入学を願い出たときは学年の始めに限り審査のうえ、許可することがある。

（復籍）

第33条の２　学費未納による除籍者については、別に定めるところにより審査のうえ、復籍を許可することがある。

（二重在籍）

第34条　本大学の学生は、同時に他の大学に在籍することを許さない。

（強制休学）

第35条　校医が健康上の理由により修学が不適当と認めた学生に対しては､休学を命ずることがある。

（学生規程）

第36条　学生が遵守しなければならない事項は、本学則に定めるほか、別に定める学生規程による。

第６章　学費

（学費）

第37条　入学金、授業料、教育充実費等学費の額は、別表（７）のとおりである。

（学費の納付）

第38条　学費は、毎学期始め所定の期日までに納付しなければならない。ただし、事情によって別に定めるところによりこれを分納することができる。

２　学期の中途で退学した者又は除籍された者も、当該期分の学費を納入しなければならない。

（学費納入要項）

第39条　学費については、この学則に定めるほか、別に定める学費納入要項による。

第７章　賞罰

（表彰）
第40条　学力優秀、品行方正な者その他格別の功績があった者は、これを表彰する。
（懲戒）
第41条　学則、学生規程その他諸規則に違反し、本学の秩序を乱し、又は性行不良その他学生の本分にもとる行為のあった者に対しては、懲戒として情状により譴責、停学又は退学の処分を行う。
２　次の各号の一に該当する者には退学を命ずる。
（１）　性行不良で改善の見込がないと認められる者
（２）　学業を怠り成業の見込がないと認められる者
（３）　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
第42条　前２条の表彰及び懲戒は、必要に応じ賞罰委員会又は大学協議会で審議するものとする。
２　賞罰委員会に関する事項は、別に定める。

第８章　科目等履修生・委託生及び外国人留学生

（科目等履修生）
第43条　本大学の一又は複数の科目を履修し、単位の修得を希望する者があるときは、選考のうえ、科目等履修生としてこれを許可することができる。
２　科目等履修生が履修した授業科目について、試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。
（委託生）
第44条　公共団体又はその他の機関から本大学の特定授業科目について修学を委託されたときは、選考のうえ、委託生としてこれを許可する。
第45条　（削除）
（証明書）
第46条　委託生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。
２　試験に合格したときは、本人の請求によって証明を与えることができる。
（学則適用除外）
第47条　科目等履修生及び委託生には、第21条及び第22条は適用しない。
（外国人留学生）
第48条　第24条に規定する入学資格を有する者で、本大学に入学を希望する外国人留学生は、外国公館から推薦又は証明ある者に限って選考のうえ、これを許可する。
（学則の準用）
第49条　特別の規定のない限りこの学則の規定は、科目等履修生・委託生及び外国人留学生にも準用する。
（科目等履修生・委託生及び外国人留学生の別定規定）
第50条　科目等履修生・委託生及び外国人留学生については、この学則に定めるもののほか、別に定める。

第９章　教職員組織

（教職員）
第51条　本大学には、学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員を置く。
（学長等）
第51条の２　学長は、本大学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。
２　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
（職制）
第51条の３　職位、職務その他の職員に関する詳細は、学校法人近畿大学職制に規定するほか、必要に応じ別に定める。
（教授会）
第52条　本大学各学部に、教育研究に関する専門的な審議を行う機関として、教授会を置く。
２　教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。
３　学部長は、前項にかかわらず学長の承認を得て、議題の内容に応じその都度、専任教授以外の教職員を教授会の審議に加えることができる。
４　前項に基づく教授会においては、教員の選考その他人事に関する事項について審議することがで

きない。
（教授会審議事項）
第53条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了
（２）　学位の授与
（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
２　教授会は、前項に規定するもののほか、次の各号に掲げる事項並びに学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
（１）　教育課程及びその担任に関する事項
（２）　休学、退学、転学及び復学に関する事項
（３）　学生の試験に関する事項
（４）　学生の補導に関する事項
（５）　教育及び研究に関する事項
（６）　教授、准教授、講師、助教及び助手の選考に関する事項
（７）　その他教学に関する事項
（議事運営）
第54条　教授会は、学部長が招集して、その議長となる。
２　学部長に支障があるときは、予め学部長の指名した者が議長となってその職務を代行する。
第55条　教授会は、学部長が必要と認めたとき又は３分の１以上の構成員の要求があったときこれを開催する。
第56条　教授会は、構成員の半数以上の出席（委任状の提出を含む。以下同じ。）によって成立し、その議事は、出席者の過半数で決し教授会の意見とする。可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、人事その他学部長が重要と認めた事項については、構成員の３分の２以上の出席を要し、出席者の３分の２以上の同意をもって決し教授会の意見とする。
第57条　教授会の運営に関する細則は、別に定める。
第58条　学長が必要と認めたときは、全学部又は各学部の教授会を招集することができる。
（大学協議会）
第59条　本大学に大学全般の重要事項について審議するため大学協議会を置く。
（大学協議会の構成）
第60条　大学協議会は学長、各学部長、各事務部長、図書館長及び教授若干名をもって構成する。
（大学協議会審議事項）
第61条　大学協議会は、次の事項を審議する。
（１）　学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
（２）　学生の定員又は募集に関する事項
（３）　学生の表彰及び厚生補導に関する事項
（４）　学部その他の機関との連絡調整に関する事項
（５）　学長の諮問した事項
（６）　その他大学の運営に関する重要事項
（議事）
第62条　大学協議会は、学長が招集し、その議長となる。
第63条　大学協議会の運営に関する規定は、別に定める。
第10章　奨学生
（奨学生）
第64条　学力優秀、品行方正で学生の模範と認められた学生を選んで奨学生とすることがある。
２　奨学生に対しては、学費の全部又は一部を貸給与する。
３　奨学生に関する事項は、別に定める。
第11章　寄宿舎
（寄宿舎）

第65条　本大学に寄宿舎を設ける。
２　寄宿舎に関する事項は、別に定める寄宿舎規則による。

附　則

この学則は、昭和41年12月１日から施行する。

附　則（昭和49年４月１日）

この学則の改正は、昭和49年４月１日から施行する。

附　則（昭和51年４月１日）

この学則の改正は、昭和51年４月１日から施行する。

附　則（昭和55年４月１日）

この学則の改正は、昭和55年４月１日から施行する。

附　則（昭和56年４月１日）

この学則の改正は、昭和56年４月１日から施行する。

附　則（昭和61年４月１日）

この学則の改正は、昭和61年４月１日から施行する。

附　則（昭和62年４月１日）

この学則の改正は、昭和62年４月１日から施行する。

附　則（昭和63年４月１日）

この学則の改正は、昭和63年４月１日から施行する。

附　則（平成元年４月１日）

１　この学則の改正は、平成元年４月１日から施行する。
２　この学則のうち第35条は平成元年入学生から適用する。

附　則（平成２年４月１日）

１　この学則の改正は、平成２年４月１日から施行する。
２　この学則のうち別表（２）－５については、平成元年度入学生から適用する。

附　則（平成３年４月１日）

この学則の改正は、平成３年４月１日から施行する。

附　則（平成４年４月１日）

１　この学則の改正は、平成４年４月１日から施行する。
２　第２条第１項に規定する入学定員は、平成４年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名	入学定員
商経学部	
商学科	550名
経済学科	550名
経営学科	600名
理工学部	
化学科	80名
応用化学科	80名
機械工学科	140名
土木工学科	110名
電気工学科	100名
金属工学科	100名
建築学科	180名
電子工学科	100名
経営工学科	200名
文芸学部	
文学科	
英米文学専攻	80名
国文学専攻	50名

文化学科　100名
農学部
農学科　100名
水産学科　100名
農芸化学科　100名
食品栄養学科　100名
工学部
工業化学科　80名
機械工学科　100名
経営工学科　100名
建築学科　100名
九州工学部
工業化学科　90名
建築学科　90名
電気工学科　100名
産業デザイン学科　70名
経営工学科　100名
第２部（夜間）
商経学部
商学科　150名
経済学科　150名
経営学科　150名
理工学部
機械工学科　60名

附　則（平成５年４月１日）

１　この学則の改正は、平成５年４月１日から施行する。

２　第２条第１項に規定する入学定員は、平成５年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名	入学定員
理工学部	
機械工学科	120名
電気工学科	90名
電子工学科	90名

附　則（平成６年４月１日）

この学則の改正は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成７年４月１日）

この学則の改正は、平成７年４月１日から施行する。

附　則（平成８年４月１日）

この学則の改正は、平成８年４月１日から施行する。

附　則（平成９年４月１日）

１　この学則の改正は、平成９年４月１日から施行する。

ただし、文芸学部文学科日本文学専攻の名称は、平成９年度当該専攻卒業生から適用する。

２　第２条第１項に規定する入学定員は、平成９年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名	入学定員
文芸学部	
文学科	
英米文学専攻	60名
日本文学専攻	70名

附　則（平成10年４月１日）

（施行期日）

１　この学則の改正は、平成10年４月１日から施行する。

２　工学部経営工学科の経営システム工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は平成10年４月１日から施行し、工学部経営システム工学科の名称は、平成10年度当該学科卒業生から適用する。

ただし、第12条別表（２）―９については平成10年度入学生から適用する。

３　農学部食品栄養学科食品科学専攻、管理栄養士専攻設置に伴う第２条、第12条別表（２）―６及び第13条の改正は、平成10年度入学生から適用する。

４　第２条第１項に規定する入学定員は、平成10年度から平成11年度までの間は次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名	入学定員
農学部	
食品栄養学科	
食品科学専攻	70名
工学部	
経営システム工学科	100名

附　則（平成11年４月１日）

１　この学則の改正は、平成11年４月１日から施行する。

２　工学部工業化学科の化学環境工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成11年４月１日から施行し、工学部化学環境工学科の名称は、施行日現在当該学科に在籍する者全員について適用する。

３　九州工学部電気工学科の電気情報工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成11年度第１年次入学生から適用する。

（経過措置）

４　九州工学部電気工学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成11年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

５　第２条に規定する入学定員は、平成11年度は次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名	入学定員
工学部	
化学環境工学科	80名
九州工学部	
電気情報工学科	100名

附　則（平成12年４月１日）

１　この学則の改正は、平成12年４月１日から施行する。

２　九州工学部工業化学科の生物環境化学科への名称変更及び九州工学部経営工学科の経営情報学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成12年４月１日から施行し、九州工学部生物環境化学科及び経営情報学科の名称は、施行日現在に当該学科に在籍する者全員に適用する。

３　第２条の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科	入学定員					備考
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						
商学科	515	490	465	440	415	
経済学科	515	490	465	440	415	
経営学科	555	530	505	480	455	
理工学部						
化学科	79	78	77	76	75	

応用化学科	79	78	77	76	75	
機械工学科	120	120	120	120	120	
土木工学科	107	104	101	98	90	
電気工学科	88	86	84	82	80	
金属工学科	89	83	77	71	70	
建築学科	178	176	174	172	170	
電子工学科	88	86	84	82	80	
経営工学科	187	179	171	163	155	
文芸学部						
文学科						
英米文学専攻	68	66	64	62	60	
日本文学専攻	89	88	87	86	85	
文化学科	108	106	104	102	100	
農学部						
農学科	112	109	106	103	100	
水産学科	102	99	96	93	90	
農芸化学科	112	109	106	103	100	
食品栄養学科						
食品科学専攻	82	79	76	73	70	
工学部						
化学環境工学科	77	74	71	68	65	
機械工学科	82	79	76	73	70	
経営システム工学科	87	84	81	78	75	
建築学科	92	89	86	83	80	
九州工学部						
生物環境化学科	86	82	78	74	70	
建築学科	90	90	90	90	90	
電気情報工学科	98	96	94	92	90	
産業デザイン学科	69	68	67	66	65	
経営情報学科	98	96	94	92	90	

第２部（夜間）

学部・学科	入学定員					備考
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						
商学科	148	141	134	127	120	
経済学科	148	141	134	127	120	
経営学科	148	141	134	127	120	
理工学部						
機械工学科	58	56	54	52	50	

附　則（平成13年４月１日）

１　この学則の改正は、平成13年４月１日から施行する。

２　法学部２部、商経学部２部、理工学部２部は平成13年度入学生から学生募集停止とし、法学部１部、商経学部１部、理工学部１部の法学部、商経学部、理工学部への名称変更に伴う第２条の改正は、平成13年４月１日から施行する。

（経過措置）

３　法学部２部、商経学部２部、理工学部２部は、改正後の第２条の規定にかかわらず、平成13年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

４　第２条の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科		入学定員				備考
		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						
商学科	昼間主コース	490	465	440	415	
	夜間主コース	141	134	127	120	
経済学科	昼間主コース	490	465	440	415	
	夜間主コース	141	134	127	120	
経営学科	昼間主コース	530	505	480	455	
	夜間主コース	141	134	127	120	
理工学部						
化学科		78	77	76	75	
応用化学科		78	77	76	75	
機械工学科	昼間主コース	120	120	120	120	
	夜間主コース	56	54	52	50	
土木工学科		104	101	98	90	
電気工学科	昼間主コース	86	84	82	80	
金属工学科		83	77	71	70	
建築学科		176	174	172	170	
電子工学科		86	84	82	80	
経営工学科		179	171	163	155	
文芸学部						
文学科						
英米文学専攻		96	94	92	90	
日本文学専攻		108	107	106	105	
文化学科		136	134	132	130	
農学部						
農学科		109	106	103	100	
水産学科		99	96	93	90	
農芸化学科		109	106	103	100	
食品栄養学科						
食品科学専攻		64	61	58	55	
工学部						
化学環境工学科		74	71	68	65	
機械工学科		79	76	73	70	
経営システム工学科		84	81	78	75	
建築学科		89	86	83	80	
九州工学部						
生物環境化学科		82	78	74	70	
建築学科		90	90	90	90	
電気情報工学		96	94	92	90	

科					
産業デザイン	68	67	66	65	
学科					
経営情報学科	96	94	92	90	

附　則（平成14年４月１日）

１　この学則の改正は、平成14年４月１日から施行する。

２　理工学部数学物理学科、化学科、応用化学科、機械工学科昼間主コース、機械工学科夜間主コース、土木工学科、電気工学科昼間主コース、電気工学科夜間主コース、原子炉工学科、金属工学科、建築学科、電子工学科及び経営工学科は、平成14年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

３　理工学部数学物理学科、化学科、応用化学科、機械工学科昼間主コース、機械工学科夜間主コース、土木工学科、電気工学科昼間主コース、電気工学科夜間主コース、原子炉工学科、金属工学科、建築学科、電子工学科及び経営工学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成14年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

（経過措置）

４　工学部経営システム工学科及び機械システム工学科の情報システム工学科及びシステムデザイン工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成14年４月１日から施行し、経営システム工学科及び機械システム工学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成14年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

５　第２条の規定にかかわらず、平成14年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科		入学定員			備考
		平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部					
商学科	昼間主コース	455	430	405	
	夜間主コース	134	127	120	
経済学科	昼間主コース	455	430	405	
	夜間主コース	134	127	120	
経営学科	昼間主コース	495	470	445	
	夜間主コース	134	127	120	
理工学部					
理学科		132	131	130	平成14年度学科改組
応用化学科		112	111	110	
機械工学科	昼間主コース	157	151	150	
	夜間主コース	39	37	35	
電気電子工学科	昼間主コース	168	164	160	
社会環境工学科		111	108	100	
建築学科		174	172	170	
情報学科		181	173	165	
文芸学部					
文学科					
英米文学専攻		94	92	90	
日本文学専攻		107	106	105	
文化学科		134	132	130	
農学部					
農学科		106	103	100	
水産学科		96	93	90	
農芸化学科		106	103	100	

食品栄養学科				
食品科学専攻	61	58	55	
工学部				
化学環境工学科	71	68	65	
機械工学科	76	73	70	
情報システム工学科	81	78	75	
建築学科	86	83	80	
九州工学部				
生物環境化学科	78	74	70	
建築学科	90	90	90	
電気情報工学科	94	92	90	
産業デザイン学科	67	66	65	
経営情報学科	94	92	90	

附　則（平成14年10月１日）

この学則の改正は、平成14年10月１日から施行する。

附　則（平成15年４月１日）

１　この学則の改正は、平成15年４月１日から施行する。

２　商経学部商学科昼間主コース、商学科夜間主コース、経済学科昼間主コース、経済学科夜間主コース、経営学科昼間主コース及び経営学科夜間主コースは、平成15年度４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

３　商経学部商学科昼間主コース、商学科夜間主コース、経済学科昼間主コース、経済学科夜間主コース、経営学科昼間主コース及び経営学科夜間主コースは、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成15年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

４　生物理工学部機械制御工学科、基礎機械工学科、工学部化学環境工学科及び文芸学部文学科英米文学専攻は、平成15年４月１日から学生募集停止する。

（経過措置）

５　生物理工学部機械制御工学科、基礎機械工学科、工学部化学環境工学科及び文芸学部文学科英米文学専攻は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成15年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

６　第２条の規定にかかわらず、平成15年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科		入学定員		備考
		平成15年度	平成16年度	
経済学部				
経済学科		525	500	平成15年度学部改組
経営学部				
経営学科	昼間主コース	375	350	
	夜間主コース	187	180	
商学科	昼間主コース	375	350	
	夜間主コース	194	180	
理工学部				
理学科		131	130	
応用化学科		111	110	
機械工学科	昼間主コース	151	150	
	夜間主コース	37	35	
電気電子工学科	昼間主コース	164	160	

社会環境工学科	108	100	
建築学科	172	170	
情報学科　昼間主コース	173	165	
文芸学部			
文学科			
英語英米文学専攻	92	90	
日本文学専攻	106	105	
文化学科	132	130	
農学部			
農学科	103	100	
水産学科	93	90	
農芸化学科	103	100	
食品栄養学科			
食品科学専攻	58	55	
工学部			
生物化学工学科	68	65	
機械工学科	73	70	
情報システム工学科	78	75	
建築学科	83	80	
九州工学部			
生物環境化学科	74	70	
建築学科	90	90	
電気情報工学科	92	90	
産業デザイン学科	66	65	
経営情報学科	92	90	

7　生物理工学部学部基礎科目の「初級シミュレーション技術論」は、平成14年度入学生から適用する。

附　則（平成16年４月１日）

1　この学則の改正は、平成16年４月１日から施行する。なお、第15条の５（秘書課程）については平成15年度入学生から適用する。

2　九州工学部の産業理工学部への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成16年４月１日から施行し、産業理工学部の名称は、施行日現在に当該学部に在籍する者全員に適用する。

3　法学部経営法学科の政策法学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成16年４月１日から施行し、法学部経営法学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成16年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

4　九州工学部生物環境化学科、建築学科、電気情報学科、産業デザイン学科、経営情報学科は平成16年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

5　九州工学部生物環境化学科、建築学科、電気情報学科、産業デザイン学科、経営情報学科は改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成16年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

6　理工学部機械工学科夜間主コース、電気電子工学科夜間主コース及び情報学科夜間主コースは平成16年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

7　理工学部機械工学科夜間主コース、電気電子工学科夜間主コース及び情報学科夜間主コースは、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成16年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

8　文芸学部芸術学科造形美術専攻は、平成16年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）
9　文芸学部芸術学科造形美術専攻は、改正後の第２条の規定にかかわらず、平成16年３月31日現在に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成17年４月１日）

1　この学則の改正は、平成17年４月１日から施行する。
2　農学部農学科、農芸化学科、国際資源管理学科は平成17年４月１日から学生募集停止する。
（経過措置）
3　農学部農学科、農芸化学科、国際資源管理学科は改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成17年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
4　第２条の規定のうち、農学部食品栄養学科については、１学年２学級とする。

附　則（平成18年１月１日）

この学則の改正は平成18年１月１日から施行する。

附　則（平成18年４月１日）

1　この学則の改正は、平成18年４月１日から施行する。
2　薬学部薬学科、工学部システムデザイン工学科は平成18年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
3　薬学部薬学科、工学部システムデザイン工学科は改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成18年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
4　文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻は、平成18年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
5　文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻は改正後の第２条の規定にかかわらず、平成18年３月31日現在に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成19年４月１日）

この学則の改正は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成20年４月１日）

1　この学則の改正は、平成20年４月１日から施行する。
2　産業理工学部経営コミュニケーション学科は、平成20年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
3　産業理工学部経営コミュニケーション学科は改正後の学則第２条及び第22条の規定にかかわらず平成20年３月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間存続するものとする。
4　法学部法律学科夜間コース並びに政策法学科夜間主コースは、平成20年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
5　法学部法律学科夜間主コース並びに政策法学科夜間主コースは、改正後の学則第２条及び第22条の規定にかかわらず平成20年３月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
6　文芸学部文学科英語英米文学専攻は、平成20年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
7　文芸学部文学科英語英米文学専攻は、改正後の学則第２条及び第22条の規定にかかわらず平成20年３月31日に、当該専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成21年４月１日）

この学則の改正は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成22年４月１日）

1　この学則の改正は、平成22年４月１日から施行する。
2　生物理工学部電子システム情報工学科、知能システム工学科、生体機械工学科は、平成22年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
3　生物理工学部電子システム情報工学科、知能システム工学科、生体機械工学科は改正後の第２条

及び第22条の規定にかかわらず平成22年３月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間存続するものとする。

附　則（平成22年６月１日）

この学則の改正は、平成22年６月１日から施行する。

附　則（平成23年４月１日）

１　この学則の改正は、平成23年４月１日から施行する。

２　理工学部建築学科は、平成23年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

３　理工学部建築学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成23年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成24年４月１日）

改正

平成31年４月１日

１　この学則の改正は、平成24年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　文芸学部文化学科、英語多文化コミュニケーション学科は、改正後の第２条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成24年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成24年10月１日）

この学則の改正は、平成24年10月１日から施行する。

附　則（平成25年４月１日）

１　この学則の改正は、平成25年４月１日から施行する。

２　この学則のうち別表（１）―６については、平成24年度入学生から適用する。

３　次の科目は薬学部創薬科学科の平成23年度入学生に適用する。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【自由選択科目】			
臨床検査学			1.5
疾患と薬物治療法１			1.5
生体成分分析実習			1
放射化学			1.5
疾患と薬物治療法２			1.5
病態検査学			1.5
臨床検査学総論１			2
臨床生理学			1.5
臨床検査学総論実習			3
臨床化学実習			5
臨床検査学総論２			2
臨床生理学実習			6

（経過措置）

４　工学部生物化学工学科、情報システム工学科、知能機械工学科は、改正後の第２条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成25年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成25年８月１日）

この学則の改正は、平成25年８月１日から施行する。

附　則（平成26年４月１日）

１　この学則の改正は、平成26年４月１日から施行する。

（経過措置）

2　第18条の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の成績の評価は、次のとおりとする。
（1）　学業成績は、優・良・可及び不可に分け、優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。また、前記にかかわらず単位を認定する場合は、認定とする。

附　則（平成27年４月１日）

この学則の改正は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（平成28年４月１日）

1　この学則の改正は、平成28年４月１日から施行する。
（経過措置）
2　法学部政策法学科、文芸学部文学科外国語外国文学専攻、文芸学部英語コミュニケーション学科、産業理工学部電気通信工学科は、改正後の第２条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成28年３月31日現在に当該学科又は専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成29年４月１日）

1　この学則の改正は、平成29年４月１日から施行する。
（経過措置）
2　生物理工学部システム生命科学科、人間工学科は、改正後の学則第２条、第22条の規定にかかわらず、平成29年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成29年６月１日）

この学則の改正は、平成29年６月１日から施行する。

附　則（平成30年４月１日）

この学則の改正は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成30年６月１日）

この学則の改正は、平成30年６月１日から施行する。

附　則（平成31年４月１日）

1　この学則の改正は、平成31年４月１日から施行する。
（経過措置）
2　農学部バイオサイエンス学科は、改正後の学則第２条、第22条の規定にかかわらず、平成31年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
3　秘書課程の適用は、改正後の学則第15条の５の規定にかかわらず、平成31年３月31日現在に在籍する者に対しては、平成34年３月31日までの間、なお従前のとおりとする。

附　則（令和２年４月１日）

1　この学則の改正は、令和２年４月１日から施行する。
2　別表（７）の改正は、令和２年度以降の入学生を対象とする。
3　改正後の第２条の規定にかかわらず、令和２年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
入学定員	107	107	95	95
収容定員	682	674	654	634

年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	95	95	95
収容定員	614	594	582

附　則（令和２年６月１日）

この学則の改正は、令和２年６月１日から施行する。

附　則（令和３年４月１日）

1　この学則の改正は、令和３年４月１日から施行する。
2　第２条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	679	659	639	619

年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	95	95
収容定員	599	587

附　則（令和４年４月１日）

１　この学則の改正は、令和４年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　理工学部電気電子工学科及び理工学部情報学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、令和４年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表（１）―１

法学部授業科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
（共通教養科目）		
（人間性・社会性科目群）		
人権と社会１		2
人権と社会２		2
現代社会と倫理		2
心理と行動		2
現代の社会論		2
芸術鑑賞入門		2
哲学と人間・社会		2
住みよい社会と福祉		2
現代経済の課題		2
マスメディアの基本構造		2
自校学習		1
教養特殊講義Ａ		2
（地域性・国際性科目群）		
地域と環境の地理学		2
国際化と異文化理解		2
日本近現代史		2
世界近現代史		2
教養特殊講義Ｂ		2
（課題設定・問題解決科目群）		
基礎ゼミ	2	
日本語の技法		2
生命の科学		2
環境科学		2
思考の技術		2
基礎数学		2
科学技術の発展と現代社会		2
情報処理実習	2	
キャリア・デザイン１		2
キャリア・デザインＭａｔｈ１		2

キャリア・デザインＭａｔｈ２		2
教養特殊講義Ｃ		2
（スポーツ・表現活動科目群）		
生涯スポーツ１		1
生涯スポーツ２		1
（専門基礎科目群）		
法学入門		2
（第一外国語科目）		
（基幹科目）		
英語１Ａ	2	
英語１Ｂ	2	
英語２Ａ	1	
英語２Ｂ		1
ベーシック・ライティングＡ	1	
ベーシック・ライティングＢ		1
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ１Ａ	1	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ１Ｂ	1	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ２Ａ	1	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ２Ｂ		1
（発展科目）		
英語３Ａ	1	
英語３Ｂ	1	
アカデミック・ライティングＡ		1
アカデミック・ライティングＢ		1
ＴＯＥＩＣ　Ａ		1
ＴＯＥＩＣ　Ｂ		1
専門英語Ａ		1
専門英語Ｂ		1
Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ａ		1
Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｂ		1
海外語学研修（英語）		2
（ＬＰＣ留学プログラム科目）		
留学セミナー		1
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅰ		2
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅱ		2
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅲ		2
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅳ		2
（第二外国語科目）		
（基幹科目）		
ドイツ語総合１		1
ドイツ語総合２		1
ドイツ語総合３		1
ドイツ語総合４		1
フランス語総合１		1
フランス語総合２		1
フランス語総合３		1

フランス語総合４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
韓国語総合１		1	
韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
スペイン語総合１		1	
スペイン語総合２		1	
スペイン語総合３		1	
スペイン語総合４		1	
イタリア語総合１		1	
イタリア語総合２		1	
イタリア語総合３		1	
イタリア語総合４		1	
（発展科目）			
ドイツ語コミュニケーション１		1	
ドイツ語コミュニケーション２		1	
ドイツ語コミュニケーション３		1	
ドイツ語コミュニケーション４		1	
ドイツ語カルチャーセミナーＡ		1	
ドイツ語カルチャーセミナーＢ		1	
フランス語コミュニケーション１		1	
フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
フランス語カルチャーセミナーＡ		1	
フランス語カルチャーセミナーＢ		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	
中国語カルチャーセミナーＡ		1	
中国語カルチャーセミナーＢ		1	
海外語学研修（中国語）		1	
韓国語コミュニケーション１		1	
韓国語コミュニケーション２		1	
韓国語コミュニケーション３		1	
韓国語コミュニケーション４		1	
韓国語カルチャーセミナーＡ		1	
韓国語カルチャーセミナーＢ		1	
海外語学研修（韓国語）		1	
スペイン語コミュニケーション１		1	
スペイン語コミュニケーション２		1	

イタリア語コミュニケーション１		1
イタリア語コミュニケーション２		1

＜履修方法＞

共通教養科目から必修科目を含み16単位以上、外国語科目から英語（必修科目を含む）14単位を含み18単位以上、合計34単位以上取得すること。

共通教養科目は「人間性・社会性科目群」「スポーツ・表現活動科目群」「専門基礎科目群」から４単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「課題設定・問題解決科目群」から４単位以上を取得すること。

法律学科　法曹コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）	2		
憲法Ｂ（人権）	2		
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法Ａ（行政作用法）	2		
行政法Ｂ（行政救済法）	2		
刑事法入門		2	
刑法Ａ（総論）	2		
刑法Ｂ（各論）	2		
刑事訴訟法	2		
民法（総則）	2		
民法（契約）	2		
民法（物権）	2		
民法（債権総論）	2		
民法（親族）	2		
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）	2		
会社法Ｂ（株式・資金調達）	2		
民事訴訟法Ａ	2		
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	
２　展開科目			
（コース科目）			
法哲学Ａ（法哲学総論）		2	
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2	
法社会学Ａ		2	
法社会学Ｂ		2	
日本法制史Ａ		2	
日本法制史Ｂ		2	

西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
憲法事例研究Ａ		2		
憲法事例研究Ｂ		2		
民法（相続）	2			
民法（不法行為）	2			
民法（担保）	2			
犯罪学		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ	2			
刑法特論Ｂ	2			
刑事法特論		2		
刑事訴訟法特論	2			
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）	2			
支払決済法		2		
経済法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
民事訴訟法Ｂ	2			
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
数的処理Ａ		2		
数的処理Ｂ		2		
コース演習（憲法）		2		
コース演習（行政法）		2		
コース演習（民法Ａ）		2		
コース演習（民法Ｂ）		2		
コース演習（刑法）		2		
コース演習（刑事訴訟法）		2		
コース演習（商事法Ａ）		2		
コース演習（商事法Ｂ）		2		
コース演習（法学Ａ）		2		
コース演習（法学Ｂ）		2		
コース演習（基礎Ａ）		2		
コース演習（基礎Ｂ）		2		
コース演習（発展Ａ）	2			
コース演習（発展Ｂ）	2			
コース演習（民事訴訟法）		2		
コース演習（異文化理解Ａ）		2		
コース演習（異文化理解Ｂ）		2		

３　その他の専門科目				
（演習科目）				
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
（自由選択科目）				
政治過程論		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
裁判法		2		
国際法Ａ（総論）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
保険法		2		
海商法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		

初級簿記		2	
中級簿記		2	
消費者法		2	
国際人権法		2	
国際環境法		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
金融商品と法		2	
信託法		2	
会計学		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。

③上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「３　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　行政コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法Ａ（行政作用法）		2	
行政法Ｂ（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法Ａ（総論）		2	
刑法Ｂ（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	

政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（コース科目）				
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
政策法務演習		4		
数的処理Ａ		2		
数的処理Ｂ		2		
コース演習（憲法）		2		
コース演習（行政法）		2		
コース演習（民法Ａ）		2		
コース演習（民法Ｂ）		2		
コース演習（社会法Ａ）		2		
コース演習（社会法Ｂ）		2		

コース演習（政治学Ａ）		2		
コース演習（政治学Ｂ）		2		
コース演習（行政学Ａ）		2		
コース演習（行政学Ｂ）		2		
コース演習（異文化理解Ａ）		2		
コース演習（異文化理解Ｂ）		2		
３　その他の専門科目				
（演習科目）				
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
（自由選択科目）				
政治過程論		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際組織法		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
裁判法		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ		2		
刑法特論Ｂ		2		
刑事法特論		2		
刑事訴訟法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		

会社法Ｃ（計算・組織再編）		2	
支払決済法		2	
保険法		2	
海商法		2	
経済法		2	
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2	
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2	
信託法		2	
金融商品と法		2	
民事訴訟法Ｂ		2	
民事執行・保全法		2	
破産法		2	
消費者法		2	
不動産登記法		2	
借地借家法		2	
民事再生・会社更生法		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
国際法Ａ（総論）		2	
国際法Ｂ（各論）		2	
国際法Ｃ（紛争解決）		2	
国際私法Ａ（家族法関係）		2	
国際私法Ｂ（財産法関係）		2	
国際人権法		2	
国際環境法		2	
国際取引法		2	
国際経済法		2	
ジェンダー法Ａ		2	
ジェンダー法Ｂ		2	
初級簿記		2	
中級簿記		2	
会計学		2	
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。

③上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「３　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　国際コース

授業科目	単位数

	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法Ａ（行政作用法）		2	
行政法Ｂ（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法Ａ（総論）		2	
刑法Ｂ（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	
２　展開科目			
（コース科目）			
西洋法制史Ａ		2	
西洋法制史Ｂ		2	
ＮＰＯ論Ａ		2	
ＮＰＯ論Ｂ		2	
民法（不法行為）		2	
国際法Ａ（総論）		2	
国際法Ｂ（各論）		2	
国際法Ｃ（紛争解決）		2	
国際組織法		2	
国際人権法		2	
国際環境法		2	
国際経済法		2	
国際私法Ａ（家族法関係）		2	
国際私法Ｂ（財産法関係）		2	
国際取引法		2	

国際政治学Ｂ		2		
国際政治史		2		
日本外交史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
海商法		2		
保険法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
海外法事情演習		2		
国際経済学Ⅰ		2		
国際経済学Ⅱ		2		
開発経済学Ⅰ		2		
開発経済学Ⅱ		2		
国際協力論		2		
数的処理Ａ		2		
数的処理Ｂ		2		
コース演習（外国法Ａ）		2		
コース演習（外国法Ｂ）		2		
コース演習（国際政治学Ａ）		2		
コース演習（国際政治学Ｂ）		2		
コース演習（国際関係法Ａ）		2		
コース演習（国際関係法Ｂ）		2		
コース演習（言語と文化Ａ）		2		
コース演習（言語と文化Ｂ）		2		
コース演習（異文化理解Ａ）		2		
コース演習（異文化理解Ｂ）		2		
国際教育演習Ａ		2		
国際教育演習Ｂ		2		
３　その他の専門科目				
（演習科目）				
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
法情報処理演習		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		

（自由選択科目）			
人権法Ａ		2	
人権法Ｂ		2	
日本法制史Ａ		2	
日本法制史Ｂ		2	
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2	
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2	
経済原論Ａ		2	
経済原論Ｂ		2	
政治史Ａ		2	
政治史Ｂ		2	
裁判法		2	
法哲学Ａ（法哲学総論）		2	
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2	
法社会学Ａ		2	
法社会学Ｂ		2	
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2	
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2	
支払決済法		2	
経済法		2	
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
破産法		2	
民事訴訟法Ｂ		2	
民事執行・保全法		2	
民法（相続）		2	
消費者法		2	
信託法		2	
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2	
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。

③上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「３　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（犯罪・非行と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	

憲法Ｃ（憲法理論）		2		
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2		
行政法入門		2		
行政法Ａ（行政作用法）		2		
行政法Ｂ（行政救済法）		2		
刑事法入門		2		
刑法Ａ（総論）		2		
刑法Ｂ（各論）		2		
刑事訴訟法		2		
民法（総則）		2		
民法（契約）		2		
民法（物権）		2		
民法（債権総論）		2		
民法（親族）		2		
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2		
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2		
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2		
民事訴訟法Ａ		2		
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（専攻プログラム科目）				
裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ		2		
刑法特論Ｂ		2		

刑事法特論		2		
刑事訴訟法特論		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
社会心理学Ａ		2		
社会心理学Ｂ		2		
発達臨床心理学		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
３　展開科目 （専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		

中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
法学の基礎		2		
特別講義Ａ		2		
特別講義Ｂ		2		
民事法特別講義Ⅰ		2		
民事法特別講義Ⅱ		2		
４　その他の専門科目				
（演習科目）				
一般演習Ａ		2		
一般演習Ｂ		2		
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
政策法務演習		4		
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		
外国法政演習Ａ		2		

外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（経済生活と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法Ａ（行政作用法）		2	
行政法Ｂ（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法Ａ（総論）		2	
刑法Ｂ（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	
２　展開科目			
（専攻プログラム科目）			

裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
３　展開科目 （専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		

犯罪学		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ		2		
刑法特論Ｂ		2		
刑事法特論		2		
刑事訴訟法特論		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		

財政学Ｂ		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	
４　その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習Ａ		2	
一般演習Ｂ		2	
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（会計・税務と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法Ａ（行政作用法）		2	
行政法Ｂ（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法Ａ（総論）		2	
刑法Ｂ（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	

民法（物権）		2		
民法（債権総論）		2		
民法（親族）		2		
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2		
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2		
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2		
民事訴訟法Ａ		2		
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（専攻プログラム科目）				
裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
信託法		2		
金融商品と法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		

経営学Ｂ		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
３　展開科目				
（専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ		2		
刑法特論Ｂ		2		
刑事法特論		2		
刑事訴訟法特論		2		
経済法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保険法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保険法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		

不動産鑑定		2	
地方自治法		2	
地方自治論Ａ		2	
地方自治論Ｂ		2	
都市計画論Ａ		2	
都市計画論Ｂ		2	
ＮＰＯ論Ａ		2	
ＮＰＯ論Ｂ		2	
ジェンダー法Ａ		2	
ジェンダー法Ｂ		2	
国際法Ｃ（紛争解決）		2	
経済政策Ａ		2	
経済政策Ｂ		2	
社会政策Ａ		2	
社会政策Ｂ		2	
財政学Ａ		2	
財政学Ｂ		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	
４　その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習Ａ		2	
一般演習Ｂ		2	
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（まちづくりと法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法Ａ（行政作用法）		2	
行政法Ｂ（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法Ａ（総論）		2	
刑法Ｂ（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	
２　展開科目			
（専攻プログラム科目）			
裁判法		2	
人権法Ａ		2	
人権法Ｂ		2	
国際人権法		2	
法哲学Ａ（法哲学総論）		2	
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2	
法社会学Ａ		2	
法社会学Ｂ		2	
日本法制史Ａ		2	
日本法制史Ｂ		2	
西洋法制史Ａ		2	
西洋法制史Ｂ		2	
民法（相続）		2	
民法（不法行為）		2	

民法（担保）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
地方自治法		2		
国際環境法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
３　展開科目 （専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
犯罪学		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際組織法		2		
国際政治学Ｂ		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ		2		
刑法特論Ｂ		2		
刑事法特論		2		

刑事訴訟法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事再生・会社更生法		2		
破産法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
法学の基礎		2		
特別講義Ａ		2		
特別講義Ｂ		2		
民事法特別講義Ⅰ		2		
民事法特別講義Ⅱ		2		
４　その他の専門科目				
（演習科目）				
一般演習Ａ		2		
一般演習Ｂ		2		
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
政策法務演習		4		
法情報処理演習		2		

海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　教育副専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法入門		2	
行政法Ａ（行政作用法）		2	
行政法Ｂ（行政救済法）		2	
刑事法入門		2	
刑法Ａ（総論）		2	
刑法Ｂ（各論）		2	
刑事訴訟法		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	

２　展開科目				
（教育副専攻科目）				
裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
国際教育演習Ａ		2		
国際教育演習Ｂ		2		
コース演習（言語と文化Ａ）		2		
コース演習（言語と文化Ｂ）		2		
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
自然地理学概論Ⅰ		2		
自然地理学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
英語学概論Ⅰ		2		
英語学概論Ⅱ		2		
学校英文法Ａ		1		
学校英文法Ｂ		1		
英語音声学Ａ		1		

英語音声学Ｂ		1		
英文法演習Ａ		1		
英文法演習Ｂ		1		
英語文学概論Ⅰ		2		
英語文学概論Ⅱ		2		
英語文学講読Ａ		1		
英語文学講読Ｂ		1		
実践英語会話Ａ		1		
実践英語会話Ｂ		1		
表現英作文Ａ		1		
表現英作文Ｂ		1		
英語実習（ＬＬ）Ａ		1		
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1		
英語文化概論Ⅰ		2		
英語文化概論Ⅱ		2		
３　展開科目				
（教育副専攻科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ		2		
刑法特論Ｂ		2		
刑事法特論		2		
刑事訴訟法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		

国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保険法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保険法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
法学の基礎		2		
特別講義Ａ		2		
特別講義Ｂ		2		
民事法特別講義Ⅰ		2		
民事法特別講義Ⅱ		2		

４　その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習Ａ		２	
一般演習Ｂ		２	
専門演習Ⅰ	４		
専門演習Ⅱ	４		
政策法務演習		４	
法情報処理演習		２	
海外法事情演習		２	
外国法政演習Ａ		２	
外国法政演習Ｂ		２	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		２	
インターンシップＡ		２	
インターンシップＢ		２	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（教育副専攻科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（教育副専攻科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（教育副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（教育副専攻科目）」・上記「３　展開科目（教育副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　スポーツ副専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		２	
憲法Ｂ（人権）		２	
憲法Ｃ（憲法理論）		２	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		２	
行政法入門		２	
行政法Ａ（行政作用法）		２	
行政法Ｂ（行政救済法）		２	
刑事法入門		２	
刑法Ａ（総論）		２	
刑法Ｂ（各論）		２	
刑事訴訟法		２	
民法（総則）		２	
民法（契約）		２	
民法（物権）		２	
民法（債権総論）		２	
民法（親族）		２	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		２	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		２	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		２	

民事訴訟法Ａ		2		
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（スポーツ副専攻科目）				
裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
エージェント理論		2		
トップ・アスリート論		2		
コミュニケーション・イングリッシュ・ＳＰＯＲＴＳⅠ		2		
コミュニケーション・イングリッシュ・ＳＰＯＲＴＳⅡ		2		
パフォーマンスと栄養学		2		
人材育成とリーダーシップ		2		
スポーツと知的財産		2		
イベント［競技会］運営論		2		
キャリア形成と自己分析		2		
スポーツと法Ⅰ		2		
スポーツと法Ⅱ		2		
メディアと法		2		
法学実用英語Ａ		2		
法学実用英語Ｂ		2		
社会の中の数学		2		

教育とスポーツ		2		
囲碁から学ぶスポーツ戦略		2		
３　展開科目 （スポーツ副専攻科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑法特論Ａ		2		
刑法特論Ｂ		2		
刑事法特論		2		
刑事訴訟法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		

環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
法学の基礎		2		
特別講義Ａ		2		
特別講義Ｂ		2		
民事法特別講義Ⅰ		2		
民事法特別講義Ⅱ		2		
４　その他の専門科目				
（演習科目）				
一般演習Ａ		2		
一般演習Ｂ		2		
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
政策法務演習		4		
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		

インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（スポーツ副専攻科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（スポーツ副専攻科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（スポーツ副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（スポーツ副専攻科目）」・上記「３　展開科目（スポーツ副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定に基づき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）８単位までその他の専門科目に加算することができる。

法学部	
教職課程　教科に関する科目（１）	単位数
暮らしのなかの憲法	2
教職課程　教科に関する科目（２）	単位数
日本史概論Ⅰ	2
日本史概論Ⅱ	2
外国史概論Ⅰ	2
外国史概論Ⅱ	2
地理学概論Ⅰ	2
地理学概論Ⅱ	2
地誌学概論Ⅰ	2
地誌学概論Ⅱ	2
自然地理学概論Ⅰ	2
自然地理学概論Ⅱ	2
哲学概論Ⅰ	2
哲学概論Ⅱ	2
倫理学概論Ⅰ	2
倫理学概論Ⅱ	2
英語学概論Ⅰ	2
英語学概論Ⅱ	2
学校英文法Ａ	1
学校英文法Ｂ	1
英語音声学Ａ	1
英語音声学Ｂ	1
英文法演習Ａ	1
英文法演習Ｂ	1
英語文学概論Ⅰ	2
英語文学概論Ⅱ	2
英語文学講読Ａ	1
英語文学講読Ｂ	1
実践英語会話Ａ	1
実践英語会話Ｂ	1

表現英作文Ａ	1
表現英作文Ｂ	1
英語実習（ＬＬ）Ａ	1
英語実習（ＬＬ）Ｂ	1
英語文化概論Ⅰ	2
英語文化概論Ⅱ	2

別表（１）―２

経済学部授業科目表

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】（全学科共通）			
（人間性・社会性科目群）			
人権と社会　１		2	
人権と社会　２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
現代の社会論		2	
芸術鑑賞入門		2	
哲学と人間・社会		2	
現代社会と法		2	
現代社会と政治		2	
現代社会と人間		2	
自校学習		1	
教養特殊講義Ａ		2	
（地域性・国際性科目群）			
地域と環境の地理学		2	
国際化と異文化理解		2	
日本近現代史		2	
世界近現代史		2	
現代世界と民族・宗教		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
（課題設定・問題解決科目群）			
基礎ゼミ	2		
日本語の技法		2	
生命の科学		2	
環境科学		2	
基礎数学		2	
キャリアデザイン		2	
教養特殊講義Ｃ		2	
（スポーツ・表現活動科目群）			
生涯スポーツ　１		1	
生涯スポーツ　２		1	
食生活と健康		2	
心と体の健康		2	
【外国語科目】（全学科共通）			
（第一外国語科目）（英語）			
（基幹科目）			

英語１Ｌ		1		
英語１Ｒ		1		
英語２Ｌ		1		
英語２Ｒ		1		
英語３Ｔ		1		
英語３Ｒ		1		
英語４Ｔ		1		
英語４Ｒ		1		
オーラルイングリッシュ　１		1		
オーラルイングリッシュ　２		1		
オーラルイングリッシュ　３		1		
オーラルイングリッシュ　４		1		
（発展科目）				
総合英語１		1		
総合英語２		1		
自己表現の英作文１		1		
自己表現の英作文２		1		
ＴＯＥＩＣ　１		1		
ＴＯＥＩＣ　２		1		
スーパー英語（ＴＯＥＩＣ）１		1		
スーパー英語（ＳＫＩＬＬＳ）１		1		
スーパー英語（ＴＯＥＩＣ）２		1		
スーパー英語（ＳＫＩＬＬＳ）２		1		
ニュース英語１		1		
ニュース英語２		1		
カルチャー英語１		1		
カルチャー英語２		1		
アドバンストオーラルイングリッシュ１		1		
アドバンストオーラルイングリッシュ２		1		
【第二外国語】				
（基幹科目）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		
韓国語総合１		1		
韓国語総合２		1		
韓国語総合３		1		

韓国語総合４		1	
（発展科目）			
ドイツ語コミュニケーション１		1	
ドイツ語コミュニケーション２		1	
ドイツ語コミュニケーション３		1	
ドイツ語コミュニケーション４		1	
ドイツ語カルチャーセミナーＡ		1	
ドイツ語カルチャーセミナーＢ		1	
フランス語コミュニケーション１		1	
フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
フランス語カルチャーセミナーＡ		1	
フランス語カルチャーセミナーＢ		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	
中国語カルチャーセミナーＡ		1	
中国語カルチャーセミナーＢ		1	
韓国語コミュニケーション１		1	
韓国語コミュニケーション２		1	
韓国語コミュニケーション３		1	
韓国語コミュニケーション４		1	
韓国語カルチャーセミナーＡ		1	
韓国語カルチャーセミナーＢ		1	

経済学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】			
（学部共通科目）			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	
経済統計学Ⅰ		2	
経済統計学Ⅱ		2	
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
（学科共通科目）			
日本経済入門		2	
ミクロ経済学Ⅱ		2	

マクロ経済学Ⅱ		2		
経済史Ⅰ		2		
経済史Ⅱ		2		
経済政策論Ⅰ		2		
計量経済学Ⅰ		2		
基礎経済心理学		2		
（分野科目）				
〈経済学コース科目〉				
経済数学Ⅰ		2		
経済数学Ⅱ		2		
貨幣論		2		
公共経済学		2		
現代産業論		2		
日本経済史Ⅰ		2		
日本経済史Ⅱ		2		
応用ミクロ経済学		2		
応用マクロ経済学		2		
計量経済学Ⅱ		2		
経済政策論Ⅱ		2		
産業連関論		2		
〈経済心理学コース科目〉				
経済数学Ⅰ		2		
経済数学Ⅱ		2		
経済心理学		2		
実験経済学Ⅰ		2		
行動経済学Ⅰ		2		
実験データ分析		2		
計量経済学Ⅱ		2		
応用ミクロ経済学		2		
応用マクロ経済学		2		
労働経済学Ⅰ		2		
組織と情報の経済学		2		
【専門基幹科目Ａ】				
（学科共通科目）				
財政学Ⅰ		2		
財政学Ⅱ		2		
金融論Ⅰ		2		
金融論Ⅱ		2		
商法Ⅰ		2		
国際経済学		2		
経済法		2		
日本経済論Ⅰ		2		
日本経済論Ⅱ		2		
（分野科目）				
〈経済学コース科目〉				
経済心理学		2		

実験経済学Ⅰ		2		
行動経済学Ⅰ		2		
経済学史		2		
経済数学Ⅲ		2		
経済数学Ⅳ		2		
行動ファイナンス		2		
ゲーム理論		2		
経済変動論Ⅰ		2		
経済変動論Ⅱ		2		
近代経済学史Ⅰ		2		
近代経済学史Ⅱ		2		
商法Ⅱ		2		
財政政策論Ⅰ		2		
財政政策論Ⅱ		2		
地方財政学Ⅰ		2		
地方財政学Ⅱ		2		
国際金融論Ⅰ		2		
国際金融論Ⅱ		2		
企業金融論		2		
デリバティブ論		2		
金融政策論		2		
情報システム論Ⅰ		2		
情報システム論Ⅱ		2		
交通経済学Ⅰ		2		
交通経済学Ⅱ		2		
労働経済学Ⅰ		2		
労働経済学Ⅱ		2		
産業組織論Ⅰ		2		
産業組織論Ⅱ		2		
知的財産法		2		
環境経済学		2		
経済社会学Ⅰ		2		
経済社会学Ⅱ		2		
西洋経済史Ⅰ		2		
西洋経済史Ⅱ		2		
経済地理学		2		
西洋経済思想史Ⅰ		2		
西洋経済思想史Ⅱ		2		
日本経済思想史		2		
〈経済心理学コース科目〉				
行動ファイナンス		2		
ゲーム理論		2		
認知心理学		2		
社会心理学		2		
実験経済学Ⅱ		2		
行動経済学Ⅱ		2		

経済倫理学		2		
マーケティング		2		
応用行動経済学Ⅰ		2		
応用行動経済学Ⅱ		2		
神経経済学		2		
経済社会学Ⅰ		2		
労働経済学Ⅱ		2		
産業組織論Ⅰ		2		
環境経済学		2		
【専門基幹科目Ｂ】				
（学科共通科目（情報専門科目））				
プログラミング論Ⅰ		2		
プログラミング論Ⅱ		2		
コンピュータ概論Ⅰ		2		
コンピュータ概論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅰ		2		
コンピュータ特修実習Ⅱ		2		
情報処理論Ⅰ		2		
情報処理論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅲ		2		
コンピュータ特修実習Ⅳ		2		
プログラミング特論Ⅰ		2		
プログラミング特論Ⅱ		2		
応用情報処理論Ⅰ		2		
応用情報処理論Ⅱ		2		
コンピュータ会計Ⅰ		2		
コンピュータ会計Ⅱ		2		
（学科共通科目）				
特殊講義ＩＡ		1		
特殊講義ＩＢ		1		
簿記論Ⅰ		2		
簿記論Ⅱ		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
特殊講義Ⅱ		2		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ		2		
簿記論Ⅲ		2		
簿記論Ⅳ		2		
会計学		2		
特殊講義Ⅲ		2		
特殊講義Ⅳ		2		
インターンシップ		2		
外国語演習Ⅰ		4		
外国語演習Ⅱ		4		
商学		2		
経営学		2		

外国文献研究		2		
憲法Ⅰ		2		
憲法Ⅱ		2		
行政法Ⅰ		2		
行政法Ⅱ		2		
国際法		2		
卒業論文		4		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ		2		
（分野科目）				
〈経済学コース科目〉				
実験経済学Ⅱ		2		
行動経済学Ⅱ		2		
企業金融論		2		
産業組織論Ⅰ		2		
産業組織論Ⅱ		2		
西洋経済思想史Ⅰ		2		
西洋経済思想史Ⅱ		2		
産業連関論		2		
経済心理学		2		
実験経済学Ⅰ		2		
行動経済学Ⅰ		2		
経済変動論Ⅰ		2		
経済変動論Ⅱ		2		
国際税制		2		
保険論		2		
経済社会学Ⅰ		2		
経済社会学Ⅱ		2		
地域経済学		2		
ロジスティクス論		2		
コーポレートガバナンス論		2		
多国籍企業論Ⅰ		2		
多国籍企業論Ⅱ		2		
社会保障論Ⅰ		2		
社会保障論Ⅱ		2		
アジア経済史Ⅰ		2		
アジア経済史Ⅱ		2		
近代日本経済史		2		
外国総合演習Ⅰ		2		
外国総合演習Ⅱ		2		
外国総合演習Ⅲ		2		
異文化演習Ⅰ		2		
異文化演習Ⅱ		2		
異文化演習Ⅲ		2		
〈経済心理学コース科目〉				
経済政策論Ⅱ		2		
企業金融論		2		

デリバティブ論		2		
情報システム論Ⅰ		2		
情報システム論Ⅱ		2		
コーポレートガバナンス論		2		
外国総合演習Ⅰ		2		
外国総合演習Ⅱ		2		
外国総合演習Ⅲ		2		
異文化演習Ⅰ		2		
異文化演習Ⅱ		2		
異文化演習Ⅲ		2		
【専門基幹科目Ｃ】				
（学科共通科目（教育専門科目））				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
自然地理学概論Ⅰ		2		
自然地理学概論Ⅱ		2		
職業指導Ⅰ			2	
職業指導Ⅱ			2	
英語学概論Ⅰ		2		
英語学概論Ⅱ		2		
学校英文法Ａ		1		
学校英文法Ｂ		1		
英語音声学Ａ		1		
英語音声学Ｂ		1		
英文法演習Ａ		1		
英文法演習Ｂ		1		
英語文学概論Ⅰ		2		
英語文学概論Ⅱ		2		
英語文学講読Ａ		1		
英語文学講読Ｂ		1		
実践英語会話Ａ		1		
実践英語会話Ｂ		1		
英語実習（ＬＬ）Ａ		1		
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1		
英語文化概論Ⅰ		2		
英語文化概論Ⅱ		2		

【他学部単位互換科目】			
（経営学部）			
国際経営論		2	
証券投資論		2	
外国為替論		2	
会社法		2	
経営史Ⅰ		2	
経営史Ⅱ		2	
商業史Ⅰ		2	
商業史Ⅱ		2	
（法学部）			
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
支払決済法		2	
保険法		2	
海商法		2	
社会保障法Ａ		2	
社会保障法Ｂ		2	
国際組織法Ａ		2	
国際組織法Ｂ		2	
国際取引法		2	
（文芸学部）			
西洋史Ａ		2	
西洋史Ｂ		2	
日本文化論Ａ		2	
日本文化論Ｂ		2	
【自由科目】			
（実学特修課程科目）			
（特修課程固有科目）			
食と風土の経済学			2
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ			2
（学部専門科目）			
特殊講義ＩＡ			1
特殊講義ＩＢ			1
日本経済入門			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ			2
インターンシップ			2
（共通教養科目）			
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義Ａ			2
教養特殊講義Ｂ			2

教養特殊講義Ｃ			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2
自校学習			1

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ１単位以上を修得し、必修２単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目８単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目８単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・コース科目・他コース科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（８単位まで）を合わせて、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、自由科目は、単位を修得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて８単位まで加算することができる。

総合経済政策学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】			
（学部共通科目）			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	
経済統計学Ⅰ		2	
経済統計学Ⅱ		2	
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
（学科共通科目）			
日本経済入門		2	
ミクロ経済学Ⅱ		2	
マクロ経済学Ⅱ		2	
公共経済学		2	
金融論Ⅰ		2	
財政学Ⅰ		2	
産業組織論Ⅰ		2	
経済政策論Ⅰ		2	

計量経済学Ⅰ		2		
（分野科目）				
日本経済論Ⅰ		2		
日本経済論Ⅱ		2		
産業組織論Ⅱ		2		
財政学Ⅱ		2		
経済地理学		2		
中小企業論Ⅰ		2		
中小企業論Ⅱ		2		
金融論Ⅱ		2		
応用マクロ経済学		2		
経済政策論Ⅱ		2		
計量経済学Ⅱ		2		
公共政策論		2		
経済社会学		2		
応用ミクロ経済学		2		
企業金融論		2		
国際金融論		2		
【専門基幹科目Ａ】				
（学科共通科目）				
政治学原理Ⅰ		2		
政治学原理Ⅱ		2		
憲法Ⅰ		2		
憲法Ⅱ		2		
簿記論Ⅰ		2		
簿記論Ⅱ		2		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ		2		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ		2		
簿記論Ⅲ		2		
簿記論Ⅳ		2		
財政政策論Ⅰ		2		
社会保障論Ⅰ		2		
環境経済学		2		
国際経済学		2		
（分野科目）				
福祉政策論		2		
都市政策論Ⅰ		2		
都市政策論Ⅱ		2		
地域経済学Ⅰ		2		
地域経済学Ⅱ		2		
労働経済学		2		
商法Ⅰ		2		
商法Ⅱ		2		
経済法		2		
観光資源論		2		
財政政策論Ⅱ		2		

社会保障論Ⅱ		2		
金融政策論		2		
交通経済学Ⅰ		2		
交通経済学Ⅱ		2		
環境政策論		2		
地方財政学Ⅰ		2		
地方財政学Ⅱ		2		
デリバティブ論		2		
国際税制		2		
国際投資論		2		
財務会計論		2		
関西経済論		2		
【専門基幹科目Ｂ】				
（学科共通科目（情報専門科目））				
コンピュータ概論Ⅰ		2		
コンピュータ概論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅰ		2		
コンピュータ特修実習Ⅱ		2		
情報処理論Ⅰ		2		
情報処理論Ⅱ		2		
情報システム論Ⅰ		2		
情報システム論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅲ		2		
コンピュータ特修実習Ⅳ		2		
応用情報処理理論Ⅰ		2		
応用情報処理理論Ⅱ		2		
（学科共通科目）				
特殊講義ⅠＡ		1		
特殊講義ⅠＢ		1		
民法Ⅰ		2		
社会調査論		2		
フィールドワークⅠ		4		
特殊講義Ⅱ		2		
インターンシップ		2		
外国語演習Ⅰ		4		
外国語演習Ⅱ		4		
外国文献研究		2		
特殊講義Ⅲ		2		
特殊講義Ⅳ		2		
卒業論文		4		
（分野科目）				
フィールドワークⅡ		4		
地方自治論		2		
経済変動論		2		
民法Ⅱ		2		
プログラミング論Ⅰ		2		

プログラミング論Ⅱ		2		
組織と情報の経済学		2		
地方自治法		2		
行政法Ⅰ		2		
行政法Ⅱ		2		
国際法Ⅰ		2		
国際法Ⅱ		2		
会社法Ⅰ		2		
会社法Ⅱ		2		
知的財産法		2		
プログラミング特論Ⅰ		2		
プログラミング特論Ⅱ		2		
コンピュータ会計Ⅰ		2		
コンピュータ会計Ⅱ		2		
外国総合演習Ⅰ		2		
外国総合演習Ⅱ		2		
外国総合演習Ⅲ		2		
異文化演習Ⅰ		2		
異文化演習Ⅱ		2		
異文化演習Ⅲ		2		
【専門基幹科目Ｃ】				
（学科共通科目（教育専門科目））				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
職業指導Ⅰ			2	
職業指導Ⅱ			2	
英語学概論Ⅰ		2		
英語学概論Ⅱ		2		
学校英文法Ａ		1		
学校英文法Ｂ		1		
英語音声学Ａ		1		
英語音声学Ｂ		1		
英文法演習Ａ		1		
英文法演習Ｂ		1		
英語文学概論Ⅰ		2		
英語文学概論Ⅱ		2		

英語文学講読Ａ		1	
英語文学講読Ｂ		1	
実践英語会話Ａ		1	
実践英語会話Ｂ		1	
英語実習（ＬＬ）Ａ		1	
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1	
英語文化概論Ⅰ		2	
英語文化概論Ⅱ		2	
【他学部単位互換科目】			
（経営学部）			
国際経営論		2	
保険論Ⅰ		2	
保険論Ⅱ		2	
証券投資論		2	
外国為替論		2	
マーケティング		2	
経営史Ⅰ		2	
経営史Ⅱ		2	
商業史Ⅰ		2	
商業史Ⅱ		2	
（法学部）			
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
支払決済法		2	
保険法		2	
海商法		2	
社会保障法Ａ		2	
社会保障法Ｂ		2	
国際組織法Ａ		2	
国際組織法Ｂ		2	
国際取引法		2	
（文芸学部）			
西洋史Ａ		2	
西洋史Ｂ		2	
日本文化論Ａ		2	
日本文化論Ｂ		2	
【自由科目】			
（実学特修課程科目）			
（特修課程固有科目）			
食と風土の経済学			2
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ			2
（学部専門科目）			
特殊講義ＩＡ			1
特殊講義ＩＢ			1
日本経済入門			2

Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ			2
インターンシップ			2
（共通教養科目）			
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義Ａ			2
教養特殊講義Ｂ			2
教養特殊講義Ｃ			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2
自校学習			1

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ１単位以上を修得し、必修２単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目８単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目８単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（８単位まで）合わせて、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、自由科目は、単位を修得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて８単位まで加算することができる。

国際経済学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】			
（学部共通科目）			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	
経済統計学Ⅰ		2	
経済統計学Ⅱ		2	
演習Ⅰ	4		

演習Ⅱ	4			
（学科共通科目）				
基礎国際経済学		2		
日本経済入門		2		
ミクロ経済学Ⅱ		2		
マクロ経済学Ⅱ		2		
国際経済学Ⅰ		2		
開発経済学Ⅰ		2		
貿易論		2		
多国籍企業論Ⅰ		2		
国際金融論Ⅰ		2		
（分野科目）				
国際投資論Ⅰ		2		
国際投資論Ⅱ		2		
労働移動論		2		
多国籍企業論Ⅱ		2		
国際経済学Ⅱ		2		
開発経済学Ⅱ		2		
国際協力論		2		
地域統合論		2		
応用ミクロ経済学		2		
応用マクロ経済学		2		
国際金融論Ⅱ		2		
【専門基幹科目Ａ】				
（学科共通科目）				
専修英語Ⅰ		1		
専修英語Ⅱ		1		
基礎中国語Ⅰ		1		
基礎中国語Ⅱ		1		
金融論Ⅰ		2		
専修英語Ⅲ		1		
専修英語Ⅳ		1		
会話中国語Ⅰ		1		
会話中国語Ⅱ		1		
検定中国語Ⅰ		1		
検定中国語Ⅱ		1		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ		2		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ		2		
ヨーロッパ経済論Ⅰ		2		
アジア経済論		2		
アメリカ経済論Ⅰ		2		
国際法Ⅰ		2		
労働経済学Ⅰ		2		
（分野科目）				
金融論Ⅱ		2		
日本経済論Ⅰ		2		

日本経済論Ⅱ		2		
ヨーロッパ経済論Ⅱ		2		
アメリカ経済論Ⅱ		2		
国際法Ⅱ		2		
損害保険論		2		
国際マーケティング論		2		
国際取引法		2		
労働経済学Ⅱ		2		
中国経済論Ⅰ		2		
中国経済論Ⅱ		2		
韓国経済論		2		
東南アジア経済論		2		
関西経済論		2		
【専門基幹科目Ｂ】				
（学科共通科目（情報専門科目））				
コンピュータ概論Ⅰ		2		
コンピュータ概論Ⅱ		2		
情報データ解析入門		2		
コンピュータ特修実習Ⅰ		2		
コンピュータ特修実習Ⅱ		2		
情報処理論Ⅰ		2		
情報処理論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅲ		2		
コンピュータ特修実習Ⅳ		2		
応用情報処理論Ⅰ		2		
応用情報処理論Ⅱ		2		
コンピュータ会計Ⅰ		2		
コンピュータ会計Ⅱ		2		
（学科共通科目）				
特殊講義ⅠＡ		1		
特殊講義ⅠＢ		1		
簿記論Ⅰ		2		
簿記論Ⅱ		2		
特殊講義Ⅱ		2		
国際政治学		2		
民法Ⅰ		2		
簿記論Ⅲ		2		
簿記論Ⅳ		2		
特殊講義Ⅲ		2		
特殊講義Ⅳ		2		
専修英語Ⅴ		1		
専修英語Ⅵ		1		
専修英語Ⅶ		1		
専修英語Ⅷ		1		
ビジネス中国語Ⅰ		1		
ビジネス中国語Ⅱ		1		

検定中国語Ⅲ		1	
検定中国語Ⅳ		1	
ビジネス中国語Ⅲ		1	
ビジネス中国語Ⅳ		1	
外国文献研究		2	
インターンシップ		2	
外国語演習Ⅰ		4	
外国語演習Ⅱ		4	
憲法Ⅰ		2	
憲法Ⅱ		2	
行政法Ⅰ		2	
行政法Ⅱ		2	
卒業論文		4	
（分野科目）			
国際会計学		2	
民法Ⅱ		2	
西洋経済史Ⅰ		2	
西洋経済史Ⅱ		2	
アジア経済史Ⅰ		2	
アジア経済史Ⅱ		2	
近代日本経済史		2	
経済地理学		2	
環境経済学		2	
国際観光論		2	
外国総合演習Ⅰ		2	
外国総合演習Ⅱ		2	
外国総合演習Ⅲ		2	
異文化演習Ⅰ		2	
異文化演習Ⅱ		2	
異文化演習Ⅲ		2	
【専門基幹科目Ｃ】			
（学科共通科目（教育専門科目））			
日本史概論Ⅰ		2	
日本史概論Ⅱ		2	
外国史概論Ⅰ		2	
外国史概論Ⅱ		2	
地理学概論Ⅰ		2	
地理学概論Ⅱ		2	
地誌学概論Ⅰ		2	
地誌学概論Ⅱ		2	
哲学概論Ⅰ		2	
哲学概論Ⅱ		2	
倫理学概論Ⅰ		2	
倫理学概論Ⅱ		2	
職業指導Ⅰ			2
職業指導Ⅱ			2

英語学概論Ⅰ		2		
英語学概論Ⅱ		2		
学校英文法Ａ		1		
学校英文法Ｂ		1		
英語音声学Ａ		1		
英語音声学Ｂ		1		
英文法演習Ａ		1		
英文法演習Ｂ		1		
英語文学概論Ⅰ		2		
英語文学概論Ⅱ		2		
英語文学講読Ａ		1		
英語文学講読Ｂ		1		
実践英語会話Ａ		1		
実践英語会話Ｂ		1		
英語実習（ＬＬ）Ａ		1		
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1		
英語文化概論Ⅰ		2		
英語文化概論Ⅱ		2		
【他学部単位互換科目】				
（経営学部）				
国際経営論		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
証券投資論		2		
外国為替論		2		
マーケティング		2		
会社法		2		
経営史Ⅰ		2		
経営史Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
（法学部）				
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
社会保障法Ａ		2		
社会保障法Ｂ		2		
国際組織法Ａ		2		
国際組織法Ｂ		2		
（文芸学部）				
西洋史Ａ		2		
西洋史Ｂ		2		
日本文化論Ａ		2		
日本文化論Ｂ		2		

【自由科目】			
（実学特修課程科目）			
（特修課程固有科目）			
食と風土の経済学			2
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ			2
（学部専門科目）			
特殊講義ＩＡ			1
特殊講義ＩＢ			1
日本経済入門			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ			2
インターンシップ			2
（共通教養科目）			
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義Ａ			2
教養特殊講義Ｂ			2
教養特殊講義Ｃ			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2
自校学習			1

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ１単位以上を修得し、必修２単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目８単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目８単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（８単位まで）あわせて、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。ただし、自由科目は、単位を修得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて８単位まで加算することができる。

別表（１）―３

経営学部授業科目表

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
基礎ゼミ	2		
人権と社会１		2	

人権と社会２		2		
暮らしのなかの憲法		2		
現代社会と倫理		2		
心理と行動		2		
現代の社会論		2		
芸術鑑賞入門		2		
哲学と人間・社会		2		
現代社会と法		2		
現代社会と政治		2		
自校学習		1		
情報処理基礎		2		
キャリアデザイン		2		
日本語の技法		2		
生命の科学		2		
環境科学		2		
思考の技術		2		
経営・経済のための数学		2		
ビジネス実務講座		2		
教養特殊講義		2		
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
健康とスポーツの科学		2		
地域と環境の地理学		2		
国際化と異文化理解		2		
日本近現代史		2		
世界近現代史		2		
日本文化論		2		
教養特殊講義Ａ		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
［第一外国語科目］（英語）				
（基幹科目）				
英語１Ａ	2			
英語１Ｂ	2			
英語２Ａ	1			
英語２Ｂ	1			
英語３Ａ	1			
英語３Ｂ	1			
オーラルイングリッシュ１Ａ	1			
オーラルイングリッシュ１Ｂ	1			
オーラルイングリッシュ２Ａ		1		
オーラルイングリッシュ２Ｂ		1		
オーラルイングリッシュ３Ａ		1		
オーラルイングリッシュ３Ｂ		1		
（発展科目）				
ＴＯＥＩＣ　Ａ		1		

ＴＯＥＩＣ　Ｂ		1	
ＴＯＥＩＣ　上級Ａ		1	
ＴＯＥＩＣ　上級Ｂ		1	
ＴＯＥＦＬ　Ａ		1	
ＴＯＥＦＬ　Ｂ		1	
カレッジ・グラマーＡ		1	
カレッジ・グラマーＢ		1	
ライティングＡ		1	
ライティングＢ		1	
ライティング上級Ａ		1	
ライティング上級Ｂ		1	
ディスカッションＡ		1	
ディスカッションＢ		1	
イングリッシュカルチャーＡ		1	
イングリッシュカルチャーＢ		1	
スポーツ英語Ａ		1	
スポーツ英語Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	
［第二外国語］			
（基幹科目）			
ドイツ語総合１		1	
ドイツ語総合２		1	
ドイツ語総合３		1	
ドイツ語総合４		1	
フランス語総合１		1	
フランス語総合２		1	
フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
スペイン語総合１		1	
スペイン語総合２		1	
スペイン語総合３		1	
スペイン語総合４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
韓国語総合１		1	
韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
（発展科目）			
ドイツ語コミュニケーション１		1	
ドイツ語コミュニケーション２		1	
ドイツ語コミュニケーション３		1	
ドイツ語コミュニケーション４		1	
フランス語コミュニケーション１		1	

フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
スペイン語コミュニケーション１		1	
スペイン語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	
韓国語コミュニケーション１		1	
韓国語コミュニケーション２		1	
韓国語コミュニケーション３		1	
韓国語コミュニケーション４		1	
ドイツ語カルチャーセミナーA		1	
ドイツ語カルチャーセミナーB		1	
フランス語カルチャーセミナーA		1	
フランス語カルチャーセミナーB		1	
中国語カルチャーセミナーA		1	
中国語カルチャーセミナーB		1	
韓国語カルチャーセミナーA		1	
韓国語カルチャーセミナーB		1	
海外語学研修（ドイツ語）		1	
海外語学研修（フランス語）		1	
海外語学研修（スペイン語）		1	
海外語学研修（中国語）		1	
海外語学研修（韓国語）		1	

経営学科　企業経営コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学A		2	
経営学B		2	
商学A		2	
商学B		2	
簿記論A		2	
簿記論B		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
ＩＴビジネス入門		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	

コンピュータ実習		2		
経営情報論		2		
情報管理論		2		
データ分析論		2		
情報分析論		2		
コンピュータ特修実習Ａ		2		
コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
経営管理論		2		
経営組織論		2		
組織行動論		2		
人的資源管理論		2		
ダイバーシティ経営論		2		
生産管理論		2		
経営史		2		
現代日本経営史		2		
経営数学Ａ		2		
経営数学Ｂ		2		
企業行動論		2		
企業発展論		2		
マネジメント・コントロール		2		
意思決定論		2		
企業形態論		2		
経営統計論Ａ		2		
経営統計論Ｂ		2		
コーポレートガバナンス論		2		
国際経営論		2		
経営科学		2		
財務管理論		2		
投資決定論		2		
マーケティング戦略論		2		
中国ビジネス論		2		
多国籍企業論		2		
公共経営論		2		
ビジネス・エシックス		2		
消費者行動論		2		
比較経営論		2		
サービス経営論		2		
ネットビジネス論		2		
経営戦略論		2		
事業システム論		2		
財務分析		2		
企業分析		2		
非営利組織経営論		2		
公企業経営論		2		
ベンチャービジネス論		2		

中小企業経営論		2		
地域経営論		2		
環境経営論		2		
企業論		2		
イノベーション論		2		
ネットワーク産業論		2		
技術経営論		2		
西洋経営史		2		
新興国ビジネス論		2		
サービスサイエンス		2		
コンテンツビジネス論		2		
ビジネス実践Ａ		2		
ビジネス実践Ｂ		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
原価計算Ⅰ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		
特殊講義Ａ		2		
特殊講義Ｂ		2		
特殊講義Ｃ		2		
特殊講義Ｄ		2		

特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ｉ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2
秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む）

・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）

・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	

ＩＩＰの履修について

（１）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（２）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（３）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（４）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（５）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（６）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

経営学科　ＩＴビジネスコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		２	
経営学Ｂ		２	
商学Ａ		２	
商学Ｂ		２	
簿記論Ａ		２	
簿記論Ｂ		２	
統計学		２	
マーケティング		２	
コミュニケーション基礎		２	
会計学基礎論		２	
ミクロ経済学		２	
マクロ経済学		２	
ＩＴビジネス入門		２	
［情報科目］			
コンピュータ概論		２	
情報倫理		２	
コンピュータ実習		２	
経営情報論		２	
情報管理論		２	
データ分析論		２	
情報分析論		２	
コンピュータ特修実習Ａ		２	

コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
ＩＴビジネス論		2		
ネットビジネス論		2		
ネットビジネス基礎		2		
Ｂ２Ｂビジネス基礎		2		
ビジネス・シミュレーション		2		
情報戦略論		2		
企業と情報戦略		2		
システム企画論		2		
システム運用論		2		
情報組織論基礎		2		
情報組織論応用		2		
プログラム設計論Ⅰ		2		
プログラム設計論Ⅱ		2		
プログラミング論基礎		2		
プログラミング論応用		2		
コンピュータ特修実習Ｃ		2		
コンピュータ特修実習Ｄ		2		
情報システム入門		2		
経営科学		2		
ＩＴビジネス・プランニング論Ⅰ		2		
ＩＴビジネス・プランニング論Ⅱ		2		
Ｂ２Ｂビジネス応用		2		
情報セキュリティ論		2		
電子商取引法		2		
会計情報論		2		
コンテンツビジネス論		2		
プロジェクト管理論		2		
プロジェクト管理実践		2		
データベース設計論		2		
データベース構築論		2		
アプリケーション構築論Ⅰ		2		
アプリケーション構築論Ⅱ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ａ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ｂ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ｃ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ｄ		2		
情報ネットワーク論		2		
情報システム論		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		

地理学概論Ⅱ		2	
地誌学概論Ⅰ		2	
地誌学概論Ⅱ		2	
哲学概論Ⅰ		2	
哲学概論Ⅱ		2	
倫理学概論Ⅰ		2	
倫理学概論Ⅱ		2	
財務会計Ⅰ		2	
原価計算Ⅰ		2	
ビジネスエコノミクス		2	
日本経済論		2	
民法Ⅰ		2	
民法Ⅱ		2	
秘書学Ⅰ		2	
秘書学Ⅱ		2	
国際政治学Ⅰ		2	
国際政治学Ⅱ		2	
商法総則・商行為		2	
会社法		2	
外国文献研究Ａ		2	
外国文献研究Ｂ		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ｉ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2

秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む）

・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）

・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	

※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		１	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		１	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		１	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		１	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		１	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		１	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		１	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		１	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		１	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		１	
海外語学研修（英語）		２	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	

ＩＩＰの履修について

（１）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（２）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（３）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（４）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（５）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（６）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位

以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

経営学科　スポーツマネジメントコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
ＩＴビジネス入門		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習Ａ		2	
コンピュータ特修実習Ｂ		2	
［基幹科目］			
スポーツ科学概論		2	
スポーツ心理学		2	
スポーツ指導論		2	
スポーツ医学		2	
キャリア形成論		2	
スポーツコミュニケーション論		2	
スポーツビジネス論		2	
囲碁で学ぶ経営科学入門		2	
トレーニング科学		2	
トレーニング実習		1	
健康管理概論		2	
機能解剖学		2	
スポーツ生理学		2	
水泳・水中運動実習		1	
エアロビックダンス実習		1	
体力測定評価（理論）		2	

体力測定評価（実習）		1		
発育発達学		2		
スポーツマーケティング論		2		
救急処置実習		2		
スポーツと情報		2		
経営管理論		2		
経営組織論		2		
組織行動論		2		
経営史		2		
現代日本経営史		2		
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
流通システム論Ⅰ		2		
流通システム論Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
原価計算Ⅰ		2		
原価計算Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
リーダーシップ論		2		
健康づくりと運動プログラム		2		
スポーツ経営論		2		
スポーツ社会学		2		
スポーツ行政論		2		
スポーツ栄養学		2		
人的資源管理論		2		
ダイバーシティ経営論		2		
財務管理論		2		
投資決定論		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
交通論Ⅰ		2		
交通論Ⅱ		2		
国際経営論		2		
コーチング		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		

地誌学概論Ⅱ		2	
哲学概論Ⅰ		2	
哲学概論Ⅱ		2	
倫理学概論Ⅰ		2	
倫理学概論Ⅱ		2	
ビジネスエコノミクス		2	
日本経済論		2	
民法Ⅰ		2	
民法Ⅱ		2	
秘書学Ⅰ		2	
秘書学Ⅱ		2	
国際政治学Ⅰ		2	
国際政治学Ⅱ		2	
商法総則・商行為		2	
会社法		2	
外国文献研究Ａ		2	
外国文献研究Ｂ		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ｉ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2
秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※English Seminar 1A	1		
※English Seminar 1B	1		
※English Seminar 2A	1		
※English Seminar 2B	1		
※Business English 1A	2		
※Business English 1B	2		
※Business English 2A	2		
※Business English 2B	2		
※Business Skills A	1		
※Business Skills B	1		
※Academic Preparation	1		
※TOEFL Preparation 1		1	
※TOEFL Preparation 2		1	
※TOEFL Preparation 3		1	
※TOEFL Preparation 4		1	
※TOEIC Preparation 1		1	

※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		１	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		１	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		１	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		１	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		１	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		１	
海外語学研修（英語）		２	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	

ＩＩＰの履修について

（１）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（２）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（３）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（４）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（５）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（６）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科　マーケティング戦略コース

授業科目	単位数

	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習Ａ		2	
コンピュータ特修実習Ｂ		2	
［基幹科目］			
マーケティング戦略論Ⅰ		2	
マーケティング戦略論Ⅱ		2	
消費者行動論Ⅰ		2	
消費者行動論Ⅱ		2	
流通システム論Ⅰ		2	
流通システム論Ⅱ		2	
商業史Ⅰ		2	
商業史Ⅱ		2	
貿易論Ⅰ		2	
貿易論Ⅱ		2	
ファイナンス論Ⅰ		2	
ファイナンス論Ⅱ		2	
保険論Ⅰ		2	
保険論Ⅱ		2	
交通論Ⅰ		2	
交通論Ⅱ		2	
サービスマネジメント論Ⅰ		2	
サービスマネジメント論Ⅱ		2	
観光事業論Ⅰ		2	
観光事業論Ⅱ		2	
貿易実務論Ⅰ		2	

貿易実務論Ⅱ		2		
ロジスティクス戦略論		2		
流通企業戦略論		2		
流通政策論		2		
チャネル戦略論		2		
製品戦略論		2		
価格戦略論		2		
ブランド論		2		
広告論		2		
マーケティングリサーチ論		2		
マーケティングゲーム		2		
Ｗｅｂマーケティング		2		
Ｅ－リテイリング		2		
サービス・マーケティング		2		
デザインマーケティング		2		
生産財マーケティング		2		
サービス産業論		2		
マーケティング・ケーススタディ		2		
リレーションシップマーケティング		2		
国際マーケティングⅠ		2		
国際マーケティングⅡ		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
上級簿記Ⅰ		2		
上級簿記Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		

商法総則・商行為		2	
会社法		2	
外国文献研究Ａ		2	
外国文献研究Ｂ		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ｉ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2
秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む）

・外国語科目（18単位以上英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）

・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒

業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	

ＩＩＰの履修について

（１）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（２）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（３）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（４）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（５）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（６）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科　観光・サービスコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		２	
経営学Ｂ		２	
商学Ａ		２	
商学Ｂ		２	
簿記論Ａ		２	
簿記論Ｂ		２	
統計学		２	
マーケティング		２	
コミュニケーション基礎		２	
会計学基礎論		２	
ミクロ経済学		２	

マクロ経済学		2		
［情報科目］				
コンピュータ概論		2		
情報倫理		2		
コンピュータ実習		2		
経営情報論		2		
情報管理論		2		
データ分析論		2		
情報分析論		2		
コンピュータ特修実習Ａ		2		
コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
消費者行動論Ⅰ		2		
消費者行動論Ⅱ		2		
サービスマネジメント論Ⅰ		2		
サービスマネジメント論Ⅱ		2		
観光事業論Ⅰ		2		
観光事業論Ⅱ		2		
交通論Ⅰ		2		
交通論Ⅱ		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
流通システム論Ⅰ		2		
流通システム論Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
貿易論Ⅰ		2		
貿易論Ⅱ		2		
貿易実務論Ⅰ		2		
貿易実務論Ⅱ		2		
サービス産業論		2		
サービス・マーケティング		2		
サービスサイエンス		2		
ロジスティクスサービス論		2		
旅行産業論		2		
旅行業務論		2		
ホテルマネジメント論		2		
ホテル戦略論		2		
レジャー産業論		2		
フードビジネス論		2		
航空交通論		2		
観光産業分析		2		

観光資源論		2		
国際観光論		2		
地域観光論		2		
観光マーケティング		2		
外国為替論		2		
リレーションシップマーケティング		2		
デザインマーケティング		2		
観光・サービス各論Ａ		2		
観光・サービス各論Ｂ		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
上級簿記Ⅰ		2		
上級簿記Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		
特殊講義Ａ		2		
特殊講義Ｂ		2		
特殊講義Ｃ		2		
特殊講義Ｄ		2		
特殊講義Ｅ		2		
特殊講義Ｆ		2		

特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ｉ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2
秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む）

・外国語科目（18単位以上。英語10単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）

・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2

職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※English Seminar 1A	1		
※English Seminar 1B	1		
※English Seminar 2A	1		
※English Seminar 2B	1		
※Business English 1A	2		
※Business English 1B	2		
※Business English 2A	2		
※Business English 2B	2		
※Business Skills A	1		
※Business Skills B	1		
※Academic Preparation	1		
※TOEFL Preparation 1		1	
※TOEFL Preparation 2		1	
※TOEFL Preparation 3		1	
※TOEFL Preparation 4		1	
※TOEIC Preparation 1		1	
※TOEIC Preparation 2		1	
※TOEIC Preparation 3		1	
※TOEIC Preparation 4		1	
※Study Abroad Preparation		1	
※English Culture A		1	
※English Culture B		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Management in English		2	
※Tourism in English		2	
※Marketing in English		2	
※International Business in English		2	
※Information Technology in Business in English		2	
※Basic Accounting in English		2	
※Advanced Accounting in English		2	
※Information and Communication Theory in English		2	
※Business Ethics in English		2	
※Economics in English		2	

ＩＩＰの履修について

（1）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。
（2）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。
（3）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。
（4）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。
（5）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。
（6）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科　貿易・ファイナンスコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習Ａ		2	
コンピュータ特修実習Ｂ		2	
［基幹科目］			
貿易論Ⅰ		2	

貿易論Ⅱ		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
交通論Ⅰ		2		
交通論Ⅱ		2		
流通システム論Ⅰ		2		
流通システム論Ⅱ		2		
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
消費者行動論Ⅰ		2		
消費者行動論Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
サービスマネジメント論Ⅰ		2		
サービスマネジメント論Ⅱ		2		
観光事業論Ⅰ		2		
観光事業論Ⅱ		2		
貿易実務論Ⅰ		2		
貿易実務論Ⅱ		2		
多国籍企業論		2		
総合商社論		2		
国際経営論		2		
国際ロジスティクス論		2		
貿易英語		2		
上級貿易英語		2		
外国為替論		2		
海外経済事情Ａ		2		
海外経済事情Ｂ		2		
証券市場論		2		
証券投資論		2		
生命保険論		2		
損害保険論		2		
銀行論		2		
コーポレートファイナンス論		2		
ファイナンシャルプラニング論		2		
タックスプラニング論		2		
リスクマネジメント論		2		
国際マーケティングⅠ		2		
国際マーケティングⅡ		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		

地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
上級簿記Ⅰ		2		
上級簿記Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		
特殊講義Ａ		2		
特殊講義Ｂ		2		
特殊講義Ｃ		2		
特殊講義Ｄ		2		
特殊講義Ｅ		2		
特殊講義Ｆ		2		
特殊講義Ｇ		2		
特殊講義Ｈ		2		
特殊講義Ｉ		2		
特殊講義Ｊ		2		
特殊講義Ｋ		2		
特殊講義Ｌ		2		
特殊講義Ｍ		2		
特殊講義Ｎ		2		
特殊講義Ｏ		2		
特殊講義Ｐ		2		
特殊講義Ｑ		2		
特殊講義Ｒ		2		
［総合科目］				
演習Ⅰ	4			

演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2
秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む。）

・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）

・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		

※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（１）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（２）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（３）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（４）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（５）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（６）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

会計学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
会計学基礎論		2	
工業簿記		2	
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
コミュニケーション基礎		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習Ａ		2	
コンピュータ特修実習Ｂ		2	
［基幹科目］			
商業簿記Ⅰ		2	
商業簿記Ⅱ		2	
財務会計Ⅰ		2	
財務会計Ⅱ		2	
会計学Ⅰ		2	
会計学Ⅱ		2	
原価計算Ⅰ		2	
原価計算Ⅱ		2	
上級工業簿記Ⅰ		2	
上級工業簿記Ⅱ		2	
英文会計Ⅰ		2	
英文会計Ⅱ		2	
監査基準論		2	
監査報告書論		2	

会計史		2		
会計学説史		2		
経営管理論Ⅰ		2		
経営管理論Ⅱ		2		
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
社会環境会計		2		
持続可能性とＣＳＲ		2		
株式会社会計		2		
連結会計		2		
意思決定会計		2		
業績管理会計		2		
会計職業倫理		2		
経営内部統制論		2		
税務会計Ⅰ		2		
税務会計Ⅱ		2		
財務分析		2		
企業分析		2		
キャッシュフロー会計		2		
国際会計Ⅰ		2		
国際会計Ⅱ		2		
会計情報システム論Ａ		2		
会計情報システム論Ｂ		2		
租税法		2		
経営戦略論		2		
事業システム論		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
ビジネス・エシックス		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		

秘書学Ⅰ		2	
秘書学Ⅱ		2	
国際政治学Ⅰ		2	
国際政治学Ⅱ		2	
商法総則・商行為		2	
会社法		2	
外国文献研究Ａ		2	
外国文献研究Ｂ		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ｉ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2
秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む）

・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）

・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科

目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			

※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（5）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

キャリア・マネジメント学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	

会計学基礎論		2		
ミクロ経済学		2		
マクロ経済学		2		
［情報科目］				
コンピュータ概論		2		
情報倫理		2		
コンピュータ実習		2		
経営情報論		2		
情報管理論		2		
データ分析論		2		
情報分析論		2		
コンピュータ特修実習Ａ		2		
コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
キャリア形成論		2		
コミュニケーション論		2		
ビジネス・インターンシップⅠ		2		
ビジネス・インターンシップⅡ		2		
職業・職種分析		2		
キャリア心理学		2		
リーダーシップ論		2		
フォロワーシップ論		2		
モチベーション論		2		
組織設計論Ａ		2		
組織設計論Ｂ		2		
経営戦略論Ａ		2		
経営戦略論Ｂ		2		
組織調査論Ａ		2		
組織調査論Ｂ		2		
データ分析		2		
ビジネス・プラクティス		2		
業界発展分析		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
経営組織心理学		2		
チームビルディング		2		
アドバンスト・インターンシップ		2		
コーチング		2		
キャリア・カウンセリング論Ａ		2		
キャリア・カウンセリング論Ｂ		2		
職業選択理論		2		
ファシリテーション		2		
人材形成史		2		
キャリア形成関連法		2		
ダイバーシティ・マネジメント		2		
ターンアラウンド・マネジメント		2		

キャリア・マネジメント論Ａ		2		
キャリア・マネジメント論Ｂ		2		
ベンチャービジネス論		2		
ビジネス・エシックス		2		
報酬システム分析Ａ		2		
報酬システム分析Ｂ		2		
戦略的人的資源管理論Ａ		2		
戦略的人的資源管理論Ｂ		2		
雇用政策論		2		
健康心理学		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		
特殊講義Ａ		2		
特殊講義Ｂ		2		
特殊講義Ｃ		2		
特殊講義Ｄ		2		
特殊講義Ｅ		2		
特殊講義Ｆ		2		
特殊講義Ｇ		2		
特殊講義Ｈ		2		
特殊講義Ⅰ		2		

特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
秘書実務Ⅰ			2
秘書実務Ⅱ			2
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミⅠの２単位を含む）

・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）

・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由

※English Seminar 1A	1		
※English Seminar 1B	1		
※English Seminar 2A	1		
※English Seminar 2B	1		
※Business English 1A	2		
※Business English 1B	2		
※Business English 2A	2		
※Business English 2B	2		
※Business Skills A	1		
※Business Skills B	1		
※Academic Preparation	1		
※TOEFL Preparation 1		1	
※TOEFL Preparation 2		1	
※TOEFL Preparation 3		1	
※TOEFL Preparation 4		1	
※TOEIC Preparation 1		1	
※TOEIC Preparation 2		1	
※TOEIC Preparation 3		1	
※TOEIC Preparation 4		1	
※Study Abroad Preparation		1	
※English Culture A		1	
※English Culture B		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Management in English		2	
※Tourism in English		2	
※Marketing in English		2	
※International Business in English		2	
※Information Technology in Business in English		2	
※Basic Accounting in English		2	
※Advanced Accounting in English		2	
※Information and Communication Theory in English		2	
※Business Ethics in English		2	
※Economics in English		2	

ＩＩＰの履修について

（1） ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2） ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3） ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩ

Ｐ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（４）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（５）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（６）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

別表（１）―４

理工学部授業科目表

△印は選択必修科目。＊印の科目は別欄の修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
（人間性・社会性科目群）			
自校学習		1	
人権と社会１		＊２	
人権と社会２		＊２	
暮らしのなかの憲法		＊２	
住みよい社会と福祉		＊２	
現代社会と法		＊２	
環境と社会		＊２	
資源とエネルギー		＊２	
技術と倫理		＊２	
企業倫理と知的財産		＊２	
教養特殊講義Ａ		2	
（地域性・国際性科目群）			
国際経済と企業の国際化		＊２	
国際化と異文化理解		＊２	
国際社会と日本		＊２	
ビジネスモデルとマネジメント		＊２	
メディアの読み方		＊２	
教養特殊講義Ｂ		2	
（課題設定・問題解決科目群）			
日本語の技法		＊２	
基礎ゼミ１	2		
基礎ゼミ２	2		
キャリアデザイン		＊２	
科学的問題解決法		＊２	
プレゼンテーション技術		＊２	

情報処理基礎	1		
教養特殊講義Ｃ		2	
（スポーツ・表現活動科目群）			
生涯スポーツ１		1	
生涯スポーツ２		1	
健康とスポーツの科学		2	
食生活と健康		＊２	
［外国語科目］（第一）			
英語演習１	2		
英語演習２	2		
ＴＯＥＩＣ１	1		
ＴＯＥＩＣ２	1		
ライティング１		1	
ライティング２		1	
科学技術英語１		1	
科学技術英語２		1	
オーラルイングリッシュ１	1		
オーラルイングリッシュ２	1		
オーラルイングリッシュ３		1	
オーラルイングリッシュ４		1	
アカデミックリーディング１		1	
アカデミックリーディング２		1	
海外語学研修（英語）		2	
［外国語科目］（第二）			
ドイツ語総合１		1	
ドイツ語総合２		1	
ドイツ語総合３		1	
ドイツ語総合４		1	
フランス語総合１		1	
フランス語総合２		1	
フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
海外語学研修（中国語）		2	
韓国語総合１		1	
韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
海外語学研修（韓国語）		2	
ロシア語１			1
ロシア語２			1
海外語学研修（ロシア語）		2	

〔英語科目修得内訳表〕

選択必修科目名（単位）	履修条件
ライティング１、ライティング２、科学技術英語１、科学技術英語２、オーラルイングリッシュ３、オーラルイングリッシュ４	・２単位以上を修得 ・オーラルイングリッシュ３、オーラルイングリッシュ４のうちから１単位以上修得。 ・ライティング１、ライティング２、科学技術英語１、科学技術英語２のうちから１単位以上修得。

〔応用化学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
日本語の技法（２）、科学技術英語１（１）、科学技術英語２（１）

選択必修科目名（単位）	修得単位数
国際経済と企業の国際化（２）、国際化と異文化理解（２）、国際社会と日本（２）、メディアの読み方（２）	２単位以上
人権と社会１（２）、暮らしのなかの憲法（２）、住みよい社会と福祉（２）、現代社会と法（２）、環境と社会（２）	２単位以上
企業倫理と知的財産（２）、ビジネスモデルとマネジメント（２）	２単位以上
資源とエネルギー（２）、科学的問題解決法（２）	２単位以上

〔電気電子通信工学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
技術と倫理（２）

選択必修科目名（単位）	修得単位数
国際経済と企業の国際化（２）、国際化と異文化理解（２）、国際社会と日本（２）、ビジネスモデルとマネジメント（２）、メディアの読み方（２）	４単位以上

〔社会環境工学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
技術と倫理（２）

選択必修科目名（単位）	修得単位数
人権と社会１（２）、人権と社会２（２）、暮らしの中の憲法（２）、住みよい社会と福祉（２）、現代社会と法（２）、環境と社会（２）、資源とエネルギー（２）、企業倫理と知的財産（２）、国際経済と企業の国際化（２）、国際化と異文化理解（２）、国際社会と日本（２）、ビジネスモデルとマネジメント（２）、メディアの読み方（２）	２単位以上

〔エネルギー物質学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
技術と倫理（２）

理学科

＊印はコースごとの必修科目を、△印はコースごとの選択必修科目を、□印はコースごとの自由選択科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		＊△３	
物理学および演習		＊△３	
物理学概論および演習Ⅰ		□△３	
物理学概論および演習Ⅱ		□△３	
基礎化学および演習		□３	

化学		□２	
基礎生物学		△２	
生物学		△２	
微分積分学Ⅰ		＊△２	
微分積分学Ⅱ		＊△２	
線形代数学Ⅰ		＊△２	
線形代数学Ⅱ		＊△２	
情報処理演習		１	
情報処理実習Ⅰ		１	
情報処理実習Ⅱ		１	
インターンシップ		２	
社会奉仕実習		１	
情報システム基礎			２
情報システム応用			２
［専門科目］			
数学講究（１）		＊２	
基礎幾何学		２	
線形数学（１）		＊４	
基礎解析学（１）		＊４	
数学講究（２）		＊２	
プログラミング基礎		１	
力学Ⅰ		＊２	
力学Ⅱ		２	
基礎物理学実験Ⅰ		＊△２	
力学解法Ⅰ		２	
化学のための数学演習		△１	
基礎無機化学		＊２	
基礎有機化学		＊２	
基礎物理化学		＊２	
化学実験Ⅰ		＊３	
基礎分析化学		△２	
基礎有機化学演習		＊２	
数学講究（３）		＊２	
線形数学（２）		２	
基礎解析学（２）		２	
集合と位相（１）		２	
集合と位相（２）		２	
計算機実習（１）		２	
数学講究（５）		＊２	
群論（１）		２	
群論（２）		２	
複素解析学（１）		２	
微分方程式論（１）		２	
微分方程式論（２）		２	
計算機実習（２）		１	
基礎物理学実験Ⅱ		＊２	

電磁気学Ⅰ		＊２		
電磁気学Ⅱ		２		
物理数学Ⅰ		２		
物理数学Ⅱ		２		
物理学実験Ⅰ		３		
計算物理学Ⅰ		２		
計算物理学Ⅱ		２		
データ解析		２		
エレクトロニクス		２		
解析力学		２		
電磁気学解法Ⅰ		２		
電磁気学解法Ⅱ		２		
化学実験Ⅱ		＊３		
化学情報処理		△２		
基礎無機化学演習		＊２		
基礎物理化学演習		＊２		
反応有機化学Ⅱ		△２		
基礎分析化学演習		△１		
化学実験Ⅲ		＊３		
典型元素の化学		△２		
環境化学		△２		
機器分析化学		△２		
反応有機化学Ⅰ		△２		
基礎生化学		△２		
化学熱力学および演習		△３		
数学講究（７）		＊２		
代数学（１）		４		
幾何学（１）		４		
実解析学（１）		４		
複素解析学（２）		４		
数理統計学（１）		２		
数学講究（８）		＊２		
代数学（２）		４		
幾何学（２）		４		
実解析学（２）		４		
数理統計学（２）		２		
実験数理解析		１		
物理学実験Ⅱ		３		
放射線物理学		２		
相対論		２		
卒業研究ゼミナール		＊１		
化学実験Ⅳ		＊３		
遷移元素の化学		２		
応用機器分析化学		２		
電子移動の化学		２		
高分子化学		２		

反応物理化学		△２		
物性物理化学		２		
量子化学および演習		△３		
錯体化学		２		
化学実験Ｖ		＊３		
生物無機化学		２		
構造物理化学		２		
生物有機化学		２		
合成有機化学		２		
化学教科教育演習		１		
生物物理化学		２		
超分子化学		△２		
グリーンケミストリー		△２		
現代数学（１）		△２		
現代数学（２）		△２		
応用数学（１）		△２		
応用数学（２）		△２		
現代数学（３）		△２		
現代数学（４）		△２		
現代数学（５）		△２		
物性物理学		２		
素粒子物理学		２		
宇宙物理学		２		
卒業研究	８			
特別講義		△１		
教科教育演習		１		
環境分析化学		２		
分光物性化学		２		
分子生物化学		△２		
情報と社会		２		
情報と職業		２		
生物学実験		１		
地学概論Ⅰ		２		
地学概論Ⅱ		２		
地学実験		１		
情報理論		２		
言語理論とオートマトン		２		
オペレーティングシステム		２		
データ構造とアルゴリズムⅠ		２		
データ構造とアルゴリズムⅡ		２		
データベース論Ⅰ		２		
コンピュータグラフィックス		２		
画像処理		２		
通信方式		２		
ネットワーク工学		２		
数学講究（４）		＊２		

数学講究（６）		＊２	
物理学最前線		２	
科学論文		２	
熱力学		２	
振動と波動		＊２	
振動と波動解法		２	
ミクロの物理学		＊２	
ミクロの物理学解法		２	
物理数学Ⅲ		２	
物理数学Ⅳ		２	
現代物理学Ⅰ		２	
現代物理学Ⅱ		２	
現代物理学Ⅲ		２	
現代物理学Ⅳ		２	
現代物理学Ⅴ		２	
量子力学Ⅰ		＊２	
量子力学Ⅱ		２	
量子力学解法Ⅰ		２	
量子力学解法Ⅱ		２	
統計力学Ⅰ		＊２	
統計力学Ⅱ		２	
統計力学解法Ⅰ		２	
統計力学解法Ⅱ		２	
化学実験		１	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			８
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔理学科コース別必修科目修得内訳表〕

数学コース

必修科目名〔単位〕
〔基礎科目〕 微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕 〔専門科目〕 数学講究（１）〔２〕、数学講究（２）〔２〕、線形数学（１）〔４〕、基礎解析学（１）〔４〕、数学講究（３）〔２〕、数学講究（４）〔２〕、数学講究（５）〔２〕、数学講究（６）〔２〕、数学講究（７）〔２〕、数学講究（８）〔２〕

物理学コース

必修科目名〔単位〕
〔専門科目〕

基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、基礎物理学実験Ⅰ〔２〕、力学Ⅰ〔２〕、電磁気学Ⅰ〔２〕、振動と波動〔２〕、基礎物理学実験Ⅱ〔２〕、ミクロの物理学〔２〕、量子力学Ⅰ〔２〕、統計力学Ⅰ〔２〕、卒業研究ゼミナール〔１〕

化学コース

必修科目名〔単位〕
〔専門科目〕 基礎無機化学〔２〕、基礎有機化学〔２〕、基礎物理化学〔２〕、化学実験Ⅰ〔３〕、基礎有機化学演習〔２〕、化学実験Ⅱ〔３〕、基礎無機化学演習〔２〕、基礎物理化学演習〔２〕、化学実験Ⅲ〔３〕、卒業研究ゼミナール〔１〕、化学実験Ⅳ〔３〕、化学実験Ⅴ〔３〕

〔理学科コース別選択必修科目修得内訳表〕

数学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔専門科目〕 現代数学(１)〔２〕、現代数学(２)〔２〕、現代数学(３)〔２〕、現代数学(４)〔２〕、現代数学(５)〔２〕、応用数学(１)〔２〕、応用数学(２)〔２〕	２単位以上

化学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕、基礎生物学〔２〕、生物学〔２〕、微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕	８単位以上
〔専門科目〕 化学のための数学演習〔１〕、典型元素の化学〔２〕、基礎分析化学〔２〕、反応有機化学Ⅰ〔２〕、化学熱力学および演習〔３〕、化学情報処理〔２〕、基礎分析化学演習〔１〕、反応有機化学Ⅱ〔２〕、基礎生化学〔２〕、反応物理化学〔２〕、量子化学および演習〔３〕、機器分析化学〔２〕、環境化学〔２〕、分子生物化学〔２〕、基礎物理学実験Ⅰ〔２〕、超分子化学〔２〕、グリーンケミストリー〔２〕、特別講義〔１〕	22単位以上

〔理学科コース別自由選択科目修得内訳表〕

化学コース

自由選択科目名（単位）
〔基礎科目〕 基礎化学および演習〔３〕、化学〔２〕

物理学コース

自由選択科目名（単位）
〔基礎科目〕 物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕

生命科学科

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		３	
物理学および演習		３	
物理学概論および演習Ⅰ		３	
物理学概論および演習Ⅱ		３	
基礎化学および演習		３	

化学		2	
基礎生物学		2	
生物学		2	
微分積分学Ⅰ		2	
微分積分学Ⅱ		2	
線形代数学Ⅰ		2	
線形代数学Ⅱ		2	
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
［専門科目］			
生命科学数理演習		2	
生命科学序論	2		
化学実験	3		
生物学実験	3		
一般化学		2	
代謝生化学		2	
生物有機化学		2	
生命科学実験	3		
環境科学実験	3		
物理学実験			2
細胞生物学		2	
分子生物学		2	
薬理学		2	
生物物理化学		2	
機器分析化学		2	
微生物学		2	
医学概論		2	
生命科学英語		1	
分子生物学実験	3		
細胞生物学実験	3		
卒業研究ゼミナール	1		
発生生物学		2	
ゲノム解析		2	
解剖生理学		2	
食品化学		2	
食品衛生学		2	
免疫生物学		2	
神経科学		2	
公衆衛生学		2	
生命倫理		2	
卒業研究	8		

病理学		2	
栄養学		2	
教科教育演習			1
情報と社会			2
情報と職業			2
地学概論Ⅰ			2
地学概論Ⅱ			2
地学実験			1
有機化学		2	
生化学		2	
遺伝子工学		2	
内分泌学		2	
バイオ・環境計測技術演習		1	
アドバンストリサーチ		1	
分析化学		2	
生命科学演習	1		
生物統計学		2	
バイオインフォマティクス		2	
分子遺伝病態学		2	
医療情報学		2	
生命科学ゼミナールⅠ		1	
生命科学ゼミナールⅡ		1	
生命科学コミュニケーション		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

教職課程を履修し修了見込みの場合、「教職指定科目」を８単位まで専門科目の選択科目として単位数に加算できる。

応用化学科

△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	

基礎生物学		△２	
生物学		△２	
微分積分学Ⅰ	２		
微分積分学Ⅱ	２		
線形代数学Ⅰ	２		
線形代数学Ⅱ		△２	
情報処理演習		１	
情報処理実習Ⅰ		△１	
情報処理実習Ⅱ		△１	
インターンシップ		２	
社会奉仕実習		１	
情報システム基礎			２
情報システム応用			２
［専門科目］			
応用化学実験Ⅰ	３		
応用化学実験Ⅱ	３		
基礎化学結合論	２		
化学技術者倫理	２		
物理化学Ⅰ	２		
無機化学Ⅰ	２		
有機化学Ⅰ	２		
物理化学Ⅱ	２		
無機化学Ⅱ	２		
有機化学Ⅱ	２		
分析化学	２		
物理学実験	２		
応用化学実験Ⅲ	３		
化学数学	２		
応用化学実験Ⅳ	３		
化学熱力学	２		
環境工学		△２	
界面化学		２	
高分子化学		２	
有機構造化学		２	
錯体化学	２		
応用化学実験Ⅴ	３		
応用化学実験Ⅵ	３		
量子化学	２		
化学平衡論	２		
安全工学	２		
エネルギー工学		△２	
化学速度論		２	
応用化学セミナー	２		
卒業研究ゼミナール		１	
有機化学反応論	２		
無機合成化学		２	

有機合成化学		2	
有機金属化学		2	
有機構造解析	2		
化学工学Ⅰ	2		
化学工学Ⅱ	2		
化学情報処理基礎	1		
卒業研究	8		
教科教育演習		1	
分光学Ⅰ		2	
分光学Ⅱ		2	
バイオテクノロジー		2	
酵素反応論		2	
アドバンスト有機化学		2	
アドバンスト無機化学		2	
アドバンスト物理化学		2	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
実験デザインⅠ	1		
実験デザインⅡ	1		
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔応用化学科選択必修科目修得内訳表〕

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎生物学（２）、生物学（２）、線形代数学Ⅱ（２）、情報処理実習Ⅰ（１）、情報処理実習Ⅱ（１）	２単位以上
基礎物理学および演習（３）、物理学および演習（３）、物理学概論および演習Ⅰ（３）、物理学概論および演習Ⅱ（３）	３単位以上
環境工学（２）、エネルギー工学（２）	２単位以上

機械工学科

＊印はコースごとの必修科目を、△印はコースごとの選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	

物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		２	
生物学		２	
微分積分学Ⅰ		△２	
微分積分学Ⅱ		△２	
線形代数学Ⅰ		△２	
線形代数学Ⅱ		△２	
情報処理演習		△１	
情報処理実習Ⅰ		△１	
情報処理実習Ⅱ		△１	
インターンシップ		△２	
社会奉仕実習		１	
情報システム基礎			２
情報システム応用			２
［専門科目］			
図学および機械製図	１		
工業材料		２	
機械工作法		２	
機械製図基礎演習	１		
流れ学の基礎	２		
材料力学の基礎	２		
機械加工実習	１		
金属加工実習		１	
工業力学		２	
電気電子回路		２	
物理学実験	１		
流れ学演習実験	１		
材料力学演習実験	１		
機械製図演習	１		
機械要素設計		２	
制御工学の基礎		＊２	
機械力学の基礎		＊２	
微分方程式		△２	
機構学		２	
計測工学		２	
材料工学演習実験		＊１	
メカトロニクス		２	
デジタル回路		２	
応用解析		△２	
設計製図の基礎	１		
熱力学の基礎		＊２	
機械力学		＊２	
機械設計		２	

制御工学		＊２	
機械工学実験	1		
流体工学		＊２	
材料力学		＊２	
機械加工学		2	
プログラミング実習		＊△１	
材料組織学		2	
数理計画法		△２	
数学解析		△２	
熱力学演習実験	1		
機械力学演習実験	1		
設計製図	1		
数値計算法		△１	
制御工学演習実験	1		
構造力学		2	
精密加工学		2	
流体力学		2	
鋳造工学		2	
センシング学		2	
ロボット工学		2	
線形システム制御論		2	
卒業研究ゼミナール	1		
熱力学		2	
ＣＡＥ実習		△１	
確率・統計		＊２	
応用機械製図		＊１	
伝熱工学		＊２	
塑性加工学		2	
振動工学		2	
自動車工学		2	
品質管理		△２	
卒業研究	8		
電気工学実験		1	
基礎幾何学		2	
幾何学（１）		4	
幾何学（２）		4	
木材加工		4	
園芸学（実習を含む）		4	
化学実験		1	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
職業指導			4
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12

理工学国際ゼミナール			8

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔機械工学科コース別必修科目修得内訳表〕

機械工学コース

必修科目名（単位）
材料工学演習実験（１）、確率・統計（２）、応用機械製図（１）、機械力学の基礎（２）、制御工学の基礎（２）、熱力学の基礎（２）、機械力学（２）、制御工学（２）、流体工学（２）、材料力学（２）、伝熱工学（２）

知能機械システムコース

必修科目名（単位）
プログラミング実習（１）

〔機械工学科コース別選択必修科目修得内訳表〕

機械工学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習（３）、物理学および演習（３）、物理学概論および演習Ⅰ（３）、物理学概論および演習Ⅱ（３）、微分積分学Ⅰ（２）、微分積分学Ⅱ（２）、線形代数学Ⅰ（２）、線形代数学Ⅱ（２）、情報処理実習Ⅰ（１）、情報処理実習Ⅱ（１）、情報処理演習（１）、インターンシップ（２）	７単位以上
〔専門科目〕 微分方程式（２）、応用解析（２）、プログラミング実習（１）、数理計画法（２）、数学解析（２）、数値計算法（１）、ＣＡＥ実習（１）、品質管理（２）	５単位以上

知能機械システムコース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習（３）、物理学および演習（３）、物理学概論および演習Ⅰ（３）、物理学概論および演習Ⅱ（３）、微分積分学Ⅰ（２）、微分積分学Ⅱ（２）、線形代数学Ⅰ（２）、線形代数学Ⅱ（２）、情報処理実習Ⅰ（１）、情報処理実習Ⅱ（１）、情報処理演習（１）、インターンシップ（２）	７単位以上

電気電子通信工学科

＊印はコースごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		２	
生物学		２	
微分積分学Ⅰ		△２	

微分積分学Ⅱ		△２		
線形代数学Ⅰ		△２		
線形代数学Ⅱ		△２		
情報処理演習		１		
情報処理実習Ⅰ		１		
情報処理実習Ⅱ		１		
インターンシップ		２		
社会奉仕実習		１		
情報システム基礎			２	
情報システム応用			２	
［専門科目］				
解析学		△２		
電気回路Ⅰ		２		
電気回路Ⅱ	２			
確率統計		△２		
コンピュータ概論		２		
電気法規・施設管理		２		
論理回路		２		
電気計測		２		
基礎電子回路	２			
プログラミング実習Ⅰ	２			
電気物性概論		２		
電気電子通信工学実験	２			
制御工学基礎		２		
プログラミング実習Ⅱ		１		
アナログ電子回路		２		
電磁気学Ⅰ	２			
電気電子材料		２		
電磁気学Ⅱ	２			
エネルギー変換工学		２		
発電工学		２		
電子情報通信実験		＊３		
卒業研究ゼミナール	１			
通信方式		２		
電磁波工学		２		
電磁気学Ⅲ		２		
アルゴリズムとデータ構造		２		
制御工学		２		
画像・映像工学		２		
ネットワーク工学		２		
光・レーザー工学		２		
半導体工学		２		
ディジタル電子回路		２		
総合エレクトロニクス実験		＊３		
エレクトロニクス関連機器		２		
シミュレーション工学実習		１		

光通信工学		2	
エンジニアリングデザイン実験	2		
卒業研究	8		
移動体通信工学		2	
電波関係法規		2	
ＣＡＤ実習		2	
パワーエレクトロニクス		2	
ものづくり実習		2	
ものづくり概論		2	
電気回路Ⅲ		2	
電気回路Ⅳ		2	
電気数学		△２	
エネルギー伝送工学		2	
高電圧・プラズマ工学		2	
情報理論		2	
電気電子通信工学概論		2	
電気電子通信工学実習	1		
ディジタル回路設計実習		2	
木材加工		4	
金属加工		4	
機械工学実験		1	
園芸学（実習を含む）		4	
職業指導		4	
情報と社会		2	
情報と職業		2	
線形数学（１）		4	
線形代数（２）		2	
群論（１）		2	
群論（２）		2	
基礎幾何学		2	
幾何学（１）		4	
幾何学（２）		4	
数学解析		2	
基礎解析学（１）		4	
基礎解析学（２）		2	
数値計算法		1	
情報数学		2	
数理論理学		2	
計算論		2	
物理学実験		1	
化学実験		1	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
エンジニアリングデザイン実習			12

国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
エレクトリックヴィークル		2	
オプティクス		2	
センサー工学		2	
再生可能エネルギー工学		2	
メカトロニクス		2	
電力工学実習		1	
ナノエレクトロニクス		2	
信号処理論		2	
機械学習システム		2	
分析工学		2	
音響工学		2	
組込みシステム概論		2	
組込みシステム実習		1	
オプトエレクトロニクス		2	
量子コンピューティング		2	
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔電気電子通信工学科コース別必修科目修得内訳表〕

電子情報通信コース

必修科目名（単位）
電子情報通信実験（３）

総合エレクトロニクスコース

必修科目名（単位）
総合エレクトロニクス実験（３）

〔選択必修科目一覧表〕

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習（３）、物理学および演習（３）、物理学概論および演習Ⅰ（３）、物理学概論および演習Ⅱ（３）	３単位以上
微分積分学Ⅰ（２）、微分積分学Ⅱ（２）、線形代数学Ⅰ（２）、線形代数学Ⅱ（２）	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
確率統計確率統計（２）、解析学（２）、電気数学（２）	４単位以上

社会環境工学科

△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］ 基礎物理学および演習		△３	

物理学および演習		3	
物理学概論および演習Ⅰ		△3	
物理学概論および演習Ⅱ		3	
基礎化学および演習		△3	
化学		2	
基礎生物学		△2	
生物学		2	
微分積分学Ⅰ		△2	
微分積分学Ⅱ		△2	
線形代数学Ⅰ		△2	
線形代数学Ⅱ		△2	
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
［専門科目］			
構造力学Ⅰ	2		
構造力学Ⅰ演習	1		
基礎水理学	2		
基礎水理学演習	1		
数値計算法		2	
応用水理学	2		
応用水理学演習	1		
社会環境工学概論	2		
建設材料学	2		
測量学		△2	
測量学実習		△1	
土質力学	2		
土質力学演習	1		
地盤工学	2		
地盤工学演習	1		
製図基礎		2	
建設施工法		2	
構造力学Ⅱ	2		
構造力学Ⅱ演習	1		
都市環境デザイン論		2	
ＣＡＤ演習		1	
社会基盤計画学	2		
社会基盤計画学演習	1		
まちづくり調査法	2		
道路工学		2	
衛生工学	2		
土木製図		2	

応用物理学		2	
建設工学実験		△2	
環境工学実験		△2	
卒業研究ゼミナール	1		
建設リサイクル工学		2	
河川工学		2	
防災工学		2	
ユニバーサルデザイン		2	
メインテナンス工学		2	
交通システム学		2	
総合演習Ⅱ		2	
コンクリート構造学		2	
総合演習Ⅰ	2		
景観工学		2	
都市計画		2	
土木史		2	
環境計測・分析学		2	
生態学		2	
環境システム		2	
環境工学		2	
卒業研究	8		
内外セミナー		1	
教科教育演習		1	
構造力学Ⅲ		2	
鉄筋コンクリート工学		2	
鋼構造学		2	
耐震工学		2	
地盤調査・施工学		2	
海岸工学		2	
機械工学Ⅰ		2	
機械工学Ⅱ		2	
電気工学Ⅰ		2	
電気工学Ⅱ		2	
木材加工		4	
金属加工		4	
機械工学実験		1	
電気工学実験		1	
園芸学（実習を含む）		4	
職業指導			4
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を

合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔選択必修科目一覧表〕

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習（３）、物理学概論および演習Ⅰ（３）、基礎化学および演習（３）、基礎生物学（２）	２単位以上
微分積分学Ⅰ（２）、微分積分学Ⅱ（２）、線形代数学Ⅰ（２）、線形代数学Ⅱ（２）	２単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
測量学（２）、測量学実習（２）、建設工学実験（２）、環境工学実験（２）	５単位以上

エネルギー物質学科

＊印は領域ごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		２	
生物学		２	
微分積分学Ⅰ		△２	
微分積分学Ⅱ		△２	
線形代数学Ⅰ		△２	
線形代数学Ⅱ		△２	
情報処理演習		１	
情報処理実習Ⅰ		１	
情報処理実習Ⅱ		１	
インターンシップ		２	
社会奉仕実習		１	
情報システム基礎			２
情報システム応用			２
［専門科目］			
化学数学演習	１		
物理数学演習	１		
数理解析演習	１		
基礎化学情報処理	１		
数理情報処理	１		
インフォマティックス実習	１		
エネルギー工学演習		１	
機器分析化学演習		１	
計測物理学演習		１	
エネルギー物質概論	２		
エネルギー物質物理学概論	２		

エネルギー物質化学概論	2			
次世代インフラエネルギー概論	2			
基礎エネルギー物理学	2			
基礎環境エネルギー科学	2			
エネルギー物質化学１	2			
エネルギー物質化学２	2			
量子化学	2			
ライフデバイスエネルギー物理学	2			
基礎電子デバイス物理学	2			
基礎生体物理学	2			
バイオエネルギー工学		2		
基礎物理学実験	1			
基礎化学実験	1			
エネルギー物質化学実験	2			
エネルギー物質物理学実験１	2			
エネルギー物質物理学実験２	2			
エネルギー物質生物学実験	2			
エネルギー物質ゼミ１	1			
エネルギー物質ゼミ２	1			
エネルギー物質ゼミ３	1			
エネルギー物質ゼミ４	1			
卒業研究ゼミナール	1			
卒業研究	8			
物質熱力学		＊△２		
量子線物理・工学		＊△２		
エネルギー発電・伝送工学		＊△２		
原子エネルギー物理・工学		＊△２		
水素エネルギー工学		＊△２		
原子核物理学		＊△２		
インフラマテリアル工学		＊△２		
高電圧プラズマ物理・工学		＊△２		
放射化学		＊△２		
機能材料化学		＊△２		
生体物質化学		＊△２		
分子反応化学		＊△２		
分子機能化学		＊△２		
高分子材料工学		＊△２		
計算生体物質化学		＊△２		
光電子機能化学		＊△２		
量子分子工学		＊△２		
分子デバイス工学		＊△２		
電子デバイス物理学		＊△２		
生物センサ概論		＊△２		
生物メカニクス概論		＊△２		
熱機関物理学		＊△２		
光電変換デバイス工学		＊△２		
生体情報工学		＊△２		
生物デバイス工学		＊△２		
生物メカニクス工学		＊△２		
エネルギー変換工学		＊△２		

地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔エネルギー物質学科領域別必修科目修得内訳表〕

次世代インフラエネルギー領域

必修科目名（単位）
物質熱力学〔２〕、量子線物理・工学〔２〕、エネルギー発電・伝送工学〔２〕、原子エネルギー物理・工学〔２〕、水素エネルギー工学〔２〕、原子核物理学〔２〕、インフラマテリアル工学〔２〕、高電圧プラズマ物理・工学〔２〕、放射化学〔２〕

マテリアル創製領域

必修科目名（単位）
機能材料化学〔２〕、生体物質化学〔２〕、分子反応化学〔２〕、分子機能化学〔２〕、高分子材料工学〔２〕、計算生体物質化学〔２〕、光電子機能化学〔２〕、量子分子工学〔２〕、分子デバイス工学〔２〕

ライフデバイスエネルギー領域

必修科目名（単位）
電子デバイス物理学〔２〕、生物センサ概論〔２〕、生物メカニクス概論〔２〕、熱機関物理学〔２〕、光電変換デバイス工学〔２〕、生体情報工学〔２〕、生物デバイス工学〔２〕、生物メカニクス工学〔２〕、エネルギー変換工学〔２〕

〔エネルギー物質学科領域別選択必修科目修得内訳表〕

次世代インフラエネルギー領域

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕	３単位以上
微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
機能材料化学〔２〕、生体物質化学〔２〕、分子反応化学〔２〕、分子機能化学〔２〕	２単位以上
高分子材料工学〔２〕、計算生体物質化学〔２〕、光電子機能化学〔２〕、量子分子工学〔２〕、分子デバイス工学〔２〕	２単位以上
電子デバイス物理学〔２〕、生物センサ概論〔２〕、生物メカニクス概論〔２〕、熱機関物理学〔２〕	２単位以上
光電変換デバイス工学〔２〕、生体情報工学〔２〕、生物デバイス工学〔２〕、生物メカニクス工学〔２〕、エネルギー変換工学〔２〕	２単位以上

マテリアル創製領域

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕	３単位以上
微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
物質熱力学〔２〕、量子線物理・工学〔２〕、エネルギー発電・伝送工学〔２〕、原子エネルギー物理・工学〔２〕	２単位以上
水素エネルギー工学〔２〕、原子核物理学〔２〕、インフラマテリアル工学〔２〕、高電圧プラズマ物理・工学〔２〕、放射化学〔２〕	２単位以上
電子デバイス物理学〔２〕、生物センサ概論〔２〕、生物メカニクス概論〔２〕、熱機関物理学〔２〕	２単位以上
光電変換デバイス工学〔２〕、生体情報工学〔２〕、生物デバイス工学〔２〕、生物メカニクス工学〔２〕、エネルギー変換工学〔２〕	２単位以上

ライフデバイスエネルギー領域

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕	３単位以上
微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
物質熱力学〔２〕、量子線物理・工学〔２〕、エネルギー発電・伝送工学〔２〕、原子エネルギー物理・工学〔２〕	２単位以上
水素エネルギー工学〔２〕、原子核物理学〔２〕、インフラマテリアル工学〔２〕、高電圧プラズマ物理・工学〔２〕、放射化学〔２〕	２単位以上
機能材料化学〔２〕、生体物質化学〔２〕、分子反応化学〔２〕、分子機能化学〔２〕	２単位以上
高分子材料工学〔２〕、計算生体物質化学〔２〕、光電子機能化学〔２〕、量子分子工学〔２〕、分子デバイス工学〔２〕	２単位以上

別表（１）―５

建築学部授業科目表

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
自校学習		1	
教養特殊講義Ａ		2	
現代社会と法		2	
環境と社会		2	
技術と倫理		2	
人権と社会１		2	
住みよい社会と福祉		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	

資源とエネルギー		2		
企業倫理と知的財産		2		
国際化と異文化理解		2		
ビジネスモデルとマネジメント		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
国際社会と日本		2		
国際経済と企業の国際化		2		
メディアの読み方		2		
基礎ゼミ１	2			
基礎ゼミ２	2			
教養特殊講義Ｃ		2		
日本語の技法		2		
キャリアデザイン		2		
プレゼンテーション技術		2		
健康とスポーツの科学		2		
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
［外国語科目］（第一）				
英語演習１	1			
英語演習２	1			
英語演習３	1			
英語演習４	1			
英語演習５		1		
英語演習６		1		
イングリッシュ・スキルズＡ１	1			
イングリッシュ・スキルズＡ２	1			
イングリッシュ・スキルズＡ３	1			
イングリッシュ・スキルズＡ４	1			
イングリッシュ・スキルズＢ１		1		
イングリッシュ・スキルズＢ２		1		
イングリッシュ・スキルズＢ３		1		
イングリッシュ・スキルズＢ４		1		
留学英語		1		
［外国語科目］（第二）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		

韓国語総合１		1	
韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
［基礎科目］			
情報処理基礎	1		
建築概論	2		
基礎製図	3		
スケッチ表現		2	
基礎数学	2		
物理学及び演習	3		
情報処理実習１		1	
建築基礎演習	3		
３Ｄ・ＣＡＤ演習	2		
建築構法	2		
数学概論		2	
情報処理実習２		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	

建築工学専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
静定構造力学２	2		
静定構造力学演習２		1	
不静定構造力学	2		
コンクリート構造	2		
鋼構造	2		
不静定構造力学演習		1	
建築材料	2		
木質構造		2	
建築施工	2		
建築地盤・基礎構造		2	
コンクリート構造演習		1	
鋼構造演習		1	
建築構造実験		2	
耐震耐風工学	2		
環境工学概論	2		
音・光環境	2		
熱・空気環境	2		
建築設備概論	2		
環境演習		2	
建築設備各論		2	
建築環境実験		2	
環境設備計画		2	
建築設計概論	2		

住宅計画	2		
建築設計論	2		
設計演習Ⅰ	3		
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
近代建築史	2		
設計演習Ⅱ	3		
建築計画各論	2		
現代都市計画		2	
日本建築史		2	
設計演習Ⅲ	2		
建築行政	2		
西洋建築史		2	
設計演習Ⅳ		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

建築デザイン専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
静定構造力学２	2		
静定構造力学演習２		1	
不静定構造力学	2		
コンクリート構造	2		
鋼構造	2		
不静定構造力学演習		1	
建築材料	2		
建築施工	2		
構造設計総論		2	
環境工学概論	2		
音・光環境	2		
熱・空気環境	2		
建築設備概論	2		
建築設備各論		2	
環境設備計画		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
建築設計論	2		
設計演習Ⅰ	3		
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
近代建築史	2		

設計演習Ⅱ	3		
設計演習Ⅲ	2		
建築デザイン論	2		
建築計画各論		2	
現代都市計画		2	
日本建築史		2	
建築デザイン演習Ⅰ		2	
建築行政	2		
スタジオ設計Ⅰ	2		
ランドスケープデザイン論		2	
インテリアデザイン論		2	
西洋建築史		2	
建築プロジェクトデザイン論		2	
建築デザイン演習Ⅱ		2	
設計演習Ⅳ		2	
スタジオ設計Ⅱ		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

住宅建築専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
構造力学演習		2	
構造概論	2		
建築材料	2		
住宅構造学	2		
建築施工	2		
環境工学概論	2		
音・光環境		2	
熱・空気環境		2	
建築設備概論	2		
住宅環境性能論		2	
住宅設備	2		
環境都市・建築論		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
設計演習Ⅰ	3		
建築設計論		2	
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	
建築史概論	2		
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
企画マネジメント総論	2		
設計演習Ⅱ	3		
現代ハウジング	2		

住文化論		2	
近代建築史		2	
居住管理論	2		
住宅都市計画演習	2		
建築デザイン論		2	
現代都市計画		2	
建築行政	2		
住宅実務設計演習	2		
ランドスケープデザイン論		2	
インテリアデザイン論		2	
福祉住居論	2		
土地建物調査法		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

企画マネジメント専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
構造力学演習		2	
構造概論	2		
建築材料	2		
住宅構造学		2	
建築施工		2	
環境工学概論	2		
音・光環境		2	
熱・空気環境		2	
建築設備概論	2		
環境都市・建築論		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
設計演習Ⅰ	3		
建築設計論		2	
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	
建築史概論	2		
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
企画マネジメント総論	2		
設計演習Ⅱ	3		
現代ハウジング	2		
近代建築史		2	
建築計画各論		2	
建築生産論	2		
現代都市計画	2		
建築企画演習Ⅰ	2		

建築デザイン論		2	
居住管理論	2		
建築行政	2		
まちづくり論	2		
建築マネジメントⅠ	2		
建築企画演習Ⅱ	2		
保存修景計画		2	
建築マネジメントⅡ		2	
土地建物調査法		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

卒業要件及び履修方法

共通教養科目から14単位以上（必修科目４単位）、外国語科目から14単位以上（必修科目８単位）及び専門科目から96単位以上（必修科目　建築工学専攻・建築デザイン専攻78単位、住宅建築専攻・企画マネジメント専攻76単位）修得し、124単位以上修得すること。

別表（１）―６

薬学部授業科目表

医療薬学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】			
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代経済の課題		2	
自校学習		2	
教養特殊講義Ａ		2	
生活環境科学		2	
日本語の技法		2	
国際化と異文化理解		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
基礎ゼミ	2		
基礎数学		2	
情報科学入門		2	
物理学概論		2	
教養特殊講義Ｃ		2	
生涯スポーツ１		1	
生涯スポーツ２		1	
【専門基礎科目】			
基礎化学		2	
基礎生物学		2	
化学入門		2	

生物学入門		2	
【外国語科目】			
［英語］			
英語演習１	2		
英語演習２	2		
英語演習３	1		
英語演習４	1		
オーラルイングリッシュ１		1	
オーラルイングリッシュ２		1	
オーラルイングリッシュ３		1	
オーラルイングリッシュ４		1	
ＴＯＥＩＣＡ		1	
ＴＯＥＩＣＢ		1	
ＴＯＥＦＬ　Ａ		1	
ＴＯＥＦＬ　Ｂ		1	
ライティングＡ		1	
ライティングＢ		1	
［初修外国語］			
ドイツ語総合１		1	
ドイツ語総合２		1	
ドイツ語総合３		1	
ドイツ語総合４		1	
ドイツ語コミュニケーション１		1	
ドイツ語コミュニケーション２		1	
ドイツ語コミュニケーション３		1	
ドイツ語コミュニケーション４		1	
フランス語総合１		1	
フランス語総合２		1	
フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
フランス語コミュニケーション１		1	
フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	

＜履修方法＞

共通教養科目から基礎ゼミ（必修）２単位を含んで14単位以上、専門基礎科目から６単位以上、外国語科目から英語８単位（必修６単位含む）を含んで12単位以上、合計32単位以上修得しなければならない。

医療薬学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【専門科目】			
［Ⅰ群］			
（化学系）			
基礎有機化学		1.5	
有機化学１		1.5	
基礎分析化学		1.5	
薬用資源学		1.5	
基礎物理化学		1.5	
物理化学		1.5	
有機化学２		1.5	
機器分析学		1.5	
天然物薬化学		1.5	
生物有機化学		1.5	
物理薬剤学		1	
構造分析化学		1.5	
製剤学		1.5	
食品衛生学		1.5	
医薬品化学		1.5	
合成化学		1.5	
（生物系）			
解剖組織学		1.5	
基礎生化学		1.5	
人体生理学１		1.5	
分子薬理学		1.5	
人体生理学２		1.5	
生化学		1.5	
細胞生物学		1.5	
微生物学		1.5	
衛生化学		1.5	
免疫学		1.5	
分子ゲノム薬科学		1.5	
先端ゲノム医療		1.5	
環境衛生学		1.5	
保健衛生学		1.5	
［Ⅱ群］			
薬学概論	1.5		
生命倫理	1.5		
薬理学１	1.5		
病理学	1.5		
病態生理学１	1.5		
疾患と薬物治療法１	1.5		
基礎医療薬学	1.5		
医薬品情報学	1.5		
薬物動態学１	1.5		

医薬連携学習	1		
調剤学	1.5		
ファーマシューティカルケア	1.5		
医療・薬事関係法規１	1.5		
臨床医学概論	1.5		
医療薬学総論	1.5		
実践病態と治療	1.5		
臨床薬物動態学	1.5		
地域医療	1.5		
薬効薬理処方解析	1.5		
放射化学		1	
薬理学２		1.5	
薬学統計学		1.5	
病態生理学２		1.5	
漢方薬学		1.5	
日本薬局方		1.5	
化学療法学		1.5	
病態検査学		1.5	
薬物速度論		1.5	
薬物動態学２		1.5	
疾患と薬物治療法２		1.5	
疾患と薬物治療法３		1.5	
薬と経済		1.5	
治験		1.5	
医療・薬事関係法規２		1.5	
がん治療学医薬看連携講義		1.5	
【専門英語】			
基礎生物学英語		1.5	
基礎化学英語		1.5	
生物学英語		1.5	
臨床薬学英語		1.5	
【自由選択科目】			
応用物理学			1.5
物理学実習			1.5
香粧品学			1.5
【実習・演習】			
情報科学実習１	1		
情報科学実習２	1		
基礎薬科学実習	2		
早期体験学習	2		
医薬品物性・製剤学実習	2		
免疫・分子生物学実習	2		
有機化学・生薬学実習	2		
衛生化学・放射化学実習	2		
薬効薬物動態解析実習	2		
総合薬学研究１	2		

総合薬学研究２	2		
フィジカルアセスメント	1		
実務実習事前学習	7		
総合演習１	4		
臨床薬学実務実習	20		
総合薬学研究３	4		
総合薬学演習	4		
総合演習２	6		

＜履修方法＞

専門科目は必修科目28単位以上、Ⅰ群選択必修科目から37単位以上、Ⅱ群選択必修科目から20.5単位以上、専門英語から4.5単位以上、実習・演習科目から66単位以上、合計156単位以上修得しなければならない。

創薬科学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】			
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代経済の課題		2	
自校学習		2	
教養特殊講義Ａ		2	
生活環境科学		2	
日本語の技法		2	
国際化と異文化理解		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
基礎ゼミ	2		
基礎数学		2	
情報科学入門		2	
キャリアデザインⅠ	1		
教養特殊講義Ｃ		2	
生涯スポーツ１	1		
生涯スポーツ２	1		
【専門基礎科目】			
基礎化学	2		
基礎生物学	2		
化学入門	2		
生物学入門	2		
化学熱力学	2		
基礎分析化学	2		
【外国語科目】			
［英語］			
英語演習１	2		
英語演習２	2		

英語演習３	2		
英語演習４	2		
オーラルイングリッシュ１	1		
オーラルイングリッシュ２	1		
オーラルイングリッシュ３	1		
オーラルイングリッシュ４	1		
ＴＯＥＩＣ　Ａ		1	
ＴＯＥＩＣ　Ｂ		1	
ＴＯＥＦＬ　Ａ		1	
ＴＯＥＦＬ　Ｂ		1	
ライティングＡ		1	
ライティングＢ		1	
［初修外国語］			
ドイツ語総合１		1	
ドイツ語総合２		1	
ドイツ語総合３		1	
ドイツ語総合４		1	
ドイツ語コミュニケーション１		1	
ドイツ語コミュニケーション２		1	
ドイツ語コミュニケーション３		1	
ドイツ語コミュニケーション４		1	
フランス語総合１		1	
フランス語総合２		1	
フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
フランス語コミュニケーション１		1	
フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	

＜履修方法＞

共通教養科目から基礎ゼミ、生涯スポーツ１・２、キャリアデザインⅠ（必修）５単位を含んで12単位以上、専門基礎科目から12単位以上、外国語科目から英語演習１・２・３・４、オーラルイングリッシュ１・２・３・４（必修）英語12単位を含んで14単位以上、合計38単位以上修得しなければならない。

創薬科学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【専門科目】 ［必修科目］			

薬学概論	1.5			
基礎有機化学	1.5			
解剖組織学	1.5			
薬用資源学	1.5			
有機化学１	1.5			
基礎生化学	1.5			
人体生理学１	1.5			
化学演習	1			
生物学演習	1			
分子薬理学	1.5			
創薬インフォマティクス演習	1			
薬物動態学	1.5			
製剤学	1.5			
グローバル創薬科学演習	1			
創薬プレゼン実践演習初級	1			
専門科学英語演習	1			
創薬プレゼン実践演習上級	1			
［選択必修科目（創薬化学系）］				
有機化学２		1.5		
薬学物理化学		1.5		
分析化学		1.5		
構造分析化学		1.5		
創薬物理化学		1.5		
有機反応化学		1.5		
メディシナルケミストリー		1.5		
生物有機化学		1.5		
製剤工学		1.5		
構造活性相関		1.5		
［選択必修科目（生物薬科学系）］				
微生物学		1.5		
細胞生物学		1.5		
バイオ・ゲノム薬科学		1.5		
免疫学		1.5		
生化学		1.5		
ゲノム創薬と再生医療		1.5		
薬理学１		1.5		
薬理学２		1.5		
化学療法学		1.5		
［選択Ｉ］				
物理学概論		1.5		
薬学統計学		1.5		
天然物薬化学		1.5		
食品薬学		1.5		
食品衛生学		1.5		
環境衛生学		1.5		
漢方薬学		1.5		

日本薬局方		1.5	
衛生化学		1.5	
［選択Ⅱ］			
人体生理学２		1.5	
病態生理学１		1.5	
放射化学		1.5	
病理学		1.5	
病態生理学２		1.5	
生体成分分析化学		1.5	
病態検査学		1.5	
［選択Ⅲ］			
新創薬科学研究コース１		1.5	
新創薬科学研究コース２		1.5	
インターンシップ		1.5	
海外研修グローバル創薬コース		1.5	
香粧品学		1.5	
医薬品開発産学連携講座		1.5	
実践科学英語演習		1	
【専門英語】			
基礎生物学英語		1.5	
基礎化学英語		1.5	
生物学英語		1.5	
化学英語		1.5	
科学英語		1.5	
プレゼンテーション英語		1.5	
【自由選択科目】			
応用物理学			1.5
生命倫理			1.5
物理学実習			1.5
疾患と薬物治療法１			1.5
疾患と薬物治療法２			1.5
臨床検査学			1.5
創薬科学実習４			2
臨床検査学総論１			2
臨床生理学			1.5
臨床検査学総論２			2
臨床検査学総論実習			4
臨床化学実習			3
臨床生理学実習			4
【実習・研究】			
情報科学実習１	1		
情報科学実習２	1		
基礎薬科学実習	2		
創薬科学実習１	2		
創薬科学実習２	3		
創薬科学実習３	5		

卒業研究	16		

＜履修方法＞

専門科目は必修科目から22単位、選択必修科目のうち創薬化学系から12単位・生命薬科学系から10.5単位、選択科目Ⅰから4.5単位以上、選択科目Ⅱから３単位以上、選択科目Ⅲから４単位以上、専門英語から7.5単位以上、実習・研究科目から30単位、合計93.5単位以上修得しなければならない。

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

授業科目	単位数
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1

別表（１）―７

文芸学部授業科目表

共通教養科目

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】			
（人間性・社会性科目群）			
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
現代の社会論		2	
哲学と人間・社会		2	
住みよい社会と福祉		2	
自校学習		2	
教養特殊講義Ａ		2	
（地域性・国際性科目群）			
地域と環境の地理学		2	
国際経済入門		2	
国際社会と日本		2	
国際化と異文化理解		2	
日本文学論		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
（課題設定・問題解決科目群）			
基礎ゼミ	2		
生命の科学		2	
思考の技術		2	
キャリアデザイン１		2	
キャリアデザイン２		2	
科学・技術と社会		2	
数的リテラシー基礎１		2	
数的リテラシー基礎２		2	
コンピュータ実習１	2		
コンピュータ実習２		2	
教養特殊講義Ｃ		2	

（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
日本語の表現		2		
心と体の健康		2		
身体論		2		
芸術と表現		2		
【第一外国語科目（英語）】				
英語１Ａ	1			
英語１Ｂ	1			
英語２Ａ	1			
英語２Ｂ	1			
オーラルイングリッシュ１	1			
オーラルイングリッシュ２	1			
英語３	1			
英語４	1			
オーラルイングリッシュ３		1		
オーラルイングリッシュ４		1		
留学英語１		1		
留学英語２		1		
ＴＯＥＩＣ　１		1		
ＴＯＥＩＣ　２		1		
ＴＯＥＩＣ　３		1		
ＴＯＥＩＣ　４		1		
ＴＯＥＦＬ　１		1		
ＴＯＥＦＬ　２		1		
インターネット英語１		1		
インターネット英語２		1		
ＥＳＰ　１		1		
ＥＳＰ　２		1		
［第二外国語科目］				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
ドイツ語コミュニケーション１		1		
ドイツ語コミュニケーション２		1		
ドイツ語コミュニケーション３		1		
ドイツ語コミュニケーション４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
フランス語コミュニケーション１		1		
フランス語コミュニケーション２		1		
フランス語コミュニケーション３		1		

フランス語コミュニケーション４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	
韓国語総合１		1	
韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
韓国語コミュニケーション１		1	
韓国語コミュニケーション２		1	
韓国語コミュニケーション３		1	
韓国語コミュニケーション４		1	
イタリア語総合１		1	
イタリア語総合２		1	
イタリア語総合３		1	
イタリア語総合４		1	
イタリア語コミュニケーション１		1	
イタリア語コミュニケーション２		1	
スペイン語総合１		1	
スペイン語総合２		1	
スペイン語総合３		1	
スペイン語総合４		1	
スペイン語コミュニケーション１		1	
スペイン語コミュニケーション２		1	

＜履修方法＞

共通教養科目から必修科目を含み20単位以上、外国語科目から英語（必修科目を含む）10単位を含み14単位以上、合計34単位以上修得すること。

また、文学科英語英米文学専攻については英語10単位を除外し、合計24単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文学科　日本文学専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【必修科目】			
（コース共通）			
専門基礎研究	2		
文学概論１	2		
文学概論２	2		
日本文学史１	2		
日本文学史２	2		
卒業論文・卒業制作	4		
［コース必修］			
（言語・文学コース）			

フィールド・ワーク	1			
アカデミック・ライティング	1			
［演習］				
（言語・文学コース）				
言語・文学演習１Ａ	1			
言語・文学演習１Ｂ	1			
言語・文学演習２Ａ	1			
言語・文学演習２Ｂ	1			
［コース必修］				
（創作・評論コース）				
クリエイティヴ・ライティング１	1			
クリエイティヴ・ライティング２	1			
［演習］				
（創作・評論コース）				
創作・評論演習１Ａ	1			
創作・評論演習１Ｂ	1			
創作・評論演習２Ａ	1			
創作・評論演習２Ｂ	1			
【選択必修科目】				
［選択必修科目Ｉ（コース共通）］				
［言語・文学系（Ａ群）］				
※文学のジャンル１		2		
※文学のスタイル１		2		
古典への招待１		2		
古典への招待２		2		
作家論		2		
作品論		2		
※翻訳文学		2		
※日本語学概論		2		
※日本語文法		2		
［選択必修科目Ⅱ］				
（言語・文学コース）				
☆文学のジャンル２		2		
☆文学のスタイル２		2		
☆上代・中世作品講読		2		
☆中世・近世作品講読		2		
☆近代文学講読		2		
☆現代文学講読		2		
☆※上代の思想と表現		2		
☆※中古の思想と表現		2		
☆※中世の思想と表現		2		
☆※近世の思想と表現		2		
☆近代表現史論		2		
☆現代表現史論		2		
☆※日本語史論１		2		
☆※日本語史論２		2		

☆※社会言語学１		2		
☆※社会言語学２		2		
☆テクストクリティーク		2		
日本語研究１		2		
日本語研究２		2		
文学テクストの読み方１		2		
文学テクストの読み方２		2		
［選択必修科目Ｉ（コース共通）］				
［創作・評論系（Ｂ群）］				
※創作基礎１		2		
※創作基礎２		2		
※批評理論１		2		
※批評理論２		2		
芸術と文学		2		
映画史		2		
メディア論		2		
翻訳基礎		2		
※編集基礎		2		
［選択必修科目Ⅱ］				
（創作・評論コース）				
☆※創作技法１		2		
☆※創作技法２		2		
☆※文芸批評１		2		
☆※文芸批評２		2		
☆現代思想１		2		
☆現代思想２		2		
☆外国文学		2		
☆※映像と文学１		2		
☆※映像と文学２		2		
☆比較文学		2		
☆※推理小説論		2		
☆マスメディア論		2		
☆ジャーナリズム論		2		
☆※編集技法		2		
☆※編集・出版論		2		
創作研究		2		
評論研究		2		
編集研究		2		
【コース共通選択科目】				
※映像・芸術基礎１		2		
※映像・芸術基礎２		2		
※古典と現代１		2		
※古典と現代２		2		
文芸特殊講義１		2		
文芸特殊講義２		2		
※日本語音声学		2		

※日本語教育文法		2	
※日本語教授法１		2	
※日本語教授法２		2	
※映像・芸術論１		2	
※映像・芸術論２		2	
※演劇・芸能論１		2	
※演劇・芸能論２		2	
文芸特殊講義３		2	
文芸特殊講義４		2	
※書誌学１		2	
※書誌学２		2	
書道		2	
※日本語特殊講義１		2	
※日本語特殊講義２		2	
※手話学１		2	
※手話学２		2	
※日本語教授法３		2	
※日本語教授法４		2	
文芸特殊講義５		2	
文芸特殊講義６		2	
※漢文学１		2	
※漢文学２		2	
文芸特殊講義７		2	
文芸特殊講義８		2	
※関西文化研究		2	
※大阪文芸研究		2	
【自由選択科目】			
留学プログラムⅠ		2	
留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

言語・文学コースは、必修科目20単位、選択必修科目Ⅰから12単位以上、選択必修科目Ⅱから26単位以上、必修科目と選択必修科目及びコース共通選択科目を合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

創作・評論コースは、必修科目20単位、選択必修科目Ⅰから12単位以上、選択必修科目Ⅱから26単位以上、必修科目と選択必修科目及びコース共通選択科目を合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

他コースの☆印の科目は、コース共通選択科目に加算することができる。

文芸学部授業科目表

文学科　英語英米文学専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【必修科目】			
（英語英米文学コース）			
ＳｐｅａｋｉｎｇＩＡ	2		
ＳｐｅａｋｉｎｇＩＢ	2		
ＬｉｓｔｅｎｉｎｇＩＡ	2		

ＬｉｓｔｅｎｉｎｇＩＢ	２			
ＴｕｔｏｒｉａｌＩ	２			
Ｒｅａｄｉｎｇ ａｎｄ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ａ	２			
Ｒｅａｄｉｎｇ ａｎｄ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ｂ	２			
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌｓ Ａ	１			
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌｓ Ｂ	１			
ＳｐｅａｋｉｎｇⅡＡ	２			
ＳｐｅａｋｉｎｇⅡＢ	２			
ＬｉｓｔｅｎｉｎｇⅡＡ	２			
ＬｉｓｔｅｎｉｎｇⅡＢ	２			
Ｂａｓｉｃ Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ａ	２			
Ｂａｓｉｃ Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ｂ	２			
ＴｕｔｏｒｉａｌⅡＡ	２			
ＴｕｔｏｒｉａｌⅡＢ	２			
Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ａ	２			
Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ｂ	２			
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ａ	２			
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ｂ	２			
Ｅｎｇｌｉｓｈ ＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎＩＡ	２			
Ｅｎｇｌｉｓｈ ＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎＩＢ	２			
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ａ	２			
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ｂ	２			
ＳｅｍｉｎａｒＩＡ	２			
ＳｅｍｉｎａｒＩＢ	２			
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈＩＡ	２			
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈＩＢ	２			
ＳｅｍｉｎａｒⅡＡ	２			
ＳｅｍｉｎａｒⅡＢ	２			
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈⅡＡ	２			
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈⅡＢ	２			
Ｅｎｇｌｉｓｈ ＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎⅡ	２			
Ｇｒａｄｕａｔｅ Ｓｔｕｄｙ	４			
【選択必修科目】				
［Ａ］				
Ｃｈｉｌｄｒｅｎ’ｓ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ａ		２		
Ｃｈｉｌｄｒｅｎ’ｓ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ｂ		２		
Ａｎｇｌｏ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ａ		２		
Ａｎｇｌｏ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ｂ		２		
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ａ		２		
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ｂ		２		
Ｌｉｔｅｒａｒｙ ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎＩＡ		２		
Ｌｉｔｅｒａｒｙ ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎＩＢ		２		
Ｓｔｕｄｙ Ａｂｒｏａｄ Ｐｒｏｇｒａｍｍｅ		２		
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ａ		２		
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ｂ		２		
Ｍｅｄｉｅｖａｌ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ａ		２		

Ｍｅｄｉｅｖａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		２	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ａ		２	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ｂ		２	
Ｌｉｔｅｒａｒｙ　ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎⅡＡ		２	
Ｌｉｔｅｒａｒｙ　ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎⅡＢ		２	
［Ｂ］			
Ｄｒａｍａ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ａ		２	
Ｄｒａｍａ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ｂ		２	
Ｐｏｅｔｒｙ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ａ		２	
Ｐｏｅｔｒｙ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ｂ		２	
Ｃｕｌｔｕｒｅ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		２	
Ｃｕｌｔｕｒｅ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		２	
Ｅａｒｌｙ　Ｃｈｉｌｄｈｏｏｄ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ａ		２	
Ｅａｒｌｙ　Ｃｈｉｌｄｈｏｏｄ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ｂ		２	
【選択科目】			
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ　Ａ		２	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ　Ｂ		２	
※Ｇｌｏｂａｌ　Ｉｓｓｕｅｓ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ		２	
※Ｆｉｌｍ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		２	
※Ｆｉｌｍ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		２	
Ｐｒａｃｔｉｃａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ａ		２	
Ｐｒａｃｔｉｃａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｂ		２	
ＴＯＥＩＣ　Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａ		２	
ＴＯＥＩＣ　Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｂ		２	
【自由選択科目】			
Ｉｎｔｅｒｎｓｈｉｐ		２	

＜履修方法＞

必修科目66単位、選択必修科目のＡから18単位以上、Ｂから８単位以上、選択科目から６単位以上を含む98単位以上、計100単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

芸術学科　舞台芸術専攻

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
※演劇概論	２		
舞台芸術特別演習Ⅳ	２		
【指定必修科目Ｉ】			
（基礎科目Ｉ）			
身体と発声Ａ		１	
身体と発声Ｂ		１	
舞台表現基礎実習Ａ		１	
舞台表現基礎実習Ｂ		１	
舞踊表現基礎実習ＩＡ		１	
舞踊表現基礎実習ＩＢ		１	
（基礎科目Ⅱ）			
パフォーマンス研究Ａ		２	

パフォーマンス研究Ｂ		2		
※日本芸能概論Ａ		2		
※日本芸能概論Ｂ		2		
※戯曲の読み方		2		
※戯曲創作研究１		2		
【指定必修科目Ⅱ】				
演劇創作実習１Ａ		1		
演劇創作実習１Ｂ		1		
演劇創作実習２Ａ		1		
演劇創作実習２Ｂ		1		
演劇創作実習３		1		
舞踊創作実習１		1		
舞踊創作実習２		1		
身体表現実習		1		
※戯曲創作研究２Ａ		2		
※戯曲創作研究２Ｂ		2		
※日本作家作品論Ａ		2		
※日本作家作品論Ｂ		2		
※伝統芸能作品研究Ａ		2		
※伝統芸能作品研究Ｂ		2		
【指定必修科目Ⅲ】				
演劇創作演習１Ａ		2		
演劇創作演習１Ｂ		2		
演劇創作演習２		2		
演劇創作演習３		2		
舞踊創作演習１		2		
舞踊創作演習２		2		
身体表現演習		2		
舞踊表現演習		2		
戯曲創作研究３Ａ		2		
戯曲創作研究３Ｂ		2		
演劇芸能研究Ａ		2		
演劇芸能研究Ｂ		2		
戯曲分析研究		2		
アカデミック・ライティング		2		
舞台芸術研究		2		
※ＴＯＰ論Ａ		2		
※ＴＯＰ論Ｂ		2		
【指定必修科目Ⅳ】				
［卒業研究①］				
卒業研究ＩＡ		2		
卒業研究ＩＢ		2		
演劇卒業公演		4		
［卒業研究②］				
卒業研究ⅡＡ		2		
卒業研究ⅡＢ		2		

舞踊卒業公演		4		
［卒業研究③］				
卒業研究ⅢＡ		2		
卒業研究ⅢＢ		2		
卒業戯曲創作		4		
［卒業研究④］				
卒業研究ⅣＡ		2		
卒業研究ⅣＢ		2		
卒業論文		4		
【専攻選択科目】				
文章表現		2		
文章創作		2		
※アーツマネージメント論Ａ		2		
※アーツマネージメント論Ｂ		2		
舞台技術基礎実習Ｉ１		1		
舞台技術基礎実習Ｉ２		1		
舞台技術基礎実習Ⅱ１		1		
舞台技術基礎実習Ⅱ２		1		
舞台芸術特別実習Ｉ		1		
舞台芸術特別演習Ｉ		2		
※舞台芸術特論Ｉ		2		
舞踊表現基礎実習ⅡＡ		1		
舞踊表現基礎実習ⅡＢ		1		
※戯曲論Ａ		2		
※戯曲論Ｂ		2		
演出・演技論Ａ		2		
演出・演技論Ｂ		2		
舞台照明実習１		1		
舞台照明実習２		1		
音響効果実習１		1		
音響効果実習２		1		
舞台美術実習１		1		
舞台美術実習２		1		
映像表現実習Ａ		1		
映像表現実習Ｂ		1		
伝統芸能実習ＩＡ		1		
伝統芸能実習ＩＢ		1		
伝統芸能実習ⅡＡ		1		
伝統芸能実習ⅡＢ		1		
舞台衣裳実習１		1		
舞台衣裳実習２		1		
音楽実習Ｉ		1		
※世界舞踊史Ａ		2		
※世界舞踊史Ｂ		2		
※世界映画史Ａ		2		
※世界映画史Ｂ		2		

※舞台芸術批評論Ａ		2	
※舞台芸術批評論Ｂ		2	
舞台芸術特別実習Ⅱ		1	
舞台芸術特別演習Ⅱ		2	
※舞台芸術特論Ⅱ		2	
音楽実習Ⅱ		1	
映像表現演習		2	
舞台美術実習３		1	
舞台美術実習４		1	
※日本演劇史Ａ		2	
※日本演劇史Ｂ		2	
演劇教育演習Ａ		2	
演劇教育演習Ｂ		2	
※世界演劇史Ａ		2	
※世界演劇史Ｂ		2	
舞台芸術特別実習Ⅲ		1	
舞台芸術特別演習Ⅲ		2	
※舞台芸術特論Ⅲ		2	
舞台芸術特別実習Ⅳ		1	
※舞台芸術特論Ⅳ		2	
日本語学概論		2	
日本語史論１		2	
日本語史論２		2	
書道		2	
【自由選択科目】			
留学プログラムⅠ		2	
留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目から４単位、指定必修科目Ⅰの基礎科目Ⅰから２単位以上、基礎科目Ⅱから４単位以上、指定必修科目Ⅱから８単位以上、指定必修科目Ⅲから４単位以上、指定必修科目Ⅳから８単位以上、指定必修科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ及び専攻選択科目を合わせて76単位以上、合計90単位以上を修得すること。

文芸学部授業科目表

芸術学科　造形芸術専攻

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
作品鑑賞Ａ	2		
作品鑑賞Ｂ	2		
卒業制作・卒業論文	4		
ゼミナールⅠＡ	4		
ゼミナールⅠＢ	4		
ゼミナールⅡＡ	4		
ゼミナールⅡＢ	4		
ゼミナールⅢＡ	4		
ゼミナールⅢＢ	4		
ゼミナールⅣＡ	4		

ゼミナールⅣＢ	4			
【選択必修科目】				
【選択必修科目Ｉ】				
※日本美術史Ａ		2		
※日本美術史Ｂ		2		
※西洋美術史Ａ		2		
※西洋美術史Ｂ		2		
※現代美術論Ａ		2		
※現代美術論Ｂ		2		
※アジア美術史		2		
※思想と表現（東洋）		2		
※思想と表現（西洋）		2		
【選択必修科目Ⅱ】				
デッサン基礎演習Ｉ		2		
デッサン基礎演習Ⅱ		2		
平面基礎演習Ａ		2		
平面基礎演習Ｂ		2		
立体基礎演習Ａ		2		
立体基礎演習Ｂ		2		
【選択必修科目Ⅲ】				
色彩学		2		
デザイン製図		2		
デザイン概論Ａ		2		
デザイン概論Ｂ		2		
工芸史Ａ		2		
工芸史Ｂ		2		
彫塑		2		
コンピュータグラフィックス演習ＩＡ		2		
コンピュータグラフィックス演習ＩＢ		2		
コンピュータグラフィックス演習ⅡＡ		2		
コンピュータグラフィックス演習ⅡＢ		2		
【選択必修科目Ⅳ】				
素材と表現Ｉ		2		
素材と表現Ⅱ		2		
素材と表現Ⅲ		2		
素材と表現Ⅳ		2		
【選択必修科目Ｖ】				
※絵画論		2		
※立体造形論		2		
※陶芸論		2		
※染織論		2		
※ガラス造形論		2		
※版画論		2		
※グラフィックアート論		2		
※イラストレーション論		2		
※日本彫刻史論		2		

【選択必修科目Ⅵ】			
造形プロジェクト演習ＩＡ		2	
造形プロジェクト演習ＩＢ		2	
造形プロジェクト演習ⅡＡ		2	
造形プロジェクト演習ⅡＢ		2	
造形特別プログラムＩＡ		2	
造形特別プログラムＩＢ		2	
造形特別プログラムⅡＡ		2	
造形特別プログラムⅡＢ		2	
※美術研究ＩＡ		2	
※美術研究ＩＢ		2	
※美術研究ⅡＡ		2	
※美術研究ⅡＢ		2	
【自由選択科目】			
※留学プログラムⅠ		2	
※留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目40単位、選択必修科目の選択必修科目Ｉから10単位以上、Ⅱ・Ⅳ、・Ｖからそれぞれ４単位以上、Ⅲ・Ⅵからそれぞれ６単位以上を含む34単位以上、必修科目と選択必修科目及び学科選択科目を合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文化・歴史学科

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
基礎研究	2		
演習ＩＡ	2		
演習ＩＢ	2		
演習ⅡＡ	2		
演習ⅡＢ	2		
卒業論文	8		
【選択必修科目】			
［基礎科目Ｉ］			
※日本史概説		2	
※世界史概説		2	
※現代学入門		2	
※文化資源学概説		2	
［基礎科目Ⅱ］			
［日本史系］			
日本古代史講読Ａ		2	
日本古代史講読Ｂ		2	
日本中世史講読Ａ		2	
日本中世史講読Ｂ		2	
日本近世史講読Ａ		2	
日本近世史講読Ｂ		2	
日本近現代史講読Ａ		2	
日本近現代史講読Ｂ		2	

［世界史系］				
西洋史講読ⅠＡ		2		
西洋史講読ⅠＢ		2		
西洋史講読ⅡＡ		2		
西洋史講読ⅡＢ		2		
東洋史講読Ａ		2		
東洋史講読Ｂ		2		
古代エジプト史講読Ａ		2		
古代エジプト史講読Ｂ		2		
［現代文化・倫理系］				
現代文化講読ⅠＡ		2		
現代文化講読ⅠＢ		2		
現代文化講読ⅡＡ		2		
現代文化講読ⅡＢ		2		
現代倫理講読ⅠＡ		2		
現代倫理講読ⅠＢ		2		
現代倫理講読ⅡＡ		2		
現代倫理講読ⅡＢ		2		
［文化資源学系］				
考古学講読Ａ		2		
考古学講読Ｂ		2		
文化資源学講読Ａ		2		
文化資源学講読Ｂ		2		
民俗学実習Ａ		2		
民俗学実習Ｂ		2		
［発展科目Ⅰ］				
※日本民俗学		2		
※環境民俗論		2		
※日本考古学Ａ		2		
※日本考古学Ｂ		2		
※人文地理学Ａ		2		
※人文地理学Ｂ		2		
※地誌学Ａ		2		
※地誌学Ｂ		2		
※近畿現代文化探索		2		
※近畿歴史文化探索		2		
※世界の文化資源		2		
※近畿の文化資源		2		
※女性学・男性学Ａ		2		
※女性学・男性学Ｂ		2		
※宗教学Ａ		2		
※宗教学Ｂ		2		
［発展科目Ⅱ］				
［日本史系］				
※日本古代史Ａ		2		
※日本古代史Ｂ		2		

※日本中世史Ａ		2		
※日本中世史Ｂ		2		
※日本近世史Ａ		2		
※日本近世史Ｂ		2		
※日本近現代史Ａ		2		
※日本近現代史Ｂ		2		
※日本思想史Ａ		2		
※日本思想史Ｂ		2		
［世界史系］				
※西洋史Ａ		2		
※西洋史Ｂ		2		
※西洋文化史ＩＡ		2		
※西洋文化史ＩＢ		2		
※西洋文化史ⅡＡ		2		
※西洋文化史ⅡＢ		2		
※東洋史Ａ		2		
※東洋史Ｂ		2		
※東洋文化史ＩＡ		2		
※東洋文化史ＩＢ		2		
※東洋文化史ⅡＡ		2		
※東洋文化史ⅡＢ		2		
※古代エジプト史Ａ		2		
※古代エジプト史Ｂ		2		
［現代文化・倫理系］				
※環境倫理学		2		
※生命倫理学		2		
※文化社会学Ａ		2		
※文化社会学Ｂ		2		
※現代人間学Ａ		2		
※現代人間学Ｂ		2		
※身体装飾論		2		
※情報と文化Ａ		2		
※情報と文化Ｂ		2		
※音楽文化論		2		
※文化人類学Ａ		2		
※文化人類学Ｂ		2		
［文化資源学系］				
※歴史考古学Ａ		2		
※歴史考古学Ｂ		2		
考古学実習Ａ		2		
考古学実習Ｂ		2		
地域調査実習Ａ		2		
地域調査実習Ｂ		2		
文化探索実習		1		
文化活用・発信実習Ⅰ		2		
文化活用・発信実習Ⅱ		2		

文化資源学自由研究		2	
【学科選択科目】			
※自然地理学Ａ		2	
※自然地理学Ｂ		2	
※政治学原論Ａ		2	
※政治学原論Ｂ		2	
※文化学特講Ａ		2	
※文化学特講Ｂ		2	
※言語文化セミナー初級		2	
※言語文化セミナーＡ		2	
※言語文化セミナーＢ		2	
【自由選択科目】			
留学プログラムⅠ		2	
留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目14単位、選択必修科目（基礎科目Ⅰ２単位、基礎科目Ⅱ４単位以上、発展科目Ⅰ及び発展科目Ⅱから32単位以上を含む。）及び学科選択科目から66単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文化デザイン学科

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
感性学概論	2		
デザイン学概論	2		
プロデュース学概論	2		
ゼミナールⅠＡ	2		
ゼミナールⅠＢ	2		
ゼミナールⅡＡ	4		
ゼミナールⅡＢ	4		
ゼミナールⅢＡ	4		
ゼミナールⅢＢ	4		
ゼミナールⅣＡ	4		
ゼミナールⅣＢ	4		
卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト	4		
【選択必修科目】			
【感性学系】			
※西洋芸術文化史Ａ		2	
※西洋芸術文化史Ｂ		2	
※日本芸術文化史Ａ		2	
※日本芸術文化史Ｂ		2	
※感性文化論		2	
視覚文化論		2	
※表象文化論		2	
※近畿風土論		2	
感性学特論Ⅰ		2	
感性学特論Ⅱ		2	
感性学特論Ⅲ		2	

【デザイン系】			
デザイン感覚基礎Ａ		2	
デザイン感覚基礎Ｂ		2	
※デザイン史Ａ		2	
※デザイン史Ｂ		2	
※空間デザイン論		2	
視覚デザイン論		2	
プロダクトデザイン論		2	
ソーシャルデザイン論		2	
デザイン学特論Ⅰ		2	
デザイン学特論Ⅱ		2	
デザイン学特論Ⅲ		2	
【プロデュース系】			
アートコミュニケーション論Ａ		2	
アートコミュニケーション論Ｂ		2	
プロデューサー論Ａ		2	
プロデューサー論Ｂ		2	
※文化政策論		2	
※劇場文化論		2	
※地方創生論		2	
※ソーシャルメディア論		2	
プロデュース学特論Ⅰ		2	
プロデュース学特論Ⅱ		2	
プロデュース学特論Ⅲ		2	
【選択科目】			
芸術文化講読Ａ		2	
芸術文化講読Ｂ		2	
プロジェクト演習Ａ		2	
プロジェクト演習Ｂ		2	
プロジェクト演習Ｃ		2	
プロジェクト演習Ｄ		2	
ＤＴＰ演習		2	
３Ｄモデリング演習		2	
ＣＡＤ演習		2	
ＣＡＤ・ＣＧ演習Ａ		2	
ＣＡＤ・ＣＧ演習Ｂ		2	
※広告コミュニケーション論		2	
※知的財産論		2	
【自由選択科目】			
留学プログラムⅠ		2	
留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目38単位、選択必修科目の感性学系、デザイン系及びプロデュース系の３つの系からそれぞれ10単位以上並びに選択科目から４単位以上、必修科目と選択必修科目及び選択科目を合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部（全学科共通）

他学科・他専攻開講科目、他学部開講単位互換科目及びコンソーシアム科目は、合わせて10単位（英語英米文学専攻は２単位）まで自由選択科目の卒業所要単位数に算入することができる。

【他学科・他専攻開講科目】

※印の科目は、文芸学部の他学科・他専攻所属の学生が履修することができる。

授業科目	単位数
【他学部開講単位互換科目】	
（法学部開講科目）	
国際法Ａ（総論）	2
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）	2
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）	2
民法（親族）	2
民法（相続）	2
ジェンダー法Ａ	2
ジェンダー法Ｂ	2
環境法Ａ（環境法概説）	2
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）	2
（経済学部開講科目）	
アメリカ経済論Ⅰ	2
アメリカ経済論Ⅱ	2
中国経済論Ⅰ	2
中国経済論Ⅱ	2
（経営学部開講科目）	
経営学Ａ	2
経営学Ｂ	2
公企業経営論	2
広告論	2
非営利組織経営論	2
ブランド論	2

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定に基づき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）履修配当学年については２学年生以上とする。

別表（１）―８

総合社会学部授業科目表

総合社会学科

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
（人間性・社会性科目群）			
いのちの尊厳		2	
ボランティア論		2	
ボランティア実習		2	
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	

住みよい社会と福祉		2		
芸術鑑賞入門		2		
教養特殊講義Ａ		2		
（地域性・国際性科目群）				
国際化と異文化理解		2		
ことばと文化		2		
国際社会と日本		2		
世界の貧困と格差		2		
グローバル化と経済		2		
地域と環境の地理学		2		
時事教養		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
（課題設定・問題解決科目群）				
基礎ゼミ	2			
日本語の技法		2		
思考の技術		2		
情報処理		2		
基礎数学		2		
キャリアデザインⅠ		2		
キャリアデザインⅡ		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
健康とスポーツの科学		2		
食生活と健康		2		
（学部基礎科目群）				
日本史概論１		2		
日本史概論２		2		
外国史概論１		2		
外国史概論２		2		
地誌学概論１		2		
地誌学概論２		2		
社会学概論		2		
政治学概論		2		
国際政治学概論		2		
法律学概論		2		
倫理学概論		2		
哲学概論		2		
［外国語科目（第一外国語）］				
（英語）				
（基幹科目）				
英語演習１	2			
英語演習２	2			
英語演習３		1		
英語演習４		1		

オーラルイングリッシュ１	1			
オーラルイングリッシュ２	1			
オーラルイングリッシュ３		1		
オーラルイングリッシュ４		1		
（発展科目）				
英語演習５		1		
英語演習６		1		
イングリッシュスペシャルスタディーズ１		1		
イングリッシュスペシャルスタディーズ２		1		
イングリッシュスペシャルスタディーズ３		1		
イングリッシュスペシャルスタディーズ４		1		
資格英語１		1		
資格英語２		1		
資格英語３		1		
資格英語４		1		
アカデミックイングリッシュスキルズ１		1		
アカデミックイングリッシュスキルズ２		1		
アカデミックイングリッシュスキルズ３		1		
アカデミックイングリッシュスキルズ４		1		
アカデミックイングリッシュスキルズ５		1		
アカデミックイングリッシュスキルズ６		1		
海外語学研修（英語）		1		
［外国語科目（第二外国語）］				
（中国語）				
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		
中国語コミュニケーション１		1		
中国語コミュニケーション２		1		
中国語カルチャーセミナーＡ		1		
中国語カルチャーセミナーＢ		1		
中国語コミュニケーション３		1		
中国語コミュニケーション４		1		
海外語学研修（中国語）		1		
［外国語科目（第二外国語）］				
（韓国語）				
韓国語総合１		1		
韓国語総合２		1		
韓国語総合３		1		
韓国語総合４		1		
韓国語コミュニケーション１		1		
韓国語コミュニケーション２		1		
韓国語カルチャーセミナーＡ		1		
韓国語カルチャーセミナーＢ		1		
韓国語コミュニケーション３		1		

韓国語コミュニケーション４		1		
海外語学研修（韓国語）		1		
［外国語科目（第二外国語）］				
（ドイツ語）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
ドイツ語コミュニケーション１		1		
ドイツ語コミュニケーション２		1		
ドイツ語カルチャーセミナーA		1		
ドイツ語カルチャーセミナーB		1		
ドイツ語コミュニケーション３		1		
ドイツ語コミュニケーション４		1		
［外国語科目（第二外国語）］				
（フランス語）				
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
フランス語コミュニケーション１		1		
フランス語コミュニケーション２		1		
フランス語カルチャーセミナーA		1		
フランス語カルチャーセミナーB		1		
フランス語コミュニケーション３		1		
フランス語コミュニケーション４		1		
［学部共通コア科目］				
総合社会学演習	2			
総合社会学概論A	2			
総合社会学概論B	2			
［社会・マスメディア系専攻領域］				
（専門基礎科目）				
日本語文章力養成A		2		
日本語文章力養成B		2		
社会調査法A		2		
社会調査法B		2		
社会システム論A		2		
社会システム論B		2		
国際社会学		2		
メディア概論A		2		
メディア概論B		2		
現場からの放送論		2		
現場からの新聞論		2		
社会学総論A		2		
社会学総論B		2		
グローバルヒストリー		2		

地理学概論		2		
現代政治概論		2		
経済学概論		2		
国際開発協力論		2		
科学的思考法		2		
時事総論Ａ		2		
時事総論Ｂ		2		
基礎講読（鑑賞）Ａ	2			
基礎講読（鑑賞）Ｂ	2			
（専門発展科目Ⅰ）				
ＮＰＯ論／ＮＧＯ論		2		
多文化共生論		2		
環境民俗論		2		
地域社会論		2		
社会学史		2		
現代文化論		2		
現代社会論Ａ		2		
現代社会論Ｂ		2		
国際関係論		2		
国際理解教育		2		
文化人類学		2		
情報と社会		2		
ネットワーク論		2		
リスクアセスメント		2		
広告論		2		
広報論		2		
映像制作演習		2		
映像表現論Ａ		2		
映像表現論Ｂ		2		
ジャーナリズム論Ａ		2		
ジャーナリズム論Ｂ		2		
出版論		2		
日本語文章力養成Ｃ		2		
日本語文章力養成Ｄ		2		
量的解析法		2		
質的分析法		2		
社会統計学Ａ		2		
社会統計学Ｂ		2		
社会調査実習Ａ		1		
社会調査実習Ｂ		1		
（専門発展科目Ⅱ）				
（現代社会コース）				
コミュニケーション論		2		
社会ネットワーク分析		2		
ドキュメンタリー制作		2		
地域・コミュニティ開発論		2		

経済と社会		2		
天文学と文明		2		
都市論		2		
国際標準化論		2		
（マスメディアコース）				
芸術メディア論Ａ		2		
芸術メディア論Ｂ		2		
メディア・コンテンツ論		2		
映像表現論Ｃ		2		
映像表現論Ｄ		2		
マスメディア特講Ａ		2		
マスメディア特講Ｂ		2		
（卒業論文・卒業制作科目群）				
演習１Ａ	1			
演習１Ｂ	1			
演習２Ａ	2			
演習２Ｂ	2			
卒業論文・卒業制作	6			
（インターンシップ科目）				
インターンシップⅠ		2		
インターンシップⅡ		2		
インターンシップⅢ		2		
［心理系専攻領域］				
（専門基礎科目）				
心理学概論Ａ	2			
心理学概論Ｂ	2			
心理学研究法	2			
心理学入門		2		
自然科学と心理学		2		
社会科学と心理学		2		
心理学史		2		
心理学統計法１	2			
心理学統計法２		2		
心理学統計法３		2		
心理測定法		2		
実験プログラミング演習		1		
コミュニケーション心理学実習		1		
心理学実験Ａ		2		
心理学実験Ｂ		2		
（専門発展科目Ⅰ）				
知覚心理学		2		
認知心理学		2		
学習行動論		2		
行動発達学		2		
発達心理学		2		
社会心理学		2		

家族心理学		2		
犯罪心理学		2		
健康心理学		2		
産業心理学		2		
臨床心理学概論		2		
（専門発展科目Ⅱ）				
知覚・認知心理学		2		
神経・生理心理学		2		
情報処理心理学		2		
比較行動学		2		
進化心理学		2		
学習・言語心理学		2		
公道・発達心理学		2		
社会・集団・家族心理学		2		
感情・人格心理学		2		
司法・犯罪心理学		2		
教育・学校心理学		2		
障害者・障害児心理学		2		
福祉心理学		2		
健康・医療心理学		2		
産業・組織心理学		2		
人体の構造と機能及び疾病		2		
精神疾患とその治療		2		
心理学的支援法		2		
心理的アセスメント		2		
関係行政論		2		
心理学研究基礎	2			
心理学講読	2			
演習１Ａ	1			
演習１Ｂ	1			
演習２Ａ	2			
演習２Ｂ	2			
卒業論文	6			
（専門特別科目）				
公認心理師の職責		2		
心理演習		2		
心理実習		2		
［環境・まちづくり系専攻領域］				
（専門基礎科目）				
環境・まちづくり概論Ａ	2			
環境・まちづくり概論Ｂ	2			
ポスト近代社会論１		2		
ポスト近代社会論２		2		
都市・地域計画論１		2		
まちづくり論１		2		
地域経済論１		2		

環境政策学１		2		
環境計画論１		2		
自然地理学１		2		
自然環境論１		2		
地球環境論１		2		
地理情報システム１		2		
統計学の基礎		2		
情報リテラシー演習	2			
演習１	2			
演習２	2			
演習３		2		
演習４		2		
卒業研究ゼミナール１	1			
卒業研究ゼミナール２	1			
卒業研究ゼミナール３	2			
卒業研究ゼミナール４	2			
卒業論文	6			
（専門発展科目）				
都市・地域計画論２		2		
都市・地域計画論３		2		
まちづくり論２		2		
まちづくり論３		2		
地域経済論２		2		
地域経済論３		2		
環境政策学２		2		
環境政策学３		2		
資源循環論		2		
環境計画論２		2		
環境計画論３		2		
エネルギー論		2		
環境教育論		2		
自然地理学２		2		
自然地理学３		2		
自然環境論２		2		
地球環境論２		2		
情報と環境・社会		2		
地理情報システム論２		2		
地理情報システム論３		2		
空間情報処理論		2		
デジタル処理演習		2		
地球・環境統計学		2		
地球・環境調査論		2		
数理的思考		2		
ファシリテーション		2		
特別講義１		2		
特別講義２		2		

特別講義３		2	
特別講義４		2	
（インターンシップ科目）			
インターンシップⅠ		2	
インターンシップⅡ		2	
インターンシップⅢ		2	

＜履修方法＞

①卒業に要する単位数は、共通教養科目から24単位以上、外国語科目から18単位以上、学部共通コア科目から６単位以上、専門科目から78単位以上を修得し、共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目、専門科目とあわせて126単位以上を修得しなければならない。ただし、専門特別科目は卒業に要する単位数には加算できない。

②共通教養科目は「人間性・社会性科目群」から４単位以上、「地域性・国際性科目群」から４単位以上、「課題設定・問題解決科目群」から必修科目を含み４単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から２単位以上、「学部基礎科目群」から４単位以上、外国語科目は英語基幹科目から必修科目を含み８単位以上を修得しなければならない。

③専門科目は、専門基礎科目、専門発展科目又は専門発展科目Ⅰ及び専門発展科目Ⅱ、インターンシップ科目から計78単位以上を修得しなければならない。

ただし、社会・マスメディア系専攻では、専門基礎科目から必修科目を含み20単位以上、専門発展科目Ⅰから24単位以上、専門発展科目Ⅱから必修科目12単位以上、現代社会コース又はマスメディアコースから６単位以上を含み22単位以上、心理系専攻では、専門基礎科目のうち「自然科学と心理学」又は「社会科学と心理学」のどちらか一方を修得し、さらに必修科目を含み20単位以上、専門発展科目Ⅰから10単位以上、専門発展科目Ⅱから必修科目を含み36単位以上、環境・まちづくり系専攻では、専門基礎科目から必修科目を含み38単位以上、専門発展科目から18単位以上を修得しなければならない。

④他専攻開講科目は、専門科目の選択科目として単位数に加算できる。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）修得した単位は、４単位まで共通教養科目の単位数に加算することができる。

別表（１）―９

国際学部授業科目表

授業科目名	単位数又は時間数		
	必修	選択	自由
【全学共通科目】			
＜共通教養科目＞			
（人間性・社会性科目群）			
暮らしのなかの憲法		2	
哲学と人間・社会		2	
現代社会と倫理		2	
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
心理と行動		2	
現代の社会論		2	
芸術鑑賞入門		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代社会と法		2	
現代社会と政治		2	

現代経済の課題		2		
教養特殊講義Ａ		2		
（地域性・国際性科目群）				
日本近現代史		2		
世界近現代史		2		
地域と環境の地理学		2		
国際文化研究１		2		
国際文化研究２		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
（課題設定・問題解決科目群）				
基礎ゼミ	2			
ＩＣＴリタラシー１	2			
日本語の技法		2		
キャリアデザイン１		2		
キャリアデザイン２		2		
ＩＣＴリタラシー２		2		
生命の科学		2		
環境科学		2		
思考の技術		2		
基礎数学１		2		
基礎数学２		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
健康とスポーツの科学		2		
＜外国語科目＞				
ＴＯＥＩＣ		2		
フランス語入門Ａ		1		
フランス語入門Ｂ		1		
スペイン語入門Ａ		1		
スペイン語入門Ｂ		1		
ドイツ語入門Ａ		1		
ドイツ語入門Ｂ		1		
韓国語入門Ａ		1		
韓国語入門Ｂ		1		
中国語入門Ａ		1		
中国語入門Ｂ		1		
タイ語入門Ａ		1		
タイ語入門Ｂ		1		
ベトナム語入門Ａ		1		
ベトナム語入門Ｂ		1		
フランス語基礎Ａ		1		
フランス語基礎Ｂ		1		
スペイン語基礎Ａ		1		
スペイン語基礎Ｂ		1		

ドイツ語基礎Ａ		1		
ドイツ語基礎Ｂ		1		
韓国語基礎Ａ		1		
韓国語基礎Ｂ		1		
中国語基礎Ａ		1		
中国語基礎Ｂ		1		
タイ語基礎Ａ		1		
タイ語基礎Ｂ		1		
ベトナム語基礎Ａ		1		
ベトナム語基礎Ｂ		1		
フランス語中級Ａ		1		
フランス語中級Ｂ		1		
スペイン語中級Ａ		1		
スペイン語中級Ｂ		1		
ドイツ語中級Ａ		1		
ドイツ語中級Ｂ		1		
韓国語中級Ａ		1		
韓国語中級Ｂ		1		
中国語中級Ａ		1		
中国語中級Ｂ		1		
タイ語中級Ａ		1		
タイ語中級Ｂ		1		
ベトナム語中級Ａ		1		
ベトナム語中級Ｂ		1		
フランス語上級Ａ		1		
フランス語上級Ｂ		1		
スペイン語上級Ａ		1		
スペイン語上級Ｂ		1		
ドイツ語上級Ａ		1		
ドイツ語上級Ｂ		1		
韓国語上級Ａ		1		
韓国語上級Ｂ		1		
中国語上級Ａ		1		
中国語上級Ｂ		1		
タイ語上級Ａ		1		
タイ語上級Ｂ		1		
ベトナム語上級Ａ		1		
ベトナム語上級Ｂ		1		
総合英語１Ａ		1		
総合英語１Ｂ		1		
総合英語２Ａ		1		
総合英語２Ｂ		1		
総合英語３Ａ		1		
総合英語３Ｂ		1		
総合英語４Ａ		1		
総合英語４Ｂ		1		

【専門科目】				
＜学部共通開講科目＞				
留学セミナー	2			
異文化理解	2			
ＩＥＬＴＳ		1		
日本語教授法１		2		
日本語教授法２		2		
日本語教育実習		2		
日本語学		2		
ビジネスライティング		1		
専門導入セミナー	2			
体験プログラムＡ		2		
体験プログラムＢ		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
英米文学研究		2		
英米文学史		2		
日本語音声学			2	
日本語史論			2	
＜セミナー科目＞				
セミナー１	2			
セミナー２	2			
セミナー３	2			
セミナー４	2			
［専門科目（グローバル専攻）］				
＜言語科目＞				
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ　＆　Ｓｐｅａｋｉｎｇ（文法とスピーキング）	3			
Ｖｏｃａｂｕｌａｒｙ　Ｅｎｒｉｃｈｍｅｎｔ（ボキャブラリー）	2			
Ｒｅａｄｉｎｇ　＆　Ｗｒｉｔｉｎｇ（リーディング・ライティング）	3			
Ｃｏｍｐｕｔｅｒ－ａｓｓｉｓｔｅｄ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ（コンピュータ応用学習）	1			
Ｃａｒｅｅｒ　Ｅｎｇｌｉｓｈ１（キャリア英語１）	1			
Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎ（ディスカッション）	1			
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ １Ａ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ １Ｂ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ １Ｃ		1		
Ｃａｒｅｅｒ　Ｅｎｇｌｉｓｈ２（キャリア英語２）	1			

Ｄｅｂａｔｉｎｇ （ディベート）	1			
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｓｐｅｃｉｆｉｃ Ｐｕｒｐｏｓｅｓ ２Ａ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｓｐｅｃｉｆｉｃ Ｐｕｒｐｏｓｅｓ ２Ｂ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｓｐｅｃｉｆｉｃ Ｐｕｒｐｏｓｅｓ ２Ｃ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｓｐｅｃｉｆｉｃ Ｐｕｒｐｏｓｅｓ ３Ａ	1	1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｓｐｅｃｉｆｉｃ Ｐｕｒｐｏｓｅｓ ３Ｂ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｓｐｅｃｉｆｉｃ Ｐｕｒｐｏｓｅｓ ３Ｃ		1		
Ａｄｖａｎｃｅｄ Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌｓ （プレゼンテーションスキル上級）		1		
Ｎｅｇｏｔｉａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌｓ （交渉のスキル）		1		
＜留学科目＞				
Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｓｋｉｌｌｓ１ （ランゲージスキル１）		2		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ１ （ストラクチャー１）		2		
Ｒｅａｄｉｎｇ１ （リーディング１）		2		
Ｗｒｉｔｉｎｇ１ （ライティング１）		2		
Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｓｋｉｌｌｓ２ （ランゲージスキル２）		2		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ２ （ストラクチャー２）		2		
Ｒｅａｄｉｎｇ２ （リーディング２）		2		
Ｗｒｉｔｉｎｇ２ （ライティング２）		2		
Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｓｋｉｌｌｓ３ （ランゲージスキル３）		2		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ３ （ストラクチャー３）		2		
Ｒｅａｄｉｎｇ３ （リーディング３）		2		
Ｗｒｉｔｉｎｇ３ （ライティング３）		2		
Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｓｋｉｌｌｓ４ （ランゲージスキル４）		2		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ４ （ストラクチャー４）		2		

Ｒｅａｄｉｎｇ４ （リーディング４）		２		
Ｗｒｉｔｉｎｇ４ （ライティング４）		２		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＡ （人文学分野研究Ａ）		４		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＢ （人文学分野研究Ｂ）		４		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＣ （人文学分野研究Ｃ）		４		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＤ （人文学分野研究Ｄ）		４		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＡ （社会学分野研究Ａ）		４		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＢ （社会学分野研究Ｂ）		４		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＣ （社会学分野研究Ｃ）		４		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＤ （社会学分野研究Ｄ）		４		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＡ （国際教養研究Ａ）		４		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＢ （国際教養研究Ｂ）		４		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＣ （国際教養研究Ｃ）		４		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＤ （国際教養研究Ｄ）		４		
Ｎａｔｕｒａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＡ （自然科学分野研究Ａ）		４		
Ｎａｔｕｒａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＢ （自然科学分野研究Ｂ）		４		
＜専門基礎科目＞				
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （言語学の基礎）		２		
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （コミュニケーション学）		２		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｓｏｃｉａｌ　Ａｃｔｉｏｎ （ソーシャルアクション入門）		２		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ａｓｉａ （アジア学入門）		２		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ａｒｅａ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （地域研究入門）		２		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｅｎｖｉｒｏｎｍｅｎｔ　ａｎｄ　Ｓｏｃｉｅｔｙ （環境と社会入門）		２		

Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ （文学研究入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｓｕｓｔａｉｎａｂｌｅ Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ Ｇｏａｌｓ （ＳＤＧｓ入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｃｕｌｔｕｒａｌ Ｓｅｍｉｏｔｉｃｓ （文化記号論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｒｅｌａｔｉｏｎｓ （国際関係入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｇｌｏｂａｌ Ｃｏｅｘｉｓｔｅｎｃｅ Ｓｔｕｄｉｅｓ （グローバル共生論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｌａｎｇｕａｇｅ ａｎｄ Ｃｕｌｔｕｒｅ （言語文化入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｄｉｐｌｏｍａｔｉｃ Ｈｉｓｔｏｒｙ （外交史入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ ｔｈｅ Ｓｔｕｄｙ ｏｆ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｇｒａｍｍａｒ （英文法研究入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｍａｓｓ Ｍｅｄｉａ （マスメディア概論）		2		
Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ Ｂａｓｉｃｓ （ビジネスマネジメントの基礎）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｌａｗ （国際法入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｓｏｃｉａｌ Ｐｓｙｃｈｏｌｏｇｙ （社会心理学入門）		2		
Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｔｅａｃｈｉｎｇ Ｔｈｅｏｒｉｅｓ （言語教育理論）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｃｕｌｔｕｒａｌ Ａｎｔｈｒｏｐｏｌｏｇｙ （文化人類学概論）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｍｅｄｉａ Ｃｕｌｔｕｒｅ （メディア文化論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｖｉｓｕａｌ Ｃｕｌｔｕｒｅ Ｓｔｕｄｉｅｓ （視覚文化論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｓｏｃｉａｌ Ｈｉｓｔｏｒｙ （社会史入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｐｒａｃｔｉｃａｌ Ｔｒａｎｓｌａｔｉｏｎ （実務翻訳概論）		2		

Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｇｌｏｂａｌ Ｈｉｓｔｏｒｙ （グローバル・ヒストリー入門）		２		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｔｏｕｒｉｓｍ Ｓｔｕｄｉｅｓ （観光学入門）		２		
｛コミュニケーション・実践領域｝ ＜専門発展科目＞				
Ｇｌｏｂａｌｉｚａｔｉｏｎ ａｎｄ Ｊａｐａｎ （グローバル化と日本）		２		
Ｓｅｃｏｎｄ Ｌａｎｇｕａｇｅ Ａｃｑｕｉｓｉｔｉｏｎ （第二言語習得論）		２		
Ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ ａｎｄ Ｇｌｏｂａｌ Ｐｅｒｓｐｅｃｔｉｖｅｓ （多様性と世界を理解する視点）		２		
Ｍｕｌｔｉｃｕｌｔｕｒａｌ Ｓｏｃｉｅｔｙ ａｎｄ Ｌａｎｇｕａｇｅ （多文化共生社会と言語）		２		
Ｌａｎｇｕａｇｅ ａｎｄ Ｐｏｗｅｒ （言語と権力）		２		
Ｃｕｌｔｕｒａｌ Ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ ｉｎ Ｃｏｎｔｅｍｐｏｒａｒｙ Ｊａｐａｎ （現代日本の文化的多様性）		２		
Ｇｌｏｂａｌｉｚａｔｉｏｎ ａｎｄ Ｃｕｌｔｕｒａｌ Ｉｎｔｅｒａｃｔｉｏｎ （グローバル化と文化接触）		２		
Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ ａｎｄ Ｆｉｎａｎｃｅ （国際経済と金融）		２		
Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｂｕｓｉｎｅｓｓ ａｎｄ Ｔｒａｄｅ （国際ビジネスと貿易）		２		
Ｃｏｒｐｏｒａｔｅ Ｓｏｃｉｅｔｙ ａｎｄ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （企業社会とコミュニケーション）		２		
Ｊａｐａｎｅｓｅ Ｃｏｍｐａｎｉｅｓ ｉｎ ａ Ｇｌｏｂａｌ Ａｇｅ （グローバル時代の日本企業）		２		
ＥＳＬ Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （ＥＳＬ言語学）		２		
Ｅａｒｌｙ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ （早期英語教育論）		２		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｉｎｔｅｒｐｒｅｔｉｎｇ （通訳概論）		２		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｔｏｕｒｉｓｍ Ｉｎｄｕｓｔｒｙ （旅行ビジネス英語）		２		
Ｔｒａｖｅｌ Ｅｎｇｌｉｓｈ （観光英語）		２		

Ｏｓａｋａ　Ｐｒｅｆｅｃｔｕｒｅ‘ｓ　Ｉｓｓｕｅｓ　ａｎｄ　Ｇｏｖｅｒｎｍｅｎｔ　Ｉｎｉｔｉａｔｉｖｅｓ （大阪の課題と行政の取り組み）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ　ｉｎ　Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ　Ｃｕｌｔｕｒａｌ　Ａｎａｌｙｓｉｓ （文化解析法特論）		２		
Ｍｏｄｅｌ　Ｕｎｉｔｅｄ　Ｎａｔｉｏｎｓ （模擬国連）		２		
Ｓｉｍｕｌｔａｎｅｏｕｓ　Ｉｎｔｅｒｐｒｅｔａｔｉｏｎ（Ｅｎｇｌｉｓｈ） （英語同時通訳演習）		２		
Ｃｏｎｓｅｃｕｔｉｖｅ　Ｉｎｔｅｒｐｒｅｔａｔｉｏｎ（Ｅｎｇｌｉｓｈ） （英語逐次通訳演習）		２		
Ｅｎｇｌｉｓｈ－Ｊａｐａｎｅｓｅ　Ｔｒａｎｓｌａｔｉｏｎ （英日翻訳演習）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ　ｉｎ　Ｔｏｕｒｉｓｍ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （観光学特論）		２		
｛言語文化領域｝ ＜専門発展科目＞				
Ｈｉｓｔｏｒｙ　ｏｆ　Ｅｎｇｌｉｓｈ （英語の歴史）		２		
Ｉｎｔｅｒｐｅｒｓｏｎａｌ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （対人コミュニケーション論）		２		
Ｉｎｔｅｒｃｕｌｔｕｒａｌ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （異文化コミュニケーション論）		２		
Ａｐｐｌｉｅｄ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （応用言語学）		２		
Ｌａｎｇｕａｇｅ　ａｎｄ　Ｓｏｃｉｅｔｙ （言語と社会）		２		
Ｃｏｇｎｉｔｉｖｅ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （認知言語学）		２		
Ｕｎｄｅｒｓｔａｎｄｉｎｇ　ｔｈｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌａｎｇｕａｇｅ （言語としての英語）		２		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ　ａｎｄ　Ｍｅａｎｉｎｇ　ｏｆ　Ｌａｎｇｕａｇｅ （言語の構造と意味）		２		
Ｐｒｉｎｃｉｐｌｅｓ　ｏｆ　Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ｕｓｅ （言語使用の原理）		２		
Ｃｏｎｔｒａｓｔｉｖｅ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （対照言語学）		２		
Ｐｒｉｎｃｉｐｌｅｓ　ｏｆ　Ｃｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｄｉｓｃｏｕｒｓｅ （会話と談話の原理）		２		
Ｎｏｎ－ｖｅｒｂａｌ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （非言語コミュニケーション論）		２		

Ｉｎｔｅｒｎｅｔ ａｎｄ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （ネット社会とコミュニケーション）		2		
Ｃａｓｅ Ｓｔｕｄｉｅｓ ｉｎ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （コミュニケーションの事例研究）		2		
Ｐｈｏｎｅｔｉｃ Ｓｏｕｎｄｓ ａｎｄ Ｐｒｏｎｕｎｃｉａｔｉｏｎ ｏｆ Ｅｎｇｌｉｓｈ （英語の音声と発音）		2		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ ｏｆ ｔｈｅ Ｊａｐａｎｅｓｅ Ｌａｎｇｕａｇｅ （日本語の構造）		2		
Ｊａｐａｎｅｓｅ－Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｔｒａｎｓｌａｔｉｏｎ （日英翻訳演習）		2		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ Ａｎａｌｙｓｉｓ （言語構造特論）		2		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｌａｎｇｕａｇｅ ａｎｄ Ｃｕｌｔｕｒｅ （言語文化特論）		2		
｛国際関係領域｝ ＜専門発展科目＞				
Ｔｏｐｉｃｓ ｉｎ Ｍｏｄｅｒｎ Ｌａｔｉｎ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｓｏｃｉｅｔｉｅｓ （中南米の現代社会事情）		2		
Ｌａｔｉｎ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｃｕｌｔｕｒｅｓ ａｎｄ Ｈｉｓｔｏｒｙ （中南米の文化と歴史）		2		
Ｋｏｒｅａｎ Ｐｏｌｉｔｉｃｓ ａｎｄ Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ （韓国の政治と経済）		2		
Ｔｏｐｉｃｓ ｉｎ Ｍｉｄｄｌｅ Ｅａｓｔｅｒｎ ａｎｄ Ａｆｒｉｃａｎ Ｓｏｃｉｅｔｉｅｓ （中東とアフリカの現代社会事情）		2		
Ｍｉｄｄｌｅ Ｅａｓｔｅｒｎ ａｎｄ Ａｆｒｉｃａｎ Ｃｕｌｔｕｒｅｓ ａｎｄ Ｈｉｓｔｏｒｙ （中東とアフリカの文化と歴史）		2		
Ｔｏｐｉｃｓ ｉｎ Ｎｏｒｔｈ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｓｏｃｉｅｔｉｅｓ （北アメリカの現代社会事情）		2		
Ｎｏｒｔｈ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｃｕｌｔｕｒｅｓ ａｎｄ Ｈｉｓｔｏｒｙ （北アメリカの文化と歴史）		2		
ＡＳＥＡＮ ａｎｄ Ｊａｐａｎ （東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）と日本）		2		
Ｍｏｄｅｒｎ Ｈｉｓｔｏｒｙ ｏｆ Ａｓｉａ ａｎｄ Ｊａｐａｎ （アジアの近現代史と日本）		2		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｊｏｕｒｎａｌｉｓｍ （ジャーナリズム特論）		2		
Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ ａｎｄ		2		

Ｃｏｏｐｅｒａｔｉｏｎ （国際協力・開発論）				
Ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ　Ｅｎｇａｇｅｍｅｎｔ （ボランティア論）		２		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　ＮＰＯ／ＮＧＯ （ＮＰＯ・ＮＧＯ論）		２		
Ｌａｗ　ｏｆ　Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｏｒｇａｎｉｚａｔｉｏｎｓ （国際組織法）		２		
Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｈｕｍａｎ　Ｒｉｇｈｔｓ　Ｌａｗ （国際人権法）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ　ｉｎ　Ｓｏｕｔｈｅａｓｔ　Ａｓｉａｎ　Ｐｏｌｉｔｉｃｓ　ａｎｄ　Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ （東南アジア政治と経済特論）		２		
Ｏｃｅａｎｉａｎ　Ｃｕｌｔｕｒｅｓ　ａｎｄ　Ｈｉｓｔｏｒｙ （オセアニアの文化と歴史）		２		
Ｃｈｉｎｅｓｅ　Ｐｏｌｉｔｉｃｓ　ａｎｄ　Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ （中国の政治と経済）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ　ｉｎ　Ｇｌｏｂａｌ　Ｐｏｌｉｔｉｃａｌ　Ｅｃｏｎｏｍｙ （グローバル政治経済特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ　ｉｎ　Ｐｅａｃｅ　Ｂｕｉｌｄｉｎｇ （平和構築特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ　ｉｎ　Ｃｏｌｄ　Ｗａｒ　Ｈｉｓｔｏｒｙ （冷戦史特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ　ｉｎ　Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｌａｗ （国際法特論）		２		
Ｔｏｐｉｃｓ　ｉｎ　Ｏｃｅａｎｉａｎ　Ｓｏｃｉｅｔｉｅｓ （オセアニアの現代社会事情）		２		
｛人文社会領域｝ ＜専門発展科目＞				
Ｅａｓｔ　Ａｓｉａｎ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅｓ （東アジア文学）		２		
Ｒｅａｄｉｎｇ　Ｊａｐａｎｅｓｅ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ （日本文学を読む）		２		
Ｗｏｒｌｄ　Ｒｅｌｉｇｉｏｎｓ （世界の宗教）		２		
Ｓｏｕｔｈ　Ａｓｉａｎ　Ａｒｅａ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （南アジア地域研究）		２		
Ａｓｉａｎ　Ｓｏｃｉｅｔｉｅｓ （アジア社会論）		２		
Ｍｏｄｅｒｎ　Ｅｕｒｏｐｅａｎ　Ｃｕｌｔｕｒｅ （近代ヨーロッパ文化論）		２		
Ｃｏｎｔｅｍｐｏｒａｒｙ　Ｅｕｒｏｐｅａｎ　Ｃｕｌｔｕｒｅ （現代ヨーロッパ文化論）		２		

Ｃｕｌｔｕｒａｌ Ｈｅｒｉｔａｇｅ Ｓｔｕｄｉｅｓ （文化遺産学）		２		
Ａｓｉａｎ Ａｒｔ ａｎｄ Ｃｕｌｔｕｒｅ （アジア文化芸術論）		２		
Ｅｔｈｎｉｃ Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ ｔｈｅ Ｇｌｏｂａｌｉｚｅｄ Ｗｏｒｌｄ （グローバル化した世界の民族問題）		２		
Ｓｏｃｉａｌ Ｈｉｓｔｏｒｙ （社会史）		２		
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ Ｃｕｌｔｕｒｅ （比較文化論）		２		
Ｊａｐａｎ ａｓ ａｎ Ｅａｓｔ Ａｓｉａｎ Ｃｏｕｎｔｒｙ （東アジアの中の日本）		２		
Ｈｉｓｔｏｒｙ ｏｆ Ａｆｒｏ－Ｅｕｒａｓｉａ （アフロ・ユーラシア史）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｊａｐａｎｅｓｅ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ （日本文学特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｍｉｇｒａｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ （移民研究特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｍｅｄｉａ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ （メディア・コミュニケーション研究特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｓｏｃｉａｌ Ｈｉｓｔｏｒｙ （社会史特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｈｕｍａｎ Ｈｉｓｔｏｒｙ （人類史特論）		２		
｛４領域共通科目｝				
Ｔｈｅｓｉｓ Ｗｒｉｔｉｎｇ		２		
［専門科目（東アジア専攻）］				
｛中国語コース｝				
＜言語科目＞				
中国語文法（入門）１	１			
中国語文法（入門）２	１			
中国語文法（入門）３	１			
中国語会話（入門）１	１			
中国語会話（入門）２	１			
中国語表現１	１			
中国語表現２	１			
英会話	１			
中国語会話（上級）	１			
中国語文法（上級）	１			
中国語表現技法１		１		
ビジネス中国語１		１		
中国語プレゼンテーション１	１			
中国語演習１	１			
中国語表現技法２		１		

ビジネス中国語２		1		
中国語プレゼンテーション２	1			
中国語演習２	1			
中国語検定試験演習１	1			
中国語検定試験演習２	1			
＜留学科目＞				
中国語文法（初級）１		2		
中国語文法（初級）２		2		
中国語文法（初級）３		2		
中国語会話（初級）１		2		
中国語会話（初級）２		2		
中国語会話（初級）３		2		
中国語作文（初級）１		1		
中国語作文（初級）２		1		
中国語作文（初級）３		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＡ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＡ		1		
中国語文法（中級）１		2		
中国語文法（中級）２		2		
中国語文法（中級）３		2		
中国語会話（中級）１		2		
中国語会話（中級）２		2		
中国語会話（中級）３		2		
中国語作文（中級）１		1		
中国語作文（中級）２		1		
中国語作文（中級）３		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＢ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＢ		1		
＜専門発展科目＞				
中国学研究法	2			
中国近現代史１		2		
中国現代文化１		2		
日中比較文化１		2		
中国語学１		2		
中国近現代文学１		2		
日中翻訳１		2		
中国近現代史２		2		
中国現代文化２		2		
日中比較文化２		2		
中国語学２		2		
中国近現代文学２		2		
日中翻訳２		2		
Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ		2		
｛韓国語コース｝				
＜言語科目＞				
韓国語文法（入門）１	1			

韓国語文法（入門）２	1			
韓国語文法（入門）３	1			
韓国語会話（入門）１	1			
韓国語会話（入門）２	1			
韓国語表現１	1			
韓国語表現２	1			
英会話	1			
韓国語会話（上級）	1			
韓国語文法（上級）	1			
韓国語表現技法１		1		
ビジネス韓国語１		1		
韓国語プレゼンテーション１	1			
韓国語演習１	1			
韓国語表現技法２		1		
ビジネス韓国語２		1		
韓国語プレゼンテーション２	1			
韓国語演習２	1			
韓国語検定試験演習１	1			
韓国語検定試験演習２	1			
＜留学科目＞				
韓国語文法（初級）１		2		
韓国語文法（初級）２		2		
韓国語文法（初級）３		2		
韓国語会話（初級）１		2		
韓国語会話（初級）２		2		
韓国語会話（初級）３		2		
韓国語作文（初級）１		1		
韓国語作文（初級）２		1		
韓国語作文（初級）３		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＡ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＡ		1		
韓国語文法（中級）１		2		
韓国語文法（中級）２		2		
韓国語文法（中級）３		2		
韓国語会話（中級）１		2		
韓国語会話（中級）２		2		
韓国語会話（中級）３		2		
韓国語作文（中級）１		1		
韓国語作文（中級）２		1		
韓国語作文（中級）３		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＢ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＢ		1		
＜専門発展科目＞				
現代韓国の理解	2			
韓国近現代史１		2		
韓国学概論１		2		

日韓文献翻訳１		2	
日韓比較研究１		2	
異言語と文化１		2	
日韓映像翻訳１		2	
韓国近現代史２		2	
韓国学概論２		2	
日韓文献翻訳２		2	
日韓比較研究２		2	
異言語と文化２		2	
日韓映像翻訳２		2	
Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ		2	

＜履修方法＞

①卒業に要する単位数は、

＜グローバル専攻＞

全学共通科目からは、

・共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、26単位以上、

合計26単位以上、

専門科目からは、

・学部共通開講科目から必修科目を含み、６単位以上、

・セミナー科目から８単位以上、

・言語科目から必修科目を含み、13単位以上、

・留学科目から２単位以上、

・専門基礎科目から８単位以上、

・専門発展科目（コミュニケーション・実践領域）、専門発展科目（言語文化領域）、専門発展科目（国際関係領域）又は専門発展科目（人文社会領域）から８単位以上を含み、20単位以上、

合計100単位以上

修得し、必修科目、選択科目をあわせて126単位以上を修得しなければならない。

＜東アジア専攻・中国語コース＞

全学共通科目からは、

・共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、26単位以上、

合計26単位以上、

専門科目からは、

・学部共通開講科目から必修科目を含み、６単位以上、

・セミナー科目から８単位以上、

・言語科目から必修科目を含み、18単位以上、

・留学科目から２単位以上、

・専門発展科目から必修科目を含み、18単位以上、

合計100単位以上

修得し、必修科目、選択科目をあわせて126単位以上を修得しなければならない。なお、グローバル専攻の専門基礎科目又は専門発展科目から科目を履修した場合は、16単位を上限として、専門発展科目の卒業に要する単位数に算入することができる。

＜東アジア専攻・韓国語コース＞

全学共通科目からは、

・共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、26単位以上、

合計26単位以上、

専門科目からは、

・学部共通開講科目から必修科目を含み、６単位以上、

・セミナー科目から８単位以上、

・言語科目から必修科目を含み、18単位以上、

・留学科目から２単位以上、
・専門発展科目から必修科目を含み、18単位以上、
合計100単位以上
修得し、必修科目、選択科目をあわせて126単位以上を修得しなければならない。なお、グローバル専攻の専門基礎科目又は専門発展科目から科目を履修した場合は、16単位を上限として、専門発展科目の卒業に要する単位数に算入することができる。
②他学部、大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定に基づき修得した単位は、８単位まで学部共通開講科目の選択科目として、卒業に要する単位数に算入することができる。

別表（１）―10
情報学部授業科目表
△印は選択必修科目を表す。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
（人間性・社会性科目群）			
自校学習		1	
科学技術の進歩と人権		2	
暮らしのなかの憲法		2	
心理と行動		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代社会と法		2	
環境と社会		2	
資源とエネルギー		2	
技術と倫理	2		
企業倫理と知的財産		2	
教養特殊講義Ａ		2	
（地域性・国際性科目群）			
国際経済と企業の国際化		2	
国際社会と日本		2	
ビジネスモデルとマネジメント		2	
メディアの読み方		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
（課題設定・問題解決科目群）			
日本語の技法		2	
基礎ゼミ１	2		
基礎ゼミ２	2		
科学的問題解決法		2	
プレゼンテーション技術		2	
教養特殊講義Ｃ		2	
（スポーツ・表現活動科目群）			
生涯スポーツ１		1	
生涯スポーツ２		1	
［外国語科目］（第一）			
英語総合１	2		
英語総合２	2		
ＴＯＥＩＣ１	1		
ＴＯＥＩＣ２	1		
ライティング１		1	
ライティング２		1	

アカデミックイングリッシュ１		△１	
アカデミックイングリッシュ２		△１	
オーラルイングリッシュ１	１		
オーラルイングリッシュ２	１		
オーラルイングリッシュ３		△１	
オーラルイングリッシュ４		△１	
ＩＴ英語１		△１	
ＩＴ英語２		△１	
海外語学研修（英語）		２	
［外国語科目］（第二）			
ドイツ語総合１		１	
ドイツ語総合２		１	
ドイツ語総合３		１	
ドイツ語総合４		１	
フランス語総合１		１	
フランス語総合２		１	
フランス語総合３		１	
フランス語総合４		１	
中国語総合１		１	
中国語総合２		１	
中国語総合３		１	
中国語総合４		１	
海外語学研修（中国語）		２	
韓国語総合１		１	
韓国語総合２		１	
韓国語総合３		１	
韓国語総合４		１	
海外語学研修（韓国語）		２	

＊印はコースごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。□印はコースごとの選択必修科目を表す。詳細は別表参照。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎微分積分学	２		
基礎線形代数学１	２		
基礎線形代数学２	２		
コンピュータ基礎	２		
確率統計	２		
情報処理実習１		１	
情報処理実習２		１	
基礎物理学および演習		３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		２	
生物学		２	
情報システム基礎			２
情報システム応用			２
［専門科目］			
プログラミング基礎１	２		

プログラミング基礎２	2		
ＩｏＴ	2		
オブジェクト指向プログラミング	2		
機械学習概論		2	
ネットワーク技術	2		
データ構造とアルゴリズム	2		
プログラミング実習１	2		
プログラミング実習２	2		
離散数学		＊２	
ＩＴビジネス基礎		2	
Ｗｅｂシステム	2		
オブジェクト指向設計	2		
人工知能	2		
ネットワークセキュリティ技術		＊２	
データベース論		2	
情報理論		＊２	
キャリアデザイン		2	
データマイニング		＊２	
情報セキュリティ		＊２	
情報と職業		2	
ｅスポーツ			2
社会情報学実習１		△１	
社会情報学実習２		△１	
社会情報学実習３		△１	
社会情報学実習４		△１	
情報学基礎ゼミナール１	2		
情報学基礎ゼミナール２	2		
情報学応用ゼミナール１	2		
情報学応用ゼミナール２	2		
卒業研究	8		
多変量解析		＊２	
応用数学		＊２	
機械学習１		＊２	
実践機械学習		＊２	
統計データ解析		＊２	
自然言語処理		□２	
数理計画法		2	
知能システムプロジェクト１		＊２	
知能システムプロジェクト２		＊２	
メディア処理		＊２	
音声言語処理		□２	
コンピュータビジョン		□２	
データモデリング		2	
ＨＣＩ		＊２	
機械学習２		＊２	
医療情報学応用		2	
知的エージェント		2	
ＯＳとコンピュータアーキテクチャ		＊２	
暗号と情報セキュリティ		＊２	

情報数学		＊２	
ブロックチェーン		２	
情報セキュリティ対策と管理１		＊２	
情報セキュリティ対策と管理２		＊２	
サイバーセキュリティプロジェクト１		＊２	
サイバーセキュリティプロジェクト２		＊２	
ソフトウェア工学		＊２	
セキュリティ解析技術		＊２	
モバイル通信		＊２	
サイバー犯罪学		２	
組み込みシステム		＊２	
セキュリティ技術評価と実装技術		＊２	
クラウドコンピューティング		＊２	
情報と社会		２	
ネットワーク演習１			２
ネットワーク演習２			２
コミュニケーション論		＊２	
エンターテインメントコンピューティング		＊２	
人間中心設計論		＊２	
コンピュータグラフィックス		＊２	
モデル最適化基礎		２	
調査データ分析		２	
実世界コンピューティングプロジェクト１		＊２	
実世界コンピューティングプロジェクト２		＊２	
アドバンスドＷｅｂシステム		＊２	
人工現実感		＊２	
インタラクション設計		＊２	
深層学習		２	
サービスコンピューティング		＊２	
複合システムデザイン		＊２	
インタラクティブシステム		＊２	
深層強化学習		＊２	
社会シミュレーション		２	
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定に基づいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

共通教養科目（14単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（12単位以上）、専門科目（84単位以上）を修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計124単位以上修得すること。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔英語科目修得内訳表〕

選択必修科目名（単位）	修得単位数
アカデミックイングリッシュ１（１）、 アカデミックイングリッシュ２（１）、 ＩＴ英語１（１）、ＩＴ英語２（１）	１単位以上
オーラルイングリッシュ３（１）、 オーラルイングリッシュ４（１）	１単位以上

	合計２単位以上を修得

〔専門科目　コース別必修科目修得内訳表〕

知能システムコース

必修科目名（単位）
離散数学（２）、多変量解析（２）、応用数学（２）、機械学習１（２）、実践機械学習（２）、 統計データ解析（２）、知能システムプロジェクト１（２）、知能システムプロジェクト２（２）、 メディア処理（２）、情報理論（２）、ＨＣＩ（２）、データマイニング（２）、 情報セキュリティ（２）、機械学習２（２）

サイバーセキュリティコース

必修科目名（単位）
ＯＳとコンピュータアーキテクチャ（２）、暗号と情報セキュリティ（２）、離散数学（２）、 情報数学（２）、情報セキュリティ対策と管理１（２）、情報セキュリティ対策と管理２（２）、 ネットワークセキュリティ技術（２）、サイバーセキュリティプロジェクト１（２）、 サイバーセキュリティプロジェクト２（２）、ソフトウェア工学（２）、情報理論（２）、 セキュリティ解析技術（２）、モバイル通信（２）、組み込みシステム（２）、 セキュリティ技術評価と実装技術（２）、クラウドコンピューティング（２）

実世界コンピューティングコース

必修科目名（単位）
コミュニケーション論（２）、エンターテインメントコンピューティング（２）、 ネットワークセキュリティ技術（２）、人間中心設計論（２）、コンピュータグラフィックス（２）、 実世界コンピューティングプロジェクト１（２）、実世界コンピューティングプロジェクト２（２）アドバンスドＷｅｂシステム（２）、人工現実感（２）、インタラクション設計（２）、 サービスコンピューティング（２）、複合システムデザイン（２）、インタラクティブシステム（２）、 深層強化学習（２）、情報セキュリティ（２）

〔専門科目　コース別選択必修科目修得内訳表〕

知能システムコース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
自然言語処理（２）、音声言語処理（２）、コンピュータビジョン（２）	２単位以上
社会情報学実習１・２・３・４（１）	２単位以上

サイバーセキュリティコース・実世界コンピューティングコース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
社会情報学実習１・２・３・４（１）	２単位以上

別表（１）―11

農学部授業科目表

全学科

区分	授業科目	必修	選択
共通教養科目	【人間性・社会性科目群】		
	人権と社会１		2
	人権と社会２		2
	暮らしのなかの憲法		2
	住みよい社会と福祉		2
	現代社会と法		2
	環境と倫理		2
	生命と倫理		2
	ボランティア実習		1
	自校学習		1
	教養特殊講義Ａ		2
	【地域性・国際性科目群】		
	国際経済入門		2
	国際化と異文化理解		2
	農学と社会		2
	地球環境と気象		2
	教養特殊講義Ｂ		2
	【課題設定・問題解決科目群】		
	基礎ゼミ	2	
	日本語の技法		2
	科学的問題解決法		2
	統計と考え方		2
	情報基礎		2
	情報処理		2
	キャリアデザイン		2
	キャリアデベロップメント		2
	インターンシップ		2
	進路と職業		1
	社会で役立つ文章表現法		1
	教養特殊講義Ｃ		2
	【スポーツ・表現活動科目群】		
	生涯スポーツ１		1
	生涯スポーツ２		1
専門基礎科目	数学		2
	環境教育学		2
	世界の食糧生産		2
	里山学		2
	自然色彩学		2
	生態学基礎		2
	食生活と健康		2
	基礎土壌学		2
	［第一外国語］		
	英語１	2	

	英語２	２	
	英語３		１
	英語４		１
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ１	１	
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ２	１	
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ３		１
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ４		１
	ＴＯＥＩＣ１		１
	ＴＯＥＩＣ２		１
	ＴＯＥＩＣ３		１
	ＴＯＥＩＣ４		１
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１		１
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２		１
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　３		１
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　４		１
	ＷｒｉｔｉｎｇＡ		１
	ＷｒｉｔｉｎｇＢ		１
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　ＳｅｍｉｎａｒＡ		１
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　ＳｅｍｉｎａｒＢ		１
外国語科目	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｐｅｃｉａｌ　ＳｔｕｄｉｅｓＡ		１
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｐｅｃｉａｌ　ＳｔｕｄｉｅｓＢ		１
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｌｆ－ｌｅａｒｎｉｎｇ　Ａ		１
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｌｆ－ｌｅａｒｎｉｎｇ　Ｂ		１
	海外語学研修（英語）		１
	［第二外国語］		
	ドイツ語総合１		１
	ドイツ語総合２		１
	ドイツ語総合３		１
	ドイツ語総合４		１
	韓国語総合１		１
	韓国語総合２		１
	韓国語総合３		１
	韓国語総合４		１
	中国語総合１		１
	中国語総合２		１
	中国語総合３		１
	中国語総合４		１
	フランス語総合１		１
	フランス語総合２		１
	フランス語総合３		１
	フランス語総合４		１

＜履修方法＞

全学共通科目は共通教養科目14単位以上（必修科目を含む）、専門基礎科目４単位以上、共通教養科目および専門基礎科目から２単位以上、外国語科目14単位以上（必修科目を含む）の合計34単位以上修得しなければならない。ただし、外国語科目の中に第二外国語４単位を含むことができる。共通教養科目は、人間性・社会性科目群から４単位以上、地域性・国際性科目群から２単位以上、課題設定・問題解決科目群から４単位以上を修得しなければならない。ただし、食品栄養学科は、

人間性・社会性科目群から２単位以上、地域性・国際性科目群から２単位以上、課題設定・問題解決科目群から４単位以上を修得しなければならない。

農業生産科学科

区分	授業科目	必修	選択
	環境保全栽培学		2
	環境植物学		2
	植物生理学		2
	昆虫学		2
	植物病理学		2
	細胞生物学		2
	植物遺伝育種学		2
	日本農業論		2
	環境化学基礎		2
	鳥獣害管理学		2
	植物・人間関係論		2
	工芸作物学		2
	食用作物学		2
	果樹園芸学		2
	野菜園芸学		2
	花卉園芸学		2
	害虫管理学		2
	植物病原微生物学		2
	応用きのこ学		2
	植物分子生物学		2
	農業経済学		2
	特別講義Ⅰ		2
	地域活性化論		2
専攻科目	植物形態学		2
	園芸療法論		2
	栽培システム学		2
	フラワービジネス演習		2
	雑草管理学		2
	園芸植物学		2
	昆虫生態学		2
	化学生態学		2
	昆虫生理学		2
	植物感染制御工学		2
	植物病診断防除論		2
	植物育種学		2
	農業政策学		2
	アグリビジネス起業論		2
	農産物流通・マーケティング論		2
	アグリビジネスマネジメント論		2
	園芸学研究の方法		2
	園芸植物と遺伝子		2
	フラワービジネス論		2

	農学野外実習		2
	基礎生物学実験		1
	基礎化学実験		1
	基礎物理学実験		1
	農学専門実験Ⅰ	2	
	農学専門実験Ⅱ	2	
	附属農場実習		2
	農業実習		2
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
資格関連科目	アグリビジネス実習		2
関連科目	物理学		2
	化学		2
	生物学		2
	植物栄養生理学		2
	微生物学		2
	農薬化学		2
	食品機能学		2
	農産製造学		2
	生命有機化学		2
	生物多様性の科学		2
	里山生態学		2
	土壌医学		2
	環境ビジネス学		2
	植物生態学		2
	持続可能な水産業		2
	有機化学Ⅰ		2
	有機化学Ⅱ		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

④資格関連科目は卒業に必要な単位数に加算しない。

水産学科

区分	授業科目	必修	選択
	【Ａ群Ⅰ】		
	魚類生態学		2
	生物学		2
	動物行動学		2
	水産動物学		2

	魚類環境生理学		2
	魚類繁殖生理学		2
	微生物海洋学		2
	海棲哺乳類学		2
	水族館学		2
	魚類発生生物学		2
	生体分子解析学		2
	魚類内分泌学		2
	【Ａ群Ⅱ】		
	水産実用数学	2	
	物理学		2
	【Ｂ群Ⅰ】		
	水産学概論		2
	海水養殖学		2
	淡水増殖学		2
	栽培漁業論		2
	種苗生産学		2
	魚類育種学		2
	介類増殖学		2
	魚病学		2
	魚類栄養学		2
	【Ｂ群Ⅱ】		
	水産海洋学		2
	水産資源学		2
	漁業情報学		2
	漁業生産システム論		2
	【Ｃ群】		
	生態系科学基礎		2
	水圏微生物学		2
	海洋生態系科学		2
	陸水学		2
	水質学		2
	水族環境学		2
	海洋環境修復学		2
	【Ｄ群Ⅰ】		
	化学		2
	水産利用学		2
	水産生物化学		2
専攻科目	水産食品保蔵学		2
	食品微生物学		2
	水産資源化学		2
	食品製造管理学		2
	食品衛生管理学		2
	【Ｄ群Ⅱ】		
	水産経済学		2
	水産物マーケティング論		2

	水産法制度論		2
	水産経営学		2
	【Ｅ群】		
	水産学基礎実験Ⅰ	1	
	水産学基礎実験Ⅱ	1	
	養殖学基礎実習		1
	水産増殖学実験		2
	水産増殖学実習		2
	水産生物学実習		2
	生物学実験		2
	化学実験		2
	水産利用学実習		2
	水産経済調査実習		2
	水産経済学演習		2
	水族環境学実験		2
	水産微生物学実験		2
	漁業情報学実習		2
	物理学実験		2
	海棲哺乳類学実習		2
	海棲哺乳類学実験		2
	潜水技術論		2
	小型船舶操縦法		2
	【Ｆ群】		
	技術者倫理	2	
	【Ｇ群】		
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	【Ｈ群】		
	水産技術専門演習	1	
	水産技術専門実験	1	
	卒業研究	8	
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。

②専攻科目Ａ群Ⅰから６科目12単位以上、Ａ群Ⅱから必修を含み１科目２単位以上、Ｂ群Ⅰから４科目８単位以上、Ｂ群Ⅱから２科目４単位以上、Ｃ群から４科目８単位以上、Ｄ群Ⅰから４科目８単位以上、Ｄ群Ⅱから２科目４単位以上、Ｅ群のうち、各研究室の実験・実習等から２科目４単位以上を修得しなければならない。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

応用生命化学科

区分	授業科目	必修	選択
	【Ａ群】		
	化学		2
	分析化学		2

	無機化学		2
	基礎反応化学		2
	有機化学		2
	有機機器分析学		2
	有機反応化学		2
	【Ｂ群】		
	生物化学		2
	分子生物学		2
	食品化学		2
	発酵化学		2
	分子細胞生物学		2
	【Ｃ群】		
	微生物学		2
専攻科目Ⅰ	食品微生物学		2
	応用微生物学		2
	食品微生物工学		2
	【Ｄ群】		
	食品衛生学		2
	公衆衛生学		2
	【Ｅ群】		
	生物学		2
	物理化学		2
	酵素化学		2
	薬理学概論		2
	植物栄養生理学		2
	農薬化学		2
	栄養化学		2
	生命工学		2
	遺伝子工学		2
	生物統計学		2
	生命情報学		2
	天然物化学		2
	食品機能学		2
	農産製造学		2
	生命有機化学		2
	有機合成化学		2
	物理学実験	1	
	生物学実験Ⅰ	1	
	化学実験Ⅰ	1	
	化学実験Ⅱ	1	
	生物学実験Ⅱ	1	
	生物学実験Ⅲ	1	
専攻科目Ⅱ	生命情報学実習	1	
	応用生命化学実験	1	
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	

	専門英語Ⅲ	1	
	専門英語Ⅳ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
専攻科目Ⅲ	数学Ⅰ		2
	数学Ⅱ		2
	生命科学基礎		2
	森林資源科学		2
	バイオビジネス論		2
	応用生命化学特別講義Ⅰ		2
	応用生命化学特別講義Ⅱ		2
	醸造・酒造学		2
関連科目	日本農業論		2
	物理学		2
	農業経済学		2
	昆虫学		2
	園芸植物学		2
	附属農場実習		2
	水環境学		2
	保全遺伝学		2
	動物発生工学		2
	植物バイオテクノロジー		2
	植物分子生物学		2
	実験動物学		2
	植物免疫学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目Ⅰ、専攻科目Ⅱ、専攻科目Ⅲ、関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②専攻科目ⅠのＡ群から２単位以上、Ｂ群から２単位以上、Ｃ群から２単位以上、Ｄ群から２単位以上、Ｅ群から18単位以上、Ａ～Ｄ群から合計22単位以上を修得しなければならない。

③外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

④互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

食品栄養学科

区分	授業科目	必修	選択
	健康管理概論	2	
	公衆衛生学Ⅰ	2	
	公衆衛生学Ⅱ	2	
	人体の構造と機能	2	
	微生物学	2	
	生化学	2	
	病理学総論	2	
	代謝栄養学	2	
	疾患学総論	2	

	疾患学各論	2	
専門基礎分野	化学実験	1	
	生物学実験	1	
	生化学実験	1	
	解剖学実習	1	
	微生物学実験	1	
	生理学実験	1	
	食品の調理と加工	2	
	食品学	2	
	食品機能化学	2	
	食品衛生学	2	
	食品分析学実験	1	
	調理学実習Ⅰ	1	
	調理学実習Ⅱ	1	
	食品衛生学実験	1	
	基礎栄養学	2	
	栄養学実験	1	
	応用栄養学Ⅰ	2	
	応用栄養学Ⅱ	2	
	栄養マネジメント論	2	
	応用栄養学実習Ⅰ	1	
	応用栄養学実習Ⅱ	1	
	栄養教育論Ⅰ	2	
	栄養教育論Ⅱ	2	
	栄養教育実習	1	
	栄養情報処理基礎	2	
	臨床栄養学Ⅰ	2	
	臨床栄養学Ⅱ	2	
専門分野Ⅰ	臨床栄養学Ⅲ	2	
	臨床栄養管理	2	
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	
	臨床栄養学実習Ⅱ	1	
	公衆栄養学Ⅰ	2	
	公衆栄養学Ⅱ	2	
	公衆栄養学実習	1	
	給食管理論	2	
	給食経営論	2	
	給食経営管理実習	1	
	総合演習	2	
	臨地実習Ⅰ	1	
	臨地実習Ⅱ	1	
	臨地実習Ⅲ	1	
	臨地実習Ⅳ	1	
	臨地実習Ⅴ	1	
	臨地実習Ⅵ	1	
	有機化学	2	

専門分野Ⅱ	分析化学	2	
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	特別講義Ⅰ	2	
	特別講義Ⅱ	2	
	特別講義Ⅲ	2	
	特別講義Ⅳ	2	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究		8
専門分野Ⅲ	スポーツ医学		2
	発育発達学		2
	トレーニング科学		2
	トレーニング実習		1
	健康づくりと運動プログラム		2
	エアロビックスダンス実習		1
	水泳・水中運動実習		1
	体力測定評価（理論）		2
	体力測定評価（実習）		1
	救急処置実習		1
	環境スポーツ栄養学		2
	スポーツ心理学		2
関連科目	物理学		2
	物理学実験		1
	化学		2
	生物学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専門科目は専門基礎分野、専門分野Ⅰから82単位以上、専門分野Ⅱのうち、必修科目18単位以上、合計100単位以上修得しなければならない。

②専門分野Ⅲは卒業に必要な単位数に加算しない。

③専門基礎分野の「人体の構造と機能」、「生化学」、「食品学」は専門基礎科目の単位として扱う。

④専門分野Ⅱの「有機化学」、「分析化学」は共通教養科目課題設定・問題解決科目群の単位として扱う。

⑤関連科目で修得した単位は卒業単位として扱う。

⑥互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

⑦臨地実習Ⅳ、臨地実習Ⅴ、臨地実習Ⅵのうち１単位を選択必修とする。

環境管理学科

区分	授業科目	必修	選択
	環境管理学概論		2
	動物生態学		2
	生物多様性の科学		2
	外来生物の科学		2
	環境化学		2
	森林科学		2

	物理学		2
	化学		2
	生物学		2
	持続可能な農業		2
	沿岸生態学		2
	水圏動物学		2
	河川生態学		2
	環境微生物学		2
	環境分子生物学		2
	土壌医学		2
	水利サイエンス		2
	水環境学		2
	食料経済学		2
	緑地保全学		2
	植物生態学		2
	森林管理学		2
	森林土壌学		2
	環境関連法		2
	環境政策学		2
	野生動物保護論		2
	フィールドワークの技法		2
	環境統計学		2
	環境英語Ａ		1
	環境英語Ｂ		1
	情報処理専門演習Ⅰ	1	
	情報処理専門演習Ⅱ	1	
	里山生態学		2
	沿岸保全論		2
	水辺域管理学		2
専攻科目	保全遺伝学		2
	バイオマス利用論		2
	環境分析学		2
	国際農業開発論		2
	農業と環境		2
	環境ビジネス学		2
	持続可能な水産業		2
	造園計画論		2
	環境数理学		2
	環境リスク学		2
	造林学		2
	森林保護学		2
	森林政策学		2
	特別演習Ⅰ		1
	特別演習Ⅱ		1
	海外調査・研修		2
	樹木学実習		1

	樹木医学実習		1
	造園学実習		1
	里山生物学実習		1
	環境管理学基礎実験・実習Ⅰ	2	
	環境管理学基礎実験・実習Ⅱ	2	
	環境管理学専門実験・実習Ⅰ	2	
	環境管理学専門実験・実習Ⅱ	2	
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	物理学実験		1
	化学実験		1
	生物学実験		1
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
関連科目	環境保全栽培学		2
	植物形態学		2
	昆虫生態学		2
	雑草管理学		2
	農業政策学		2
	物理化学		2
	基礎反応化学		2
	有機機器分析学		2
	天然物化学		2
	酵素化学		2
	森林資源科学		2
	有機化学Ⅰ		2
	有機反応化学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

生物機能科学科

区分	授業科目	必修	選択
	バイオサイエンス概論	2	
	資源科学基礎		2
	植物生理学		2
	生物学基礎		2
	化学基礎		2
	物理学		2
	発生生物学		2
	分子生物学Ⅰ		2
	細胞生物学Ⅰ		2

	生物化学Ⅰ		2
	有機化学Ⅰ		2
	分子生物学Ⅱ		2
	有機化学Ⅱ		2
	生物化学Ⅱ		2
	動物生産学		2
	微生物学		2
	基礎免疫学		2
	細胞生物学Ⅱ		2
	分子構造解析学		2
	生命情報学		2
	植物分子生物学		2
	動物発生工学		2
	酵素タンパク質工学		2
	植物バイオテクノロジー		2
	有機反応化学		2
専攻科目	Ｔｏｐｉｃｓ　ｉｎ　Ｂｉｏｓｃｉｅｎｃｅ		2
	遺伝子工学		2
	動物遺伝学		2
	エピジェネティクス		2
	幹細胞生物学		2
	ゲノム編集学		2
	生体物理化学		2
	環境生物学		2
	微生物バイオテクノロジー		2
	実験動物学		2
	植物免疫学		2
	バイオビジネス論		2
	バイオインフォマティクス演習		2
	分子遺伝学		2
	アグリバイオ実習		2
	バイオビジネス実習		1
	特別講義Ⅰ		2
	特別講義Ⅱ		2
	特別講義Ⅲ		2
	特別講義Ⅳ		2
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	物理学実験	1	
	生物有機化学実験	1	
	細胞工学実験	1	
	遺伝子工学実験	1	
	バイオサイエンス専門実験Ⅰ	2	
	バイオサイエンス専門実験Ⅱ	1	

	バイオサイエンス専門実験Ⅲ	1	
	卒業研究	8	
関連科目	植物遺伝育種学		2
	工芸作物学		2
	果樹園芸学		2
	発酵化学		2
	栄養化学		2
	食品化学		2
	農薬化学		2
	森林資源科学		2
	土壌医学		2
	野生動物保護論		2
	環境政策学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

授業科目	単位数
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1
職業指導	4

別表（１）―12

医学部授業科目表

医学科

区分	授業科目	単位数（時間数）	
		必修	選択
共通教養科目	環境と社会	2	
	生死論	2	
	医学からみた現代社会と倫理	2	
	人権と社会	2	
	心理と行動	2	
	グローバルヘルス概論	2	
	数理科学	2	
	医療イノベーション学	2	
	教養特殊講義	2	
外国語科目	英語	4	
	英語（応用語彙）		1
	英語（応用発話）		1
	医学英語Ⅰ	2	

	医学英語Ⅱ	2	
	医学英語Ⅲ	2	
学部基礎科目	生命科学	(60)	
	医用化学	(60)	
	医物理学	(60)	
	医統計学	(30)	
	学外施設実習／総合医学	(60)	
	科学的思考演習	(30)	
	プロフェッショナリズム／実習Ⅰ	(45)	
	プロフェッショナリズム／実習Ⅱ	(60)	
	プロフェッショナリズム／実習Ⅲ	(30)	
	プロフェッショナリズム／実習Ⅳ	(30)	
	細胞・形態学	(90)	
	医学概論	(30)	
	医薬連携総論	(30)	

＜履修方法＞

共通教養科目から18単位以上、外国語科目から11単位以上修得しなければならない。

学部基礎科目は615時間以上修得しなければならない。

医学科

授業科目	授業時間数
生化学	(75)
分子生物学	(75)
人体構造Ⅰ	(50)
人体構造Ⅱ	(75)
人体構造Ⅲ	(65)
人体構造Ⅳ	(35)
機能Ⅰ	(100)
機能Ⅱ	(100)
病因・病態Ⅰ	(90)
病因・病態Ⅱ	(120)
薬理学	(90)
臨床各論Ⅰ	(120)
臨床各論Ⅱ	(120)
臨床各論Ⅲ	(90)
臨床各論Ⅳ	(120)
臨床各論Ⅴ	(180)
臨床各論Ⅵ	(90)
臨床各論Ⅶ	(90)
臨床各論Ⅷ	(120)
臨床各論Ⅸ	(90)
社会医学Ⅰ	(90)
社会医学Ⅱ	(60)
病理集中コース	(30)
臨床総論Ⅰ／実習	(60)
臨床総論Ⅱ／実習	(90)
医療安全	(30)
臨床実習（Ｃ・Ｃ）	(2,450)
画像集中コース	(30)

合計	(4,735)

＜履修方法＞

専門科目については、合計4,735時間以上履修すること。

別表（１）―13

生物理工学部授業科目表

授業科目の名称					単位数	
					必修	選択
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群		人権と社会１		2
				人権と社会２		2
				暮らしのなかの憲法		2
				芸術鑑賞入門		2
				現代社会と法		2
				現代社会と倫理		2
				現代経済の課題		2
				新しい政治学		2
				持続可能な社会論		2
				自己発見の心理学		2
				教養特殊講義Ａ		2
		地域性・国際性科目群		国際経済入門		2
				国際化と異文化コミュニケーション		2
				国際社会と日本		2
				日本近現代史		2
				里山の環境学		2
				言語文化学入門		2
				教養特殊講義Ｂ		2
		課題設定・問題解決科目群		日本語の技法		2
				基礎ゼミ	2	
				思考の技術		2
				キャリアデザイン		2
				社会奉仕実習		1
				科学技術と人間・社会		2
				インターンシップ		2
				キャリアインターンシップ		1
				スクールインターンシップ		1
				教養特殊講義Ｃ		2
		スポーツ・表現活動科目群		生涯スポーツ１		1
				生涯スポーツ２		1
				健康とスポーツの科学		2
				食生活と健康		2
	外国語科目	第一外国語	基幹科目	総合英語１		2
				総合英語２		2
				理系英語１		1
				理系英語２		1
				オーラルスキル（英語）１		1
				オーラルスキル（英語）２		1

				オーラルスキル（英語）３		1
				オーラルスキル（英語）４		1
			応用科目Ａ	海外研修（英語）		2
				言語演習（英語）１		1
				言語演習（英語）２		1
				ＴＯＥＩＣ・Ａ１		1
				ＴＯＥＩＣ・Ａ２		1
				英語スキル上級Ａ		1
			応用科目Ｂ	理系英語３（エッセンシャル）		1
				理系英語４（エッセンシャル）		1
				理系英語３（コンプリヘンション）		1
				理系英語４（コンプリヘンション）		1
				理系英語３（プレゼンテーション）		1
				理系英語４（プレゼンテーション）		1
				発展理系英語１		1
				発展理系英語２		1
				ＴＯＥＩＣ・Ｂ１		1
				ＴＯＥＩＣ・Ｂ２		1
				英語スキル上級Ｂ		1
		第二外国語		ドイツ語総合１		1
				ドイツ語総合２		1
				ドイツ語総合３		1
				ドイツ語総合４		1
				中国語総合１		1
				中国語総合２		1
				中国語総合３		1
				中国語総合４		1
学部基礎科目				化学実験		2
				物理学実験		2
				基礎食品化学		2
				知的財産権		2
				Ｗｅｂデザイン		1
				バイオテクノロジー技術論		2
				科学倫理		2
				情報倫理		2
				生物と地球環境		2
				医療・科学・暮らし		2
				情報処理基礎Ⅰ	1	
				情報処理基礎Ⅱ	1	
				地学概論Ⅰ		2
				地学概論Ⅱ		2
				地学実験		1
				代数学概論Ⅰ		2
				代数学概論Ⅱ		2
				幾何学ＩＡ		2
				幾何学ＩＢ		2

	幾何学ⅡＡ		2
	幾何学ⅡＢ		2

＜履修方法＞

共通教養科目から16単位以上（うち必修２単位）、外国語科目から14単位以上（うち英語10単位以上）、学部基礎科目から６単位以上（うち必修２単位）を修得しなければならない。

コンソーシアム科目は４単位を上限に共通教養科目として認められる。

高等教育機関コンソーシアム和歌山単位互換及び南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度に関する包括協定にもとづく単位互換提供科目

授業科目	単位数
高等教育機関コンソーシアム和歌山及び南大阪地域大学コンソーシアムにおいて定められた提供科目および単位数	

＜履修方法＞

高等教育機関コンソーシアム和歌山単位互換及び南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

生物工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
学科基幹科目群	トピックスインバイオロジー	2	
	有機化学基礎	2	
	基礎遺伝学	2	
	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	細胞生物学Ⅰ	2	
	分子生物学Ⅰ	2	
	植物生理学	2	
	基礎微生物学	2	
	公衆衛生学		2
	基礎植物学		2
	細胞生物学Ⅱ		2
	疫学論		2
	細胞生物学Ⅲ		2
	分子生物学Ⅱ		2
	生物物理化学		2
	酵素化学		2
	生物機能物質化学		2
	ゲノム機能科学		2
	遺伝子発現制御学		2

	免疫・アレルギー学		2
手法に関する科目群	計量生物学	2	
	遺伝子工学		2
	生物分析化学		2
	機器分析化学		2
	バイオインフォマティクス		2
	植物細胞工学		2
生物資源利用科目群	応用微生物学	2	
	植物生産工学Ⅰ		2
	植物生産工学Ⅱ		2
	植物育種学		2
	資源植物学		2
	植物栽培環境学		2
生物プロセス科目群	バイオリアクター工学		2
	生物プロセス工学		2
	環境システム工学		2
	生体情報工学		2
	食品企業経営論		2
	環境科学		2
実験・実習・演習科目群	生物工学基礎化学実験	3	
	生物工学基礎生物学実験	3	
	生物工学基礎生化学実験	3	
	専門ゼミ	1	
	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	専攻科目演習Ⅳ	2	
	生物工学発展		2
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目44単位、選択科目44単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

遺伝子工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2

学科基礎科目群	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
	生命科学概論		2
	動物生理学	2	
	生体構成分子	2	
	微生物学	2	
	細胞生物学Ⅰ	2	
	細胞生物学Ⅱ	2	
	分子生物学Ⅰ	2	
	分子生物学Ⅱ	2	
	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	統計学	2	
	生物物理化学		2
生命と情報科目群	動物学	2	
	進化遺伝学		2
	タンパク質機能学		2
	遺伝子機能解析学		2
	生命科学のための情報リテラシー		2
	遺伝子発現制御とエピジェネティクス		2
	生命倫理	2	
	生命科学のための分析化学		2
高次生命科目群	発生生物学Ⅰ	2	
	発生生物学Ⅱ	2	
	動物繁殖学	2	
	免疫学概論		2
	神経科学		2
	分子発生学		2
応用生命科目群	遺伝子工学概論	2	
	発生工学	2	
	公衆衛生学	2	
	遺伝子工学	2	
	実験動物学		2
	医用遺伝子工学概論		2
	生殖医療工学		2
	幹細胞・再生医工学		2
実験・実習・演習科目群	専門ゼミ	1	
	遺伝子基礎化学実験	3	
	遺伝子工学実験	3	
	生殖工学実験	3	
	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	卒業研究	6	

学際領域選択科目
別表１に定める

＜履修方法＞

必修科目60単位、選択科目28単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

食品安全工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	生命科学概論		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
食品機能工学科目群	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	生体物質基礎	2	
	食品材料学		2
	食品機能統計学		2
	分子生物学Ⅰ	2	
	食品機能学	2	
	機能性食品開発	2	
食生産環境科目群	植物育種学		2
	世界の食生産事情		2
	疫学論		2
	植物生産工学Ⅰ		2
	動物生産学		2
	応用微生物工学	2	
	食品企業経営論		2
	食品システム論	2	
	食生産環境工学		2
	食品工業技術論		2
	遺伝資源学		2
	食品安全工学概論	2	
	食品保全学	2	
	食品安全学	2	

食品管理評価科目群	食品加工学	2	
	食品微生物学	2	
	食品衛生管理学	2	
	食品分析化学	2	
	ＨＡＣＣＰシステム論		2
応用生命工学科目群	動物栄養学	2	
	細胞生物学Ⅰ	2	
	公衆衛生学		2
	細胞生物学Ⅱ		2
	免疫・アレルギー学		2
	分子生物学Ⅱ		2
	細胞培養工学		2
	実験動物学		2
	酵素化学		2
	バイオインフォマティクス		2
実験・実習・演習科目群	食品化学実験	3	
	食品生物学実験	3	
	専門ゼミ	1	
	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	専攻科目演習Ⅳ	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目55単位、選択科目33単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

生命情報工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
	生命情報工学総論	2	
	数学	2	
	基礎数学		2
	微分積分学	2	
	線形代数学	2	
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	生物学Ⅰ		2

学科基礎科目群	生物学Ⅱ		2
	コンピュータ概論	2	
	情報ネットワーク		2
	応用数学Ⅰ		2
	応用数学Ⅱ		2
	情報基礎		2
	確率基礎		2
	生物統計		2
	電気回路Ⅰ		2
	電気回路Ⅱ		2
	電子回路		2
	制御基礎論		2
	生体とシステム制御		2
	生体分子の統計物理		2
	知的財産権法概論		2
生命情報科目群	細胞生物学		2
	情報セキュリティ		2
	分子生物学Ⅰ		2
	プログラミング	2	
	データ構造とアルゴリズム	2	
	分子生物学Ⅱ		2
	バイオマテリアル		2
	バイオセンサー		2
	数値計算	2	
	データベース論	2	
	情報理論		2
	バイオインフォマティクス		2
生体システム科目群	脳・神経生理学		2
	生体・電子計測学		2
	生体情報工学		2
	デジタル回路		2
	情報通信工学		2
	生体信号解析		2
	画像処理		2
	システム工学		2
	機械学習		2
	脳と情報科学		2
先端専門科目群	生命情報工学講究Ⅰ	2	
	生命情報工学講究Ⅱ	2	
実験・実習・演習科目群	基礎数学演習Ⅰ	1	
	基礎数学演習Ⅱ	1	
	プログラミング基礎	1	
	専門ゼミ	1	
	プログラミング実習Ⅰ	1	
	プログラミング実習Ⅱ	1	
	生命情報工学演習Ⅰ	1	

	生命情報工学演習Ⅱ	2	
	システム情報処理実習Ⅰ	1	
	システム情報処理実習Ⅱ	1	
	情報基礎実験	2	
	生体情報工学実験	2	
	生命情報工学応用演習	1	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目44単位、選択科目44単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
数学科教育法Ⅰ	2
数学科教育法Ⅱ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2
情報科教育法Ⅰ	2
情報科教育法Ⅱ	2

人間環境デザイン工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学	2	
	線形代数学		2
	情報処理応用		2
	応用解析学Ⅰ		2
	応用解析学Ⅱ		2
	確率統計		2
	心理統計学		2
	システムデザインと倫理		2
	シミュレーション工学		2
	人間医工学概論		2
	生体機能・解剖学		2
	生理学		2

人間科学科目群	カラーコーディネーションの心理学		2
	環境計画学		2
	スポーツ科学		2
	スポーツダイナミクス		2
	感性デザインの数理		2
機械科学科目群	暮らしの力学	4	
	材料力学Ⅰ		2
	材料力学Ⅱ		2
	センサ工学		2
	アンビエントセンサ		2
	生体計測学		2
	流れ学		2
	材料機能学		2
	生活支援ロボット		2
住環境科学科目群	住環境科学概論		2
	プロダクトデザイン	2	
	設計製図	2	
	熱・設備工学		2
	温熱・空気環境学		2
	振動と音響の科学		2
	建築法規		2
	建築施工		2
ユニバーサルデザイン科目群	ユニバーサルデザイン概論		2
	福祉情報デザイン		2
	人間工学		2
	建築と照明		2
	福祉機器デザイン		2
	ユニバーサルデザイン		2
実験・実習・演習科目群	ユニバーサルデザイン・ＣＡＤ演習Ⅰ	2	
	ユニバーサルデザイン・ＣＡＤ演習Ⅱ	2	
	ユニバーサルデザイン・ＣＡＤ演習Ⅲ	2	
	３次元ＣＡＤプロダクトデザイン	2	
	設計製図演習	1	
	専門ゼミ	1	
	人間環境デザイン工学実験Ⅰ	2	
	人間環境デザイン工学実験Ⅱ	2	
	人間環境デザイン工学演習Ⅰ	1	
	人間環境デザイン工学演習Ⅱ	1	
	人間環境デザイン工学講究	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目34単位、選択科目54単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
数学科教育法Ⅰ	2
数学科教育法Ⅱ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
数学科教育法特講Ⅱ	2
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

医用工学科

授業科目の名称		単位数		
		必修	選択	自由
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	基礎数学		2	
	数学		2	
	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	微分積分学	2		
	線形代数学	2		
工学科目群	応用数学	2		
	コンピュータ工学	2		
	医用工学概論	2		
	電気工学Ⅰ	2		
	電気工学Ⅱ			2
	電気電子工学			2
	機械工学	2		
	電子工学Ⅰ	2		
	信号処理			2
	計測工学	2		
	バイオセンサー			2
	電子工学Ⅱ			2
	制御工学	2		
	材料工学	2		
	放射線工学概論	2		
	バイオマテリアル	2		
	生体物性工学	2		
基礎医学科目群	生命倫理	2		
	基礎医学総論（法規・衛生）	2		
	解剖学	2		
	生理学	2		
	病理学	2		
	臨床生化学	2		
	臨床免疫学	2		
	臨床生理学	2		

	臨床薬理学	2		
	看護学概論	2		
	医療社会学	2		
医用工学科目群	医用機器学概論	2		
	生体計測装置学			2
	臨床医学総論Ⅰ	2		
	生体機能代行装置学Ⅰ	4		
	医用治療機器学	2		
	臨床医学総論Ⅱ			2
	生体機能代行装置学Ⅱ			4
	臨床医学総論Ⅲ			2
	生体機能代行装置学Ⅲ			2
	医用機器安全管理学Ⅰ	2		
	医用機器安全管理学Ⅱ			2
実験・実習・演習科目群	専門ゼミ	1		
	応用数学演習			1
	電気電子工学実習	2		
	基礎医学実習	2		
	プログラミング演習	1		
	システム工学実習	2		
	医療治療機器学・生体計測装置学実習	3		
	生体機能代行装置学実習	3		
	医用機器安全管理学実習	2		
	臨床実習			4
	臨床工学特別演習Ⅰ			1
	臨床工学特別演習Ⅱ			1
	卒業研究	4		
学際領域選択科目				
別表１に定める				

＜履修方法＞

必修科目82単位、選択科目６単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は10単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

別表１　学際領域選択科目（○印）

授業科目	単位数	生物工学科	遺伝子工学科	食品安全工学科	生命情報工学科	人間環境デザイン工学科	医用工学科
	選択						
生物物理化学	2			○	○	○	○
環境科学	2		○	○			
生物機能物質化学	2		○	○			
生命科学概論	2				○	○	○

遺伝子工学概論	2	○		○	○	○	○
医用遺伝子工学概論	2	○		○	○	○	○
免疫・アレルギー学	2		○		○	○	○
食品工業技術論	2	○	○		○	○	○
遺伝資源学	2	○	○		○	○	○
脳と情報科学	2	○	○	○		○	○
情報理論	2	○	○	○		○	○
バイオセンサー	2	○	○	○		○	
材料機能学	2	○	○	○	○		○
感性デザインの数理	2	○	○	○	○		○
スポーツダイナミクス	2	○	○	○	○		○

別表（１）―14

工学部授業科目表

基礎教育

区分	分野	授業科目	単位数	必選別
総合科目	人間性・社会性科目群	哲学	2	○
		心理学	2	○
		日本国憲法	2	○
		人権論	2	○
		経済学	2	○
		政治基礎論	2	○
		教養特殊講義Ａ	2	○
	地域性・国際性科目群	ことばと文化	1	○
		日本語の技法	2	○
		人間と文化	2	○
		東広島学	2	○
		国際経営論	2	○
		グローバルキャリア論	2	○
		教養特殊講義Ｂ	2	○
	課題設定・問題解決科目群	キャリアデザイン	2	○
		職業の理解	2	○
		生活と倫理	2	○
		社会行動論	2	○
		エンジニアリング・デザイン	2	○
		インターンシップ研修	2	○
		教養ゼミナール	2	○
		教養特殊講義Ｃ	2	○
		情報と職業	2	○
	表現・スポーツ・健康活動科目群	芸術論	2	○
		工業デザイン	2	○
		生涯スポーツⅠ	1	○
		生涯スポーツⅡ	1	○
		スポーツ概論	2	○

		健康と安全	2	○
		メンタルヘルス	2	○
		余暇論	2	○
	専門基礎・自然科学科目群	工学倫理	2	◎
		地球の科学	2	○
		宇宙の科学	2	○
		生命の科学	2	○
		情報リテラシー	1	○
		図学	2	○
		物質の科学	2	○
		工学特講	2	○
		情報と社会	2	○
外国語科目	英語	英語ＡⅠ	1	◎
		英語ＡⅡ	1	○
		英語ＢⅠ	1	◎
		英語ＢⅡ	1	○
		英語ＣⅠ	1	○
		英語ＣⅡ	1	○
		英語ＤⅠ	1	○
		英語ＤⅡ	1	○
		英語応用Ⅰ	1	○
		英語応用Ⅱ	1	○
		英会話基礎Ⅰ	1	○
		英会話基礎Ⅱ	1	○
		英会話応用Ⅰ	1	○
		英会話応用Ⅱ	1	○
	初修外国語	ドイツ語Ⅰ	1	○
		ドイツ語Ⅱ	1	○
		フランス語Ⅰ	1	○
		フランス語Ⅱ	1	○
		中国語Ⅰ	1	○
		中国語Ⅱ	1	○
	外国語共通	海外語学研修	2	○

＜履修方法＞

① 総合科目は、人間性・社会性科目群２単位以上、地域性・国際性科目群１単位以上、課題設定・問題解決科目群２単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群１単位以上、専門基礎・自然科学科目群２単位以上、合計16単位以上修得すること。

② 外国語科目は、英語ＡⅠと英語ＢⅠ各１単位、英語ＡⅡ、英語ＢⅡ、英語ＣⅠ、英語ＣⅡ、英語ＤⅠ、英語ＤⅡ、英語応用Ⅰ、英語応用Ⅱの中から４単位、合計６単位の修得と、英語の選択科目（上記で修得済みの４単位の科目を除く）、初修外国語、外国語共通の中から２単位以上、合計８単位以上修得すること。ただし、英語ＤⅠと英語ＤⅡについては、履修を許可された者だけが受講できる。

〔総合科目修得内訳表〕

学科	総合科目の区分要件
化学生命工学科 機械工学科 情報学科 建築学科	人間性・社会性科目群２単位以上、地域性・国際性科目群１単位以上、課題設定・問題解決科目群２単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群１単位以上、専門基礎・自然科学科目群２単位以上、合計16単位以上修得すること。

電子情報工学科	人間性・社会性科目群２単位以上、地域性・国際性科目群１単位以上（「日本語の技法」を含む）、課題設定・問題解決科目群２単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群１単位以上、専門基礎・自然科学科目群２単位以上、合計16単位以上修得すること。
ロボティクス学科	人間性・社会性科目群２単位以上、地域性・国際性科目群１単位以上、課題設定・問題解決科目群２単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群１単位以上、専門基礎・自然科学科目群２単位以上（「情報リテラシー」を含む）、合計16単位以上修得すること。

化学生命工学科

区分	授業科目	単位数	必選別		
			生物化学コース	環境化学コース	食品科学コース
工学基礎	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎	◎
	電算機基礎演習Ⅰ	1	◎	◎	◎
	電算機基礎演習Ⅱ	1	◎	◎	◎
	物理学Ⅰ	2	◎	○	○
	物理学Ⅱ	2	◎	○	○
	化学概論Ⅰ	2	◎	◎	◎
	化学概論Ⅱ	2	◎	◎	◎
	生物学概論	2	◎	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	◎	○	○
	微分積分学Ⅱ	2	◎	○	○
演習・実験	化学生命工学基礎演習	2	◎	◎	◎
	化学生命工学基礎実験	2	◎	◎	◎
	無機・物理化学演習	2	○	○	○
	有機・高分子化学演習	2	○	○	○
	化学実験	2	◎	◎	◎
	生物工学実験	2	◎	◎	◎
	生命工学演習	2	○	○	○
	物質化学実験	2	◎	◎	◎
	環境生命化学実験	2	◎	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎	◎
知識情報系	コンピュータ応用Ⅰ	2	◎	○	○
	コンピュータ応用Ⅱ	2	◎	○	○
	化学・生命情報学	2	○	○	○
専門基礎	基礎物理化学	2	◎	○	○
	基礎無機化学	2	◎	○	◎
	基礎有機化学	2	◎	○	◎
	基礎生化学	2	◎	○	◎
	基礎分析化学	2	◎	○	◎
	基礎高分子化学	2	◎	○	○
	基礎分子生物学	2	◎	○	◎
	科学英語Ⅰ	2	◎	○	○
	科学英語Ⅱ	2	◎	○	○
	知的財産法	2	◎	○	○
化学系	物理化学	2	○	○	○

	無機化学	2	○	○	○
	有機化学	2	○	○	○
	高分子化学	2	○	○	○
	合成化学	2	○	○	○
	農薬化学	2	○	○	○
	機器分析化学	2	○	○	○
生物工学系	生化学	2	○	○	○
	微生物学	2	○	○	◎
	分子細胞生物学	2	○	○	◎
	遺伝子工学	2	○	○	○
	生命工学	2	○	○	○
環境システム系	環境制御工学	2	◎	○	○
	環境化学	2	◎	○	○
	資源循環化学	2	◎	○	○
食品科学系	食品化学	2	○	○	◎
	分子栄養学	2	○	○	◎
	応用微生物学	2	○	○	◎
	植物栄養学	2	○	○	○
	食品衛生学	2	○	○	◎
	食品工学	2	○	○	○
融合複合	公衆衛生学	2	○	○	○
	生物有機化学	2	○	○	○
	グリーンケミストリー	2	◎	◎	◎
教職関連科目	物理学実験	2	○	○	○
	地学実験	2	○	○	○
	金属加工（製図及び実習を含む。）	2	○	○	○
	栽培・同実習	2	○	○	○

＜履修方法＞

生物化学コースにおいては、必修科目◎68単位、選択科目○の中から16単位以上、合計84単位以上修得すること。

環境化学コースにおいては、必修科目◎30単位、選択科目○の中から54単位以上、合計84単位以上修得すること。

食品科学コースにおいては、必修科目◎52単位、選択科目○の中から32単位以上、合計84単位以上修得すること。

機械工学科

区分		授業科目	単位数	必選別	
				機械設計コース	エネルギー機械コース
工学基礎	導入	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	数学	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
		微分積分学Ⅱ	2	◎	◎
		線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
		線形代数学Ⅱ	2	◎	◎
		微分方程式	2	◎	◎
		解析学	2	○	○
		確率統計学	2	◎	◎
	物理	物理学Ⅰ	2	◎	◎

		物理学Ⅱ	2	◎	◎
		物理学演習	1	○	○
		工業力学	2	◎	◎
	工学	電算機基礎演習	1	◎	◎
実験・実習	実験	機械工学基礎実験Ⅰ	2	◎	◎
		機械工学基礎実験Ⅱ	2	◎	◎
		機械工学実験	2	◎	◎
	実習	機械基礎工作実習	2	◎	◎
		卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
		卒業研究	6	◎	◎
材料と構造	材料力学	材料力学Ⅰ	2	◎	◎
		材料力学演習	1	○	○
		材料力学Ⅱ	2	◎	○
		弾塑性力学	2	○	○
	材料工学	材料の基礎	2	◎	◎
		機械材料Ⅰ	2	◎	○
		機械材料Ⅱ	2	○	○
		鋳造材料学	2	○	○
運動と振動	機械力学	機械力学Ⅰ	2	◎	◎
		機械力学Ⅱ	2	○	○
設計と生産管理	設計・製図	機械製図法	2	◎	◎
		設計製図演習Ⅰ	2	◎	◎
		設計製図演習Ⅱ	2	◎	◎
		機械要素設計Ⅰ	2	◎	◎
		機械要素設計Ⅱ	2	◎	◎
		応用設計	2	◎	◎
	生産工学	加工学Ⅰ	2	◎	◎
		加工学Ⅱ	2	◎	○
		接合工学	2	○	○
		塑性加工学	2	○	○
エネルギーと流れ	流体力学	基礎流れ学	2	◎	◎
		流体力学Ⅰ	2	○	◎
		流体力学Ⅱ	2	○	○
		応用流体工学	2	○	○
	熱工学	工業熱力学Ⅰ	2	◎	◎
		工業熱力学演習	1	○	○
		工業熱力学Ⅱ	2	○	○
		伝熱工学	2	○	◎
		燃焼工学	2	○	○
情報と計測制御	計測制御工学	計測工学	2	◎	◎
		制御工学Ⅰ	2	○	◎
		制御工学Ⅱ	2	○	○
	電子情報工学	電気電子工学Ⅰ	2	○	○
		電気電子工学Ⅱ	2	○	○
		プログラミング	2	○	○
応用・関連	関連科目	法工学	2	○	○
教職・関連	教職関連	金属加工（製図及び実習を含	2	○	○

	科目	む。）			

＜履修方法＞

機械設計コースにおいては、必修科目◎67単位、選択科目○の中から「材料力学」、「材料工学」、「機械力学」、「生産工学」区分の８単位以上を含む17単位以上、合計84単位以上修得すること。

エネルギー機械コースにおいては、必修科目◎67単位、選択科目○の中から「流体力学」、「熱工学」、「計測制御工学」、「電子情報工学」区分の８単位以上を含む17単位以上、合計84単位以上修得すること。

情報学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			情報システムコース	情報メディアコース
工学基礎	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	データサイエンス基礎	2	○	○
	基礎統計学	2	◎	◎
	情報数学	2	◎	◎
	コンピュータ基礎実習	1	◎	◎
	科学技術英語Ⅰ	2	◎	○
	科学技術英語Ⅱ	2	◎	○
	情報倫理	2	◎	◎
総合	情報基礎実習	1	◎	◎
	情報処理実習Ⅰ	2	◎	◎
	情報処理実習Ⅱ	2	◎	◎
	情報システム演習Ⅰ	4	◎	
	情報システム演習Ⅱ	4	◎	
	情報メディア演習Ⅰ	4		◎
	情報メディア演習Ⅱ	4		◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
情報処理	コンピュータ概論	2	◎	◎
	コンピュータシステムとアーキテクチャ	2	◎	◎
	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	◎	○
	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2	○	○
	プログラミング実習Ⅰ	2	◎	◎
	プログラミング実習Ⅱ	2	◎	○
	コンピュータネットワーク	2	◎	○
	Ｗｅｂ技術	2	○	○
	データベース管理	2	○	○
	オブジェクト指向とモデリング言語	2	○	○
	オブジェクト指向プログラミング	1	○	○
	情報セキュリティ	2	○	○
	ソフトウェア工学	2	○	○
	応用統計学	2	◎	◎
	システム最適化法	2	○	○

	知識情報処理	2	○	○
	データマイニング	2	○	○
	オペレーションズ・リサーチ	2	○	○
	シミュレーション科学	2	○	○
情報システム	情報システム工学概論	2	◎	◎
	情報システム開発法	2	◎	○
	情報システムの設計と運営	2	○	○
	会計情報システム	2	○	○
	サプライチェインマネジメント	2	○	○
	経営情報システム	2	◎	○
	生産管理情報システム	2	○	○
	組織活動と情報システム	2	◎	◎
	企業情報システム演習	2	○	○
	経営学概論	2	◎	◎
	マーケティング	2	○	○
	プロジェクトマネジメント	2	○	○
	ビジネスプロセスモデリング	2	○	○
	ＥＲＰシステム実習Ⅰ	2	○	○
	ＥＲＰシステム実習Ⅱ	2	○	○
	情報システム管理	2	○	○
情報メディア	マルチメディア概論	2	◎	◎
	メディアデータ解析	2	○	◎
	コンピュータグラフィックス	2	○	○
	映像処理	2	○	○
	パターン認識	2	○	○
	組込みシステム	2	○	○
	ＩｏＴとクラウド	2	○	○
	マルチメディアプログラミング	2	○	○
	バーチャルリアリティ	2	○	○
	音響処理	2	○	○
	音響学	2	○	○
	Ｗｅｂデザイン	2	○	○
	ヒューマンインタフェース	2	○	○
教職関連科目	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

＜履修方法＞

情報システムコースにおいては、必修科目◎62単位、「情報処理」区分の選択科目○の中から10単位以上、「情報システム」区分の選択科目○の中から12単位以上を含む22単位以上、合計84単位以上修得すること。

情報メディアコースにおいては、必修科目◎50単位、選択科目○の中から34単位以上、合計84単位以上修得すること。

建築学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			建築学コース	インテリアデザインコース
工学基礎	微分積分学Ⅰ	2	○	○
	微分積分学Ⅱ	2	○	○

	線形代数学Ⅰ	2	○	○
	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	応用物理学	2	○	○
	建築プログラミング	1	○	○
建築設計製図	建築図法	2	○	○
	造形演習	2	○	○
	建築ＣＡＤ・ＣＧ演習	2	○	○
	建築基本製図	2	◎	◎
	建築演習	2	◎	◎
	建築設計製図	2	◎	◎
	木造住宅設計	2	○	○
	建築設計演習Ⅰ	2	◎	◎
	建築設計演習Ⅱ	4	◎	◎
	建築設計演習Ⅲ	4	◎	◎
	建築設計・集中演習Ⅰ	1	◎	◎
	建築設計・集中演習Ⅱ	1	◎	◎
建築計画	建築史Ⅰ	2	◎	◎
	建築史Ⅱ	2	○	○
	建築デザイン論	2	○	○
	建築計画Ⅰ	2	◎	◎
	建築計画Ⅱ	2	◎	◎
	都市計画	2	◎	◎
建築環境工学	居住環境学	2	◎	◎
	建築環境Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	建築環境Ⅱ・同演習	2	○	○
建築設備	建築設備Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	建築設備Ⅱ・同演習	2	○	○
構造力学	静定力学・同演習	2	◎	◎
	材料力学・同演習	2	◎	◎
	不静定力学Ⅰ・同演習	2	○	○
	不静定力学Ⅱ・同演習	2	◎	○
建築一般構造	構造演習	2	◎	◎
	構造設計Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	構造設計Ⅱ・同演習	2	○	○
	構造設計Ⅲ	2	○	○
	建築地盤工学	2	○	○
建築材料	建築材料	2	◎	◎
建築生産	建築構法	2	○	○
	建築施工	2	◎	◎
	建築生産	2	○	○
インテリアデザイン	インテリアデザイン論	2		◎
	色彩・照明論	2	○	○
	インテリア設計演習	2		◎
	インテリアエレメント	2	○	○
	インテリア制作	2		◎
共通	建築概論	2	◎	◎
	建築法規	2	◎	◎

	職業観と倫理	2	◎	◎
	建築実験	2	◎	○
	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
教職関連科目	木材加工（製図及び実習を含む。）	2	○	○
	金属加工（製図及び実習を含む。）	2	○	○

＜履修方法＞

建築学コースにおいては、必修科目◎62単位、選択科目○の中から22単位以上、合計84単位以上修得すること。

インテリアデザインコースにおいては、必修科目◎64単位、選択科目○の中から20単位以上、合計84単位以上修得すること。

電子情報工学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			電気電子コース	情報通信コース
工学基礎	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	電気回路実験	1	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	◎	◎
	力学	2	○	○
実験・実習	電子情報基礎実験	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅰ	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅱ	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅲ	2	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
電子・情報基礎	コンピュータ概論	2	◎	◎
	プログラミング基礎	2	◎	◎
	回路理論Ⅰ	2	◎	◎
	回路理論Ⅱ	2	◎	◎
	電子回路Ⅰ	2	◎	◎
	電子回路Ⅱ	2	○	○
	電磁気学Ⅰ	2	◎	◎
	電磁気学Ⅱ	2	○	○
	微分方程式	2	○	○
	確率統計学	2	◎	◎
電子・情報応用	コンピュータシステム演習	1	◎	◎
	論理回路	2	◎	◎
	ディジタル回路設計	2	◎	○
	過渡解析	2	○	○
	制御システム	2	○	○
	データ工学	2	○	◎
	アルゴリズム演習	1	○	○
	集積回路	2	○	○

	電子計測	2	○	○
	情報理論	2	○	○
	アルゴリズム設計	2	○	○
	コンピュータアーキテクチャー	2	○	○
	組込みシステム	2	○	○
	電気機器学	2	◎	○
	人工知能	2	○	○
	エネルギー変換工学	2	○	○
ソフトウェア開発	プログラミングⅠ	2	◎	◎
	プログラミングⅡ	2	◎	◎
	オブジェクト指向プログラミング	1	○	○
	ソフトウェア設計	2	○	○
マルチメディア処理	信号処理工学	2	○	○
	画像処理工学	2	○	○
情報通信メディア	情報通信ネットワーク	2	○	◎
	情報通信システム構築演習	1	○	○
	通信工学	2	○	○
	半導体工学	2	○	○
	光エレクトロニクス	2	○	○
関連科目	知的財産法	2	○	○
	情報技術英語Ⅰ	2	○	○
	情報技術英語Ⅱ	2	○	○
教職関連科目	解析学Ⅰ	2	○	○
	解析学Ⅱ	2	○	○
	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

＜履修方法＞

必修科目◎50単位、選択科目○の中から34単位以上、合計84単位以上修得すること。

ロボティクス学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			ロボット設計コース	ロボット制御コース
工学基礎	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	確率統計学	2	○	○
	微分方程式	2	○	○
	ベクトル解析	2	○	○
	物理学Ⅰ	2	○	○
	物理学Ⅱ	2	○	○
共通	フレッシュマンゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
	科学技術英語Ⅰ	1	○	○
	科学技術英語Ⅱ	1	○	○
	知的財産管理	2	○	○

実験・実習・演習	機械標準製図法	2	◎	◎
	機械設計製図	2	◎	◎
	ロボット設計製図	2	◎	
	プログラミングⅠ	2	◎	◎
	プログラミングⅡ	2	◎	◎
	ＣＡＤ／ＣＡＥ／ＣＡＭ実習	2	◎	◎
	ロボット工作基礎Ⅰ	2	◎	◎
	ロボット工作基礎Ⅱ	2	◎	◎
	ロボット工学実験Ⅰ	2	◎	◎
	ロボット工学実験Ⅱ	2		◎
	ロボット創成実験	2	◎	◎
設計・製造	流れ学	2	○	○
	基礎材料力学	2	◎	◎
	材料力学	2	○	○
	力学	2	◎	◎
	剛体の力学	2	◎	◎
	機械力学	2	○	○
	機械要素設計	2	◎	○
	機械材料	2	◎	◎
	加工学	2	○	○
	基礎数値解析	2	○	○
	数値解析	2	○	○
	生体工学	2	○	○
電気・電子	電気回路Ⅰ	2	◎	◎
	電気回路Ⅱ	2	○	○
	デジタル電子回路	2	○	○
	ロボットインタフェース	2	○	○
制御・メカトロニクス	基礎制御工学	2	◎	◎
	制御工学	2	○	◎
	メカトロニクス	2	○	○
	計測・センサ工学	2	○	○
	ロボット機構学	2	○	○
	アクチュエータ工学	2	○	○
	ロボット工学	2	○	○
	ビークルシステム学	2	○	○
	ビークル運動学	2	○	○
情報	コンピュータ科学基礎	2	◎	◎
	知能情報工学	2	○	○
	ロボットビジョン	2	○	○
教職関連科目	代数学Ⅰ	2	○	○
	代数学Ⅱ	2	○	○
	幾何学Ⅰ	2	○	○
	幾何学Ⅱ	2	○	○
	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

＜履修方法＞

必修科目◎48単位、選択科目○の中から36単位以上、合計84単位以上修得すること。

特修プログラム

区分		授業科目	単位数 選択
情報技術特修プログラム		Ｗｅｂデザイン特講	4
		Ｗｅｂデザイン実習	2
		プログラミング特講	4
		プログラミング実習	2
		データサイエンス特講	4
		データサイエンス実習	2
教育学特修プログラム		教師論	2
		教育原理	2
		教育心理学	2
		教育行政学	2
		教育方法学	2
		特別活動論	2
		道徳教育論	2
		教育情報学	2
		人権教育論	2
		生徒指導論（進路指導含む。）	2
		教育相談	2
		ピア・ティーチング演習Ⅰ	2
		ピア・ティーチング演習Ⅱ	2
		キャリアガイダンス	2
		特別支援教育	2
		総合的な学習の時間の指導法	2
教職課程特修プログラム	技術コース	木材加工（製図及び実習を含む。）	2
		金属加工（製図及び実習を含む。）	2
		工作機械・同実習	2
		電気回路・同演習	2
		栽培・同実習	2
	数学コース	代数学Ⅰ	2
		代数学Ⅱ	2
		幾何学Ⅰ	2
		幾何学Ⅱ	2
		解析学Ⅰ	2
		解析学Ⅱ	2
国際経営特修プログラム	コース共通	Ｉｎｔｅｎｓｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｐｒｏｇｒａｍ	2
		ＴＯＥＩＣ　Ⅰ	2
		ＴＯＥＩＣ　Ⅱ	2
	英語コース	Ｍｅｄｉａ　Ｅｎｇｌｉｓｈ	2
		Ｔｅｃｈｎｉｃａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅰ	2
		Ｔｅｃｈｎｉｃａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅱ	2
		Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｓｋｉｌｌ　ｆｏｒ　Ｇｌｏｂａｌ　Ｅｎｇｉｎｅｅｒｓ　Ⅰ	2
		Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｓｋｉｌｌ　ｆｏｒ　Ｇｌｏｂａｌ　Ｅｎｇｉｎｅｅｒｓ　Ⅱ	2

	技術経営コース	起業と経営	2
		技術・知識経営	2
		情報化社会の人間と組織	2
		サプライチェインマネジメント	2
		ビジネス・アカウンティング	2
		生産性設計と国際競争力	2

＜履修方法＞

16単位を限度として卒業単位として認定することができる。

〔特修プログラム修得内訳表〕

学科	教職課程特修プログラム	
	技術コース	数学コース
化学生命工学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 工作機械・同実習 電気回路・同演習	
機械工学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 電気回路・同演習 栽培・同実習	
情報学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 金属加工（製図及び実習を含む。） 栽培・同実習	
建築学科	工作機械・同実習 電気回路・同演習 栽培・同実習	
電子情報工学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 金属加工（製図及び実習を含む。） 栽培・同実習	代数学Ⅰ 代数学Ⅱ 幾何学Ⅰ 幾何学Ⅱ
ロボティクス学科	木材加工（製図及び実習を含む。） 金属加工（製図及び実習を含む。） 栽培・同実習	解析学Ⅰ 解析学Ⅱ

別表（１）―15

産業理工学部

教養・基礎教育部門

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目群	授業科目の名称	単位数	必修・選択
人間性・社会性科目群	現代社会と法	2	□
	暮らしの中の憲法	2	□
	現代社会と倫理	2	□
	哲学と人間・社会	2	□
	心理と行動	2	□
	環境と社会	2	□
	環境と科学	2	□
	企業倫理と知的財産	2	□
	建学のこころ	1	△
	インターンシップ	2	△
	教養特殊講義Ａ	2	△
地域性・国際性科目群	国際経済入門	2	□
	国際社会と日本	2	□

	国際化と異文化理解	2	□
	日本史概論	2	□
	日本文学論	2	□
	地域社会と情報	2	□
	地域社会と電気技術	2	□
	教養特殊講義Ｂ	2	△
課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ	2	○
	科学的問題解決法	2	○
	ライフデザイン	2	○
	日本語の技法	1	○
	論理的表現法Ⅰ	1	○
	論理的表現法Ⅱ	2	△
	キャリアデザイン	2	△
	就職計画	2	△
	情報処理Ⅰ	2	○
	情報処理Ⅱ	2	△
	情報処理Ⅲ	2	△
	教養特殊講義Ｃ	2	△
スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツⅠ	1	□
	生涯スポーツⅡ	1	□
	健康とスポーツの科学	2	□
	食生活と健康	2	□
	視覚表現の科学	2	□
	空間とデザイン	2	□
外国語科目群	英語Ⅰ	1	○
	英語Ⅱ	1	○
	英語Ⅲ	1	○
	英語Ⅳ	1	○
	実用英語Ⅰ	1	□
	実用英語Ⅱ	1	□
	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	□
	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	□
	インタラクティブ英語Ⅰ	1	□
	インタラクティブ英語Ⅱ	1	□
	留学英語	2	△
	中国語Ⅰ	1	□
	中国語Ⅱ	1	□
	フランス語Ⅰ	1	□
	フランス語Ⅱ	1	□
	スペイン語Ⅰ	1	□
	スペイン語Ⅱ	1	□
	海外語学研修	1	△
	日本語Ⅰ	1	□
	日本語Ⅱ	1	□
	日本語Ⅲ	1	□
	日本語Ⅳ	1	□

＜履修方法＞

必修科目14単位、選択必修科目９単位を含む計28単位以上修得すること。
生物環境化学科
○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			バイオサイエンス	食品生物資源	エネルギー・環境
基礎	数学Ⅰ	2	△	△	△
	数学Ⅱ	2	△	△	△
	物理学Ⅰ	2	△	△	△
	物理学Ⅱ	2	△	△	△
コア	生物学Ⅰ	2	○	○	○
	生物学Ⅱ	2	□	□	□
	物理化学Ⅰ	2	○	○	○
	物理化学Ⅱ	2	□	□	□
	有機化学Ⅰ	2	○	○	○
	有機化学Ⅱ	2	□	□	□
	無機化学Ⅰ	2	○	○	○
	無機化学Ⅱ	2	□	□	□
	分析化学	2	□	□	□
	地学概論	4	△	△	△
	アカデミック有機化学Ⅱ	2	△	△	△
	環境材料化学	2	△	△	□
	生物資源利用学	2	△	□	△
	栄養化学	2	△	△	△
	バイオ分析化学	2	□	□	△
	アカデミック物理化学	2	△	△	□
	アカデミック有機化学Ⅰ	2	△	△	□
	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	△	△
	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	△	△	△
	生理学	2	□	□	△
	公衆衛生学	2	△	□	△
	分光分析法	2	△	△	△
	卒業研究	6	○	○	○
実験・演習	生物環境化学基礎実験	3	○	○	○
	環境化学基礎実験	3	○	○	○
	生物化学基礎実験	3	○	○	○
	物質化学基礎実験	3	○	○	○
	環境化学実験	3	○	○	○
	物質化学実験	3	○	○	○
	生物化学実験	3	○	○	○
	生物環境化学実験	3	○	○	○
展開（環境化学系）	公害防止管理	2	△	△	□
	環境バイオテクノロジー	2	△	□	□
	環境とバイオの統計学	2	□	△	△
	資源エネルギー化学	2	△	△	□
	環境生物学	2	□	△	△
	食品衛生学	2	△	□	△

	環境計量学	2	△	△	□
展開（生物化学系）	生物化学Ⅰ	2	□	□	△
	生物化学Ⅱ	2	△	△	△
	分子遺伝学	2	□	△	△
	生物有機化学	2	□	△	△
	バイオセンシング	2	△	△	△
	微生物学	2	△	□	△
	微生物バイオテクノロジー	2	□	□	△
	遺伝子工学	2	□	△	△
	食品化学	2	△	□	△
	食品保存学	2	△	□	△
	栄養学	2	△	△	△
展開（材料化学系）	高分子合成化学	2	△	△	△
	高分子物性	2	△	△	△
	化学と安全	2	△	△	□
	分子シミュレーション	2	△	△	□
	固体化学	2	△	△	□
	先端無機材料化学	2	△	△	△
	先端有機材料化学	2	△	△	△
	有機合成化学	2	△	△	△
	生体機能分子化学	2	△	△	△

＜履修方法＞

バイオサイエンスコースにおいては、必修科目38単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

食品生物資源コースにおいては、必修科目38単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

エネルギー・環境コースにおいては、必修科目38単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

電気電子工学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			応用エレクトロニクス	エネルギー・環境	情報通信
基礎	基礎数学	2	○	○	○
	基礎数学演習	2	○	○	○
	電気電子数学	2	○	○	○
	電気電子数学演習	2	○	○	○
	応用数学Ⅰ	2	□	□	□
	応用数学Ⅱ	2	□	□	□
	初等電磁気学	2	○	○	○
	初等信号理論	2	○	○	○
	シミュレーション	2	○	○	○
	コンピュータ概論	2	○	○	○
	エレクトロニクス概論	2	○	○	○
電気基礎	電磁気学Ⅰ	2	○	○	○
	電磁気学Ⅱ	2	○	○	□
	電気回路Ⅰ	2	○	○	○

	電気回路Ⅰ演習	2	○	○	○
	電気回路Ⅱ	2	○	○	○
	電気回路Ⅲ	2	○	○	□
電子工学	電子回路Ⅰ	2	○	○	○
	電子回路Ⅰ演習	2	○	○	○
	電子回路Ⅱ	2	○	○	□
	電子回路設計	2	○	○	△
	計測工学	2	○	○	○
	電気材料物性	2	□	□	△
	半導体工学	2	□	△	△
	集積回路	2	○	△	□
電力工学	電力システム概論	2	□	○	△
	電気機器	2	△	○	△
	パワーエレクトロニクス	2	△	○	△
	発変電工学	2	△	□	△
	送配電工学	2	△	□	△
	電気法規・施設管理	2	△	□	△
	エネルギー環境システム	2	○	○	△
計算機工学	計算機システム	2	○	○	○
	論理回路	2	○	○	○
	論理回路演習	2	□	□	□
	プログラミング	2	○	○	○
	プログラミング演習	2	○	○	○
	データ処理とプログラミング	2	○	△	○
情報・通信システム	電磁波工学	2	□	□	□
	無線通信工学	2	□	△	□
	情報通信工学	2	○	△	○
	情報ネットワーク	2	□	△	○
	情報社会と倫理	2	△	△	△
	情報と法	2	△	△	△
	情報と職業	2	△	△	△
応用エレクトロニクス	システムプログラミング	2	○	△	○
	制御工学	2	○	△	□
	組込み制御	2	○	△	○
	ロボティクス	2	□	△	□
	情報センシング	2	○	△	□
	情報メディア工学	2	△	△	□
実験・実習	初等理工学実験	1	○	○	○
	初等電気工学実験	1	○	○	○
	電気工学基礎実験Ⅰ	2	○	○	○
	電気工学基礎実験Ⅱ	2	○	○	○
	電気電子情報工学実験Ⅰ	2	○	○	○
	電気電子情報工学実験Ⅱ	2	○	○	○
	電子情報設計プロジェクト	2	○	○	○
	電子情報工学セミナー	2	○	○	○
	電機設計・製図	2	△	□	△
	卒業研究	6	○	○	○

＜履修方法＞

応用エレクトロニクスコースにおいては、必修科目84単位、専門選択必修科目10単位以上、計94単位以上を修得すること。

エネルギー・環境コースにおいては、必修科目76単位、専門選択必修科目12単位以上、計88単位以上を修得すること。

情報通信コースにおいては、必修科目70単位、専門選択必修科目16単位以上、計86単位以上を修得すること。

建築・デザイン学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択	
			建築工学	建築・デザイン
基礎	数学及び演習	3	△	△
	物理学	2	△	△
構造	静定構造力学Ⅰ及び演習	3	○	○
	静定構造力学Ⅱ及び演習	3	○	△
	不静定構造力学及び演習	3	○	△
	建築と構造	2	○	○
	鉄筋コンクリート構造	2	○	△
	鋼構造	2	○	△
	構造設計及び演習	3	□	△
生産	建築材料	2	○	○
	施工法Ⅰ	2	○	○
	施工法Ⅱ	2	○	△
	施工管理及び演習	3	□	△
環境	環境概論	2	○	○
	建築と環境	2	□	△
	都市と環境	2	□	△
	建築設備の基礎	2	○	○
	建築設備の計画	2	□	△
	設備設計及び演習	3	□	△
計画	環境とデザイン	2	□	□
	近現代建築論	2	□	□
	住まいの計画	2	□	□
	地域施設の計画	2	□	□
	建築計画	2	□	□
	空間造形	2	□	□
	都市計画	2	□	△
造形・表現	基礎造形	3	△	△
	造形演習	3	△	△
	デザイン企画論	2	△	△
	インテリアデザイン論	2	△	△
	インテリアデザイン演習	3	△	△
	画像設計演習	3	△	△
	視覚表現演習	3	△	△
	建築メディア論	2	△	△
	プレゼンテーション演習	3	△	△
	感性とデザイン	2	△	△

	リアルサイズデザイン	2	△	△
	色彩検定講座	2	△	△
	図とデザイン	2	△	△
設計	建築・デザイン演習Ⅰ	3	○	○
	建築・デザイン演習Ⅱ	3	○	○
	建築設計Ⅰ	3	○	○
	建築設計Ⅱ	3	○	△
	建築設計Ⅲ	3	○	△
	建築設計Ⅳ	3	□	△
	ＣＡＤトレーニング	2	△	△
共通	建築工学実験	2	○	△
	建築法規	2	○	○
	建築技術者倫理	2	△	△
	プロジェクト研究	3	○	○
	卒業研究	6	○	○

＜履修方法＞

建築工学コースにおいては、必修科目53単位、選択必修科目17単位以上を含み、合計80単位以上修得すること。

建築・デザインコースにおいては、必修科目33単位、選択必修科目４単位以上を含み、合計70単位以上修得すること。

情報学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			情報エンジニアリング	メディア情報	データサイエンス
数学	数学	2	△	△	△
	数学演習	2	△	△	△
	情報数学	2	△	△	△
	情報数学演習	2	△	△	△
	応用数学	2	△	△	△
	応用情報数学	2	△	△	○
	多変量解析	2	△	△	○
基礎・理論	コンピュータ概論Ⅰ	2	○	○	○
	コンピュータ概論Ⅱ	2	○	○	○
	ネットワークと通信の理論	2	△	△	△
	情報と符号の理論	2	△	△	△
	計算の複雑さ	2	△	△	△
	暗号とセキュリティの理論	2	△	△	△
マネジメント・資格支援	情報システム概論	2	○	□	△
	プロジェクト管理	2	○	□	△
	プロフェッショナルデザイン	2	△	□	△
情報と社会	情報と職業	2	△	□	△
	情報社会と倫理	2	△	□	△
	情報と法	2	△	□	△
プログラミング	プログラミングⅠ	2	○	○	○
	プログラミングⅡ	2	○	△	△
	データ構造とアルゴリズム	2	○	△	△

	データ構造とアルゴリズム演習	2	○	△	△
	ソフトウェア工学	2	○	△	△
	オブジェクト指向プログラミング	2	○	△	△
	オブジェクト指向プログラミング演習	2	○	△	△
	アドバンスドプログラミング	4	○	△	△
	ソフトウェア分析・設計	2	○	△	△
	ソフトウェア開発・展開	2	○	△	△
	ソフトウェア開発演習	4	○	△	△
ネットワーク	コンピュータネットワーク	2	○	○	○
	インターネット工学	2	○	△	△
	インターネット工学演習	2	△	△	△
	ネットワークセキュリティ	2	△	△	△
	ネットワークセキュリティ演習	4	△	△	△
コンテンツ系	コンピュータ音楽	2	△	△	△
	マルチメディア	2	△	○	△
	Ｗｅｂコンテンツ企画設計	2	△	△	△
	Ｗｅｂコンテンツ制作	2	△	□	△
	画像処理	2	△	○	△
	映像表現	2	△	△	△
	ゲームとシナリオのデザイン	2	△	△	△
	コンピュータグラフィックス	2	△	□	△
	プロダクションワーク	2	△	○	△
統計ソフトウェア・可視化	統計ソフトウェアⅠ	2	△	△	△
	統計ソフトウェアⅡ	2	△	△	△
	深層学習	2	△	△	△
	データマイニングと可視化	2	△	△	△
情報の知的処理	シミュレーション	2	△	△	△
	知識工学	2	△	△	△
	知識工学演習	2	△	△	△
	データベース	2	○	△	○
	データベース演習	2	○	△	○
	データサイエンス	2	△	△	○
	データ分析演習	2	△	△	○
関連	情報学概論	2	○	○	○
	情報学序論	2	○	○	○
	情報学プロジェクトⅠ	2	○	○	○
	情報学プロジェクトⅡ	2	○	○	○
	卒業研究	6	○	○	○

＜履修方法＞

情報エンジニアリングコースにおいては、必修科目56単位以上、計70単位以上を修得すること。

メディア情報コースにおいては、必修科目28単位、専門選択必修科目８単位以上、計70単位以上を修得すること。

データサイエンスコースにおいては、必修科目34単位以上、計70単位以上を修得すること。

経営ビジネス学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択	
			経営マネジ	グローバル

			メント	経営
基礎	経営ビジネス学入門	2	○	○
	基礎経営学	2	○	○
	基礎経済学	2	○	○
	基礎流通論	2	○	○
	基礎簿記Ⅰ	2	○	○
	地域マネジメント基礎論	2	○	○
	ビジネス英語基礎	2	△	□
	基礎情報システム論	2	△	△
	基礎産業心理学	2	□	△
経営学・商学	経営管理論	2	□	□
	経営戦略論	2	□	□
	人的資源管理論	2	△	△
	企業論	2	△	△
	マーケティング論	2	○	○
	流通システム論	2	△	△
	データ分析	2	△	△
	統計学	2	△	△
	会社法	2	△	△
	組織論	2	△	△
	広告論	2	△	△
	消費者行動論	2	△	△
	マーケティングリサーチ	2	△	△
会計・財務	経営財務論	2	△	△
	基礎簿記Ⅱ	2	□	□
	会計学	2	□	△
	財務諸表論Ⅰ	2	□	△
	財務諸表論Ⅱ	2	△	△
	原価管理	2	△	△
	経営分析	2	△	△
	税務会計	2	△	△
	税法Ⅰ	2	△	△
	税法Ⅱ	2	△	△
	管理会計論	2	△	△
社会・工学	社会調査論	2	□	□
	システムの基礎	2	△	△
	産業心理学	2	△	△
	ＮＰＯマネジメント論	2	△	△
	地域ビジネス論	2	□	△
	地域経済分析	2	△	△
	スポーツマネジメント	2	△	△
	都市経営論	2	△	△
グローバル	グローバル経営論	2	□	□
	グローバル経済論	2	△	□
	サステイナビリティ論	2	△	△
	比較経営論	2	□	□
	アジア社会文化論	2	△	△

	グローバル・スタディ	2	△	△
	スポーツ社会学	2	△	△
	スポーツ文化論	2	△	△
	アジア企業論	2	△	△
コミュニケーション	外書講読	2	△	△
	ビジネス英語	2	□	□
	英語コミュニケーションⅠ	2	△	△
	英語コミュニケーションⅡ	2	△	△
	中国語コミュニケーションⅠ	2	△	□
	中国語コミュニケーションⅡ	2	△	△
	韓国語会話	2	△	□
	韓国語コミュニケーションⅠ	2	△	△
	韓国語コミュニケーションⅡ	2	△	△
演習	フィールドワーク	4	△	△
	会計処理演習	2	△	△
	特別講義Ⅰ	2	△	△
	特別講義Ⅱ	2	△	△
	特別講義Ⅲ	2	△	△
	特別講義Ⅳ	2	△	△
ゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	○	○
	プレゼミナールⅡ	2	○	○
	ゼミナールⅠ	2	○	○
	ゼミナールⅡ	2	○	○
	卒業研究	6	○	○

＜履修方法＞

経営マネジメントコースとグローバル経営コースは、コース必修科目28単位、および、選択必修科目６単位以上を含み、合計70単位以上を修得しなければならない。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

学科 授業科目	履修を必要とする学科					
	単位数	生物環境化学科	電気電子工学科	建築・デザイン学科	情報学科	経営ビジネス学科
職業指導	4	○	○	○	○	
職業指導（商業）	2					○

別表（２）―１

法学部、経済学部、経営学部、理工学部、薬学部、文芸学部、総合社会学部、国際学部、情報学部、農学部（食品栄養学科を除く。）

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	◇教科に関する専門的事項	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
	◇各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		国語科教育法Ⅰ		2
			国語科教育法Ⅱ		2
			国語科教育法ⅢA		2
			国語科教育法ⅢB		2
			社会科・地歴科教育法Ⅰ		2
			社会科・地歴科教育法Ⅱ		2

			社会科・地歴科教育法Ⅲ		2
			社会科・公民科教育法Ⅰ		2
			社会科・公民科教育法Ⅱ		2
			社会科・公民科教育法Ⅲ		2
			数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法ⅢA		2
			数学科教育法ⅢB		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			理科教育法ⅢA		2
			理科教育法ⅢB		2
			美術科教育法Ⅰ		2
			美術科教育法Ⅱ		2
			美術科・工芸科教育法Ⅰ		2
			美術科・工芸科教育法Ⅱ		2
			技術科教育法Ⅰ		2
			技術科教育法Ⅱ		2
			技術科教育法ⅢA		2
			技術科教育法ⅢB		2
			農業科教育法Ⅰ		2
			農業科教育法Ⅱ		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2
			商業科教育法Ⅰ		2
			商業科教育法Ⅱ		2
			水産科教育法Ⅰ		2
			水産科教育法Ⅱ		2
			英語科教育法Ⅰ		2
			英語科教育法Ⅱ		2
			英語科教育法ⅢA		2
			英語科教育法ⅢB		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	（A） ◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育の思想と歴史A		2
			教育の思想と歴史B		2
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2	
	（B） ◇教育に関する社会的、制度的		教育行政学		2
			教育社会学		2

	又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		比較教育学		2
	（C） ◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		学習心理学 発達心理学		2 2
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育学	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	◇道徳の理論及び指導法	中10 高８	道徳教育の理論と方法	2	
	◇総合的な学習の時間の指導法 ◇特別活動の指導法		総合的な学習の時間・特別 活動論	2	
	（D） ◇教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程・方法論Ａ 教育課程・方法論Ｂ		2 2
	◇生徒指導の理論及び方法 ◇進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	◇教育実習	中５ 高３	教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 2	 2
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
大学が独自に設定する科目	中４ 高12	道徳教育の理論と方法	2
		人権と社会１	2
		人権と社会２	2

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
日本国憲法	2	学科開講共通科目	
体育	2	生涯スポーツ１	1
		生涯スポーツ２	1
外国語コミュニケーション	2	学科開講外国語科目	
情報機器の操作	2	学科開講専門科目	

＜履修方法＞

（１） 上記の（Ａ）（Ｂ）（Ｃ）の各領域より各２単位以上を選択し、計６単位以上履修すること。

（２） 上記の（Ｄ）の領域より、２単位以上履修すること。

（３） 「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の単位の修得方法は、各免許教科について、中学校一種免許状の取得を希望する場合は８単位以上を、高等学校一種免許状の取得を希望する場合は４単位以上を修得するものとする。

（４） 「道徳教育の理論と方法」は、中学校免許状取得については「教育の基礎的理解に関する科

目」として開設、高等学校免許状取得については「大学が独自に設定する科目」として開設する。
（5） 中学校一種免許状を取得する場合は、教育実習Ⅱは必修科目とする。
（6） 「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」若しくは「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて中学校免許状を取得の場合は４単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。
（7） 「大学が独自に設定する科目」の人権と社会１、人権と社会２については、総合社会学部のみ開設する。

農学部食品栄養学科

栄養に係る教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
栄養に係る教育に関する科目	◇栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ◇幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	4	学校栄養指導法Ⅰ	2	
	◇食に関する指導の方法に関する事項		学校栄養指導法Ⅱ	2	
	◇食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養指導法Ⅲ	2	

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	（A） ◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育の思想と歴史Ａ 教育の思想と歴史Ｂ		2 2
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2	
	（B） ◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学 教育社会学 比較教育学		2 2 2
	（C） ◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		学習心理学 発達心理学		2 2
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育学	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	◇道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育の理論と方法	2	
			総合的な学習の時間・特別 活動論	2	
	（D） ◇教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメ		教育課程・方法論Ａ 教育課程・方法論Ｂ		2 2

	ントを含む。）				
	◇生徒指導の理論及び方法		生徒指導の理論及び方法	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	◇栄養教育実習	2	栄養教育実習指導 栄養教育実習	1 1	
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（栄養教諭）	2	

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法	2
体育	2	生涯スポーツ１	1
		生涯スポーツ２	1
外国語コミュニケーション	2	English Communication1	1
		English Communication2	1
情報機器の操作	2	学科開講専門科目	1

＜履修方法＞

（１） 上記の（A）（B）（C）の各領域より各２単位以上を選択し、計６単位以上履修すること。

（２） 上記の（D）の領域より、２単位以上履修すること。

（３） 平成15年度入学生・平成16年度入学生は、栄養教諭一種免許取得のための科目を履修することができる。

生物理工学部

教科及び教科に指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	・強化に関する専門的事項	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
	・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法特講Ⅰ		2
			数学科教育法特講Ⅱ		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			理科教育法特講Ⅰ		2
			理科教育法特講Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2	

	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	1	
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高８	道徳教育論	2	
	・総合的な学習の時間の指導法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法と総合的な学習の時間の指導法	2	
	・特別活動の指導法		特別活動論	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導論（進路指導を含む。）	2	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	教育実習	中５ 高３	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習特講	2 1	2
教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目	単位数
大学が独自に設定する科目	中４ 高12	人権と社会Ⅰ 人権と社会Ⅱ 道徳教育論	2 2 2

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	
科目	単位数		必修	選択
日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法		2
体育	2	生涯スポーツ１		1
		生涯スポーツ２		1
外国語コミュニケーション	2	オーラル・スキル（英語）１		1
		オーラル・スキル（英語）２		1
情報機器の操作	2	情報処理基礎Ⅰ	1	
		情報処理基礎Ⅱ	1	

＜履修方法＞

（１）　「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の単位の修得方法は、各免許教科について、中学校一種免許状の取得を希望する場合は８単位以上を、高等学校一種免許状の取得を希望する場合は４単位以上を修得するものとする。

（２）　該当教科教育法については必修科目として修得すること。

（３）　「道徳教育論」は、中学校免許状取得については、「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設、高等学校免許状取得については「大学が独自に設定する科目」として開設する。
（４）　中学校一種免許状を取得する場合は、教育実習Ⅱは必修科目とする。
（５）　「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」若しくは「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて中学校免許状を取得の場合は４単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。

工学部

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	◇教科に関する専門的事項	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
	◇各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法ⅢＡ		2
			数学科教育法ⅢＢ		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			理科教育法ⅢＡ		2
			理科教育法ⅢＢ		2
			技術科教育法Ⅰ		2
			技術科教育法Ⅱ		2
			技術科教育法ⅢＡ		2
			技術科教育法ⅢＢ		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論	2	
	◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	2	
	◇道徳の理論及び指導法		道徳教育論	2	
	◇総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指	2	

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		中10 高８	導法		
	◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ◇特別活動の指導法		特別活動論	２	
	◇教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法学 教育情報学	２ ２	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	２	
	◇生徒指導の理論及び方法 ◇進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導論（進路指導含む。）	２	
教育実践に関する科目	◇教育実習	中５ 高３	教育実習特講 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	２ ２ 	 ２
	◇教職実践演習	２	教職実践演習（中・高）	２	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目	単位数	
			必修	選択
大学が独自に設定する科目	中４ 高12	人権教育論 道徳教育論 教育情報学 東広島学	 ２	２ ２ ２

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	授業科目	単位数
日本国憲法	２	日本国憲法	２
体育	２	生涯スポーツⅠ	１
		生涯スポーツⅡ	１
		スポーツ概論	２
外国語コミュニケーション	２	英会話基礎Ⅰ	１
		英会話基礎Ⅱ	１
情報機器の操作	２	学科開講科目	計２

＜履修方法＞

（１）　「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」は、取得免許状の種類に該当する授業科目ごとに選択すること。

（２）　該当教科教育法については必修科目として修得すること。

（３）　「道徳教育論」及び「教育情報学」は、中学校免許状取得については「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設し必修科目とする。高等学校免許状取得については、「大学が独自に設定する科目」として開設し選択科目とする。

（４）　中学校一種免許状を取得する場合は、「教育実習Ⅱ」は必修科目とする。

（５）　「教師論」「教育原理」「教育心理学」「教育行政学」「教育方法学」「特別活動論」「道徳教育論」「教育情報学」「人権教育論」「生徒指導論（進路指導含む。）」「教育相談」「キャリアガイダンス」「特別支援教育」「総合的な学習の時間の指導法」は特修プログラムで修得すること。

（6）　「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて中学校免許状を取得の場合は４単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。

産業理工学部

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	・教科に関する専門的事項	24	学部学科等が定める科目	36	
	・各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2
			商業科教育法Ⅰ		2
			商業科教育法Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	2	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教職論	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	2	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法論	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	

教育実践に関する科目	・教育実習	3	教育実習 教育実習指導	2 1	
	・教職実践演習	2	教職実践演習（高等学校）	2	

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	授業科目	単位数	
			必修	選択
日本国憲法	2	暮らしの中の憲法	2	
体育	2	生涯スポーツⅠ	1	
		生涯スポーツⅡ	1	
外国語コミュニケーション	2	インタラクティブ英語Ⅰ	1	
		インタラクティブ英語Ⅱ	1	
情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	2	

＜履修方法＞

（１）　「教育課程及び指導法に関する科目（各教科の指導法）」は、取得免許状の種類に該当する授業科目ごとに選択すること。

別表（２）―２

免許状の種類及び免許教科

学部名	学科名	高等学校教諭一種免許状（免許教科）	中学校教諭一種免許状（免許教科）	その他の免許状
法学部	法律学科	公民・地理歴史 英語	社会・英語	
経済学部	経済学科	公民・地理歴史 英語・商業	社会・英語	
	総合経済政策学科 国際経済学科	公民 英語・商業	社会・英語	
経営学部	経営学科（昼間主・夜間主コース） 商学科 会計学科 キャリア・マネジメント学科	公民・商業	社会	
理工学部	理学科	数学・理科 情報	数学・理科	
	生命科学科 応用化学科	理科	理科	
	機械工学科	数学・理科・工業	数学・理科・技術	
	電気電子通信工学科	数学・理科・工業・情報	数学・理科・技術	
	社会環境工学科	工業	技術	
	エネルギー物質学科	理科	理科	
薬学部	医療薬学科 創薬科学科	理科	理科	
文芸学部	文学科（日本文学専攻）	国語	国語	
	〃　（英語英米文学専攻）	英語	英語	

	芸術学科（舞台芸術専攻）	国語	国語	
	〃　（造形芸術専攻）	美術・工芸	美術	
	文化・歴史学科	公民・地理歴史	社会	
総合社会学部	総合社会学科	公民・地理歴史	社会	
国際学部	国際学科	英語	英語	
情報学部	情報学科	情報		
農学部	農業生産科学科 応用生命化学科 環境管理学科 生物機能科学科	理科・農業	理科	
	水産学科	理科・水産	理科	
	食品栄養学科	理科	理科	栄養
生物理工学部	生物工学科 食品安全工学科 遺伝子工学科	理科	理科	
	生命情報工学科	数学・情報	数学	
	人間環境デザイン工学科	数学	数学	
	医用工学科	理科		
工学部	化学生命工学科	理科・工業	理科・技術	
	機械工学科	工業	技術	
	情報学科	工業・情報	技術	
	建築学科	工業	技術	
	電子情報工学科	数学・工業・情報	数学・技術	
	ロボティクス学科	数学・工業	数学・技術	
産業理工学部	生物環境化学科	工業・理科	―――	
	電気電子工学科	工業・情報	―――	
	建築・デザイン学科	工業	―――	
	情報学科	工業・情報	―――	
	経営ビジネス学科	商業	―――	

別表（３）

司書課程科目及びその単位数

授業科目	単位数	
	必修	選択必修
図書館情報学概論	2	
生涯学習概論	2	
図書館制度・経営論	2	
図書館サービス概論	2	
児童サービス論	2	
情報サービス論	2	
情報サービス演習Ⅰ	2	
情報サービス演習Ⅱ	2	
情報資源概論	2	
情報資源組織論Ⅰ	2	
情報資源組織論Ⅱ	2	

情報資源組織演習Ⅰ	2	
情報資源組織演習Ⅱ	2	
図書館情報技術論	2	
ファイリング論		2
文書情報管理論		2
出版流通・書店論		2
知財情報サービス論		2
情報資源史		2
計	28	10

＜履修方法＞

1　司書の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位のほかに、次に定めるところにより、32単位以上を修得しなければならない。

2　必修科目14科目28単位および選択科目を２科目４単位以上修得しなければならない。

別表（４）

博物館学課程科目及びその単位数

（文芸学部）

授業科目	必修	選択	自由
生涯学習概論	2		
博物館概論	2		
博物館経営論	2		
博物館資料論	2		
博物館資料保存論	2		
博物館展示論	2		
博物館実習Ａ	1		
博物館実習Ｂ	2		
博物館情報・メディア論	2		
博物館教育論	2		
書誌学１		2	
書誌学２		2	
日本美術史Ａ		2	
日本美術史Ｂ		2	
西洋美術史Ａ		2	
西洋美術史Ｂ		2	
現代美術論Ａ		2	
現代美術論Ｂ		2	
アジア美術史		2	
日本彫刻史論		2	
工芸史Ａ		2	
工芸史Ｂ		2	
絵画論		2	
立体造形論		2	
陶芸論		2	
染織論		2	
日本史概説		2	
文化資源学概説		2	
歴史考古学Ａ		2	
歴史考古学Ｂ		2	

日本古代史Ａ		2	
日本古代史Ｂ		2	
日本中世史Ａ		2	
日本中世史Ｂ		2	
日本近世史Ａ		2	
日本近世史Ｂ		2	
日本近現代史Ａ		2	
日本近現代史Ｂ		2	
日本思想史Ａ		2	
日本思想史Ｂ		2	
日本民俗学		2	
環境民俗論		2	
日本考古学Ａ		2	
日本考古学Ｂ		2	
近畿歴史文化探索		2	
西洋芸術文化史Ａ		2	
西洋芸術文化史Ｂ		2	
日本芸術文化史Ａ		2	
日本芸術文化史Ｂ		2	
デザイン感覚基礎Ａ		2	
デザイン感覚基礎Ｂ		2	
デザイン史Ａ		2	
デザイン史Ｂ		2	
アートコミュニケーション論Ａ		2	
アートコミュニケーション論Ｂ		2	
プロデューサー論Ａ		2	
プロデューサー論Ｂ		2	
空間デザイン論		2	
視覚デザイン論		2	
視覚文化論		2	
近畿風土論		2	
文化政策論		2	
劇場文化論		2	

＜履修方法＞

必修科目10科目19単位と、選択必修科目57科目から４科目８単位以上を修得しなければならない。

（農学部）

学科・学部	授業科目	単位数		履修条件
		必修	選択	
学部共通	生涯学習概論	2		９科目 19単位必修
	博物館概論	2		
	博物館経営論	2		
	博物館資料論	2		
	博物館資料保存論	2		
	博物館展示論	2		
	博物館実習	3		
	博物館情報・メディア論	2		

	博物館教育論	2		
農業生産科学科	環境植物学 昆虫学 植物病理学 植物遺伝育種学 工芸作物学 園芸植物学 昆虫生態学 雑草管理学		2 2 2 2 2 2 2 2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
水産学科	魚類生態学 海水養殖学 水産海洋学 介類増殖学 水質学 生態系科学基礎 化学 水産経済学		2 2 2 2 2 2 2 2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
応用生命化学科	生物化学 分子生物学 微生物学 生物学 生物統計学 天然物化学 生命有機化学 森林資源科学		2 2 2 2 2 2 2 2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
環境管理学科	河川生態学 水圏動物学 野生動物保護論 動物生態学 里山生態学 生物多様性の科学 植物生態学 環境政策学		2 2 2 2 2 2 2 2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
生物機能科学科	生物学基礎 化学基礎 発生生物学 分子生物学Ⅰ 微生物学 環境生物学 有機反応化学 生命情報学		2 2 2 2 2 2 2 2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得

＜履修方法＞

必修科目９科目19単位と、各学科の選択科目８科目16単位から４科目８単位以上を修得しなければならない。

別表（５）

日本語教員養成課程
（文芸学部）

授業科目	必修	選択	自由
日本語音声学	2		
日本語教育文法	2		
日本語教授法１	2		
日本語教授法２	2		
日本語教授法３	2		
日本語教授法４	2		
日本語学概論		2	
日本語文法		2	
社会言語学１		2	
社会言語学２		2	
日本語特殊講義１		2	
日本語特殊講義２		2	
日本語史論１		2	
日本語史論２		2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ　Ａ		2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ　Ｂ		2	
Ｇｌｏｂａｌ　Ｉｓｓｕｅｓ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ		2	
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		2	
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		2	
Ｃｕｌｔｕｒｅ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		2	
Ｃｕｌｔｕｒｅ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		2	
日本史概説		2	
日本古代史Ａ		2	
日本古代史Ｂ		2	
現代学入門		2	
言語文化セミナー初級		2	
言語文化セミナーＡ		2	
言語文化セミナーＢ		2	
伝統芸能作品研究Ａ		2	
伝統芸能作品研究Ｂ		2	
多文化共生社会と言語		2	
グローバル共生論入門		2	
心理と行動		2	
地域と環境の地理学		2	
国際経済入門		2	
国際社会と日本		2	
国際化と異文化理解		2	
日本文学論		2	

＜履修方法＞
必修科目12単位と選択必修科目から14単位以上、合計26単位以上履修すること。
（国際学部）

授業科目	必修	選択	自由
日本近現代史		2	
日本語の技法		2	

異文化理解		2	
日本語教授法１	2		
日本語教授法２	2		
日本語教育実習	2		
日本語学	2		
現代の社会論		2	
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
住みよい社会と福祉		2	
心理と行動		2	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （コミュニケーション学）		2	
Ｃｕｌｔｕｒａｌ　Ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ　ｉｎ　Ｃｏｎｔｅｍｐｏｒａｒｙ　Ｊａｐａｎ （現代日本の文化的多様性）		2	
Ｍｕｌｔｉｃｕｌｔｕｒａｌ　Ｓｏｃｉｅｔｙ　ａｎｄ　Ｌａｎｇｕａｇｅ （多文化共生社会と言語）		2	
Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ｔｅａｃｈｉｎｇ　Ｔｈｅｏｒｉｅｓ （言語教育理論）		2	
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ　ｏｆ　ｔｈｅ　Ｊａｐａｎｅｓｅ　Ｌａｎｇｕａｇｅ （日本語の構造）		2	
Ｊａｐａｎ　ａｓ　ａｎ　Ｅａｓｔ　Ａｓｉａｎ　Ｃｏｕｎｔｒｙ （東アジアの中の日本）		2	
中国現代文化１		2	
中国現代文化２		2	
日中比較文化１		2	
日中比較文化２		2	
日中翻訳１		2	
日中翻訳２		2	
日韓比較研究１		2	
日韓比較研究２		2	
異言語と文化１		2	
異言語と文化２		2	
日韓映像翻訳１		2	
日韓映像翻訳２		2	
日本語音声学			2
日本語史論			2

＜履修方法＞

必修科目を含み合計26単位以上修得すること。

別表（６）　外国人留学生の共通教養科目・外国語科目に関する特例

（グローバルエデュケーションセンター）

授業科目	時期	単位	年次
《共通教養科目》			
日本概論１	前後	2	１～４
日本概論２	前後	2	１～４

日本概論３	前後	２	１～４
日本概論４	前後	２	１～４
《外国語科目》			
［日本語関連科目］			
日本語読解１	前後	１	１～４
日本語読解２	前後	１	１～４
日本語作文１	前後	１	１～４
日本語作文２	前後	１	１～４
日本語会話１	前後	１	１～４
日本語会話２	前後	１	１～４
日本語読解３	前後	１	１～４
日本語読解４	前後	１	１～４
日本語作文３	前後	１	１～４
日本語作文４	前後	１	１～４
日本語アカデミックリーディング１	前後	１	１～４
日本語アカデミックリーディング２	前後	１	１～４
日本語リサーチメソッド１	前後	１	１～４
日本語リサーチメソッド２	前後	１	１～４
日本語会話３	前後	１	１～４
日本語会話４	前後	１	１～４
日本語プレゼンテーション１	前後	１	１～４
日本語プレゼンテーション２	前後	１	１～４
プロジェクトワーク１	前後	１	１～４
プロジェクトワーク２	前後	１	１～４
［初修英語関連科目］			
初修英語基礎１	前	１	１
初修英語基礎２	後	１	１
初修英語コミュニケーション１	前	１	２
初修英語コミュニケーション２	後	１	２

＜履修方法＞

共通教養科目

卒業に必要な共通教養科目の単位数を、『日本概論１』、『日本概論２』、『日本概論３』及び『日本概論４』を含む共通教養科目全体の中から修得する。

外国語科目

（１）卒業に必要な外国語科目の単位数を、『日本語関連科目』及び『初修英語関連科目』を含む外国語科目全体の中から修得する。

（２）『英語』が必修となっている学部に所属する外国人留学生は、『日本語関連科目』の履修した修得単位をもって『英語』の単位に代えることができる。

（３）外国語科目の履修に関しては、母国において、それを公用語、母国語又はそれに準ずる日常語として使用している言語の履修は、認めない。

（４）『初修英語関連科目』の履修は、英語をほとんど学んだことのない外国人留学生に限り履修を認める。

（５）英語を母国語とする外国人留学生は、『初修英語関連科目』は履修できない。各学部開講の『第二外国語科目』又は『日本語アカデミックリーディング１・２、日本語リサーチメソッド１・２、日本語プレゼンテーション１・２』を履修すること。

別表（７）　学費表

（単位　円）

費目 学部	◎入学金	授業料	課外活動育成費	合計	入学検定料

法学部	250,000	１年次　1,085,000 ２年次　1,105,000 ３年次　1,125,000 ４年次　1,145,000	20,000	１年次　1,355,000 ２年次　1,125,000 ３年次　1,145,000 ４年次　1,165,000	35,000
経済学部	250,000	１年次　1,085,000 ２年次　1,105,000 ３年次　1,125,000 ４年次　1,145,000	20,000	１年次　1,355,000 ２年次　1,125,000 ３年次　1,145,000 ４年次　1,165,000	35,000
経営学部	250,000	１年次　1,085,000 ２年次　1,105,000 ３年次　1,125,000 ４年次　1,145,000	20,000	１年次　1,355,000 ２年次　1,125,000 ３年次　1,145,000 ４年次　1,165,000	35,000
理工学部	250,000	１年次　1,442,000 ２年次　1,472,000 ３年次　1,502,000 ４年次　1,532,000	20,000	１年次　1,712,000 ２年次　1,492,000 ３年次　1,522,000 ４年次　1,552,000	35,000
建築学部	250,000	１年次　1,442,000 ２年次　1,472,000 ３年次　1,502,000 ４年次　1,532,000	20,000	１年次　1,712,000 ２年次　1,492,000 ３年次　1,522,000 ４年次　1,552,000	35,000
薬学部 医療薬学科	250,000	１年次　2,032,000 ２年次　2,062,000 ３年次　2,092,000 ４年次　2,122,000 ５年次　2,152,000 ６年次　2,182,000	20,000	１年次　2,302,000 ２年次　2,082,000 ３年次　2,112,000 ４年次　2,142,000 ５年次　2,172,000 ６年次　2,202,000	35,000
薬学部 創薬科学科	250,000	１年次　1,442,000 ２年次　1,472,000 ３年次　1,502,000 ４年次　1,532,000	20,000	１年次　1,712,000 ２年次　1,492,000 ３年次　1,522,000 ４年次　1,552,000	35,000
文芸学部 文学科 文化・歴史学科 文化デザイン学科	250,000	１年次　1,085,000 ２年次　1,105,000 ３年次　1,125,000 ４年次　1,145,000	20,000	１年次　1,355,000 ２年次　1,125,000 ３年次　1,145,000 ４年次　1,165,000	35,000
文芸学部 芸術学科	250,000	１年次　1,442,000 ２年次　1,472,000 ３年次　1,502,000 ４年次　1,532,000	20,000	１年次　1,712,000 ２年次　1,492,000 ３年次　1,522,000 ４年次　1,552,000	35,000
総合社会学部	250,000	１年次　1,085,000 ２年次　1,105,000 ３年次　1,125,000 ４年次　1,145,000	20,000	１年次　1,355,000 ２年次　1,125,000 ３年次　1,145,000 ４年次　1,165,000	35,000
国際学部	250,000	１年次　1,280,000 ２年次　1,280,000 ３年次　1,300,000 ４年次　1,300,000	20,000	１年次　1,550,000 ２年次　1,300,000 ３年次　1,320,000 ４年次　1,320,000	35,000

情報学部	250,000	１年次　1,442,000 ２年次　1,472,000 ３年次　1,502,000 ４年次　1,532,000	20,000	１年次　1,712,000 ２年次　1,492,000 ３年次　1,522,000 ４年次　1,552,000	35,000
農学部	250,000	１年次　1,442,000 ２年次　1,472,000 ３年次　1,502,000 ４年次　1,532,000	20,000	１年次　1,712,000 ２年次　1,492,000 ３年次　1,522,000 ４年次　1,552,000	35,000
生物理工学部	250,000	１年次　1,442,000 ２年次　1,472,000 ３年次　1,502,000 ４年次　1,532,000	20,000	１年次　1,712,000 ２年次　1,492,000 ３年次　1,522,000 ４年次　1,552,000	35,000
工学部	250,000	１年次　1,378,000 ２年次　1,408,000 ３年次　1,438,000 ４年次　1,468,000	20,000	１年次　1,648,000 ２年次　1,428,000 ３年次　1,458,000 ４年次　1,488,000	35,000
産業理工学部 生物環境化学科 電気電子工学科 建築・デザイン学科 情報学科	250,000	１年次　1,244,000 ２年次　1,274,000 ３年次　1,304,000 ４年次　1,334,000	20,000	１年次　1,514,000 ２年次　1,294,000 ３年次　1,324,000 ４年次　1,354,000	32,000
産業理工学部 経営ビジネス学科	250,000	１年次　869,000 ２年次　899,000 ３年次　929,000 ４年次　959,000	20,000	１年次　1,139,000 ２年次　919,000 ３年次　949,000 ４年次　979,000	32,000

共通テスト利用方式入学検定料：20,000
共通テスト併用方式入学検定料：＋10,000
併願検定料（１志願）：＋10,000

費目 学部	◎入学金	授業料	教育充実費	施設設備費	実験実習費	合計	入学検定料
医学部	1,000,000	4,100,000	1,000,000	400,000	300,000	１年次　6,800,000 ２年次以降　5,800,000	60,000

共通テスト利用方式入学検定料：30,000

備考１　◎印は入学年度のみ納入するものを示す。
２　上記以外に、学生健保共済会費、学部学生部会費及び校友会終身会費が必要。（ただし、校友会終身会費は既に全額を納めた者は不要。）
３　共通テスト利用方式を除く入学検定料について、インターネット出願を利用した場合は１志願ごとに3,000円を減額する。
４　共通テスト利用方式の入学検定料について、インターネット出願で医学部を含まない場合は、２志願まで20,000円、５志願まで30,000円とし、６志願目からは１志願ごとに7,000円とする。
５　共通テスト利用方式の入学検定料について、インターネット出願で医学部を含む場合は、２志願まで30,000円とし、３志願目からは１志願ごとに7,000円とする。
６　留学期間中（１年次後期～２年次前期）の本学の学費等は免除とするが、留学費用に係る提携先大学等の授業料等については別途徴収する。

別記（１）

近畿大学教育方針

（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育理念」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本学が目指す社会的使命であります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志を持ち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すこと」を最終教育目標としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

１　大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。

２　問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。

３　専門領域における課題の意味を広い歴史観や深い人間観の中で位置付けようとする教養を、身に付けていること。

４　異質な価値や文化を理解し自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「全学共通科目」と「専門教育科目」を２本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。これらにより、学生は、ディプロマ・ポリシーにある資質及び能力を、以下のように身に付けます。

１　全学共通科目及び学部基礎科目では、文系・理系の枠を超え、入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供し、各学部における専門分野の学問へ導くとともに、学問する習慣を身に付けます。

２　専門教育に携わっている教員が教養教育（全学共通科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。これにより、教養と専門教育の意味を幅広い視野から理解し、学ぶ意義と意欲を体得します。

３　「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進め、社会に貢献できる知識と技能及び探求心を身に付けます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性を育成します。

４　さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、グローバル教育の充実を図り、国際社会が共有する目標と文化的多様性の価値を理解し、国際感覚を身に付けます。さらに、海外の教育機関等との提携による国際スタンダード教育への参加を進めます。

５　産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会・国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。これにより、社会貢献の意義と使命感を体得し、常に自

らを高める自己教育力を身に付けます。
６　これらの達成度及び学修の成果は、別に定める「評価の方針」によって評価を行います。
アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）
本学の「建学の精神」と「教育理念」に共感する入学者を国内外から広く受け入れます。
１ 本学が求める基礎学力と倫理観を備える人。
２ 謙虚に学ぶ姿勢を有するとともに、自ら課題を発見し解決していく意欲にあふれる人。
３ 「人に愛され、信頼され、尊敬される」前に、まず人を愛し、信頼し、尊敬することのできる人。
４ 社会のニーズに対応できる実学や教養及び国際性を身につけたい人。
５ 自分の得意分野を伸ばし、社会に貢献したいと考える人。
別記（２）

近畿大学　学部・学科の教育・研究の目的について

【近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」】
近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育と人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念に掲げています。
この建学精神と教育理念に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。
本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。
学生の皆さんには、上記の建学精神と教育理念を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。
【法学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
法学部は、本学の建学の精神や教育目標を念頭に、法的思考力いわゆるリーガル・マインドの育成と涵養をその理念・目的としています。さらに、激動する社会の中で広い視野と豊かな（法的）思考により、積極的かつ柔軟に行動する能力を修得させることと、そのような能力を備えた21世紀を担う人材を育成することを教育目標としています。また、社会のニーズに添った人材を輩出することこそが実学教育の理念に基づく教育の到達目標であると考えており、そのため社会の変化に添った形で法学部の改革を続けております。
平成20年度からの改革として、法科大学院設置以後の法学部のあり方を検証し、新しいカリキュラムを導入します。その特徴は、従来どおりスペシャリストを育成する一方で、どんなことにも対応できる豊かで柔軟な教養をもったジェネラリストを育成することをベースにしたカリキュラムを組んでいることです。具体的には、就職・進路を意識した履修モデルをパッケージ化して設定し、出口を意識した教育を行います。その他、英語教育を充実させ、グローバリゼーションに対応できる人材の育成にも力を注いでいるところです。
【法律学科の学習・教育目標】
法律学科の学習・教育目標は、上記のとおり法学部の理念に沿って、法学の基礎知識や思考方法を十分に習得した法学士を養成することです。従来の法学部教育は、法曹養成を目標とする一方で、法的素養をもったジェネラリストの養成をも目標とするものでしたが、この二つの目標を同時に追求したために、大多数の学生にとっては高度で専門的すぎる内容となっていました。しかし、法科大学院の設置に伴い法学部教育が法曹養成の役割から解放された今日においては、学部卒業後に法科大学院へ進学し法曹を目指す学生のニーズにも応えながら、各学生の多様な関心と興味に即応して、社会の広い分野で活用できる法学の基礎知識や思考方法を身につけてもらうことが学習・教育目標となります。
【法律学科カリキュラム編成上の特色】
法律学科では、上記の学習・教育目標に到達するために、従来の法学部にはない、ユニークなカリキュラム編成を平成20年度から導入しています。
第１に、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法）については、これまでの教育内容を一新し、従来は同一科目の中で行われていた教育内容を基礎と応用に分離しています。その上で、基礎的な内容は「基幹科目」として１年次から２年次に配置し、学生全員が

法学の基礎知識や思考方法を理解して社会へ出られることを目指します。
第２に、法学の基礎知識や思考方法を１年次から十分に習得しながら、２年次から、４つの専攻プログラムのいずれかを選択して、これらの中でパッケージ化された「展開科目」を履修することで、学部卒業後の進路を考え、そこへ誘われることを目指しています。法律学科では、「犯罪・非行と法」（公務員、検察事務官、裁判所事務官、警察官を目指す学生向け）、「経済生活と法」（商社、メーカー、銀行、司法書士、企業法務を目指す学生向け）、「会計・税務と法」（金融、税理士、公認会計士、企業の会計業務を目指す学生向け）「まちづくりと法」（地方自治体、建設・不動産関連企業を目指す学生向け）という４つの専攻プログラムと「司法コース」（法曹を目指す学生向け）、「行政コース」（公務員行政職を目指す学生向け）、「国際コース」（国際社会での活動を目指す学生向け）の３つのコースを設けることにより、低学年から将来の進路を考える機会が与えられ、専攻プログラム中の「展開科目」の履修を通じて、学生が自らの目指す進路へ誘います。
第３に、法学の基礎を習得した学生で、さらに深い法学の学習、研究を希望する学生のために、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法）については、「発展科目」を配置しています。
第４に、少人数教育が挙げられます。１年次前期に基礎ゼミ、１年次後期にキャリアデザイン１、２年次前後期に一般演習、３年次から４年次にかけて専門演習を配置し、４年間を通して、演習授業を通して、各学生が教員と身近に接することのできる環境で、自ら学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶための知識と知恵とを習得することができる体制を整えています。
【その他の特色】
専攻プログラムに関連する展開科目はいずれも講義科目ですが、これらをより深く研究したい、あるいは様々な紛争や社会問題などへの応用を考え解決を図りたいという学生のために、知的財産法や英米法、国際私法、法制史など幅広い分野にわたって、専門演習を置いて、学生が主体的で自律的に学ぶ場を用意しています。
【経済学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
経済学はその生誕以来、理論分析を軸としながら、政策課題やグローバル化の要請に応える社会科学の中心的学問として発展してきました。本学部は経済学科、総合経済政策学科、国際経済学科の３学科体制をとり、時代の要請に対応しています。経済学科では複雑多岐な経済問題の解明とその対応策の専門的な研究を理論・実証の両面から探求し、さらに多面的な政策課題や国際化の問題に特化して対応するために総合経済政策学科と国際経済学科が設けられています。これらの３学科のいずれにも一貫して流れる教育目標は、高い専門性と時代の要請に応える問題発見とその解決能力の修得にあります。
そのために本学部では特に１～２年次で英語をはじめとする外国語教育とＩＴ教育が徹底的になされ、社会が必要とする実践的な技術を高めます。その上に経済学の専門性と総合性を両立させるように志向された特色のあるカリキュラムが実施され、将来を見据えた生きた経済学を学べます。
本学部の専門科目は、高度な研究水準にある教員スタッフを迎え、各学年に魅力的に配置されています。とくに１～２年で統計学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、経済統計学Ⅰ・Ⅱなどが学部共通科目の専門基礎科目として開講され、経済学的な分析手法に慣れ、２～４年次で学生各自が分野を選択し、その分野に属する科目を中心に経済学をより系統的・専門的に学んでいきます。入学して４年後には情報処理の技術（ＩＴ）に精通し、英語も話せ、かつ経済学の専門知識と分析能力に長じた学士（経済学・経済政策学・国際経済学）が誕生します。この学士こそ本学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」の具体的な姿であり、必ず実社会で役に立つ人材になるはずです。
【経済学科の学習・教育目標】
激しく推移する昨今の経済状況に対して、本学科に用意された経済学のメインストリートと言うべき諸科目を学ぶことで現状を正確に把握して、広い視野で将来を明確に見通せる分析能力を養い、公共部門やビジネスの第一線で活躍できる経済人を育成します。
経済学部のどの学科でも共通しますが、経済学をより系統的・専門的に学ぶために分野制がとられています。本学科では経済学の理解を深めるために、まず学部共通科目を１年次で履修して、２年次後期からは自分の目指す進路に合わせて「経済学コース」か「経済心理学コース」のいずれかのコースを選択し、段階的に専門性を高められるように配慮されています。「経済学コース」では、各学生の学術的関心に応じて「理論・計量分野」、「財政・金融分野」、「産業・情報分野」、「歴史・社

会分野」のいずれかを選択します。また「経済心理学コース」では、行動経済学をはじめ体系的に経済心理学を学ぶことができます。

【経済学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科経済学コースの学生はミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、経済史Ⅰ・Ⅱ、経済政策論Ⅰ、財政学Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱなどの学科共通科目の修得と並行して、選択した分野に従って科目を履修します。現実の経済動向を理論と計量の両面から分析する「理論・計量分野」は計量経済学Ⅱ、経済数学Ⅰ・Ⅱ、経済政策論Ⅱなどの科目でカリキュラムが編成されています。財政制度や金融制度の仕組みと資本主義経済の関わりに取り組む「財政・金融分野」では、公共経済学、貨幣論、財政政策論Ⅰ・Ⅱ、金融政策論などの科目が学べます。日本の産業が抱える諸問題に接近し、その解決策を考え、また情報社会の動向や問題点に注視する「産業・情報分野」では現代産業論、情報システム論Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、産業組織論Ⅰ・Ⅱなどの科目が選択できます。経済社会の歴史的展開を学び、それをもとにして現代社会がもつ諸問題を追求する「歴史・社会分野」では日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ、アジア経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済思想史Ⅰ・Ⅱ、日本経済思想史などの科目が提供されています。他方、選択した分野以外の他分野の科目も卒業に必要な単位のなかに組み込まれていますから、より総合的に経済学を把握できるようなカリキュラム編成になっています。

本学科経済心理学コースの学生は、コース固有科目である社会心理学などを通じて心理学への知見を踏まえながら、経済心理学を体系的に学ぶために行動経済学Ⅰ・Ⅱ、実験経済学Ⅰ・Ⅱなどの科目が配置されています。

【その他の特色】

本学科の教育方針は経済学のメインストリートを歩むことであり、メインストリートに並ぶ経済学の諸科目の基礎を積み上げることにより、複雑に多岐に展開される経済社会の実態に容易に対応できる能力を育成することが常に心掛けられています。また経済心理学コースでは、経済学のメインストリートを踏まえながら、心理学的分析に基づくより多様な経済行動を分析します。

【総合経済政策学科の学習・教育目標】

総合経済政策学科では、「公共政策分野」と「企業戦略分野」に分かれ、現代社会が抱える環境、福祉、過疎・過密などの公共的な経済問題や、資金調達、生産、投資などの民間企業の意思決定の問題を、現実に対応して鋭く分析し、社会や組織に役立つ政策提言を行う能力を養います。こうした公共部門や民間部門が抱く課題を見出し、具体的に解決策を考える場合には、経済学の理論的枠組みや実証分析などの研究蓄積をしなければなりません。１～２年次で基礎的な経済学の科目を修得したあとに、総合経済政策にまつわる幅広い応用問題を考えるために、多様な専門分野の講義が現実に即して展開されます。このような学問的興味を満たす専門科目の受講をとおして現実の公共的政策や民間部門の施策に提言するだけではなく、それらの有効性を評価しその問題点をあぶり出し、必要な対応策を新たに思考する訓練を行うのも本学科の大きな教育目標です。特に、種々の現場を体験する本学科固有のフィールドワークの科目は教室で習得した総合経済政策の知識をもとに、現実的な問題を分析し、その評価や対応策を思索するとても良い機会となっています。

【総合経済政策学科のカリキュラム編成上の特色】

２年次から経済制度に関する予備知識を得るために、財政学Ⅰ、金融論Ⅰ、公共経済学、産業組織論Ⅰ、社会保障論Ⅰ、簿記論Ⅲ・Ⅳなどの総合経済政策の基礎になる分野を学科共通科目として学習します。本学科では２分野制をとり、公共政策について関心のある学生は、福祉政策論、地方財政学Ⅰ・Ⅱ、地域経済学Ⅰ・Ⅱなどの政策に関連した科目を学ぶことが可能です。他方、企業やＮＰＯの意思決定に興味を示す学生は、企業金融論、デリバティブ論、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、ＩＴ関連科目などを学ぶことができます。さらに経済学の範囲を超えて、法律や会計関連の科目も用意されています。

【その他の特色】

本学科の学習・教育目標を達成するために、多くの科目で経済学部の他学科に比較して、より少人数で講義が行われていることが大きな特色です。少人数の講義は教員と学生の距離が自然と近くなり、両者間のコミュニケーションが円滑になりますので、良好な教育環境が作り出されます。

【国際経済学科の学習・教育目標】

国際経済学科は経済のグローバル化が著しく進んでいくなか、国際経済や海外事情に精通し、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。本学科では「国際産業・金融分野」と「国際地域経済」の２分野制をとり、前者はヒト、モノ、カネが国境を越えて移動、又は取引されている現実について

理論と実践の面から学び、後者は日本とのかかわりの深い地域の経済実態や日系企業の進出状況、地域統合の状況などを学習します。１～２年次にしっかりと修得した英語及び情報処理能力を十分に生かして、国際経済、貿易、国際投資、国際金融の理論や制度、データに関する知識を身につけ、アジアや欧米の地域事情にも通じた語学能力の高いかつ意欲的な人材の輩出を目標にしています。

【国際経済学科のカリキュラム編成上の特色】

１～２年次で統計学Ⅰ・Ⅱ、基礎国際経済学を学習し、それらを基礎にして３～４年次ではより高度の理論系あるいは政策系科目や応用系経済学を学びます。２年次に国際経済学Ⅰ、貿易論、開発経済学Ⅰなどの国際経済学科共通科目が開かれ、また分野科目も入ってきて、履修すべき科目は多様でより専門的になってきます。「国際産業・金融分野」では国際投資論Ⅰ・Ⅱ、国際金融論Ⅱ、多国籍企業論Ⅱ、開発経済学Ⅱなどの科目が、「国際地域経済分野」では地域統合論、国際協力論、アジア経済史Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパ経済論Ⅱなどの科目が提供されます。ただし、２つの分野にまたがって開講されている科目も多くあり、弾力的に受講できます。日本語以外の言語によるコミュニケーション能力は国際化の時代に不可欠であるため、国際経済学科では英会話や中国語会話の科目を用意し、学生各自の水準に合わせて外国語が習得できるようになっています。

【その他の特色】

職業体験を含むホームステイでの海外留学プログラムを実施しています。選抜された学生が留学中に現地の大学で語学研修および現地企業でのインターンシップに参加します。

【経営学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

経営学部は、企業や非営利組織体の運営と相互交渉が行われるビジネスの場における「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」を総合的に扱う複合学部として、所属する学科・コースを超えて関心を寄せる授業科目を履修することを認めるとともに、他方、授業科目を基礎科目、情報科目、基幹科目、関連科目に細分することで、専門知識の習得に必要な科目を段階的かつ発展的に履修するという教育体制を採っています。また、教授内容に関しては、単なる座学に止まず、「学問・実際一如」という実学教育の理念を実践するために、企業等の現場で実績を挙げた方々を専任教員や非常勤講師等として招き、実践的な視座からの講義を行っています。また、企業人による「ビジネス最前線」と題する講演会を随時開催し、さらに、企業活動を自ら体験するためのインターンシップ制度を設けて、理論と実践の融合を図っています。さらに、ビジネス・エシックスに関連する授業科目を設置して、高い倫理観をもった人材の育成に努め、また、昼夜開講制を採ることで、月～土曜日の１時限から７時限までの授業を自由に履修できるようにして、多くの学習機会を提供するように配慮しています。

【経営学科の学習・教育目標】

経営学科では、企業や非営利組織体の組織運営に関わる学科として、企業や非営利組織体の組織運営に関連して生じる種々の課題を合理的に解決して、望ましい成果を効率的に得るための実践的知識を有し、他方で、それらの知識が依拠する理論的基盤に存する原理・原則を体系的に整序して、理解することを目指す「学問・実際一如」を体現した人材の育成を目標としています。

【経営学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科に「企業経営コース」、「ＩＴビジネスコース」、「スポーツ・マネジメントコース」の３コースを設置し、各コースに共通する授業科目を基礎科目、情報科目、関連科目に区分し、段階的かつ総合的な履修を図ると共に、それぞれのコース毎に各コースの特色に応じた授業科目を基幹科目として配置しています。

【その他の特色】

企業経営コースでは、経営戦略の立案や経営管理に係る知識を現実的なものとするために事例研究の手法を取り入れ、ＩＴビジネスコースでは、経営学部棟内に設置されている経営情報処理ステーション（ＭＩＰＳ）の最新の機器・ソフトを利用してバーチャル企業を設立して、これを経営する手法をマスターするなどの情報処理の高度なスキルを修得し、スポーツ・マネジメントコースでは、スポーツビジネスのリーダーやアマチュアスポーツの指導者を育成する指導が行われています。

【商学科の学習・教育目標】

商学科では、企業や非営利組織体の相互間の、また、消費者との間の俗に「モノ」、「カネ」、「情報」と言われる財・サービスの空間的、時間的移転に関する理論と実践を学びます。

【商学科のカリキュラム編成上の特色】

商学科では、（１）マーケティング戦略コース　（２）観光・サービスコース　（３）貿易・ファイナン

スコースの３つのコースを設けています。１―２学年においては、３つのコースに共通し学習することが望ましい知識と、それぞれのコースの全体像が把握でき、かつ基礎理論を学べるプログラムを基幹科目として設定しています。３学年から、３つのコースに分かれてより専門的な学習プログラムを提供します。

（１） マーケティング戦略コースは､マーケティング戦略の理論と理論を使える能力を身に付けます。そのために、マーケティング発想によるプラニング能力、マネジメント能力を育成します。

（２） 観光･サービスコースは､観光分野､サービス分野の理論と実践で使える能力を身に付けます。そのため、ビジネス状況を理解しつつ、戦略的かつ実践的なプラニング能力、マネジメント能力を育成します。

（３） 貿易・ファイナンスコースは、貿易とファイナンスの基礎知識、専門知識、及び実務で使える能力を身に付けます｡貿易及びファイナンスに必要となる実践的なマネジメント能力を育成します。

【その他の特色】

国際ビジネスコースでは、特に外国語による会話力や国際感覚の修得を促すために、ネイティブの教員による指導を行い、また、認定留学制度を設けています。

【会計学科の学習・教育目標】

会計学科では、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフローの状況を示す財務諸表を作成し、その内容を分析して、より良い経営の方向性を見出す企業会計の理論と技法を学習し、公認会計士、税理士などの職業会計人や、社内における会計参与や会計エキスパート等として、あるいは会計・財務に関するコンサルタントとして活躍できる人材の育成を目指しています。

【会計学科のカリキュラム編成上の特色】

上記のような人材を育成するために、本学科では、簿記、財務会計、管理会計、監査に関する基礎知識を徹底的に教育する体制を採っています。さらに、こうした専門知識の修得のみならず、会計職業倫理に関する科目を設けて、高い倫理観を兼ね備えた会計人を育成するようにカリキュラムを編成しています。

【その他の特色】

学習の便宜を図るために、会計学科学生のための学習相談室を設け、教員による指導を絶えず受けられるようにしています。

【キャリア・マネジメント学科の学習・教育目標】

キャリア・マネジメント学科では、企業組織におけるキャリアと、組織で働く個人のキャリアの２つの視点から考察し、適切なキャリアパスを見出すことで、個人の能力を最大に引き出し、経営力を高めるための理論と実践を学びます。

【キャリア・マネジメント学科のカリキュラム編成上の特色】

インターンシップ制度を積極的に推進し、「仕事とは何か」、「ビジネスとは何か」を現場で直接に学ぶことで、実務経験を積む機会を多く提供しています。

【理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

理工学部では、「学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標にしています。

様々な角度から物事をみることができる能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に創成科目として「基礎ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけてもらいます。

今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、理工学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進しています。

理工学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

１ 教員は学生と真剣に向き合い、学生参加型授業を推進し、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業の実践に努力する。

２ 卒業時における学生の質を保証し、就職などの出口での成果の向上を一層図ると共に教員による

出口支援を強化する。
３　国際的資格であるＪＡＢＥＥ認定を受けている工学系の６学科ではＪＡＢＥＥプログラムを積極的、かつ継続的に遂行し、世界に通用する人材を育成する。
４　理工学部の教員養成カリキュラムを一層強化し、毎年50名以上の教員採用試験合格者を目指す。
５　理工学部内に競争的環境を創出し、「知の創造」と「役に立つ」といういずれかの尺度で見て、国内外に大きなインパクトを与える研究成果を発信する。
６　以上の到達目標の実現に努力し、社会で大いに活躍できる有能な人材を育成し、理工学部のブランド力の一層の向上を図る。

【理学科の学習・教育目標】

理学とは？

数学、物理、化学は、数とは何か？宇宙とは何か？物質とは何か？を追求することから出発して人間と自然との関わりを保ちながら、原子、分子のミクロな世界から宇宙のようなマクロな世界までを支配する自然法則を見出そうとしている基礎学問であります。現在においてもこの探求は休むことなく続けられています。数学、物理、化学は独立した学問ではなく、互いに密接な関係を保っています。そして、電気、機械、土木などの工学を育んできただけでなく、現在では生命科学、環境科学などの最先端技術にも広く応用されています。現在のめまぐるしく移り変わる社会環境では、技術、知識を習得することも大事ですが、絶え間なく発展する先端技術、方法を受け入れる柔軟な頭脳を養うことと、より発展させる発想力と創造力を身につけることがより重要です。このような柔軟な頭脳、創造力を育てるためには数学、物理、化学で養われてきた物の見方、考え方を学ぶことが大変役に立ちます。

【理学科の教育理念と目標】

理学教育の総合的、有機的な連携を図るため、理学科は数学、物理学、化学の３コースから構成されています。理学科では学問を単なる知識として教えるのではなく、自然科学に対するより深い興味、喜びを引き出し、学生が自主的に学ぶ習慣を養います。学生が試行錯誤しながら自律的に考えることによって、発想力や創造力を豊かにし、その結果、社会に貢献できる、広い視野を持つ、応用力が効く、柔軟な頭脳をもつ学生を養成します。

理学科カリキュラム編成上の特色

理学科では、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学の幅広い知識や他の分野での物の見方を学ばせるため、３コースが有機的に連携しながら教育を進めています。さらに、理学科では教員志望の学生が多く、数学と理科の２種類の教員免許の取得を希望する学生も多数おります。

このため、理学科のカリキュラム編成として、

１　他コースの科目を習得した場合、卒業単位の選択科目として30単位まで認定する。
２　「教職指定科目」を最大で20単位まで専門科目の選択科目として認定する。

【その他の特色】

１　技術者、研究者を育てる大学院との連携した教育

科学技術の高度化が進む中で、より高いレベルの技術者や研究者が望まれています。また、高校教員にもより質の高い理科教育が望まれています。現在理学科では約３分の１弱の学部生が大学院へ進学し、卒業研究では大学院生と学部生が連携して研究を行っています。また大学院生はＴＡとして学部の授業にも携わっています。

２　理数考房

理数教員志望学生の資質を向上させるため、理学科には数学・算数考房、理科考房、物理実験考房、化学実験考房、パソコン考房の五つのサークルが設置されています。各考房では学生が授業方法や実験方法などについて自主的に考え、工夫し、実践します。この一環として、年に数回の出前授業を行っています。

３　教員試験受験対策講座

教員採用試験の受験を支援するため、理学科教員が中心となって受験対策講座を開設しています。講座の目的としては数学、理科、技術教員を目指す学生に受験勉強のきっかけを作ることにあります。１次、２次試験対策講座だけでなく、特に理科教員を目指す学生に対して、中高生への実験指導教育を行っています。

４　保護者懇談会

保護者の方々に理学科の教育理念を理解していただくとともに、学生への細やかな指導を行うために保護者の方々と教員とのコミュニケーション活動を毎年行っています。

【数学コースの学習・教育目標】

「数学に夢を持ち、自らの力を信じて挑戦する人間の育成」

この教育目標の実現に向けて、数学コースでは学生に達成感を持たせることを第一に考えた教育課程を組み立てています。個々人の達成感を原動力に、より高度な数学的思考方法、知識、論理的思考力を身につけてもらい、プレゼンテーション技術の向上と訓練とを合わせて、学生一人一人が人生を自ら切り開くことのできる能力を、数学を基盤として獲得できる教育が目標です。論理的思考力はコンピューターのオペレーティングシステム（ＯＳ）にたとえられます。どんな優れた計算機とソフトウェアがあっても、優れたＯＳがなければ実用には適さず、優れたＯＳである論理的思考力の鍛錬に重点を置いた教育こそが数学コースの教育目標の根幹をなすものです。

【数学コースカリキュラム編成上の特色】

１　「数学講究（１）～（８）」において、現代数学の基礎をなす微分積分学・線形代数学・集合論・群論などの基本を復習し、講義では扱いきれなかった内容も補足できるよう多角的に学びます。

２　１年次の数学講究と３年次の数学講究をリンクさせて、複数の教員の指導により、３年生が１年生の演習を補佐することにより、教育実習を想定した教育実践の場と加えて数学の内容の理解を深める講義を同時に修得する機会としています。

３　４年次の科目として、現代数学の講義を８科目開講しています。ここでは、幾何、代数、解析、応用数学の世界最先端の数学の研究についてのトピックを、その道の専門家である教員によってより専門的な講義を行っています。

【その他の特色】

毎年開催される近畿大学数学コンテストにより、学内・学外の数学好きの老若男女と数学を通して広く交流する場、数学を楽しむ場を提供しています。

【物理学コースの学習・教育目標】

「物理学全般を教育することによって、科学的な物の見方、考え方を育てる。」

物理は数学と同じく、順序立てて考える技術（論理的思考）を養う学問です。したがって、物理現象あるいは自然現象を理解するには数学の知識が不可欠であるため、物理学コースでは物理数学教育の充実を図っています。低学年の物理実験教育では、実験内容をより深く理解させるため、講義と密接に連携した物理学実験を行います。これによって、自分なりの自然現象、科学についての考え方を持たせ、“自分自身の物理的センスあるいは自然観”を身に付けさせます。卒業研究ゼミナール、卒業研究では具体的な研究を通して各学生の物理的自然観を集大成させます。

【物理学コースのカリキュラム編成上の特色】

１　力学、電磁気、熱統計力学、量子力学は物理学の基幹科目であるため、講義だけでなく、解法（演習）を設けています。

２　低学年から、最先端の物理の魅力に触れさせるため、複数の教員が担当する「物理学最前線」の講義を１年次で開講しています。それぞれの教員が各自の研究分野の魅力や最新の動向などについて、１年生にも分かりやすく講義します。

３　一方、４年生の科目として、現代物理学の講義を５科目開講しています。ここでは、物性から宇宙までの最先端の物理学について、より具体的な講義を行っています。

【その他の特色】

物理学コースで実施している特色ある教育プログラム

１　「基礎物理学実験Ⅰ及びⅡ」

教育効果が上がるように、数名の教員が小人数の学生グループに対して丁寧に実験技術と物理学の内容を指導しています。学生が自ら物理現象に興味をもち、実際の装置・器具でどのようにすれば実験がうまくでき、どのような問題点があるか、装置・方法に改善すべき点や改良の可能性があるかなどを考えさせるような実験テーマ、指導を行っています。実験（測定）器具の扱い方やレポートの書き方等、実験を通じて理解させるのではなく、それらを一つ一つのテーマにしてしっかりと教育しています。実験も自分達で測定器具を製作して行うことにしています。

２　充実したセミナー形式における双方向教育

低学年では総合セミナーとして少人数教育を行い、発想力、創造力を養います。中高学年ではより専

門性の高い、あるいは先端の研究を題材にした物理講究を通して少人数教育を行います。
３　物理学習支援室
高校で物理を履修してこなかった学生、入試科目で物理を選択しなかった学生、また大学での物理の講義が分らない学生など、高校で物理学を苦手科目と意識してしまった学生にとっては、授業だけでこの苦手意識を払拭させることは困難になっています。このような現状を少しでも改善するため、理工学部学生の基礎学力の向上を目指すだけでなく科学への興味を抱かせるため、物理学コースでは、物理学習支援室を開設しています。
【理学科化学コースの学習・教育目標】
化学コースでは、物質世界を解明する中心的なサイエンスとして「化学」を位置付け、自然の真理に化学の視点から迫るべく、生命化学、環境科学、新物質の創製などの新しい領域へのアプローチを展開しています。化学の基礎知識やその基本原理を学ぶことでサイエンスの論理性に感動し、自然との調和を目指した技術者、理科系教員、研究者の養成が目的です。また、生命、環境に対する問題意識を持ち、国内外で活躍できる化学の知識及び倫理観を持った人材の育成を目指しています。
【理学科化学コースのカリキュラム編成上の特色】
化学コースでは、できるだけ早く化学に親しんでもらうため１年次から多くの専門科目を学び、理論を通して理学的な考え方を身に付けるとともに、実験を通して物質の合成、反応、分析、構造決定や物性測定などを修得します。したがって基礎学力を養う科目だけでなく演習科目も重視したカリキュラムとなっており、応用にも十分な力を発揮できるようバランスのとれた人材の育成に配慮しています。１年次開講の「基礎ゼミ１、２」は少人数で行なう対話型授業であり、討議能力やプレゼンテーション能力ばかりでなく、相互評価により聞く力も養えます。
また、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学の幅広い知識や他分野の物の見方を学ばせるため、数学コース及び物理コースと有機的に連携しながら教育を進めています。
【生命科学科の学習・教育目標】
2003年、ヒトゲノムの解読が終了し、遺伝子診断・遺伝子治療・ゲノム創薬などが身近になりつつあります。「環境保全を考慮しながら人類の福祉に貢献できる生命科学やゲノム科学の探求に取り組む学科」として、近畿大学理工学部では2002年に生命科学科を誕生させました。生命科学に関する幅広い基礎知識と実践力を身に付け、医療・薬品・食品・化学などの産業で活躍する人材の育成を目指しております。そのため、バイオサイエンス科目を中心に医学・薬学関連科目を充実させています。発生・老化・病気の謎を解き明かすための基盤となる研究を推進し、再生医療や遺伝子診断などの人類のために役立つ最新知識を習得し、それらの分野を総合的に捉えることのできるポテンシャルの高い人材を育成します。深刻化する食糧・エネルギー・環境問題の解決に向け、実験・実習を通してバイオテクノロジーの応用が実感できます。また、総合大学の利点を活かして医学部・薬学部とも連携を取りながら、研究と教育を行っています。
本学には生命科学の教育・研究を目的とする生物理工学部及び農学部が存在しますが、本部キャンパスにある生命科学科の特徴は、「人」を中心に置き、人に役立つ科学・人バイオテクノロジーの研究と教育を目指していることです。
【生命科学科のカリキュラム編成上の特色】
生命科学は広い領域の叡智を結集し、人の幸福のために健全に発展する必要があります。一方で生命科学科が求められる方向性は多岐にわたります。そのニーズに応えるため、生命科学科ではゲノムの環境から生命倫理まで幅広く総合的に学ぶことができます。基礎と応用を有機的に結合したカリキュラムが作成されております。具体的には、講義科目と実験・実習科目を連携させ、基礎的な化学実験、物理学実験と専門分野の環境科学実験、分子生物学実験、細胞生物学実験を第１～３学年に設置しています。卒業研究は学科の総力を挙げ、教員と学生が一体となって取り組んでおり、科学的分析や考察を実践的に修得することができます。具体的には遺伝子系、機能分子系、細胞組織系、環境倫理系の４つのフィールドに分かれ、専門性を活かした高度な研究を進めています。
さらに、各種の資格取得に対応するため、高等学校教諭一種免許（理科）、中学校教諭一種免許（理科）、バイオ技術者、環境計量士、放射線取扱主任者、Ｘ線作業主任者、危険物取扱者、食品衛生管理者、食品衛生管理者などの資格認定あるいは受験資格を得ることを可能としております。
【その他の特色】
生命科学科の高度先端技術、および高度教育システムは、時代の先端を担うＪＳＴ（科学技術振興

機構）の大型プロジェクトに採択されました。

・超高速バイオナノスコープの開発：プロジェクトリーダーである近畿大学理工学部社会環境学科の江藤剛治教授と共同し、世界最高速ビデヲカメラ（１秒間に100万枚の撮影速度）をさらに高速化・高感度化することで、これまで未知であった生体の超高速現象の解明を行っています。

【応用化学科の学習・教育目標】

応用化学科では、下記(１)～(８)の８項目の学習・教育目標を設定しています。

１　よく聞く者であれ、そして学び続ける者であれ。

科学技術が地球環境の保護を前提とした人類全体の幸福をもたらす手段の一つであることを理解し、それに携わる技術者として社会に対し貢献する意欲と実行力を備えている。また、価値観の異なる他者の考えを理解できるだけの広い視野と柔軟な思考力を持つよう努力しながら、自らの問題解決能力を高めるための学習を、自主的かつ計画的に継続することができる。【柔軟性、自主性、継続性】

２　倫理は、技術者の免許証。

科学技術、なかでも、化学工業が社会を便利で豊かなものにしてきたという事実とそれが社会及び自然環境の犠牲をともなってきたという事実を理解し、将来的に科学技術が社会に対して与えうる危険性を排除しつつ最大の利益を生むためのあり方について、考え続けることができる。【技術者倫理、社会性、自己啓発】

３　基礎学力なくして、進歩なし。

数学、物理学、化学、化学工学系科目の基礎知識を身につけ、専門基礎科目の理解、実験及び演習課題の解決に対して統合的に活用することができる。【基礎学力、論理性】

４　基礎から応用、理論から実践へ、そして習得へ。

専門基礎科目及び実験実習科目を通じて基礎的な専門知識及び基本的な実験技術を身につけており、これらの知識や技術を活かして、複雑な問題を解決する能力と実行力を備えている。【応用能力、実験技術】

５　デザイン能力は、エキスパートへの第一歩。

物質の開発及び応用を扱う合成化学及び材料化学の分野における専門的知識を身につけている。他者との多くのディスカッションを通して、課題をさまざまな角度から眺め全体像を理解した上で、解決のための計画を構想できる。専門知識を駆使してその計画を遂行し、課題を解決できる。【専門的課題の解決能力、計画遂行能力、デザイン能力】

６　斬新な技術は、共同プロジェクトから。

複数の分野が関連する境界領域における技術開発の重要性が高まっている現状を理解し、分野の異なる複数の技術者との共同作業を必要とする問題に直面した際に、問題提起からプロジェクトの企画・立案、遂行に至る一連のプロセスを実行できる能力と、全ての段階において、他のメンバーと協調しながらプロジェクトを遂行する能力を身につける。【協調性、デザイン能力】

７　国際性とコミュニケーション能力は、技術者のたしなみ。

計画立案、実験、データのまとめ、得られた結果についてのグループディスカッション、成果の発表といった様々な場面において、問題並びに要点を明確に文章化し、ディスカッションし、プレゼンテーションすることができる。さらに、科学技術英語の読解、表現法について、その基礎力を身につけており、諸外国の技術者との交流を行うことができる。【基本的文章力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、英語基礎能力】

８　情報処理能力は、技術者のかなめ。

文献情報データベースをはじめとする化学技術情報の収集、データ解析及びレポート作成ならびにプレゼンテーション資料作成等に、コンピューター利用技術及び情報処理技術を活用することができる。【情報リテラシー能力、情報処理能力】

【応用化学科のカリキュラム編成上の特色】

１　学生の自立・自発的学習を誘導する教育

学科教員と大学院生のティーチングシスタントによるきめ細かいサポート体制のもと、数人からなる学生グループでプロジェクトを組み、グループ内で自由に実験をデザインして課題解決を行うＰｒｏｊｅｃｔ－Ｂａｓｅｄ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ（ＰＢＬ）を実施しています。

「基礎ゼミ１・２」（課題設定・問題解決科目）、「応用化学実験Ⅴ、Ⅵ」（専門科目）、「卒

業研究」（専門科目）など

２　技術者倫理教育の重視

現在、社会で最も重視されている技術者の倫理の問題に正面から向き合い、１年次から科学技術をめぐる諸問題への理解を深め、倫理観を身につけることができるよう科目を設けています。

「化学技術者倫理」（専門科目）、「技術と倫理」（人間性・社会性科目）

３　広い視野と柔軟な思考力を身につける

技術士、弁理士、企業関係者や他大学教員などによる集中講義形式で「応用化学セミナー」（専門科目）を開講しています。

４　ディスカッション・コミュニケーション能力を身につける

１年次から、「基礎ゼミ」や「応用化学実験Ⅰ～Ⅵ」においてプレゼンテーションを継続的に行い、今日、社会的に最も重視されているコミュニケーション能力が身につくようなカリキュラムになっています。

５　情報処理科目の強化

「情報処理基礎」（専門基礎科目）、「化学情報処理基礎」（専門科目）の学部共通の情報処理基礎科目に加えて、化学構造やモデリング、専門的な内容を教材にしたデータ処理やグラフ化など、化学分野のより実践的な情報処理教育も実施しています。

６　最先端の実験研究に没頭できる充実した卒業研究

応用化学科の４年次は、ほぼ「卒業研究」に専念します。物理化学・無機化学・有機化学といった既存の学問領域を超えて、より広い学問領域の立場から、多角的に化学現象の解明、新物質の創出に取り組みます。

【その他の特色】

・応用化学科の教育プログラムは、日本技術者認定機構（ＪＡＢＥＥ）から５年間（平成16年度～平成20年度）の認定を受けました。現在では、応用化学科に入学した学生全員がこのＪＡＢＥＥ認定プログラム「応用化学科」を履修しています。さらに、社会や学生の要望を反映させながら、教員一丸となって継続的な教育改善に取り組んでいます。

・応用化学科では、特に学生実験を重視しています。学生実験専用に導入されている最新の機器分析装置およびマルチメディアシステムを活用しながら、実践的な技術者の育成に注力しています。

・即戦力の技術者・研究者を育成することを目的として、共同利用センターに配備された最新の各種大型機器分析装置を駆使しながら、各研究室でナノマテリアルを中心とした最先端の研究が活発に行われており、その結果、私立大学としては高い大学院進学率を誇っています。

【機械工学科の学習・教育目標】

機械技術は、カメラ、ＯＡ機器、ロボット、自動車、医療機器、さらに航空機や宇宙ロケット等に活用されており、その普及はいっそう加速化しています。こうした技術の中核にある学問が「モノづくり」の原点である機械工学です。

機械工学科ではモノづくりの基本となる設計製図能力を重視し、手書き図面から３次元―ＣＡＤ図面に至る一貫した作図能力の修得を目標にするとともに、実験や実習による体験を重視したカリキュラムを編成しています。さらに時代の要求に応えて、人間との接点を持ち社会的ニーズに対応するロボットや自動車に関係する科目も配置した総合的な能力を身につける教育を展開しています。これらの能力に立脚した専門技術の展開能力、問題解決能力を身につけ、機械と人間社会との共生、適合、調和の考えられる国際性豊かな自立的機械技術者の育成を目的にしています。

ＪＡＢＥＥに対応した機械工学コースと知能機械システムコースの２コース制としています。

【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】

特色ある科目名とその内容

１　科目名：機械加工実習１、２

内容：モノ作りの楽しさ、面白さあるいは作り方を体験させることによって、機械工学への興味を持たせるようにします。全員が形の違う簡単な機械製品（豆ジャッキ、ゼネバカムホイール）を、図面の作成から製品の完成までの全工程をすべて自分の手で行い、完成したときの喜びと感激を体験します。また本実習では工作機械基礎実習とＮＣ旋盤実習とをリンクさせて行っています。

２　科目名：熱力学演習実験、流れ学演習実験、機械力学演習実験、材料力学演習実験、制御工学演習実験

内容：講義により知識を習得させた後、演習を行うことにより知識を身についたものとし、実験で体験させることによって理解度と興味が一層深まることをめざし、より学習効果を上げるように工夫を凝らした科目です。

３　科目名：図学および機械製図、機械製図基礎演習、機械製図演習、設計製図の基礎、設計製図、応用機械製図

内容：モノづくりに必要な図面の書き方の基礎から具体的な機械部品のスケッチ、手書き組立図の作成と作図ツールである２次元・３次元ＣＡＤを用いた機械部品図面の作成を行います。これらの基礎知識に基づき設計製図法を学習し、設計計算からＣＡＤによる設計図面の作成を通して、機械技術者として必要な製図能力を習得します。このため１年生より３年生まで系統的な製図関係の科目を配置しています。

【その他の特色】

・創成科目の特色あるものの紹介（卒研ゼミ）：第６セメスターに開講されている卒研ゼミは、研究活動に必要な情報収集やプレゼンテーション能力の向上、実験装置の使用・製作などを行い卒業研究への導入教育になるとともに、就職活動をサポートする役目も果たし、教員と学生の相互コミュニケーションの活性化にも役立っています。

・導入教育の特色あるものの紹介（基礎ゼミ1,2）：受身の学習ではなく積極的に学習する習慣およびその楽しさを知るとともに、グループで活動し、チームを組んで与えられたテーマに取り組み、問題を解決していく能力とともにプレゼンテーション能力を養います。

【電気電子通信工学科の学習・教育目標】

現代社会では、多面的な角度から総合的に物事を判断できる幅広い知識を備えた技術者が求められています。電気電子通信工学科では総合エレクトロニクスと電子情報通信という２領域を統合し、エレクトロニクスを軸に、高度情報化社会、環境共生社会のあらゆる分野で活躍できる教養豊かなエキスパートを養成するために以下のような学習・教育目標を設定しています。

１　数学、自然科学、コンピュータなどの基本的な知識をベースに、電気電子通信工学の基礎的知識を有する。

２　エレクトロニクス、電気エネルギー発生・伝送システム、情報・通信、制御、コンピュータハードウエア・ソフトウエアなどのいずれかの分野の専門的知識を有する。

３　幅広い工学的知識に基づき、課題を分析し、解決のための適切な計画を立案・実行できる能力を有する。

４　得られた結果･情報を文書･報告書としてまとめる能力及び口頭で正しく伝達する能力を有する。

５　技術者としての社会的責任、科学技術の社会との関わりを自覚する能力を有する。

６　自ら新しい知識や情報を得て、自主的・継続的に学習する能力を有する。

【電気電子通信工学科のカリキュラム編成上の特色】

電気電子通信工学科では、上記の学習・教育目標を達成するために、総合エレクトロニクスコースと電子情報通信コースの２つのコースを設定しています。２年次進級時に希望によりいずれかのコースに配属を行いますが、１・２年次は全コース共通のカリキュラムであり、３学年よりコース独自のカリキュラムが始まります。また、各学年に実験および実習科目を配置し、自主的に様々な問題に取り組む能力の育成を図っています。

総合エレクトロニクスコースでは、電気電子工学の基礎科目および強電系の科目が総合的に重点配置されています。講義と演習を一体化し、それらの内容に関連した実験・実習を通して、電気電子現象を確実に把握できるようにしています。電力工学、パワーエレクトロニクス、電気電子材料、光・レーザー工学、センサ工学、メカトロニクスなど、エレクトロニクス技術を支える工学分野全般の基礎力と想像力を兼ね備えた国際的に通用する技術者の養成を目指しています。

電子情報通信コースでは情報の処理、伝達、利用の技術を系統的に学べるカリキュラムを整えています。情報理論をはじめ情報・通信機器、通信システム、制御システム、アナログ・デジタル回路の開発設計、組込み技術や機械学習システム、さらに量子コンピューティングなど今日の高度情報化社会に不可欠なハードウエアに基礎を置いたシステム構築ができるエキスパートの養成を目指しています。

【その他の特色】

実験・実習

１年次の「ものづくり実習」では、各種道具、機械の仕組みとその正しい使用法を習得させ、各々にオペアンプと抵抗を用いた増幅器の製作を行わせ「ものづくり」の楽しさを経験させています。また、３年次の「エンジニアリングデザイン実験」では、通常の実験とは異なり、19の実験テーマから２テーマを選び、それぞれ６週間に亘って実験を行います。実験手順を示すテキストはなく、受講生自らがグループ作業を通して技術上の様々な問題点を抽出し、その解決法を立案し、実験を遂行します。

資格

本学科で開講されている科目の中から所定の科目を修得することにより第１級陸上特殊無線技師、第３級海上特殊無線技師の２つの資格が得られる他、教職指定科目を履修することにより、高等学校教諭第一種免許（工業、情報、数学、理科）及び中学校教諭第一種免許（数学、理科、技術）が取得できます。

【社会環境工学科の学習・教育目標】

社会環境工学科では、社会に貢献する技術者としての基本的な人格形成として「愛と自律ある人材育成」、技術者としての知識・技術の習得と活用に関して「専門知識を通じて社会に貢献できる人材育成」、技術者としての社会的責任の自覚として「環境と社会に関心を持ち、問題解決に寄与できる人材育成」を柱とした教育目的を掲げています。

教育目的を達成していくために、４つの教育目標を設定しています。

１　社会に貢献できる技術者として必要な基本的な思想や能力を身につける

（１）　人類と地球に貢献し、社会に奉仕する思想を身につける。

（２）　倫理を重んじ、情熱と勇気のある自立した技術者として必要な資質を身につける。（技術者倫理）

（３）　変化に対応して継続的・自律的に学習できる。（生涯学習能力）

（４）　社会・経済・福祉・人間に常に関心を持ち、自らのあり方を考えるとともに、社会への貢献を行える力を養う。

２　社会的なニーズに応えるため時代や社会に即した幅広い知識や技術を習得する

（５）　建設技術者として直接必要な専門的知識を身につける。（専門性）

（６）　人類の幸福・福祉・環境共生など、これからの社会形成に必要とされる応用的分野に習熟する。

（７）　身近な環境・資源から地球環境・資源まで常に関心を持ち、自らが行えることを実行できる力を養う。

３　複雑に絡み合った社会の課題に対して、総合的、創造的に対応するための能力を養う

（８）　実際の計画や設計について、専門性と独創性をもってハード・ソフト両面で具体的な形を作り上げる力を養う。（デザイン能力）

（９）　人間や社会の課題に関し、地域・まちづくりの立場から課題を発見し、問題を分析し、それを総合的に解決する力を養う。（「まちづくり」）

４　協働で社会問題に対処するためのコミュニケーション能力をつける

(10)　国内外で幅広くコミュニケーションが行える。

(11)　情報機器、インターネットなど新しいメディアを使いこなす力をつける。

【社会環境工学科のカリキュラム編成上の特色】

人々が生活しているまちにある環境から社会福祉まであらゆる分野を対象とし、近未来の快適なまちを創造するための幅広い知識とそれを多角的に活用する力を養うことを目的としています。道路や橋、河川、上下水道など、さまざまな社会基盤の構築やまちづくりにおいて、自然環境や社会環境への配慮は切り離すことができません。幅広い視野と高度な技術力を養い、構造物・生態系・水環境・都市計画・コミュニティーづくりについて学ぶためのカリキュラムを構築しています。

【エネルギー物質学科の学習・教育目標】

エネルギー関連技術は、①持続可能社会の実現のための次世代インフラエネルギー技術、②Quality of Life（QOL）向上をささえる医療センサ・デバイス等へのエネルギー供給技術（ライフデバイスエネルギー技術）、さらには③エネルギー技術の革新を可能にするマテリアル創製に至るまで、極めて多岐に渡ります。いずれの技術も、数学・物理学・化学ならびに生命科学、さらに各種工学を適切に

組み合わせることではじめて実現可能なものばかりです。エネルギー物質学科では、種々の講義と実験科目を通じて①～③の３領域すべての基礎知識・実験技術を身に付け、そのうえで各自の専門性を高めることができる教育を実施します。これによって、複雑な課題に対応可能な総合力と、モノづくり実践力を身に付けた、将来のエネルギー関連技術の発展に貢献するグローバルな理工系人材の養成を目指します。この目標を達成するため、エネルギー物質学科では、以下の学習・教育到達目標を設定しています。

１　関心・意欲・態度

（１）　社会とエネルギー関連技術の関わりに高い関心をもちながら、自主的な学習を継続できること。

（２）　理工系人材として必要な倫理観を備え、それに基づいて行動できること。

２　思考・判断

（１）　専門分野の異なる研究者・技術者や、文化的背景の異なる人々の考え方を寛容し、新たな技術開発や行動規範に柔軟に取り入れる思考能力をもつこと。

（２）　与えられた課題を解決するにあたり、メンバーと協力しながら計画を立案できること。

３　技能・表現

（１）　シミュレーションやインフォマティックスを活用する能力を身に付けていること。

（２）　物質合成やデバイス構築のための基礎的な実験技術を身に付けていること。

（３）　課題解決までの一連のプロセスを、文章および口頭で論理的に説明し、他者と建設的に議論できること。

（４）　データ解析、報告書、プレゼンテーション資料作成のための情報処理技術を身に付けていること。

（５）　上記（１）～（４）に英語を活用し、グローバル人材として諸外国の研究者・技術者と交流を行える基礎的な科学技術英語力を身につけていること。

４　知識・理解

（１）　数学・物理学・化学の基礎を修得し、それらを専門科目における基礎理論を理解するために利用できること。

（２）　「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域全てにおいて基礎的な知識を身に付けており、さまざまな現象を「エネルギー変換」に結びつけて説明できること。

（３）　上記３領域のうち、１つの領域に関して、より高度な専門知識を身に付けていること。

（４）　専門知識と実験技術を適切に活用しながら､複雑な課題を解決する能力を備えていること。

【エネルギー物質学科のカリキュラム編成上の特徴】

エネルギー物質学科では、上記の学習・教育到達目標の達成のため、以下のような特徴をもつカリキュラムを編成しています。

１　１年次の専門科目「エネルギー物質概論」「エネルギー物質物理学概論」「エネルギー物質化学概論」を必修とし、多岐にわたるエネルギー関連技術を学び、社会とエネルギー技術への関心を高めます。これによって、エネルギー関連技術を自主的かつ継続的に学び、新たな技術に対応できる能力を身に付けます。また、１年次から３年次にわたって少人数･対話形式の科目である「基礎ゼミ１・２」「エネルギー物質ゼミ１～４」を必修とし、理工系人材としての倫理観や、自ら学び続ける力を身に付けます。

２　「基礎ゼミ１・２」「エネルギー物質ゼミ１～４」での少人数グループ活動を通じて、他者の意見を取り入れる柔軟性と協調性を身に付けます。さらに、ゼミと実験科目が連動したPBL活動を実施し、メンバーと協力しながら課題解決のための計画を立案する能力を身に付けます。

３　１～３年次にわたって、エネルギー関連技術を支える物理学・化学・生物学に関する実験科目を必修科目として履修し、物質合成やデバイス構築のための基礎的な実験技術を身に付けます。これらの実験科目では、データ解析・報告書・プレゼン資料作成に利用できる情報処理技術を修得するとともに、プレゼンテーションやディスカッションを通じたコミュニケーション能力を身に付けます。また、これらの活動には英語の活用も取り入れ、実践的な英語力を習得します。さらに、２・３年次には、実験科目と連動した「基礎化学情報処理」「数理情報処理」「インフォマ

ティックス実習」を必修科目とし、課題解決に利用できる最新の情報処理技術を身に付けます。

４　１年次・２年次に「化学数学演習」「物理数学演習」「数理解析演習」を必修科目として履修し、物理や化学を学習する上で必要な数学の活用能力を身に付けます。専門科目は内容に応じて「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域に分類されており、２年次までは３領域全ての基礎理論を学ぶことで様々な現象を「エネルギー変換」に結びつけて理解・説明できる能力を養い、３年次からは１つの領域の科目を重点的に学ぶことで専門性を高めます。４年次の卒業研究では、高度な専門知識と実験技術を適切に活用し、複雑な課題を自主的・継続的に解決する実践力を身に付けます。

【その他の特色】

近畿大学は教育用原子炉施設を有する唯一の私立大学であり、本学科では原子炉施設を活用した教育も実施致します。同時に低炭素社会のための再生可能エネルギーについても学び、将来の社会基盤となるエネルギーについて俯瞰できる能力を養います。一方で、生命現象におけるエネルギー変換についても学び、新技術の創出につながる教育・研究も行います。

１年次と２年次には、多岐にわたるエネルギー関連技術を、物理学・化学・生物学の基礎と結びつけながら幅広く学びます。その過程で得意分野を見出し、各自の将来設計に応じて「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域から１つを重点的に学び、専門性を高めることができます。

さらに、IoTの発達を伴う超スマート社会の到来を見越して、シミュレーションやインフォマティックスの活用といった情報リテラシー教育および研究への活用も重視しています。

【建築学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

建築学部では、「つくり・守り・育てる建築学の修得と共に、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標とします。

様々な角度から物事をみることができる能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に「基礎ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけさせます。また、建築専門技術の修得については、１年次、２年次は設計教育を中心に建築学全般に対する基礎学力を身につけさせます。

今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、建築学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進します。

建築学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

・建築学部の教育理念

技術者教育と建築家教育を総合した独自の体系をもつ我が国のホリスティックな（包括的にバランスのとれた）建築教育の良さを生かした専門教育を目指します。

・学習・教育目標

１　人類の英知である人文科学・社会科学についての一般的知識と素養を養う。

２　将来の技術者として必要とされる語学能力、コミュニケーション能力を養う。

３　数学・自然科学の基礎的専門知識・能力、及び情報などの先端的領域の基礎知識を養う。

４　技術が自然及び人間社会に対して果たすべき役割を学ぶことを通して技術者倫理を身に付ける。

５　自発的・主体的に学び、自ら考える習慣・力を身につける。

６　建築と人間、社会の関係について理解し、それを方向づけるための企画・設計・計画についての基礎知識を修得する。

７　歴史・社会・経済、住生活との関係で建築・都市を多面的にとらえ、総合化する基礎的能力を養う。

８　建築構造を実現するために必要な方法・技術に関する知識、及び建築構造を理解するために必要な力学的知識を修得する。

９　建築材料の種類・特性及び建築生産の方法・プロセスに関する基礎的知識を修得する。

10　快適・健康・安全を持続させる建築環境を工学的に認識・評価する技術を修得する。
11　社会資産として建築を作り、維持管理するために必要な知識を修得する。
12　建築各専門分野の基礎知識の上にたち、より複雑な機能・現象や境界領域について、専門的知識、能力を養う。
13　幅広い知識を総合して具体的提案に結びつけるデザイン能力とそれを的確に表現するプレゼンテーション能力を身につける。
14　計画的に演習・調査・実験を行い、そのデータを整理・集計・分析する能力を養う。
15　設計演習などで、明らかにすべき課題に対して創造的に考え、問題解決に導く能力を養う。
16　ゼミナール演習、卒業研究を通して、社会から要請される専門分野に到達する能力を養う。

【建築学科のカリキュラム編成上の特色】

デザイン重視の欧米の建築家教育に対し、技術者教育と建築家教育を統合した独自の体系を持つ日本の建築教育は、国際的にも高く評価されています。建築学とは人間のための快適な空間と環境を創造する学問であり、時代によって求められる建築も変わります。それゆえ、常に自己変革できる能力を備えた人材が求められます。本学科では、近畿大学理工学部建築学科のこれまでの歴史の中で培われてきた包括的な建築教育を建築工学専攻の中で継承しながらも、建築家養成コースである建築デザイン専攻、「住まい」の建築学を総合的に学ぶことのできる住宅建築専攻、新しい時代に対応した守り育てる建築を専門的に学ぶ企画マネジメント専攻を新しく設置します。

建築工学専攻では、建築学科の長い歴史の中で培ってきた多くの卒業生のネットワークを活かしながら総合建設業を中心に建設業界で活躍できる人材を育成します。

建築デザイン専攻は、大学院との連携を重視しながら、建築家との交流の機会を活発に設け先鋭化した建築家教育を実施します。

住宅建築専攻は、これまで多くの卒業生を輩出してきた住宅産業で活躍できる人材を引き続き育てながらも、インテリアや外構計画を含めた、「住まい」に関わる建築学を総合的に学ぶことができます。

企画マネジメント専攻では、建設業の枠を超えて住宅・建築・都市に関わる様々な業態に対応できる能力を身につけ、建設関連業界に対する社会の新しい要請に応えることのできる人材を育成します。

理工学部建築学科から建築学部に生まれ変わることによって、工学だけではなく、また文系・理系の枠を超え、社会や時代が真に求める建築を学ぶ機会を提供することをお約束します。少人数教育の重視、フィールド調査や内外セミナーへの参加など、学外や社会との関係・連携を重んじ、バランス良く、総合的な力を備えた専門家を育成します。

【その他の特色】

建築学科では、４専攻とも、一級建築士をはじめ、二級建築士、木造建築士、建築施工管理技士などの技術的な資格に加え、宅地建物取引主任者や不動産鑑定士といった建物全般に関わる資格の取得を考慮した教育を実施します。できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。

【薬学部の教育研究の理念と目的・育成する人物像】

薬学部の理念は、21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕することです。

これらの理念を具現化するために以下のような人材の育成を教育の目標とするとともに、薬学に関わる多様な分野での研究に取り組むことを使命としています。具体的には、薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力並びに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成すること、さらに医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉・健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出することを学部教育の目的としています。薬学部卒業生は、医療の現場で薬を扱う立場に立つこと、あるいは人の生命に直結する医薬品の創製・開発に携わることから、専門知識・技能に加えて、幅広い教養とともに、生命、医療に対する高い倫理観をもち、豊かな人間性を備えた社会に信頼される人材の養成も本学部の重要な使命、教育目標の一つです。

平成18年度から導入された薬剤師養成教育６年制への移行に伴い、近畿大学薬学部では「医療薬学科（６年制）」と、「創薬科学科（４年制）」の２学科を開設しました。

【医療薬学科の学習・教育目標】
医療薬学科では高度・多様化する医療において活躍できる人材、すなわち薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する指導的薬剤師、及び薬剤師の資質を活かして薬学研究の発展に貢献できるリサーチマインドを有する人材の養成を目標としています。さらにがん治療のエキスパートであるがん専門薬剤師の養成を目的とした〈癌プロフェッショナル養成プラン〉に加えて、近畿大学医学部との〈医薬連携〉体制の推進により、一層充実した臨床教育・実務実習体制を目指しています。
【創薬科学科の学習・教育目標】
創薬科学科では、有機化学、レギュラトリーサイエンス、ゲノム科学、ｉｎ　ｓｉｌｉｃｏ創薬、細胞生物学などの最先端の薬学分野の知識とテクノロジーに精通し、医薬品の創製・設計、開発などの分野で薬学研究者・技術者として国際的に活躍できる人材を社会に輩出することを目標としています。また、アンチエイジングセンターや薬学総合研究所などの附属研究機関とともに最先端の薬学教育・研究体制のさらなる充実と活性化を目指しています。
【薬学部のカリキュラム上の特色】
昨今の医療制度の多様化・複雑化、及び生命科学のめざましい進展などの大きな変革によって薬学教育を取り巻く環境は激変しています。近畿大学薬学部ではこうした潮流を先取りし、レギュラトリーサイエンス、ゲノム創薬科学、細胞生物学などの最先端の生命薬学分野、及び薬物治療学、病態薬理学などの医療薬学に直結する分野の新しい研究室の設置を積極的に進めてきました。
近畿大学薬学部では、理念に掲げた「高い臨床能力とリサーチマインドを備え、優れた資質を有する薬剤師、及び薬学研究に貢献できる人材」を養成するために、医療薬学科及び創薬科学科において、以下のような特色あるカリキュラムを編成しています。
【医療薬学科のカリキュラム上の特色】
1　充実した臨床教育：医学部・病院を擁する総合大学の特徴とメリットを最大限に活かした高度な臨床教育、臨床薬学分野のスタッフによる実務実習プログラム、医薬連携講義や生涯教育研修会との連携による最先端の臨床講義などを充実させました。
2　生命倫理教育の重視：医学部における人体臓器見学、病棟体験などのアーリーエクスポージャーに始まり、解剖組織学、生命倫理学など、医療人として極めて重要な倫理観を涵養し、確立するための教育を充実させました。
3　最新の医療薬学分野関連科目の充実：薬効薬理処方解析、病態生理学、薬物治療学、臨床心理学などの臨床に直結する重要科目に加えて、遺伝子治療や再生医療など高度先端医療に対応できる薬剤師の養成を視野にいれ、ゲノム医療などの科目を導入しました。
4　卒業研究の重視：科学的根拠に基づき問題を解決する〈リサーチマインド〉を備えた薬剤師を育成するために重要な鍵となる卒業研究を充実させました。
5　万全の国家試験支援体制：全国トップレベルの薬剤師国家試験合格率を支える「教育専門部門」を中心とした講師陣による対策講義、「Ｗｅｂによる薬剤師国家試験自習システム」などのｅ－ｌｅａｒｎｉｎｇシステムを充実させました。
【創薬科学科のカリキュラム上の特色】
1　得意領域を伸ばす専修コース設定：選択必修科目に化学系と生物学系の２つのコースを設定し、どちらか一方の専修コース科目を重点的に学習することにより、深い専門性の修得を目指します。
2　最先端の創薬関連の講義：ベーシックからアドバンスドまで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するために、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬や創薬分子設計学など最先端の講義と実習も導入しました。
3　充実した英語教育：医薬品開発や製薬業界のグローバル化、国際化に対応できる「英語力を強化」するカリキュラムを充実させることで、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。
さらに二つの学科に共通した特色ある取り組みとして以下のものがあります。
4　コミュニケーション・プレゼンテーション能力の重視：「基礎ゼミ」を１年次に開講し、学生が興味を持ったテーマについて調査・討議し、ポスター発表を行います。この科目は、優れた薬剤師としても、また薬学研究者としても極めて重要な〈コミュニケーション・プレゼンテーション能力、ディスカッション能力〉の育成に非常に効果的です。
5　充実した情報教育：情報科学の講義と実習を充実させるとともに、学術研究高度化推進事業により、全国でも有数の情報処理教育施設であるＫＵＤＯＳのメリットを最大限に活用した学習支援

体制を完備しました。

【文芸学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学部は、文学科（日本文学専攻、英語英米文学専攻）、文化・歴史学科、芸術学科（舞台芸術専攻、造形芸術専攻）、文化デザイン学科の４学科４専攻で構成され、「未来志向の実学教育と人格の陶冶」という建学の精神をふまえたうえで、それは、文学、文化・歴史、芸術、文化デザインのどの学科に学ぼうとも、人間の命（いのち）を護り、その命を輝かせる歴史的・社会的な試みこそが今と未来を担う者の責務であることを、共通理念として根底に置いた教育の場を実現することであり、この理念は、文芸学部を創設した平成元年以来一貫して保持されてきました。文芸学部は、現在そして未来に向けて、その実現を教育研究の目的とし、その目的を体現する人材の育成を目指しています。

【文学科の学習・教育目標】

文学科は日本文学専攻と英語英米文学専攻の２専攻構成になっています。

日本文学専攻

日本文学専攻では、「日本文学」と「日本語学」をグローバルな視点から学ぶために、「言語・文学コース」「創作・評論コース」の２コースを設け、「日本文学」と「日本語学」についての幅広い知識を身につけ、読解力・思考力・分析力・表現力・創造力を磨くことを目標とします。「言語･文学コース」では、日本語の歴史と言語学的思考や理論、及び日本文学の歴史と表現方法や思想などを学びます。「創作・評論コース」では、文学テクストの批評理論や創作技法を学び、文学創造の実践を行います。言語研究・文学研究・文芸批評・文学創作にとどまらず、日本語や日本文学の背景にあるグローバルな歴史、文化、社会、思想についても広く学ぶようカリキュラムを編成しています。

英語英米文学専攻

英語英米文学専攻では、「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とする近畿大学のディプロマポリシーを旨として、英語圏の文学・文化、言語領域に関する専門知識と高度な英語運用能力を修得した人材の育成を目指しています。卒業までに身につけるべき資質･能力に関して、本専攻では以下のような学習･教育目標を定めています。

１．高度な専門教育を経て、学士号取得に至ることに誇りを持ち、国際社会及び地域社会に自らの力を還元しようという志を持っていること。

２．国際的に困難な状況においても和を成すことができるような、他者との高いコミュニケーション能力を所持するに至っていること。また、そのための幅広く、深い教養を得ていること。

３．専門知識・技能の修得により、学士として総合的に高いレベルに到達していること。また、これらの知識と技能に裏打ちされた専門分野の研究活動（卒業論文・卒業研究）において、説得力のある議論を構築する能力を修得していること。

４．所定の科目の内容を修得し、勉学への高い志が見られること。また、外国語としての英語の能力を高い次元まで伸ばし、社会で求められる幅広い運用能力を身に付けていること。

【文学科のカリキュラム編成上の特色】

日本文学専攻

日本文学専攻は「言語・文学コース」と「創作・評論コース」の２コースを設けています。１、２年次で日本文学や日本語についての包括的、概論的知識を身につけ、３、４年次においては、日本語学、古典文学、近現代文学（以上言語・文学コース）、文芸創作、文芸評論（以上創作・評論コース）の５分野に分かれて、専門的な知識や思考方法、あるいは創作技法を学び、研究や創作の実践を行います。両コースは独立したカリキュラムをもっていますが、言語表現を読むという点では一致するので、概論的授業においては両コースの交流と融合を図っています。最終的には、各コースのそれぞれの分野に即した研究ないしは創作の成果を、論文又は作品としてまとめ提出して審査を受けます。

英語英米文学専攻

英語英米文学専攻では、英語圏留学制度の充実、及び少人数制クラスとチュートリアル制のきめ細かな個別指導が特色です。徹底した個別指導による、高度な英語コミュニケーション能力の育成と英語圏における文学作品や文化の研究指導、さらに卒業論文の制作指導などによる分析的思考力や論理的表現力の涵養など、世界を視野において積極的に活躍できる人材の育成を目指します。

【芸術学科の学習・教育目標】

芸術学科は舞台芸術専攻と造形芸術専攻の２専攻構成になっています。

舞台芸術専攻

舞台芸術の創作・制作活動は、複数の人間による共同作業を基本とし、他者を意識しながら自身の成長を促す表現行為であり、コミュニケーション能力の向上、さまざまな人間への深い理解と共感について学ぶことができる可能性を秘めています。本専攻では、総合芸術としての舞台芸術の中でも、特に、演劇、舞踊、戯曲の創作を実践的に学ぶこと、かつまた、それらについて学術的、批判的、歴史的に学ぶことを目的とし、４つの学びの系によるカリキュラムを用意しています。

本専攻の学習・教育目標は、舞台芸術を人間社会における重要かつ普遍的な文化的営みの一つとして認識すること、舞台芸術の持続と発展に寄与する人材の育成にあります。グローバル化する日本において、民主主義社会における芸術の役割について深く考え、よりよい社会を構築する為に、社会的想像力を育み、集団で表現内容や表現形態を模索し、常識に果敢に挑戦しながら創造することを実現できる人間の育成を目指しています。

本専攻は、実学教育に基づき、幅広く舞台芸術に携わる可能性をもつ人材（俳優、ダンサー、劇作家、演出家、振付家、プロデューサー、アドミニストレーター、技術スタッフ等）の育成を目指すばかりでなく、人格の陶冶を目指して、舞台芸術への造詣を深めることで、精神的にもより豊かな生き方を選択できる人材、他者への暖かいまなざしを持つことができる人材の育成を目指しています。

造形芸術専攻

造形芸術専攻は、「造形芸術を通じて、教育現場や社会に貢献できる人を育成する」、「専門的な力を持つ造形芸術作家やデザイナー及び研究者を育成する」、「ゼミナール、ワークショップ、イベント企画、産学連携アートプロジェクトを通してコミュニケーション能力及びマネージメント能力を身に付けた人を育成する」、「グローバル（アート）教育、国際アート交流プロジェクトを通して国際交流に意欲を持つ人を育成する」、を教育の目標としており、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。これらの趣旨をもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。

関心・意欲・態度.

１．疑問を持った事柄を放置せずに解決に向かうことができること。

２．既成概念にとらわれず常に新たな発想を持つことができること。

思考・判断.

１．多角的視点で物事を思考する能力を身につけること。

２．「感じる・考える・創り出す」を積極的に繰り返し、発見・判断ができること。

技能・表現.

１．自分の作品や論文について、論理的に発表できるプレゼンテーション能力を身につけること。

２．専門分野の基本的技術を身につけること。

知識・理解.

１．芸術と社会環境について具体的に説明できること。

２．現代芸術を歴史的観点から理解できること。

３．社会に貢献できるコミュニケーション能力を身につけること。

【芸術学科のカリキュラム編成上の特色】

舞台芸術専攻

舞台芸術専攻では、４年間でどのような角度から舞台芸術を学んでいくかの指標として、2016 年度から、〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕、〔戯曲創作系〕、〔TOP(Theatre Organization Planning)系〕の４つの系を設けています。２年生から各自が選択した「系」の学びの中心となる核科目と、専攻の共通科目を横断的に組み合わせ、それぞれに独自カリキュラムを作成することにより、多角的に専門的な知識と経験が習得できるようにカリキュラムが構築されています。

〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕の学びでは、実習・演習形式の授業を中心に実践的に演劇表現、舞踊表現の創造を探求します。〔戯曲創作系〕の学びでは戯曲創作の実践を積み重ねて創作力を、〔TOP〕の学びでは広く舞台芸術作品に接するとともに、舞台芸術の理論、歴史、批評を学んで、考察力、発信力を養います。自らの学びに必要な他学部、他学科、他専攻の選択科目も組み込むことができます。また、演劇の教育的な側面を社会の中で生かすことができるように国語の教員免許取得のためのカリキュラムを設置しています。

造形芸術専攻

造形芸術専攻においても、基礎的なものから専門的なものへの段階的教育が組織的に実行されてい

ます。本専攻では平成16年度より「ゼミナール選択制」を採用し、１年次で４ゼミ、２年次で２ゼミを選択し、３年次で最終のゼミを決定することになっています。２年間自分の能力、関心がどこにあるのかを模索できるこの制度は有効に機能しています。また、平成28年度からは、造形コースと芸術学コースの区別をなくし、全ての学生が実技と美術史研究の両面から芸術にアプローチできるような体制を設けています。

【文化・歴史学科の学習・教育目標】

文化・歴史学科は、学問的知識とともに論理的な思考力、健全な批判精神、自分で問題を発見し解決する力、他者の立場を理解し異なった意見に耳を傾ける謙虚な姿勢、自分の意見や着想を他人に伝え積極的に社会にかかわっていく発信力と行動力を兼ね備えた人材の育成を目指し、以下の４つの領域についてそれぞれ具体的な学習・教育目標を定めています。

関心・意欲・態度

１．カリキュラムポリシーに示された４つの系にまたがる幅広い知識と理解力を身につけることにより、古今東西にわたる幅広い文化・歴史を総合的・俯瞰的に把握する意欲を持つこと。

２．現代の社会文化に対するアクチュアルで自発的な考察力を持つこと。

思考・判断

１.卒業後の自分の進路や自らの社会的使命に対して常に真摯かつ誠実であることを心がけること。

２．身の回りや社会に生起する諸問題に対する鋭敏な洞察力を鍛えること。

技能・表現

１．社会的な積極性をもち、自主性を心がけることのできる人物、そして文化的な意味で個性ある社交的能力に長けた人物となること。

２．職場、同僚、友人、家族、近隣など日常の人間関係にとどまらず、ボランティアや趣味やＳＮＳなど自らが積極的に関与する広範な人間関係の中で、文化事情についての自己表現を行う技術と能力を発揮する意欲を持つこと。

知識・理解

１．４つの系にまたがった広い見識と同時に、自分の専門領域とする文化事象について深い理解を会得し、実践的に応用できる能力を身につけること。

２．協調性を重視すると同時に、独自の思考と判断のできる能力と表現力を身につけること。

【文化・歴史学科のカリキュラム編成上の特色】

文化・歴史学科では幅広い知識と深い教養を育むために、コース制ではなく日本史系、世界史系、現代文化・倫理系、文化資源学系の４つの＜系＞を設定しています。４つの＜系＞を横断した学びを通して学生は広い視野と深い専門的知識を修得しながら、最終的に各自の専門とすべき研究分野を絞り込んで卒業論文を作成することが､カリキュラムの主軸となっています｡そのため重要となるのは、教員との活発な交流を通して学びの実際と楽しさを体得する少人数教育であり、１年次では特に「基礎ゼミ」「基礎研究」、２年次では「講読」がその役割を担っています。３・４年次の「演習」（いわゆる「ゼミ」）では主として一人の指導教員について、専門研究に必要な文献読解や現地調査等の研究方法を学び、ゼミ発表を通して社会で必要なプレゼンテーション能力を、論文作成を通じて文章表現力を学んでいきます。

【文化デザイン学科の学習・教育目標】

文化デザイン学科は、人文諸学の基礎的知識と感性的直観力、美的感性と倫理的思考力を養い、それらを基礎にした実践活動に必要な創造的思考力・デザイン思考・マネジメントカ・情報分析力、さらにチームワークに必要なコミュニケーショ力・調整能力、加えて困難を克服するための問題解決能力などを修得した人材の育成を教育の趣旨としています。

この趣旨のもとに厳格に成績評価を実施し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

関心・意欲・態度

１．様々な社会現象に問題意識を持ち、その課題の解決への探求心を持つこと。

２．解決すべき課題を他者と共有し、積極的にコミュニケーションを図ること。

思考・判断

１．感性と知性の調和を保ち、良識に基づいた思考と判断力を修得していること。

２．現代に鋭敏な、また未来を見通す論理を超えた直観力を発揮できること。

技能・表現
１．デザイン、プロデュースの専門分野における基本的方法と技術についての知識、能力を修得していること。
２．思考内容や表現内容を論理的にプレゼンテーションする技術と能力を修得していること。
知識・理解
１．文化、芸術、政治、経済、科学など人間活動の広範な分野についてグローバルな知識を持っていること。
２．物事について、他者の立場に立って考え社会貢献につながる倫理的公共的理解ができること。
【文化デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】
文化デザイン学科では、「感性学系」「デザイン系」「プロデュース系」の３つの系を設置し、まずそれら全ての領域をまんべんなく学ぶことを求めるカリキュラム編成となっています。それを基礎にして、人間の文化的・芸術的成果を社会につなげるシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、実行／プロデュースするため知識と能力を習得する専門科目群が設置され、加えて各系の学問的理論だけではなく、１年次から４年次までの「ゼミナール」あるいは「プロジェクト演習」など実践的なタスクワークを重視するカリキュラム編成がなされています。
教育課程の根幹ともいえる「ゼミナール」については、１年次から必修として全教員の「ゼミナール」を履修し、年次毎に研究テーマを絞り込みながら、最終的に４年次において一つのテーマに取り組むという４年間の段階的発展をたどる教育課程として編成されていることも特色です。
【総合社会学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
21世紀の課題は、『グローバル化』、『新ネット社会の登場』、『世界的な格差社会の拡大』、『自然環境の異変』などに象徴されます。
総合社会学部では、多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解し、多様な見方を総合化していくために、人々の心的活動や行動（心理学）・社会システム（社会学）・環境と社会の関係（環境学）というミクロな視点からマクロな視点まで、視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究により、複雑化した現代社会の問題群に一つの組織として総合的に取り組みます。
また、総合社会学部では、現代社会の諸課題をしっかりと見極めて、未曾有の転換期を生き抜く人材の養成にあたります。21世紀の社会は、情報社会・ネットワーク社会と呼ばれるものであり、それはインターネットに代表される情報通信技術の進展に大きく影響を受けて発展してきました。そこで、これからの社会を担う人材には、ネットワーク社会がどのようにもたらされ、どのような方向に向かっていくのかについて、的確に理解できることが求められます。
本学部では、現代社会が直面する複雑な問題を理解することができ、ミクロな視点からマクロな視点、ローカルな視点からグローバルな視点まで、多様な見方を総合化していくことができることを教育の到達目標とし、複雑化する社会問題を総合的、実証的に捉え解決を図ることができる人材の養成を学部全体としてめざしていきます。
【総合社会学科の学習・教育目標】
総合社会学科は、教育・研究の連携を保つために、１学科組織となっていますが、系統性のある学習を行う必要性から、教育の柱となる領域を定めています。学生が自分の興味がある科目のみを履修し、学部・学科の科目を自由に修得する教育課程では、広く浅い知識だけで問題の表層だけしか見ず、問題の本質を知るという力は育ちません。
そこで本学部は、より深く系統性のある学習を行うために、
①現代社会そのものの構造や動きを研究するための、社会学をベースとした『社会・マスメディア系専攻』
②現代社会を構成する主体である、人間の心的活動や行動を探求するための、心理学をベースとした『心理系専攻』
③現代社会を取り巻く環境と社会との関係を研究するための、環境学・地理学・都市学・地域学・政策学をベースとした『環境・まちづくり系専攻』
という３つの体系的な教育課程を専攻別に編成し、個別重点的、かつ分野横断的に教育することにより、多様な見方を総合化して問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。
【総合社会学科カリキュラム編成上の特色】
総合社会学科の教育課程は、「共通教養科目」、「外国語科目」と本学部独自の「学部共通コア科

目」により、本学部生の土台を形成し、その土台の上に連続して「専門科目」を専攻別に基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

「共通教養科目」では、幅広い知識と社会人としての基礎力を養い、「外国語科目」ではコミュニケーション能力の育成とともにグローバルな視点をも養成していきます。そして、「共通教養科目」である１年次必修科目の「基礎ゼミ」に始まり、『学部共通コア科目』としての「総合社会学演習」、さらに各専攻に分かれても４年間一貫してゼミナール形式の少人数教育を施す「講読」、「演習」、「卒業論文」、「卒業制作」といった科目を必修科目として段階的・連続的に編成しています。このうち、どの専攻に所属しようとも必ず受講する『学部共通コア科目』では、学際的な学部としての総合的、実証的な視点や、人々の心的活動や行動（心理）・社会システム（社会）・環境と社会の関係（環境）といったミクロな視点からマクロな視点まで、異なる３つの視点を持つ各専攻の専門科目の基盤となる科目を編成し、「専門基礎科目」へと体系的につながっています。そして、学部教育の土台から連続して、学生の教育の柱となる領域を定めるため、「専門基礎科目」から「専門発展科目」へと体系的な教育課程を編成しています。

【その他の特色】

外国語科目（英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語）は、共通教養科目や専門科目の「国際関係」科目と同様に、総合社会学部の目的の一つであるグローバルな視点を養成するために重点を置く科目群です。本学部の外国語学習プログラムでは、提供するすべての外国語科目において基幹科目と発展科目を配置し、学生は基礎から上級レベルまで段階的に外国語学習に取り組むことができます。また、複数の外国語を学習できる環境を１年次から提供し、それぞれの進路・希望に応じて系統性のある学習が行えるプログラムとなっています。学生は、興味・関心の拡がりに合わせた科目の選択も可能です。外国語科目として18単位が卒業要件となっていますが、グローバル社会における英語の重要性に鑑み､英語の基幹科目のうち必修科目６単位を含む８単位以上を修得する必要があります。これらの科目を通して基礎的な英語コミュニケーション能力を育成します。高度なレベルの英語運用能力の習得を希望する学生には、英語科目の重点的な履修も可能としており、マッコーリー大学（オーストラリア）へのセメスター留学制度の利用、上級レベルの英語の授業履修等の機会が充実しています。また、英語・中国語・韓国語については、単位認定を含めた短期海外語学研修に参加することもできます。

【国際学部　国際学科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

「国際学部　国際学科」は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」という本学の建学の精神を人材養成の礎とした上で、グローバル化というかつてないほど大きな社会の転換期を生き抜き、積極的にグローバル社会に参画するための知識と教養の吸収を目的とした教育を行います。具体的には、（１）外国語による高いコミュニケーション能力を有し、（２）幅広い教養と専門性を備え、（３）自文化と他文化を尊重し、かつ多面的に理解し、（４）自主性と協調性を持って行動できる人材、すなわち「国際教養人」の育成を目的とします。この教育理念を具現化するには、従来の座学的教育にはおのずと限界があります。よって本学部では１年次後期から１年間の留学を原則必修とし、大学生活早期の外国語コミュニケーション能力の習得、自文化・他文化の尊重と理解、自主性と協調性の涵養、の３つの目標の実現を目指します。さらに留学後に幅広い教養と専門性を深めることによって、グローバル社会で活躍できる人材の輩出という目的の実現を目指します。

【国際学科の学習・教育目標】

国際学部は、教育及び研究の連携を保つために、１学科組織となっていますが、留学を基盤とした確固たる言語運用能力の上で学習を行う必要性から、英語を専修言語とする「グローバル専攻」、中国語及び韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」という２つの柱を定めます。

グローバル専攻は英語を主軸としますが、単に英語を学ぶに留まらず、「英語で何を学ぶか」に重点を置きます。そのために、以下の４つの「領域」を設けたうえで、多様な研究実績とキャリアを有した教員の専門性を活用した、効果的な教育の機会を提供します。

1　「コミュニケーション・実践領域」の科目は、実務の現場で活用可能なスキル・コミュニケーション能力を身につけることを目標とします。ビジネス、英語教育、観光、通訳・翻訳など、多様な実務・教育経験を持つ教員による開講科目を通じて、グローバル化に伴うコミュニケーション様式の変容や文化的多様性を意識した、実践的な問題意識と能力の習得を追求します。

2　「言語文化領域」の科目は、言語を理論的側面と現象面から分析し、言語と文化の関連性を深

く理解することで、話者の多様な言語観とコミュニケーションスタイルの多様性を理解することを学習・教育目標とします。言語学、社会心理学、文化記号論などを研究する教員が、言語をさまざまな視点からとらえ、言語と人のかかわりを探求する科目を担当します。

3　「国際関係領域」の科目は、多様な人々が共に生きる社会の構築に向けて、積極的に行動できる力を養うことを目的とします。政治、外交、国際関係、国際法、地域研究、国際協力、ジャーナリズムなどを専門とする教員が担当する科目を通じて、国際社会や地域社会に貢献し得るグローバルな見識と行動力を習得することを目指します。

4　「人文社会領域」の科目は、グローバル化がもたらしたひと・モノ・文化の移動に目を向け、現代社会に刻み込まれたグローバル化のあり方を、複数の学問的視点から具体的に検討することを目的とします。歴史学、文学研究、芸術学、文化人類学、メディア論などを専門とする教員の開講科目を通じて、複雑な文化事象を粘り強く思考する経験を重ねながら、実社会にも貢献できる思考力や問題解決力の習得を目指します。

「東アジア専攻」は、中国語を専修言語とする「中国語コース」及び韓国語を専修言語とする「韓国語コース」を設置し、それぞれの言語・文化の理解を基盤に専門性を深めます。「中国語コース」では、中国語圏の人々と中国語で自在にコミュニケーションのとれる能力を高め、異なる価値観に対する寛容と自己の文化的立場の認識を深め客観化を図るべく、語学学習と並行して、中国語圏の文化、歴史、慣習、思考様式に関する知識及び日中の過去現在にわたる文化的交流の知識を得ることを学習・教育目標とします。「韓国語コース」では、韓国語でコミュニケーションのとれる能力を涵養し、韓国の文化、歴史、思考様式、社会構造を学ぶことにより、日韓のさまざまな交流に貢献できる地域専門性を身につけることを学習・教育目標とします。

以上のように、英語を専修言語とする「グローバル専攻」と中国語及び韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」の２本の柱を持ちますが、分野横断的な学習が可能であり、多様性の理解と尊重のもと、さまざまな問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。

【国際学科のカリキュラム編成上の特色】

「国際学科」の教育課程は、全学共通科目である「共通教養科目」及び「外国語科目」により学習の基礎を形成し、「専門科目」を段階的に編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

「共通教養科目」では、１年次必修科目の「基礎ゼミ」に始まり、（１）人間性・社会性科目群、（２）地域性・国際性科目群、（３）課題設定・問題解決科目群、（４）スポーツ・表現活動科目群から偏向なく履修することにより、幅広い知識と社会人に求められる基礎能力を養います。「外国語科目」について、グローバル専攻では、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語をそれぞれ入門、基礎、中級、上級の４レベルで開講し、学生の学習目標やキャリアの必要性に応じて主体的に選択ができます。また、東アジア専攻では、これら７言語（ただし、専修言語を除く。）に加えて英語も選択でき、「総合英語１」、「総合英語２」、「総合英語３」、「総合英語４」と４レベルで英語の運用力を強化していきます。

専門科目は、「国際教養人の育成」という目的を達成するべく教育課程を編成し、それは「学部共通開講科目」、「留学科目」、「セミナー科目」、「言語科目」、「専門基礎科目」（グローバル専攻のみ）、「専門発展科目」から構成されます。

「学部共通開講科目」は、所属する専攻を問わず、履修の必要性が高い科目を配当しています。１年次前期の必修科目「留学セミナー」、「異文化理解」は、１年次後期から１年間留学する学生にとって必要な知識を身につける科目です。また、２年次前期の「専門導入セミナー」は、留学で得た高い外国語運用能力と国際感覚を、２年次後期以降の専門科目群へと接続するための役割を担います。加えて、「学部共通開講科目」には、２年次後期からの選択科目として、学生のキャリアパスに関わる内容を扱う科目を配置しています。

「留学科目」は、各専修言語の海外提携校で履修する科目です。１年次前期の必修科目「留学セミナー」、「異文化理解」に加え、集中語学学習で培った知識・技能を１年間の留学で確認し、さらに高めます。

「セミナー科目」は、３年次前期から卒業までの期間を通して、少人数でのリサーチ・プロジェクトを進めていく科目です。３年次の「セミナー１」と「セミナー２」を通じて、指導教員のアドバイスのもとでそれぞれの研究分野の基礎的研究方法と問題意識を深化させ、４年次の「セミナー３」と「セミナー４」で研究成果を論文等の形にまとめていきます。大学院進学等を視野に入れたハイレベ

ルな論文指導が求められる場合は、後述する「専門発展科目」に配置された論文指導科目「Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ」をセミナー科目に接続し、より密度の高い論文指導を行うことが可能です。

「言語科目」は本学部の背骨となる科目で、グローバル専攻では英語を、東アジア専攻では中国語、又は韓国語を指します。「言語科目」学修の目的は、実践的運用能力を身につけることだけでなく、「セミナー科目」などでの研究の基盤とすることにあります。

「専門基礎科目」は「グローバル専攻」にのみ設置する科目です。留学修了後、上述した４つの「領域」の中から自分に合った分野を選択し、該当分野の基礎的な知識と方法論を習得するための導入科目群で、これらの科目をバランスよく履修することを通じて、それぞれの「領域」の特徴を知ることができます。

「専門発展科目（グローバル専攻）」は、２年次までに習得した知識・技能・経験を基盤にして、より専門性の高い学修を行うための科目であり、「コミュニケーション・実践領域」、「言語文化領域」、「国際関係領域」、「人文社会領域」の４つの領域から構成されます。履修者は、これらの領域のいずれかひとつを選択し、専門分野の学修を進めていきますが、複数の領域を横断した履修を行うことが可能です。また、履修者の希望に応じて一層密度の高い専門教育を実現するために、それぞれの領域には少人数の特論科目を設置しているほか、上述した論文指導科目「Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ」を活用することで、レベルの面でも柔軟な科目選択・指導体制を実現することが可能です。

英語に比べ、中国語及び韓国語の習得期間は短いため、「専門発展科目（東アジア専攻）」ではグローバル専攻にあるような「領域」は設けることはせず、その代わりに専修言語習得をさらに強化し、学生自らの関心や進路希望に基づいて選択した履修モデルに従い、体系的に科目を選択し、履修していきます。

【その他の特色】

「国際学科」は文化の多様性だけでなく、垣根を越えた学問の多様性（ａｃａｄｅｍｉｃ　ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ）も重んじます。学生は各自の専攻の中で「領域」（グローバル専攻）又は「コース」（東アジア専攻）に所属し所定の科目を履修しますが、学問の興味、又はキャリア面での技能にとって必要であれば学問横断的に科目を履修することができます。

また「国際学科」は、コミュニケーション能力のさらなる育成のために、１年次後期から１年間の留学に加え、他言語習得のための短期海外語学研修や海外インターンシップを奨励し、また有資格者には交換留学など、さらなる留学機会を提供します。

【情報学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

情報学部では、「Society5.0の実現に向けて第4次産業革命（IoT・ビッグデータ・AI等）が進展する中、AI活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザインなど、第4次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を育成する」ことを教育理念・目標とします。

教育の理念・目標の実現のため、IoT、AI、クラウドコンピューティングなど最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う情報学の専門的な知識を得るための講義科目をバランス良く配置し、数学や人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を習得させます。

情報学部では4年間のカリキュラムを通じて、社会のニーズに応える情報技術者としてふさわしい問題発見能力、制約の中で他者と協調しながら問題を解決する能力、情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力、システム構想・設計力、プログラミング能力に加え、国際的に通用する英語コミュニケーション能力と技術者倫理を身につけた人材を育成します。

【情報学科の学習・教育目標】

情報学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

１．　問題発見、およびそれに必要な知識修得を自主的、継続的に行う意欲を持つこと。

２．　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者がそれらに対して負う責任を理解し、関心を持つこと。

３．　地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養を身につけること。

４．　与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけていること。

５．　他人との共同、協調作業を通して問題解決ができること。

６．　日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけていること。
７．　国際的に通用する英語コミュニケーション能力を身につけていること。
８．　数学、自然科学に関する知識を情報分野の問題に応用できる能力を身につけていること。
９．　情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力を身につけていること。
10.　システム管理・運用能力、システム構想・設計力、プログラミング能力を身につけていること。

社会の広い分野で活用できる情報技術者に必要な基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を身につけてもらうことが学習・教育目標となります。

【情報学科のカリキュラム編成上の特色】

高度な専門教育を体系的かつ組織的に行うとともに、学生が情報学に関する幅広い分野の中から系統的に学べるよう、「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の３コースを設置します。また、学生が他コース開講科目を履修できるようにすることで、自身の興味やキャリアプランに合わせて情報学を横断的に幅広く学べるようにします。３つのコースはいずれも「Society 5.0」の根幹となる、サイバー空間と実世界を高度に融合させたシステムの運用や開発に従事するICT技術者を養成するためのコースとなります。それぞれのコースでは、サイバー空間に蓄積する大規模データの利活用や、そのセキュアな流通、また、サイバー空間と実世界との橋渡しに関する技術を扱い、社会のニーズに即した人材の養成のためのカリキュラム編成を特色とします。

知能システムコースでは、サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材を育成します。本コースは、講義科目と実践的な実習の相乗効果によって、人工知能・機械学習の背後にある数理的な基礎を理解した上で、世界で繰り広げられている研究開発競争の最新動向をキャッチアップし、目前の課題に適した技術を適用できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。

サイバーセキュリティコースでは、サイバー空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築するICTアーキテクトや、高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材を育成します。本コースの科目群はサイバーセキュリティ分野の国家資格である「情報処理安全確保支援士」で必要とされる知識の一部を習得する構成となっています。また、仮想ネットワーク環境等を用いた実践的なサイバーセキュリティ実習により、知識だけでなく実践的なスキルを併せもった人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。

実世界コンピューティングコースでは、実世界とサイバー空間を橋渡し、IoT、AI、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合して、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材を育成します。本コースは、認知科学や社会学の観点から、サイバー空間の解析結果により実世界のユーザの行動がどのように変容するか分析・評価し、実世界の問題を解決するシステムを構築できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。

【その他の特色】

情報学部では、基本情報技術者、応用情報技術者、シスコ技術者認定資格、情報処理安全確保支援士などの資格の取得を考慮した教育を実施します。できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。また情報学部では、実践による学びを通じて、学生が活きた知識を獲得できるよう、様々な企業と連携した産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学習を取り入れた実習科目を配置し、様々な制約の中で試行錯誤することで、より良い解決策を探る実践を通じ、専門職業人に必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養します。

【農学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

農学部では、本学の建学の精神と教育理念に沿って、「積極的なチャレンジ精神を持ち、心豊かで社会に貢献できる人材を育成する」ことを教育理念としています。

農学は、生物生産、生命、環境等に関する体系的知識を核とした総合科学であり、その研究領域は、農業生産を中心とする食糧生産に関する研究にとどまらず、農林水産物の二次、三次加工、健康、機能性食品の開発、医薬品への活用など人間の健康維持に関する研究、更には地球環境、地域環境、住環境を含む環境保全、管理、改善に関する研究など人間生活の衣、食、住のすべてを包括した範囲にまで拡大しています。このような背景を踏まえて、農学部では、社会的ニーズに対応した専門的知識と技術が修得でき、将来、暮らしに役立つ未来の技術の開発に積極的に取り組むことができるよう、

講義科目と実験、実習、演習などの科目を有機的に連動させ、論理的並びに実践的側面を両立させる手法を取り入れた教育を行います。また、自ら問題を見出し、それを解決できる能力を高めることによって生命現象や地球環境などに対する深い理解を示し、豊かな倫理性・人間性を養うことにも取り組みます。地球レベルから分子レベルまでの幅広く展開する教育研究に加え、語学力やコミュニケーション力を高める教育を行い、グローバルな視野を持った実践的な人材を社会に送り出すことを目指します。

【農業生産科学科の学習・教育目標】

農業生産科学科では、「安全・安心な農業生産、食糧問題、環境問題、生物のいやし効果、およびアグリビジネスに関する知識を持ち、それらに関する問題を解決するための方法論や技術を修得するとともに、その力を応用し、新たに直面する可能性のある未知なる問題にも果敢に挑戦する人材を育成する」ことを教育目標としています。

農業生産の分野では「環境と健康に配慮した21世紀型農業の確立」が求められており、理論と実践の両面から教育・研究を進めることが必要です。具体的には生物多様性の保全と利用を念頭に置いた安全・安心な環境保全型農業、花など生物のいやし機能の利用、これからの農業を発展させるためのアグリビジネスへの展開を目的としています。

この目的のため農業生産科学科では、安全性に配慮した食糧生産技術、病害虫や生理障害に対する管理技術、収穫物の流通・販売・消費に関する問題、などについて基礎から応用まで知識を習得できる講義を実施しています。また、実験や実習にも多くの時間を割り当てることにより、実践能力をもつ人材を育成することも教育目標としています。

【農業生産科学科のカリキュラム編成上の特色】

農業生産科学科の専門科目は、１年次から開講されており、４年次の卒業研究まで一貫して農業生産科学に関する専門性の高い知識の教育を展開しています。また、アグリビジネスマイスター資格取得の制度を設け、ビジネスモデルの構想能力や地域産業とのコーディネート能力を有する人材の育成に取り組んでいます。

１年次では、農業生産の基礎となる生物学、植物学、植物保護に関する基礎的な科目を学習します。また、実践的に農業生産科学を理解するための農学野外実習を実施し、実学的に理解するとともに農業生産科学に取り組む心構えを養っています。

２年次では、学科を構成する各研究室の専門分野に関連する専門科目が開講されます。農業生産に関わる植物に関する植物の種類ごとの専門科目、栽培植物の保護に関する種々の病害虫や農薬利用に関する科目、アグリビジネスマイスターのコースに関連する種々の科目が開講されています。また実験科目として、農業生産科学に関係する幅広い基礎的な内容を実践的に理解するため、基礎生物学実験及び基礎化学実験を実施しています。

３年次では、１年及び２年次で修得した基礎知識をもとに、それぞれの専門分野でより高度な内容を含む専門性の高い科目を修得できるように講義科目を開講しています。さらに各専門分野に関する英語力を身につけるため、ゼミ形式の専門英語を開講しています。これらの専門的内容を実践的に理解し、４年次の卒業研究に必要な実験手法や機器の取り扱いについて、直接的な指導が受けられる農学専門実験を通年で実施しています。またアグリビジネスマイスターのコースではアグリビジネス実習を開講しています。

４年次では、３年次までに修得した知識や実験手法を活用して卒業研究に取り組み、同時にゼミ形式の専門演習において研究における問題解決能力を向上させます。すなわち、１年から３年次までに修得した知識や技術を十分に活用して卒業研究を完成させるカリキュラム構成になっています。

【その他の特色】

農業生産科学科では、農業生産に関する基礎教育を基盤として、応用的な専門教育を広く学べることを特色にしています。分子生物学を応用した遺伝子工学技術、植物組織培養技術を利用した苗生産技術を習得できます。また実学的な分野では、交配による育種技術、減農薬栽培のための物理的、生物的病害虫防除技術を体験・習得できます。収穫物の流通については、トレーサビリティーを含む流通管理技術や野菜や果実の保存の現場を体験することができます。さらに、附属農場実習として、マンゴーやミカンの栽培、収穫、販売を体験することができます。また、近隣の農業研究センターの見学も定期的に実施しています。

【水産学科の学習・教育目標】

水産学科では、「地球的視野から水域の食料生産と環境・生物について多面的に考える能力を持った人材を育成する」ことを教育目標としています。

海に囲まれた日本において、水産業は極めて重要な産業であり、時代を通じて高い発展を図る必要があります。農学部水産学科では、自然と調和した水産学を志向し、増養殖、漁業、水産物加工・流通業などの水域の食料生産に関わる分野から、水産業に密接に関わる水域生態系の評価・保護・改善・修復・共生などの環境保全まで、幅広い水に関わる分野の教育をおこないます。

具体的には、下記に示す内容を学習・教育の目標としており、水産学科のカリキュラムは、ここに示すＡ群からＨ群までの８つの柱に沿って、それぞれの基礎から専門性の高い内容まで、確実に学習できるよう配当しています。

Ａ群　科学知識の基礎を習得し、様々な生命活動を理解する
Ｂ群　水域における多様な食料生産システムを地球的視野から理解し、応用できる
Ｃ群　水域の環境保全の重要性を生物・環境の両面から認識し、多面的に考える
Ｄ群　世界における水産資源の利用方法を修得し、その流通を含む食料問題への対応力を養う
Ｅ群　学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する
Ｆ群　水産技術者として必要な世界観・倫理観を身につける
Ｇ群　水産技術者として必要な論理的記述力、口頭発表力、コミュニケーション力を身につける
Ｈ群　水産技術者として必要なデザイン能力・自主性・計画的遂行力を身につける

【水産学科のカリキュラム編成上の特色】

農学部のカリキュラムは、学部共通である共通教養科目・専門基礎科目・外国語科目、そして学科ごとの専門科目から構成されています。

水産学科の専門科目は学習・教育目標に定めたＡ群からＨ群の項目を系統的に学習できるよう、それぞれ目標に沿ってＡからＨまでの内容別に科目が配当されています。例えば、Ａ群１（生命科学系）では、『魚類生態学』や『魚類環境生理学』といった水域の生物学に関する基礎から専門性の高い内容まで合計12科目が開講され、学生はそれらの中から自分が興味を持つ６科目以上を選択することになっています。

また、実学である水産学を机上の学問とするのではなく、必ず現場における実践を意識するため、実験室レベルにおけるカリキュラムに加えて、養殖魚の生産・水産物の製造・流通などを体験・見学します。そのため、Ｅ群（学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する）では多くの実験、実習科目が選択科目として開講されています。その例として、白浜実験場で実施する『養殖学基礎実習』や『水族環境学実験』、関西地方の漁業協同組合や魚市場に出かけて水産流通の現場について学ぶ『水産経済調査実習』などがあります。さらに『潜水技術論』や『小型船舶操縦法』といった、将来に向けたキャリア形成のための資格取得が可能な選択科目も開講されています。

【その他の特色】

水産学科発足時にその母体となった近畿大学水産研究所は、和歌山県に白浜実験場や浦神実験場など４カ所、また富山県と鹿児島県にも各１カ所の実験場を持ち、我が国で現在行われている魚類養殖方法の多くを開発したフロンティア的存在です。水産学科の授業においても、水産研究所のフィールドや実験施設、宿泊施設を利用した多くの実験、実習科目を開講しています。このように大規模な飼育施設を備えた実験施設は、我が国は元より世界的にも類を見ず、学生達は恵まれた環境で実践的な教育を受けることが可能です。

【応用生命化学科の学習・教育目標】

応用生命化学科では、「生物を化学的視点から理解し、豊かな未来を創造できる人材を育成する」ことを教育目標としています。

本学科では、化学の立場からライフサイエンスの知識と技術を習得し、食糧・生命・環境の分野で発生する「様々な課題を解決できる能力」を身につけ、より良い社会生活の実現に貢献できる技術者・研究者の育成を行い、国際的に活躍できる人材の養成を目的としています。

したがって、基礎学力から応用研究を行う実践的な能力までを確実に４年間で習得できるように講義を実施するとともに、実験や演習の時間を豊富に設け、知識・技術を確実に身につけることができるように配慮しています。また、これらの技術者に必要な情報処理や英語力の養成にも力を注いでいます。

これから深刻になる食糧・環境問題に対処するため、化学と生物学の基礎を体得した実践的な技術者がますます必要になっています。応用生命化学科では人間生活の質の向上のため、食糧、生命、環境を化学的な視点から解明し応用へと導き、未利用資源の利用と再生に関する教育、研究を行います。そのため、生命現象を化学的に理解し、高度な先進的技術を習得させ、基礎から応用まで幅広く学べることを特徴としています。

【応用生命化学科のカリキュラム編成上の特色】

応用生命化学科では、１年次から全学年にわたって専門科目が配されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に計画された一貫教育を受けることになります。

１年次では、主に専門科目を受ける上で必要となる基礎科目、語学能力の習得を目的とした科目ならびに「物理学実験」、「生物学実験Ⅰ」が配されています。

２年次からは、１年次で学んだ知識を基盤として化学系の専門科目、生物系の専門科目及び「化学実験Ⅰ」、「化学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅲ」が配置されています。また、ゼミ形式で少人数の専門英語の授業も始まります。

３年次では、専門科目の要素も濃くなり、また研究室への配属も決まり専門科目実験が配置されています。専門英語については興味ある英語の論文を読ませ、この内容を要約して各人が発表するカリキュラムも配置されています。これらは「卒業研究」や卒業後社会で通用するためのより実践的な知識を身につけるためです。

４年次では、「専門演習」と「卒業研究」を配し、学術的な研究を先生の的確な指導と、大学院生のサポートのもとに行います。英語の論文も積極的に読ませるようにし、未知の分野を研究することで、これまで学んだ専門知識や技術を遺憾なく発揮し、自力で問題を解決する訓練を行います。これによって、多くの困難を自分の力で解決できる専門職業人としての力を身につけることができます。

【その他の特色】

応用生命化学科では、実学教育にも力を注ぐ観点から、2006年に学科独自で酒造免許を取得しました。これにより、２年次以降の学生実験では清酒やワイン、ビールの試醸実験、食用きのこ類の栽培実験、乳酸発酵によるヨーグルト、納豆菌による納豆の試作などを取り入れ、ものづくりの楽しさと、生物・微生物の行う発酵や形態形成の機能とその化学的なメカニズムの解明を行っています。

【食品栄養学科の学習・教育目標】

食品栄養学科では、「人間の基本要素である食、栄養、健康に関する多様な問題に取り組み、人々の生活を豊かにできる人材を育成する」ことを教育目標としています。

超高齢社会に入り、生活習慣病が大きな社会問題となっております。生活習慣病を予防して、健康寿命を延ばすための施策がとられていますが、この計画で指導的な活躍が期待されているのが管理栄養士です。そのためには、より高度な専門知識と技術を習得した資質の高い管理栄養士の養成が求められています。食品栄養学科では、医学・薬学部を併設する数少ない管理栄養士養成施設として、特色ある実践教育を展開しています。医療、保健、教育、福祉などの現場で独自に高度な対人栄養指導ができ、病院などでは医師をはじめ専門スタッフと共に医療チームを構成して栄養管理が出来る管理栄養士を養成することを目標としています。

【食品栄養学科のカリキュラム編成上の特色】

カリキュラムは基礎から専門へと積み上げ方式で編成されています。本学科のカリキュラムと教育の特色を下記に示します。

１　臨床系を強化したカリキュラム
　人体の基礎を理解する解剖学、生理学、栄養学等の基礎科目、現場での臨床・カウンセリング系科目及び医学部・病院での実習科目を多く取り入れたカリキュラムを設定。

２　総合大学のメリットを最大限に活かした教育支援体制
　医学部・病院、薬学部、経営学部等との連携で医学・医療・健康面の基礎から実践的な教育を実施。

３　医学部・病院での充実した実習
　解剖学実習（２年次）は近畿大学医学部の施設で、また実践的に学ぶ臨床栄養学実習Ⅱ（３年次）では一日病院体験を導入、臨地実習Ⅱ・Ⅲ（４年次）においては本学が擁する病院で実習を行っています。

４　研究能力・情報収集能力育成の強化

資格取得だけでなく、研究やプレゼンテーションの能力も合わせもった管理栄養士を養成するため卒業研究や演習を設定、特に自主的に学び、問題解決能力を高めるための演習を充実。

5　国家試験対策講座

管理栄養士になるためには「管理栄養士国家試験」に合格しなければなりません。卒業生全員の国家試験合格を目指して３年次から模擬試験を実施し、４年次には特別講義で国家試験対策と実力の強化をはかるとともに、個別指導も行なっています。

6　少人数教育

本学科の学生は目的意識が明確であり、その上に実験・実習は１クラスおおむね40人単位で行なっているので、学生は極めて緊張感のある状況下で受講できます。

【その他の特色】

1　職域に対応した多様な資格取得が出来るカリキュラムを準備しています。
（例）栄養教諭、健康運動実践指導者、食品衛生管理者、食品衛生監視員

2　より高度な管理栄養士を目指すものは、本学農学部や他大学の大学院に進学しております。博士課程は医学部大学院に連動させて、医学博士の学位をもった管理栄養士を育成します。

3　学外実習では社会人としての振る舞いが要求されます。礼儀・作法は管理栄養士養成にとって大切な教育の１つであります。日常生活における基本的な礼儀作法と正しい言葉使いを徹底させることにも注意を払っています。その大切さを認識させるために各職域の現場の管理栄養士の生の声を聞かせる講演会も実施しています。

4　管理栄養士は、対人栄養指導を行ないます。そのためには、相手を思いやるこころ、自身の品格を高めることも大切です。調理学実習の一環として、西洋料理（２年次）、日本料理（４年次）の本格的な食事の作法をホテル、レストラン、料亭の専門家から学ぶことも行なっています。

【環境管理学科の学習・教育目標】

環境管理学科では、「グローバルな視点から、人間と生態系の共生を目指した、環境マネージメント能力を有する人材を育成する」ことを教育目標としています。

環境をめぐる問題は分野や地域を超えた総合的な問題であり、その軽減・克服のためには、従来にも増して総合的な視野を持つ専門家の育成が求められています。このような時代の要請に応え、人類社会の持続的な発展に貢献するために、この環境管理学科が発足しました。未来社会を創造する上で、あらゆる社会経済活動と自然環境との調和が不可欠です。本学科ではこの視点に立脚して、生物を指標とした環境や生態系の評価、その評価に基づく環境の保全と修復、資源の持続的な利用及びこれらを具体化するための政策立案にいたるまでの環境管理にかかわる一連の流れについて教育及び研究を行います。

環境管理学科の教育の特色は、環境管理に関する一連の知識を養うために、生態学を共通の基礎学問としつつ多様な専門分野の授業を行うとともに、問題解決のための手法を広く学ぶことができるように工夫している点にあります。１、２年次には、環境問題について広く学ぶとともに、生態系評価のため、動植物の調査方法について遺伝子レベルから景観レベルまで学びます。動植物をとりまく環境については、水圏や土壌圏における様々な物理条件の測定方法や化学分析手法について学びます。また、環境経済や環境関連の法律についても学ぶことができます。これらを組み合わせることで、環境の保全、修復、持続的な資源利用について提言できる人材の養成を目指します。理論だけでなく実践を重視しているため、１年次から４年次までを通した実験・実習では、キャンパス里山から沿岸環境までの多様なフィールド調査を行います。さらにワークショップなどによる社会調査演習を充実させているのも特徴です。知識の集積と野外での実体験の双方から、環境に関する情報収集力、ＧＩＳや統計ソフトを用いた解析技術、政策実践力の習得が可能です。環境問題は国際的な問題であるため、一部の講義、演習で導入する英語による授業や海外調査・研修、短期留学制度を活用して英語力を身につける機会も設けています。

このように、確かな知識と技術力を身に付けることによって、環境問題にかかわる技術者、研究者、政策担当者、企業人、ＮＰＯ等の関係者として国際的に活躍できる広い視野を持った人材を養成することを目標としています。

【環境管理学科のカリキュラム編成上の特色】

環境管理学科の専門科目は、１年次から４年次まで全学年にわたって配置されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に検討された一貫教育を受けることができます。環境管理学科では、実験

室における環境測定・評価技術や統計処理法の習得と、フィールドにおける観察や実習の双方を重視していることが特色です。なぜならば、環境問題は多岐にわたるレベルを包括しており、また一つの側面からだけでは解決できない問題だからです。

１年次では生態学や環境管理に関わる専門科目について広く学ぶとともに、後期には環境管理学基礎実験・実習Ｉが行われ、近畿大学奈良キャンパスの里山を中心としたフィールドで環境測定技術の基礎を習得し、身近な生態系の仕組みや生物多様性の理解に努めています。

２年次では、水環境学、植物生態学、環境微生物学、環境ビジネス学など、幅広い専門科目の選択肢の中から自分の興味に応じて講義を選択することができます。講義に加え環境管理学基礎実験・実習Ⅱを通して、さらに専門的な環境測定技術の習得に努めます。

３年次からは、里山生態学、水圏生態学、保全生態学、環境化学、森林資源学、国際開発・環境学、環境政策学の７研究室のいずれかに配属され、専門科目を学びながら研究室のゼミで卒業研究に向けた準備を開始します。また、研究を進めるために必要な英語力を培うため専門英語の授業も開始され、英語論文の読解や英語での発表などが行われます。

４年次では、学生生活４年間の集大成である卒業研究を中心に取り組みます。大学内の里山を含め、国内外を問わず学生一人一人がテーマを持って卒業研究を進めます。学生によっては卒業前に学会発表を行います。

奈良キャンパスの里山には、各種絶滅危惧生物をはじめ、多様な生物が生息しています。環境管理学科では、この里山環境を最大限に活用して卒業研究や実習に取り組んでいるのも大きな特色です。棚田の修復や里山林の下刈り、間伐等の実習により里山と人間社会との関係を深く理解するだけでなく、こうした体験や技術は海外での調査、研究、指導にも役立つことが実証されつつあります。キャンパス内に豊かな里山が存在することは、特に環境管理学科の教育、研究において多大な効果を与えています。

【その他の特色】

国際的な環境問題、食料問題の実情を体験することを目的として、「海外調査・研修」を実施しています。また、さまざまな環境問題の特性に対応できるよう、複数の教員による「環境管理学概論」や現場での実務経験者による「自然保護論」を開講し、社会的な関心の強い問題や時代の先端を切り開くような先進的な取り組みを学びます。

【生物機能科学科の学習・教育研究目標】

生物機能科学科では、「未来を拓く最先端バイオ技術で、世界の食料、環境、アグリバイオ分野をリードする人材を育成する」ことを教育目標としています。

近年のバイオテクノロジーの進歩はとどまるところを知らず、日進月歩の勢いで新しい知見が生み出されています。その上、新しい技術や方法論が開発され、ＩＴやナノテクなどを始めとする工学的な技術革新も近年のバイオテクノロジーに大きな影響を及ぼしています。本学部生物機能科学科は、このようなバイオの世界の多次元の変化に対応しながら、国際的な競争力をもつ、最先端バイオサイエンス教育、研究を行う学科として設置されています。本学科では、生物科学の諸問題あるいは食糧・環境・生命といった問題を、幅広い視野に立って理解でき、独創的なフロンティア精神とリサーチマインドを兼ね備えた学生を養成します。また、最先端バイオサイエンスの基礎から農学への応用・実用化までを取り入れた一貫教育・研究システムにより、21世紀の日本バイオ産業を興隆し、実践的なバイオテクノロジー技術を習得した技術、研究者を養成します。新しい知見や技術をなるべく早い段階で導入していくために、他の先端技術研究機関との連携を強め、常に外に向かったオープンな特色をもつ学科として教育研究を行っています。さらに、自然科学的知識だけではなく、アグリバイオ技術の実用化に必要な社会的知識、バイオビジネスなどに関する教育、また英語能力の向上のための教育を強化し、地域産業のみならず世界に通用する人材の育成を目指します。

【生物機能科学科のカリキュラム編成上の特色】

１年次では、生物学基礎、化学基礎、物理学など、それぞれの学問分野を全体的に概観する科目を履修し、入学以前に該当科目を学んだ経験のない学生が、それ以降の専門科目を支障なく学習できるように準備します。基礎知識の修得は、細胞生物学、分子生物学、動物発生学、生物化学Ｉ、植物生理学基礎、有機化学Ｉなどの専門基礎科目から始まっていきます。これらの科目は、２年次以降に配されている展開科目を履修する上で欠かすことのできない基礎知識を提供するものとなっています。１年次に組み込まれている物理学実験及び生物有機化学実験の二つの実験科目も、これらの基礎知識

を補足するものとして重要な科目です。さらに、少人数でのゼミ形式での授業（基礎ゼミ）を実施し、双方向的な討議を通して、口頭発表や質疑応答の方法について習得します。

２年次からは本格的な専門的基礎知識の習得に力を注ぐことになります。まず、総合的な専門基礎知識を得ることを目的として、生物化学Ⅱ、有機化学Ⅱ、生体物理化学、分子遺伝学、動物発生学などの科目を修得します。実験科目としては、細胞工学実験及び遺伝子工学実験を通して基礎知識を深めていきます。さらに２年次後半からは、いよいよ専門知識の中にも応用的な側面がかなり含められるようになります。本学科は生命科学に関する最先端の知識や技術を学び、「医療」、「創薬」、「食糧」、「エネルギー」などの分野から構成されており、それぞれの分野で特異的ないくつかの講義科目を準備しています。これらの科目は３年次後半に至るまで順次開講されていくことになります。各分野の研究に必要な実験技術は、バイオサイエンス専門実験Ｉで２年次後半に学ぶことになります。

３年次には、バイオビジネス論、バイオビジネス実習、アグリバイオ実習の特徴的な科目が配されています。これらの科目は、生産業としてのバイオサイエンスを講義として、さらには野外にて学ぶことを旨としています。自然科学的知識だけでは、バイオサイエンス技術の実用化は不可能であり、それにふさわしい社会的知識をも修得させ、総合的な知識をもつバイオサイエンス技術者の養成に取り組みます。また、３年次からは上で述べた四つの分野の各研究室に正式に配属されることになり、バイオサイエンス専門実験Ⅱ及びⅢ（それぞれ１単位ずつ）を通して、各研究室ごとに専門的な技術を学んでいくことになります。各研究室への配属後は、専門英語Ｉ、Ⅱ（３年次）や専門演習Ｉ、Ⅱ（４年次）を通して、バイオサイエンス関連英語の理解力の向上が図られ、研究論文の読み方、書き方、さらにはプレゼンテーション能力の向上をも目指します。

４年次においては、各研究室に配属された学生に対して、卒業研究のテーマが割り当てられ、各学生が当該研究室の教員の指導の下に研究を遂行していくことになります。

【その他の特色】

３年次以降、特別講義を開講し、学内外の先端技術研究機関より講師を招聘し、最先端の研究成果や方法を学ぶ機会とします。また、本学科カリキュラムの中には、バイオサイエンス研究に必要なコンピュータ技術を学ぶ実習（バイオインフォマティクス演習）が組み込まれており、バイオサイエンス関連の実用英語やＩＴ関連技術も学べるように工夫しています。さらに、細胞（動物、植物、微生物）や哺乳類の受精卵の培養技術を習得させ、先端的バイオ関連機器を習熟させ、高度な研究の機会を学生に提供します。

【医学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学の建学の精神と教育の目的に沿って、医学部の教育研究の理念・目的を「人間性豊かで知識、技能に優れた医師を育成します。さらに研究や診療を通じ、医学の進歩に貢献し、豊かで健康な社会の創生に寄与する」としています。

医師は直接人命を預かる職業ゆえに、高度な専門知識や技術とともに、高い人間性と道徳的責任感が要求されます。診療には高度の医学的知識と医療技術の修得が要求されますが、高度に進歩し、情報量の極めて多くなった知識・技能は必要最低限を把握するだけでも至難であり、しかも現時点での最新・最高の知識でも時間の経過とともに時代遅れになるのは必至であります。ここに医師を目指す者が基礎的な知識・技能の習得と同時に、自ら問題を解決する能力の養成が求められる理由があります。

【医学部の学習・教育目標】

上記医学部の理念・目的と現代社会の多様な期待に応えうるため、本学部の学習・教育目標として医師の養成、高度先進医療を提供する特定機能病院としての機能の維持、健康な社会の創生に寄与する医学研究者の育成を掲げています。

具体的な学習・教育目標を次に列挙します。

１　近畿大学医学部の社会的評価の向上。

（１）　社会が求め、学生が満足する教育を施行することにより、医師としての高い評価を得る卒業生を可及的多数送り出す。

（２）　基礎系教授懇談会や教授会の議論を多くして、また少人数制の責任指導教員の活動を通して、良き医師になるための全人的教育の機会を増やす。

（３）　小人数の学生を担当する指導教員制度を通じ学生の生活習慣を良好にし、自学自習の意識を高め、良き臨床医として社会で貢献出来る学生を輩出する。

（４） 本学卒業生のみならず他大学卒業生も可及的多く、本学部・病院の大学院生や研修医を希望するような教育・診療・研究実績を作る。

２ 臨床実習の教育を充実させ、地域中核病院として、医療を社会に還元するため、高度先進医療を実施する。

３ 教育・診療を十分に行いながら、ＣＯＥクラスの研究を育てる環境を作る。

【医学科カリキュラムの編成上の特色】

医学部は、本学の建学の精神と教育の目的に沿って、しかも「21世紀にあるべき医学部像」を探求し、先取している点が本学部の長所です。すなわち学生が自ら問題点を探し出し、解決する能力を養成すべく、ｅａｒｌｙ ｅｘｐｏｓｕｒｅとして１年次では外来患者さんのエスコートなどを中心とした病院実習を行い、また２年次では看護師とともに病棟での病院実習を行って、良き医師になるための動機付けを行っています。また、医学情報の飛躍的な増加に対応すべく、学生が主体的に問題意識をもって学習するテュートリアルシステムを医学教育全般に導入しているところに本学部の教育カリキュラムの特徴があります。

また、全人的教育を目指して、生命倫理やコミュニケーション、医療安全などプロフェッショナリズム教育を複数年にまたがり実施するところも本学部のカリキュラムの長所です。地域医療教育として１年次には学外施設実習、５年次と６年次に和歌山県串本町で地域密着型地域医療教育（平成17年度文部科学省医療人ＧＰ採用）を実施しています。

具体的なカリキュラムは１年次の教養教育、準備教育を経て、２～６年次の医学専門教育に移行しますが、２～４年次では自律的に獲得する問題基盤型テュートリアルを中心として教育し、５～６年次で臨床の現場で患者さんの診療を基盤とした診療参加型臨床実習を行います。また、２～４年次に臨床実習入門のためのコースを設け、シミュレーションラボを活用しながらワークショップも取り入れ、臨床の場で役立つようカリキュラムを編成しています。その結果、

１ 医師に必要な基礎的な知識・技能の習得

２ 自ら問題を解決する積極的な学習態度の養成

３ 広い学問的視野の育成

４ 奉仕の心と協調精神の涵養

５ 豊かな人間性と高邁な倫理観・責任感の養育

という５大教育目標に到達出来るよう、６年間に開講されている多くの授業科目に分散しつつ、最終的に臨床実習を通して体系化出来るカリキュラムとなっています。

【生物理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

（１） 教育理念：

生物理工学部は、生物系と理工学系の伝統的な科学・技術に裏打ちされた学際的な先端学術分野に係わる未来志向の教育と研究を通じて、高度な専門能力、豊かな教養に基づく独創的な創造力、そして高い倫理観と自主独往の精神を兼ね備えた人格の陶冶を理念とし、地域及び国際社会との連携や人類社会の福祉と持続的発展に貢献できる人材の育成を目指します。

（２） 教育目的：

生物理工学部は、次に示す人材の育成を教育目的として、教育研究に邁進します。

１ 生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤に、人類の発展に貢献できる独創性と創造性を備えた人材

２ 最先端の学問研究を果敢に追及し、21世紀の課題の解決を志す人材

３ 社会や科学技術に対して高い倫理観を有する人材

４ 自然との共存・共生を目指した持続的可能な人類社会の発展に貢献できる人材

５ 実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材

【生物工学科の学習・教育目標】

生物工学科では、人間をとりまく有用な生物、とくに植物や微生物を対象として、それらが示すさまざまな生命現象を、分子・細胞から個体・集団のレベルにわたる幅広い視点から理解するための教育を行い、生物学的手法に工学的手法を取り入れた、最新のバイオテクノロジーに対応できる技術者と研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１ 特定の生物学的分野に関する深い知識はもちろん、情報処理やシステム制御などの工学的手法をもとりいれた分野横断的な視野をもつ人材を育成する。

２　人類にとっての最大課題である食糧増産、人間の医療や福祉への貢献、種々の環境問題に対する生物学的対処などの地球規模の重要な課題解決を志向する人材を育成する。
３　社会的観点から、生物工学的技術のあり方と価値を適切にとらえる能力を涵養する人材を育成する。
４　長期的かつグローバルな視野をもち、様々な状況に適応できる人材を育成する。
５　世界からの情報の収集および世界へ向けての発信などを遂行できる能力をもつ人材を育成する。
【生物工学科カリキュラム編成上の特色】
上記の目標達成にむけて、１年生ではまず生物に対する興味や関心を喚起するため、多様な分野における現状と展望を概括します。これに基づき、生物工学における共通した手法、基盤となる専門科目、さらに各種の実験や実習を、１～２年生より履修します。さらに専門性を深めるために、３年生から生物工学の幅広い分野をカバーする研究室へと分属し、専攻科目演習や４年生での卒業研究論文作成に臨みます。
本学科では、核酸・タンパク質等の生体物質の解析から生物生産技術開発・環境工学等にわたる、幅広い生命現象の分子的基礎およびその活用技術を学びます。このように、広い入り口から深い出口へと進むことのできるのが、本学科におけるカリキュラムの特色です。
【生物工学科の教育におけるその他の特色】
本学科を卒業した学生の約３割は、大学院へと進学し、専門的能力をさらに研鑽しています。主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀ＣＯＥプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。
その他の進路としては、食品、医薬品関連企業や、種苗会社、農業協同組合などの農業生産関連分野等があげられます。
【食品安全工学科の学習・教育目標】
食品安全工学科では、「食」を科学的・工学的知見に基づいた概念で捉えた教育を行います。「食」を安全で機能的に優れたものにするための知識と技術を身に付け、それらを食産業社会に還元できる実践的な技術者と研究者を育成のために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　生命科学を基盤とした基礎的な教育研究から、生命工学を基盤とした応用化・実用化およびイノベーションの創出までを視野に入れた実学的な知識を身に付けた人材を育成する。
２　食に関する情報を科学的に評価して、工学的に応用できる人材を育成する。
３　食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材を育成する。
４　食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材を育成する。
５　食品産業の企業倫理と生命倫理を正しく理解し、責任を持って行動できる人材を育成する。
【食品安全工学科のカリキュラム編成上の特色】
食品産業の研究者・技術者、食品衛生関連の指導者・コミュニケーター、国・地方の行政官など食の安全の分野の専門家を育成するコースは、欧米の大学には見られるものの、アジア諸国を含めて世界的にその専門家は不足しています。食品安全工学科では、食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材、および、食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材の育成を目的としています。分野が広範囲にわたるため、カリキュラムは基幹専門科目を食品機能工学、食生産環境、食品管理評価、応用生命工学の４ブロックに分け、それぞれ年次が進むに従い、基礎から応用へとなるよう科目を配置し、無理なく知識を広め、深めることができるようにしています。専門科目には、生物工学科や遺伝子工学科の開講科目を一部取り込み、生物資源利用や生命科学の知識や情報を得られるようにしています。また、食の安全の時代性をより深く考慮した講義科目に加え、食の工学研究に必要かつ基本的な実験手法を修得する実験科目、ならびに、世界的に通用する実践力を養うために英語教材を用いた演習科目を設けています。さらに、食品加工現場での衛生管理者として、食品産業界で注目されるＨＡＣＣＰ管理者の資格取得のためのカリキュラムも加え、学生の勉学意欲向上と実践者の育成を図ります。
【食品安全工学科の教育におけるその他の特色】
食品基礎、食生産環境、食品管理評価、食品機能工学および生命機能工学を中心とした各専門分野

をカバーする教育プログラムを充実させ、生産現場（食素材）から食卓（食品）に至る「食」の安全性と機能性を高めることを目的に、分子生物学、生化学、安全学などの科学科目と、保全工学、微生物工学および機能工学などの工学科目を基にした教育と研究を実施します。本学科は、近畿大学21世紀ＣＯＥプログラム研究拠点となった大学院生物理工学研究科の生命科学の基盤を踏襲し、世界に通用する「食」のテクノロジストの育成を実施することから、中央教育審議会で提言された高等教育の多様な機能のうち、世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を重点的に担う学科を目指します。

【遺伝子工学科の学習・教育目標】

遺伝子工学科は、遺伝子工学の技術を人類に役立てるために、分子生物学的手法を用いて遺伝子と生命の多面的・総合的な探求を行い、食物生産、医療、環境などの分野で貢献できる技術者や研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　遺伝子工学の科学的発展に寄与するため、生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤にした教養を身に付け、独創性と創造性を備えた人材を育成する。

２　生命を総合的に理解して、遺伝子工学の最先端研究に挑戦することで、21世紀の課題である食糧・医療・環境問題の解決を志す人材を育成する。

３　遺伝子工学の技術と利用において高い倫理観を有する人材を育成する。

４　遺伝子工学に基づく生命理解の深化から、自然との共存・共生を図った持続的可能な人類社会の発展に貢献する人材を育成する。

５　世界中で開発競争されている遺伝子工学の分野で、実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材を育成する。

【遺伝子工学科カリキュラム編成上の特色】

本学科には、分子遺伝学、発生遺伝子工学、分子発生工学、分子情報解析学、応用遺伝子工学の研究部門があり、分子・細胞・組織・個体各レベルで生命現象を総合的に理解するための講義を行います。さらに、遺伝子工学科は、多くの教育研究プログラムを通じて、柔軟な思考を兼ね備えた世界で活躍できる研究者・技術者の育成を行っています。

【遺伝子工学科の教育におけるその他の特色】

本学科では、３年生後期から各研究室に分属し、４年生より卒業研究が始まります。学生たちは、教員や大学院生の親身な指導を受けながら、最先端のテーマに取り組みます。卒業後は、民間企業への就職のみならず、多くの学生が大学院に進学し、研究者・技術者としての道を歩んでいます。なお、主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀ＣＯＥプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。

【生命情報工学科の学習・教育目標】

生命情報工学科では、通信・システム・情報科学を基盤にして、ミクロな生命情報からマクロな生体システムまで統合的に理解すること、生物の優れた構造や情報処理機能を通信・システム・情報科学分野に応用すること、さらにこの成果を「健康・医療」などの人間生活に直結する分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　生命の「仕組み」と生体としての「営み」を、通信・システム・情報科学を基盤にして統合的に解明し、これを工学分野に応用して、新たな科学技術を創成し得る人材を育成する。

２　通信・システム・情報科学を基盤に、生物から学んだ知見を取り入れて、将来生じるであろう未知の課題に対して積極的に対応し、解決ができる人材を育成する。

３　高度情報化及びポストゲノム時代に対応でき、技術力に裏付けられた高い倫理観を持った通信・システム・情報科学に関する技術者を育成する。

４　１の成果を利用し、「健康・医療」、「福祉」、「環境」、「安全」をキーワードとする分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成する。

５　国際的に目覚ましく発展する、生命科学及び通信・システム・情報科学の理解に必要な、読解力と論理的思考力を有する人材を育成する。

【生命情報工学科カリキュラム編成上の特色】

通信・システム・情報科学を基礎に数学・統計学、生体工学、感性工学、分子生物学、脳・神経生理学などを横断的に学び、これらを統合したシステム生命科学に到達すべく、教育課程を編成してい

ます。
　数学や物理が主体の専門基礎科目の上に通信・システム・情報科学に関する専門科目を積み上げ、さらに２年生から先端専門科目を用意し、個別指導体制の充実を図っています。実技を磨くための実験や実習・演習科目も多く、また、企業や他大学から招かれた講師による先端技術に関する特別な講義も用意されています。
　「生命」の全体像を統合して扱う知識と技術を幅広く学修するため、専門科目では「学科基礎科目」を中心に、以下の２つの科目群が設けられています。
○　生命情報科目群
　通信・システム・情報科学を基盤に、ＤＮＡ、ＲＮＡ、タンパク質などのミクロな生命情報を単に配列情報として扱うだけでなく、コンピュータシミュレーション技術を駆使して、そのダイナミクスをシステム論的に捉えるための知識と技術を学修します。
○　生体システム科目群
　視覚・聴覚などの五感や、脳波・心電・筋電などのマクロな生体情報から生体システムを理解するための知識と技術を、通信・システム・情報科学の観点から学修します。
【生命情報工学科の教育におけるその他の特色】
　本学科のカリキュラム編成はＩＴパスポート、基本情報技術者、バイオインフォマティクス技術者などの資格の取得にも結びつきます。また、通信・システム・情報科学を基礎に、生命情報科目群や生体システム科目群を体系的に学び、「生命」の全体像を統合して捉えるためのカリキュラム編成であるため、医療・バイオ情報系企業への就職はもちろんのこと、日本の基幹産業である情報・電子・電気系企業を中心とした技術職への就職も拓けています。大学院への進学の道も用意されており、より先端的な研究に取り組むこともできます。
【人間環境デザイン工学科の学習・教育目標】
　人間環境デザイン工学科では、人の身体寸法や形状、生理的な反応や変化、心理的な感情の変化、人の生活空間・生活環境を研究し、その結果を人と環境にやさしいモノづくりに活用するユニバーサルデザイン技術を修得する。人間生活の質（ＱＯＬ）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン分野で貢献する技術者や技術コーディネーターを育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　人間科学、医療・福祉工学、環境科学、力学に関係した分野横断的な教育研究を通じて、より豊かな人間生活を支援するための工学技術に貢献できる学際領域のマインドを有した人材を育成する。
２　科学的根拠に基づく設計規範に立脚したユニバーサルデザイン技術を追究して、21世紀の福祉・ユニバーサル社会の構築に寄与できる人材を育成する。
３　技術者倫理のみならず医療・福祉に対する高い倫理観を有する人材を育成する。
４　環境負荷の低減を前提とする生活関連プロダクトのユニバーサルデザインを通じて、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成する。
５　国際的な視野と教養を有するグローバルエンジニアとなり得る人材を育成する。
【人間環境デザイン工学科カリキュラム編成上の特色】
　少子高齢化社会を迎えた21世紀において、すべての人々が安心で自立した日常生活及び社会生活を送るため、人間生活の快適性や健康と結びつくプロダクトから医療・福祉に関連する生活支援プロダクトまで、人間生活の質（ＱＯＬ）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン能力養成を目的に、以下に示す４系列の科目群を分野横断的に学び、ユニバーサルデザインの心と技術を身につけます。
○　人間科学系
　人間医工学、感性や心理学、スポーツ科学といった人間科学の基礎学理を学び、生活関連プロダクトの使い心地を設計規範に取り込む技術を学びます。
○　機械科学系
　材料力学、熱力学、流れ学といった生活関連機器設計のための工学の基礎を学び、高機能プロダクトを設計する能力を養います。
○　住環境科学系
　生活環境における快適性や人間生活と自然環境との共生を学び、生活環境および地球環境に配慮した生活関連プロダクトの機能と構造をデザインする能力を養います。

○　ユニバーサルデザイン系
　人間工学や福祉機器デザインの技術を学び、人間・生活支援に関連したプロダクトをプランニング・開発する能力を養います。
【人間環境デザイン工学科の教育におけるその他の特徴】
　ユニバーサルデザイン技術の修得は、認定人間工学専門家、福祉情報技術コーディネーター、住環境コーディネーター、３次元ＣＡＤ利用技術者等の資格取得にも結びつくため、自動車、家電製品、住宅、スポーツ・健康器具、医療・福祉機器といった生活関連プロダクトの開発・設計技術者やプロダクトのユニバーサルデザインを企画する技術コーディネーターとして幅広い進路選択の可能性を有しています。工学系および医療・福祉工学系の大学院への進学も可能です。
【医用工学科の学習・教育目標】
　医用工学科では、電気電子工学、制御工学、機械工学の専門知識や技術ならびに医学に関する幅広い知識を習得することで、医療福祉分野における科学技術の発展に貢献する、創造性と研究能力を兼ね備え、豊かな教養と高い倫理観を持つ臨床工学技士や技術者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　工学の専門知識と医学の基礎知識を備え、医療機器の開発を担うことのできるメディカルエンジニアを育成する。
２　高度な技術と専門知識に裏打ちされ、チーム医療に不可欠なコミュニケーション能力を備えた生命維持管理装置の専門家を育成する。
３　豊かな学識と優れた人間性を備え､生命に対する高い倫理観が涵養された医療従事者を育成する。
４　医療機器の操作や保守管理にとどまらず、その動作原理を熟知し、深い工学的素養を身に付けた医療従事者として、高齢化社会における人間生活の質的向上に貢献できる人材を育成する。
５　科学的な思考力と自発的に問題を解決する能力とともに、国際的視野や感覚を身に付けた、グローバルに進化する医療技術に対応できる人材を育成する。
【医用工学科カリキュラム編成上の特色】
　工学と医学の融合領域における広い視野を身につけ、新しい医療技術の開発を可能にする科学的思考力を養う教育を行います。特に、臨床工学技士の資格取得に留まらない高度な専門知識を有する人材を育成するという観点から、専門基礎科目で学習した知識を、演習・実習を通してより深く理解することを目指します。また、４年次に実施する臨床実習は、医学部・病院などの学部外の医療機関において実施し、臨床現場で必要とされる実践的かつ総合的な知識や技術を修得します。一方、生命倫理に関する科目は全ての学生に必修とし、医療従事者に必要な倫理観を涵養します。
【医用工学科の教育におけるその他の特色】
　本学科では、卒業に必要な単位に加え、所定の科目を修得すると「臨床工学技士」の国家試験の受験資格を得ることができます。将来の国家試験を見据えて、３年次までに、医用生体工学の基礎知識を有することを認定する第２種ＭＥ技術者（日本生体医工学会認定資格）の資格取得を目指します。さらに４年次には、臨床工学特別演習で医療チームの一員として活躍する際に重要となる、様々な角度から問題を検討・解決できる能力を養成します。卒業後は、最先端医療機器の開発に貢献できる技術者として医療機関や医療機器メーカーなどで活躍します。また、大学院に進学し、修士号または博士号を取得することで、教育、研究機関にも就職することが可能になります。
【工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
　グローバル化が進み変革を余儀なくされている高度情報化社会にあって、技術者には、即戦力となる知性と技術に加え、良心と感性をもった付加価値の高い21世紀型の人材が求められています。
　工学部では、本学の建学の精神と教育理念を旨として、そのような時代の要請に応えるべく、次の３つの教育目標
１　高い人格と倫理観を持つ人材の養成（人間性）
２　技術者としての専門的能力の涵養（専門性）
３　国際化時代を生き抜く力の養成（国際性）
を掲げて、長期的な視野で社会や技術の変化に対応し、持続可能な社会を実現できる技術者・研究者の育成を目指します。
　そのために、工学部では、以下のカリキュラムを編成しています。
（１）　人間・文化・社会・自然・環境・健康等、多方面にわたる科目を配置して、人間尊重と公共

性の意識、国際的感覚、論理的思考力と課題設定・問題解決力、自己表現力とコミュニケーション力等をバランスよく育成し、幅広く調和のとれた豊かな教養と人間性を涵養します。

（２） 基礎教育・外国語科目：習熟度別英語クラス編成により基礎学力を徹底して身につけさせるとともに、系統的な科目配置とバランスのよい講義、演習、補習等の実施により、異文化への関心、実践的な語学力及び国際的視野を身につけさせ、国際性を育成します。

（３） 専門教育科目：分野及びレベルごとに階層化した専門基礎科目群と専門科目群、さらに分野間を繋ぐ科目群を系統的に配置し、幅広く応用可能な専門能力を身につけさせます。創成的内容を取り入れた演習・実験・実習と研究室での産学連携の共同研究等から、産業界に貢献できる実践的な専門性を育成します。

（４） 特修プログラム：「情報技術」、「教育学」、「教職課程」、「国際経営」の４つの特修プログラムを編成し、学際的な視野を育成します。

これらのカリキュラムを通して、卒業時には、ア　高い人格と倫理観とともに、専門分野の知識を基礎として、専門領域を超えて課題解決に取り組む姿勢、イ　技術者・研究者としての専門的能力を生かして、持続可能な社会を目指すための課題を発見・分析・解決する能力、ウ　表現力、論理的思考力、コミュニケーション力、さらには幅広い知識を活用して国際的視点に立って行動する能力、といった資質を身につけることができます。

【化学生命工学科の学習・教育目標】

化学生命工学科では､持続可能な社会の構築と健全で快適な生活の維持と促進に貢献できる技術者･研究者として必要な高い倫理観（人間性）、生命工学、環境化学、食品科学等の専門能力（専門性）及びこれらを活用して国際的問題を洞察する力（国際性）を育成します。豊かな人間性と国際性を備え、判断力や指導力を発揮し社会に貢献できる人材を育成します。そのために、

１　地球と人を思いやる豊かな感性と高い倫理観を養成します。
２　国際的に通じる、筋道を立てて表現できる能力を養成します。
３　問題を提起しそれを解決するために行動できる能力を養成します。
４　生命科学や化学の基礎知識を持ち専門知識を活用できる能力を養成します。
５　化学、生命工学、環境化学、食品科学の知識や技術を総合的に養成します。

化学と生命科学分野を融合した「ものづくり」の観点から、豊かで健全かつ快適な持続成長可能な社会構築を実現するために、（１） 機能性素材、副作用の少ない医薬品、機能性食品の開発、（２） 健康維持のための食の安全・安定供給の確保、（３） 限りある資源の有効な活用と再生可能な資源の利用、（４） 環境保全のための環境分析に関連した教育・研究に取り組みます。

【化学生命工学科カリキュラム編成上の特色】

化学生命工学科のカリキュラムは、化学、生命工学、環境化学、食品科学の知識や技術を総合的に身につけ、持続成長可能な社会を実現するための技術を修得できるように編成されています。１・２学年には総合科目、工学基礎及び化学と生命科学の基礎全般を学修するための専門基礎科目を、３学年には生物工学、環境化学、食品科学の専門知識や技術を養成するための専門科目を設けています。また、現在の社会で必要とされる技術者・研究者としての高い倫理観と国際性（教養・コミュニケーション能力）を４年間を通じて継続的に身につける科目を設けています。

化学生命工学科では、相互に深い関連を持つ以下の３つのコースを設置し、学習分野を明確にしています。

生物化学コース（ＪＡＢＥＥ認定コース　2006年度より継続）

化学、生命科学及びその複合領域の専門科目を縦断的に学び、その知識を複合的に応用し問題を解決する能力を身につけます。

環境化学コース

自由度の高い科目選択の特長を活かし、生物工学、化学、環境化学、食品科学等の専門分野を修得し、専門的な分野の基礎的知識と応用力を身につけます。

食品科学コース

食品成分の構造や性質について学び、食品の製造、衛生、機能に関する知識と応用力を身につけます。

【機械工学科の学習・教育目標】

機械工学科では、機械工学の基礎知識を足場にした「ものづくり」のできる能力、国際化時代を生

き抜く行動力と倫理観を持つ機械技術者を育成することを目指しています。そのため、まず、人文社会や自然科学からなる基礎教育プログラムを学修することにより、社会に貢献できる幅広い視野と倫理観を身につけることを目標にしています。また、外国語科目や専門科目を学修することにより、国際化時代を生き抜く能力を養成します。そして、機械技術者として国際的に活躍するために必要な機械工学の基礎知識と設計や生産に関する専門教育プログラムを学修することにより、機械工学の基礎に立脚した「ものづくり」のできる能力を修得していきます。特に、設計製図に重点を置き、「ものづくり」の基礎となる実学を通して、設計に関する論理的な考え方や「ものづくり」において重要な材料とその加工技術に関する深い知識と力学的思考に基づく応用力を身につけることを目指しています。これらを通して、問題を発見して、それらを解決する能力と、設計能力を備えた国際性豊かな機械技術者の育成を目標としています。

【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】

機械と人間の共存することに立脚した機械の設計に対する考え方が重要になってきます。さらに、環境にやさしいエネルギーによって機械を稼動させることなど、これからの機械技術者にはインフラの整備も含めた多くの課題が提示されます。このような現状を考慮し、機械工学の基礎学問と設計に関する専門知識を広く学び、かつ、設計製図に重点をおいて能力を養成していきます。また、「ものづくり」の基本となる実験や実習を通して設計に関する思想や技術が身につけられるように、カリキュラムは構成されています。さらに、機械とエネルギーの関連性を考慮した深い知識と考察力や応用力を身につけることができ、幅広く国際的な工学知識と倫理観をもつ専門職業人へと育成できるように、カリキュラムは構成されています。

１　実学重視：設計製図、工学実験、工作実習などにより、座学による学習を実体験することで教育効果の向上を図ります。また、座学による講義においても演習を導入することにより、より深い理解と、問題の解決及び解決能力の向上を図ります。

２　創成科目の導入：既成の実験テキストには頼らず、自由な発想に基づき、課題に対して実験の企画、実験道具の調達と実験の遂行、データ処理、レポート作成までを、各人が資料調査をしながら達成していく実験等の創成型科目により、自由な科学的発想と目的実現手段を培い、問題発見・解決能力や表現力を養成します。

３　設計製図の一貫教育：単純な機械をテーマとしながらも、製図、機械要素及び機械設計の一貫した「ものづくり」教育を行います。

【ロボティクス学科の学習・教育目標】

ロボティクス学科では、「Ｉ　ｃａｎ　ｄｏ　ｉｔ．」をキーワードに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学など、幅広い工学知識と技術を系統的に学習できる教育プランの下で、ロボットを作り出すために必要な基礎知識と技術を修得します。これにより、様々な機能を持つロボットの開発において直面する問題を自ら解決する能力を育成するとともに、新しい機能や高度な知能化技術などを備えた新時代のロボットを開発することができる創造性豊かなメカトロニクス技術者を育成することを目指します。

この教育理念のもと、以下の５つの項目を具体的な学習・教育目標としています。

１　技術者としての社会倫理観の養成

２　工学の基礎知識の修得

３　工学の基礎知識と技術を駆使して創造性豊かなデザイン能力の養成

４　課題発見・解決能力の養成

５　論理的思考に基づくプレゼンテーション能力、及び外国語による基礎的なコミュニケーション能力の養成

【ロボティクス学科のカリキュラム編成上の特色】

ロボティクス学科では、学生が自らロボットを作る力を身につけることを目指し、学生の自主性、創造性、問題発見・解決能力を養うとともに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学などロボット開発に必要な専門知識を定着させるために、実験・実習中心の体系化されたカリキュラムの下で、学年進行に伴う知識の積上げと専門科目間の関連性を考慮した教育を行っています。１年次にはロボットの基本構造を学びながら座学と並行して行われる豊富な実験・演習科目を通して、ロボットを製作し動作させるための基礎知識と技術を修得します。２年次にはメカトロニクスに関する要素技術を学び、さらに３年次にはその応用技術に関する専門知識を修得します。４年次には、それまでに

学んだ基礎知識を用いてロボット関連の研究と開発を行うことによって問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養います。また本学科では、幅広い専門知識を身につけられるように、「ロボット設計コース」と「ロボット制御コース」を設けています。各コースは以下のような特色があります。

「ロボット設計コース」では、設計工学、加工学、機構学、アクチュエータ工学など、ロボットを作り出すために必要な知識と技術を重点的に修得させ、独創的なロボットを設計・開発できる人材を養成することを目指します。

「ロボット制御コース」では、情報工学、制御工学、電気電子工学、計測工学など、ロボットシステムを統合するために必要な知識と技術を重点的に修得させ、ロボットの知能化を実現できる人材を養成することを目指します。

【電子情報工学科の学習・教育目標】

21世紀の高度情報通信社会を支える人材育成の要請に応えるべく、電気・電子工学、情報・通信工学の各分野において幅広く活躍できる技術者の育成を目指しています。

このような教育理念のもと、電子情報工学科では、ソフトウェアからハードウェアまで、コンピュータ関連の技術を幅広く修得させることを教育の目的とし、プログラミング技術と電子回路設計能力、ネットワーク設計技術を有する技術者を育成することを学習・教育到達目標としています。

最先端のコンピュータ技術に関するハードウェアを研究するのが電気・電子工学で、ソフトウェアを研究するのが情報・通信工学です。この二つの分野をバランスよく学び、両方の分野に強い技術者になっていただくために、上のような学習・教育到達目標を本学科では掲げました。近い将来、現在の情報ネットワークが進化し、私たちの生活の隅々にまでコンピュータが浸透する「ユビキタス時代」になると、電子情報技術者が社会を支える重要な役割を担い、地域社会から国際社会まで幅広く活躍することが期待されます。

したがって、このような技術者には電子情報工学に関する知識や技術はもちろんのこと、幅広い教養や倫理観を持ち社会に対する責任を自覚したり、いろいろな問題を考察し、その結果を明解に表現し、また、自ら問題を発見してそれを解決したりする力が必要です。本学科では、このような豊かな人間性や問題解決能力・コミュニケーション能力なども身につけます。

電子情報工学科の各コースの特色は次の通りです。

「電気電子コース」では、情報技術やその関連技術の急速な発達に柔軟に適応し、国際的に活躍できるシステム・エンジニアを育てます。そのため、コンピュータの基礎知識はもちろん、ハードウェアの基礎から応用まで幅広い分野にわたるカリキュラムを構成しています。エネルギー変換工学や集積回路、光エレクトロニクスなどの電気・電子工学分野の専門から、ＩＴ時代に必要な関連知識まで広く身につけます。

「情報通信コース」では、コンピュータの基礎知識からソフトウェア開発、さらにネットワークやデータベースまでＩＴ技術について幅広く学びます。ＩＴの基礎や応用のみならず、技術開発に必要なハードウェア、画像処理技術など関連した高度な情報技術まで習得します。実験や実習による経験を重ねて、応用力をもった即戦力のエンジニアを育てます。

【電子情報工学科のカリキュラム編成上の特色】

電子情報工学科のカリキュラムには次の３つの特色があります。

１　実践力をつけるための実験・実習科目の重視：

プログラミング演習や電気・電子回路に関する実験など、多くの実験・実習科目を１年生から受講でき、実践力が早くから身に付けられます。また、実習と講義との結びつきを強くしているのも本カリキュラムの特徴であり、知識が生きたものとして身につきます。

２　電気・電子工学と情報・通信工学の科目のバランスよい配置：

コンピュータ・ハードウェアの中心となる様々な電子機器の仕組みや、それを作り、動かすための技術、その物理的な原理等を学ぶ電気・電子工学分野と、ソフトウェア技術の中心となる種々のプログラミング手法や、ネットワークシステムを設計し運用する方法等を学ぶ情報・通信工学分野の科目をバランスよく配置してあるので、常に広い視野を保ちながら、両方の分野の力がつきます。

３　専門性を磨き、個性を伸ばす柔軟なコース制システム：

２年生から電気電子コースと情報通信コースに分かれます。これにより、電気電子・情報通信の二つの分野をバランスよく勉強しつつ、「集積回路について深く学びたい」や「大規模ソフトウェアの具体的な設計法を知りたい」といった興味や希望に応じて、一人ひとりの個性を伸ばし、独自

の専門性を磨いていくことができます。

【情報学科の学習・教育目標】

製造業・流通業・サービス産業等の産業界の様々な分野における経営戦略の実現を支援する情報システムを企画・設計できる能力を有する技術者を育成します。現代社会では、情報システムを戦略的に活用し経営戦略をスピーディに実行する事が、企業が他社との競争において優位に立つ必須条件です。

先端的な情報メディア技術を活用して安全・快適な社会の創造を支援するマルチメディアシステムを提案・開発できる能力を有する技術者を育成します。様々な分野で情報メディアを有効に活用し、情報共有・情報伝達のスピードアップが求められています。

したがって、上記技術者の育成を目標に、情報システム構築の基礎となるコンピュータ技術やモデル化技術、情報システムの企画・設計・開発技術や情報メディア技術について学習します。

【情報学科のカリキュラム編成上の特色】

アルゴリズムなど情報システムの基礎から、ネットワークを活用する方法、マルチメディア社会にふさわしい情報の表現手段、さまざまな領域にまたがる応用システムの構築法に至るまで、広く情報システムに関する基礎理論・知識・技術を修得し、問題解決能力を身につけることで、情報システムデザイナ･システムエンジニアとして活躍できる能力を育成するためのカリキュラムを組んでいます。

産業界の第一線で活躍しているシステムインテグレータや情報技術者による特別講演形式の講義を行なうことによって、現場で役立つ技術とは何か、10年後、20年後のあるべき自分を実感できるようなカリキュラムを取り入れています。

教育支援システム（ＫＳＳ）という学科独自で設けたコンピュータルームを特別に用意し、学生が自分から学習・研究を深めていける設備を使用したカリキュラムを多数組み入れています。また、企業情報システム演習室１及び２では、企業情報システムの構築を実践できる環境を整えています。さらに、オープンメディアラボ及びマルチメディア実習室では、新しい情報インタフェースを作り出すための３次元ＣＧ開発法等を体験的に学習できるようにしています。

カリキュラムの体系として、工学基礎、総合、情報処理、情報システム、情報メディアと大きく区分けしており、各区分の中に個々の専門科目を配置して、系統的に学習できるよう編成しています。平成24年度より、ＪＡＢＥＥ認定プログラム（ＩＳ（情報システム）分野）となりました。

【建築学科の学習・教育目標】

本学科の学習・教育到達目標は、持続可能な社会を実現する未来志向の建築を設計・生産できる建築家や建築技術者像「１　豊かな人間性と総合的なデザイン力を持ち、地域社会や地域環境に貢献できる建築専門家　２　国内外における建築技術の伝統を引継ぎ､発展させる､実践的な建築専門家　３　人間と環境の時代に向けて、確かなデザイン力とチャレンジ精神のある建築専門家」に基づいて以下のように定めています。

１　豊かな人間性と総合力のある技術者として（Ａ）～（Ｄ）の能力を身につける
　（Ａ）　環境問題を理解し意匠設計ができる（意匠設計力）
　（Ｂ）　建築計画を理解し図面作成ができる（図面作成力）
　（Ｃ）　構造設計を理解し構造計画ができる（構造計画力）
　（Ｄ）　構造力学を理解し構造解析ができる（構造解析力）
２　実践力のある技術者として（Ｅ）～（Ｇ）の能力を身につける
　（Ｅ）　建築倫理がわかる（建築倫理理解力）
　（Ｆ）　生産管理がわかる（生産管理理解力）
　（Ｇ）　環境設備がわかる（環境設備理解力）
３　チャレンジ精神のある技術者として（Ｈ）、（Ｉ）の能力を身につける
　（Ｈ）　チームで課題解決ができる（課題解決力）
　（Ｉ）　新しいことに挑戦できる（チャレンジ力）

これらの学習・教育到達目標は社会の要求や学生の要望に応えられる水準を確保しています。

【建築学科のカリキュラム編成上の特色】

本学科では、以上のような技術者を育成するために、以下の３つの教育方針を掲げています。

１　豊かな人間性と総合力のある技術者を育成するために、設計教育と力学教育を両輪とする建築教育を実施する。

２　実践力のある技術者を育成するために、実学志向教育を体系的に実践する。
３　チャレンジ精神のある技術者を育成するために、体験的・挑戦的教育を実現する。
以上の教育方針にしたがって、建築専門家（一級建築士）として必要となる設計・計画、環境・設備、構造、生産の総合的な基礎知識を確実に身につけることができるカリキュラムを編成しています。また、基礎力を確実に身につけさせる方法として以下のような取組みを行っています。
１　初年次の構造力学科目については少人数クラスによる徹底教育を行い、基礎的な学力を確保しています。
２　講義後直ちに演習を行う［講義＋演習］科目を多用し、知識だけでなく実際に計算ができる能力を育成しています。
３　実物の住宅を計測し図面化する授業や、与条件のもとに設計し作成した構造模型の強度を競う創成型授業、建築実験（構造・材料・環境）など、体験的学修を重視する科目を多数配置しています。
４　総合的なデザイン能力とチャレンジ精神、実学志向にもとづく実践力を育むため、複数の建築家が直接指導する設計演習科目や国際交流を目的とした集中演習科目を配置しています。
【その他の特色】
工学部では、各学科の教育目標に沿ったカリキュラムによる学習とは別に、多様な将来構想に役立つよう、どの学科に在籍しているかとは無関係に履修することができる、特修プログラムと呼ばれるもう一つの専門科目群を設けています。
特修プログラムには、情報化時代に必須の技術を実践的に学び取ることを目的とした「情報技術特修プログラム」、教育のあり方や指導の仕方を学ぶ「教育学特修プログラム」と「教職課程特修プログラム」、英語力の向上と豊かな国際感覚を養い、ものづくりの提供側と顧客側の価値共創の視点を育成するための「国際経営特修プログラム」の４つがあります。これらを学修することによって、技術者としての素養をさらに幅広く身につけることができます。
【産業理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
近畿大学学園の建学の精神に基づいた産業理工学部は、従来の大学における文科と理科に区別された教育に対する反省から人間主義の工学　“（Ｈｕｍａｎｉｔｙ－Ｏｒｉｅｎｔｅｄ　Ｓｃｉｅｎｃｅ　ａｎｄ　Ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ）”の実践を目指し、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成することを教育理念としています。このため、本学建学の精神である実学教育のもと、技術に偏重せず21世紀が求める文理シナジー的発想とコミュニケーション力を持ったフロンティア人材を育成することを目的にしています。
実社会で活躍できる人材となるためには、専門知識ばかりではなく、社会人としての基礎能力もしっかりと身につけておくことも大切です。そのために産業理工学部では人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ・表現活動科目群という四つの科目群と外国語科目群を開講しています。四つの科目群では幅広い教養科目の他に社会奉仕実習やインターンシップといった体験型の授業があります。外国語科目群では英語、中国語、フランス語、スペイン語などのスキルアップのために習熟度別にクラス分けを行い、実践的な教育を行っています。
産業理工学部は、21世紀にふさわしい新たな学びの場として人間力を高めるためのきめ細かな教育を提供し、本当に楽しく、充実した学生生活になるような体制を整えています。
【生物環境化学科の学習・教育目標】
人類と地球環境をより良い未来へ導いていくためには、自然現象を分子レベルで理解し、問題解決していく能力が強く求められます。生物環境化学科では社会の幅広い分野で活躍できるプロの技術者を育てるため、「生物」、「環境」、「化学」をバランスよく学べるカリキュラムを用意し、講義科目だけでなく実験科目と演習科目を充実させています。生物環境化学科には次の３コースがあります。
バイオサイエンスコース：バイオテクノロジーを専門に学びます。遺伝情報の流れや、それをもとにした遺伝子医薬などの応用まで幅広く学びます。微生物を用いた実験やタンパク質を用いたバイオセンサーの実験など、種々のバイオテクノロジー全般の技能を修得します。
食品生物資源コース：食の安全と品質を守り、食料その他生物資源の有効利用に携わるエキスパートを育てる教育に力を入れます。バイオテクノロジーを基盤に、新しい食品機能の発見と健康への利用、微生物の産業利用、食品と栄養の科学について学びます。また、排水浄化と有害物質の分解、バイオマスの資源化など生物を利用した自然環境の保全修復技術も身につけます。
エネルギー・環境コース：環境にやさしい化学の観点から、地球温暖化対策、新エネルギーの研究

開発、人と環境に優しい材料の開発、リサイクル技術、環境計測、環境教育を身につけます。また、導電性や磁性を持った先端材料の開発、選択的高性能化学センサーの開発、微量で特殊な化合物の検出ツールなど、21世紀を支える先端技術も身につけます。

【生物環境化学科のカリキュラム編成上の特色】

１　21世紀の最重要課題「バイオ」、「環境」、「材料」の分野で、実社会の問題を解決し新たな技術やアイデアを生み出すことのできる人材の育成を目指したバランスのとれたカリキュラムを用意しています。

２　１、２年次ではおもに生物学・有機化学・無機化学を中心とするコア科目を配し、３年次以降の展開科目で幅広い専門知識を学びます。４年次では卒業研究を中心とした本格的な研究者・技術者養成のための教育を行います。

３　１年次よりすべての学期で実験科目が開講され、充実した研究設備のもと実践的な教育を行います。

【その他の特色】

１　産学官連携による企業や公的機関との共同研究を積極的に推進しており、研究業務の実際や大学での勉強がどう生かされているのかを実感しながら勉強できます。

２　国家資格である「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の養成施設として当学科は認定されているほか、専門性を生かした公害防止管理者などの資格取得をサポートしています。

３　地域社会との交流による環境ボランティアや理科教育支援を積極的に行います。

４　近畿大学はもちろん、国公立大学の大学院への進学率も高く、そのためのきめ細かな指導も行います。

【電気電子工学科の学習・教育目標】

電気電子・情報通信技術は、身近な携帯電話からインターネット・自動車・航空機・ロボットなどありとあらゆるところで利用され、広く産業社会活動の基盤技術となっています。電気電子工学科では、いつまでも最前線で輝ける技術者として活躍できるよう、電気工学の基礎に始まり、応用エレクトロニクス、情報通信、クリーンエネルギーにまで広がる個別技術をハードとソフトの両面から理解し、自然や地球環境と調和した基盤技術が開拓できる技術者を育てます。電気電子工学科には次の３コースがあります。

応用エレクトロニクスコース：専門基礎技術を理解し、独力で知識を吸収しながら時代をリードできる、より高いレベルの「自立した技術者」を目指して、アナログ技術とディジタル技術、ハードウェア技術とソフトウェア技術、さらにこれらの組み合わせ技術に精通し、とくにコンピュータによって制御されるエレクトロニクス機器を開発する技術を修得します。さらにコミュニケーション能力と多角的視野に基づいた教養も身につけ、世界に通用する技術者を育成します。

エネルギー・環境コース：環境保全に配慮した電気エネルギーの生成や安定供給、電気設備の設置や保全、電気電子デバイスの回路設計など、つねに社会で求めつづけられる専門知識と実践力を身につけ、社会や環境を創る・支える・守ることができる技術者を育成します。

情報通信コース：携帯電話やリモコンに組み込まれたコンピュータのソフト・ハード技術、ロボット制御技術など、情報通信社会を支える多種多様な技術を学びます。おもにコンピュータを利用した装置と装置間の通信技術を中心に、情報通信に関する理論と技術を身につけたＩＣＴ基盤を支える技術者を育成します。

【電気電子工学科のカリキュラム編成上の特色】

１　数学や物理の学習において高校からスムーズなつながりができるよう、補習的な講義などを通したリメディアル教育を行っています。また、専門分野へのつながりに配慮した専門基礎科目を設けています。

２　１、２年次では、電気電子分野の専門基礎科目を配置し、３年次以降に各コースに所属して、コースに応じた専門知識を教育します。

３　「電子情報設計プロジェクト」では、15週にわたり一つのテーマに関して、グループ討論による問題抽出、解決法の探索・実現を通してエンジニアリングデザイン能力を養います。

４　「電子情報工学セミナー」では、パネル発表と自己分析により、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養います。

【その他の特色】

１　各学年複数教員の担任制で、一人一人の顔が見える学生指導体制をとっています。個人面談や授業の補習を兼ねた個別学習指導の時間として「ホームルーム」があります。
２　「知能ロボットプロジェクト」や「電気電子工学科ものづくり工房」により実践的なモノづくり教育を進めています。
３　電気電子・情報通信分野からの多くの求人があり、毎年、一部上場企業をはじめとして就職率が高く、質の高さが社会や産業界から認められています。

【建築・デザイン学科の学習・教育目標】

建築の工学とデザインの感性を磨き、高い使命感と倫理観を身につけた建築技術者と美しい建築空間あるいはデザインコミュニケーション情報を創造するデザイナーの育成をめざします。建築や都市など規模の大きなものから、住宅や店舗の設計、ポスターデザインやウェブデザインなどの身近なものまで、幅広い「モノづくり」の技術・技能の習得を目標としてカリキュラムを編成しています。また、設計意図や完成作品の特徴を多くの人に伝え、深く印象付ける能力の習得も大切だと考えて開講科目を定めています。

建築・デザイン学科は次の２コースを設けています。

建築工学コース：国際的に通用する建築技術者に育つようより高いレベルの専門知識を授けます。建築に関する包括的な専門知識に加えて、さらに建築物や地域の安全性（建築構造）、快適性（建築環境・設備）、材料・構法（建築生産）に関する建築工学の高度な専門技術を習得するカリキュラムとしています。本コースを修了することで一級建築士受験資格と共に、二級施工管理技士受験資格を取得できます。

建築・デザインコース：自分の将来設計に合わせ、建築およびデザインの両方のプログラムを発展的に学習することができるコースです。幅広い素養と建築に関する包括的な専門知識・能力を身につけて、建設関連業界で活躍できる技術者や、企画から制作までの全過程を行える技能を持ち、デザイン関連業界で活躍できる人材の育成を目標としながら、その両方の資質を有したこれからの社会で必要とされる新たな建築士・デザイナーの育成を目指します。

建築設計・施工に欠かせない建築計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産の４分野にわたる内容と、ユニバーサルデザインを軸に情報・プロダクト・環境デザインの３分野を総合的に学習できる多彩な科目が用意されています。そのため、各学生の将来目的に応じて履修科目を選定することができます。本コースを修了することで二級建築士の受験資格を取得できます。さらに修得科目によっては一級建築士の受験が可能となります。

【建築・デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

１　建築とデザインのいずれをも学ぶことができるように、設定された多様な科目から、自分の将来設計にあった科目の選択が可能となっております。
２　幅広い視野を持ち人間力のある実践的な建築技術者と総合的なデザイン力のあるデザイナーを育成するため､建築教育とデザイン教育を高度に織り込んだ斬新なカリキュラムを編成しています。
３　一級建築士、二級建築士、技術士などの建築業務に関わる資格の取得をめざすカリキュラムとしています。また、インテリアコーディネーター、ＣＧ検定などのプロフェッショナル資格をめざした指導にも力を注いでいます。建築やデザインの分野で就職し活躍していくためには、専門資格の取得は必須です。

【その他の特色】

１　設計事務所やデザイン事務所等の会社組織や実務者と連携した実践的な教育を行います。
２　演習を中心とした専門教育の多くは、少人数クラスの授業で個別指導を徹底しています。
３　学生にとって魅力があり、なおかつ社会的にも話題となっている課題を取り上げ、作品などその成果は、学外発表・展示などにより外部の評価を受け、授業改善に結びつけています。

【情報学科の学習・教育目標】

情報が社会のあらゆるレベルに浸透し、私たちの身近な生活と切っても切れない存在であることが認められる中、情報自身は、常にその可能性を広げ、存在様式を進化・発展させ続けています。巨大化し、多様化していく情報と与し、手なずけ、役立てて行くためには、情報を扱うためのソフトウェアやネットワークの技術と知識を学ぶとともに、日々進化・発展していく情報の様々な形式に触れ、そのサイエンスとしての扱い方に慣れ親しみ、新たな情報メディアの可能性を常々考えるような習慣を身につけることが必要となります。このような技術と知識と体験を身につけた人を育成するため、

情報学科では次の３つのコースを設けています。
　情報エンジニアリングコース：情報システムの構築とその分析・設計・開発に関わる知識と技術を身につけ、インターネット社会の情報基盤を開発する最前線において活躍できる人材を育成します。このため、情報技術に関する基礎知識（ハードウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズム）、情報システムに関わる分析・設計・運用技術、プログラミング、セキュリティ、先端技術（クラウド、組み込みなど）の教育を提供します。
　メディア情報コース：情報メディアに関する知識と、コンテンツを制作するための手続き的知識と技能を身につけ、創造産業を含む文化産業に従事できる人材を育成します。このため、社会生活における情報メディアの役割・知的財産権・インターネットサービスやビジネス等に関する基礎知識、コンピュータ音楽・コンピュータグラフィックス・ディジタル映像といったコンテンツ制作技能、Ｗｅｂデザインの手法・Ｗｅｂプログラミング・Ｗｅｂ解析技術といったＷｅｂサイトの企画・制作・運用に関する技能を修得するための教育を提供します。
　データサイエンスコース：膨大なデータから有益な情報を抽出し、分析・予測に役立てるための手続き的知識と技能を身につけ、企業のマーケティングやデータ分析に携わる部門において活躍できる人材を育成します。このため、データ分析のための基礎知識（統計解析、データの可視化、データベース）、知識発見のための手法（データマイニング、機械学習、最適化）、そして、発展技術（シミュレーション、モデル同定）に関する教育を提供します。
【情報学科カリキュラム編成上の特色】
１　カリキュラムは、各コース共通の知識となる科目群と、それぞれのコース毎に特徴的な科目群から構成されています。
２　演習科目を多数用意して徹底した実践力の修得を行います。
３　「情報学プロジェクトⅠ・Ⅱ」として、実際に社会の中で役立つシステムを構築することを目的として、ゼミ単位少人数のチームで企画、計画から設計、コスト試算、構築、実証評価までを行い、その結果をプレゼンテーションとして発表するという講義を行います。座学や演習だけでは身につけることができない社会に役立つ実践力を育てます。力を育てます。
【その他の特色】
１　就職率が高いだけでなく、特に上場企業への就職者が多いのが特長です。
２　各コースの特性に沿った資格取得を積極的に指導します。男女の差なく、それぞれの分野のプロフェッショナルとして幅広く活躍できますので、女子学生のキャリアづくりにも最適です。
【経営ビジネス学科の学習・教育目標】
　経営ビジネス学科では、実践的な経営センスを持ち、地域や社会に貢献する人材を育成します。知識中心の組織社会化がますます進行する中で知的資源や人的資源をいかに活用していくかが重要となってきています。また近年、社会全体の価値観や利害の多様化が進み、複雑化し、それらの間の調和をいかに図っていくかが重要になってきています。このような変化のために、マネジメントに対するニーズと期待が高まってきています。また、学生の関心と活躍の場のグローバル化も起こってきています。
　マネジメントについて最も必要なことは､社会における組織の使命や役割を明らかにすることです。その使命を果たし、役割を遂行するためには、二つの条件が不可欠です。一つは、組織の置かれている現状をつねにチェックし、改善を加えていくことで、革新性・創造性をもつということです。もう一つは、組織に対する社会の期待がどこにあり、社会が必要とするものは何か考えることで、それは社会性をもつということです。マネジメントのあり方は、この２つの条件、革新性・創造性と社会性によって左右されます。
　このような基本的認識に立って、経営ビジネス学科では組織経営に関する理論的、実践的教育を進めています。なお、組織は、企業だけでなく、非営利組織・自治体・地域コミュニティも含みます。これらの幅広い組織の経営（マネジメント）方法について、段階的に学んでいきます。
　また、社会性を養うために、マネジメントの理論や技術だけでなく、そのよって立つ文化的背景をも学んでいきます。
【経営ビジネス学科のカリキュラム編成上の特色】
１　経営マネジメント・グローバル経営の２コースを設け、学生が興味や関心に応じて履修できるような編成です。経営マネジメントコースでは、経営や会計について幅広く学び、理論と実践の融

合を目指していきます。企業・非営利組織・自治体などの組織に着目して、それらの運営に関する科目を幅広く学びます。グローバル経営コースでは、国際的な視野に立ち、グローバル社会における組織経営に関わる能力を養成します。国際化に対応するために、外国の文化の理解や語学の習得もめざします。

2　専門基礎科目を重視し、主要分野に関する必修科目を配置しています。それをベースに、段階的、系統的履修を促します。

3　ゼミナールを中心にした少人数教育を徹底し、「全人教育」を目指し、各学年で少人数によるゼミナール教育を行います。

4　「会計処理演習」「フィールドワーク」「データ分析」を開講し、具体的事例や実践的テーマに対して、学生が直接参加する講義を行います。アクティブラーニングは各科目でも取り入れて、学習内容のより深い理解をめざします。

【その他の特色】

1　簿記関連、販売士、ファイナンシャルプランナー、税理士、語学関連などの資格取得に関して、課外授業を行います。

変更事項を記載した書類

１．変更の事由

令和４年４月に情報学部を設置することに伴い、学則の一部を変更する。

新設する学部・学科

情報学部　情報学科　　入学定員 330 名　収容定員 1,320 名

※詳細は別紙「令和４年度　近畿大学入学定員改定案」を参照。

２．変更点

（１）大学の目的として、研究教授する学問分野に「情報学」を追加する。
（第１条第１項）

（２）学部学科の構成及び定員、履修単位数、学士の学位についての規定を変更する。
（第 2 条、第 13 条、第 22 条）

（３）教育課程、免許状の種類及び免許教科、学費表、教育・研究の目的等を変更する。（別表（1)、(2) －1、(2) －2、(7)、別記（2)）

３．変更の時期

令和４年４月１日

近畿大学入学定員の改定について

・理工学部電気電子工学科エネルギー・環境コースを母体として、理工学部エネルギー物質学科を設置する。

・理工学部電気電子工学科を電気電子通信工学科へ名称変更する。

・理工学部情報学科を母体として、情報学部情報学科を設置する。

【改定前】

理工学部 定員：1,130

理学科 定員：225

生命科学科 定員： 95

応用化学科 定員：130

機械工学科 定員：200

電気電子工学科 定員：190

ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ・情報通信ｺｰｽ

ｴﾈﾙｷﾞｰ・環境ｺｰｽ

社会環境工学科 定員：100

情報学科 定員：190

【改定後】

理工学部 定員：1,040（90減）

理学科 定員：225

生命科学科 定員： 95

応用化学科 定員：130

機械工学科 定員：200

電気電子通信工学科 定員：170（20減）

総合ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽｺｰｽ

電子情報通信ｺｰｽ

社会環境工学科 定員：100

情報学科 募集停止（190減）

ｴﾈﾙｷﾞｰ物質学科 定員：120

20名移行
100名純増

190名移行
140名純増

（省略）

国際学部

国際学科

情報学部 定員：330

情報学科 定員：330

新旧対照表

新	旧
○近畿大学学則 昭和41年12月１日 第１章　総則 （目的） 第１条　本大学は、教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、商学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学、社会学、国際学、情報学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。 （　省略　） （学部学科の構成及び定員） 第２条　本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。 学部・学科名　コース名　入学定員　編入学定員　収容定員 （　省略　） 理工学部 （　省略　） 機械工学科　200名　800名 電気電子通信工学科　170名　680名 社会環境工学科　100名　400名 （削除） エネルギー物質学科　120名　480名 建築学部 280名　1,120名 （　省略　） 国際学部 国際学科　500名　2,000名 情報学部 情報学科　330名　1,320名 農学部 （　省略　） （履修単位） 第13条　各学部の学生は、次に定める授業科目の	○近畿大学学則 昭和41年12月１日 第１章　総則 （目的） 第１条　本大学は、教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、商学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学、社会学、国際学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。 （　省略　） （学部学科の構成及び定員） 第２条　本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。 学部・学科名　コース名　入学定員　編入学定員　収容定員 （　省略　） 理工学部 （　省略　） 機械工学科　200名　800名 電気電子工学科　190名　760名 社会環境工学科　100名　400名 情報学科　190名　760名 （新設） 建築学部 280名　1,120名 （　省略　） 国際学部 国際学科　500名　2,000名 （新設） 農学部 （　省略　） （履修単位） 第13条　各学部の学生は、次に定める授業科目の

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>単位を修得しなければならない。

（　省略　）

(10)　情報学部
全学共通科目は、共通教養科目14単位以上、外国語科目14単位以上、学部基礎科目12単位以上、専門科目は84単位以上、総計124単位以上

（　省略　）

（学士の学位）
第22条　本大学を卒業した者は、次の区分に従って学士の学位を授与する。

（　省略　）

学士（工学）　近畿大学　理工学部　（応用化学科、機械工学科、電気電子通信工学科、社会環境工学科（削除））
情報学部　（情報学科）

（　省略　）

附　則（令和４年４月１日）
１　この学則の改正は、令和４年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　理工学部電気電子工学科及び理工学部情報学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、令和４年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

（　省略　）

別表（１）―10
情報学部授業科目表
△印は選択必修科目を表す。</td><td>単位を修得しなければならない。

（　省略　）

（　新設　）

（　省略　）

（学士の学位）
第22条　本大学を卒業した者は、次の区分に従って学士の学位を授与する。

（　省略　）

学士（工学）　近畿大学　理工学部　（応用化学科、機械工学科、電気電子工学科、社会環境工学科、情報学科）
（　新設　）

（　省略　）

（　省略　）

（　新設　）</td></tr>
</table>

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
（人間性・社会性科目群）			
自校学習		1	
科学技術の進歩と人権		2	

新				旧
暮らしのなかの憲法		2		
心理と行動		2		
住みよい社会と福祉		2		
現代社会と法		2		
環境と社会		2		
資源とエネルギー		2		
技術と倫理	2			
企業倫理と知的財産		2		
教養特殊講義Ａ		2		
（地域性・国際性科目群）				
国際経済と企業の国際化		2		
国際社会と日本		2		
ビジネスモデルとマネジメント		2		
メディアの読み方		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
（課題設定・問題解決科目群）				
日本語の技法		2		
基礎ゼミ１	2			
基礎ゼミ２	2			
科学的問題解決法		2		
プレゼンテーション技術		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
［外国語科目］（第一）				
英語総合１	2			
英語総合２	2			
ＴＯＥＩＣ１	1			
ＴＯＥＩＣ２	1			
ライティング１		1		
ライティング２		1		
アカデミックイングリッシュ１		△１		
アカデミックイングリッシュ２		△１		
オーラルイングリッシュ１	1			
オーラルイングリッシュ２	1			
オーラルイングリッシュ３		△１		
オーラルイングリッシュ４		△１		
ＩＴ英語１		△１		
ＩＴ英語２		△１		
海外語学研修（英語）		2		
［外国語科目］（第二）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		

新				旧
ドイツ語総合４		１		
フランス語総合１		１		
フランス語総合２		１		
フランス語総合３		１		
フランス語総合４		１		
中国語総合１		１		
中国語総合２		１		
中国語総合３		１		
中国語総合４		１		
海外語学研修（中国語）		２		
韓国語総合１		１		
韓国語総合２		１		
韓国語総合３		１		
韓国語総合４		１		
海外語学研修（韓国語）		２		
＊印はコースごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。□印はコースごとの選択必修科目を表す。詳細は別表参照。				
授業科目	単位数			
	必修	選択	自由	
［基礎科目］				
基礎微分積分学	２			
基礎線形代数学１	２			
基礎線形代数学２	２			
コンピュータ基礎	２			
確率統計	２			
情報処理実習１		１		
情報処理実習２		１		
基礎物理学および演習		３		
基礎化学および演習		３		
化学		２		
基礎生物学		２		
生物学		２		
情報システム基礎			２	
情報システム応用			２	
［専門科目］				
プログラミング基礎１	２			
プログラミング基礎２	２			
ＩｏＴ	２			
オブジェクト指向プログラミング	２			
機械学習概論		２		
ネットワーク技術	２			
データ構造とアルゴリズム	２			
プログラミング実習１	２			
プログラミング実習２	２			
離散数学		＊２		

新				旧
ＩＴビジネス基礎		２		
Ｗｅｂシステム	２			
オブジェクト指向設計	２			
人工知能	２			
ネットワークセキュリティ技術		＊２		
データベース論		２		
情報理論		＊２		
キャリアデザイン		２		
データマイニング		＊２		
情報セキュリティ		＊２		
情報と職業		２		
ｅスポーツ			２	
社会情報学実習１		△１		
社会情報学実習２		△１		
社会情報学実習３		△１		
社会情報学実習４		△１		
情報学基礎ゼミナール１	２			
情報学基礎ゼミナール２	２			
情報学応用ゼミナール１	２			
情報学応用ゼミナール２	２			
卒業研究	８			
多変量解析		＊２		
応用数学		＊２		
機械学習１		＊２		
実践機械学習		＊２		
統計データ解析		＊２		
自然言語処理		□２		
数理計画法		２		
知能システムプロジェクト１		＊２		
知能システムプロジェクト２		＊２		
メディア処理		＊２		
音声言語処理		□２		
コンピュータビジョン		□２		
データモデリング		２		
ＨＣＩ		＊２		
機械学習２		＊２		
医療情報学応用		２		
知的エージェント		２		
ＯＳとコンピュータアーキテクチャ		＊２		
暗号と情報セキュリティ		＊２		
情報数学		＊２		
ブロックチェーン		２		
情報セキュリティ対策と管理１		＊２		
情報セキュリティ対策と管理２		＊２		

新				旧
サイバーセキュリティプロジェクト１		＊２		
サイバーセキュリティプロジェクト２		＊２		
ソフトウェア工学		＊２		
セキュリティ解析技術		＊２		
モバイル通信		＊２		
サイバー犯罪学		２		
組み込みシステム		＊２		
セキュリティ技術評価と実装技術		＊２		
クラウドコンピューティング		＊２		
情報と社会		２		
ネットワーク演習１			２	
ネットワーク演習２			２	
コミュニケーション論		＊２		
エンターテインメントコンピューティング		＊２		
人間中心設計論		＊２		
コンピュータグラフィックス		＊２		
モデル最適化基礎		２		
調査データ分析		２		
実世界コンピューティングプロジェクト１		＊２		
実世界コンピューティングプロジェクト２		＊２		
アドバンスドＷｅｂシステム		＊２		
人工現実感		＊２		
インタラクション設計		＊２		
深層学習		２		
サービスコンピューティング		＊２		
複合システムデザイン		＊２		
インタラクティブシステム		＊２		
深層強化学習		＊２		
社会シミュレーション		２		
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定に基づいた提供科目及び単位数				
＜履修方法＞ 共通教養科目（14単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（12単位以上）、専門科目（84単位以上）を修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計124単位以上修得すること。 単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、6単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。 〔英語科目修得内訳表〕				

新	旧

選択必修科目名（単位）	修得単位数
アカデミックイングリッシュ１（１）、 アカデミックイングリッシュ２（１）、 ＩＴ英語１（１）、ＩＴ英語２（１）	１単位以上
オーラルイングリッシュ３（１）、 オーラルイングリッシュ４（１）	１単位以上
	合計２単位以上を修得

〔専門科目　コース別必修科目修得内訳表〕

知能システムコース

必修科目名（単位）
離散数学（２）、多変量解析（２）、応用数学（２）、機械学習１（２）、実践機械学習（２）、 統計データ解析（２）、知能システムプロジェクト１（２）、知能システムプロジェクト２（２）、 メディア処理（２）、情報理論（２）、ＨＣＩ（２）、データマイニング（２）、 情報セキュリティ（２）、機械学習２（２）

サイバーセキュリティコース

必修科目名（単位）
ＯＳとコンピュータアーキテクチャ（２）、暗号と情報セキュリティ（２）、離散数学（２）、 情報数学（２）、情報セキュリティ対策と管理１（２）、情報セキュリティ対策と管理２（２）、 ネットワークセキュリティ技術（２）、サイバーセキュリティプロジェクト１（２）、 サイバーセキュリティプロジェクト２（２）、 ソフトウェア工学（２）、情報理論（２）、 セキュリティ解析技術（２）、モバイル通信（２）、組み込みシステム（２）、 セキュリティ技術評価と実装技術（２）、クラウドコンピューティング（２）

実世界コンピューティングコース

必修科目名（単位）
コミュニケーション論（２）、エンターテインメントコンピューティング（２）、 ネットワークセキュリティ技術（２）、人間

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>
中心設計論（２）、コンピュータグラフィックス（２）、
実世界コンピューティングプロジェクト１（２）、実世界コンピューティングプロジェクト２（２）アドバンスドＷｅｂシステム（２）、人工現実感（２）、インタラクション設計（２）、
サービスコンピューティング（２）、複合システムデザイン（２）、インタラクティブシステム（２）、
深層強化学習（２）、情報セキュリティ（２）
〔専門科目　コース別選択必修科目修得内訳表〕
知能システムコース
<table>
<tr><th>選択必修科目名（単位）</th><th>修得単位数</th></tr>
<tr><td>自然言語処理（２）、音声言語処理（２）、コンピュータビジョン（２）</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>社会情報学実習１・２・３・４（１）</td><td>２単位以上</td></tr>
</table>
サイバーセキュリティコース・実世界コンピューティングコース
<table>
<tr><th>選択必修科目名（単位）</th><th>修得単位数</th></tr>
<tr><td>社会情報学実習１・２・３・４（１）</td><td>２単位以上</td></tr>
</table>
（　省略　）
別表（２）―１
法学部、経済学部、経営学部、理工学部、薬学部、文芸学部、総合社会学部、国際学部、情報学部、農学部（食品栄養学科を除く。）
（　省略　）
別表（２）―２
免許状の種類及び免許教科
<table>
<tr><th>学部名</th><th>学科名</th><th>高等学校教諭一種免許状（免許教科）</th><th>中学校教諭一種免許状（免許教科）</th><th>その他の免許状</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td>（　省略　）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>国際学部</td><td></td><td>（　省略　）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>情報学部</td><td>情報学科</td><td>情報</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td><td>
別表（２）―１
法学部、経済学部、経営学部、理工学部、薬学部、文芸学部、総合社会学部、国際学部、農学部（食品栄養学科を除く。）
（　省略　）
別表（２）―２
免許状の種類及び免許教科
<table>
<tr><th>学部名</th><th>学科名</th><th>高等学校教諭一種免許状（免許教科）</th><th>中学校教諭一種免許状（免許教科）</th><th>その他の免許状</th></tr>
<tr><td></td><td></td><td>（　省略　）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>国際学部</td><td></td><td>（　省略　）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>（　新設　）</td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

新					旧				
農学部		（　省略　）			農学部		（　省略　）		
		（　省略　）					（　省略　）		

別表（３）

（　省略　）

別表（７）　学費表

（単位　円）

費目 学部	◎入学金	授業料	課外活動育成費	合計	入学検定料
		（ 省略 ）			
国際学部		（ 省略 ）			
情報学部	250,000	１年次 1,442,000 ２年次 1,472,000 ３年次 1,502,000 ４年次 1,532,000	20,000	１年次 1,712,000 ２年次 1,492,000 ３年次 1,522,000 ４年次 1,552,000	35,000
農学部		（ 省略 ）			
		（ 省略 ）			

（　省略　）

別記（２）

（　省略　）

【国際学部　国際学科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

（　省略　）

旧				
農学部		（　省略　）		
		（　省略　）		

別表（３）

（　省略　）

別表（７）　学費表

（単位　円）

費目 学部	◎入学金	授業料	課外活動育成費	合計	入学検定料
		（ 省略 ）			
国際学部		（ 省略 ）			
（　新設　）					
農学部		（ 省略 ）			
		（ 省略 ）			

（　省略　）

別記（２）

（　省略　）

【国際学部　国際学科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

（　省略　）

新	旧
【その他の特色】 「国際学科」は文化の多様性だけでなく、垣根を越えた学問の多様性（ａｃａｄｅｍｉｃ　ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ）も重んじます。学生は各自の専攻の中で「スタディーズ」または「コース」に所属し所定の科目を履修しますが、学問の興味、またはキャリア面での技能にとって必要であれば学問横断的に科目を履修することができます。 また「国際学科」はコミュニケーション能力のさらなる育成のために、１年次後期から１年間の留学に加え、他言語習得のための短期海外語学研修や海外インターンシップを奨励し、また有資格者には交換留学など、さらなる留学機会を提供します。	【その他の特色】 「国際学科」は文化の多様性だけでなく、垣根を越えた学問の多様性（ａｃａｄｅｍｉｃ　ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ）も重んじます。学生は各自の専攻の中で「スタディーズ」または「コース」に所属し所定の科目を履修しますが、学問の興味、またはキャリア面での技能にとって必要であれば学問横断的に科目を履修することができます。 また「国際学科」はコミュニケーション能力のさらなる育成のために、１年次後期から１年間の留学に加え、他言語習得のための短期海外語学研修や海外インターンシップを奨励し、また有資格者には交換留学など、さらなる留学機会を提供します。 （　新設　）
【情報学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】 情報学部では、「Society5.0の実現に向けて第4次産業革命（IoT・ビッグデータ・AI等）が進展する中、AI活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザインなど、第4次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を育成する」ことを教育理念・目標とします。 教育の理念・目標の実現のため、IoT、AI、クラウドコンピューティングなど最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う情報学の専門的な知識を得るための講義科目をバランス良く配置し、数学や人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を習得させます。 情報学部では4年間のカリキュラムを通じて、社会のニーズに応える情報技術者としてふさわしい問題発見能力、制約の中で他者と協調しながら問題を解決する能力、情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力、システム構想・設計力、プログラミング能力に加え、国際的に通用する英語コミュニケーション能力と技術者倫理を身つけた人材を育成します。 【情報学科の学習・教育目標】 情報学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。 1.　問題発見、およびそれに必要な知識修得を自主的、継続的に行う意欲を持つこと。 2.　技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者がそれらに対して負う責任を理解し、関	

新	旧
心を持つこと。 3.　地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養を身につけること。 4.　与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけていること。 5.　他人との共同、協調作業を通して問題解決ができること。 6.　日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけていること。 7.　国際的に通用する英語コミュニケーション能力を身につけていること。 8.　数学、自然科学に関する知識を情報分野の問題に応用できる能力を身につけていること。 9.　情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力を身につけていること。 10.　システム管理・運用能力、システム構想・設計力、プログラミング能力を身につけていること。 社会の広い分野で活用できる情報技術者に必要な基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を身につけてもらうことが学習・教育目標となります。 【情報学科のカリキュラム編成上の特色】 高度な専門教育を体系的かつ組織的に行うとともに、学生が情報学に関する幅広い分野の中から系統的に学べるよう、「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の3コースを設置します。また、学生が他コース開講科目を履修できるようにすることで、自身の興味やキャリアプランに合わせて情報学を横断的に幅広く学べるようにします。３つのコースはいずれも「Society 5.0」の根幹となる、サイバー空間と実世界を高度に融合させたシステムの運用や開発に従事するICT技術者を養成するためのコースとなります。それぞれのコースでは、サイバー空間に蓄積する大規模データの利活用や、そのセキュアな流通、また、サイバー空間と実世界との橋渡しに関する技術を扱い、社会のニーズに即した人材の養成のためのカリキュラム編成を特色とします。 知能システムコースでは、サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる　人材を育成します。本コースは、講義科目と実践的な実習の相乗効果によって、人工知能・機械学習の背後にある	

新	旧
数理的な基礎を理解した上で、世界で繰り広げられている研究開発競争の最新動向をキャッチアップし、目前の課題に適した技術を適用できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。 サイバーセキュリティコースでは、サイバー空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築するICTアーキテクトや、高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材を育成します。本コースの科目群はサイバーセキュリティ分野の国家資格である「情報処理安全確保支援士」で必要とされる知識の一部を習得する構成となっています。また、仮想ネットワーク環境等を用いた実践的なサイバーセキュリティ実習により、知識だけでなく実践的なスキルを併せもった人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。 　実世界コンピューティングコースでは、実世界とサイバー空間を橋渡し、IoT、AI、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合して、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材を育成します。本コースは、認知科学や社会学の観点から、サイバー空間の解析結果により実世界のユーザの行動がどのように変容するか分析・評価し、実世界の問題を解決するシステムを構築できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。 【その他の特色】 　情報学部では、基本情報技術者、応用情報技術者、シスコ技術者認定資格、情報処理安全確保支援士などの資格の取得を考慮した教育を実施します。できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。また情報学部では、実践による学びを通じて、学生が活きた知識を獲得できるよう、様々な企業と連携した産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学習を取り入れた実習科目を配置し、様々な制約の中で試行錯誤することで、より良い解決策を探る実践を通じ、専門職業人に必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養します。 【農学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】 （　以下略　）	【農学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】 （　以下略　）

教授会規程（学則抜粋）

（教授会）

第52条　本大学各学部に、教育研究に関する専門的な審議を行う機関として、教授会を置く。

２　教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。

３　学部長は、前項にかかわらず学長の承認を得て、議題の内容に応じその都度、専任教授以外の教職員を教授会の審議に加えることができる。

４　前項に基づく教授会においては、教員の選考その他人事に関する事項について審議することができない。

（教授会審議事項）

第53条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了

（２）　学位の授与

（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

２　教授会は、前項に規定するもののほか、次の各号に掲げる事項並びに学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（１）　教育課程及びその担任に関する事項

（２）　休学、退学、転学及び復学に関する事項

（３）　学生の試験に関する事項

（４）　学生の補導に関する事項

（５）　教育及び研究に関する事項

（６）　教授、准教授、講師、助教及び助手の選考に関する事項

（７）　その他教学に関する事項

（議事運営）

第54条　教授会は、学部長が招集して、その議長となる。

２　学部長に支障があるときは、予め学部長の指名した者が議長となってその職務を代行する。

第55条　教授会は、学部長が必要と認めたとき又は３分の１以上の構成員の要求があったときこれを開催する。

第56条　教授会は、構成員の半数以上の出席によって成立し、その議事は、出席者の過半数で決し教授会の意見とする。可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、人事その他学部長が重要と認めた事項については、構成員の３分の２以上の出席を要し、出席者の３分の２以上の同意をもって決し教授会の意見とする。

第57条　教授会の運営に関する細則は、別に定める。

第58条　学長が必要と認めたときは、全学部又は各学部の教授会を招集することができる。

教授会運営に関する細則

第１条　この細則は、近畿大学学則第57条の規定に基づいて教授会の運営に関する事項を定めたものである。

第２条　留学、病気等により、引き続き２ヵ月以上教授会に出席できない者があるときは、これを定足数に加えない。

第３条　教授会の議事は、これを議事録に記録し、学部長がこれを保管するものとする。

第４条　教授会には、当該学部担当の事務（部）長又はこれに代わる者が出席し議事の記録その他庶務に当るものとする。

第５条　学部長は、教授会終了後５日以内にその審議結果を学長、理事長に報告しなければならない。

（医学部教授会）

第６条　医学部の教授会は、専任教授のうち主任教授をもって構成するものとする。

（教員全体会議）

第７条　学部長は、教授会審議の結果周知、事前調査、意見募集等のため、学部教員全体会議を招集することができる。

２　学部教員全体会議は、当該学部に所属する専任教員をもって構成する。

附　則

この規程は、昭和40年10月１日から施行する。

附　則（平成10年９月28日）

この規程の改正は、平成10年９月28日から施行する。

附　則（平成19年４月１日）

この規程の改正は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成27年４月１日）

この規程の改正は、平成27年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目　次

１．設置の趣旨及び必要性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.２

２．学部・学科等の特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.５

３．学部・学科等の名称及び学位の名称　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.６

４．教育課程の編成の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.７

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.15

６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の
具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.19

７．実習の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.21

８．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する
場合の具体的計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.22

９．取得可能な資格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.25

10. 入学者選抜の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.26

11. 教員組織の編制の考え方及び特色　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.30

12. 施設、設備等の整備計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.32

13. 管理運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.36

14. 自己点検・評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.36

15. 情報の公表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.37

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.40

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.41

設置の趣旨等を記載した書類

１．設置の趣旨及び必要性

(1)設置する理由・必要性

近畿大学は、大正 14 年（1925 年）創立の大阪専門学校と昭和 18 年（1943 年）創立の大阪理工科大学を母体として昭和 24 年（1949 年）に設立された私立総合大学である。創立以来、本学は未来志向の「実学教育」と「人格の陶冶」を建学の精神として掲げ、理系・文系計 14 学部、大学院 11 研究科を擁する総合大学として発展してきた。

建学の精神は、知識基盤社会へ転換しようとする 21 世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であるとの認識を新たにし、急激に変化しつつある社会ニーズをとらえ、次世代の科学技術イノベーションを担う情報通信技術（ICT）技術者の育成を目的として、15 番目の学部となる「情報学部」の開設を計画した。

わが国では、IoT を最大限に活用し、サイバー空間と実世界を高度に融合させた超スマート社会「Society 5.0」の実現に向けた取組が進んでいる。Society5.0 実現のためには、IoT の情報処理基盤技術はもちろんのこと、AI やサイバーセキュリティ等広範な知識をもつ ICT 技術者が必要不可欠である。その一方で、先端 ICT 人材や情報セキュリティ人材は大きく不足するとされており、とりわけサイバーセキュリティ人材の育成は社会から強く要望されている。

このような背景のもと、社会情勢の大きな変化に柔軟に対応できる弾力ある教育課程編成を可能とし、高度かつ多様な先端技術を保有する産業界との密接な連携を通じた実践的教育環境の実現を目指して、近畿大学東大阪キャンパスに令和 4 年度（2022 年度）、『情報学部情報学科』を開設することを計画した。

(2)教育研究上の目的

①学部としての人材養成

本学情報学部は、Society5.0 の実現に向けて第 4 次産業革命（IoT・ビッグデータ・AI 等）が進展する中、AI 活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザイン等、第 4 次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を養成する。

このために、IoT、AI、クラウドコンピューティング等最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う情報学の専門的な知識を得るための講義科目をバランス良く開講することで、人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための数学を中心とした基礎学力に加え、情報技術を組み合わせて様々な情報処理システムを構築するための実践的な知識と応用力を習得させることを教育上の目的とする。

本学部では4年間のカリキュラムを通じて、社会のニーズに応える情報技術者としてふさわしい問題発見能力、制約の中で他者と協調しながら問題を解決する能力、情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力、システム構想・設計力、プログラミング能力に加え、国際的に通用する英語コミュニケーション能力と技術者倫理を身につけた学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

なお、本学部で定めるディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。

〔関心・意欲・態度〕

1-1 問題発見、及びそれに必要な知識の修得を自主的、継続的に行う意欲を持つこと。

1-2 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者がそれらに対して負う責任を理解し、関心を持つこと。

〔思考・判断〕

2-1 グローバルな視点から多面的に物事を考える能力と素養を身につけること。

2-2 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけること。

2-3 他人との共同、協調作業を通して問題解決ができること。

〔技能・表現〕

3-1 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけていること。

3-2 国際的に通用する英語コミュニケーション能力を身につけていること。

〔知識・理解〕

4-1 数学、自然科学に関する知識を情報分野の問題に応用できる能力を身につけていること。

4-2 情報分野における幅広い専門技術の知識と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけていること。

4-3 システム管理・運用能力、システム構想・設計力、プログラミング能力を身につけていること。

本学部の卒業生は、ソフトウェア・ネットワーク・セキュリティ等のIT業界だけでなく、メーカー、サービス業、官公庁等ICT技術を活用する様々な業種での活躍が見込まれる。また、情報技術を活用しイノベーションを創出する起業家や高等学校での情報科教員を目指すことも可能である。

これを具現化するために、高度な専門教育を体系的かつ組織的に行うとともに、学生が

情報学に関する幅広い分野の中から系統的に学べるよう、「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の 3 コースを設置する。また、学生が他コース開講科目を履修できるようにすることで、自身の興味やキャリアプランに合わせて情報学を横断的に幅広く学べるようにする。

②人材養成における各コースの特徴

本学部には、「知能システムコース」「サイバーセキュリティコース」「実世界コンピューティングコース」の 3 つのコースを設ける。これらはいずれも「Society 5.0」の根幹となる、サイバー空間と実世界を高度に融合させたシステムの運用や開発に従事する ICT 技術者を養成するためのコースである。それぞれのコースでは、サイバー空間に蓄積する大規模データの利活用や、そのセキュアな流通、また、サイバー空間と実世界との橋渡しに関する技術を扱い、社会のニーズに即した人材養成の特徴を有する。

〔知能システムコース〕

サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材を育成する。IoT センサの普及によって実世界から膨大なデータをサイバー空間に蓄積できるようになっている。それらビッグデータからの有用な情報の抽出や、より付加価値の高い情報の創出には、人工知能・機械学習による知的な情報処理が不可欠である。人工知能関連の書籍や情報は世に溢れているが、表層的な知識だけでは、近年発展が著しい人工知能・機械学習を駆使して、社会からの要請に応えるシステムを構築していくことはできない。本コースでは、講義科目と実践的な実習の相乗効果によって、人工知能・機械学習の背後にある数理的な基礎を理解した上で、世界で繰り広げられている研究開発競争の最新動向をキャッチアップし、目前の課題に適した技術を適用できる人材養成を特徴とする。

〔サイバーセキュリティコース〕

サイバー空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築する ICT アーキテクトや、高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材を育成する。サイバー空間と実世界が高度に融合した社会においてシステムを安全、安心に利活用するためにはサイバーセキュリティ確保が必要不可欠であり、そのためのセキュリティ人材の育成が重要である。そのようなセキュリティ人材育成のためには、各種システム基盤を安全に構築、運用、管理するためのコンピュータ、ネットワーク及びサイバーセキュリティに関する知識・技術の習得が必要不可欠である。本コースの科目群はサイバーセキュリティ分野の国家資格である「情報処理安全確保支援士」で必要とされる知識の一部を習得する構成となっており、本コースの科目群を履修することで「情報処理安全確保支援士」の一部試験の受験が免除されるよう計画している。また、仮想ネットワーク環境等を

用いた実践的なサイバーセキュリティ実習により、知識だけでなく実践的なスキルを併せもった人材養成を特徴とする。

〔実世界コンピューティングコース〕

実世界とサイバー空間を橋渡しできる人材を育成する。近年、IoT 技術によって実世界からの膨大なデータをサイバー空間に蓄積し、AI 技術によってサイバー空間で蓄積されたデータを知的に解析できるようになってきた。しかしながら、その解析結果をいかにして実世界にフィードバックし、人間にとって有意義なサービスを提供するかというテーマは、まだ萌芽段階であり、無限の可能性を含んでいると考えられる。そこで、IoT、AI、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合して、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材を育成する。特に、サイバー空間から実世界へのフィードバックを担うシステム設計は、単に、サイバー空間での解析結果に基づいて、システムとユーザを仲介するインターフェース（可視化に基づく視覚インターフェース等）や両者のインタラクションを改良することだけにとどまらない。これらに加えて、認知科学や社会学の観点から、サイバー空間の解析結果により実世界のユーザの行動がどのように変容するか分析・評価し、実世界の問題を解決するシステムを構築できる人材養成を特徴とする。また、IoT、AI、システム設計の技術を統合するに当たっては、各分野の技術の妥当性/可能性/課題を客観的に検証し、課題があれば、それを克服するためのアイデアの提案や実装が行える技術者や研究者の養成にも注力する。

(3)研究対象とする中心的な学問分野

上記１．(2)「教育研究上の目的」で挙げた教育研究上の目的を達成するために、組織として、①知能システム分野（機械学習、自然言語処理、コンピュータビジョン等を含む)、②サイバーセキュリティ分野（情報ネットワーク、計算機システム、ソフトウェア工学等を含む)、③実世界コンピューティング分野（ヒューマンインタフェース及びインタラクション、エンターテインメントコンピューティング、サービスコンピューティングを含む）の 3 分野を基盤としつつ、情報科学、情報工学及びその関連分野、情報学の学際領域を研究対象の学問分野とする。

２．学部・学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成 17 年 1 月）の提言する、第 2 章の 3 にある「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」では、具体的に①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）を挙げている。

情報学部は上記機能のうち、特に「③幅広い職業人養成」、「⑦社会貢献機能」の２つの機能を重点的に担う。

「③幅広い職業人養成」については、2 年次及び 3 年次に配当する「社会情報学実習 1・2・3・4」で、情報技術や知恵を駆使してグループで解決策を模索する企業連携型プロジェクトを通じて、企業と連携して課題解決に取り組む。また、卒業研究以外に「情報学基礎ゼミナール 1・2」、「情報学応用ゼミナール 1・2」等を通じて 4 年間、少人数教育の機会を設ける。これらの科目や 3 年生の各コースの実習科目で実施するプロジェクトに基づいた教育（PBL）を通じて、専門職業人に必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養する。また、既設の理工学部情報学科を母体として情報学部を設置するに当たり、新たに設けられるサイバーセキュリティコースでは、情報処理安全確保支援士の取得をサポートする教育課程を編成し、情報セキュリティのスペシャリストの育成を目指す。

「⑦社会貢献機能」については、本学は設立から「実学教育」と「人格の陶冶」を建学の精神とし、社会に貢献できる人材の育成を行ってきた。近畿大学リエゾンセンターを中心に、社会のニーズを取り入れ、受託研究件数は全国でもトップクラスの実績を誇っている。Society 5.0 やポストコロナで情報処理技術の重要性が高まっており、情報学分野での産学連携が促進していくことが期待される。また、総合大学である利点を活かして、医学部と連携して医療 AI を開発するだけでなく、農学部や生物理工学部と連携して、植物工場やクロマグロ養殖の場内インフラや作業効率向上を目指したシステム化に貢献する。実学教育を実践していくことで、座学による講義だけでは難しい、技術者・開発者としてのマインドを醸成できると考えている。また、「③幅広い職業人養成」でも述べた企業連携型プロジェクトを 2 年次から実施していくことにより、在学中から学生の目を社会に向けさせることができ、産学連携・他学部との連携がより深まることが期待される。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

学部の名称

情報学部［ 英語名称　Faculty of Informatics ］

学科の名称

情報学科［ 英語名称　Department of Informatics ］

学位の名称

学士（工学）［ 英語名称　Bachelor of Engineering ］

本学部は、急激に変化しつつある社会ニーズをとらえ、次世代の科学技術イノベーションを担う情報通信技術者を育成するという意図のもと、学部の名称を「情報学部」（英語名称 Faculty of Informatics）とする。この目的を達成するため、本学部は情報学に関係する多様な領域を横断した教育研究活動を推進し、教育課程を編成するため、研究分野別の学科は設けず、一学科制とした上で、学科名称を「情報学科（英語名称 Department of Informatics ）とする。また、情報通信技術に関わるエンジニアを育成するという意図のもと、学位の名称は「学士（工学）（英語名称 Bachelor of Engineering)」とする。上記、学部・学科・学位名称は、国内の複数の大学で採用されているものであり、一般性のあるものである。

学部名・学科名の英語名称に用いる Informatics は、英語圏の大学で一般的に使用されているものであり、国際的な通用性を持つ名称である。同様に学位の英語名称である、Bachelor of Engineering　も英語圏の多くの大学で使用されており、国際的にも通用するものである。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

(1)教育課程編成・実施の方針

本学部では、「１．設置の趣旨及び必要性」で述べたように、サイバー空間と実世界の融合が急速に進む現代において、急激に変化しつつある社会ニーズをとらえ、次世代の科学技術イノベーションを担うことができる情報技術者の育成を目標とする。現代の情報通信技術は高度に専門化が進み、また取り扱うべき学問領域も、実世界で収集したデータの知的処理を担う人工知能技術、安心安全な IoT 社会を実現するためのセキュリティ対策技術、IoT や人工知能技術を高度に統合して実世界で新たなサービスやイノベーションを創出するためのシステム設計論等多岐にわたる。

そこで本学部では、1 年次に情報学の基礎知識を導入した後、2 年次以降は知能システムコース、サイバーセキュリティコース、実世界コンピューティングコースに分かれ、各分野の専門知識を早い時点から取り扱う教育課程とすることで、各分野に精通した情報技術者の育成を目指す。また、本学部では実践による学びを通じて学生が活きた知識を獲得できるよう、様々な企業と連携して産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学習を取り入れた教育課程を編成している。(資料１　カリキュラムツリー)

情報学部では、ディプロマ・ポリシーに示した資質・能力を身につけた学生を育成するため、カリキュラム・ポリシーとして以下の科目群を設定している。

〔全学共通科目：共通教養科目 〕

ディプロマ・ポリシーの項目1-1、2-3、3-1の能力を育成するため、課題設定・問題解決

科目群という教育プログラムを開講する。課題設定・問題解決科目群では、4年間を通した少人数ゼミ教育により、学生同士での活発な議論や担当教員との対話のもと、広い視野に立った問題発見への意欲と、問題解決に必要な知識の修得への意欲を継続的に持たせることを目的とし、「得られた知識をレポートにまとめる（1-1）」、「グループのメンバーと協調しながら与えられた課題を解決する（2-3）」、「考案した方策を口頭で発表し、質疑に対して適切に応じる（3-1）」、「文化としての日本語の奥深さや、音声表現の技法を習得する（3-1）」という学修目標を設定している。これらを主体的に学ぶことで項目1-1、2-3、3-1の能力が身につく。

また、項目1-2の能力を育成するため、人間性・社会性科目群という教育プログラムを開講する。この科目群では、これからの科学技術者の在り方、基本として持つべき科学技術倫理観を養うことを目的とし、「科学技術者として必要な倫理を知る」、「品質問題、環境問題、安全問題と情報問題と技術者倫理の関係を知る」、「知的財産権、リスク問題の対処法を知る」という学修目標を設定している。これらを主体的に学ぶことで1-2の能力が身につく。

さらに、項目 2-1 の能力を育成するため、地域性・国際性科目群という教育プログラムを開講する。この科目群では、地球的視点から、人類や環境が直面している様々な問題について認識を深めさせ、技術者という立場から問題解決への意欲を持たせることを目的とし、「多種多様の価値観に触れることで視野を拡げるとともに、グローバル化された社会における問題解決のための最良の手段が幅広い知識の獲得とそれに基づく言語化能力の向上にあることを理解する」学修目標を設定している。これらを主体的に学ぶことで 2-1 の能力が身につく。

加えて、スポーツ・表現活動科目群では健康な精神と肉体を培うとともに、趣味の涵養を通して豊かな人間性を養うことを目標としている。

〔全学共通科目：外国語科目〕

情報分野の主要言語は英語であり、国際社会で活躍できる人材を育成するため、英語教育を重視している。本学部では、ディプロマ・ポリシーの項目3-2の能力を育成するため、外国語科目群という教育プログラムを開講する。この科目群では、基礎・基本を徹底する科目、実用英語力をつける科目、外国人教員によるコミュニケーション力をつける科目を体系づけ、集中的かつ効果的に履修できるようカリキュラムを構成し、「日常生活についての様々な事項に関する文章を読み、語彙を修得し、またそれをもとにまとまった文章を書いて発表できるようになる」学修目標を設定している。これらを主体的に学ぶことで3-2の能力が身につく。

〔専門科目（基礎科目）〕

ディプロマ・ポリシーの項目 4-1 の能力を育成するため、専門基礎科目群という教育プ

ログラムを開講する。この科目群では、情報学の基礎的理解、科学技術リテラシーの修得、及び専門教育を受けるための学力養成を目的として、線形代数学、微分積分学、確率統計学等を中心とした科目を開講し、「ベクトル、行列、微分積分、確率の基本的な計算ができるようになる」学修目標を設定している。これらを主体的に学ぶことで 4-1 の能力が身につく。

〔専門科目（学部共通専門科目・コース別専門科目）〕

ディプロマ・ポリシーの項目2-2、4-3の能力を育成するために実習科目群という教育プログラムを開講する。この科目群では、デザインパターンを含めたオブジェクト指向プログラミングを習得するための実習科目により、徹底してプログラミング技術の教育を行い、「プログラミングに関する基本的な知識・技術を活用して、より実用的な問題を解決できるプログラムを作成できる能力を獲得する」学修目標を設定している。これらを主体的に学ぶことで2-2、4-3の両方の能力が身につく。

また、項目4-1、4-2の能力を育成するために、専門科目群という教育プログラムを開講する。情報分野が中心となり急速な発展を遂げる科学技術の進歩に対応できる基礎力と適応力を持った人材を育成するため、2年進級時に学生を「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の何れかのコースに配属する。それぞれのコースでは実践的な問題解決型学習（PBL）と、特色のあるカリキュラムを通じて、基礎から高度な専門教育までを行う。さらに、学生が情報学に関する幅広い分野を学べるよう、他コースの科目も履修できるシステムを提供する。この科目群では、「基本的なコンピュータシステムの構成とソフトウェアの知識を活用して、知能システム、サイバーセキュリティ、実世界コンピューティングにおける諸問題を解決できるようになる」学修目標を設定している。これらを主体的に学ぶことで4-1、4-2の能力が身につく。各コースのカリキュラムの特色は以下のとおりである。

・知能システムコース

人工知能・機械学習の数理的な基礎知識だけでなく、人工知能技術を活用した社会インフラや、大規模データの利活用システムの構築等、実世界への応用に必要な知識・技能を身につけさせる。

・サイバーセキュリティコース

ネットワークの原理、システム基盤の構築・運用・管理、情報セキュリティ及びサイバーセキュリティ対策に関する基礎知識を修得させ、それらを現実的な問題の解決に応用できる能力を身につけさせる。

・実世界コンピューティングコース

実世界とサイバー空間を橋渡しできる人材として、IoT、AI及びシステムとユーザの相互作用に関する人間を中心とした情報システムをデザイン・実装するための基礎知識を修得させる。また、複数のサブシステム間の相互作用を設計し、世界の問題解決につながるシス

テムを構想できる能力を身につけさせる。

(2)教育課程編成の体系性

本学部の教育課程では、「１．設置の趣旨及び必要性」で述べた人材養成に必要な資質・能力を身につけさせるため、全学共通科目である「共通教養科目」、「外国語科目」と本学部独自の「基礎科目」、「学部共通専門科目」により情報技術者としての土台を形成し、その土台の上に連続して「コース別専門科目」を基礎から発展へと段階的に編成することにより、教育課程の体系性を確保している。なお、コースは、「知能システムコース」、「サイバーセキュリティコース」、「実世界コンピューティングコース」からなる。

教育課程編成

全学共通科目	共通教養科目
	外国語科目
専門科目	基礎科目
	学部共通専門科目
	コース別専門科目

〔全学共通科目：共通教養科目〕

本学の建学の精神は、未来志向の「実学教育」と「人格の陶冶」であり、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」を育成することを教育の目的としている。この建学の精神に基づき、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するために、教育の中核に教養教育と専門教育を据え、それを通して総合的な教育を行うところに、本学の教育の特色がある。

本学の教養教育は「幅広い知識と洞察力を培い、豊かな人間関係と確かな主体性を確立すること」を目的としている。この目的を達成させるため、共通教養科目の教育課程に以下の科目群を設定している。

①人間性・社会性科目群（個人の尊重・社会的責任の認識）
②地域性・国際性科目群（国際的感覚の育成）
③課題設定・問題解決科目群（課題設定・解決能力の育成）
④スポーツ・表現活動科目群（スポーツ・表現活動を通した人間性の育成）

以上の科目群は、全ての学部で実践されているものであり、本学部でも同様の科目群を設定している。

これに加えて、本学部の共通教養科目には、情報技術に携わる者としての使命感と倫理観を養成するための「技術と倫理」、持続可能な開発目標（SDGs）への理解を深めるため

の「資源とエネルギー」、その他にも知的財産権に関する基礎的知識、国際感覚を身につけるための科目を開講し、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、並びに技術者がそれらに対して負う責任を理解した上で、さらにグローバルな視点で物事を考えることのできる幅広い教養を身につけさせる編成となっている。また、読み・書き・聞く・話すということを基本としたコミュニケーション能力に加え、特にプレゼンテーションを積極的に取り入れて情報発信力を伸ばすことで、日本語による論理的な記述力、プレゼンテーション能力、並びにコミュニケーション能力を身につけた学生を養成する。さらに、ゼミナール形式の少人数教育を施すため、1 年次の「基礎ゼミ 1・2」に始まり、各コースに分かれる 2 年次以降も「学部共通専門科目」として「情報学基礎ゼミナール 1・2」「情報学応用ゼミナール 1・2」「卒業研究」等の科目を段階的に編成し、学生同士の活発な議論や担当教員との対話のもと、発想力、創造力、問題解決能力を養成する。

〔全学共通科目：外国語科目〕

グローバル化に対応し、国際社会で活躍できる人材を育成するため、情報学分野の主要言語である英語教育を重視している。習熟度別クラス編成により、個々の学生に適した授業を提供する。1 年次には「英語総合 1・2」で総合的な英語力向上を目指す。2 年次以降は、企業でも英語運用能力の判断基準として広く用いられている TOEIC L&R で高得点を取得することを目的とした「TOEIC 1・2」、英語でアウトプットする力を養成する「ライティング 1・2」、専門的な内容を英語で理解できる力を身につける「アカデミックイングリッシュ 1・2」といった 4 技能に特化した科目で即戦力になる英語力の修得を図る。また 1 年次から 2 年次を通してネイティブ教員によるコミュニケーション能力に焦点を当てた「オーラルイングリッシュ 1・2・3・4」を開講し、さらに 3 年次には情報学分野の英語に特化したネイティブ教員担当の「IT 英語 1・2」を開講することで、使える英語を体系的に学ぶ科目構成としている。これにより、国際的に通用する英語によるコミュニケーション能力を養成する。

第 2 外国語に関しては、ドイツ語、フランス語、韓国語に加え、人工知能分野で世界を牽引する中国語の科目を開講し、情報学においてグローバルな視点で物事を考え、コミュニケーションを取ることができる教養を備えた人材の育成を図る。

〔専門科目〕

本学部の専門科目は、「基礎科目」「学部共通専門科目」「コース別専門科目」に分かれる。

「基礎科目」は情報学の基礎的理解、科学技術リテラシーの修得、及び専門教育を受けるための学力養成を目的として、1 年次に「基礎微分積分学」「基礎線形代数学 1・2」「確率統計」の数学基礎科目のほか、情報学の基礎的理解を図る「コンピュータ基礎」「情報処理実習 1・2」を開講し、2 年次以降の情報学各分野の専門知識を理解する上で必須とな

る基礎知識を習得するための科目構成となっている。これらの科目群により、数学、自然科学に関する基礎知識を学び、情報分野の問題に応用するための基礎力を養う。

「学部共通専門科目」は知能システム、サイバーセキュリティ、実世界コンピューティングのどのコースにおいても共通して必要となる情報学の専門的な知識を得るための講義を開講している。具体的には、Society 5.0 の基幹技術である「IoT」を 1 年次に開講することでサイバー空間と実世界が高度に融合する Society 5.0 の概念を早い段階で理解させ、2 年次以降に Society 5.0 を実現するために必要な基幹知識として「ネットワーク技術」「データ構造とアルゴリズム」「Web システム」「人工知能」といった科目群を開講し、サイバー空間と実世界を高度に融合させたシステムの管理・運用や開発に従事する ICT 技術者を養成する。また、徹底してプログラミング技術を学ぶための実習科目として 1 年次と 2 年次に「プログラミング基礎 1・2」「プログラミング実習 1・2」を開講しているほか、実習と連携した講義科目として「オブジェクト指向プログラミング」「オブジェクト指向設計」を開講し、デザインパターンを含めたオブジェクト指向プログラミングを講義と実習を通じて習得する科目構成となっており、システム構想・設計力、プログラミング能力を養う。さらに、学生が情報学に関する幅広い分野を学べるよう、他コースの科目も履修できる制度を整備する。加えて、2 年次以降、産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学習科目を開講し、様々な制約の中で試行錯誤的に、より良い解決策を探る実践を通じ、専門職業人に必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養する。

本学部では、2 年次以降、知能システムコース、サイバーセキュリティコース、実世界コンピューティングコースに分かれ、各分野の専門知識を早い時点から取り扱う教育課程としている。コースへの配属は、1 年次後期に実施する希望アンケートに基づき決定する。コース間で希望学生数に大きな偏りが生じ、2 年次以降の講義・実習を実施する教室収容人数を超過する場合には、1 年次後期までの成績順で希望したコースに配属していき、教室収容人数超過分に関しては他のコースに配属する。「コース別専門科目」は、人材養成像に沿って、体系的に教育課程が編成されており、2 年次から 4 年次までの 3 年間を通じてコースごとの基礎教育から高度な専門教育までを行うことにより、情報分野における幅広い専門技術の知識と、それらを問題解決に応用できる能力を養う。

・知能システムコース

サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材養成を特徴とする。ビッグデータからの有用な情報の抽出や、より付加価値の高い情報の創出には、人工知能・機械学習による知的な情報処理が不可欠である。そのため、2 年次前期には人工知能・機械学習の数理的な基礎を理解するための「離散数学」「多変量解析」「応用数学」を開講している。その基礎のもと後期には「統計データ解析」「機械学習 1」「実践機械学習」「自然言語処理」を開講し、講義科目と演習を連携させることによって実践的な知識の養成を図

る。さらに3年次には「機械学習2」「データモデリング」「データマイニング」等のデータ処理系科目に加え、「メディア処理」「コンピュータビジョン」「知的エージェント」といった人工知能・機械学習を実世界の問題解決に応用する科目を開講している。また3年次には、コース独自の実習である「知能システムプロジェクト1・2」を開講し、これまでに習得した講義内容のより深い理解を促すために、実用場面に即したデータを用いた実習を行う。講義科目と実践的な実習の相乗効果によって、人工知能・機械学習の数理的な裏付けや、実世界データへ適用するための実践的な知識を併せ持つことを目指す。

・サイバーセキュリティコース

サイバー空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築するICTアーキテクトや、高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材養成を特徴とする。本コースの科目群はサイバーセキュリティ分野の国家資格である「情報処理安全確保支援士」で必要とされる知識の一部を習得する構成となっており、本コースの科目群を履修することで「情報処理安全確保支援士」の一部試験の受験が免除されるよう計画した教育課程を編成している。2年次には情報セキュリティを理解するための基礎的知識を養成すべく「離散数学」「情報数学」「OSとコンピュータアーキテクチャ」「ブロックチェーン」を開講している。ここで養成した基礎のもと、2年次前期以降、「暗号と情報セキュリティ」「ネットワークセキュリティ技術」「情報セキュリティ対策と管理1・2」「セキュリティ解析技術」「セキュリティ技術評価と実装技術」といった科目群を体系的に開講することで、各種システム基盤を安全に構築、運用、管理できる能力を身につける。また3年次には「モバイル通信」「クラウドコンピューティング」「組み込みシステム」等の科目を開講することで、サイバー空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築するICTアーキテクトを養成する。以上の講義科目に加え、3年次にはコース独自の実習として「サイバーセキュリティプロジェクト1・2」を開講し、仮想ネットワーク環境等を用いた実践的なサイバーセキュリティ実習により、知識だけでなく実践的なスキルを兼ね備える人材の育成を図る。

・実世界コンピューティングコース

実世界とサイバー空間を橋渡しできる人材として、IoT、AI、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合し、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材養成を特徴とする。

サイバー空間から実世界へのフィードバックを担うシステム設計は、システムとユーザとのインタラクションが円滑になされるよう、認知科学や社会学の観点も踏まえてインタラクション設計を行う必要がある。そのため、2年次前期以降、「コミュニケーション論」「人間中心設計論」「インタラクション設計」「インタラクティブシステム」という科目群を体系的に開講し、システムとユーザの相互作用を考慮した人間中心のシステム設計がで

きる人材を養成する。また、2 年次後期以降「モデル最適化基礎」「深層学習」「深層強化学習」「アドバンスド Web システム」「サービスコンピューティング」「複合システムデザイン」という科目群を体系的に開講し、実世界で計測されたデータを知的に解析し、新たな情報サービス創出につなげることのできる人材を養成する。併せて、サイバー空間での解析結果を実世界にフィードバックする手法に関しては、2 年次前期以降「エンターテインメントコンピューティング」「コンピュータグラフィックス」「人工現実感」といった科目群を体系的に開講している。さらに、学部共通専門科目の「ネットワーク技術」の基盤の上に、「ネットワークセキュリティ技術」「情報セキュリティ」を開講することで、実世界からサイバー空間へのセキュアなデータ収集を可能とする IoT 知識を備えた人材の養成を図る。以上に加えて 3 年次にはコース独自の実習として「実世界コンピューティングプロジェクト 1・2」を開講し、講義科目で得られた知識を、実世界の問題解決につながるシステム開発へと活かすことができる、実践的な知識を備える人材の育成を図る。

〔教職科目〕

平成 15 年度（2003 年度）より高等学校では教科「情報」が新設され、さらに令和 4 年（2022 年）からの新高等学校学習指導要領改訂により、共通必履修科目の「情報Ⅰ」と「情報Ⅰ」の発展的選択科目「情報Ⅱ」を設け、「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」といった項目を指導することになっている。本学部では、これに必要な教育課程を有している。

「高等学校教諭一種免許状（情報）」を取得するための「教科に関する科目」として必要な科目区分には、各科目区分における科目を設定している。具体的には、「情報社会・情報倫理」科目区分には「情報と社会」「技術と倫理」を、「コンピュータ・情報処理（実習を含む）」科目区分には「コンピュータ基礎」「プログラミング実習 1・2」「オブジェクト指向プログラミング」「データ構造とアルゴリズム」「人工知能」を、「情報システム（実習を含む）」科目区分には「OS とコンピュータアーキテクチャ」「データベース論」「組み込みシステム」「インタラクティブシステム」を、「情報通信ネットワーク（実習を含む）」科目区分には「ネットワーク技術」「IoT」「Web システム」を、「マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む）」科目区分には「コンピュータビジョン」「メディア処理」「コンピュータグラフィックス」「自然言語処理」「HCI」に加えて各コースの実習科目を、「情報と職業」科目区分には「情報と職業」を設定しており、現在不足している情報科の教員を志望する学生への履修指導を適切に行う。

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1)教育方法、履修指導方法の特色

①教育方法について

共通教養科目の「基礎ゼミ１・2」及び学部共通専門科目の「情報学基礎ゼミナール１・2」「情報学応用ゼミナール１・2」「卒業研究」はゼミナール形式で10名程度の少人数教育をとる必修科目である。専門科目専任教員が中心となってこれらの科目を担当し、教員間の連携を緊密にとりつつ、きめ細かな指導を展開する。少人数教育を１年次から４年次まで継続して実施することで、学生同士の活発な議論や担当教員との対話がしやすい学習環境を提供し、発想力、創造力、問題解決能力を養成する。

外国語科目のうち、1年次の「英語総合１・2」「オーラルイングリッシュ１・2」及び2年次の「TOEIC１・2」「オーラルイングリッシュ３・4」は、大学生として必要な基礎素養の修得を目的としており、教育効果を高めるために習熟度別クラス編成とした上で、専任教員を授業内容責任者として配置し、兼任・兼担教員と一体となり個々の学生に応じた授業を実施する。さらに、2年次には英語でアウトプットする力を養成する「ライティング１・2」、3年次には理系分野の英語を扱う「アカデミックイングリッシュ１・2」や情報系の英語をネイティブ教員が講義する「IT英語１・2」等の科目を開講し、国際的に通用するコミュニケーション能力を養成する。

専門科目としては、1年次、2年次に徹底したプログラミング教育を行うため、学部共通専門科目の「プログラミング基礎１・2」「プログラミング実習１・2」では専任教員を複数配置するとともにTAを10名以上配置することで、学生の質問機会を確保する。この方針は、3年次コース別に実施する「知能システムプロジェクト１・2」「サイバーセキュリティプロジェクト１・2」「実世界コンピューティングプロジェクト１・2」でも同様である。

現代の情報通信技術は高度に専門化が進み、また取り扱うべき学問領域も多岐にわたるため、本学部では2年次以降は知能システムコース、サイバーセキュリティコース、実世界コンピューティングコースに分かれ、各分野の専門知識を早い時点から学ぶ教育課程とする。また、各専任教員の研究室に2年次から配属することで、各分野に精通した専門職業人の育成を目指す。一方で、様々な専門分野を学ぶうちに学生の興味に変化が生じることも考えられるため、所属する研究室は3年進級時に変更が可能な運用とする。

以上に加えて、2年次以降、産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学習科目として「社会情報学実習１・2・3・4」を開講し、様々な制約の中で試行錯誤的に、より良い解決策を探る実践を通じ、専門職業人に必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養する。

②履修指導について

本学部における履修指導は、以下の点を踏まえて行われる。

（ア）履修登録、成績、単位の取得等に関する全般的な履修指導は、新学年の授業開始前に実施するガイダンスにて詳しく行う。その際、本学部の履修要項や履修モデル説明資料等を配布し、それらを参照しながら履修登録や学習に対する学生の理解を確認する。

（イ）履修モデルには、各年次及び学期で履修するべき科目の具体例を載せ、新入生に提示することで 4 年間の学習の全体像や、2 年次からのコース配属、コース配属後の専門分野への道筋を分かりやすく示す。

（ウ）カリキュラムマップやカリキュラムツリーは、他学部同様、履修要項に掲載し、学習の目標やそのための履修のあり方を明確にする。

（エ）シラバスには、各授業の概要、到達目標、各回授業計画、各回の予習復習内容、教科書、参考書、成績評価基準等が明確に記されていることを周知し、選択科目についてはそれらを熟読して自らの学習目標の実現を助ける科目を適切に選択するように指導する。

（オ）履修登録や教務に関連した情報の提供は、全学的に運用されている教学情報のポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）により行う。

（カ）履修指導や教務に関連した学生の疑問点に関しては、本学部の教務委員会が中心となり指導や助言を行う。また、全学で導入されているコミュニケーションシステムの Slack を活用し、学生が履修について疑問を抱いた際に、すぐに相談できる仕組みを用意する。

(2) 卒業要件

本学部では卒業要件単位数を以下のように定める。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">区　分</th><th colspan="3">卒業要件単位数</th><th rowspan="2">総合計</th></tr>
<tr><th>必修</th><th>選択必修</th><th>選択</th></tr>
<tr><td rowspan="2">全学共通科目</td><td>共通教養科目</td><td>6</td><td>-</td><td>8</td><td>14</td></tr>
<tr><td>外国語科目</td><td>8</td><td>2</td><td>4</td><td>14</td></tr>
<tr><td rowspan="6">専門科目</td><td>基礎科目</td><td>10</td><td>-</td><td>2</td><td>12</td></tr>
<tr><td>学部共通専門科目</td><td>38</td><td>2</td><td rowspan="4">12～14</td><td rowspan="4">84</td></tr>
<tr><td>コース別専門科目</td><td colspan="2">内訳（コース必修）</td></tr>
<tr><td>知能システムコース</td><td>-</td><td>30※</td></tr>
<tr><td>サイバーセキュリティコース</td><td>-</td><td>32</td></tr>
<tr><td>実世界コンピューティングコース</td><td>-</td><td>30</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>124</td></tr>
</table>

※コースの選択科目 2 単位含む

共通教養科目では、ゼミナール形式の少人数教育を行う「基礎ゼミ１・2」及び現代の技術者が必ず備えておくべき情報技術に携わる者としての使命感と倫理観を養成するための「技術と倫理」を必修科目としている。それ以外の科目は、履修の多様性を持たせるため、選択科目としている。

外国語科目では、大学生として必要な基礎素養の修得を目的とした「英語総合１・2」「オーラルイングリッシュ１・2」及び２年次の「TOEIC１・2」を必修科目としている。第２外国語も含め、それ以外の科目は選択科目、あるいは選択必修科目とし、学生の多様な興味に応えられるようにしている。

専門科目のうち基礎科目では、情報学の専門科目を理解するために必須となる「基礎微分積分学」「基礎線形代数学１・2」「確率統計」「コンピュータ基礎」を必修科目としている。それ以外の理科系科目や JavaScript、python 等のプログラミング言語に関する実習科目は選択科目としている。

学部共通専門科目では、ゼミナール形式の少人数教育を行う「情報学基礎ゼミナール１・2」「情報学応用ゼミナール１・2」「卒業研究」並びに徹底したプログラミング教育を行う「プログラミング基礎１・2」「プログラミング実習１・2」を必修としたほか、現代の情報技術の理解に欠かすことができない「IoT」「ネットワーク技術」「データ構造とアルゴリズム」「Web システム」「人工知能」等多くの科目を必修科目とし、情報技術者としての確固たる基盤を養成する。

コース別専門科目においては、各コースの人材養成の特徴に沿って必修科目とし、体系的な教育を行うことで専門職業人の養成を行う。一方で、学生が情報学に関する幅広い分野を学べるよう、他コースの科目も履修できる。

(3) 履修モデル

本学部では、コース別に履修モデルを設定し、学習の道筋を明確に提示した履修指導を行う。ここでは知能システムコース、サイバーセキュリティコース、実世界コンピューティングコースの３コースで設定する履修モデルの例を挙げる。（資料 2）

①履修モデル１：知能システムコース（人工知能人材）

サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材を養成することを目指す。具体的には、人工知能技術を取り扱う情報系企業のみならず、人工知能技術活用による業務改善を志向するメーカーを目指す。

②履修モデル２：サイバーセキュリティコース（サイバーセキュリティ人材）

サイバー空間と実世界が高度に融合した社会においてセキュアなシステムを構築でき、かつ安全、安心に利活用できる人材養成を目指す。具体的には、セキュリティ情報系企業において高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材や、サイバ

一空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築するICTアーキテクト、様々な企業で求められている情報セキュリティ管理者等の民間企業に加え、近年高度化するサイバー犯罪に対処できる警察官等の公務員を目指す。

③履修モデル3：実世界コンピューティングコース（人間中心システム設計・構築人材）

IoT、AI、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合し、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材養成を目指す。具体的には、情報系企業においてIoT、AI、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を基盤にSociety5.0時代の情報システムを開発できる人材や、エンターテインメント手法を活用した情報サービスを生み出せる人材、また、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出する起業家を目指す。

(4)履修登録科目の上限（CAP制）、他大学における授業科目の履修等

本学部では、学習の質を保証するために、各学期及び各学年で履修できる単位数の上限を定める（これを「CAP制」と呼ぶ）。各学期において24単位、各年度において48単位を上限とする。

(5)他大学における授業科目の履修等

本学部では、他学部同様「大学コンソーシアム大阪」の包括協定に基づき、他大学・他学部が開講する単位互換科目を修得した場合は一定の単位認定を行う。

(6)留学生への履修指導、生活指導等への配慮

入学後の履修指導については、留学生受入れを担当するグローバルエデュケーションセンターで留学生を対象としたガイダンスを実施するとともに、本学部でもガイダンスを実施する。日本人学生と同様の教育課程で卒業を目指すが、日本語での論文作成等、日本語能力他を補う授業として、留学生を対象とする「外国人留学生特例科目」を設けており、留学生に対する教育上の配慮を行っている。グローバルエデュケーションセンターには「留学生サポート制度」があり、日本人学生がサポーターとなり、留学生の各種交流会やイベントの企画、キャンパス案内等の活動を行っており、留学生がスムーズに学生生活を始められるようサポートしている。

(7)メディア授業と卒業要件との関わり等

本学では、「６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画」に記載のとおりメディア授業の導入のための学則が定まっており、共通教養科目や外国語科目の一部をオンデマンド化することが進んでいる。本学部でも、

それら共通教養科目や外国語科目の修得が卒業要件に関わる場合、履修のうえ合格することで単位を取得し、卒業に必要な単位数に含めることができる。

６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学部では、学生の主体的な学習を支援する科目を設けており、当該科目を履修する学生の中には一定期間学外において学習を進める必要が生じることが想定される。そのような状況下でも、対面授業に出席している学生と同じ進度で学習を進められるように、メディア授業のみで学習できる科目「メディア授業科目」及びメディア授業にするか対面授業にするかを授業回単位で学生が選択できる科目「メディア授業対応科目」を設置する。

(1) 実施場所

メディア授業は、自宅や課外活動先等対面授業を実施するために割り当てられた教室以外の場所において実施する。メディア授業を受講する学生には、インターネットを介してアクセス可能な CMS やビデオ会議システム上で学習を進めてもらう。なりすましを防止するために、学生ごとに ID とパスワードを発行し、CMS やビデオ会議システムを利用する際はそれらを使って本人認証を実施する。

(2) 実施方法

メディア授業は、シラバスにて事前に「メディア授業科目」又は「メディア授業対応科目」であることを周知したうえで実施される。「メディア授業科目」は、受講者全員に対してメディア授業を実施する。また、「メディア授業対応科目」は、対面授業とメディア授業を同一の進度で実施し、教員からの指示がない限り、受講者は、自身が選択した方法により授業に出席する。なお、天候不良や教員の都合による休講等で授業計画に変更が生じる場合、事前に周知する限り、教員は当該回の授業をメディア授業に限定できるものとする。

メディア授業は、ストリーミングビデオあるいは録画ビデオの視聴、プレゼンテーションや関係資料の表示等を織り交ぜながら、対面授業と同様に 1 時限の時間で実施される。メディア授業では、教授内容の提示だけでなく、理解度を確認するためのテストの実施や課題の出題を必須とする。テストの実施や課題の出題にあたっては、必ず期限を設定し、対面授業との進度にずれが生じないように配慮する。また、授業中あるいはその前後において、テキストや音声で教員への質問や他の受講生との意見交換ができる環境を提供する。本学では、CMS として Google Classroom、ビデオ会議システムとして Zoom、コミュニケーションシステムとして Slack を全学で導入しており、令和 2 年度、コロナ禍でのオンライン授業において、前述した環境をすでに提供した実績を有する。

なお、入学希望者には、本学ホームページや入学案内等でメディア授業を受講できる環

境が必要であることを周知する。また、入学者には本学部指定のノート PC の購入を義務付けることとしており、その購入の詳細や、メディア授業の受講に必要な環境に関する詳細を入学前に周知する。

(3)学則における規定

本学学則では、以下に記すとおり、第 12 条においてメディア授業を授業の方法の一つとして規定している。また、メディア授業による学修については、学則第 12 条第 2 項に最大 60 単位とすることが明記されている。

第 12 条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２ 学部教授会は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、これにより修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。

さらに、その学修による単位については、以下に記すとおり、本学学則第 20 条において規定されている。

第 20 条 合格した授業科目については、所定の単位を与える。ただし、医学部の専門科目については、単位制によらず時間制を採用する。

２ 授業科目の単位は、１単位を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の計算基準によるものとする。

（１）講義及び演習については、内容に応じて 15 時間から 30 時間までの範囲で定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）実験、実習及び実技については、内容に応じて 30 時間から 45 時間までの範囲で定める時間の授業をもって１単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、内容に応じて定める時間の授業をもって１単位とする。

（３）前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業製作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(4)当該実施方法が告示の要件を満たすものであること

本学部において実施するメディア授業は、同時かつ双方向に行われる場合と、期限を設けた上で非同期かつ双方向に行われる場合がある。いずれの場合においても、教員及

び指導補助者による設問回答、添削指導、質疑応答がインターネットを介して可能となっている。また、当該授業に関する学生の意見についてもインターネットを介して交換可能となっている。

７．実習の具体的計画

「高等学校教諭一種免許状（情報）」を取得するために必要な教育実習を以下のように計画している。

(1) 実習の目的

ディプロマ・ポリシーのひとつに「情報分野における幅広い専門技術の知識と、それらを問題解決に応用できる能力を身につけていること」ことを掲げている。この知識と教育の基礎的理解に関する科目の学修を融合し、実際の教育現場で実習することにより「課題」を明確とする。課題については教職実践演習での振り返りを経て、教育職員としての基本的な姿勢・態度の修得を目的とする。

具体的な計画については、教職課程認定申請資料である様式第５号（教育実習実施計画に関する書類）（資料３）に記載している。

（資料３：教育実習実施計画に関する書類）

(2) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

麻疹の抗体の有無について確認をし、抗体（－）であれば、ワクチン接種のうえ、抗体検査（＋）の検査結果の提出を義務付けている。

また、不測の事態に備え、学生全員が「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入している。守秘義務等の周囲点については、「教育実習直前ガイダンス」で実施している。

(3) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

学生への希望調査（ヒアリング）も考慮のうえ、教職教育部（教職課程における学部横断組織）の所属教員または各学生のゼミを担当する教員が巡回指導を行うこととしている。

８．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

(1)企業実習

①学部独自の実習

（ア）実習先の確保の状況及び実習先との連携体制

本学部では、2 年次及び 3 年次に「社会情報学実習 1・2・3・4」を選択必修科目（1 単位）として開講している。本科目では、実社会の様々な問題をテーマとして取り上げ、情報技術と知恵を駆使してその解決策を模索する学外との連携プロジェクトに学生を参加させ、プロジェクトに基づく教育（PBL）を通じて、学生の自主性、問題発見能力、問題解決能力を育成することを目指す。連携プロジェクトでは、本学部で推進する「学生中心プロジェクト」に参画する連携先と共に産学連携で課題解決に取り組み、連携先担当者や他の学生と共に解決のためのアプローチを試行錯誤する中で、学生一人ひとりが実践を通じて「自ら考え、実践する力」を習得することを目指す。

連携先は本学部の専門性を活かすことのできる一般企業、NPO・NGO や市役所、県庁をはじめとする地方公共団体、教育機関、福祉関係施設等を予定している。

授業計画は次の通りである。グループ活動の内容は開講期により異なるが、アイデアソンとハッカソンの両方を実践させる。

第 1 回: オリエンテーション

第 2 回: グループ分けの公開、事前研修

第 3～4 回: 連携先との顔合わせ、テーマの説明

第 5～8 回: グループ活動

第 9 回: 中間報告

第 10～14 回: グループ活動

第 15 回: 最終報告

連携先企業（予定）

企業名	所在地	受入可能人数
吉本興業ホールディングス株式会社	大阪府・東京都	各 5 名 1 グループ 1 企業あたり最大 8 グループ受入可能
大阪府警察	大阪府	
警察庁	東京都	
株式会社ノートンライフロック	東京都	
株式会社神戸デジタル・ラボ	兵庫県	
日本マイクロソフト株式会社	東京都	
富士通株式会社	神奈川県・東京都	
西日本電信電話株式会社（NTT 西日本）	大阪府	
株式会社 NTT データ関西	大阪府	
株式会社ドワンゴ	東京都	
株式会社 CyberZ	東京都	
株式会社サイバーリンクス	和歌山県	
株式会社コナミデジタルエンタテインメント	東京都	
シスコシステムズ合同会社	東京都	
株式会社ラック	東京都	
ストーンビートセキュリティ株式会社	東京都	
Slack Japan 株式会社	東京都	

（イ）成績評価体制及び単位認定方法

プロジェクトポートフォリオ、中間報告、最終報告により実習担当教員が、成績評価・単位認定を行う。

②全学インターンシップ

（ア）実習先の確保の状況及び実習先との連携体制

本学では、インターンシップを重要なキャリア教育の一環としてとらえ、学生が自らの専門やキャリアに関連した就業体験を行うことによって、将来のキャリアを考え、自らの職業について深く考える機会になると考えている。参加者には 8 時限の事前研修(集中講義)の受講を必須とし、学生が夏期休暇中のインターンシップ研修に参加する際のビジネスマナーや、社会で働く心構え、仕事に取り組む姿勢を理解し身につける。また、インターンシップ研修後は、事後研修の実施により研修先で学んだ事例を基にグループワーク等を行い、今後自らの専門における学習の目標化や将来の進路選択に活かすことを目的としている。 なお、派遣先は、本学キャリアセンターが覚書を締結する企業・団体等のほかに、実学志向の情報学を生かすため、情報通信業界、メーカー等を予定している。

本学部では、本学のキャリアセンターが連携する企業・団体等のほかにも、学部独自で調整する企業等の受入れ先との連携体制を確立する予定である。

（イ）成績評価体制及び単位認定方法

本学部では、インターンシップに参加し有効な成果を挙げた者については、実習先からの評価及び学生が作成する日誌、インターンシップ実施報告書や報告会での発表内容等により、選択必修科目の「社会情報学実習 2」もしくは「社会情報学実習 4」（1 単位）を認定する。単位認定までの流れは以下のとおりである。

年間スケジュール

夏期	春期	
4 月	11 月	・ガイダンス ・募集企業（団体）情報公開
5 月	12 月	・選考 ・結果発表 ・参加者説明会
6 月		・事前研修
7 月	1 月	・大学と研修先との覚書の締結
8 月	2 月	・インターンシップ実習 （実習中は実習内容の日誌を作成）
9 月	3 月	・参加学生の評価（実習先より） ・事後研修 （研修内でインターンシップ実施報告書を作成）
10 月	翌年度 10 月	・報告会 ・情報交換会

(2)海外研修

①実習先の確保の状況及び実習先との連携体制

本学では、外国語教育の一環として、夏期・春期休暇を利用して「夏期／春期語学研修（短期）」を全学的に実施している。英語圏・中国語圏・韓国語圏の協定校において、生きた外国語を学ぶだけでなく、観光やホームステイを通じてその国の文化や生活に触れることで、実践的な語学力の向上と異文化体験を通して得る国際感覚の養成と豊かな人間性を養うことを目的とする。

夏期・春期語学研修校一覧

	国・地域	研修先大学
夏期語学研修	カナダ	カルガリー大学
	オーストラリア	ボンド大学
	アイルランド	ダブリンシティ大学
	フィリピン	セブ医科大学
	中国	北京大学
	韓国	漢陽大学

	国・地域	研修先大学
春期語学研修	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学
	オーストラリア	サザンクロス大学リズモア校
	ニュージーランド	ワイカト大学
	フィリピン	セブ医科大学
	台湾	台湾大学
	中国	北京大学
	韓国	高麗大学

募集定員：すべての研修先において 20 人ずつ

②成績評価体制及び単位認定方法

本学部では、語学研修に参加し、留学前の事前研修及び帰国後の事後研修を受け、研修中の成績及び語学研修体験報告書等を提出することで、「海外語学研修（英語）」「海外語学研修（中国語）」「海外語学研修（韓国語）」（2 単位）のいずれかの単位が認定される

９．取得可能な資格

本学部の教育課程における学習によって、下記の資格を取得することが可能である。この資格取得は、卒業要件ではない。なお、本学部の科目に加え、本学教職教育部が開講する「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」を受講することで、下記の資格を取得するために必要な「教科及び教科の指導法に関する科目」を全て履修することができる。

区　分	名　　称	備　　考
国家資格	高等学校教諭一種免許状（情報）	本学部の「教科に関する科目」に加え、教職教育部の「教職に関する科目」を定められた通り履修することで取得可能である。

10. 入学者選抜の概要

(1)アドミッション・ポリシー

本学部では、国際的に通用する高度な学問的素養を持ち、豊かな社会の実現に貢献し、社会的責任を有する自立した技術者の育成を目指す。このため学部教育での到達目標として、ディプロマ・ポリシーを達成できるようなカリキュラムを提供しており、情報学への適性を兼ね備えた基礎学力を持つ人物はもちろんのこと、基礎学力のみにとらわれず社会のニーズ変化に即した多種多様な能力を持つ人物も併せて受け入れる。具体的には、カリキュラム・ポリシーに従った教育課程に十分従事でき､ディプロマ・ポリシーを達成できることが期待される、下記のような人物が入学することを期待する。

①技術と人間、社会、文化の関わりについての基礎的な洞察力を持つ人。

②技術者の社会的責任について理解し、それを誠実に遂行しようとする倫理観を持つ人。

③知的好奇心があり、情報技術をベースとする工業製品あるいは社会システムへの応用に強い関心を持つ人。

本学部に入学するまでに、次のような教科の内容を理解し、それらに即した記載の能力を持っていることが望まれる。

数学　：数学的公理や定理を活用した推論能力、論理的思考力
理科　：自然現象を数式や化学式でモデル化する能力
外国語：文法に則って英文の文意を正確に理解する能力
国語　：日本語の基礎的な読解力、及び論理的な記述力

学業成績はもちろんのこと、学習意欲と目的意識が明確な学生を確保するためには、学力試験を含め多様な選抜方法が必要であり、公正かつ妥当な方法をもって以下のような複数の選抜方法を採用する。

なお、本学の入学者選抜は、中立・公正に実施することを旨とし、試験問題の漏洩や不適切な合否判定等入学者選抜の信頼性を損なう事態が生じることのないよう、副学長を実施本部長とした「入学試験実施本部」を設置して、責任の所在を明確にしている。また選

考結果については各学部で厳正かつ公平に審議され、大学全般の重要事項についての審議機関である大学協議会で承認している。

(2)選抜方法、選抜体制

次の選抜方法により、入学者選抜を行うが、募集人員は学校推薦型選抜、公募制推薦入試で5割を超えないものとし、総合型選抜、一般選抜、大学入学共通テストを利用した選抜、外国人留学生入学試験を併せて募集を行う。

①募集人数

情報学部情報学科　330人

総合型選抜・学校推薦型選抜・公募制推薦入試　157人

一般選抜　128人

大学入学共通テスト利用　45人

②選抜方法

（ア）総合型選抜

本学部に対する適性、可能性さらに入学後の目的意識や学習するうえで強い意志を持った、自律的でかつ優秀な人材を確保する。試験は一次選考と二次選考の2回実施する。

〔一次選考〕

活動報告書、コンテスト・資格にて、目的意識を持ち、実績を伴った知識と技能を有するかを書類審査（自己PR動画含む）にて判定する。また、志望理由書と自己PR動画では、自身のこれまでの活動から自己分析でき、大学生活または将来において明確な目標を持っているか、表現力も踏まえて判定する。

〔二次選考〕

独創性のある人物であるかを判定できる課題を設定し、それに対するプレゼンテーションと口頭試問を実施する。独創性のある人物であるかを判定することに加え、思考力や判断力、そして主体性をもって多様な人間と協働できる素養を持っているか、表現力も踏まえて判定する。

（イ）学校推薦型選抜

〔指定校推薦入学試験〕

本学が推薦を依頼する高等学校を指定校とし、高等学校長の推薦する一定の成績（評点）以上の者を対象に、本学部を第一志望とする優秀な人材を確保する。高等学校在学中の学習成績・課外活動等、学力試験では評価しがたい資質・能力を調査書・推薦書で判断するとともに、志望理由書・面接により志望動機の強さや学部学科への適性を判定する。

〔附属高等学校特別推薦入学試験〕

附属高等学校長の推薦する人物・学業ともに優秀で、本学部を第一志望とする者を対象とし、本学の教育理念に基づく特色ある一貫教育を実現するために優秀な人材を確保する。高等学校在学中の学習成績や自校学習として建学の精神や教育の目的、大学の最新の研究内容等を学ぶ一連の教育・学習活動等を修得しているかを調査書・推薦書で判断するとともに、志望理由書・面接により志望動機の強さや学部学科への適性を判定する。

（ウ）一般推薦入試（公募制推薦入学試験）

現役学生及び一浪生を対象とし、学業、人物ともに優秀で出身高等学校長もしくは中等教育学校長が推薦する者を学力試験の得点と調査書を総合して、学習能力が科目によりばらつきのない優秀な人材を確保する。

〔学力試験〕

スタンダード方式：英語 / 数学

情報学部独自方式：数学

（エ）一般選抜

多様な入学者選抜方法にあって、その中核となる一般選抜は、全国の高等学校の進路指導担当教員や在校生、予備校生に対して、学部の教育の特色、取得資格、卒業後の進路等について十分な広報を行い、広く一般から本学部を志望する学生を学力試験の得点と調査書を総合して優秀な人材を確保する。学力試験を課し判定を行う。

〔学力試験〕

前期 A 日程・前期 B 日程

英・数・理型：英語 / 数学 / 理科（「物理基礎・物理」「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」から 1 科目選択）

英・国・数型：英語 / 国語 / 数学

情報学部独自（併願）：英語 / 数学

後期

高得点判定方式：英語 / 国語 / 数学

3 教科 3 科目受験し、そのうち高得点の 2 教科 2 科目で合否を判定

情報学部独自方式：数学

（オ）大学入学共通テストを利用した選抜

大学入学共通テストを利用した選抜については、本学の個別学力試験を行わないことで受験生の負担を軽減し、本学部の指定教科・科目の得点と調査書を総合して、本学部の考

え方に共鳴する優秀な人材を全国から確保する。また、大学入学共通テストの得点と本学の学力試験の得点の総合点で判定する共通テスト併用方式も導入する。

・指定教科・科目

〔共通テスト利用方式〕

日程	科目
前期	・「数学Ⅰ・数学A」 ・「数学Ⅱ・数学B」「情報関係基礎」から1科目選択 ・外国語、国語、理科、地理歴史、公民から2教科2科目選択
中期	外国語、数学、国語、理科、地理歴史、公民から3教科3科目選択
後期	外国語、数学、国語、理科、地理歴史、公民から2教科2科目選択

※「地理歴史」「公民」を選択する場合は、「地理歴史」または「公民」のいずれか1科目選択

〔共通テスト併用方式〕

日程	科目	
A日程	個別学力	一般選抜（前期A日程）個別学力試験で実施する教科・科目から高得点1科目
	大学入学共通テスト	・「数学Ⅰ・数学A」 ・「数学Ⅱ・数学B」「情報関係基礎」から1科目選択 ・外国語、国語、理科、地理歴史、公民から2教科2科目選択
B日程	個別学力	一般選抜（前期B日程）個別学力試験で実施する教科・科目から高得点1科目
	大学入学共通テスト	外国語、数学、 国語、理科、地理歴史、公民から3教科3科目
後期	個別学力	一般選抜（後期）個別学力試験で実施する教科・科目から高得点1科目
	大学入学共通テスト	外国語、数学、国語、理科、地理歴史、公民から2教科2科目選択

※「地理歴史」「公民」を選択する場合は、「地理歴史」または「公民」のいずれか1科目選択

(3) 留学生の受入れ計画

【外国人留学生入学試験】

本学部では、企業の国際化、就労環境のグローバル化を踏まえ、初等中等教育を日本国外の多様な制度のもとで受けた生徒を受入れるため、外国人留学生入学試験（募集人員：若干名）を実施する。

選抜にあたっては、高等教育を受けるにあたって必要な基礎学力の確認を前提とし

て、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が実施する日本留学試験（EJU）の「日本語（聴解・聴読解、読解、記述)」「数学コース 2」「理科」のスコアの提出を求め、面接により志望動機や卒業後の計画、学部学科への適性を判断し、総合的に合否判定を行う。経費支弁能力については、入学予定者の学費負担者をもって確認を行う。履修指導は入学後、主に学部でのガイダンスにて行い、留学生受入れを担当するグローバルエデュケーションセンターでも留学生を対象にガイダンスを実施する。日本人学生と同様の教育課程で卒業を目指すが、日本語での論文作成等、日本語能力他を補う授業として、「外国人留学生特例科目」を設けており、留学生に対する教育上の配慮を行っている。毎月 1 日から 10 日を在籍確認期間としており、この期間に留学生はグローバルエデュケーションセンターを訪れ、学生証を提示し、確認を受けて必要な指導を受ける。

11. 教員組織の編制の考え方及び特色

(1)教員配置の考え方

本学部は、急激に変化しつつある社会ニーズをとらえ、次世代の科学技術イノベーションを担う ICT 技術者の育成を目的としている。情報学という単一の学問・学術体系を対象としているため、教員は一学科に所属し、高度な専門教育と研究を体系的かつ組織的に行う。本学部情報学科には、学生が情報学に関する幅広い分野を学べるよう、「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の 3 コースを設置する。各コースには、コース別カリキュラム担当責任者を配置するが、各教員は単独のコースに所属するのではなく、学部学科の教員として、横断的に学生の教育に努める。さらに、学部は、研究室間の横断的な研究活動を推奨する。このように、各教員は、個別に教育・研究を進めるのではなく、教員間の密接な連携により、教育効果を高めた上で教育・研究を行うのが本学部の教員配置の基本方針である。

(2)本学部の研究対象学問分野、研究体制

本学部では、知能システム分野、サイバーセキュリティ分野、実世界コンピューティング分野の 3 分野を基盤として情報科学、情報工学及びその関連分野、情報学の学際領域を主な研究対象学問分野とする。教育・研究の専門性を確保するため、専任教員の専門分野をコース/分野に当てはめると以下のようになり、専門分野に偏りがなく、各コースの研究領域を網羅できている。専門分野の専任教員は博士号保持者を中心に組織しており、十分な専門性を有する。これにより学部内で高度な研究体制を維持・発展することが可能である。なお、兼担教員及び非常勤講師についても、いずれもその分野において十分な経験や学識を有する人材を採用する。

コース / 分野別　専任教員の配置　（人）

コース / 分野	教授	准教授	講師	助教	計
知能システム	4	4	2	0	10
サイバーセキュリティ	2	4	3	1	10
実世界コンピューティング	5	5	3	0	13
語学系	1	0	2	0	3
合　計	12	13	10	1	36

(3) 主要科目（中核的科目・必修科目）への教員配置

本学部では、ゼミナール形式の少人数教育を施す必修科目である「基礎ゼミ 1・2」「情報学基礎ゼミナール 1・2」「情報学応用ゼミナール 1・2」「卒業研究」、並びに徹底してプログラミング技術を学ぶための必修実習科目の「プログラミング基礎 1・2」「プログラミング実習 1・2」「知能システムプロジェクト 1・2」「サイバーセキュリティプロジェクト 1・2」「実世界コンピューティングプロジェクト 1・2」を中核的科目として位置づけ、専任教員を重点的に配置している。

また、専門科目（基礎科目）のうち、情報学の専門科目を理解するために必須となる数学系必修科目の「基礎微分積分学」「基礎線形代数学 1・2」「確率統計」も専任教員が担当する。これにより、専門科目を担当する専任教員と緊密に連携しながら、情報学の専門教育に向けた基礎力を養う。さらに、学部共通専門科目、コース別専門科目の必修科目に関しても、その 9 割以上を専任教員が担当する。このように中核的科目を専任教員が担当することにより、教員間で緊密な連携を図ることが可能となり、講義科目と実践的な実習の相乗効果によって、急速な発展を遂げる科学技術の進歩に対応できる基礎力と適応力を持った人材を養成する。

なお、外国語科目に関しては、必修の英語科目である「英語総合 1・2」「オーラルイングリッシュ 1・2」「TOEIC 1・2」に専任教員を授業内容責任者として配置し、兼任・兼担教員と一体となり習熟度別クラス編成を実施する。

(4) 教員の負担への配慮

専門科目講義や実習の科目については最小限の開講としているが、1 年次から 4 年次まで全学年を通してゼミナールを行うことにより、担当科目数は多くなってしまう。しかしながら定期試験の廃止やメディア授業導入による授業運営の効率化、会議の Web 化による学内行政業務の効率化等により教員の負担を軽減し、研究時間を確保できるように配慮する。

(5) 教員組織の年齢構成

完成年度の 3 月 31 日時点における専任教員の年齢構成は以下の通りである。

（人）

	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
専門系	2	10	13	7	1	33
語学系	0	2	1	0	0	3
合　計	2	12	14	7	1	36

本学部は、学部全体として、年齢に大きな偏りはなく、永続的な教育に支障がない構成になっている。開設時の専任教員は全員が完成年度の 3 月 31 日まで在籍するため、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。本学教員の定年は、資料 4 のとおり、満 66 歳に到達した年度末(3 月 31 日)となっている。学部長は就任時に定年に達しているが、今後の学部運営には欠かせない存在であるため、理事会の承認を得て採用及び完成年度末までの任期付き専任教員として特別に雇用することとした。教員の年齢構成は 40 代、50 代が多くなっているほか、完成年度以降の退職者の補充として 30 代の講師を配置しており、段階的な昇格と若手教員を採用することで教育研究の永続性に支障は生じない計画としている。

（資料 4：学校法人近畿大学教・職員定年規程）

12. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学部は、大阪府東大阪市に位置する東大阪キャンパスに設置する。本学では、建物の新築、改修時にはリフレッシュスペースやラウンジ等、建物内においてコミュニケーションを生み出す空間を積極的に配置している。

東大阪キャンパスでは、学生の休息のためのスペースとして、11 月ホール地下の食堂スペースがあり、他にもＥキャンパスにあるブロッサムカフェの 1 階はフードコート、2 階 3 階はコミュニケーションスペースを有する。平成 29 年度に完成したアカデミックシアターにはカフェ空間があり、さらに令和元年 9 月に完成した 7 号館には、新たな食堂、カフェ、ラウンジが設置されている。

運動場は、東大阪キャンパス内に南グラウンド（6,075 ㎡）、東グラウンド（9,221 ㎡）、北テニスコート（3,378 ㎡）、学内Ｅキャンパスグラウンド（10,627 ㎡）、クラブセンターグラウンド（7,028 ㎡）を有しており、１年間を通じて「生涯スポーツ」等の授業

やクラブ活動で使用している。Ｅキャンパスグラウンド、クラブセンターグラウンド、南グラウンドは人工芝に改修され、北テニスコートはハードコート仕様に舗装されている。人工芝のグラウンドは怪我の少ない安全な運動施設であり、また降雨後速やかにグラウンドを使用することが可能なため、授業運営、クラブ活動の利点となっている。

本学では平成 26 年から「超近大プロジェクト」として東大阪キャンパスの大規模整備に着手しており、法学部、国際学部の新校舎、自習室を含む新施設・アカデミックシアター、新たな実験棟や食堂施設を建設してきた。また、令和 4 年度までに、理工学部改組に伴う改修工事及び情報学部の校舎の建設工事を実施予定である。東大阪キャンパスでは法学部・経済学部・経営学部・理工学部・建築学部・薬学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部及び通信教育部並びに近畿大学短期大学部が施設を共有して使用することになるものの、後述のように、教室、研究室等の施設・設備は、本学部の教育研究を行うにあたって十分に整備されている。また、その他の施設・設備についても本学部を含む全ての学部・学科等の需要を満たしており、学内の調整によって有効に使用することで教育研究にも支障はないと考える。

(2) 校舎等施設の整備計画

開設に合わせて建設される情報学部棟では、メディア授業等で自由に利用できる教室（487.60 ㎡）や、最大 180 人を収容できる教室（約 240 ㎡）を設置する。この教室では、1 学年 330 人を 2 クラス編成やコース単位に分けて講義を行うことができる。また、主に外国語科目で使用する教室（約 60 ㎡）の他に、10 名程度のゼミナール形式での少人数教育に対応できる演習室（約 27～40 ㎡）を数多く設置し、これらの演習室は企業連携型プロジェクトのミーティング等にも使用する。本学部の学生は各自ノートパソコンを持参し使用するため、実習科目専用の教室は必要としない。全館無線 LAN 対応とするが、バックアップ用として各部屋に有線 LAN を最低 1 口設置する。また、教室・演習室・研究エリアとは別に、e-sports 等のイベントを開催できるスペース（191.83 ㎡）と、本学部での研究成果・教育内容の展示や実験を行うことができるスペース「i-core」（170.28 ㎡）も設置される。学生研究スペースを研究エリアの中にあるオープンスペースに配置し、教育・研究に応じてアップデートできるよう設計されており、複数の研究室での合同研究を行うことも容易である。

教員研究室は、教育研究上支障のない広さを確保し、学生研究スペースに近接して配置されているため、学生指導も密に行うことが可能である。専任教員研究室を含む研究エリアの入口にはセキュリティゲートが設けられ、本学部教員及び研究室配属の学生・本学大学院総合理工学研究科の大院生のみが入室できる。その他学生等との面談には研究室エリア近くの会議室等を利用することで、相談内容等のプライバシーは守られる。

新設する情報学部棟の施設概要は以下の通りである。

区分	収容人数（人）	面積（㎡）	教室数	備考
教室	-	487.60	1	自由利用
	180	239.08	2	
		247.54	1	
	50	60.62	4	
		63.41	1	
演習室	30	39.65	6	
		39.73	3	
		39.23	3	
		41.06	1	
		41.01	1	
		39.69	1	
		39.44	1	
		38.11	1	
	20	27.21	1	
		27.16	1	
ネットワーク演習室	30	45.69	1	
		43.61	1	
e-sports	50	191.83	1	
i-core	50	170.28	1	

（3）図書等の資料及び図書館の整備計画

本学中央図書館は、東大阪キャンパスに位置し、現在約 150 万冊の図書と約 13,000 種の学術雑誌（国内・国外）を所蔵し、約 75,000 誌の電子ジャーナルや電子ブックと、データベース等の最先端サービスを提供している。また、平成 29 年 4 月にオープンした新施設アカデミックシアター内のビブリオシアターには、中央図書館分室として約 7 万冊の資料を収蔵している。加えて、本学図書館は所蔵情報のデータベース化とネットワーク化に力を入れ、全キャンパス図書館が共通の図書館システムを採用しており、各館連携によって蔵書を相互に利活用できる。

また、電子図書館化を推進するため、電子コンテンツの充実を図っている。新聞、文献、主題別等のデータベース（例：日経テレコン、第一法規法情報総合データベース、Factiva、eol、Literature Online、Business Source Premier、JDream Ⅲ、Web of Science）、電子ジャーナル・電子ブック（例：ScienceDirect、Nature、SpringerLink、Wiley Online Library）等、日本語だけでなく、英語、中国語、韓国語等多言語コンテンツを提供している。これらの電子コンテンツの利用に際しては、学内のみならず、学外からの利用を可能とする学外リモートサービスを提供し、オンライン授業等での支援を可能

としている。

平成 20 年度から近畿大学学術情報機関リポジトリシステムを導入し、本学内で刊行された紀要論文をはじめとする知的成果物を電子化し、無償で公開し、アクセス数も毎年増加している。今後も引き続きコンテンツ内容の整備を進める予定である。

中央図書館は、年間開館日が 330 日を越え、開講期には 8 時 45 分（試験期間は 8 時 30 分）から 22 時閉館の長時間にわたる学習支援を実現している。閲覧室には、情報検索、視聴覚資料の視聴、レポート作成のためのパソコンを設置し、無線 LAN 環境の提供により、情報検索設備環境の整備を図っている。中央図書館及びアカデミックシアターで併せて約 3,900 席の閲覧席を有している。また、アカデミックシアターにおいては、24 時間利用できる自習室を設置している。令和元年度の年間入館者は約 180 万人におよび、総合大学にふさわしい規模の図書館といえる。令和 2 年度はコロナ禍の影響で施設の使用制限や予約制入館等の対応をとらざるを得なかったが、その間も宅配図書貸出サービスを実施する等、資料提供を継続してきた。現在は感染予防対策を十分に行い、開館している。

学習支援として、1 年生を対象とした図書館ガイダンスの実施、オンデマンド講習会、学修サポートセミナー、情報検索ガイダンス等、継続した情報リテラシー教育の取組を行っている。また、国立情報学研究所や国立国会図書館をはじめ図書館等、国内及び海外の図書館・学術研究機関との総合目録システム図書館相互貸借システムによる相互貸借サービスにより学術情報資源の共有化を推進し、教育・研究支援に資する資料提供を行っている。

本学中央図書館は選書方針として、各学部授業担当教員が授業の中で使用する教科書、参考図書、推薦図書、学生希望図書等を最優先で購入し、毎年更新することで、利用頻度が特に高い新刊書を整備する予定である。また、この方針は今後も継続していく予定である。さらに、本学部に関連する分野に対応する図書資料（雑誌を含む）の更新をすすめ、教育環境の充実を目指していく。

本学部独自としては、母体となる理工学部情報学科から引き続き情報系の電子ジャーナルを購読し、開設後も教育研究の必要に応じて、図書整備を継続する。

電子ジャーナル

Computer networks : the international journal of computer and telecommunications networking. -- Vol. 31, no. 1/2 (Jan. 1999)-	Elsevier, c1999
Distributed computing. -- Vol. 1, no. 1 (Jan. 1986)-.	Springer International, 1986-.
Information and computation. -- Vol. 72, no. 1 (Jan. 1987)-.	Academic Press, c1987-. -- v. ; 23 cm.
International journal of information security.	Springer-Verlag
Journal of cryptology : the journal of the International Association for Cryptologic Research. -- Vol. 1, no. 1 (1988)-.	Springer International, 1988-.

13. 管理運営

本学の大学運営組織は、以下の三本の柱からなっている。第一は、経営責任を担う意思決定機関である理事会並びに評議員会、第二は、大学全般の重要事項についての審議機関である大学協議会並びに教育研究に関する専門的な審議を行う機関である各学部教授会と研究科委員会、第三は、これらの二つの組織が行った決定を実現するうえで実務的責任を負う事務部門である。

新たに設置される情報学部にも、近畿大学学則第 9 章第 52 条に基づき情報学部教授会が設置される。

教授会審議事項は、学長が掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとして、主に学生の入学、卒業、学位の授与等が挙げられる。また、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるものとして、主に学生の休学、退学、転学及び復学に関する事項、学生の試験に関する事項、教授、准教授、講師、助教及び助手の選考に関する事項等が挙げられる。

教授会は専任教授のみで構成されるが、それ以外に学長の承認を得て、議題の内容に応じその都度、専任教授以外の教職員を審議に加えることができ、学部の教授会運営要項により開催する。

教授会は、原則月 1 回の定例教授会のほか、必要に応じ臨時教授会が開催される。なお、教授会は学部長が招集しその議長となる。また、教授会審議の結果周知、事前調査、意見募集等のため、所属する専任教員をもって構成する教員全体会議を開催する。教員全体会議は学部長が招集し、学部長が指名したものがその議長となり、原則月 1 回の定例のほか、必要に応じて臨時会議を開催する。

教授会及び教員全体会議の議案は、学部長、学部長補佐、学科長、事務（部）長で構成される執行部会議で協議する。また、学部業務の円滑な運営を図るため学部長諮問委員会として人事委員会、学部常設委員会として教務委員会、予算委員会等を設置する。

14. 自己点検・評価

本学では、平成 4 年に「近畿大学における教育・研究に関する調査検討委員会」を発足させ、この委員会で審議を重ね、平成 7 年までには、本学の各学部・大学院研究科に「自己点検・評価委員会」が設置された。これにより自己点検・評価活動も各学部等の単位で日常的に行われるようになり、学生による授業評価（学生授業評価アンケート）も全学で行われる等定着してきた。

平成 7 年 11 月に、上記調査検討委員会の中に実務委員会を設け、この委員会を中心に各学部から提出された報告をもとに「近畿大学における教育・研究に関する現状と課題」（平成 8 年 7 月）をまとめた。

平成 12 年度に大学基準協会による相互評価を受け、平成 13 年 3 月に本学は相互評価認

定校として認定された。これを受けて本学では、本報告書と大学基準協会の相互評価認定通知書（助言及び勧告を含む）を収録した「近畿大学における教育・研究に関する現状と課題第 2 号」を、各学部等で改革の指針として活用されるように、本学全教職員に配布した（平成 13 年 7 月）。

上述の大学基準協会の相互評価認定通知書に附された助言及び勧告事項については、その後、3 年間本学が改善に取り組んできた結果を「近畿大学相互評価結果の改善報告書」として平成 16 年 7 月に大学基準協会に提出し、概ね良い評価を得た。このような経緯を踏まえて、平成 19 年度に第 1 期の大学認証評価を申請し、書面審査並びに実地視察を経て、本学は「大学基準協会の大学基準に適合している」と平成 27 年 3 月 31 日までの認定を得た。平成 26 年度には第 2 期の大学認証評価を申請し、「大学基準に適合していると認定する」ことが、平成 27 年 3 月に認定された。また、令和 3 年度には、第 3 期の大学認証評価を申請する計画となっている。

本学自己点検・評価委員会は、本学の教育、研究の充実と活性化を図り、大学の使命を果たすため、教育、研究等の現況とその独自性についての自己点検・評価に関する事項を調査検討することを目的とし、学長や副学長をはじめ、各学部・部局の長で構成されている。また、各部局・研究科にはそれぞれ自己点検・評価委員会が設置されており、教育研究の活動状況、精度、施設・設備の現状及びその運営状況について自己点検・評価を行っている。各部局・研究科における自己点検・評価結果をもとに報告書を作成し、これを全学の自己点検・評価委員会が集約・編集して、「近畿大学自己点検・評価報告書」を作成する。この報告書は大学ホームページの「情報公開」のページで公開され、本学の年次方針や年次計画の立案に役立てられているほか、各部局・研究科間で改革・改善の先行事例等の情報交換を容易にできるような仕組みが確立している。新たに設置する情報学部においても、これまでの本学の実績を生かし、自己点検・評価活動を進める計画である。

15. 情報の公表

本学の教育研究活動等の状況に関する情報提供は、近畿大学学則第 1 条の 3 に、「本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。」と定め、広くステークホルダーからの情報公開請求に対応している。そのため、情報公開のページ「情報公開」（https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/）を設け、積極的に情報の公開を行っている。

さらに、情報資産・情報セキュリティの重要性を認識した上で、その運用・利活用・保護に努めることが学校法人全ての構成員に対して求められると考え、本学では、「学校法人近畿大学情報セキュリティポリシー」（https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/security-policy/）を定めている。

（1）大学の教育研究上の目的に関すること

・建学の精神/教育の目的

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/founding-principle/

・近畿大学教育方針

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/

・教育研究の目的

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/

（2）教育研究上の基本組織に関すること

・歴史・年表

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/history/

・組織図

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/organizational-chart/

・財務・事業報告

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/financial-report/

（3）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教職員数（専任教員　職位・性別・年齢構成（令和２年５月１日）

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/teachers/

・教員一覧（氏名、職名、学位、専門、委員歴等）

http://research.kindai.ac.jp/search/index.html

・近畿大学学術情報リポジトリ（本学の教育研究活動において作成された学術研究成果等を収集・保存し、本学内外へ電子的手段により無償で発信・提供するもの）

https://kindai.repo.nii.ac.jp/

（4）入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/

・入学者数

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/new-students/

・学生数等（在籍学生数、卒業・修了者数、進学・就職者数、収容定員等）

https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/students/

・就職データ（進路状況、就職先）
https://www.kindai.ac.jp/career/data/all/

（5）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
・カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/
・教育研究の目的〈学則より抜粋〉　大学　教育研究の目的
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/#cont03
・授業計画（シラバス）
https://www.kindai.ac.jp/for-students/syllabus/
・年間行事予定表（学年暦）
https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/calendar/

（6）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
・学則
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/

（7）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
・教育施設・校舎
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/educational-facility/
・キャンパス案内（各キャンパス、研究所・センター等）
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/

（8）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
・学費・奨学金等（学費等一覧、学費の納入、その他諸経費等）
https://www.kindai.ac.jp/campus-life/tuition-scholarships/#cont01

（9）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
・留学プログラム（交換・派遣留学制度、語学研修）
https://www.kindai.ac.jp/campus-life/international-exchange/abroad/
・免許・資格について（教員免許、免許・資格）
https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/#cont05
・就職支援（キャリアセンター、課外講座案内、インターンシップ情報等）
https://www.kindai.ac.jp/career/
・厚生施設（メディカルサポートセンター、定期健康診断、カウンセリング等）
https://www.kindai.ac.jp/health/

・学生支援（学生相談室、保険、住居案内等）
https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/#cont06
・クラブ活動
https://www.kindai.ac.jp/campus-life/club/
・近畿大学学園学生健保共済会
https://www.kindai.ac.jp/campus-life/guide/wellness/

（10）その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果　等）
・ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/principle/policy/
・学則
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/overview/regulations/
・ハラスメント全学対策委員会（ハラスメント防止のためのガイドライン等）
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/harassment-measures/
・学校法人近畿大学倫理憲章
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/ethics/
・公益通報に関する受付・相談窓口
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/whistleblower-protection/
・学内規程（不正防止計画を含む）
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/research-funding/campus-regulations/
・情報の公表（文部科学省への申請・届出等）
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/educational-info/
・自己点検・評価
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/self-inspection/
・大学評価
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/disclosure/evaluation/

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学は、平成 18 年 2 月に「21 世紀教育改革委員会」を設置し、「学生を大切にする大学づくり」と「教員の教育力の向上と自己刷新」を目標に掲げて改革に取り組み始めた。平成 21 年 10 月からの同委員会による第二次教育改革では、第一次教育改革の成果を踏まえて、「学士力強化」「学習・学生生活支援」そして「大学院教育改革」の 3 つの行動目標

を掲げ、これに即した様々な取組を行ってきた。

平成 26 年 6 月には「グローバル推進」を行動目標に加え、平成 27 年からは、第三次教育改革として教育力向上・教育グローバル化を推進し、令和 2 年度からは ICT 教育検討委員会を新設した。今後 ICT を活用した授業の展開、学内の IT リテラシーの向上を推進・加速させていく。

「21 世紀教育改革委員会」の第一次教育改革において、平成 19 年 4 月に、教育改革の実現・実行のための組織として「教育改革推進センター」を設置した。現在、教育改革推進センターでは、FD（Faculty Development）の開発と企画・運営やシラバスの点検、授業評価アンケートや卒業アンケートの実施等、教育の改善に取組んでいる。

組織的な研修としては、教育改革推進センターによる全学 FD 研修会を年 2 回、新任教員研修会を毎年春と秋の計 2 回開催しており、これに加えて各学部並びに大学院が主催する FD 研修会も行われている。

なお、職員に対する組織的な研修（SD：Staff Development）については、前述の教育改革推進センターが、事務職員の資質向上にもつながるテーマ（中央教育審議会の答申を踏まえた学生の育成や、退学者の傾向と減少に向けた方策等）を設定し、「全学 FD・SD 研究集会」として事務職員全体に案内し、年 1 回程度開催している。また、各学部に教務委員会や FD 委員会が設置され、教育改善に関する研究と FD の企画・運営を行っている。

新たに設置する情報学部においても、教育改革推進センターを通じて、全学的な教育改善に参画すると共に、教育改革推進センターの協力のもと、本学部教務委員会や FD 委員会を中心に改善を推進する。

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（1）教育課程内の取組について

「実学教育」を重視し、急激に変化しつつある社会ニーズをとらえ、次世代の科学技術イノベーションを担う情報技術者を育成するため、本学部では徹底してプログラミング技術を学ぶための実習科目を 1 年次から 3 年次までの各学期に開講している。この実習科目では、社会で最も広く用いられているプログラミング言語のひとつである Java を中心に据えることで、社会で活躍できる情報技術者としての知識と技術を修得できる教育課程となっている。また、近年急速に普及が進む python 等他のプログラミング言語に関する実習（1 年次の「情報処理実習 1・2」等）も充実させることで、世の中の多様なニーズに応えることができる人材を養成する。さらに、2 年次以降、産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学習科目の「社会情報学実習 1・2・3・4」を開講し、企業の技術者と協働しながらグループ活動によるアイデアソンをハッカソンに取り組み、様々な制約の中で試行錯誤的に、より良い解決策を探る実践を通じ、情報技術

者として必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養する。

また、グローバル化に対応し、国際社会で活躍できる人材を育成するため、情報学分野の主要言語である英語教育を重視した教育課程としている。1年次から2年次を通してネイティブ教員によるコミュニケーション能力に焦点を当てた「オーラルイングリッシュ1・2・3・4」を開講し、さらに3年次には情報学分野の英語に特化したネイティブ教員担当の「IT英語1・2」を開講することで、国際的に通用するコミュニケーション能力を養成する。

以上に加え、3年次に「キャリアデザイン」を開講し、1. 業界研究・企業研究及び自己分析を行って自分自身を把握すること、2. 自分自身を取り巻く社会状況を理解すること、3. 社会人基礎力やコミュニケーション能力の大切さを理解し、これらを高めて進路を決める準備を行うこと、を課題とした講義を行う。これにより、将来の進路、技術者としての職業観の形成を計るとともに、自分に適した進学・就職の目標を設定すること及びその目標を達成するために必要な準備・対策に自主的に取り組む姿勢を養成し、社会的・職業的自立に関する意識の向上を図る。

（2）教育課程外の取組について

社会的・職業的自立を促すための教育課程外の取組は、主に全学的なキャリア支援の部署であるキャリアセンターとの連携によって行われる。学生のキャリア形成への意識づけと、キャリアガイダンス等の各種プログラムへの参加による情報提供及び活動支援が中心となる。キャリアセンターでは、学生ポータルサイト上にキャリア支援のサブポータルを設置し、キャリアサポート・プログラムを提示することで学生の就職活動の効率を高めると同時に、教職員が学生の就職活動の状況を容易に把握できるようにしている。入学直後からキャリアガイダンスを実施して就職への早期からの意識づけを行い、また、全学年対象のセミナーや業界研究会にも低学年時から参加させることで学年進行毎に社会的・職業的自立を促す支援を行っている。国内外のインターンシップの機会を1年次から提供するとともに、公務研究会、業界研究会等を通じてキャリア形成の機会を学生を問わず提供している。さらに、就職試験対策の模擬試験や検定試験対策講座、模擬面接等の具体的な支援体制も充実している。また、東大阪キャンパス以外に、東京センターでも就職相談や企業対応、就職支援プログラム等のキャリア支援を行っている。

本学部では、就職活動時に学生が基本的なIT技術や知識を習得していることを周知できるよう、入学時からゼミやガイダンス等で「基本情報処理技術者試験」の積極的な受験と早期取得を指導する。また、その後のステップとして、種々の職種に応じたハイレベルな資格についても継続的にアナウンスし、就職活動前の積極的な資格取得を促す。これは、学生自らが本学部のカリキュラムにより知識や技術を習得したことを納得したうえで自信を持って就職対策を行うことを意図する取組であり、新年度ガイダンス

やキャリアセンターと連携して実施する各種セミナー等で、積極的に学生へアナウンスしていく。また、本学部の前身にあたる理工学部情報学科では、複数の卒業生をパネラーにした業界研究会、企業エンジニアによるシステムインテグレータの業務内容研究会等のイベントを毎年実施しており、本学部でも継続する予定である。特に卒業生をパネラーにした業界研究会では、複数の大手企業に次世代に向けた取組を紹介してもらっている。学生は世界の企業がどんな方向性を見据えて今何に取り組んでいるのかを知ることで、「次世代のビジョン」について理解し、職業的自立心を高めている。

（3）適切な体制の整備について

情報学部では、卒業後の社会的・職業的自立に関する指導等を適切に実施するために「就職対策委員会」を設ける。本委員会の役割は主に 2 つある。

まず、教育課程外の取組の中心となるキャリアセンターと連携し、本学部の学生が全学的な就職支援に関する情報を容易に活用し、イベント等へも積極的に参加するような指導体制を構築することである。具体的には、学生へキャリアセンター主催の各種イベントについて周知し、学部独自で行う就職対策イベントにおいても、キャリアセンターの担当者による就職活動の現状や対策に関する指導を企画する。

次に、本学部独自の就職対策支援を行うことである。本学部生は全員指定の PC を持つことから、就職対策委員会が Slack や Google Classroom を活用して、学部に直接届く企業情報、求人票、推薦依頼、訪問に来た企業名等の情報をアナウンスし、学生が常時閲覧できる体制を構築する。また、本委員会から随時全学生へ Slack で様々なアナウンスを行う他、学生から本委員会へ Slack を介して個別に相談する等、双方向の対話ができる環境を整備する。また、本委員会では、前身である理工学部情報学科の就職対策活動を継続しつつ、社会との接点を多く持てるよう 1.就活への意識づけ、2.民間企業による情報関連職種の紹介・魅力を伝える講演、3.卒業生による次世代 IT のビジョンを見据えた現在の取組、4.学部就活規程（主に推薦応募の基準）に関する説明会を学部独自のイベントとして複数回に渡り企画・実施する。この他、常時、学生の就職活動の状況を指導教員にヒアリングし、個別の就職支援が必要な学生を早期に見つけ、指導教員と連携しながら当該学生に応じた就職対策を企画する。

このように、本委員会はすべての学部教員及びキャリアセンターと連携しながら本学部の進路指導の中枢を担う。上記の実施内容は理工学部情報学科において既に 5 年以上の継続実績がある。また、教員と学生は日常的に Slack で対話しており、就職対策に利活用することに支障はない。さらに、過去の資料を整備することで、新たに委員会に参画する教員へ安定的に業務を引継ぐ体制を構築している。

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

（資料１）情報学部カリキュラムツリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.2

（資料２）履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.5

（資料３）教育実習実施計画に関する書類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.8

（資料４）学校法人近畿大学教・職員定年規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・ｐ.12

知能システムコース　カリキュラムツリー（フロー図）

ディプロマポリシー	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
1.1）	基礎ゼミ1	基礎ゼミ2	情報学基礎ゼミナール1	情報学基礎ゼミナール2	情報学応用ゼミナール1	情報学応用ゼミナール2	卒業研究	卒業研究
1.2）	国際社会と日本 国際経済と企業の国際化	技術と倫理 科学技術の進歩と人権	資源とエネルギー		メディアの読み方	企業倫理と知的財産 キャリアデザイン	情報と職業	
2.1）	自校学習 現代社会と法 環境と社会 ドイツ語総合1 フランス語総合1 中国語総合1 韓国語総合1	ビジネスモデルとマネジメント 暮らしのなかの憲法 住みよい社会と福祉 ドイツ語総合2 フランス語総合2 中国語総合2 韓国語総合2	ドイツ語総合3 フランス語総合3 中国語総合3 韓国語総合3 ITビジネス基礎	心理と行動 ドイツ語総合4 フランス語総合4 中国語総合4 韓国語総合4	科学的問題解決法	情報セキュリティ		
2.2）					知能システムプロジェクト1	知能システムプロジェクト2	卒業研究	卒業研究
2.3）	生涯スポーツ1	生涯スポーツ2	社会情報学実習1	社会情報学実習2	社会情報学実習3	社会情報学実習4	卒業研究	卒業研究
3.1）	日本語の技法		情報学基礎ゼミナール1	情報学基礎ゼミナール2	情報学応用ゼミナール1	プレゼンテーション技術 情報学応用ゼミナール2	卒業研究	卒業研究
3.2）	英語総合1 オーラルイングリッシュ1	英語総合2 オーラルイングリッシュ2	TOEIC1 オーラルイングリッシュ3 ライティング1	TOEIC2 オーラルイングリッシュ4 ライティング2	アカデミックイングリッシュ1 IT英語1	アカデミックイングリッシュ2 IT英語2		
4.1）	基礎線形代数学1 基礎微分積分学 基礎物理学および演習 基礎化学および演習 基礎生物学	基礎線形代数学2 確率統計 化学 生物学 機械学習概論	離散数学 多変量解析 応用数学	機械学習1 数理計画法 統計データ解析		機械学習2		
4.2）	コンピュータ基礎	IoT オブジェクト指向プログラミング	ネットワーク技術 データ構造とアルゴリズム	Webシステム オブジェクト指向設計 実践機械学習 自然言語処理	人工知能 データベース論 メディア処理 情報理論 音声言語処理 コンピュータビジョン データモデリング	HCI データマイニング 医療情報学応用 知的エージェント		
4.3）	情報処理実習1 プログラミング基礎1	情報処理実習2 プログラミング基礎2	プログラミング実習1	プログラミング実習2	知能システムプロジェクト1	知能システムプロジェクト2		

サイバーセキュリティコース　カリキュラムツリー（フロー図）

ディプロマポリシー	1年		2年		3年		4年	
	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名
1.1）	基礎ゼミ1	基礎ゼミ2	情報学基礎ゼミナール1	情報学基礎ゼミナール2	情報学応用ゼミナール1	情報学応用ゼミナール2	卒業研究	卒業研究
1.2）	国際社会と日本 国際経済と企業の国際化	技術と倫理 科学技術の進歩と人権	資源とエネルギー		メディアの読み方	企業倫理と知的財産 キャリアデザイン	情報と職業	
2.1）	自校学習 現代社会と法 環境と社会 ドイツ語総合1 フランス語総合1 中国語総合1 韓国語総合1	ビジネスモデルとマネジメント 暮らしのなかの憲法 住みよい社会と福祉 ドイツ語総合2 フランス語総合2 中国語総合2 韓国語総合2	ドイツ語総合3 フランス語総合3 中国語総合3 韓国語総合3 暗号と情報セキュリティ ITビジネス基礎	心理と行動 ドイツ語総合4 フランス語総合4 中国語総合4 韓国語総合4 情報セキュリティ対策と管理1	科学的問題解決法 情報セキュリティ対策と管理2 サイバー犯罪学	情報と社会		
2.2）					サイバーセキュリティプロジェクト1	サイバーセキュリティプロジェクト2	卒業研究	卒業研究
2.3）	生涯スポーツ1	生涯スポーツ2	社会情報学実習1	社会情報学実習2	社会情報学実習3	社会情報学実習4	卒業研究	卒業研究
3.1）	日本語の技法		情報学基礎ゼミナール1	情報学基礎ゼミナール2	情報学応用ゼミナール1	プレゼンテーション技術 情報学応用ゼミナール2	卒業研究	卒業研究
3.2）	英語総合1 オーラルイングリッシュ1	英語総合2 オーラルイングリッシュ2	TOEIC1 オーラルイングリッシュ3 ライティング1	TOEIC2 オーラルイングリッシュ4 ライティング2	アカデミックイングリッシュ1 IT英語1	アカデミックイングリッシュ2 IT英語2		
4.1）	基礎線形代数学1 基礎微分積分学 基礎物理学および演習 基礎化学および演習 基礎生物学	基礎線形代数学2 確率統計 化学 生物学 機械学習概論	離散数学	情報数学				
4.2）	コンピュータ基礎	IoT オブジェクト指向プログラミング	ネットワーク技術 データ構造とアルゴリズム OSとコンピュータアーキテクチャ	Webシステム オブジェクト指向設計 ネットワークセキュリティ技術 ブロックチェーン	人工知能 データベース論 ソフトウェア工学 情報理論 セキュリティ解析技術 モバイル通信	組み込みシステム セキュリティ技術評価と実装技術 クラウドコンピューティング		
4.3）	情報処理実習1 プログラミング基礎1	情報処理実習2 プログラミング基礎2	プログラミング実習1	プログラミング実習2	サイバーセキュリティプロジェクト1	サイバーセキュリティプロジェクト2		

実世界コンピューティングコース　カリキュラムツリー（フロー図）

ディプロマポリシー	1年		2年		3年		4年	
	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名	前期 科目名	後期 科目名
1.1）	基礎ゼミ1	基礎ゼミ2	情報学基礎ゼミナール1	情報学基礎ゼミナール2	情報学応用ゼミナール1	情報学応用ゼミナール2	卒業研究	卒業研究
1.2）	国際社会と日本 国際経済と企業の国際化	技術と倫理 科学技術の進歩と人権	資源とエネルギー		メディアの読み方	企業倫理と知的財産 キャリアデザイン	情報と職業	
2.1）	自校学習 現代社会と法 環境と社会 ドイツ語総合1 フランス語総合1 中国語総合1 韓国語総合1	ビジネスモデルとマネジメント 暮らしのなかの憲法 住みよい社会と福祉 ドイツ語総合2 フランス語総合2 中国語総合2 韓国語総合2	ドイツ語総合3 フランス語総合3 中国語総合3 韓国語総合3 ITビジネス基礎	心理と行動 ドイツ語総合4 フランス語総合4 中国語総合4 韓国語総合4	科学的問題解決法	情報セキュリティ		
2.2）					実世界コンピューティングプロジェクト1	実世界コンピューティングプロジェクト2	卒業研究	卒業研究
2.3）	生涯スポーツ1	生涯スポーツ2	社会情報学実習1	社会情報学実習2	社会情報学実習3	社会情報学実習4	卒業研究	卒業研究
3.1）	日本語の技法		情報学基礎ゼミナール1	情報学基礎ゼミナール2	情報学応用ゼミナール1	プレゼンテーション技術 情報学応用ゼミナール2	卒業研究	卒業研究
3.2）	英語総合1 オーラルイングリッシュ1	英語総合2 オーラルイングリッシュ2	TOEIC1 オーラルイングリッシュ3 ライティング1	TOEIC2 オーラルイングリッシュ4 ライティング2	アカデミックイングリッシュ1 IT英語1	アカデミックイングリッシュ2 IT英語2		
4.1）	基礎線形代数学1 基礎微分積分学 基礎物理学および演習 基礎化学および演習 基礎生物学	基礎線形代数学2 確率統計 化学 生物学 機械学習概論		モデル最適化基礎	深層学習	深層強化学習		
4.2）	コンピュータ基礎	IoT オブジェクト指向プログラミング	ネットワーク技術 データ構造とアルゴリズム コミュニケーション論 エンターテインメントコンピューティング	Webシステム オブジェクト指向設計 ネットワークセキュリティ技術 人間中心設計論 コンピュータグラフィックス 調査データ分析	人工知能 データベース論 アドバンスドWebシステム 人工現実感 インタラクション設計	サービスコンピューティング 複合システムデザイン インタラクティブシステム 社会シミュレーション データマイニング		
4.3）	情報処理実習1 プログラミング基礎1	情報処理実習2 プログラミング基礎2	プログラミング実習1	プログラミング実習2	実世界コンピューティングプロジェクト1	実世界コンピューティングプロジェクト2		

〈知能システムコース〉

履修モデルI（人工知能人材）：サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材養成

【対象とする学生】

・人工知能・機械学習による知的な情報処理技術を駆使し、ビッグデータからの有用な情報の抽出や、より付加価値の高い情報の創出に関する知識・技術を身に着けたいと思う学生。

【履修の特徴】

・人工知能・機械学習手法の背後にある数理的な基礎を理解するための数学基礎科目や応用数学科目を履修する。

・人工知能・機械学習手法の実世界応用に関する科目を履修し、実世界における知的な情報処理技術の適用領域について理解する。

【卒業後の進路】

人工知能技術を取り扱う情報系企業、人工知能技術活用による業務改善を志向するメーカー

				1年		2年		3年		4年		単位数
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教養科目	人間性・社会性科目群		14単位以上		技術と倫理 2 必修 科学技術の進歩と人権 2 選択	資源とエネルギー 2 選択						14
	地域性・国際性科目群			国際社会と日本 2 選択								
	課題設定・問題解決科目群			基礎ゼミ１ 2 必修	基礎ゼミ２ 2 必修				プレゼンテーション技術 2 選択			
	スポーツ・表現活動科目群											
外国語科目			14単位以上	英語総合１ 2 必修 オーラルイングリッシュ１ 1 必修	英語総合２ 2 必修 オーラルイングリッシュ２ 1 必修	TOEIC１ 1 必修 オーラルイングリッシュ３ 1 選必 ライティング１ 1 選択	TOEIC２ 1 必修 オーラルイングリッシュ４ 1 選必 ライティング２ 1 選択	IT英語１ 1 選必	IT英語２ 1 選必			14
専門科目	基礎科目		12単位以上	基礎微分積分学 2 必修 基礎線形代数学１ 2 必修 コンピュータ基礎 2 必修 情報処理実習１ 1 選択	基礎線形代数学２ 2 必修 確率統計 2 必修 情報処理実習２ 1 選択							12
	学部共通専門科目		84単位以上	プログラミング基礎１ 2 必修	プログラミング基礎２ 2 必修 IoT 2 必修 オブジェクト指向プログラミング 2 必修 機械学習概論 2 選択	情報学基礎ゼミナール１ 2 必修 ネットワーク技術 2 必修 データ構造とアルゴリズム 2 必修 プログラミング実習１ 2 必修 離散数学 2 選必 ITビジネス基礎 2 選択 社会情報学実習1 1 選必	情報学基礎ゼミナール２ 2 必修 Webシステム 2 必修 オブジェクト指向設計 2 必修 プログラミング実習２ 2 必修 社会情報学実習2 1 選必	情報学応用ゼミナール１ 2 必修 人工知能 2 必修 データベース論 2 選択 情報理論 2 選必	情報学応用ゼミナール２ 2 必修 データマイニング 2 選必 情報セキュリティ 2 選必	卒業研究 8 必修		54
	コース科目	知能システム				多変量解析 2 選必 応用数学 2 選必	機械学習１ 2 選必 実践機械学習 2 選必 統計データ解析 2 選必 自然言語処理 2 選必 数理計画法 2 選択	知能システムプロジェクト１ 2 選必 メディア処理 2 選必 音声言語処理 2 選必 コンピュータビジョン 2 選必 データモデリング 2 選択	知能システムプロジェクト２ 2 選必 HCI 2 選必 機械学習２ 2 選必			30
		サイバーセキュリティ										0
		実世界コンピューティング										0
総単位数				16	22	22	22	19	15	0	8	124

※１）必修：必修科目、選必：選択必修科目、選択：選択科目、自由：自由選択科目

※２）自由選択科目は、卒業所要単位数には含まれないため、単位数の合計には加算していない。

〈サイバーセキュリティコース〉

履修モデル2（サイバーセキュリティ人材）：サイバー空間と実世界が高度に融合した社会においてセキュアなシステムを構築でき、かつ安全、安心に利活用できる人材養成

【対象とする学生】

・システムを安全、安心に利活用するための情報セキュリティ技術の開発や、システムを安全、安心に利活用する理論や実践応用に興味のある学生。

【履修の特徴】

・セキュアなシステム構築のために必須となるセキュリティ基礎やネットワーク系科目を履修する。

・システムを安全、安心に利活用する理論や実践方法について学ぶため、セキュリティ解析技術や、セキュリティ管理に関する科目を履修する。

【卒業後の進路】

セキュリティ情報系企業、情報セキュリティ管理者を必要とする多様な企業、警察

				1年		2年		3年		4年		単位数
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教養科目	人間性・社会性科目群		14単位以上	現代社会と法 2 選択	技術と倫理 2 必修				企業倫理と知的財産 2 選択			14
	地域性・国際性科目群			国際社会と日本 2 選択								
	課題設定・問題解決科目群			基礎ゼミ１ 2 必修	基礎ゼミ２ 2 必修				プレゼンテーション技術 2 選択			
	スポーツ・表現活動科目群											
外国語科目			14単位以上	英語総合１ 2 必修 オーラルイングリッシュ１ 1 必修 中国語総合１ 1 選択	英語総合２ 2 必修 オーラルイングリッシュ２ 1 必修 中国語総合２ 1 選択	TOEIC１ 1 必修 オーラルイングリッシュ３ 1 選必	TOEIC２ 1 必修 オーラルイングリッシュ４ 1 選必	IT英語１ 1 選必	IT英語２ 1 選必			14
専門科目	基礎科目		12単位以上	基礎微分積分学 2 必修 基礎線形代数学１ 2 必修 コンピュータ基礎 2 必修 情報処理実習１ 1 選択 情報システム基礎 (2) 自由	基礎線形代数学２ 2 必修 確率統計 2 必修 情報処理実習２ 1 選択 情報システム応用 (2) 自由							12
	学部共通専門科目		84単位以上	プログラミング基礎１ 2 必修	プログラミング基礎２ 2 必修 IoT 2 必修 オブジェクト指向プログラミング 2 必修	情報学基礎ゼミナール１ 2 必修 ネットワーク技術 2 必修 データ構造とアルゴリズム 2 必修 プログラミング実習１ 2 必修 離散数学 2 選必 社会情報学実習I 1 選必	情報学基礎ゼミナール２ 2 必修 Webシステム 2 必修 オブジェクト指向設計 2 必修 プログラミング実習２ 2 必修 ネットワークセキュリティ技術 2 選必 社会情報学実習2 1 選必	情報学応用ゼミナール１ 2 必修 人工知能 2 必修 情報理論 2 選必 データベース論 2 選択	情報学応用ゼミナール２ 2 必修	卒業研究 8 必修 情報と職業 2 選択		50
	コース科目	知能システム						コンピュータビジョン 2 選択				2
		サイバーセキュリティ				OSとコンピュータアーキテクチャ 2 選必 暗号と情報セキュリティ 2 選必	情報セキュリティ対策と管理１ 2 選必 情報数学 2 選必 ブロックチェーン 2 選択	サイバーセキュリティプロジェクト１ 2 選必 ソフトウェア工学 2 選必 情報セキュリティ対策と管理２ 2 選必 セキュリティ解析技術 2 選必 モバイル通信 2 選必 サイバー犯罪学 2 選択 ネットワーク演習１ (2) 自由	サイバーセキュリティプロジェクト２ 2 選必 組み込みシステム 2 選必 セキュリティ技術評価と実装技術 2 選必 情報と社会 2 選択 クラウドコンピューティング 2 選必 ネットワーク演習２ (2) 自由			32
		実世界コンピューティング										0
総単位数				19	19	17	19	23	17	2	8	124

※１）必修：必修科目、選必：選択必修科目、選択：選択科目、自由：自由選択科目

※２）自由選択科目は、卒業所要単位数には含まれないため、単位数の合計には加算していない。

〈実世界コンピューティングコース〉

履修モデル3（人間中心システム設計・構築人材）：IoT、AI、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合し、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材養成

【対象とする学生】

・IoTやAIといった技術をシステム設計・構築に応用することや、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出することに興味を持つ学生。

【履修の特徴】

・人間中心のシステム設計論を学ぶため、コミュニケーションやインタラクションの設計・評価に関する科目を履修する。

・実世界で計測されたデータを知的に解析するための応用数学科目や人工知能系の科目を履修する。

・サイバー空間での解析結果を実世界にフィードバックするためのエンターテイメント系科目を履修する。

【卒業後の進路】

情報系企業、エンターテイメント系企業、新たなサービスやイノベーションを創出する起業家

				1年		2年		3年		4年		単位数
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教養科目	人間性・社会性科目群		14単位以上		技術と倫理 2 必修		心理と行動 2 選択					4
共通教養科目	地域性・国際性科目群		14単位以上	国際経済と企業の国際化 2 選択	ビジネスモデルとマネジメント 2 選択							4
共通教養科目	課題設定・問題解決科目群		14単位以上	基礎ゼミ１ 2 必修	基礎ゼミ２ 2 必修				プレゼンテーション技術 2 選択			6
共通教養科目	スポーツ・表現活動科目群		14単位以上									0
外国語科目			14単位以上	英語総合１ 2 必修 オーラルイングリッシュ１ 1 必修	英語総合２ 2 必修 オーラルイングリッシュ２ 1 必修	TOEIC１ 1 必修 オーラルイングリッシュ３ 1 選必 ライティング１ 1 選択	TOEIC２ 1 必修 オーラルイングリッシュ４ 1 選必 ライティング２ 1 選択	IT英語１ 1 選必	IT英語２ 1 選必			14
専門科目	基礎科目		12単位以上	基礎微分積分学 2 必修 基礎線形代数学１ 2 必修 コンピュータ基礎 2 必修 情報処理実習１ 1 選択	基礎線形代数学２ 2 必修 確率統計 2 必修 情報処理実習２ 1 選択							12
専門科目	学部共通専門科目		84単位以上	プログラミング基礎１ 2 必修	プログラミング基礎２ 2 必修 IoT 2 必修 オブジェクト指向プログラミング 2 必修 機械学習概論 2 選択	情報学基礎ゼミナール１ 2 必修 ネットワーク技術 2 必修 データ構造とアルゴリズム 2 必修 プログラミング実習１ 2 必修 ITビジネス基礎 2 選択 社会情報学実習１ 1 選必	情報学基礎ゼミナール２ 2 必修 Webシステム 2 必修 オブジェクト指向設計 2 必修 プログラミング実習２ 2 必修 ネットワークセキュリティ技術 2 選必 社会情報学実習2 1 選必	情報学応用ゼミナール１ 2 必修 人工知能 2 必修 データベース論 2 選択	情報学応用ゼミナール２ 2 必修 情報セキュリティ 2 選必 キャリアデザイン 2 選択	卒業研究 8 必修		52
専門科目	コース科目	知能システム	84単位以上									0
専門科目	コース科目	サイバーセキュリティ	84単位以上									0
専門科目	コース科目	実世界コンピューティング	84単位以上			コミュニケーション論 2 選必 エンターテインメントコンピューティング 2 選必	人間中心設計論 2 選必 コンピュータグラフィックス 2 選必 モデル最適化基礎 2 選択	実世界コンピューティングプロジェクト１ 2 選必 アドバンスドWebシステム 2 選必 人工現実感 2 選必 インタラクション設計 2 選必 深層学習 2 選択	実世界コンピューティングプロジェクト２ 2 選必 サービスコンピューティング 2 選必 複合システムデザイン 2 選必 インタラクティブシステム 2 選必 深層強化学習 2 選必 社会シミュレーション 2 選択			32
総単位数				16	22	18	22	17	21	0	8	124

※１）必修：必修科目、選必：選択必修科目、選択：選択科目、自由：自由選択科目

※２）自由選択科目は、卒業所要単位数には含まれないため、単位数の合計には加算していない。

（資料３）教育実習実施計画に関する書類

様式第５号（教育実習実施計画に関する書類）

教　育　実　習　等　実　施　計　画
１　教育実習の内容及び成績評価等
①　教育実習の時期 〈教育実習〉４年次　５～７月
②　教育実習の実習期間・総時間数 〈教育実習〉中学校３週間（１２０時間）、高等学校２週間（６０時間）
③　実習校の確保の方法 〈教育実習〉a)卒業校への依頼（実習生の訪問による直接の依頼） b)教育委員会の管理下での実習校の斡旋 ※上記の方法によって実習校が確保できない場合は、本学附属学校及び近隣学校に大学から受入れ依頼を行っている。
④　実習内容 〈教育実習〉 a)授業参観　b)授業実践　c)副担任実践　d)クラブ活動指導 e)学校行事への参加（主として準備、生徒監督）
⑤　実習生に対する指導の方法 〈教育実習〉 ・教育実習実施する年度の４月にガイダンスを実施し注意事項や心構えを再度意識させる。 ・実習中は実習校教員の指導を主体としつつも大学教員の参加の下に教科指導、生徒指導、学級運営およびクラブ指導について、幅広く実践し、理解しうる体制をとる。
⑥　実習の成績評価（評価の基準及び方法） 〈教育実習〉 ※　評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。 実習校の成績：７０％、実習最終試験の成績：１５％、　実習ノートの評価：１０％、 実習直前ガイダンスの参加：５％ 上記７０％以上に単位認定 （ただし、教員としての適性が著しく欠けるとみる場合は、単位認定をしない。）
２　事前及び事後の指導の内容等
①　時期及び時間数 〈教育実習〉 事前指導 ・講義科目「教育実習指導」：3 年次前期または後期 ・教育実習申込ガイダンス：3 年次 4 月（90 分） ・教育実習直前ガイダンス：4 年次 4 月（90 分） 事後指導

・実習後のレポート提出
・教育実習最終試験：11 月下旬　試験 45 分　講義 45 分
・教育実習ノートの返却

②　内容（具体的な指導項目）

〈教育実習〉

事前指導

・「教育実習指導」内容
教育実習の目的と意義、学校の組織と運営、中学校・高校の現状、学指導案の作成方法
模擬授業

・教育実習申込ガイダンス
教育実習の心構え、修得必要単位数の確認

・教育実習直前ガイダンス
教材研究について、事前準備について

事後指導

・最終試験「教育実習での反省と課題」
・講義「教師に必要な資質と能力」
・教育実習ノートの点検と講評
※実習校からの成績がＣ評価の場合は個別指導

３　教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会（以下「委員会」という。）

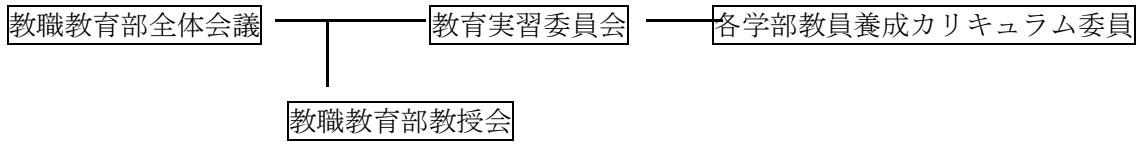
①　大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

・　委員会等の名称
教育実習委員会

・　委員会等の構成員（役職・人数など）
教職教育部教員 7 名（委員長 1 名、副委員長 1 名）、事務員 4 名

・　委員会等の運営方法
定例会議：第 2 木曜 4 限

【委員会の組織図】



②　大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等

（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

・　委員会等の名称
・　委員会等の構成員（役職・人数など）
・　委員会等の運営方法

【委員会の組織図】

※委員会等は特になく、教育委員会との連絡調整は必要に応じて事務部門が担当

4　教育実習の受講資格

1. 以下に掲げる科目を修得済みであること。　中学校19単位、高等学校19単位

領域	科目名	単位数	開講年次	修得状況
(a)	教職入門	2 単位	1 年次前期開講	修得済み
(b)	教育の思想と歴史 A	2 単位	1年次後期開講	2 領域以上から 6 単位以上修得済
	教育の思想と歴史 B	2 単位	1年次後期開講	
(c)	学習心理学	2 単位	1年次後期開講	
	発達心理学	2 単位	1年次後期開講	
(d)	教育行政学	2 単位	1年次後期開講	
	教育社会学	2 単位	1年次後期開講	
(f)	教育課程･方法論 A	2 単位	1年次後期開講	2 単位以上修得済み
	教育課程･方法論 B	2 単位	1年次後期開講	
－	各教科指導法Ⅰ	2 単位	2年次前期開講	修得済み
－	各教科指導法Ⅱ	2 単位	2年次後期開講	修得済み
(g)	道徳教育の理論と方法	2 単位	2年次前期開講	4 単位以上修得済み
(h)	生徒･進路指導論	2 単位	2年次前期開講	
(i)	教育相談	2 単位	2年次前期開講	
(k)	教育実習指導	1単位	3年次前期開講	修得済み

※英語科については、3年次にTOEIC500点以上のスコアを提出

5　実習校

教育実習	体験活動			
		学級数の合計	中学校 23 学級、高等学校 75 学級	
○	×	学校名	近畿大学附属高等学校（大阪府東大阪市若江西新町 5-3-1）　学級数：75　生徒数：2,883 人	
		教員数	126 人　（内訳）教諭１０９人、助教諭０人、講師１６人、養護教諭１人、養護助教諭０人、栄養教諭０人	
○	×	学校名	近畿大学附属中学校（大阪府東大阪市若江西新町 5-3-1）　学級数：23　生徒数：862 人	
		教員数	42 人　（内訳）教諭３４人、助教諭０人、講師７人、養護教諭１人、養護助教諭０人、栄養教諭０人	
×	×	教育実習委員会	中学校：０校	高等学校：０校

承諾書

近畿大学附属高等学校･中学校

（資料 3）近畿大学教職員定年規程

学校法人近畿大学教・職員定年規程

（目的）

第１条　人事停滞の弊害を防ぎ、学園の活性化を図ることを目的として、学校法人近畿大学職制第５条に定める職員において、二段階定年制を実施する。

（第一期定年）

第２条　学校法人近畿大学職制第５条に定める職員の各職種の定年年齢は、次のとおりとする。

（１）　大学及び短期大学教員　66歳、助手　60歳

（２）　高等専門学校、高等学校・中学校及び小学校教員　63歳

（３）　幼稚園教員　60歳、園長及び園長補佐　63歳

（４）　事務職員、技術職員及び現業職員　63歳

（５）　看護職員　60歳、看護長　63歳

（第一期定年の延長）

第３条　上記第２条に定める第一期定年年齢に達した教職員のうち、次に該当する場合は、理事会の承認を得て定年年齢を延長することができる。

（１）　大学院・学部・学校等の新設又は改変に伴い招聘した者及び招聘する者

（２）　教授として学問・研究業績に秀で研究上並びに教育上指導能力に秀でている者

（３）　校務運営又は業務運営上特に必要があると認められた者

（４）　その他、上記各号に準ずる者で理事会において特に必要があると認められた者

（第一期定年後の再雇用）

第４条　第一期定年年齢に到達し、定年した者で本人が希望し解雇事由又は退職事由に該当しない者については、高齢者雇用安定法に則って再雇用する。

２　再雇用する場合は、特任又は嘱託として雇用する。

３　再雇用の期間は１年間とする。ただし、更新可。

４　再雇用の更新が可能な範囲は、高齢者雇用安定法に定める年齢（65歳）に到達した日の属する年度末（３月31日）までとする。

（第二期定年）

第５条　上記第４条第４項で定めた年齢に到達した年度末（３月31日）をもって、第二期定年と定め雇用契約の終了とする。

（付帯規程）

第６条　この規程の実施に関する付帯事項として、別に付帯規程を定める。

附　則（平成17年４月１日）

この規程は、平成17年４月１日から施行する。

附　則（令和２年４月１日）

この規程の改正は、令和２年４月１日から施行する。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目　次

1．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
（1）学生の確保の見通し　・・・P2
①定員充足の見込み（概要）　・・・P2
②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要　・・・P5
（ア）人口推移並びに大学進学等の状況による中長期的な見通し
（イ）他大学同分野学部学科の学生募集状況
（ウ）既設学部学科の実績
（エ）受験対象者への進学需要調査
③学生納付金の設定の考え方　・・・P8
（2）学生確保に向けた具体的な取組状況　・・・P10

2．人材需要の動向等社会の要請
（1）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）　・・・P12
（2）上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである
ことの客観的な根拠　・・・P13
①社会及び地域における人材需給の見通し　・・・P13
②既設学科の就職状況　・・・P15
（ア）過去 5 年間の求人件数の状況
（イ）過去 5 年間の就職者の状況
③企業及び事業所への人材需要に関する採用意向調査　・・・P16

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（1）学生の確保の見通し

①定員充足の見込み（概要）

本学部の入学定員については、本学部の教育研究活動を広げ、推進していく必要があるとの考えのもと、養成する人材に係る社会的・地域的な需要を踏まえるとともに、教育研究活動の実施方法に留意しつつ、私立大学として安定的な財務基盤を築くことを前提に設定している。

その規模については、学生募集の最大の母集団となる 18 歳人口の推移を前提に、本学を設置する東大阪キャンパスが立地する大阪府の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学等の状況、情報系学部（情報系統）の大学進学等の状況、近隣の情報系学部の入学志願状況、本学の学生募集力等、本学を取り巻く様々な状況とデータを比較分析して想定した。そのうえで、外部委託により実施した大阪府を中心とする高等学校に在籍している高校生に対する進学需要調査、同様に大阪府を中心とする企業等に対する採用意向調査の結果を総合的に勘案し、他大学との競争力を有しつつ、確実に確保可能と見込まれ、かつ入学者選抜の機能が低下しない範囲の人数を入学定員として設定している。

＊基本計画書の「既設大学等の状況」の欄に記載した定員超過率が 0.7 倍未満の学科等について

〇法学部法律学科（通信教育課程）

本学法学部法律学科（通信教育課程）は、昭和 35 年（1960 年）に自ら苦学した経験をもつ創設者、世耕弘一の「学びたいものに学ばせたい」という理念に基づき設置された。同課程は関西における大学通信教育の草分けであり、大学の門戸を広く社会に開放する方針により、入学試験や選抜試験は行わず、入学資格を満たす者については入学を許可し、多くの人々を受入することができるよう設置当時の入学定員である 2,000 人を維持している。

通信教育課程の入学者数は、社会の状況によって大きく変化する傾向がみられ、近年においては、各大学の入学定員の拡大に伴う学修機会の増加や 18 歳人口の減少等の理由により、全国的に減少している。本学法学部法律学科（通信教育課程）については、入学定員 2,000 人に対し、令和 2 年 5 月 1 日現在の入学者数は 74 人、入学定員超過率は 0.05 であり、12 月 31 日現在の入学者数は 407 人、入学定員超過率は 0.20 となっている（表 1）。正科生については、入学定員を充足していない状態ではあるが、以下の表に示すように、入学者数に科目等履修生を加えると毎年入学定員を充足している。これは、通信教育課程の特性であるとともに、本学が提供する通信教育が社会人を中心とするニーズに応えられていることを実証する数字だと考えている。社会的ニーズの受け皿となっている現段階では、入学定員を削減するのではなく、後述する具体的な取組を行うことで、入学定員を充足できるよう努めたいと考えている。

表１　法学部法律学科（通信教育課程）の入学者状況（過去５年間）

項目	令和２年度	令和元年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
入学定員	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
入学者数	407	439	391	355	349
入学定員超過率	0.20	0.21	0.19	0.17	0.17
科目等履修生入学者数	2,038	2,041	2,175	2,255	1,955
正科生＋科目等履修生	2,445	2,480	2,566	2,610	2,304
科目等履修生を加えた入学定員超過率	1.22	1.24	1.28	1.30	1.15

（令和２年 12 月 31 日現在）

そこで、本学法学部法律学科（通信教育課程）では、特に以下９点について改善を進めている。

（ア）LMS（Learning Management System）の導入

平成 26 年度から LMS を導入し、居住地や勤務形態に囚われない学習環境の提供を開始した。

これまで単位修得に係る試験会場やスクーリング会場が近くになく、入学に至らなかった方々を中心に、入学促進を図っている。

（イ）ホームページのリニューアル

令和元年度、読みやすさ、わかり易さに重点を置き、また学園全体の最新情報を即時発信できるようホームページをリニューアルした。また、ホームページ上に掲載している『動画で見る入学説明会』を最後まで見ていただけるよう工夫に富んだ、学習方法が理解しやすいバージョンへのリニューアルを企画している。事前に本学での学習方法を理解いただくことで入学者の増加につなげたい。

（ウ）３年次編入学生の募集強化

専修学校専門課程を訪問し、当該学生及び進路指導担当教員に対して、卒業後の進路選択肢の一つとして本学を加えていただくよう説明を行っている。

（エ）提携する専門学校の新規開拓

専修学校専門課程を訪問し、専門学校に在籍しながら、大学卒業資格も取得できるダブルスクールの魅力を伝えている。

学習継続に必要な諸手続等の当該学校での事務的負担を軽減するため、団体でのスクーリング申込み、試験申込み、費用の一括請求等をオンラインから行える機能を平成 27 年度に本学独自のポータルサイトに追加し、他大学との差別化を図っている。

（オ）通信教育サポート校の新規開拓

居住地に近い場所で、通信教育課程における学習サポートを担える教室を全国各地に設置しようと、専修学校を中心に提携を提案している。これまでのダブルスクールと比

較すると、学生は通信制大学の卒業のみを目的とするため、学習における負担が大幅に軽減され、サポートに係る費用を抑えられる。大幅な入学者数増加につながると期待している。

（カ）入学説明会の内容充実

本学法学部法律学科及び近畿大学短期大学部商経科の通信教育課程が合同で開催している入学説明会では、平成 26 年度秋季から、来場者の満足度向上に重点を置き、運営方法を一新した。開催告知対象を広げ、学習方法、学習サポート、必要経費等の説明に加え、本学 LMS を体験できるコーナーの設置、個別相談コーナーの人員を増やし満足度の向上に努めてきた。

その結果、平成26年度は24.2%であった説明会来場者の入学率が、令和元年度 40.3%、令和 2 年度 47.0%と着実に実績をあげている。

令和 2 年度の入学説明会からはプレゼンテーションアプリを採用しており、入学後の学習方法について理解を深めていただくことで入学者数増加につながると期待している。

（キ）SNS の活用

令和元年度から科目終末試験実施やスクーリング開講、全国各地で行っている学習相談会、ソフトバレーボール大会等、学事行事を Facebook ページで発信している。

入学前から学生生活を身近に感じていただくことで入学者の増加につながると期待している。

（ク）学費一括収納制の導入

令和2年度から、面接授業科目の履修や通信授業科目における定期試験申込みの都度、請求を発生させるこれまでの仕組みから、年間に必要な学費を一括で請求する方式に変更した。都度振込みの手間を省くことによる利便性向上、明朗な学費制度による安心感が学生募集に寄与するものと期待している。

（ケ）メディア授業の拡充

今後は、これまで通信授業科目としてしか開講していなかった科目のメディア授業化を進めていく予定である。自学自習によるレポート作成及び試験と比較し、教員に直接質問できるメディア授業の比率を高めることで卒業率が向上し、ひいては学生募集につながるものと期待している。

②定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

（ア）人口推移並びに大学進学等の状況による中長期的な見通し

1）18 歳人口の動向による長期的な見通し

文部科学省「18 歳人口と高等教育機関への進学率の推移」によると、全国における 18 歳人口は 2020 年頃までは、ほぼ横ばいで推移するが、2021 年頃から再び減少することが予測され、2040 年には約 88 万人まで減少することが予測されている。

同様に、文部科学省「高等教育に関する基礎データ」によると、大阪府における 18 歳人口は 2017 年の 85,687 人から 2040 年には 58,280 人まで減少することが長期的には予測されている。

2）大阪府内の高等学校及び中学校の在籍者数

令和 2 年度の学校基本調査によると、大阪府における情報学部設置の初年度に受験対象者となる大阪府内の高等学校（全日制）に在籍している 2 年生の生徒数は 69,688 人、2 年目に受験対象者となる大阪府内の高等学校（全日制）に在籍している 1 年生の生徒数は 70,985 人となっている。

また、3 年目に受験対象者となる大阪府の中学校に在籍している 3 年生の生徒数は 72,321 人、4 年目に受験対象者となる大阪府の中学校に在籍している 2 年生の生徒数は 73,926 人で、大阪府の中学校を卒業した者の高等学校等への進学率を勘案した場合でも、例年ほとんどの学生が高等学校に進学することから、大阪府において長期的には 18 歳人口が減少するものの、中期的に大阪府内の大学受験対象者が大きく減少することはないと予測される。

3）大阪府内の大学進学状況

学校基本調査によると、大阪府内の高等学校を卒業した者の過去 3 年間の大学進学状況は、平成 29 年度は卒業者 75,043 人のうち大学進学者は 40,390 人で大学進学率は.53.8%、平成 30 年度は卒業者 73,826 人のうち大学進学者は 40,006 人で大学進学率は 54.1%、令和元年度は卒業者 72,555 人のうち大学進学者は 40,987 人で大学進学率は 56.4%となっており、ほぼ一定割合の大学進学者数と大学進学率を保っている。

また、過去 3 年間の大学入学者の大阪府外からの流入者と大阪府外への流出者の差を見ても、平成 30 年度は 7,212 人、令和元年度は 6,802 人、令和 2 年度は 8,087 人と、各年度で約 6,000 人から 8,000 人の流入超過となっており、この傾向から、府外からの入学者を確保できる見込みがある。さらに、前述 2）のとおり、今後の大学受験対象者となる大阪府内の高等学校及び中学校の在籍者数が大きく減少する見込みはないことから、本学の中心的なターゲット層となる大阪府で、中期的に志願者の確保ができるものと見込まれる。

（イ）他大学同分野学部学科の学生募集状況

理工・情報系学部を擁する近隣の大学（関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、京都産業大学、甲南大学、龍谷大学）の平成 30 年度から 令和 2 年度の一般入試募集状況は以下のとおりである（表 2）。（競争率は、比較検討のため志願者数を募集人員で除した志願倍率で示す。）

志願倍率の平均は、関西大学 27.6 倍、関西学院大学 15.1 倍、同志社大学 21.9 倍、立命館大学 19.3 倍、京都産業大学 49.3 倍、甲南大学 14.6 倍、龍谷大学 17.4 倍である。

これにより、本学部を設置する関西圏の受験生の理工・情報系学部に対する関心度は十分高いものと考える。

表 2　関西圏他大学理工・情報系学部における一般入試募集状況（過去 3 年間）

大学名	学部名	年度	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率
関西大学	システム理工	令和 2	329	9,686	9,407	1,988	29.4
		令和元	329	8,975	-	2,657	27.3
		平成 30	329	8,618	8,387	2,349	26.2
関西学院大学	理工	令和 2	407	5,920	-	2,025	14.5
		令和元	407	6,645	-	1,989	16.3
		平成 30	407	5,937	-	2,462	14.6
同志社大学	理工	令和 2	523	11,287	-	4,556	21.6
		令和元	523	11,214	-	4,272	21.4
		平成 30	523	11,870	-	4,625	22.7
立命館大学	情報理工	令和 2	266	5,500	5,334	1,877	20.7
		令和元	266	4,536	4,409	1,637	17.1
		平成 30	266	5,384	5,238	1,414	20.2
京都産業大学	情報理工	令和 2	87	4,629	4,375	609	53.2
		令和元	87	4,133	3,899	499	47.5
		平成 30	89	4,210	4,038	272	47.3
甲南大学	知能情報	令和 2	90	1,472	1,438	305	16.4
		令和元	90	1,601	1,556	286	17.8
		平成 30	90	871	836	322	9.7
龍谷大学	先端理工	令和 2	330	6,390	5,662	1,695	19.4
	理工	令和元	318	6,209	5,599	1,511	19.5
		平成 30	318	4,275	3,762	1,325	13.4

※数の公表が他の入試方式や複数日程の合算や、非公表の場合には「-」を記載。

出典：①螢雪時代　全国大学受験年鑑　2020 年 11 月臨時増刊　2021 年（令和 3 年）入試対策用
②螢雪時代　全国大学受験年鑑　2019 年 11 月臨時増刊　2020 年（令和 2 年）入試対策用
③螢雪時代　全国大学受験年鑑　2018 年 11 月臨時増刊　2019 年（平成 31 年）入試対策用

（ウ）既設学部学科の実績

本学部の基礎となっている「理工学部情報学科」の過去 5 年間の志願者数は、平成 28 年度 4,734 人（志願倍率 27.8 倍）、平成 29 年度は 4,913 人（志願倍率 25.9 倍）平成 30 年度は 5,507 人（志願倍率 29.0 倍）、平成元年度は 7,408 人（志願倍率 39.0 倍）、令和 2 年度は 7,854 人（志願倍率 41.3 倍）と年々増加し、十分な志願者を得てきた。入学者について過去 5 年の平均では、定員を充足している（表 3）。

また、一般入試募集状況をみても志願倍率は 32.7～45.6 倍となっており、「表 2　関西圏他大学理工・情報系学部における一般入試募集状況」と比較しても、本学の理工学部情報学科の志願倍率の方が高い傾向であることから、近隣他大学の中でも競争優位性があるものと考える（表 4）。

表 3　理工学部情報学科　志願者数と入学定員超過率（過去 5 年間）

年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率	入学者数	入学定員超過率
令和 2	190	7,854	7,373	993	41.3	187	0.98
令和元	190	7,408	7,025	923	39.0	186	0.98
平成 30	190	5,507	5,145	942	29.0	205	1.08
平成 29	190	4,913	4,672	944	25.9	207	1.09
平成 28	170	4,734	4,449	890	27.8	189	1.11

（志願者・受験者・合格者数については、延べ人数を記載）

表 4　近畿大学理工学部情報学科の一般入試募集状況（過去 4 年間）

年度	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	志願倍率
令和 3	133	5,313	4,945	899	39.9
令和 2	133	6,064	5,608	757	45.6
令和元	133	5,863	5,494	700	44.1
平成 30	133	4,351	4,012	698	32.7

（エ）受験対象者への進学需要調査

本学部の設置計画を策定するにあたっては、前述のように大阪府内の 18 歳人口の動向、高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況、本学及び他大学の志願状況等を踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものであるが、学生確保の見込みについて定量的なデータから検証することを目的として、令和 2 年度（2020 年 9 月 2 日～2021 年 1 月 22 日）の期間に、本学への進学実績に基づき在籍者が多い出身都道府県に所在する高等学校に在籍している 2 年生（令和 4 年 3 月卒業予定者）を対象としたアンケート調査を学外の調査機関である丸善雄松堂株式会社に委託して実施した

（資料 1：近畿大学新学部学科設置計画に係るニーズ調査報告書（高校生編）＊以下、「高校生アンケート報告書」と称する）。

本学への志願・入学実績のある大阪府の高等学校を中心に、本学附属高等学校を含む 387 校に対して、本学部学科への興味・関心、進学意向等の進学需要に関するアンケート調査を実施した。うち、有効回答数は 26,552 件（26,552 人）で、回収率は 41.3%である（高校生アンケート報告書 P2）。

その結果、有効回答 26,552 人のうち 7.5 %にあたる 1,994 人は本学部学科への興味・関心について「興味・関心がある」と回答しており、17.3%にあたる 4,599 人は「ある程度の興味・関心がある」と回答しており、程度の差はあるものの 2 割以上の学生は本学部学科に対して興味・関心があることがうかがえる（高校生アンケート報告書 P12）。

進学意向については、有効回答 26,552 人のうち 1.3%にあたる 357 人が「進学を希望する」と回答しているが、Q9)理工学部 エネルギー物質学科への進学意向でも「進学を希望する」と回答した 135 人を、Q4)進学希望によって両学科へ振り分けると本学部学科へ「進学を希望する」人数は 274 人となる。

また、「2020 年度大学志望度調査」における本学部の基礎となる理工学部情報学科 1 年生の大学志望度では、第一志望で入学した学生が 35.7%であったのに対し、第一志望以外で入学した学生が 64.3%存在した。本学部においてもこの比率が変わらないと仮定して、上記アンケートで第一志望での進学が見込まれる「進学を希望する」人数 274 人から、第一志望以外で本学部への進学が見込まれる人数を算出すると、

第一志望（進学を希望する）35.7%：第一志望以外（進学を検討する）：64.3%

＝274 人：493 人

となる。このことから、理工学部エネルギー物質学科へ「進学を希望する」回答者を除いた本学部へ「進学を検討する」と回答した 2,088 人からも第一志望以外で 493 人の進学が見込まれる。以上から、本学部への進学需要は 274＋493＝767 人で入学定員 330 人の 2.3 倍となり、入学定員数を上回る入学意向者が見込める（高校生アンケート報告書 P19）。

③学生納付金の設定の考え方

学部学科等を新設する際、本学では大学の経営に係る財務的な視点と学生への還元等、受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、大学の将来の発展を目的とする施設･設備の充実を考慮するとともに、近隣他大学の類似学部学科の状況を勘案したうえで、学生納付金を設定している。なお、金額については完成年度に収支の均衡の見通しが持てることを前提に、教育研究経費比率や経営経費依存率を見据え、学部学科の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づき設定している。

本学部の学生納付金は、本学部の基礎となっている既設の理工学部情報学科の金額と同様であり、その内訳は、本学の医学部を除く理系学部（理工、建築、薬、農、生物理工、工、産業

理工）と同様に、入学金、授業料、課外活動育成費、学生健保共済会費、校友会終身会費から成る。なお、入学金（入学時のみ納付：250,000 円）、課外活動育成費（毎年納付：20,000 円）、学生健保共済会費（毎年納付：6,500 円）については、東大阪キャンパスの他の理系学部と同額である。

授業料は、4 年間合計額で 5,948,000 円であり、本学理系学部と比較しても、同額もしくはやや高い設定となっている（表 5）。

表 5　本学理系学部学生納付金※1　（円）

キャンパス名	学部名（学科名）	入学金（入学時）	授業料					課外活動育成費（毎年）	学生健保共済会費（毎年）	校友会終身会費※2
			1 年	2 年	3 年	4 年	合計			
東大阪	理工	250,000	1,442,000	1,472,000	1,502,000	1,532,000	5,948,000	20,000	6,500	30,000
	建築	250,000	1,442,000	1,472,000	1,502,000	1,532,000	5,948,000	20,000	6,500	
	薬	250,000	1,442,000	1,472,000	1,502,000	1,532,000	5,948,000	20,000	6,500	
	情報	250,000	1,442,000	1,472,000	1,502,000	1,532,000	5,948,000	20,000	6,500	
奈良	農	250,000	1,442,000	1,472,000	1,502,000	1,532,000	5,948,000	20,000	4,500	
和歌山	生物理工	250,000	1,442,000	1,472,000	1,502,000	1,532,000	5,948,000	20,000	4,500	
広島	工	250,000	1,378,000	1,408,000	1,438,000	1,468,000	5,692,000	20,000	4,500	
福岡	産業理工（経営ビジネス以外）	250,000	1,244,000	1,274,000	1,304,000	1,334,000	5,156,000	20,000	4,500	

※1 医学部・薬学部医療薬学科（6 年制）を除く
※2 入学年次に 20,000 円、最終年次に 10,000 円を徴収する。

また、本学部及び、理工・情報系学部を擁する近隣の大学（関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、京都産業大学、甲南大学、龍谷大学）の入学金、授業料、その他納入金、初年度納入金計は、それぞれ以下のとおりである（表 6）。近隣の大学と比較して、ほぼ同額かやや高い学費設定となっており、学生募集に影響はないものと考えられる。

表 6　関西圏他大学理工・情報系学部授業料等　（円）

大学名（学部名）	入学金	授業料	その他納入金	初年度納入金計
近畿大学（情報学部）	250,000	1,442,000	26,500	1,718,500
関西大学（システム理工学部）	260,000	1,493,000	27,000	1,780,000
関西学院大学（工学部）	200,000	1,117,000	389,000	1,706,000
同志社大学（理工学部）	200,000	1,231,000	305,000	1,736,000
立命館大学（情報理工学部）	200,000	1,566,200	23,000	1,789,200
京都産業大学（情報理工学部）	200,000	1,008,000	315,500	1,523,500
甲南大学（知能情報学部）	300,000	1,077,000	239,500	1,616,500
龍谷大学（先端理工学部）	260,000	1,029,000	306,600	1,595,600

出典：螢雪時代　全国大学受験年鑑　2020 年 11 月臨時増刊　2021 年（令和 3 年）入試対策用

関西学院大学工学部（2021 年 4 月開設）　2021 年度入学試験要項

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた取組については、まず大学全体の取組を（ア）入試制度、（イ）オープンキャンパス及び各種説明会、（ウ）広報活動の観点から概説し、次に（エ）本学部独自の取組及び予定について説明する。

（ア）入試制度における学生確保の取組

本学は、あらゆる受験生のニーズに応えるべく入試制度を敷き、また、入試サービス面での改善を継続的に行っている。毎年、多くの入試日程を用意し、共通テストを利用した共通テスト利用方式や、本学の試験と併用した共通テスト併用方式も実施している。令和 3 年度入試からは、共通テスト利用方式において、第 5 志願までの受験料値下げを実施し、受験生の負担軽減のために対策をとっている。また、令和 3 年度入試より、一般選抜すべての試験で共通テスト併用方式を導入することで併願の機会を増やしている。

さらに、日程以外にも遠隔地の受験生の負担を軽減するため、本部キャンパスが位置する東大阪の他、日本各地で地方試験を実施し、鹿児島・徳島・広島・金沢・名古屋・東京等に試験会場を設置している。

（イ）オープンキャンパス及び各種説明会

本学部を設置予定の東大阪キャンパスにおいては、例年 3 月・7 月・8 月・9 月と年間 4 回オープンキャンパスを実施し、受験生への情報公開に努めている。令和元年度の全キャンパスにおける来場者数は延べ 50,903 人で、西日本の大学で 1 位である（朝日新聞出版『大学ランキング 2021 年版』より）。令和 2 年のコロナ禍においては、キャンパスを開放して毎年開催している「OPEN CAMPUS」に対して、「CLOSE＝閉める」と「CLOSE＝近い」とい

う 2 つの意味を込めた造語である「CLOSE CAMPUS」という名で、7 月・8 月・9 月に完全オンラインで開催し、遠隔地の高校生も参加することが可能となった。

本学入学センターが実施している学生募集活動としては、キャンパス見学会、高校内ガイダンス、出張講義（出前授業）、業者主催進学相談会、高校訪問・予備校訪問があり、依頼に対し精力的に対応している。その他、本学広報室主催の「入試合格対策講座＆説明会」があり、令和 2 年度は 10 月と 12 月に上限人数を設定したうえで予約を受け付ける来場形式とオンラインで開催した。

（ウ）広報活動

本学は年間約 500 本のニュースリリースをメディアに配信し、大学の情報発信を積極的に行っている。新聞やテレビで報道されることで、大学の研究成果や取組が広く一般の方々に理解されることに繋がり、大学のブランド力向上に寄与している。「日経 BP コンサルティングの大学ブランド・イメージ調査（2019-2020）近畿編」で京都大、大阪大に続き、初めて 3 位となった。

表 7　大学ブランド総合力

今回順位	前回順位	大学種別	所在地	大学名	大学ブランド総合力（偏差値）
1	1	国立	京都府	京都大学	89.7
2	2	国立	大阪府	大阪大学	74.6
3	5	私立	大阪府	近畿大学	71.4
4	6	私立	京都府	同志社大学	70.0
5	7	私立	大阪府	関西大学	69.1

（出典：株式会社日経 BP コンサルティング「大学ブランド・イメージ調査（2020-2021）」

https://consult.nikkeibp.co.jp/info/news/2020/1125ubj_4/

また、近大マグロ等、印象的なビジュアルを使った広告にも定評があり、他大学にはないイメージ戦略で各新聞社の広告賞を毎年受賞している。

（エ）本学部独自の取組及び予定

学部設置届出の性質上、学生確保の取組には制限があるが、令和 2 年 4 月に学部に先行して設置した情報学研究所のプレスリリースでは、情報系学部の構想について触れており、イベントやオープンキャンパス等において PR 活動を実施している。今後、収容定員に係る学則変更の認可が下り次第、入学センター主催の募集活動及び各種説明会を通して、きめ細かく学生確保の取組を行う予定である。また、テレビ、新聞、雑誌、インターネット等、様々な媒体を利用し、本学部の特長、カリキュラムや身に付く能力、将来の進路等をイメージさせる本学部独自のビジュアルを制作し、広告展開をする予定である。

以上、（ア）入試制度、（イ）オープンキャンパス及び各種説明会、（ウ）広報活動、（エ）本学部独自の取組の 4 つの観点から、学生確保は十分に達成できると考える。

2. 人材需要の動向等社会の要請

（1）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学部は、未来志向の「実学教育」と「人格の陶冶」という本学の建学の精神を人材育成の礎としたうえで、Society5.0 の実現に向けて第 4 次産業革命（IoT・ビッグデータ・AI 等）が進展する中、AI 活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザイン等、第 4 次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を養成することを目的としている。

本目的を具現化するために、IoT、AI、クラウドコンピューティング等、最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う情報学の専門的な知識を得るための講義科目をバランス良く配置し、人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための数学を中心とした基礎学力に加え、情報技術を組み合わせて、様々な情報処理システムを構築するための実践的な知識と応用力の習得を目指す。高度な専門教育を体系的かつ組織的に行うとともに、学生が情報学に関する幅広い分野の中から系統的に学べるよう、「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の 3 つのコースを設置する。これらはいずれも「Society 5.0」の根幹となる、サイバー空間と実世界を高度に融合させたシステムの運用や開発に従事する ICT 技術者を養成するためのコースである。それぞれのコースでは、サイバー空間に蓄積する大規模データの利活用や、そのセキュアな流通、また、サイバー空間と実世界との橋渡しに関する技術を扱い、社会のニーズに即したエンジニア人材の養成を特徴とする。

〔知能システムコース〕

サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材を育成する。そのために、人工知能・機械学習の数理的な基礎や最新動向について学ぶだけでなく、実践的な実習を通じて実世界への応用に必要な知識・技能の習得を図る。具体的な進路として、ソフトウェア開発系企業、情報サービス系企業、金融系企業、ベンチャー企業、また、国内外の大学院への進学等が想定される。

〔サイバーセキュリティコース〕

サイバー空間に大規模データを収集し、利活用するための安全な情報基盤を構築する ICT アーキテクトや、高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材を育成する。そのために、各種システム基盤を安全に構築・運用・管理するためのコンピュータ、ネットワーク及びサイバーセキュリティに関する知識・技術の習得を図る。特に、このコースの科目群を履修することで、サイバーセキュリティ分野の国家資格である「情報処理安全確保支援士」の一部試験の受験が免除されるように計画している。具体的な進路として、情報セキュリティ系企業、通信系企業、公務員、金融系企業、ソフトウェア開発系企業、ベンチャー企業、また、国内外の大学院への進学等が想定される。

〔実世界コンピューティングコース〕

実世界とサイバー空間を橋渡しし、IoT、AI 及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合して、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材を育成する。そのために、生活を便利にするモノのインターネット(IoT)の実装に必要な要素技術を学ぶだけでなく、これらのシステムの運用に必要な知識・技能の習得を図る。具体的な進路として、情報サービス系企業、ソフトウェア開発系企業、通信系企業、交通インフラ系企業、ベンチャー企業、また、国内外の大学院への進学等が想定される。

（2）上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

①社会及び地域における人材需給の見通し

わが国では、IoT を最大限に活用し、サイバー空間と実世界を高度に融合させた超スマート社会「Society 5.0」の実現に向けた取組が進んでいる。Society5.0 実現のためには、IoT の情報処理基盤技術はもちろんのこと、AI やサイバーセキュリティ等、広範な知識をもつ IT 技術者が必要不可欠である。その一方で、平成 31 年 4 月経済産業省「IT 人材需給に関する調査（概要）」及び 2016 年経済産業省「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」によると、先端 IT 人材やサイバーセキュリティ対策に対応できる情報セキュリティ人材は大きく不足するとされている（表 8・表 9）。

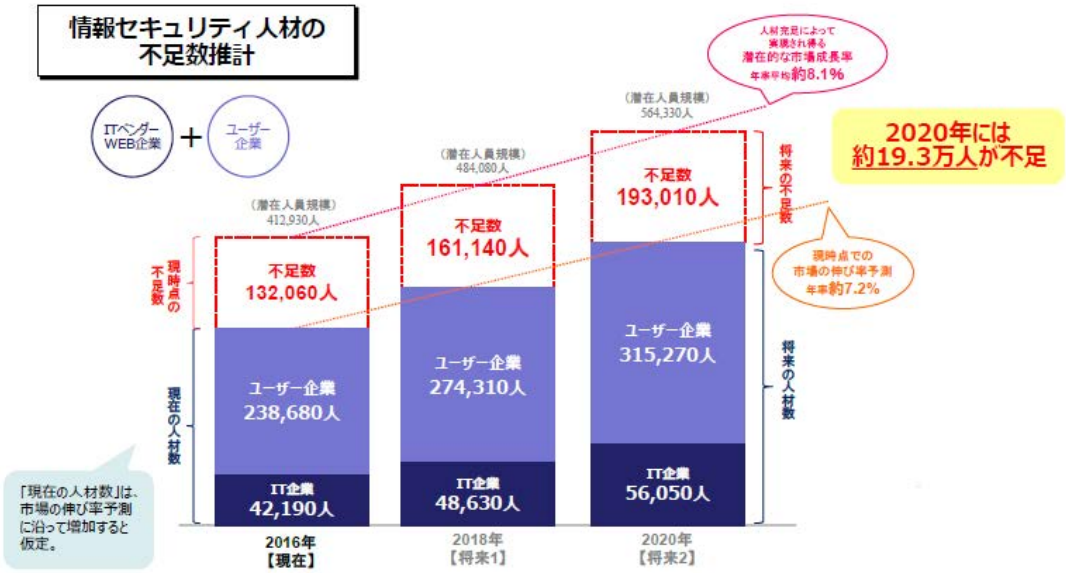
このように、サイバー空間と実世界の融合が急速に進む現代において、急激に変化しつつある社会ニーズをとらえ、次世代の科学技術イノベーションを担うことができる情報技術者の育成は、社会から強く要望されていることがうかがえる。

また、本学部の基礎となっている既設の理工学部情報学科は、高い就職率で推移しており、情報通信業や情報サービス業を中心に幅広い業種に就職している。そのため、新設する情報学部でも高い就職率を見込むことができると考える。

表 8　IT 人材の不足

（出典：平成 31 年 4 月経済産業省「IT 人材需給に関する調査（概要）（資料 2)」〈参考 1〉人材需給の試算結果）

表 9　情報セキュリティ人材の不足



（出典：2016 年経済産業省「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果報告書概要版」（資料 3)）

②既設学科の就職状況

（ア）過去 5 年間の求人件数の状況

本学における過去 5 年間の求人件数の実績は以下のとおりとなっており、求人倍率は約 2.9 倍～3.3 倍で推移している（表 10）。

このように、昨今の就職難の状況下でも大きな影響を受けることなく、多数の求人件数を得ていることは、本学における人材の養成に関する目的や教育研究上の目的が、人材需要の動向等といった社会の要請を踏まえたものであることを示しており、本学部を設置した場合でも、就職先の確保については十分に見込むことができると考える。

表 10　近畿大学求人件数実績（過去 5 年間）

年度	就職希望者数	求人件数	求人倍率
令和 2	6,019	17,592	2.92
令和元	5,748	18,123	3.15
平成 30	5,423	17,096	3.15
平成 29	5,332	17,560	3.29
平成 28	5,258	16,263	3,09

※対象：学部のみ（医学部除く）
就職希望者数・・・民間企業就職者数+来年度民間企業受験者数
求人倍率・・・求人件数／就職希望者数
令和 2 年度　・・・平成 31 年度卒業生のデータ、令和元年度　・・・平成 30 年度卒業生のデータ
平成 30 年度・・・平成 29 年度卒業生のデータ、平成 29 年度・・・平成 28 年度卒業生のデータ
平成 28 年度・・・平成 27 年度卒業生のデータ

（イ）過去 5 年間の就職者の状況

本学部の基礎となっている既設の理工学部情報学科の過去 5 年間の就職希望者数に対する就職者数の実績は以下のとおりとなっており、就職率は約 92～99%を推移している（表 11）。

このように、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、高い就職率で推移していることから、本学における人材の養成に関する目的や教育研究上の目的が、人材需要の動向等といった社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものであり、本学部を設置した場合でも、卒業後の進路については十分に見込むことができると考える。

表 11 理工学部情報学科就職実績（過去 5 年間）

年度	就職希望者数	就職者数	就職率（%）
令和 2	136	134	98.5
令和元	130	129	99.2
平成 30	162	159	98.1
平成 29	132	131	99.2
平成 28	139	128	92.1

就職希望者数・・・民間企業就職者数+来年度民間企業受験者数
就職者数・・・民間企業就職者数
就職率・・・民間企業就職者数／民間企業就職希望者数
令和 2 年度 ・・・平成 31 年度卒業生のデータ、令和元年度 ・・・平成 30 年度卒業生のデータ
平成 30 年度・・・平成 29 年度卒業生のデータ、平成 29 年度・・・平成 28 年度卒業生のデータ
平成 28 年度・・・平成 27 年度卒業生のデータ

③企業及び事業所への人材需要に関する採用意向調査

本学部の設置は、前述のとおり社会的、地域的な人材需要の動向や本学の求人状況や就職状況等を踏まえたうえで計画していることから、十分な卒業後の進路を見込むことができるものであるが、卒業後の具体的な進路や地域の人材需要の見通しがあるかどうかを定量的なデータから検証することを目的として、令和 2 年度（2020 年 9 月 1 日～2020 年 12 月 28 日）の期間に企業、事業所を対象にアンケート調査を学外の調査機関である丸善雄松堂株式会社に委託して実施した（資料 4：近畿大学新学部学科設計画に係るニーズ調査報告書（事業所編）＊以下、「事業所アンケート報告書」と称する）。

本学部の卒業生の就職先と想定される企業で本学部を設置する東大阪キャンパスの所在地である大阪府を中心とした 902 社に対して、本学部の設置の必要性や採用意向等の人材需要に関するアンケート調査を実施した。うち、有効回答数は 338 件（338 社）で、回収率は 37.4%である（事業所アンケート報告書 P2）。

その結果、有効回答 338 社のうち 58.3%にあたる 197 社は本学部の設置の必要性について「必要性を感じる」と回答しており、29.6%にあたる 100 社は「ある程度の必要性を感じる」と回答しており、程度の差はあるものの 9 割近くの企業が本学部の設置の必要性を感じている（事業所アンケート報告書 P13）。

本学部の卒業者に対する採用意向については、有効回答 338 社のうち 38.5%にあたる 130 社が「採用したい」と回答しており、採用意向人数は 314 人となっている。また、27.2%にあたる 92 社が「採用を検討したい」と回答しており、採用意向人数は 133 人となっている。（事業所アンケート報告書 P14）

採用選考の際には就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて「採用を検討したい」までを採用需要として定義し、採用意向で希望人数の記載がなかった事業所の採用意向人数を保守的に 1 社あたり 1 人と仮定した場合、調査結果に基づく本学部の採用需要は「採用したい」のみで 330 人、「採用を検討したい」まで含めると 477 人という結果となっている（事業所アンケート報告書 P19）。

このように限られたサンプル調査においても、入学定員 330 人を超える採用意向が見込まれており、本学部で学んだ人材への需要の高さをうかがうことができ、卒業後の進路については十分な見込みがあるものと考える。

学生の確保の見通し等を記載した書類　（資料）

目　次

資料１　近畿大学 新学部学科設置計画に係るニーズ調査報告書（高校生編）　P2

資料２　IT 人材需給に関する調査（概要）　P29

資料３　IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果報告書概要版　P37

資料４　近畿大学 新学部学科設置計画に係るニーズ調査報告書（事業所編）　P72

近畿大学 新学部学科設置計画に係る

ニーズ調査報告書（高校生編）

2021 年 3 月 3 日

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation 本部
企画戦略部

MARUZEN-YUSHODO

目次

１. 調査概要 2

２. 調査・分析結果の要旨 3

３. 全体集計結果 6

４. 進学需要分析 19

５. 補記 21

1. 調査概要

(1)調査目的

近畿大学 新学部学科設置計画検討のため、本アンケート調査により高校生の進学需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする

(2)調査対象

近畿大学の既設学部学科への進学実績等を参考に選定した新学部学科のターゲット層となる高等学校に在籍する2年生

(3)実施時期

2020年9月2日～2021年1月22日

(4)回収状況

本調査では、387校64,170人を対象に調査票を配布し、その結果250校26,552件の調査票を回収することができた(回収率41.3%)

(5)調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6)利用調査票

添付アンケート調査票参照

＊理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)は計画検討過程において、計画当初の「エネルギー物質工学科(仮称) 学位分野 工学」から「エネルギー物質学科(仮称) 学位分野 工学・理学」へ変更されている。

2. 調査・分析結果の要旨

(1)調査結果の要旨

①性別

回答者の性別は、「男性」が 13,729 人(51.7%)、「女性」が 12,044 人(45.4%)、「無回答」634 人(2.4%)となっている。

②居住地域

回答者の居住地域は、「大阪府」10,843 人(40.8%)が最も多く、4 割以上となっており、「兵庫県」6,507 人(24.5%)、「奈良県」2,085 人(7.9%)と続いている。

③高校卒業後の進路

回答者の高校卒業後の進路は、「大学への進学」20,908 人(78.7%)が最も多く、8 割近くとなっており、「専門学校への進学」2,483 人(9.4%)、「決めていない」1,394 人(5.3%)と続いている。

④進学希望分野

回答者の進学希望分野(第 1 希望)は、第 1 位が「看護・医療技術」4,321 人(16.3%)で、第 2 位「工学(情報、IT 分野)」2,937 人(11.1%)、第 3 位「経済学・経営学・商学」2,622 人(9.9%)と続いている。また、進学希望分野(第 2 希望)は、第 1 位が「文学・史学・哲学」2,089 人(7.9%)で、第 2 位「工学(情報、IT 分野)」1,968 人(7.4%)、第 3 位「経済学・経営学・商学」1,913 人(7.2%)と続いている。

⑤進学先決定時の重視要因

回答者の進学先決定時の重視要因は、第 1 位が「学科、コース等の学びの分野」14,262 人(29.5%)で、第 2 位「技術・資格の取得」7,065 人(14.6%)、第 3 位「就職実績」5,243 人(10.9%)となっている。

⑥情報学部 情報学科(仮称)への興味・関心

回答者の近畿大学 情報学部 情報学科への興味・関心は、「興味・関心がある」が 1,994 人(7.5%)、「ある程度の興味・関心がある」が 4,599 人(17.3%)で、何らかの興味・関心を持つこれらの回答者の合計が 6,593 人(24.8%)となっている。

⑦情報学部　情報学科(仮称)への進学意向

回答者の近畿大学 情報学部 情報学科(仮称)への進学意向は、「進学を希望する」が 357 人(1.3%)、「進学を検討する」が 2,109 人(7.9%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が 2,466 人(9.2%)となっている。

⑧理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への興味・関心

回答者の近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科への興味・関心は、「興味・関心がある」が1,019人(3.8%)、「ある程度の興味・関心がある」が3,913人(14.7%)で、何らかの興味・関心を持つこれらの回答者の合計が4,932人(18.5%)となっている。

⑨理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学意向

回答者の近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科への進学意向は、「進学を希望する」が193人(0.7%)、「進学を検討する」が1,493人(5.6%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が1,686人(6.3%)となっている。

(2)分析結果の要旨

〇情報学部 情報学科(仮称)

Q7)情報学部 情報学科(仮称)への進学意向で「進学を希望する」と回答した357人のうち、Q9)理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学意向でも「進学を希望する」と回答した135人を、Q4) 進学希望によって両学科へ振り分けると**情報学部 情報学科へ「進学を希望する」人数は274人となる。**

また、2020年度 大学志望度における情報学部 情報学科の基礎となる理工学部 情報学科1年生 大学志望度と上記「進学を希望する」人数274人から、第一志望以外で情報学部 情報学科へ進学する人数を算出すると

（進学を希望する）　（進学を検討する）

第一志望35.7%：第一志望以外：64.3%＝274人：493人となり、

理工学部 エネルギー物質工学科へ「進学を希望する]回答者を除いた **「進学を検討する」人数2,088人からも第一志望以外で493人の進学が見込まれる。**

以上から、**近畿大学 情報学部 情報学科への進学需要は274＋493＝767人で入学定員330人の2.3倍となり、定員充足する進学需要があるといえる。**

〇理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)

Q9)理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学意向で「進学を希望する」と回答した193人のうち、Q7)情報学部 情報学科(仮称)への進学意向でも「進学を希望する」と回答した135人を、Q4) 進学希望によって両学科へ振り分けると**理工学部 エネルギー物質工学科へ「進学を希望する」人数は82人となる。**

また、2020年度 大学志望度における理工学部 エネルギー物質工学科の基礎となる理工学部 電気電子工学科1年生 大学志望度と上記「進学を希望する」人数82人から、第一志望以外で理工学部 エネルギー物質工学科へ進学する人数を算出すると

（進学を希望する）　（進学を検討する）

第一志望26.0%：第一志望以外：74.1%＝82人：233人となり、

情報学部 情報学科へ「進学を希望する]回答者を除いた **「進学を検討する」人数1,412人からも第一志望以外で233人の進学が見込まれる。**

以上から、**近畿大学 理工学部エネルギー物質工学科への進学需要は82＋233＝315人で入学定員120人の2.6倍となり、定員充足する進学需要があるといえる。**

3. 全体集計結果

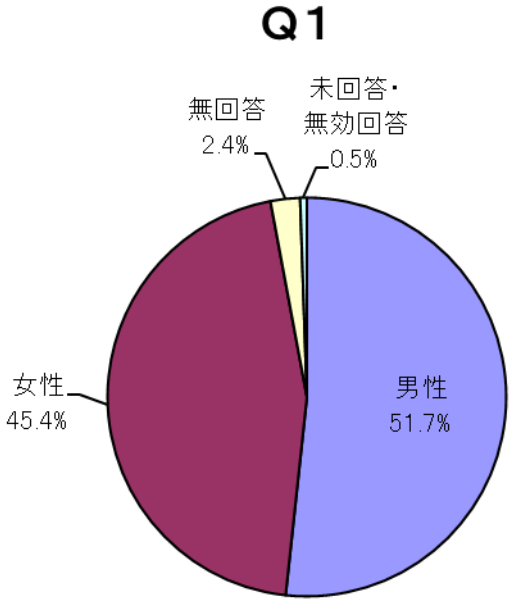
Q1)性別

回答者の性別は、「男性」が 13,729 人(51.7%)、「女性」が 12,044 人(45.4%)、「無回答」634 人(2.4%)となっている。

＊選択肢として「無回答」を設定しており、いずれの選択肢も選択していない、または判別不能の回答は「未回答・無効回答」として集計した。

Q1)あなたの性別は、どちらですか？いずれかに○をつけてください。

	回答数(人)	構成比(%)
全体	26,552	100.0%
男性	13,729	51.7%
女性	12,044	45.4%
無回答	634	2.4%
未回答･無効回答	145	0.5%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

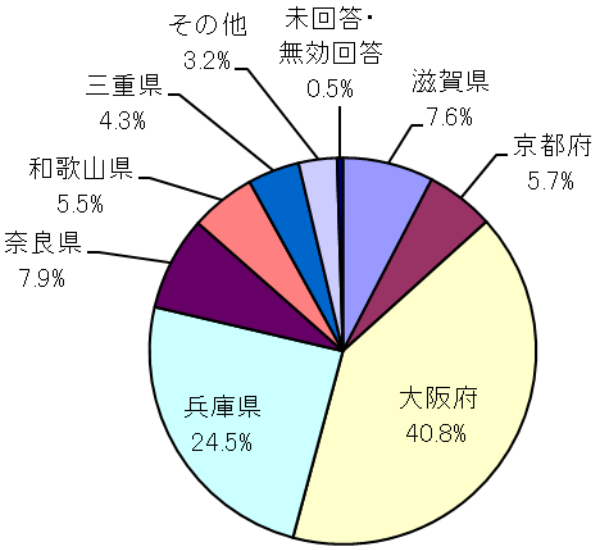
Q2)居住地域

回答者の居住地域は、「大阪府」10,843 人(40.8%)が最も多く、4 割以上となっており、「兵庫県」6,507 人(24.5%)、「奈良県」2,085 人(7.9%)と続いている。

Q2)あなたのお住まいはどちらですか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	26,552	100.0%
滋賀県	2,018	7.6%
京都府	1,520	5.7%
大阪府	10,843	40.8%
兵庫県	6,507	24.5%
奈良県	2,085	7.9%
和歌山県	1,450	5.5%
三重県	1,149	4.3%
その他	853	3.2%
未回答・無効回答	127	0.5%

Q2



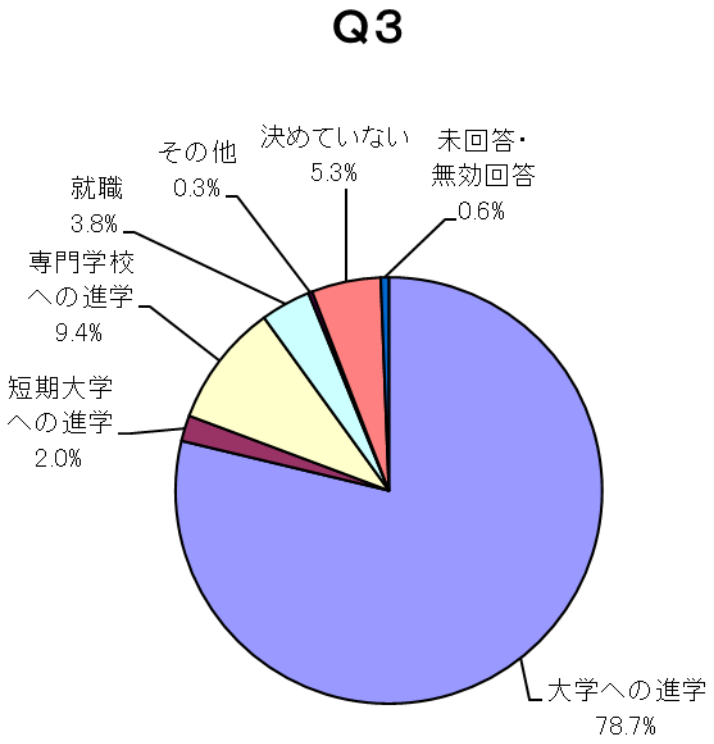
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q3)高校卒業後の進路

回答者の高校卒業後の進路は、「大学への進学」20,908 人(78.7%)が最も多く、8 割近くとなっており、「専門学校への進学」2,483 人(9.4%)、「決めていない」1,394 人(5.3%)と続いている。

Q3)あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	26,552	100.0%
大学への進学	20,908	78.7%
短期大学への進学	520	2.0%
専門学校への進学	2,483	9.4%
就職	1,006	3.8%
その他	79	0.3%
決めていない	1,394	5.3%
未回答・無効回答	162	0.6%



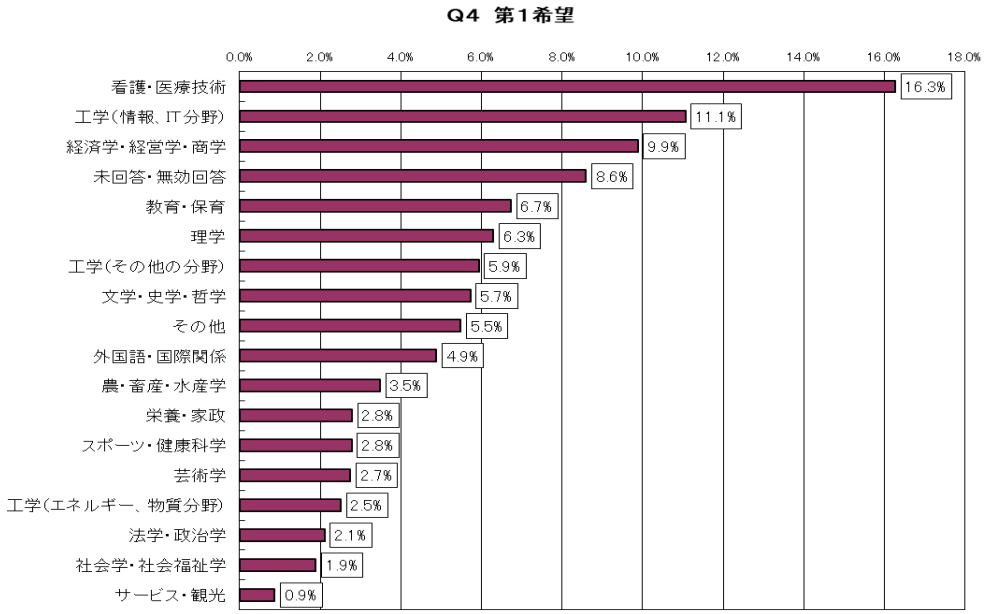
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4)進学希望分野(第1希望)

回答者の進学希望分野(第1希望)は、第1位が「看護・医療技術」4,321人(16.3%)で、第2位「工学(情報、IT分野)」2,937人(11.1%)、第3位「経済学・経営学・商学」2,622人(9.9%)と続いており、新学部学科と関連する分野と思われる「工学(情報、IT分野)」2,937人(11.1%)は第2位、「工学(エネルギー、物質分野)」665人(2.5%)は第14位、「理学」1,671人(6.3%)は第5位となっている。

Q4)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第1希望)

第1希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	26,552	100.0%
文学・史学・哲学	1,520	5.7%
経済学・経営学・商学	2,622	9.9%
法学・政治学	559	2.1%
社会学・社会福祉学	501	1.9%
外国語・国際関係	1,295	4.9%
教育・保育	1,787	6.7%
サービス・観光	231	0.9%
理学	1,671	6.3%
工学(情報、IT分野)	2,937	11.1%
工学(エネルギー、物質分野)	665	2.5%
工学(その他の分野)	1,576	5.9%
農・畜産・水産学	924	3.5%
看護・医療技術	4,321	16.3%
栄養・家政	739	2.8%
スポーツ・健康科学	738	2.8%
芸術学	729	2.7%
その他	1,456	5.5%
未回答・無効回答	2,281	8.6%



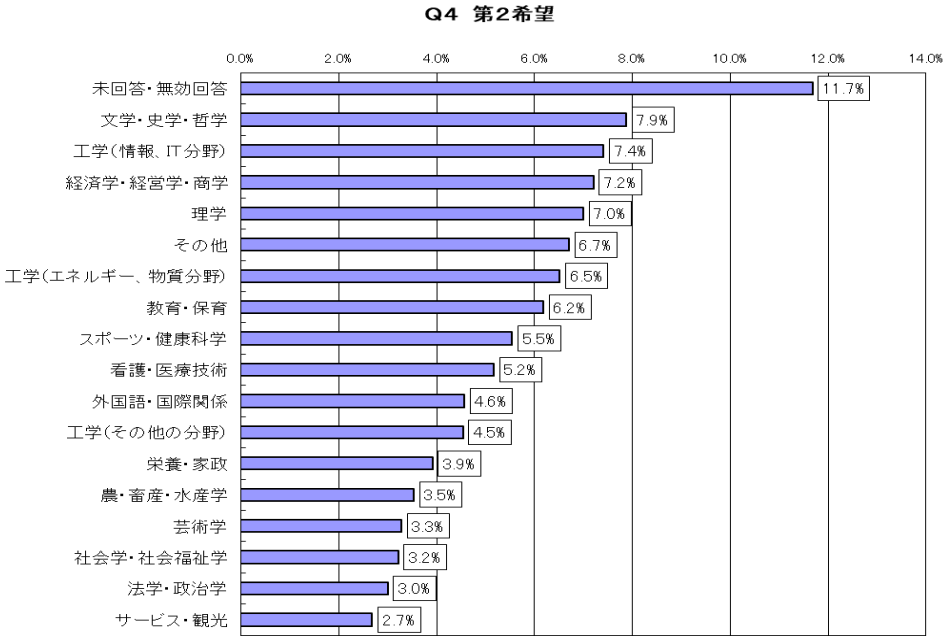
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4)進学希望分野(第2希望)

回答者の進学希望分野(第2希望)は、第1位が「文学・史学・哲学」2,089人(7.9%)で、第2位「工学(情報、IT分野)」1,968人(7.4%)、第3位「経済学・経営学・商学」1,913人(7.2%)と続いており、新学部学科と関連する分野と思われる「工学(情報、IT分野)」1,968人(7.4%)は第2位、「工学(エネルギー、物質分野)」1,730人(6.5%)は第6位、「理学」1,858人(7.0%)は第4位となっている。

Q4)あなたの進学したい分野は次のうちのどれですか？(第2希望)

第2希望	回答数(人)	構成比(%)
総計	26,552	100.0%
文学・史学・哲学	2,089	7.9%
経済学・経営学・商学	1,913	7.2%
法学・政治学	797	3.0%
社会学・社会福祉学	853	3.2%
外国語・国際関係	1,212	4.6%
教育・保育	1,640	6.2%
サービス・観光	713	2.7%
理学	1,858	7.0%
工学(情報、IT分野)	1,968	7.4%
工学(エネルギー、物質分野)	1,730	6.5%
工学(その他の分野)	1,205	4.5%
農・畜産・水産学	938	3.5%
看護・医療技術	1,372	5.2%
栄養・家政	1,040	3.9%
スポーツ・健康科学	1,472	5.5%
芸術学	871	3.3%
その他	1,780	6.7%
未回答・無効回答	3,101	11.7%



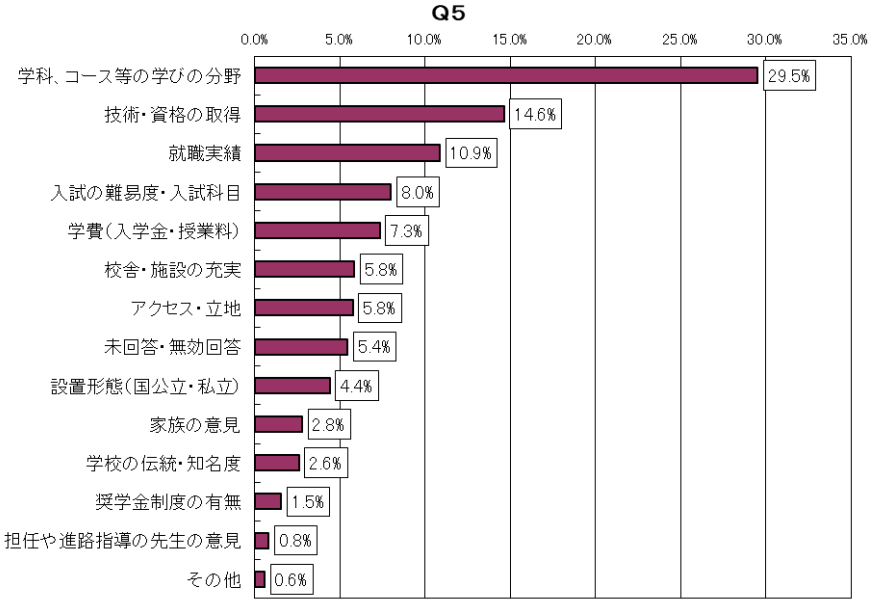
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q5)進学先決定時の重視要因　＊複数選択可（２つまで）

回答者の進学先決定時の重視要因は、第１位が「学科、コース等の学びの分野」14,262人(29.5%)で、第２位「技術・資格の取得」7,065人(14.6%)、第３位「就職実績」5,243人(10.9%)となっている。

Q5)あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？

	回答数（人）	構成比（%）
総計	48,310	100.0%
学科、コース等の学びの分野	14,262	29.5%
技術・資格の取得	7,065	14.6%
就職実績	5,243	10.9%
校舎・施設の充実	2,817	5.8%
設置形態（国公立・私立）	2,122	4.4%
学費（入学金・授業料）	3,544	7.3%
奨学金制度の有無	747	1.5%
学校の伝統・知名度	1,248	2.6%
入試の難易度・入試科目	3,862	8.0%
担任や進路指導の先生の意見	386	0.8%
家族の意見	1,335	2.8%
アクセス・立地	2,779	5.8%
その他	270	0.6%
未回答・無効回答	2,630	5.4%



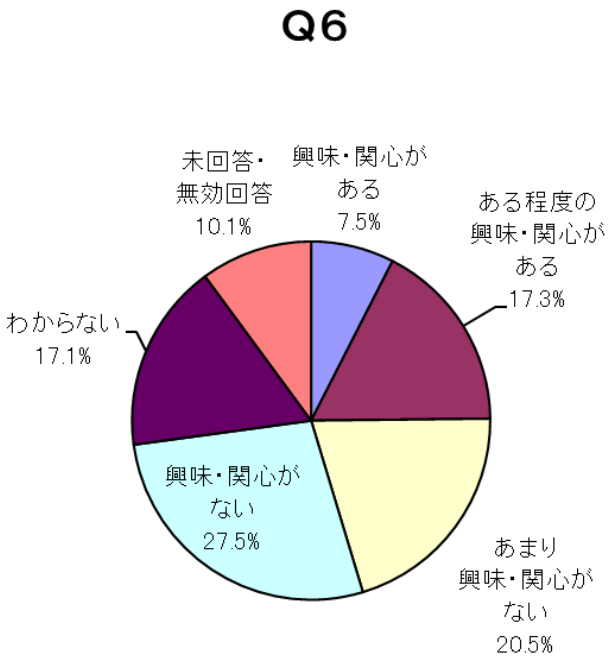
＊パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6)情報学部 情報学科(仮称)への興味・関心

回答者の近畿大学 情報学部 情報学科への興味・関心は、「興味・関心がある」が 1,994 人(7.5%)、「ある程度の興味・関心がある」が 4,599 人(17.3%)で、何らかの興味・関心を持つこれらの回答者の合計が 6,593 人(24.8%)となっている。一方、「あまり興味・関心がない」は 5,444 人(20.5%)、「興味・関心がない」は 7,306 人(27.5%)で、これらの合計は 12,750 人(48.0%)となっており、4,529 人(17.1%)が「わからない」と回答している。

Q6) 近畿大学 情報学部 情報学科(仮称)に興味・関心はありますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	26,552	100.0%
興味・関心がある	1,994	7.5%
ある程度の興味・関心がある	4,599	17.3%
あまり興味・関心がない	5,444	20.5%
興味・関心がない	7,306	27.5%
わからない	4,529	17.1%
未回答・無効回答	2,680	10.1%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

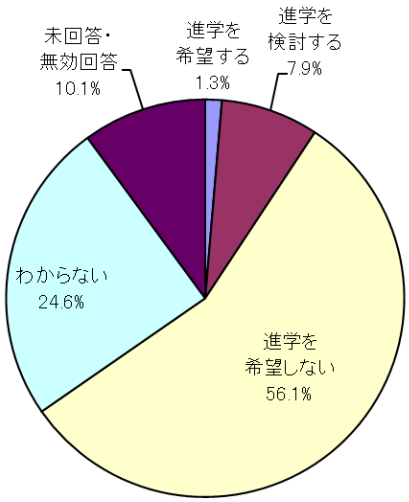
Q7)情報学部 情報学科(仮称)への進学意向

回答者の近畿大学 情報学部 情報学科への進学意向は、「進学を希望する」が357人(1.3%)、「進学を検討する」が2,109人(7.9%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が2,466人(9.2%)となっている。一方、「進学を希望しない」は14,885人(56.1%)となっており、6,529人(24.6%)が「わからない」と回答している。

Q7) 近畿大学 情報学部 情報学科(仮称)に進学したいと思いますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	26,552	100.0%
進学を希望する	357	1.3%
進学を検討する	2,109	7.9%
進学を希望しない	14,885	56.1%
わからない	6,529	24.6%
未回答・無効回答	2,672	10.1%

Q7



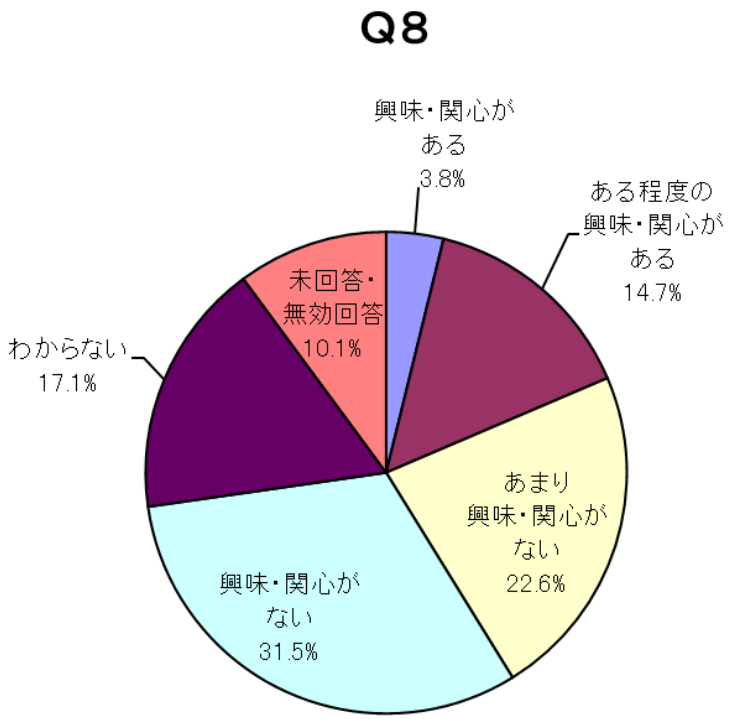
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への興味・関心

回答者の近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科への興味・関心は、「興味・関心がある」が1,019人(3.8%)、「ある程度の興味・関心がある」が3,913人(14.7%)で、何らかの興味・関心を持つこれらの回答者の合計が4,932人(18.5%)となっている。一方、「あまり興味・関心がない」は6,006人(22.6%)、「興味・関心がない」は8,375人(31.5%)で、これらの合計は14,381人(54.1%)となっており、4,552人(17.1%)が「わからない」と回答している。

Q8) 近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)に興味・関心はありますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	26,552	100.0%
興味・関心がある	1,019	3.8%
ある程度の興味・関心がある	3,913	14.7%
あまり興味・関心がない	6,006	22.6%
興味・関心がない	8,375	31.5%
わからない	4,552	17.1%
未回答・無効回答	2,687	10.1%



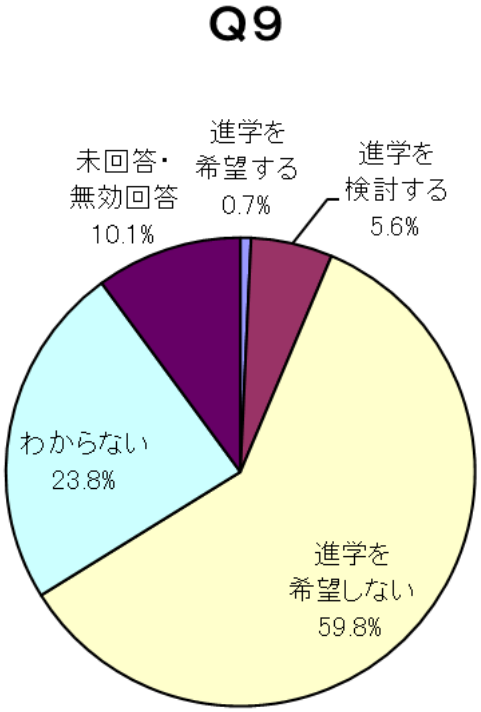
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9) 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学意向

回答者の近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科への進学意向は、「進学を希望する」が 193 人(0.7%)、「進学を検討する」が 1,493 人(5.6%)で、何らかの進学の意向を持つこれらの回答者の合計が 1,686 人(6.3%)となっている。一方、「進学を希望しない」は 15,883 人(59.8%)となっており、6,308 人(23.8%)が「わからない」と回答している。

Q9) 近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)に進学したいと思いますか？

	回答数(人)	構成比(%)
全体	26,552	100.0%
進学を希望する	193	0.7%
進学を検討する	1,493	5.6%
進学を希望しない	15,883	59.8%
わからない	6,308	23.8%
未回答・無効回答	2,675	10.1%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q10)近畿大学 新学部学科への意見・要望

Q10) 近畿大学 新学部学科設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

教育・研究内容についてのコメント（社会ニーズに合った特色ある学部学科である）
AIに特化した学部はこれからの時代に合っていてとても良いと思います。
AIやIoTなど最先端のことを学べるのは理系志望の私にとって非常に魅力的です。
IoTなどはこれからもっと発展してもらいたいので出来て嬉しいと思う。
IT化が進む中で、新学部が出来てより大学が発展するでしょう。
IT化などが進む世の中で情報学部というのは、これから先、良い進路となっていくと思うので素晴らしいと思いました。専門として学べる学科というのは選ぶ側からすればすごくうれしいです。
これからは情報が主流になっていくと思うのでそれを学べるのはとてもいいことだと思います。
エネルギー・物質工学科のSDGsの達成のためものを学ぶための分野として設置されている学科で、時代の流れに沿っていっているがゆえの学部なので、すごく興味が湧いた。
エネルギー・物質工学科は、将来の地球を考えることができる良い学科だと思う。
これからITや、物質のことは大切になるとおもうのでいいとおもいます。
これからIT化が進むので良いと思います。
これからさらに需要が高まってくる技術や知識などを与えてくれるのはすごくありがたいと思う。
これからどんどん世の中が情報社会になってきているので、社会に出るまでにこのようなことを学べることはすばらしくいい機会だと思います。
これからの事を考えると、新しい学科はふやすべきだと私は思いました。そして、この2つのエネルギーと情報はすごく大切なことと私は理解しました。
これからの時代、AIなどが発達すると思うので、いいと思いました。
これからの時代は、ITやAIの時代なので、徐々に需要が高まると思います。
これからの時代はこの学科のような分野を学ぶ人を増やすべきだと思うので、良い計画だと思いました。
これからの社会により重要となってくる人材を育む学部で新しくておもしろいと思った。
これからの人材を育成していくのは、とても大事であると思うので、とても良い事だと思う。
これからはITの時代になっていくと思うのでそれに対応した学科が新設されることは良い傾向だと思う。
これからはコンピューターでネットを使った情報共有や足りなくなってきたエネルギーをどう補うかが絶対大事なので必要だと思う
これから社会にとって必要なことが学べる学部の設置はとても魅力的だと思いました。
ネット社会にどんどんなっていく中、情報学部などの新しい学部を作るのは非常に面白いなと思った。
技術が発達していく中でこのような進んだことが学べるのは良いと思う。
急速に技術が発展していく中で、情報学部の設立は、現代のニーズにあった人物を育むためにはとてもいいと考えます。
現代はAIであったり、コンピューターが多く使われる場が多くなっています。そうなってきた時代に対して、いい授業内容だと思いますし、現代時代にとって必要な人材を生みだせるのではないかと思いました。資格の面でも幅広く、充実してると思います。
今の社会はAIがあったり、情報社会なので、とても良いと思います。
時代に合わせ、新たに学部が設置されるということは、学びの場が広がるということでとても良いと思いました。
社会に影響を及ぼす可能性を秘めた学科だと感じました。
情報化にともない、世界中でIT企業が発展していく中で、こういう学部学科を設置するのは、とてもいいことだと思いました。
情報学部はこれからIT社会になるから大事になってくる、学部だと思う。
情報学部はとくに今人気の学部で注目もされていると思うので、良いと思います。
情報社会の現代に合った良い計画だなと思います。
新たな時代に合わせた、学部を設立し、これから必要となる知識を学べるようになることは良いことだと思いました。
世界は変わってきているので、学ぶ分野も必要なスキルも変わると思います。だから時代に合わせて、新しい学部を設置するのはいいと思います。
世界中でAIが使われているのでそういったものを学べる学科は今後増えていくと思うのでとても良い案だと思いました。

教育・研究内容についてのコメント（学部学科の専門分野に興味・関心がある）
珍しそうな学部なので、おもしろそうとは思った。
AIについて学べるのであれば、かなり興味があり、ぜひ入学したいと思いました。
AIに特化した学部はとてもいいと思う。
CGグラフィック等を学びたい。
エネルギー・物質工学部という学部が設立されるということですが、このような特定された分野の学部はあまりみたことがなかったので少し興味が湧きました。
私は、すごく化学系に興味があるので、物質やエネルギー関係に対する感心が高まる現代社会で、実用的な学部と思いました。
私はITについて、非常に興味を持っており、特にサイバセキュリティーについての勉強がしたいので進学を強く希望しています。特に＜サイバーセキュリティコース＞の項目を見て自分が将来の目標としているIT企業等において広範に活躍できる技術者の育成を見て、自分の夢に少しでも近づくためにぜひとも進学を希望したい。
将来の夢がIT関係の職につきたいので学科を作っていただけるのはとてもうれしいです。興味もありますので、オープンスクールで見にいきたいです。
情報やIT関連の学問をレベルの高い大学で学べるのは将来に役立つので良いんじゃないかなと思いました。
情報学科の“CG”の部分が個人的に気になります。目標に入っているのであれば、授業内でやるということでよいのでしょうか。
情報学部は、もともと興味のあるものだったので、もう少し調べてみようと思いました。
情報学部は関心があるので良いと思います。
情報学部は自分が進学したい分野と一致している。それまで選択肢にすらなかったため学部が増えるのは良いこと。
情報系の進路につきたい者としては、情報学部・学科を設置していただけるのは進学の幅が広がりありがたいです。質問なのですが、高校一種免許（数学）はカリキュラム的には取れないのでしょうか。数学が取れたら、かなり真剣に進学を考えると思います。
目的が明確で良いと思いました。
資格取得についてのコメント（多くの資格が取得できる）
資格が多くあり、卒業後の進路も良いと思いました。
資格など多くとれていいと思います。
資格や検定が多くてうれしい。
資格取得できるものが多いので、将来に生かせるのでとても良いなと思いました。
目標とする資格・検定がたくさんあるのが良いと思った。
目標とする資格がたくさんあり、卒業後の就職もとても幅広いのでとても魅力的だと思います。
CGやweb系の映像系なども資格をとろうとできる幅広いところがいいと思います。
情報学部は、目標とする資格・検定が、はばひろくあるので、とてもいいと思いました。
情報学部は取得できる資格の数が多いのが良いと思った。
就職についてのコメント
「卒業後の活躍フィールド」が広くて就職時に大きなアドバンテージになりそうだと思った。
就職時にとても役立つ良い分野だと思いました。
良いと思います。情報学部では、IT業界だけでなく、その他多種多様な業界への就職ができる。エネルギー物質工学部では、エネルギー関連企業への就職や、持続可能エネルギーについても学べるので良いと思いました。
AIを活用するなどのIT専門の学部を作ったのは私たちが就職するときに必要となる力を強めれるのでいい思う。
情報学部の目標となる資格・検定のところをみるとITや情報処理だけでなくCGや画像処理があるので幅広く勉強できるのは将来就職するときの選択が多くて良いと思います。
「エネルギー・物質工学科」の卒業後の活躍の場に「家電メーカー」があり、少し興味がわいた。

施設設備についてのコメント
施設が整っていて良いと聞きました。
設備をより具体的に知りたい。（どんな部屋、道具、機械があるのか、利用はできるのか、など。）
入試制度についてのコメント
新学部の入試制度について知りたいです。
入試に必要な科目を知りたい→高校での科目が変わってくる可能性があるため
入試科目の発表をしてほしい。
情報学部の受験に必要な科目は何ですか？
理系の皆さんには入学定員も多いですし、国公立の併願で受けやすく良いと思います。
推薦入試があればいいかなぁと思います。（定期テストなどの成積で）
推薦枠増やしてください。
アクセスについてのコメント
駅から近く、徒歩で通える所がとても良いと思う。
駅から近くて良いと思う。
情報学部がある大学は関西付近でも少なかったので志望校の枠にも入りそうなのでよかった。

4. 進学需要分析

〇情報学部 情報学科(仮称)への進学需要

a.「進学を希望する」人数

Q7)情報学部 情報学科(仮称)への進学意向で「進学を希望する」と回答した357人のうち、Q9)理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学意向でも「進学を希望する」と回答した135人を、Q4) 進学希望によって両学科へ振り分けると**情報学部 情報学科へ「進学を希望する」人数は274人となる。**

b.「進学を検討する」人数

Q7)情報学部 情報学科(仮称)への進学意向で「進学を検討する」と回答した2,109人のうち、理工学部 エネルギー物質工学科へ「進学を希望する」回答者を除いた**「進学を検討する」人数は2,088人となる。**（うち877人は理工学部 エネルギー物質工学科へも「進学を検討する」と回答）

c. 基礎となる学科の大学志望度

「2020年度大学志望度調査※」における2020年度 理工学部 情報学科1年生 大学志望度は以下のとおり。

2020年度 理工学部 情報学科1年生 大学志望度（%）

第一志望での入学	35.7
第一志望以外での入学	64.3
合計	100

d. 進学需要

c. 大学志望度では、第一志望で情報学部情報学科の基礎となる理工学部情報学科へ進学した比率：第一志望以外で理工学部情報学科へ進学した比率は　35.7%：64.3%　となっている。第一志望を「進学を希望する」、第一志望以外を「進学を検討する」とし、この比率と上記a.「進学を希望する」人数274人から第一志望以外で情報学部情報学科へ進学する人数を算出すると

（進学を希望する）　　（進学を検討する）

第一志望35.7%：第一志望以外：64.3%＝274人：493人となり、

b.「進学を検討する」人数2,088人からも第一志望以外で493人の進学が見込まれる。

以上から**、近畿大学 情報学部 情報学科への進学需要は274＋493＝767人で入学定員330人の2.3倍となり、定員充足する進学需要があるといえる。**

〇理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学需要

a.「進学を希望する」人数

Q9)理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学意向で「進学を希望する」と回答した193人のうち、Q7)情報学部 情報学科(仮称)への進学意向でも「進学を希望する」と回答した135人を、Q4) 進学希望によって両学科へ振り分けると**理工学部 エネルギー物質工学科へ「進学を希望する」人数は82人となる。**

b.「進学を検討する」人数

Q9)理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)への進学意向で「進学を検討する」と回答した1.493人のうち、情報学部 情報学科へ「進学を希望する」回答者を除いた**「進学を検討する」人数は1,412人となる。**(うち877人は情報学部 情報学科へも「進学を検討する」と回答)

c. 基礎となる学科の大学志望度

「2020年度大学志望度調査※」における2020年度 理工学部 電気電子工学科1年生大学志望度は以下のとおり。

2020年度 理工学部 電気電子工学科1年生 大学志望度 (%)

第一志望での入学	26.0
第一志望以外での入学	74.1
合計	100

d. 進学需要

c. 大学志望度では、第一志望で理工学部 エネルギー物質工学科の基礎となる理工学部電気電子工学科へ進学した比率:第一志望以外で理工学部電気電子工学科へ進学した比率は26.0%:74.1% となっている。第一志望を「進学を希望する」、第一志望以外を「進学を検討する」とし、この比率と上記a.「進学を希望する」人数82人から第一志望以外で理工学部 エネルギー物質工学科へ進学する人数を算出すると

(進学を希望する)　　(進学を検討する)

第一志望26.0%:第一志望以外:74.1%=82人:233人となり、

b.「進学を検討する」人数1,412人からも第一志望以外で233人の進学が見込まれる。

以上から、**近畿大学 理工学部エネルギー物質工学科への進学需要は82+233=315人で入学定員120人の2.6倍となり、定員充足する進学需要があるといえる。**

※2020年度大学志望度調査について

近畿大学では、2020年5月12日から6月30日の間、新入生全員を対象に株式会社ベネッセi-キャリアが開発したGPS-Academicを実施しており、本結果の「質問項目:大学志望度」よりデータを抽出している。なお、理工学部受検対象1,113人に対して受検者は1,017人(91.4%)で、回答項目は「回答1_第一志望だった」「回答2_第二志望だった」「回答3_第三志望以下だった」となっている。

5. 補記

アンケート説明文 1/4

近畿大学

情報学部 情報学科（仮称）

理工学部 エネルギー物質工学科（仮称）

令和4年4月設置構想中

近畿大学
KINDAI UNIVERSITY

＊ 新学部･学科に関わる名称、人数、教育内容等は現時点での計画であり,今後変更となる可能性があります。

アンケート説明文 2/4

情報学部（仮称）とは？

「Society5.0」の実現に向けて第4次産業革命が進展する中、AI活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、人間中心のシステムデザインなど、第4次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を養成します。

学部・学科の構成

学部名	学科名	入学定員（収容定員）	学位の種類
情報学部	情報学科	330名（1,320名）	学士（工学）

学部・学科の特色

- IoT、AI、クラウドコンピューティングなど最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う講義科目がバランスよく配置され、数学や人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための基礎学力に加え、それら諸技術を組み合わせてシステムを構築するための応用力を習得することができます。
- 1年次は数学、プログラミング、コンピュータなどの基礎を講義や実習を通じて学び、2年次以降は各コースで専門的な学修を行います。

〈知能システムコース〉
AI技術の基礎となる数理・統計の素養を身に付け、今後も技術革新が続くAIの本質を理解し、AIを活用する事で、社会の様々な問題の解決に貢献する技術者を育成します。

〈サイバーセキュリティコース〉
安心安全なIoT社会を実現するために必要不可欠なネットワーク技術やセキュリティ対策技術、クラウド技術を身に付け、IT企業やサイバーセキュリティ対策の専門組織で広範に活躍できる技術者を育成します。

〈実世界コンピューティングコース〉
人間中心のシステム設計論を基礎に、AI、IoT、サイバーセキュリティ技術を組み合わせる事で、実世界と計算機世界の融合が急速に進む現代における新たな情報価値創造に貢献できる技術者を育成します。

● 目標とする資格・検定

基本情報技術者 / 応用情報技術者 / 情報処理安全確保支援士 / ネットワークスペシャリスト
情報セキュリティマネジメント試験 / ITストラテジスト試験 /システムアーキテクト試験
Apple Inc.資格認定App Development with Swift（App Development with Swift Level 1）
シスコ技術者認定CCNA / シスコ技術者認定CCNP / Oracle Academy Java SE 7/8 Bronze
OracleAcademy Oracle Database 12c Bronze / 情報検定 情報システム試験 / 情報検定 情報デザイン試験
CG クリエイター検定 / CG エンジニア検定 / Web デザイナー検定/ 画像処理エンジニア検定 / マルチメディア検定
図書館司書 / 高等学校教諭一種免許状（情報）

養成する人材像 >>>

- IoT社会で活躍するデータ・サイエンティスト
- 高度情報セキュリティに精通したエンジニア
- コンテンツ産業における情報クリエーター
- AI技術に精通したセキュリティエンジニア
- Society5.0を支える情報基盤デザイナー

>>> 卒業後の活躍フィールド

ソフトウェア・ネットワークなどのIT業界だけでなく、
メーカー、サービス業、金融業、
交通や空港等の運輸業、
官公庁などIT技術を活用するすべての業種

アンケート説明文 3/4

エネルギー物質工学科(仮称)とは？

「持続可能な社会基盤エネルギー」「医療センサ・デバイス等へのエネルギー供給」「それらを支えるマテリアル」は、今後のSDGs達成とSociety5.0構築を支える、エネルギー分野の３本柱です。本学科では、化学・電気電子工学・原子核エネルギー理工学・機械工学・生命科学が密接に連携した「共創的なモノづくり」のための実践力育成型カリキュラムを通じて、エネルギー分野の将来像を描き、その実現に貢献する人材を育成します。

学部・学科の構成

学部名	学科名	入学定員（収容定員）	学位の種類
理工学部	エネルギー物質工学科	120名（480名）	学士（工学）

学部・学科の特色

- 化学、電気電子工学、原子核エネルギー理工学、機械工学、生命科学の5分野を融合した「１．次世代インフラエネルギー領域」「２．ライフデバイスエネルギー領域」「３．マテリアル創製領域」の３領域からなるカリキュラムで学ぶことができます。

  1. 次世代インフラエネルギー領域では、持続可能エネルギーとしての太陽由来エネルギー（核融合、太陽光、熱）や地球由来エネルギー（風力、地熱、核分裂など）、高効率エネルギー変換・貯蔵技術について学びます。
  2. ライフデバイスエネルギー領域では、生体におけるエネルギー変換・利用や、医療センサ・デバイス等へのエネルギー供給のための微小エネルギーの活用について学びます。
  3. マテリアル創製領域では、上記２つの領域を支える高機能マテリアルについて学びます。

- まずは３領域全ての基礎を学び、その上で各領域の専門科目を学ぶことで、エネルギーに関する広い視野と高い専門性を身に着けることができます。様々な分野（化学、電気電子工学、原子核エネルギー理工学、機械工学、生命科学）の教員が密接に連携し、教育・研究の共創を通じて将来のエネルギー人材を育成します。

- シミュレーション、インフォマティックス、精密合成技術といった、将来のモノづくりに不可欠な技術を習得できます。

● 目標とする資格・検定

高等学校教諭一種免許状（理科）/中学校教諭一種免許状（理科）/図書館司書/ITパスポート/基本情報技術者

養成する人材像 >>>

「エネルギー関連技術の将来像を描き、
その実現に貢献する技術者」

① さまざまな事象（化学反応、情報伝達、太陽光利用、原子核エネルギー利用、動力、生命現象など）を「エネルギー変換」に結び付けて理解できる人材
② シミュレーション・インフォマティックスといった最新のモノづくり支援ツールを活用できる人材
③ 物質合成やデバイス構築といったモノづくり実践力をもつ人材

>>> 卒業後の活躍フィールド

エネルギー関連企業（電力、ガス、石油）、
公的機関、電気設備、自動車産業、
建設・設備、住宅、医療機器、
情報通信、家電メーカー、
素材メーカー、化学企業

≫ 初年度学納金（想定）≪

情報学部 情報学科（仮称）

¥ 1,718,500.-

近隣同分野の学部・学科の初年度学納金（※2020年度）

大学名	学部学科名	初年度学納金
関西大学	システム理工学部 電気電子情報工学科	¥ 1,780,000.-
関西学院大学	理工学部 情報科学科	¥ 1,698,000.-
同志社大学	理工学部 インテリジェント情報工学科 情報システムデザイン学科	¥ 1,736,000.-
立命館大学	情報理工学部	¥ 1,766,200.-
京都産業大学	情報理工学部	¥ 1,523,500.-
甲南大学	知能情報学部 知能情報学科	¥ 1,584,000.-
龍谷大学	先端理工学部 知能情報メディア課程 電子情報通信課程	¥ 1,562,600.-

理工学部 エネルギー物質工学科（仮称）

¥ 1,718,500.-

近隣同分野の学部・学科の初年度学納金（※2020年度）

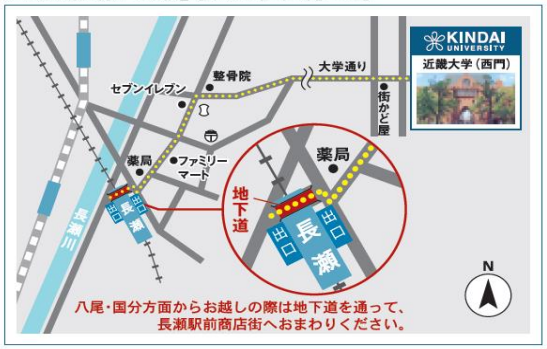
大学名	学部学科名	初年度学納金
関西学院大学	理工学部 先端エネルギーナノ工学科	¥ 1,698,000.-
関西大学	環境都市工学部 エネルギー・環境工学科	¥ 1,780,000.-
大阪工業大学	工学部 電子情報システム工学科	¥ 1,640,000.-
龍谷大学	先端理工学部 電子情報通信課程	¥ 1,562,600.-
同志社大学	理工学部 環境システム学科	¥ 1,736,000.-
立命館大学	理工学部 電子システム系電気電子工学科	¥ 1,766,200.-
大和大学	理工学部 理工学科 電気電子工学専攻	¥ 1,660,000.-

≫ 設置予定地 ≪

【東大阪キャンパス】 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1

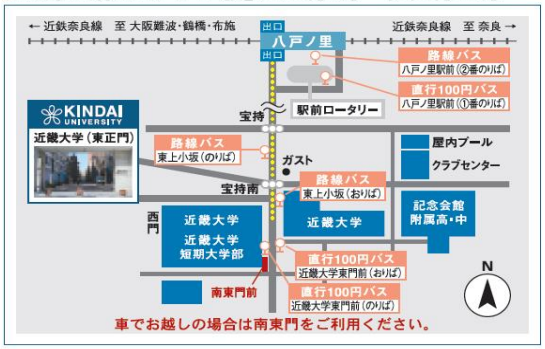
【アクセス-1】

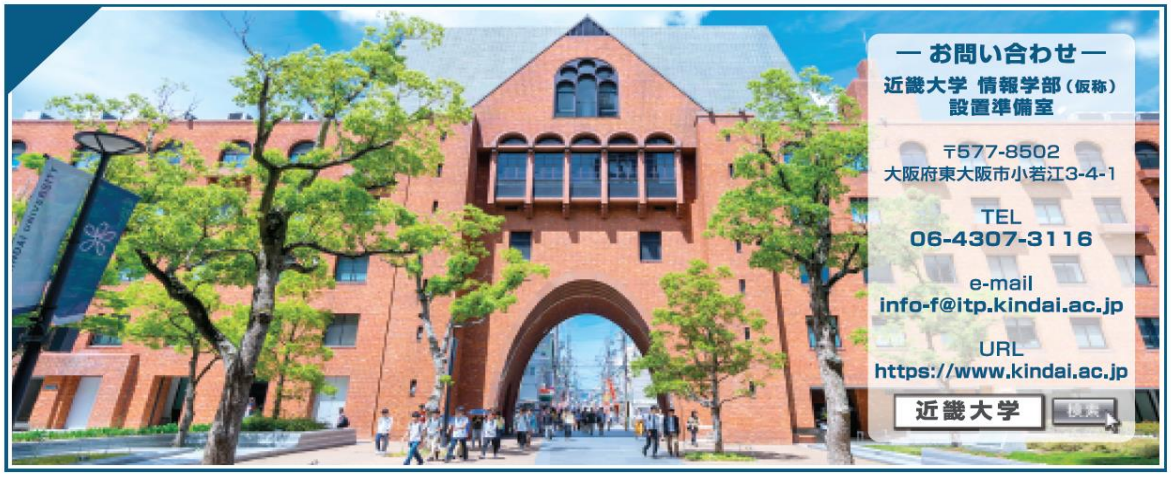
近鉄大阪線「長瀬」駅より徒歩約10分



【アクセス-2】

近鉄奈良線「八戸ノ里駅」バス約6分　徒歩約20分





アンケート調査票 1/2

近畿大学 新学部学科設置に係る高校生進学需要調査

＊ｗｅｂ調査の場合はこちらからご回答お願いします⇒https://questant.jp/q/kindai_highschool

近畿大学では、これまでの学部学科に加えて、新たに 2 つの学部学科の設置を検討しています。設置計画検討の参考として、皆さんの率直なご意見をお聞かせください。

最初にあなたの高校名をご記入ください。

（　　）

【質問 1】あなたの性別は、どちらですか？いずれかに○を付けてください。

1　男性　　2　女性　　3　無回答

【質問 2】あなたのお住まいは、どちらですか？次の中から 1 つ選び○を付けてください。

1　滋賀県　　2　京都府　　3　大阪府
4　兵庫県　　5　奈良県　　6　和歌山県
7　三重県　　8　その他（　　）

【質問 3】あなたは高校卒業後、どのような進路を考えていますか？
次の中から 1 つ選び○を付けてください。

1　大学への進学　　2　短期大学への進学　　3　専門学校への進学
4　就職　　5　その他（　　）　　6　決めていない

＊【質問 4】以降は、【質問 3】で「1 大学への進学」「2 短期大学への進学」「3 専門学校への進学」と回答した方のみお答えください。

【質問 4】あなたの進学したい分野は、次のうちのどれですか？
第 1 希望、第 2 希望の該当する欄にそれぞれ 1 つずつ○を付けてください。

	分　　野	第1希望	第2希望
1	文学・歴史・心理		
2	経済・経営・商学		
3	法学・政治学		
4	社会学・社会福祉学		
5	外国語・国際関係		
6	教育・保育		
7	サービス・観光		
8	理学		
9	工学（情報、IT分野）		
10	工学（エネルギー、物質分野）		
11	工学（その他の分野）		
12	農・畜産・水産学		
13	看護・医療技術		
14	栄養・家政		
15	スポーツ・健康科学		
16	芸術学		
17	その他		

裏面へ続く⇒

アンケート調査票 2/2

【質問 5】あなたは進学先を決定する際に、どのような要因を重視しますか？
次の中から 2 つまで選び○を付けてください。

1　学科、コース等の学びの分野　2　技術・資格の取得　3　就職実績
4　校舎・施設の充実　5　設置形態（国公立・私立）　6　学費（入学金・授業料）
7　奨学金制度の有無　8　学校の伝統・知名度　9　入試の難易度・入試科目
10　担任や進路指導の先生の意見　11　家族の意見　12　アクセス・立地
13　その他（　　）

次の【質問 6】以降は、別紙「近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）、理工学部 エネルギー・物質工学科（仮称）」の概要をご覧いただき、ご記入ください。

近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）について

【質問 6】近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）に興味・関心はありますか？
次の中から 1 つ選び○を付けてください。

1　興味・関心がある　2　ある程度の興味・関心がある　3　あまり興味・関心がない
4　興味・関心がない　5　わからない

【質問 7】近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）に進学したいと思いますか？
次の中から 1 つ選び○を付けてください。

1　進学を希望する　2　進学を検討する　3　進学を希望しない　4　わからない

近畿大学 理工学部 エネルギー・物質工学科（仮称）について

【質問 8】近畿大学 理工学部 エネルギー・物質工学科（仮称）に興味・関心はありますか？
次の中から 1 つ選び○を付けてください。

1　興味・関心がある　2　ある程度の興味・関心がある　3　あまり興味・関心がない
4　興味・関心がない　5　わからない

【質問 9】近畿大学 理工学部 エネルギー・物質工学科（仮称）に進学したいと思いますか？
次の中から 1 つ選び○を付けてください。

1　進学を希望する　2　進学を検討する　3　進学を希望しない　4　わからない

【質問 10】近畿大学 新学部学科設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

近畿大学

ＩＴ人材需給に関する調査（概要）

平成３１年４月
経済産業省
情報技術利用促進課

１．調査の目的・実施体制

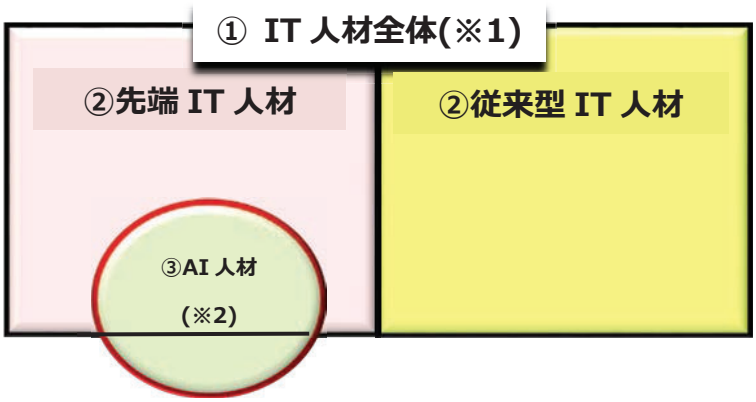
「未来投資戦略 2017」（平成 29 年 6 月 9 日閣議決定）に基づき、第四次産業革命下で求められる人材の必要性やミスマッチの状況を明確化するため、経済産業省、厚生労働省、文部科学省の三省連携で人材需給の試算を行った。試算にあたっては、経済産業省情報技術利用促進課とみずほ情報総研株式会社が事務局となり、6 名の有識者を構成員とする形で、2018 年 6 月-2019 年 3 月の期間で、計 4 回の検討会を開催した。

２．調査概要

調査では、2018 年から 2030 年の期間において、以下の項目について試算した。

① IT 人材全体数の需要・供給
② Re スキルによる従来型 IT 人材及び先端 IT 人材の構成変化
③ AI 人材の需要・供給

（参考）本調査における調査対象の概念整理図



(※1)本調査では、国勢調査を基に、IT 企業及び、ユーザー企業の情報システム部門等に属する職業分類上の「システムコンサルタント・設計者」、「ソフトウェア作成者」、「その他の情報処理・通信技術者」を IT 人材として試算した。
(※2)③の「AI 人材」はアンケート調査等をもとに試算を実施しており、ユーザー企業の事業部門や研究開発部門に属する人材も含まれている。したがって、①の「IT 人材」に完全には包含されない。

３．調査結果のポイント

（１）IT 人材（全体）の需給

ａ）IT 人材の需要と供給の差（需給ギャップ）

IT 人材について、需要の伸びを年平均 2.7%程度、労働生産性が年 0.7%上昇することを前提とし、その需給ギャップを試算したところ、下記の表１の結果が得られた。（試算方法・試算前提については後述）

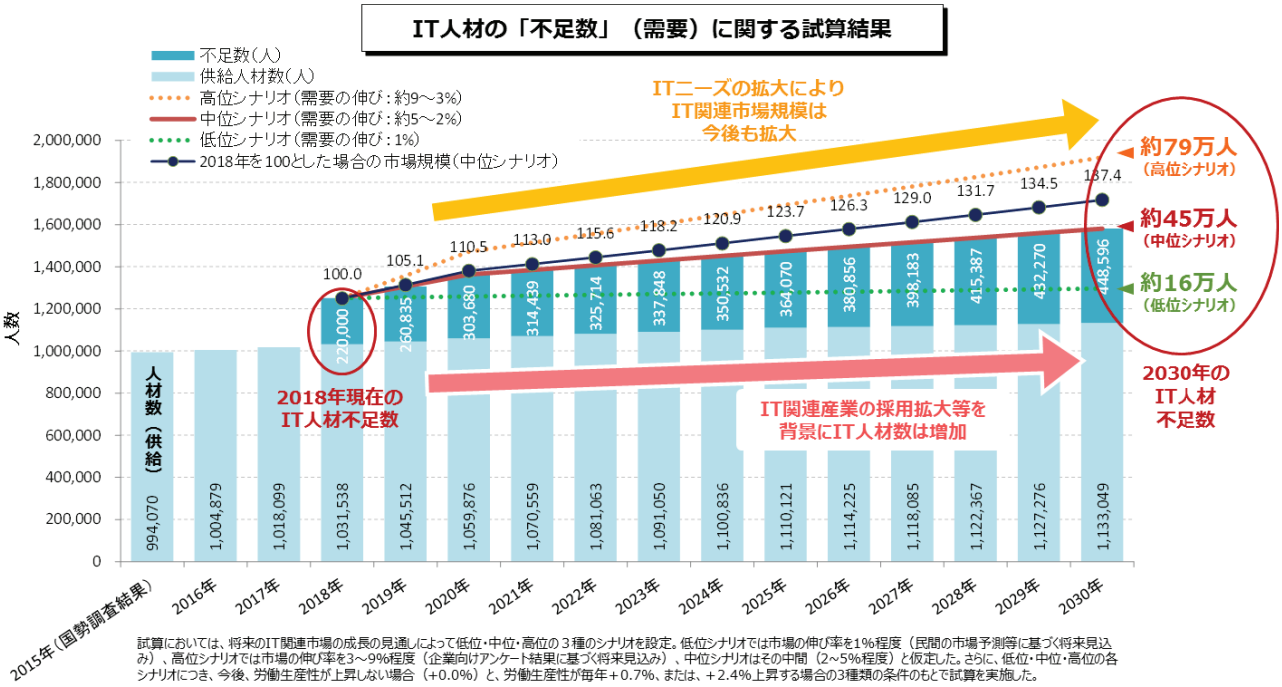
（表１） ＩＴ人材の需給ギャップ

2018 年	2020 年	2025 年	2030 年	2030 年（前回調査※）
22 万人	30 万人	36 万人	45 万人	59 万人

※前回調査：2016 年「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（経済産業省）における需要の伸び 1.5-2.5%シナリオの需給ギャップを記載。

ただし、年 3.54%の労働生産性上昇を実現した場合には、2030 年時点の IT 人材の需要と供給は均衡することが見込まれる。

＜参考１＞IT 人材需給の試算結果



試算においては、将来のIT関連市場の成長の見通しによって低位・中位・高位の３種のシナリオを設定。低位シナリオでは市場の伸び率を1%程度（民間の市場予測等に基づく将来見込み）、高位シナリオでは市場の伸び率を3～9%程度（企業向けアンケート結果に基づく将来見込み）、中位シナリオはその中間（2～5%程度）と仮定した。さらに、低位・中位・高位の各シナリオにつき、今後、労働生産性が上昇しない場合（+0.0%）と、労働生産性が毎年＋0.7%、または、＋2.4%上昇する場合の3種類の条件のもとで試算を実施した。

＜参考2＞各国の情報通信業の労働生産性上昇率

（日本生産性本部「労働生産性の国際比較 2017 年版」をもとにみずほ情報総研作成）

	1995 年以降の 労働生産性上昇率	2010 年代の 労働生産性上昇率
米国	5.4%	2.2%
ドイツ	4.2%	4.2%
フランス	3.1%	2.3%
日本	2.4%	0.7%

ｂ）IT 人材の供給

（試算方法・試算前提）

総務省「2015 年国勢調査」をもとに、2018 年時点の IT 関連産業の年代別従事者数を試算した。さらに、文部科学省「学校基本調査」から毎年の教育機関からの入職者数を、国勢調査から他産業から情報サービス産業への入職者数と退職者数の差分を算出し、それらをもとに 2030 年までの IT 人材数の将来見通しを試算した。

直近の国勢調査（2015 年）から試算した結果、2015 年時点での IT 人材数は約 99.4 万人と前回の国勢調査（2010 年）から試算した結果と比較して 7.5 万人程度増加している。また、教育機関からの毎年の IT 人材供給についても、リーマンショック時に減少したもののその後は増加基調にあることから、その増加傾向が今後も続くことを前提に試算を行った。

（試算結果）

この結果、我が国の労働人口及び若年層人口は全体としては減少するものの、IT 人材供給については、2030 年まで増加が見込まれることとなった。

（表 2）IT 人材供給の見通し

2018 年	2020 年	2025 年	2030 年	2030 年 （前回調査※）
103 万人	**106** 万人	**111** 万人	**113** 万人	**86** 万人

※前回調査：2016 年「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（経済産業省）

ｃ）IT 人材の需要

（試算方法・試算前提）

〇将来の IT 関連市場の成長の見通しにつき、以下のとおり高位・中位・低位の 3 種のシナリオを設定し、IT 関連市場の成長率と等しい伸び率で IT 人材需要の伸び率が推移するという前提の下、試算を行った。

高位シナリオ：年平均成長率 4.4%程度（企業向けアンケート（※）結果）

中位シナリオ：年平均成長率 2.7%程度（高位と低位の中間）

低位シナリオ：年平均成長率 1%程度（民間の市場予測等に基づく）

※企業向けアンケート

2018 年 10 月、IT 企業 3000 社、ユーザー企業 3000 社を対象に IT 人材の現状の不足感や将来見通しについてアンケートを実施。2173 社から回答があった。（回答率 36.2%）

回答結果から、短期～長期の需要の伸びは、年率 9～3%（平均約 4.4%）と見込まれた。

〇さらに、アンケートは将来の生産性の伸びを前提としていないことから、それぞれのシナリオについて、労働生産性の上昇が人材需要に与える影響も考慮し、労働生産性の上昇率について二通りの前提を置いた。

毎年 0.7%上昇：2010 年代における日本の情報通信業の労働生産性の伸び

毎年 2.4%上昇：1995 年以降の日本の情報通信業の労働生産性の伸び

（試算結果）※年 0.7%の労働生産性上昇の場合を掲載

上述の高位シナリオでの伸び率(約 4.4%)をもとに試算すると、2030 年の IT 人材需要は 192 万人と 2018 年に比べ 67 万人増加する一方、低位シナリオ(1%)をもとに試算した場合は、5 万人程度の増加に留まる。

（表 3）IT 人材需要の見通し

	2018 年	2020 年	2025 年	2030 年	2030 年 （前回調査※）
高位 （需要の伸び率 約 4.4%）	125 万人	147 万人	169 万人	192 万人	165 万人
中位 （需要の伸び率 約 2.7%）		136 万人	147 万人	158 万人	144 万人
低位 （需要の伸び率 約 1%）		126 万人	128 万人	130 万人	127 万人

※前回調査：2016 年「IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査結果」（経済産業省）
なお、前回調査における高位、中位、低位は、それぞれ伸び率が、2～4%、1.5～2.5%、1%であり、低位以外は今回と伸び率が異なるほか、生産性の上昇率について試算で考慮していない点に留意する必要がある。

（2）従来型 IT 人材と先端 IT 人材に関する試算

（試算方法・試算前提）

（1）における IT 関連市場を「従来型 IT サービス市場」(※1)と「先端 IT サービス市場」(※2)に 2 分し、それぞれの市場に従事する人材を「従来型 IT 人材」と「先端 IT 人材」とした。

その上で、以下の 3 つの Re スキル率（※3）のパターンの下、従来型 IT 人材と先端 IT 人材について需給ギャップの推移を試算した。

(※1)従来型 IT システムの受託開発、保守・運用サービス等に関する市場を従来型 IT 市場と定義した。
(※2)IoT 及び AI を活用した IT サービスの市場を先端 IT 市場と定義した。
(※3)Re スキル率：従来型 IT 人材から先端 IT 人材への転換を Re スキルと定義し、
(x-1)年に従来型 IT 人材であった人材で、x 年に先端 IT 人材に転換した人材数／(x-1)年の従来型 IT 人材数を Re スキル率と定義した。

＜Re スキル率のパターン＞

IT 人材の転換が

① 市場の構造変化に対応できる場合　：平均 3.8%/年（約 2-6%）
② 市場の構造変化にあまり対応できない場合：2%/年
③ 市場の構造変化に対応できない場合　：1%/年

（試算結果）

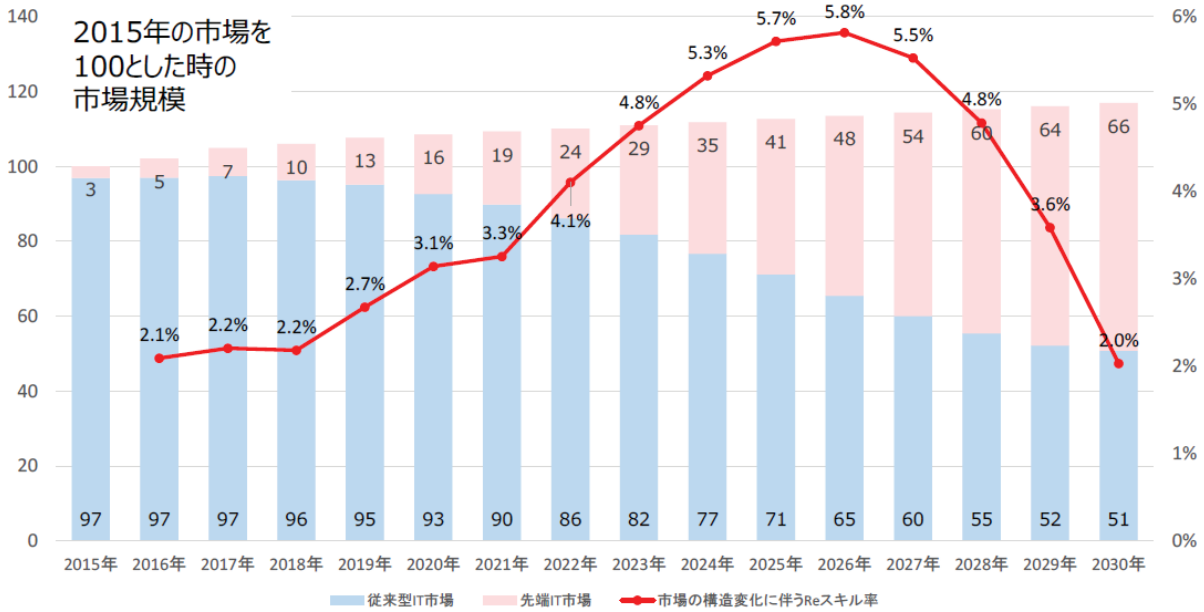
IT 市場の需要の伸びを約 2.7%（中位シナリオ）、労働生産性を 0.7%とした場合の 2030 年における従来型 IT 人材と先端 IT 人材の需給ギャップは以下のとおりとなる。

（表４）従来型 IT 人材と先端 IT 人材の需給ギャップ（2030 年時点）

	従来型 IT 人材	先端 IT 人材	合計
Re スキル率 2～6%	18 万人	27 万人	45 万人
Re スキル率 2%	0 万人	45 万人	
Re スキル率 1%	△10 万人	55 万人	

※△：供給数＞需要数

〈参考３〉今後の IT 関連市場の構造変化と構造変化に対応した場合の Re スキル率の推移



（３）AI 人材の需給について

AI を実現する数理モデルについての研究者（ただし、学術・研究機関を除く）やAI 機能を搭載したソフトウェアやシステムの開発者、AI を活用した製品・サービスの企画・販売者を「AI 人材」として定義し、その需給及び需給ギャップを試算した。

ａ）AI 人材の需給ギャップ

AI 人材の需要と供給について、後述の方法で試算を行いそのギャップを試算したところ、下記の表の結果が得られた。

なお、需給ギャップの試算にあたっては、AI 市場の需要の伸びについて複数の市場調査結果を参考したが、調査によって予測が大きく異なることから、そのうち最も低い伸びを低位シナリオに、平均値を平均シナリオとし、2 つのパターンで試算を行った。

〇低位シナリオ（低位の伸びの市場調査結果）　：年率 10.3%
〇平均シナリオ（複数の市場調査結果の平均値）：年率 16.1%

（表 5）AI 人材需給ギャップの見通し

AI 需要の伸び	2018 年	2020 年	2025 年	2030 年
低位（10.3%/年）	3.4 万人	2.8 万人	2.7 万人	1.2 万人
平均（16.1%/年）		4.4 万人	8.8 万人	12.4 万人

AI 人材の生産性が 0.7%上昇し、かつ、AI 需要の伸びが「平均」の場合は、2025 年には 8.8 万人、2030 年には 12.4 万人の需給ギャップが生じる。また、AI 需要の伸びが「低位」の場合、2018 年の 3.4 万人から需給ギャップは徐々に減少し、2025 年には 2.7 万人、2030 年には 1.2 万人まで緩和する。

ｂ）AI 人材の供給

（試算方法・試算前提）

企業向けアンケートで現在の AI 人材数や今後の育成見通しについて尋ねた。さらに、人工知能技術戦略会議のデータ及び企業向けアンケートから、それぞれ 1 年あたりの大学からの AI 人材輩出数と企業内育成数を算出し、それをもとに 2030 年までの AI 人材供給を試算した。

（試算結果）

今後の AI 人材育成に対して積極的な企業が多かったため、現在、1.1 万人規模と試算された AI 人材は、2030 年には、約 11 倍の 12.0 万人にまで拡大するとの結果が得られた。

（表６）AI 人材供給の見通し

2018 年	2020 年	2025 年	2030 年
1.1 万人	**3.8** 万人	**7.9** 万人	**12.0** 万人

ｃ）AI 人材の需要

（試算方法・試算前提）

AI 人材についても、IT 人材の需要と同様、AI 市場の成長率と等しい伸び率で人材需要の伸び率が推移するという前提の下、試算を行った。需要の伸び率については、前述のとおり 2 通りのシナリオを設定した。

（試算結果）

上記方法により、試算した結果は、AI 人材の需要はそれぞれ以下のとおりであり、低位シナリオの場合でも、AI 人材の需要は 2030 年に 2018 年比で約 3 倍となることが見込まれた。

※ IT 人材と同様、生産性は 0.7%上昇するとの前提

（表７）AI 人材需要の見通し

	2018 年	2020 年	2025 年	2030 年
低位(10.3%/年)	**4.4** 万人	**6.7** 万人	**10.6** 万人	**13.1** 万人
平均(16.1%/年)		**8.2** 万人	**16.7** 万人	**24.3** 万人

経済産業省

平成26年度補正先端課題に対応したベンチャー事業化支援等事業
（ITベンチャー等によるイノベーション促進のための人材育成・確保モデル事業）

IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果

～ 報告書概要版 ～

平成28年6月10日

商務情報政策局　情報処理振興課

（委託先：みずほ情報総研株式会社）

目次

＜1＞ 調査の背景と趣旨 ～ 労働力減少時代のIT人材動向 p.3

＜2＞ IT人材動向の将来予測 p.5

＜3＞ 今後の市場成長の鍵を握るIT人材 p.9

- 先端IT人材
- 情報セキュリティ人材

＜4＞ 攻めのIT投資に関する動向と課題 p.17

＜5＞ ITベンダーの現状認識と課題 p.21

＜6＞ 多様な人材の活用に向けて p.25

- 女性・シニアIT人材
- 外国籍IT人材

＜7＞ 今後のIT人材の活用・確保に向けた提言 p.29

① より多様な人材の活用促進
② 人材の流動性の向上
③ 個人のスキルアップ支援の強化
④ 処遇・キャリアの改革（産業の魅力の向上）
⑤ 重点的な強化が必要なIT人材に関する取組

おわりに ～ IT関連産業及び我が国の産業の競争力の強化に向けて ～

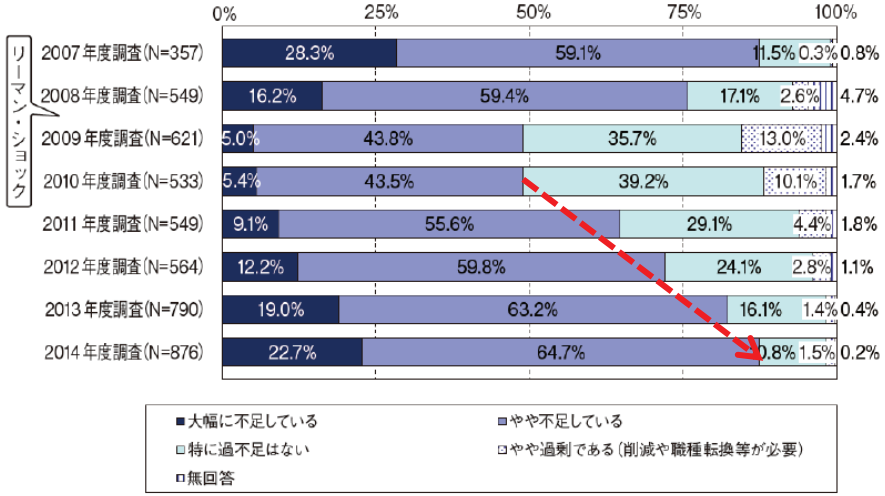
＜１＞ 調査の背景と趣旨　～ 労働力減少時代のIT人材動向

- ITは今後も我が国産業の成長にとって重要な役割を担うことが強く期待されており、十分なIT人材を確保することは、これまで同様、今後もきわめて重要な課題であるといえる。
- 本調査では、こうした問題意識のもとで、IT人材の中長期的な需給動向を展望するとともに、今後のIT人材の確保・育成に向けた方策についての検討を行った。

調査の背景と趣旨

- 2010年代の後半から2020年にかけて、産業界では大型のIT関連投資が続くことや、昨今の情報セキュリティ等に対するニーズの増大により、**IT人材の不足が改めて課題となっている**。また、ビッグデータ、IoT等の新しい技術やサービスの登場により、今後ますますIT利活用の高度化・多様化が進展することが予想され、中長期的にもITに対する需要は引き続き増加する可能性が高いと見込まれる。
- しかし、我が国の人口減少に伴い、労働人口（特に若年人口）が減少することから、今後、IT人材の獲得は現在以上に難しくなると考えられる。このように、**IT需要の拡大にもかかわらず、国内の人材供給力が低下することから、IT人材不足は今後より一層深刻化する可能性が高い**。
- ITは今後も我が国産業の成長にとって重要な役割を担うことが強く期待されている。こうしたITの重要性を踏まえると、今後も十分なIT人材を確保することは、我が国にとってきわめて重要な課題であるといえる。本調査は、こうした問題意識のもとで、**IT人材の中長期的な需給動向を展望するとともに、今後のIT人材の確保・育成に向けた方策を検討するもの**である。

IT人材の「量」に対する過不足感の推移

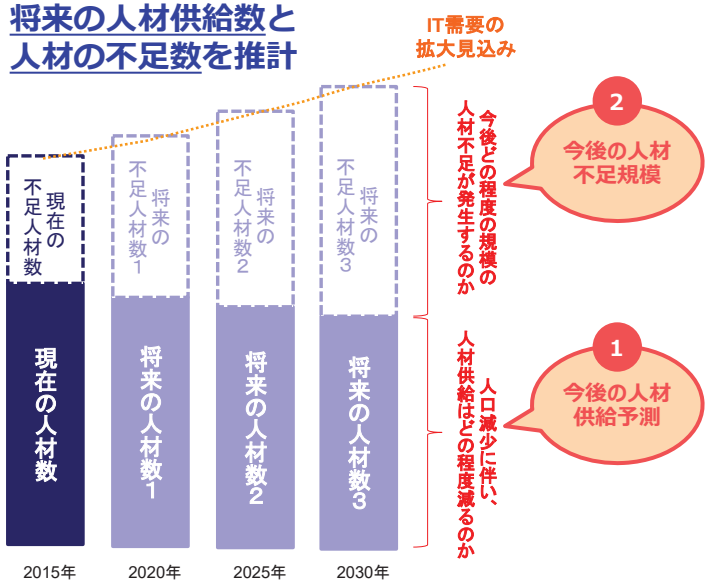


（出所）IPA「IT人材白書2015」（IT企業向け調査結果から）

▲ リーマン・ショック後、
IT人材に対する不足感は急速に拡大

本調査において把握する中長期的な人材需給動向のイメージ

▼ 本調査では、
将来の人材供給数と
人材の不足数を推計



＜２＞ IT人材動向の将来予測

- 前章のとおり、IT利活用の多様化・高度化によるIT需要の拡大にもかかわらず、国内の人材供給力が低下することから、IT人材不足は今後より一層深刻化する可能性が高い。
- このような状況を踏まえ、本章には、IT人材の中長期的な需給動向として、将来のIT人材供給数とIT人材の不足数について推計を行った結果を示す。

IT人材の「将来の供給見通し」に関する推計結果

■ 本調査では、IT人材の供給予測のために産業人口の推移に関するマクロモデルを構築し、現在のIT関連産業の年代別の従事者数や今後の我が国の人口動態予測等に基づき、IT関連産業の産業人口に関する将来推計（本調査では「マクロ推計」という。）を実施。

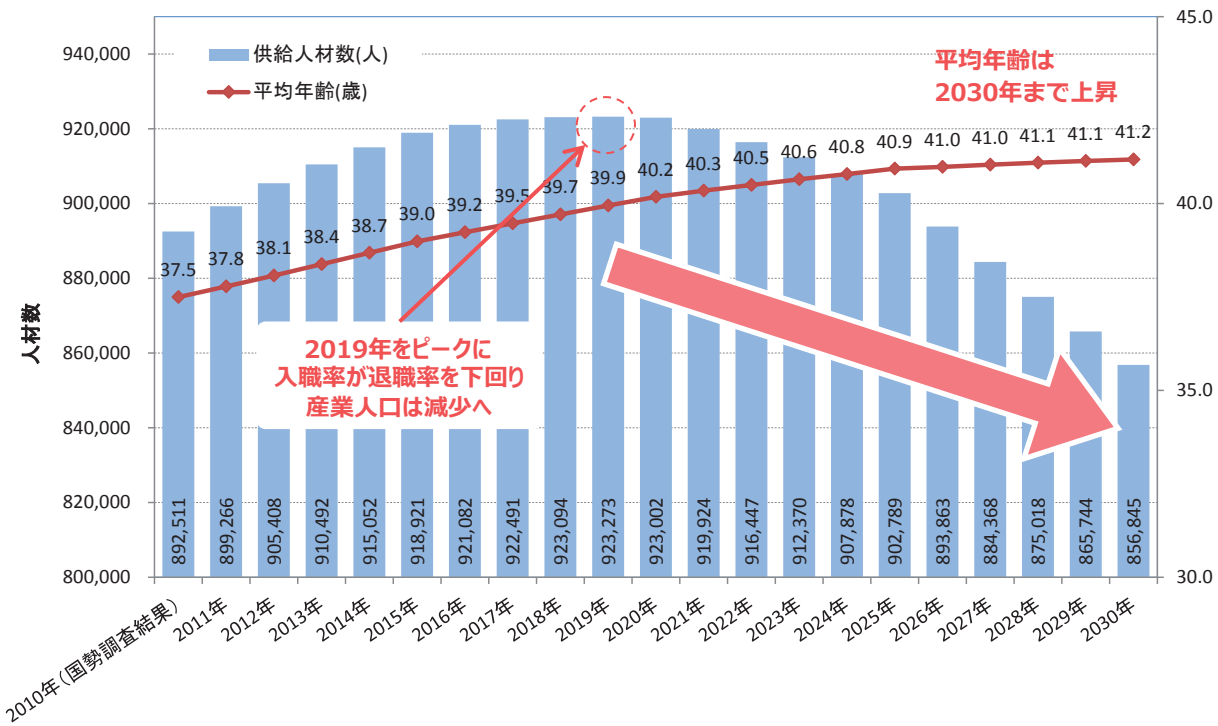
■ マクロ推計結果によれば、我が国の人口減少に伴って、**2019年をピークにIT関連産業への入職者は退職者を下回り、産業人口は減少に向かう**と予想される。また、**IT関連産業従事者の平均年齢は2030年まで上昇の一途をたどり、産業全体としての高齢化も進む**ことも把握された。

1 今後のIT人材の供給予測

▼ 新卒者の規模や動向等の人材供給の条件に今後大きな変化がなければ、我が国の人口減少に伴って、IT関連産業への入職者数は減少する見通し。

その結果、**近い将来、我が国のIT人材供給力は低下**し、IT人材全体の規模は減少に向かう可能性があることが示された。

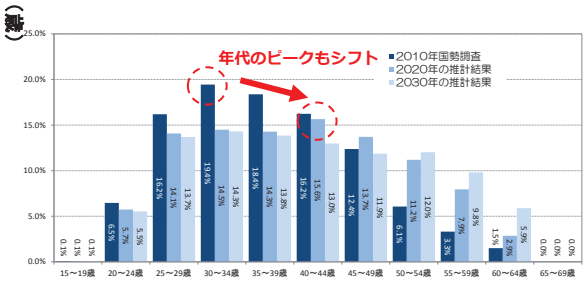
IT人材の供給動向の予測と平均年齢の推移



IT関連産業における年代別人口構成の変化

▼ 若年層の減少とシニア層の増加により、IT関連産業の年代別人口構成はフラット化

将来的には
IT関連産業全体としての
高齢化も進展



IT人材の「不足規模」に関する推計結果

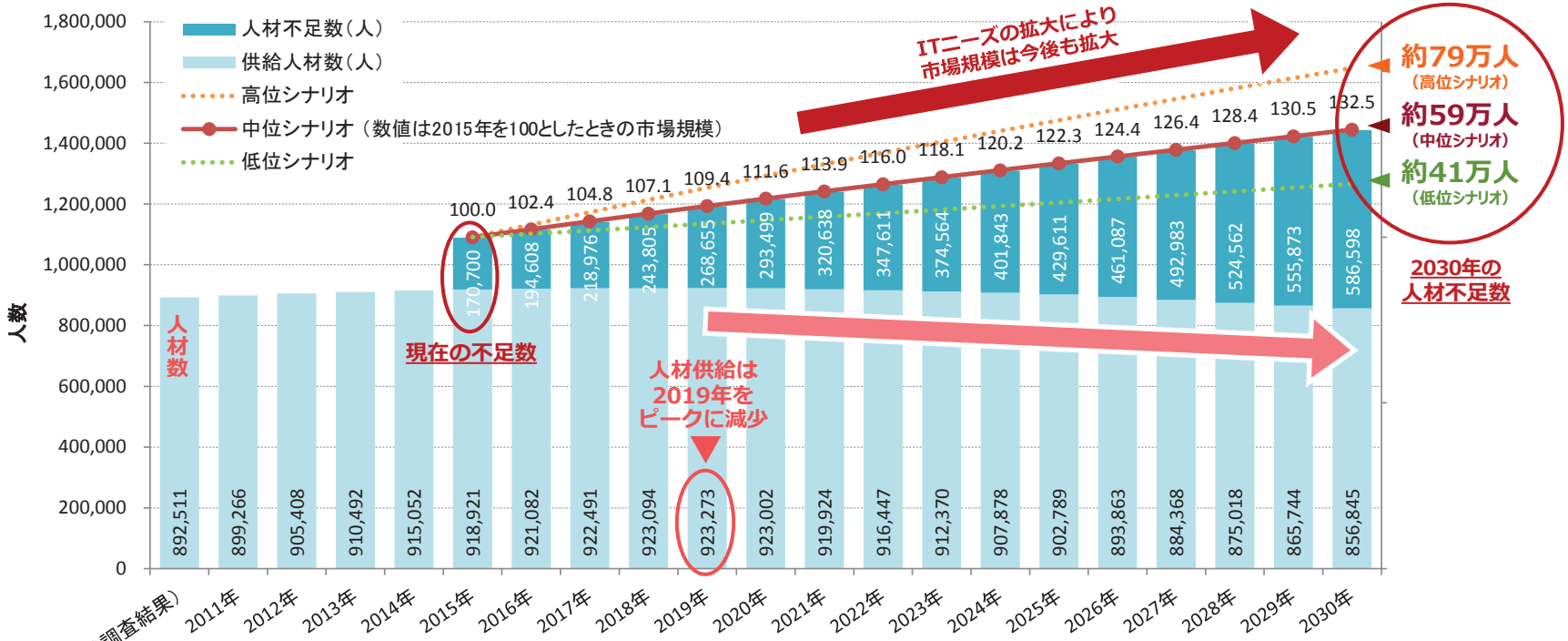
■ IT関連産業の産業人口に関する将来推計（マクロ推計）の一環として、人材の不足状況や今後の見通しに関するアンケート調査結果に基づき、現在及び将来の人材不足数に関する推計も実施。

■ マクロ推計によれば、**2015年時点で約17万人のIT人材が不足している**という結果になった。さらに、前頁で示されたとおり、今後IT人材の供給力が低下するにもかかわらず、ITニーズの拡大によってIT市場は今後も拡大を続けることが見込まれるため、IT人材不足は今後ますます深刻化し、**2030年には、（中位シナリオの場合で）約59万人程度まで人材の不足規模が拡大する**との推計結果が得られた。

2 今後のIT人材の不足規模

IT人材の不足規模に関する予測

■ **2015年の人材不足規模：約17万人**
■ **2030年の人材不足規模：約59万人**（中位シナリオ）
⇒ IT人材不足は、今後ますます深刻化



今回の推計では、将来の市場拡大見通しによって低位・中位・高位の３種のシナリオを設定。低位シナリオでは市場の伸び率を1％程度、高位シナリオでは市場の伸び率を2～4％程度（アンケート結果に基づく将来見込み）、中位シナリオはその中間（1.5~2.5％程度）と仮定した。さらに、低位・中位・高位の各シナリオにつき、今後の労働生産性に変化がない場合と、労働生産性が毎年1％及び3％向上する場合の3種類の推計結果を算出した。

＜３＞今後の市場成長の鍵を握るIT人材

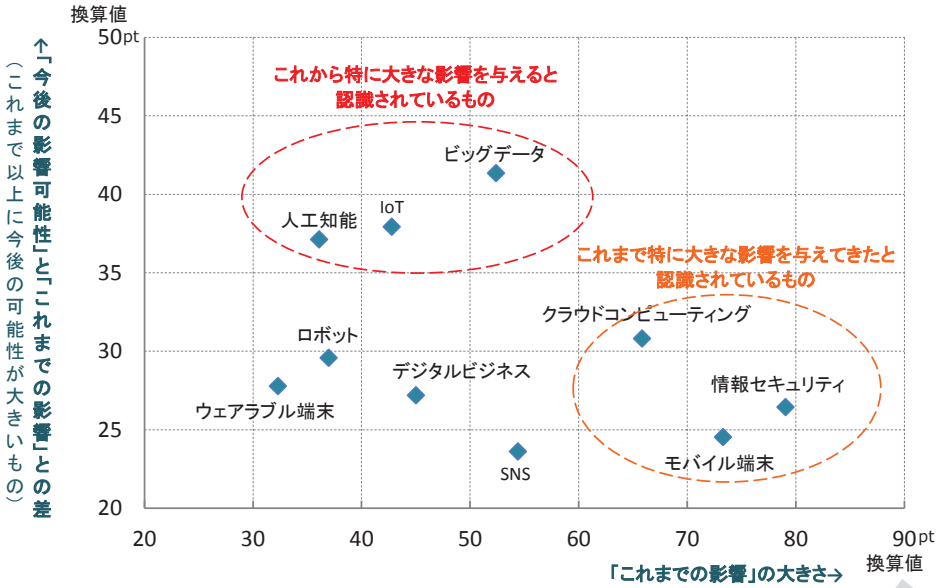
- 普及が進むクラウドコンピューティングのほか、ビッグデータやIoT（Internet of Things）、人工知能等のIT関連分野において近年高い注目を集めている先端的な技術・サービス（本調査では「先端IT技術」という。）は、今後の産業界を変革する大きな可能性を有していると考えられており、今後のIT関連市場の拡大・成長の鍵を握るキーワードとしてきわめて重要である。
- 本調査では、このような先端IT技術のサービス化や活用を担う人材（本調査では「先端IT人材」という。）の動向についても把握を試みた。

今後注目すべき先端IT技術

■ クラウド、ビッグデータ、IoTのほか、人工知能やロボット、デジタルビジネス、そして情報セキュリティなど、近年注目されるようになった先端IT技術は数多く挙げられる。このような先端IT技術のうち、**今後特にその重要性が増すものを把握する**という観点から、今回実施したアンケート調査に基づいて、**「これまで影響を与えてきたもの」と「これから影響を与える可能性が高いもの」**についての把握を試みた。

■ 左下図を見ると、「クラウドコンピューティング」、「情報セキュリティ」、「モバイル端末」などは、「これまで特に大きな影響を与えてきた」と認識されていることがわかる。また、**「ビッグデータ」、「IoT(/M2M)」、「人工知能」**については、**「これまで」よりも「これから特に大きな影響を与える」と認識されている**ことが読み取れる。これらの３つについては、右下図を見ても、他の項目よりも**「今後大幅に市場が拡大する」**という見方が強いことがわかる。

「すでに影響の大きい技術」と「今後大きな影響を与える技術」

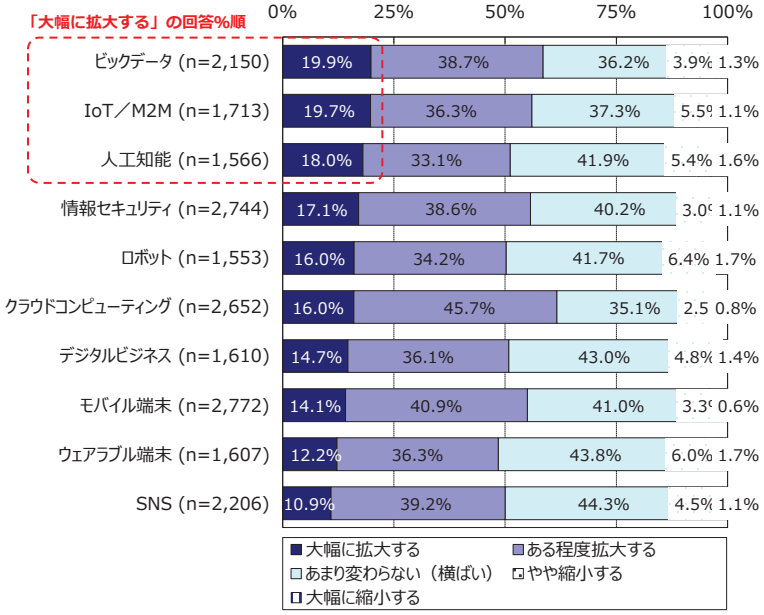


（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

▲**「ビッグデータ」、「IoT」、「人工知能」**は、「これまで」以上に「これから」特に大きな影響を与えると認識されている**「今後注目すべきキーワード」**である。

「換算値」は、「非常に大きな影響を与えてきた／与える」を２ポイント、「ある程度の影響を与えてきた／与える」を１ポイントとした際の値。すべての回答者が「ある程度の影響を与えてきた／与える」と回答した場合に100ポイントとなる。

先端IT技術に関する今後の市場の拡大見込み



（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

▲**「ビッグデータ」、「IoT」、「人工知能」**は、**「今後大幅に市場が拡大する」**という見方が強い。

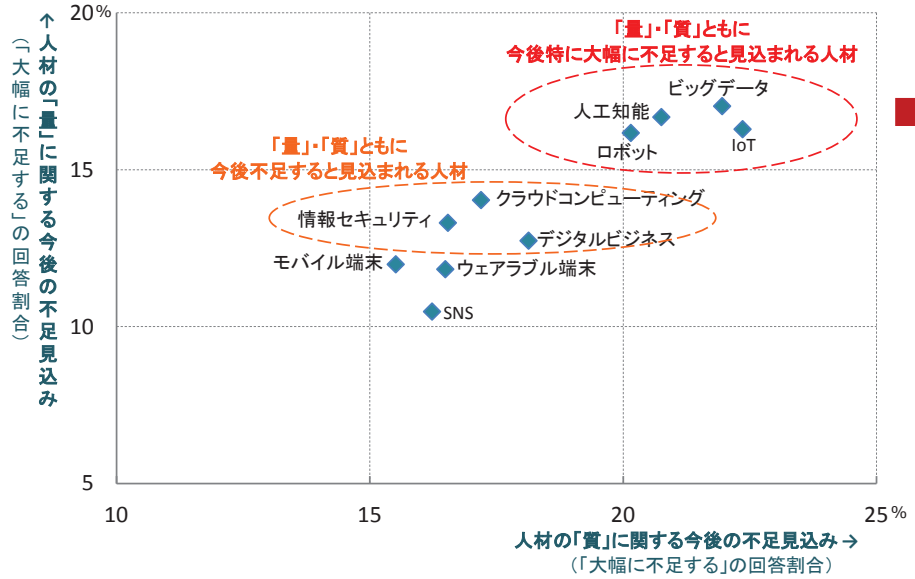
先端IT技術を担う人材（先端IT人材）の不足見込み

■ 将来的なIT関連市場の拡大を実現する上で、前頁に挙げた「ビッグデータ」、「IoT」、「人工知能」等の先端IT技術が重要な鍵を握ると考えられる。これらの**先端IT技術は、今後、産業界を大きく変革する可能性がある**と指摘されており、今後の活用に向けた期待は非常に大きい。

■ こうした**先端IT技術のサービス化や活用を担う人材**を本調査では**「先端IT人材」**と呼び、その不足状況や課題についても把握を試みた。

■ 本調査で実施したアンケートによると、**今後「量」・「質」ともに「特に大幅に不足する」と見込まれる人材は、「ビッグデータ」、「IoT」、「人工知能」のほか、「ロボット」に関する人材**という結果となった。これらの人材のほか、「クラウドコンピューティング」、「情報セキュリティ」、「デジタルビジネス」等を担う人材も不足感が強いという結果となっている。

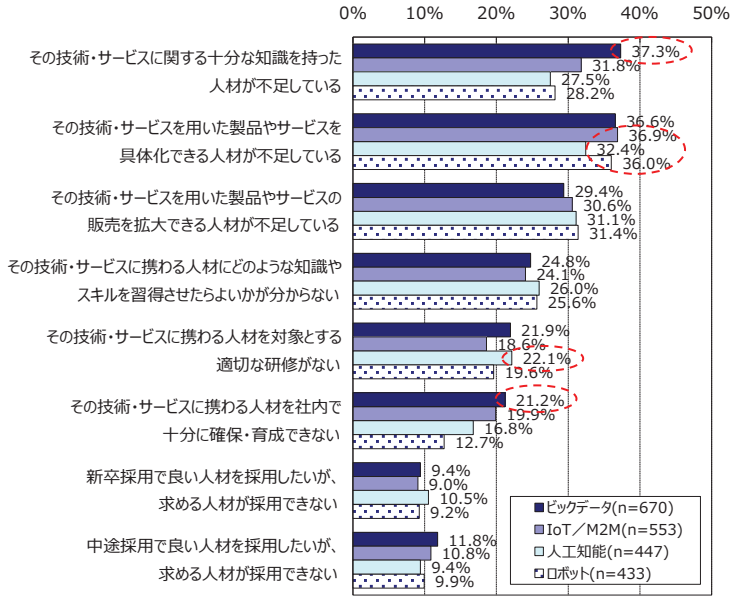
今後不足する先端IT人材



（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

▲ **「ビッグデータ」、「IoT」、「人工知能」**のほか、**「ロボット」**に関する人材が**「今後特に大幅に不足する」**人材として挙げられた。

先端IT人材に関する課題



（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

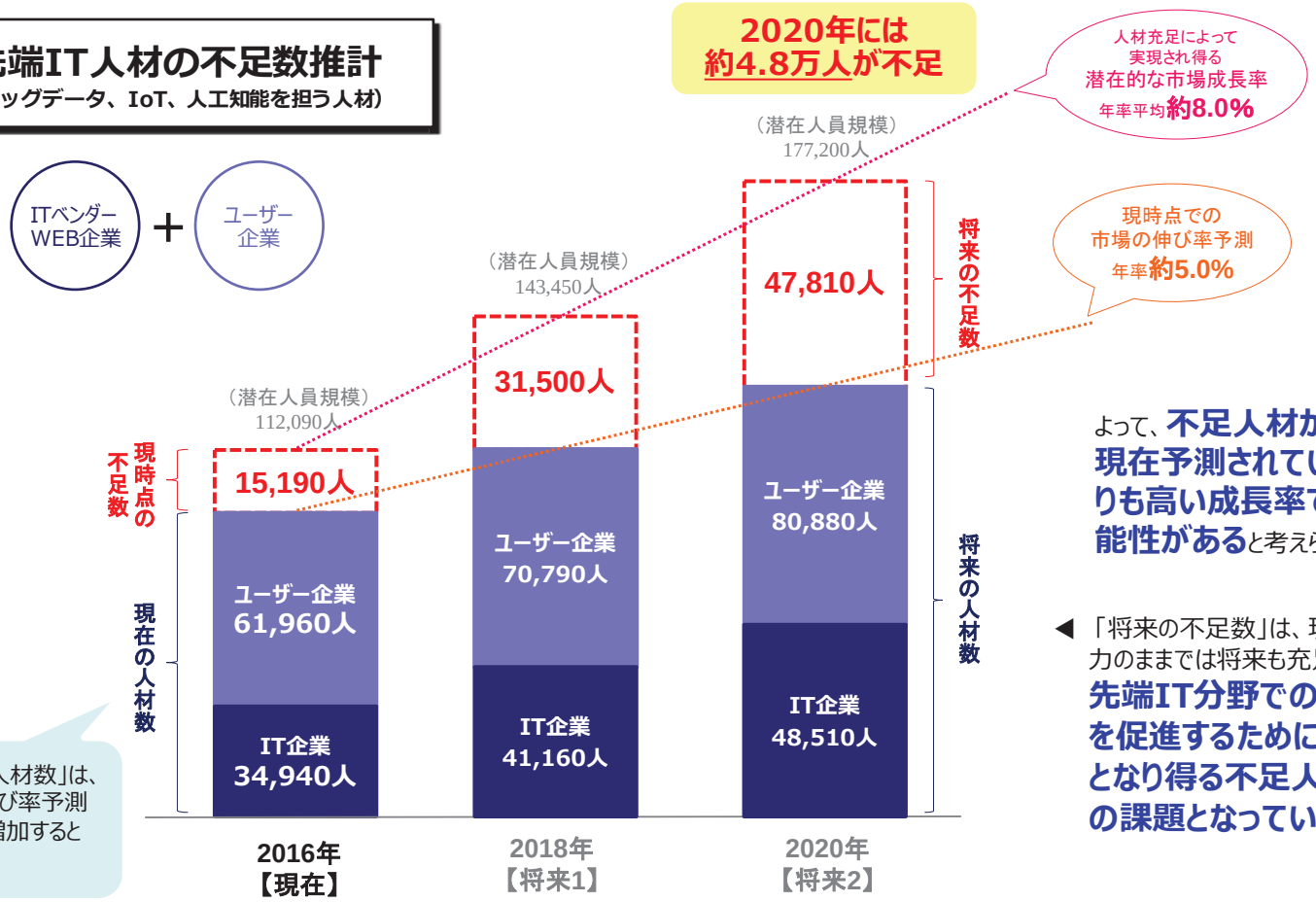
▲ 先端IT人材に関する課題は、**「十分な知識を持った人材の不足」**のほか、**「製品やサービスを具体化できる人材の不足」** など。

先端IT人材の人材数・不足数に関する推計

■ 前頁の結果によると、先端IT人材は、今後特に大幅に不足することが見込まれている。こうした問題意識を踏まえて、今回の調査では、p.14の調査結果から、**今後特に大幅な市場拡大が予想される「ビッグデータ」、「IoT」、「人工知能」を担う人材**について、アンケート結果に基づき、現在及び将来の人材数・不足数についての推計を行った。

■ 推計の結果、IT企業及びユーザー企業（産業界全体）の**現時点での先端IT人材は約9.7万人、現時点での不足数は約1.5万人**となった。**2020年までにこの人材数が12.9万人、不足数が4.8万人にまで拡大する**という試算結果が得られた。

先端IT人材の不足数推計
（ビッグデータ、IoT、人工知能を担う人材）



「現在の人材数」は、市場の伸び率予測に沿って増加すると仮定。

◀ 不足人材の充足によって、それまでに対応できていなかった市場のニーズに対応できるようになると考えると、不足人材数を充足した「潜在人員規模」は、潜在市場規模を示すといえる。
（人材数×1人あたり売上高＝市場規模）

よって、**不足人材が充足されることで、現在予測されている市場の伸び率よりも高い成長率で市場が成長する可能性がある**と考えられる。

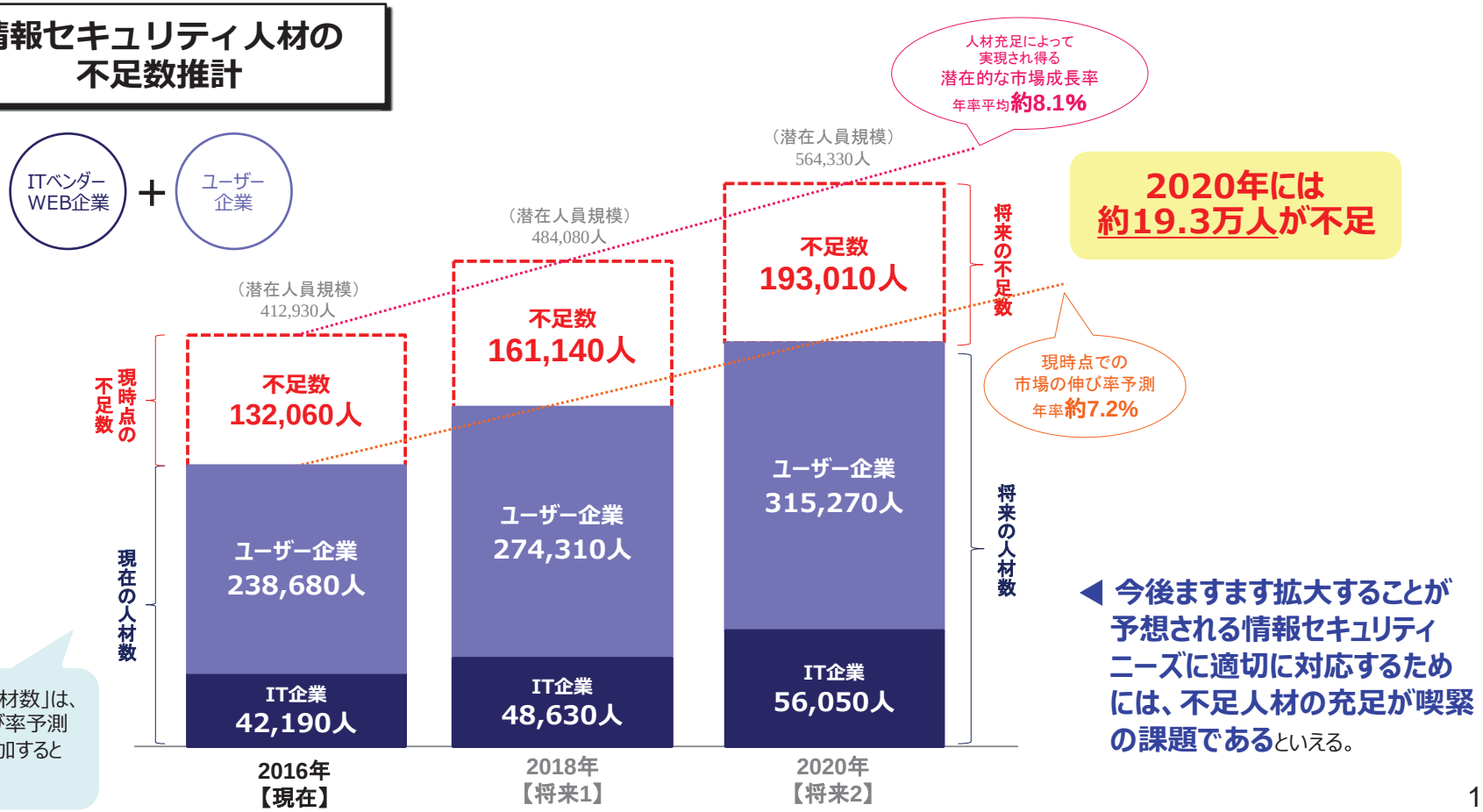
◀ 「将来の不足数」は、現状の国内の人材供給力のままでは将来も充足困難な人材数。
先端IT分野でのさらなる市場成長を促進するためには、成長の足かせとなり得る不足人材の充足が喫緊の課題となっている。

情報セキュリティ人材の人材数・不足数に関する推計

■ 情報セキュリティ対策を担う人材は、これまでと同様に、今後も産業界全体において非常に重要な役割を担うことが強く期待されている。また、現在は、「情報処理安全確保支援士」制度の創設等、政策的な取組も進められている。2014年7月に、情報セキュリティ人材に関しては、約8.2万人が不足しているとの推計結果が発表されているが、今回の調査では、最新の動向を踏まえ、改めてその人材数や不足数についての推計を実施した。

■ 推計の結果、IT企業及びユーザー企業（産業界全体）の**現時点での情報セキュリティ人材は約28.1万人、現時点での不足数は約13.2万人**となった。**2020年までにこの人材数が37.1万人、不足数が19.3万人にまで拡大する**という試算結果が得られた。

情報セキュリティ人材の不足数推計



「現在の人材数」は、市場の伸び率予測に沿って増加すると仮定。

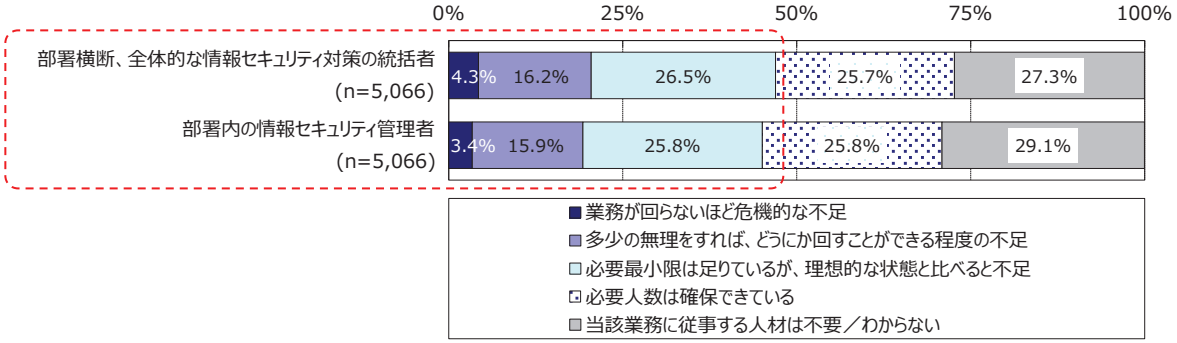
◀ **今後ますます拡大することが予想される情報セキュリティニーズに適切に対応するためには、不足人材の充足が喫緊の課題である**といえる。

情報セキュリティ人材に関する調査結果① （ユーザー企業）

- 今回の調査では、情報セキュリティ人材について、**「自社向け」の業務を担当するユーザー企業の人材**と、**「社外向け」の業務を担当するセキュリティベンダーやITベンダーの人材**に分けて、役割別の詳細な人材の不足感や人材の育成に関する課題等について尋ねるアンケート調査を実施した。
- **ユーザー企業**においては、どのような役割の情報セキュリティ人材についても**不足感があると回答している企業が半数近く**に上っている。
- 自社向けの情報セキュリティ人材の育成に関しては、専門性を活かせるようなキャリアパスが整備されていないことが大きな課題となっているが、特に中小企業においては、このような**情報セキュリティ人材としての専門性が考慮されているケースは少ない**ことがわかる。

「自社向け」情報セキュリティ対策業務に携わる人材の不足感

ユーザー企業の個人による回答



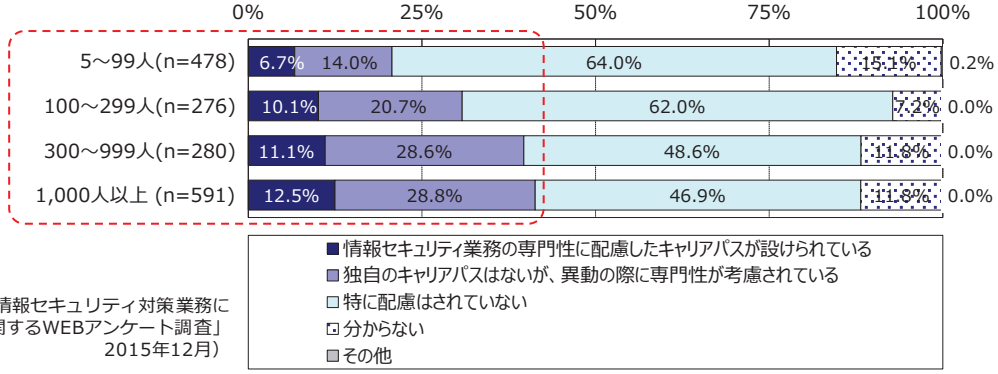
（「自社向け情報セキュリティ対策業務に携わる人材に関するWEBアンケート調査」2015年12月）

左図は、**自社向け**の情報セキュリティ対策業務を担当する人材の量的な不足感を尋ねた結果。

何らかの形で不足感があると回答している比率が半数近く、「必要人数は確保できている」と回答した企業は約4分の1となっている。

「自社向け」情報セキュリティ人材のキャリアパスの状況

ユーザー企業の個人による回答



（「自社向け情報セキュリティ対策業務に携わる人材に関するWEBアンケート調査」2015年12月）

左図は、**自社向け**の情報セキュリティ対策業務に従事する人材のキャリアパスの状況について尋ねた結果。

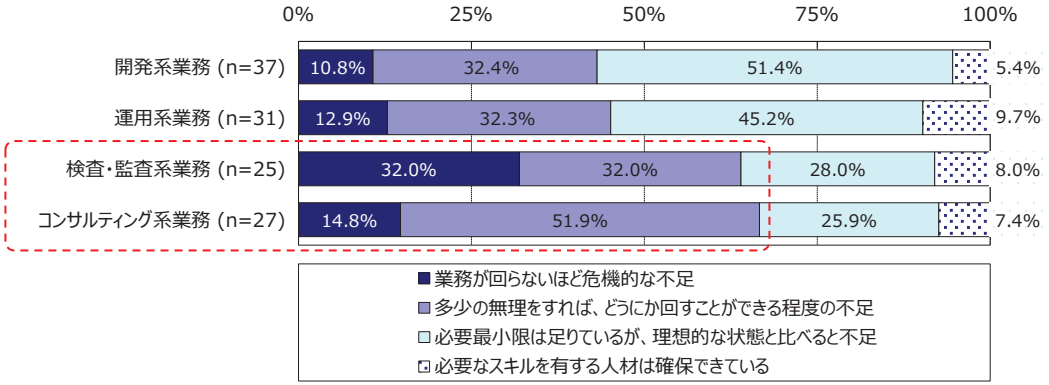
キャリアパスを考慮していない企業が大半であるが、企業規模が大きくなるにつれて、担当者の専門性を考慮したキャリアパスを設けている企業が増えている。

情報セキュリティ人材に関する調査結果②（セキュリティベンダー）

- 社外に情報セキュリティ製品・サービスを提供する**セキュリティ専門ベンダーやITベンダー**の人材については、特に**「検査・監査系業務」や「コンサルティング系業務」**を担当する人材の不足感が強くなっている。
- また、社外向けの情報セキュリティ人材の量的な不足の原因を尋ねた結果を見ると、「募集をしても必要な経験やスキルを有する応募者が少ない」との回答が最多であり、**企業側のニーズと人材市場との間でのミスマッチが生じている**ことが伺える。

「社外向け」情報セキュリティ対策業務に携わる人材の不足感

セキュリティベンダー（企業）による回答



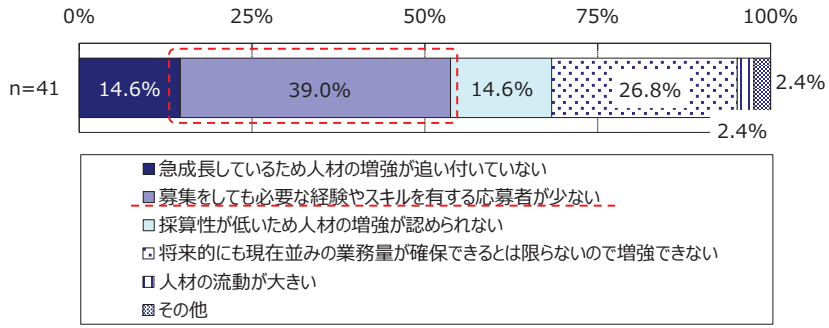
（「社外向け情報セキュリティ対策業務に携わる人材に関する企業アンケート調査」2015年12月）

左図は、**社外向け**の情報セキュリティ対策業務を担当する人材の量的な不足感を尋ねた結果。

「検査・監査系業務」のほか、「コンサルティング系業務」については、特に人材の不足感が強い。

「社外向け」情報セキュリティ人材の量的不足の原因

セキュリティベンダー（企業）による回答



（「社外向け情報セキュリティ対策業務に携わる人材に関する企業アンケート調査」2015年12月）

左図は、**社外向け**の情報セキュリティ対策業務を担当する人材の量的な不足の原因を尋ねた結果。

「募集をしても必要な経験やスキルを有する応募者が少ない」との回答が最多であり、**企業側のニーズと人材との間でのミスマッチが生じている**ことがわかる。

＜４＞ 攻めのIT投資に関する動向と課題 ユーザー企業編

■ 本調査では、先端IT人材のほか、先端IT技術の導入・利活用等も含めた、企業における積極的なIT利活用を推進する人材として「攻めのIT投資」を担う「攻めのIT人材」に着目した。

■ なお、本調査では、「攻めのIT投資」を、「新しい技術を活用して業績や顧客満足度の向上を目指す、顧客志向の先端的なIT投資（またはIT利活用）」と定義し、①「コスト削減などの内部に閉じた目標ではなく、業績や顧客満足度の向上等の対外的な成果を目指していること（＝顧客志向）」のほか、②「比較的新しい技術を積極的に活用していること（＝先端的）」の２点に当てはまることを条件とした。

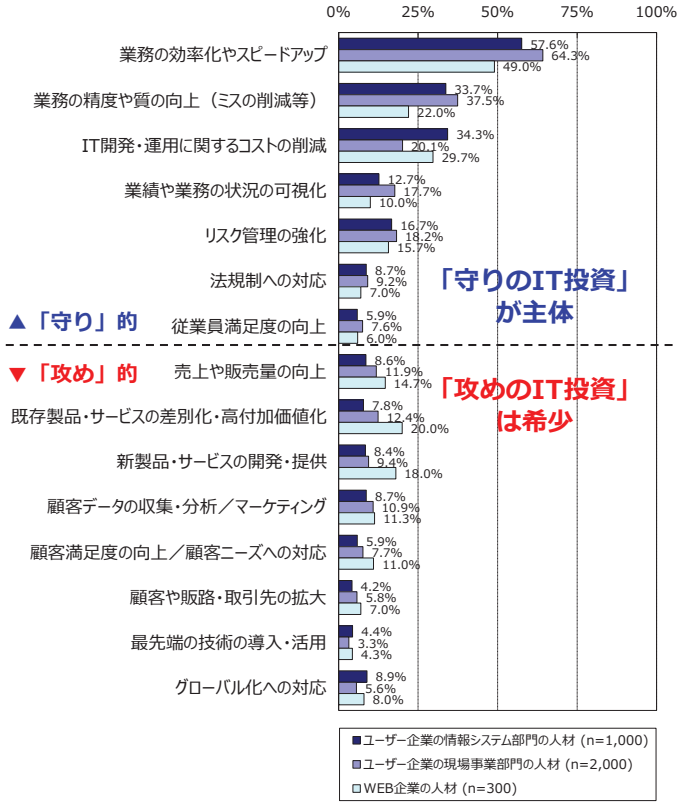
攻めのIT投資の実態と意識

ユーザー企業

■ 「攻めのIT投資」についての議論が行われる際、その**IT投資の目的**が重視されることが多い。こうした点を踏まえて、今回のアンケート調査において、自社におけるIT投資の目的について尋ねたところ、「付加価値や業績の向上」に直結する「攻めのIT投資」に該当する目的よりも、「コスト削減」等の効率化を重視する**「守りのIT投資」において多く見られる目的のほうが多い**という結果となった。

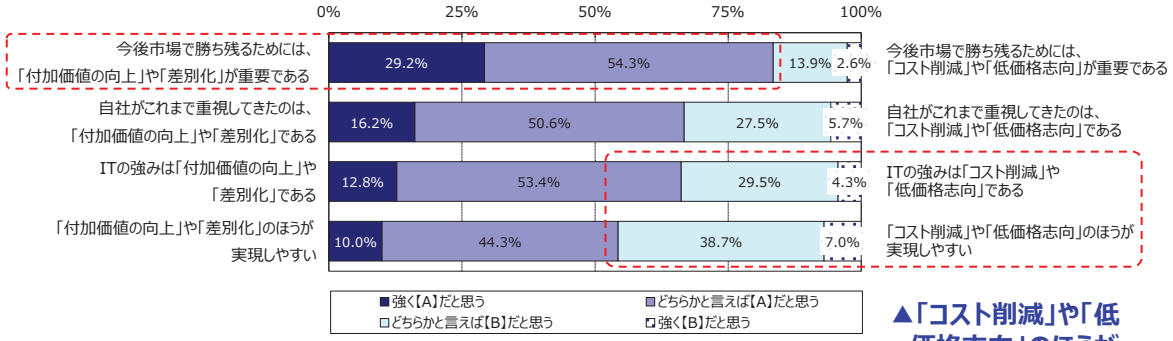
■ 我が国企業において「守りのIT投資」が主流になりがちな背景として、右図のように、企業にとっての「付加価値の向上」や「差別化」の重要性は十分に認識されているものの、**ITの強みを「コスト削減」や「低価格志向」にあるとする見方も一定を割合を占める**こと（中でも特にユーザー企業においてこの傾向が強いこと）や、**「コスト削減」や「低価格志向」のほうが実現しやすいとする考え方も根強い**こと、などが挙げられる。

自社におけるIT投資の目的



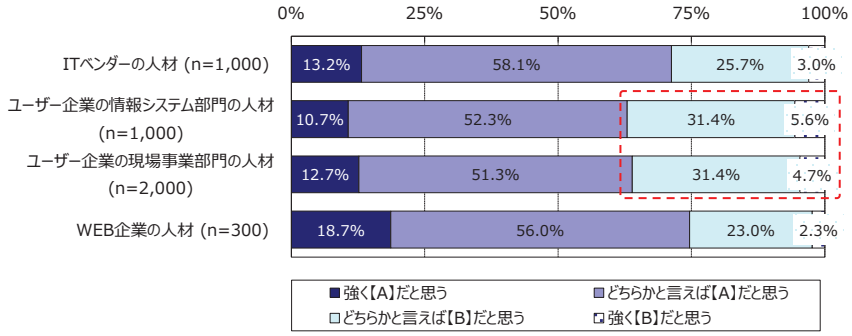
（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

「付加価値の向上」と「コスト削減」に対する意識



▲「コスト削減」や「低価格志向」のほうが実現しやすいとする考え方も多い

【A】ITの強みは「付加価値の向上」や「差別化」である
【B】ITの強みは「コスト削減」や「低価格志向」である



◀ ユーザー企業のほうが、ITの強みを「コスト削減」や「低価格志向」と捉える傾向がやや強い

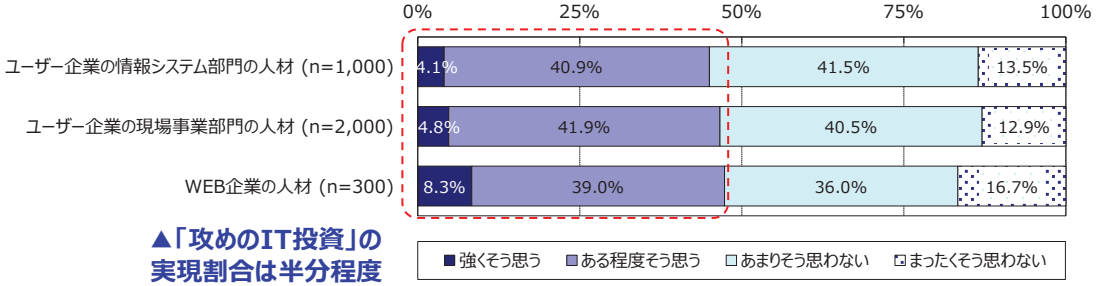
（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

攻めのIT投資の重要性と攻めのIT人材

ユーザー企業

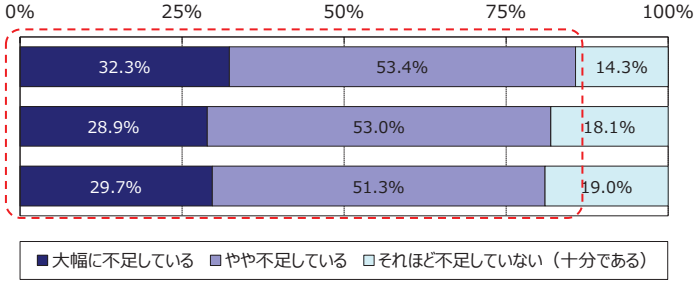
- 今回のアンケート調査において、「攻めのIT投資」が、実際に現在自社で実現されているかどうかを尋ねたところ、「強くそう思う」、「ある程度そう思う」という回答は、半数以下となり、**多くのIT人材が現在自社では「攻めのIT投資」が実現されていないと感じている**ことが把握された。
- しかし、今後、「攻めのIT投資」が重要になると思うかを尋ねた設問では、４分の３近くの回答者が「強くそう思う」、「ある程度そう思う」と回答し、**多くの回答者が「攻めのIT投資」の重要性を認識している**ことが示された。
- さらに、「攻めのIT投資」を促進する人材（攻めのIT人材）の不足状況については、８割を超える回答者が、「大幅に不足している」「やや不足している」と回答し、**「攻めのIT人材」の不足が深刻である**ことが明らかになった。
- 「攻めのIT人材」が特に不足する部門としては、「情報システム部門」を挙げる回答が多い。

現在「攻めのIT投資」 は自社で実現されているか



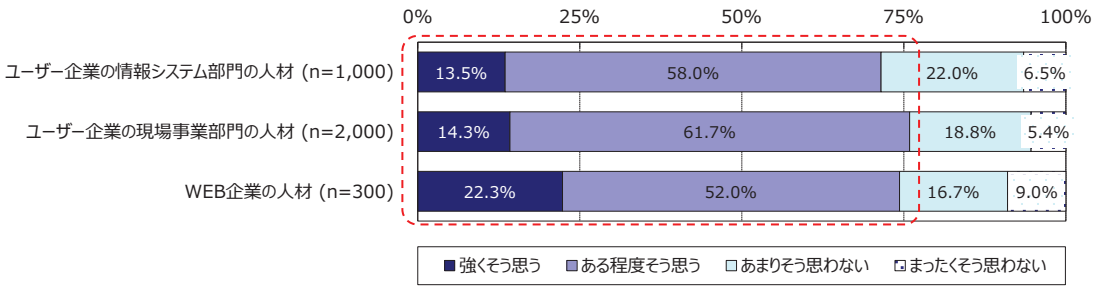
▲「攻めのIT投資」の実現割合は半分程度

「攻めのIT投資」を促進する人材の不足状況



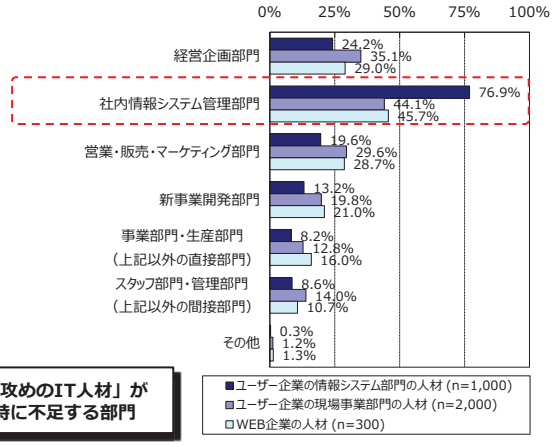
▲「攻めのIT人材」の不足は深刻

今後、自社で「攻めのIT投資」が重要になると思うか



▲「攻めのIT投資」の重要性は広く認識されている

（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）



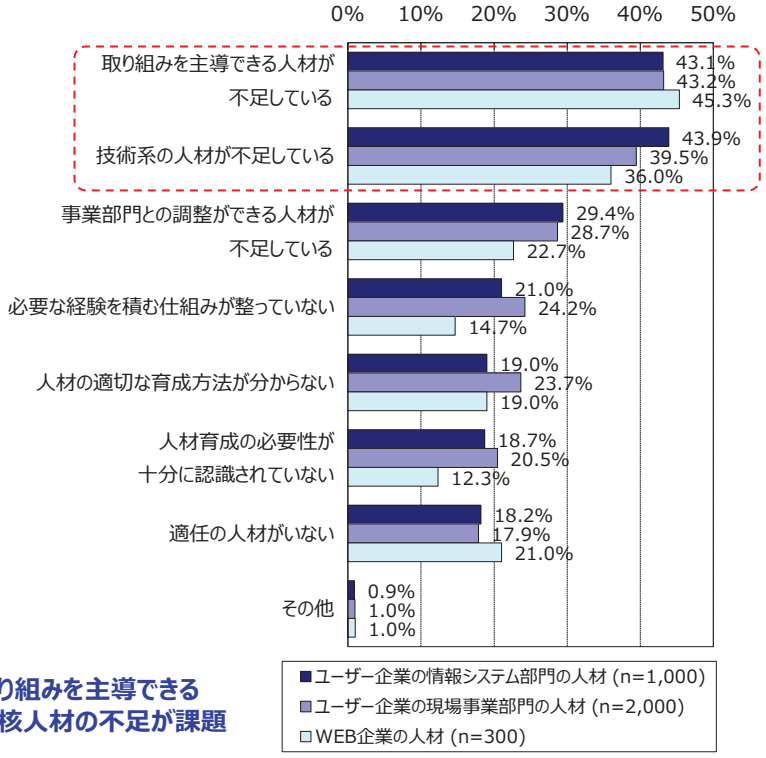
「攻めのIT人材」が特に不足する部門

攻めのIT投資と攻めのIT人材に関する課題

ユーザー企業

- 攻めのIT人材に関する課題（左図）として最も多いのは、「取り組みを主導できる人材が不足している」こととなった。**攻めのIT投資を牽引できる中核人材の不足**が最も大きな課題となっている。
- その他、２番目に回答が多いのは「技術系の人材が不足していること」となった。先端IT技術を効果的に導入・活用することは、「攻めのIT投資」を成功させる上での重要なポイントの一つであり、そのためにも**技術に関する十分な知見を持った人材に対するニーズが高い状況にある**と考えられる。
- 「攻めのIT投資」を促進する上での課題（右図）としては、**「情報システム部門」や「経営層」、「事業部門」の「意識改革」**という回答が多く挙げられる結果となった。その他、**情報システム部門において「攻めのIT投資」を担える人材の育成**も重要な課題であるといえる。

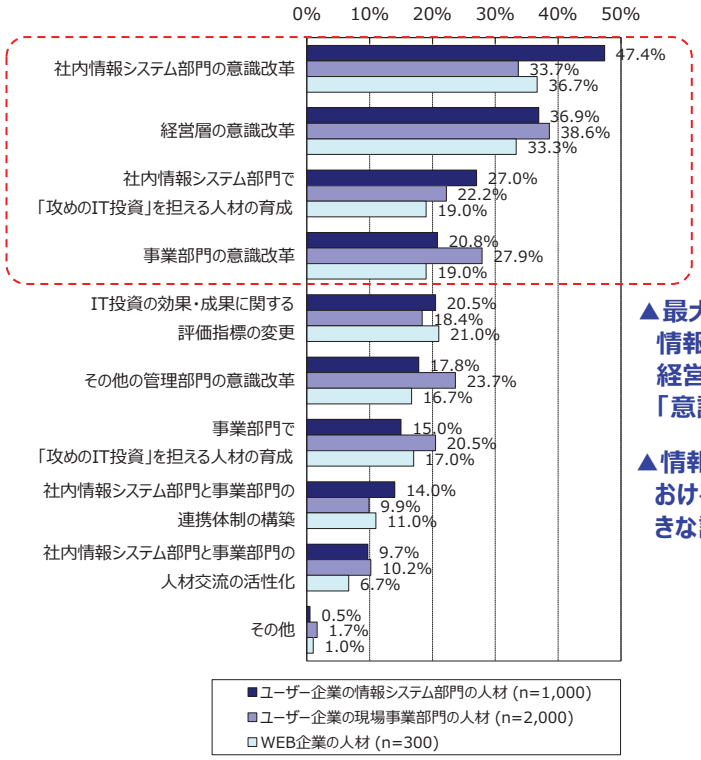
「攻めのIT人材」に関する課題



▲ 取り組みを主導できる中核人材の不足が課題

（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

「攻めのIT投資」を促進する上での課題



▲最大の課題は、情報システム部門や経営層、事業部門の「意識改革」

▲情報システム部門における人材育成も大きな課題となっている

（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

＜５＞ ITベンダーの現状認識と課題

ITベンダー編

- 「攻めのIT投資」が重視されるなど、ユーザー企業のIT利活用の高度化が進むと、ITベンダーも、それに合わせて変化することが求められる。特に、IT投資の成果として、ユーザー企業のビジネス上の成果が重視されるようになると、ITベンダーに対するユーザー企業の要求は、ますます高度化することが予想される。
- このような流れの中で、今後は、従来型の効率化やコスト削減を主目的とする受託システム開発業務の規模が減少するとの見方もあり、ITベンダーは、今後の勝ち残りのために、ユーザー企業の高度なニーズへの対応や新しいサービスの提供が求められる状況にある。
- こうした問題意識を踏まえて、本章では、ITベンダーの将来のビジネス環境に対する認識や、今後不足する人材とその獲得に向けた課題、今後ITベンダーが目指すべき方向性等をまとめた。

ITベンダーのビジネス環境認識

ITベンダー

■ 今回の調査では、ITベンダーに対して、IT関連業界の現在及び今後のビジネス環境に対する認識についても尋ねた。

■ 左図の結果によれば、「今後、IT関連市場は縮小する」という設問に対しては「そう思わない」という回答が半数を超えているものの、「今後、受託情報システム開発業務は縮小する」に対しては、「そう思う」という回答が半数を超える結果となっている。つまり、**今後、IT関連市場が拡大しても、ITベンダーの主力事業である受託情報システム開発業務は縮小するのではないかという危機感を感じている人材が多い**ことがわかる。

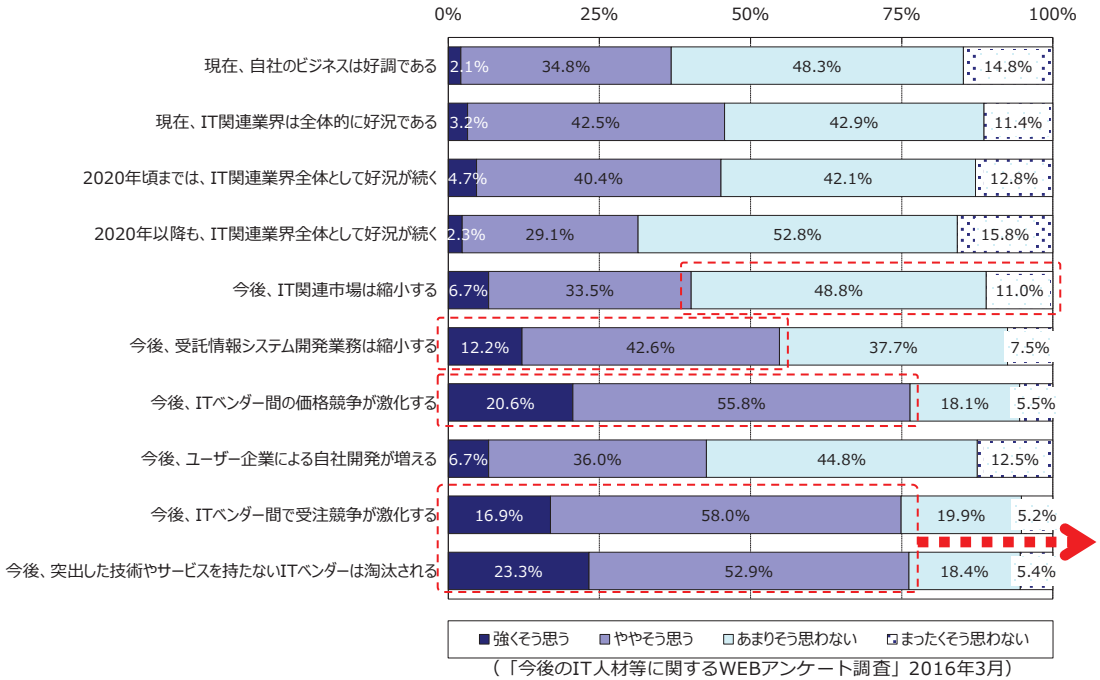
■ さらに、**「今後、ITベンダー間の価格競争が激化する」、「今後、ITベンダー間で受注競争が激化する」、「今後、突出した技術やサービスを持たないITベンダーは淘汰される」**等の設問でも「そう思う」との回答が７割を超えており、**強い危機感を感じている人材が多い**。

■ こうした結果を見ると、ITベンダーの人材は、**今後の業界動向を非常に厳しく捉えている**とみることができる。先端IT技術の登場やIT利活用の高度化、ユーザー企業の要求の高度化等によって、企業間の競争がますます厳しさを増すなかで、今後のITベンダーには、新しい技術の積極的な活用や新たなサービスの創出により競争力のあるサービスを提供し、厳しいビジネス環境を勝ち抜いていくことが求められている。

▼ **今後、IT関連市場は拡大しても、受託業務は縮小し、競争は激化するというITベンダーの強い危機感が読み取れる**

将来のビジネス環境に対する認識

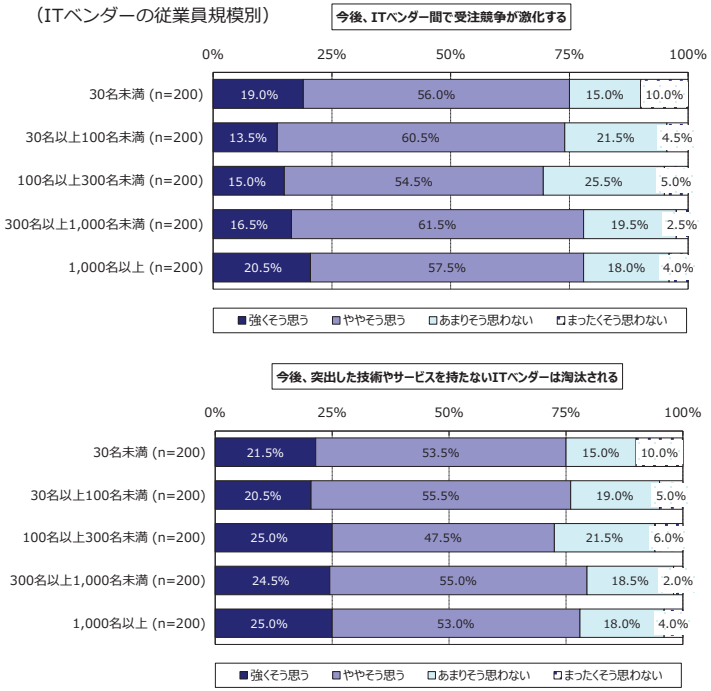
（ITベンダーの人材 n=1,000）



（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

▼ **ITベンダーの強い危機感は、従業員規模を問わず読み取れる**

（ITベンダーの従業員規模別）



（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

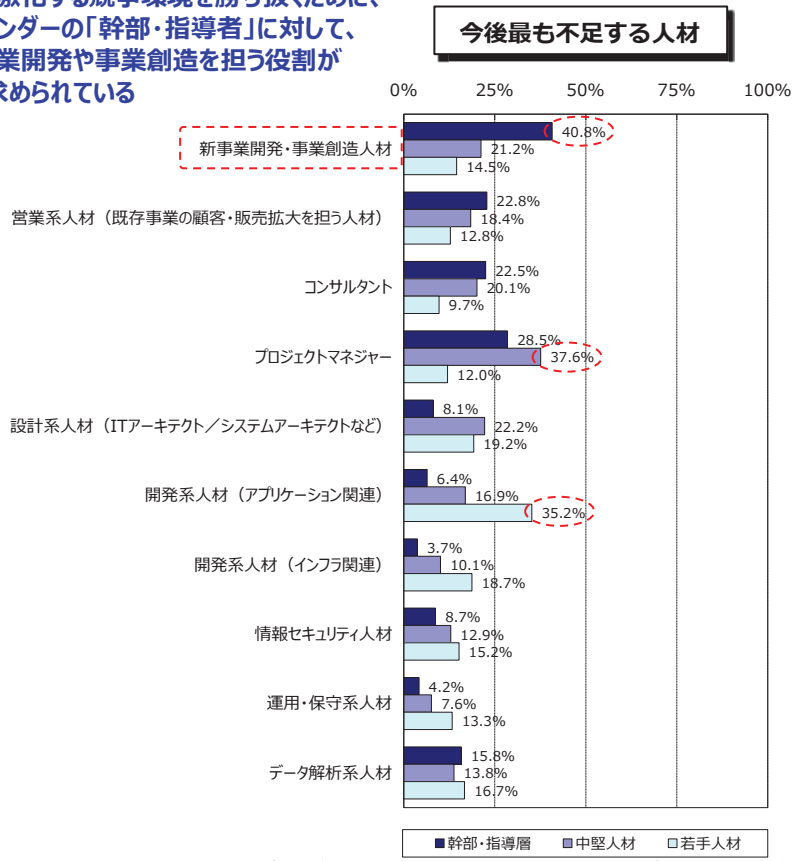
ITベンダーにおいて今後最も不足する人材

ITベンダー

■ 今後予想される厳しい競争環境を勝ち抜くために、ITベンダーに対して、「今後５年程度の間に最も不足する人材」を尋ねたところ、左図のような結果となった。若手人材としては「開発系人材（アプリケーション関連）」、中堅人材としては「プロジェクトマネージャー」、「幹部・指導者」としては「新事業開発・事業創造人材」が最も不足するという結果となった。**今後激化する競争環境を勝ち抜くために、ITベンダーの「幹部・指導者」に対しては、新事業開発や事業創造を担う役割が強く求められている**ことが読み取れる。

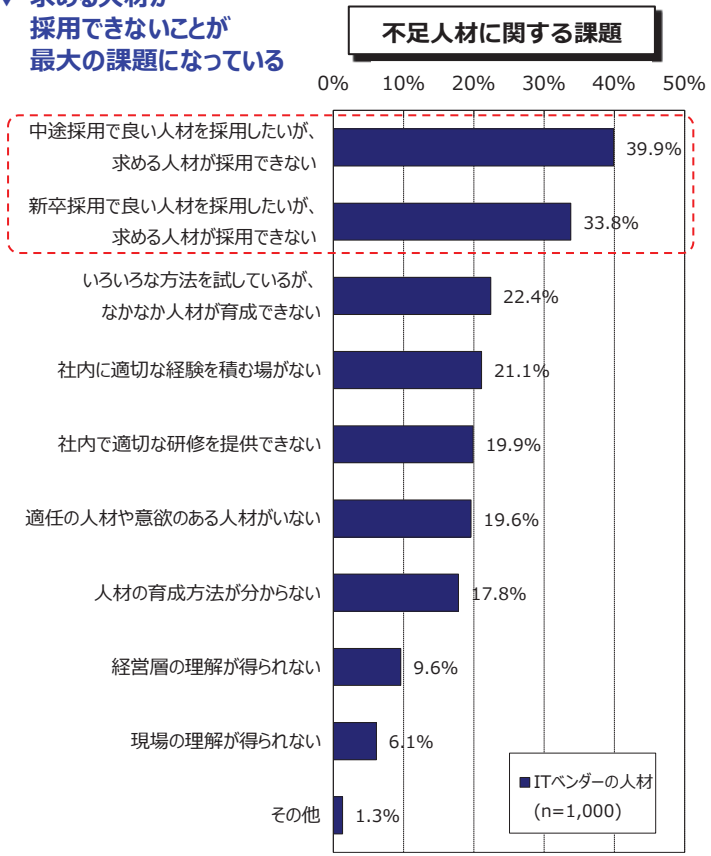
■ ITベンダーにおける人材の育成に関する課題を尋ねたところ、「中途／新卒採用で良い人材を採用したいが、求める人材が採用できない」という回答が最多となった。**採用活動において自社が求める人材が思うように採用できないことが、ITベンダーにおける最大の課題となっている**といえる。

▼ 今後激化する競争環境を勝ち抜くために、ITベンダーの「幹部・指導者」に対して、新事業開発や事業創造を担う役割が強く求められている



（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

▼ 求める人材が採用できないことが最大の課題になっている



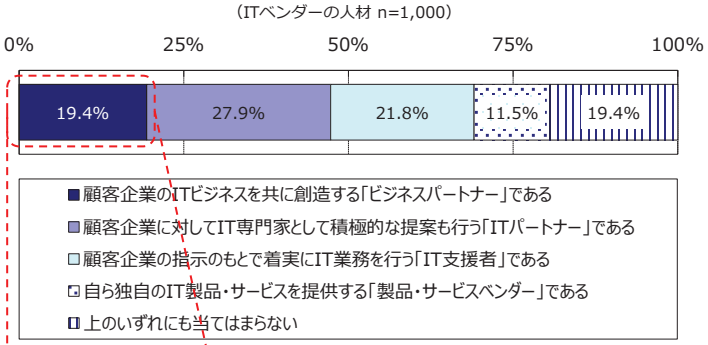
（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

ITベンダーが今後目指すべき方向性

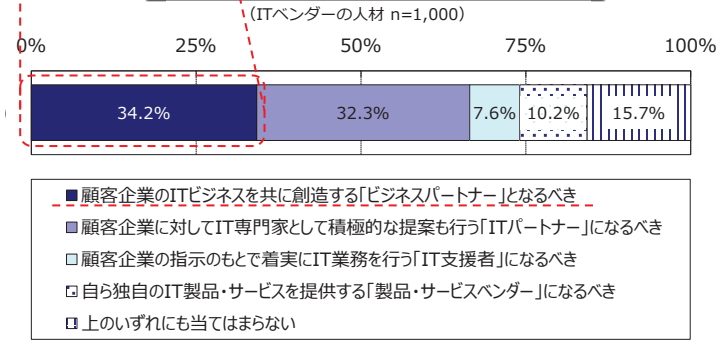
ITベンダー

- 今回の調査では、今後ITベンダーが目指すべき方向性として、「顧客との関係」と「グローバル市場における地位」の２点を尋ねた。
- 「顧客との関係」に関する左図の結果をみると、ITベンダーの人材のうち、３分の１を超える回答者が、**「顧客企業のITビジネスを共に創造する『ビジネスパートナー』となるべき」**と考えており、この回答が、すべての選択肢の中で最も多くなっている。
- また、日本のITベンダーのグローバル市場において目指すべき地位についても、ITベンダーの人材のうち約４割近くの回答者が、**「グローバルに戦えるIT製品・サービスを生み出し、“世界に誇るトップ産業”になること」**と回答しており、この回答が、すべての選択肢の中で最も多くなっている。
- ITベンダーの人材は、今後の厳しいビジネス環境を認識しつつも、**今後目指すべき方向性としては高い目標を志向している**ことが読み取れる。

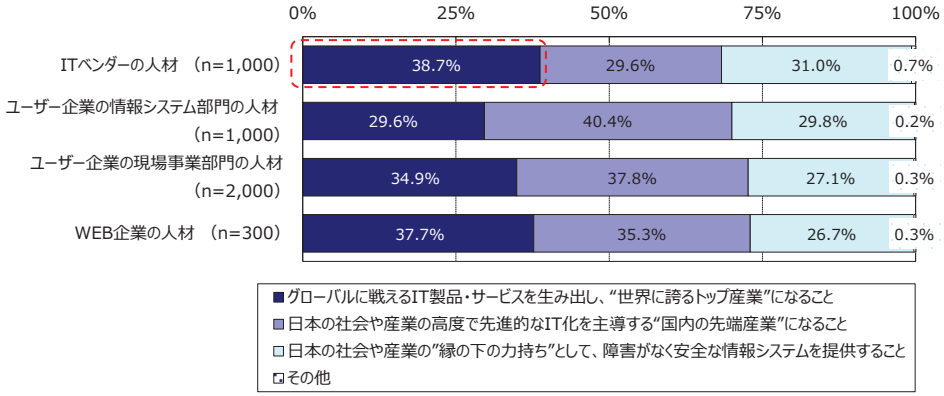
顧客との関係に関する自社の現状



自社が今後目指すべき顧客との関係



日本のITベンダーが今後目指すべき方向性



▲ **ITベンダーの人材の回答として最も多いのは、「グローバルに戦えるIT製品・サービスを生み出し、“世界に誇るトップ産業”になること」**

◀ **ITベンダーの人材の回答として最も多いのは、「顧客企業のITビジネスを共に創造する『ビジネスパートナー』となるべき」**

（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

＜６＞ 多様な人材の活用に向けて

- 第２章の結果を踏まえると、今後、我が国におけるIT人材の供給力が低下するにもかかわらず、ITニーズの拡大によってIT市場は今後も拡大を続けることが見込まれるため、IT人材の不足はますます深刻化すると考えられる。
- IT関連産業におけるこのような中長期的な課題を踏まえ、本章には、今後の人材確保のための方策の検討に向けて、「多様な人材の活用」に関する現状と課題を示す。

シニアIT人材・女性の活用に関する課題

- **既存のIT人材のさらなる活用**は、今後ますます深刻化すると考えられるIT人材不足に対する方策として、きわめて重要である。特に＜2＞にて把握されたとおり、今後、IT関連産業においては、**50代以上のシニア層（シニアIT人材）**の割合が高くなることが予想されるため、これらのシニアIT人材にこれまで以上に活躍していただくことは、IT人材不足を緩和するためにも重要な課題であるといえる。
- また、IT人材の４分の１を占める**女性IT人材**についても、IT人材が不足する今後において、より一層の活躍が期待される状況にある。

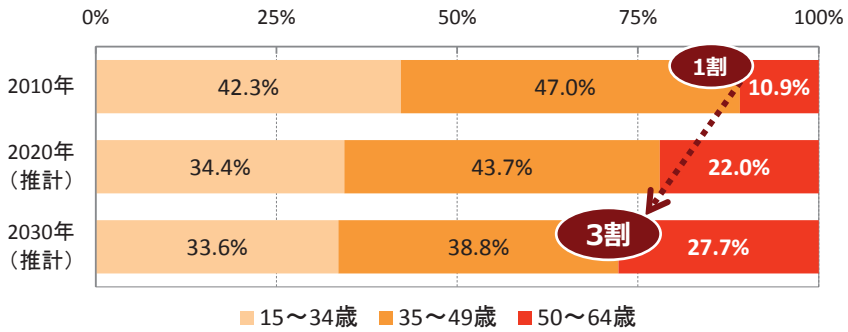
IT関連産業における「女性」の比率

業種	男性	女性	合計	女性構成比
ソフトウェア業	535,883	127,862	663,745	19.3%
情報処理・提供サービス業	207,968	102,943	310,911	33.1%
インターネット附随サービス業	34,670	16,377	51,047	32.1%
合　計	**778,521**	**247,182**	**1,025,703**	**24.1%**

（平成26年特定サービス産業実態調査確報）

▲ IT関連産業を支える **IT人材の４分の１は女性**

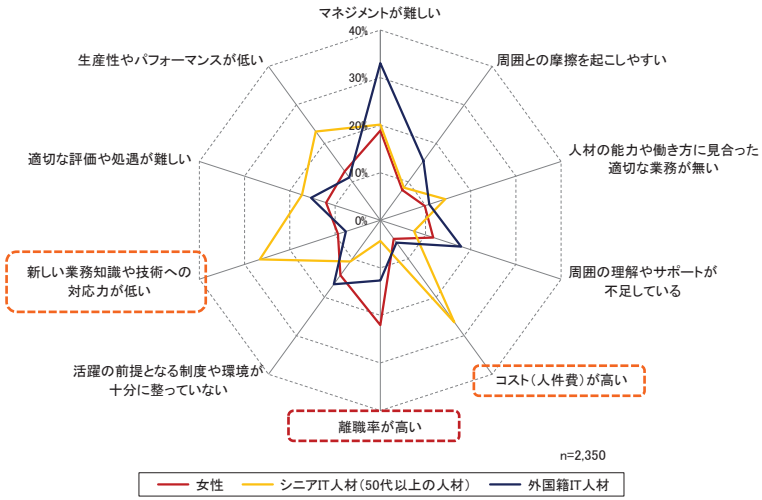
IT関連産業における「シニア人材」の比率の推移



（p.6右下のIT関連産業の年代別人口構成の推計結果に基づき作成）

▲ **2030年にはIT人材の約３割が50代以上に**

女性やシニアIT人材の活用の際の課題



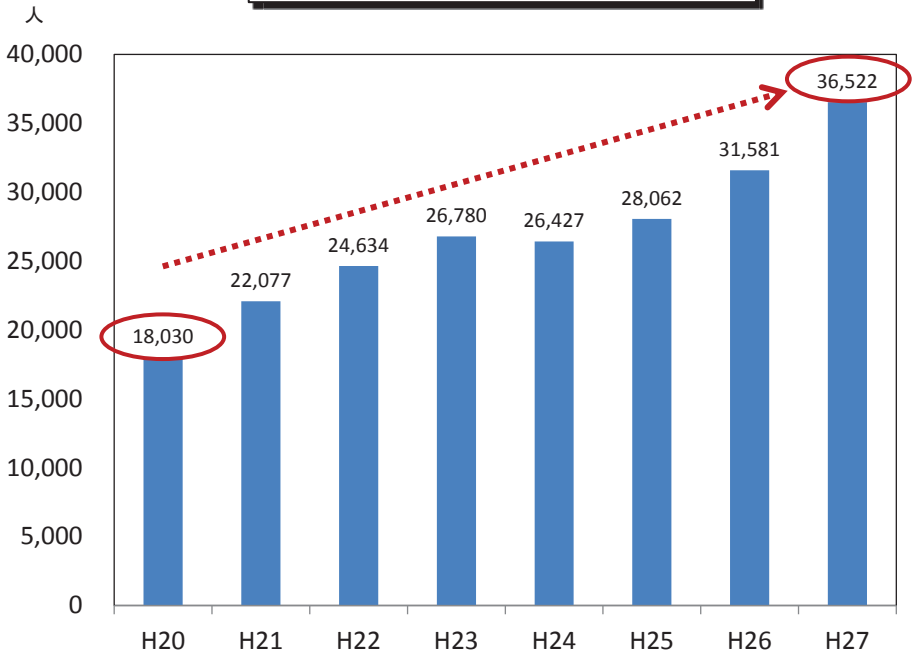
（「IT人材需給に関するWEBアンケート調査」2015年7月）

▲ 女性に関する課題として**「離職率が高い」**、
シニア人材に関する課題として
「新しい業務知識や技術への対応力が低い」
「コスト（人件費）が高い」
などが挙げられている

外国籍IT人材の活用に関する課題①

- 国内の人口が減少し、国内のみではIT人材の供給力強化が難しい状況において、今後、十分なIT人材の獲得を図るための方策の一つとして、**外国人人材（本調査では「外国籍IT人材」という。）の獲得や活用**について検討することは重要である。
- 左下図のとおり、平成20年（2008年）から平成27年（2015年）の**7年間で情報通信業に就労している外国人数は約２倍に拡大**しており、外国籍IT人材はIT関連産業において、より一層存在感を強めている。
- 右下図の調査結果によれば、外国籍IT人材の活用に関する課題として、制度や環境の未整備よりも**マネジメントの難しさ**を挙げる声が多い。

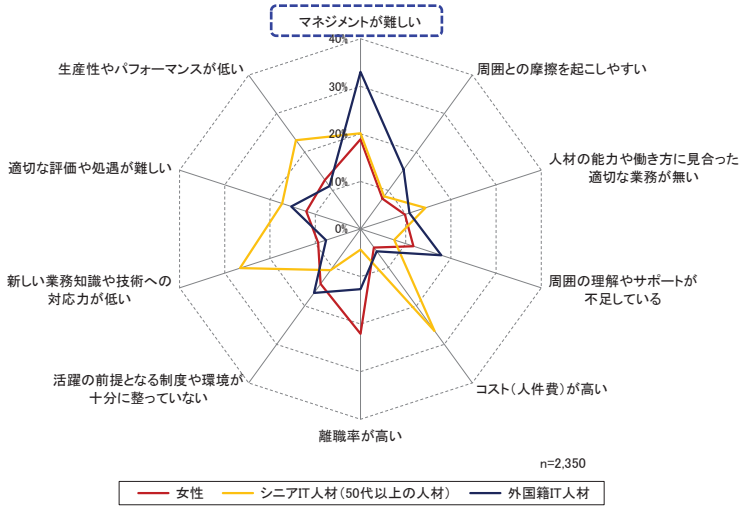
情報通信業に就労している外国人数の推移



（厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめをもとにみずほ情報総研作成）

▲ **情報通信業で就労する外国人は７年間で約２倍に**

外国籍IT人材の活用の際の課題



（「IT人材需給に関するWEBアンケート調査」2015年7月）

▲ 外国籍IT人材に関する課題として、制度や環境の未整備より、**「マネジメントが難しい」**が多くなっている。

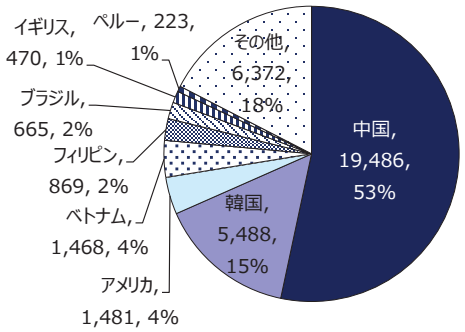
外国籍IT人材の活用に関する課題②

■ 現在、我が国の情報通信業で就労している外国人を国籍別に見ると、左下図のとおり**「中国」**が半数以上を占め、**「韓国」、「アメリカ」、「ベトナム」**が続いている。

■ 中下図の「情報通信業に就労している外国人数の伸び」のグラフを見ると、**「ベトナム」は近年大幅に就労者が増え、３年前の約2.5倍となっている**。

■ 今回の調査で実施したアンケートでは、**「ベトナム」のほか、「タイ」、「インドネシア」のIT人材の多くが「働いてみたい国」として「日本」を挙げている**。これらの東南アジア諸国は、今後、日本が外国籍IT人材を獲得し、活用するための人材の獲得先として、非常に有望であると考えられる。

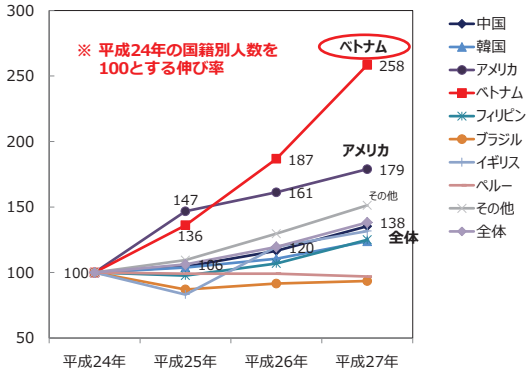
情報通信業に就労している外国人数の割合（国籍別）



（厚生労働省「外国人雇用状況」をもとにみずほ情報総研作成）

▲ 現在、外国人就労者数が多い国は、**「中国」「韓国」「アメリカ」「ベトナム」**の順となっている

情報通信業に就労している外国人数の伸び率（国籍別）

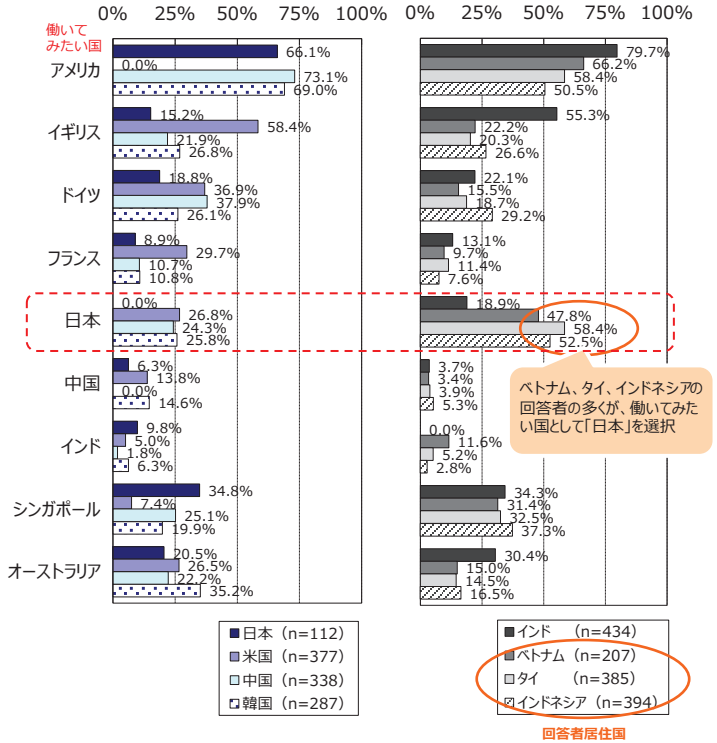


（厚生労働省「外国人雇用状況」をもとにみずほ情報総研作成）

▲ **「ベトナム」**は特に近年**就労者数が大幅に伸びている**

▶ **「ベトナム」「タイ」「インドネシア」**のIT人材は、**「働いてみたい国」として日本を挙げている**

各国のIT人材が働いてみたい国



（「IT人材に関する各国比較調査」2016年3月）

＜７＞ 今後のIT人材の活用・確保に向けた提言

■ 前章までの調査結果を踏まえて、本章では、今後のIT人材の活用・確保に向けた提言を５点に集約して示す。

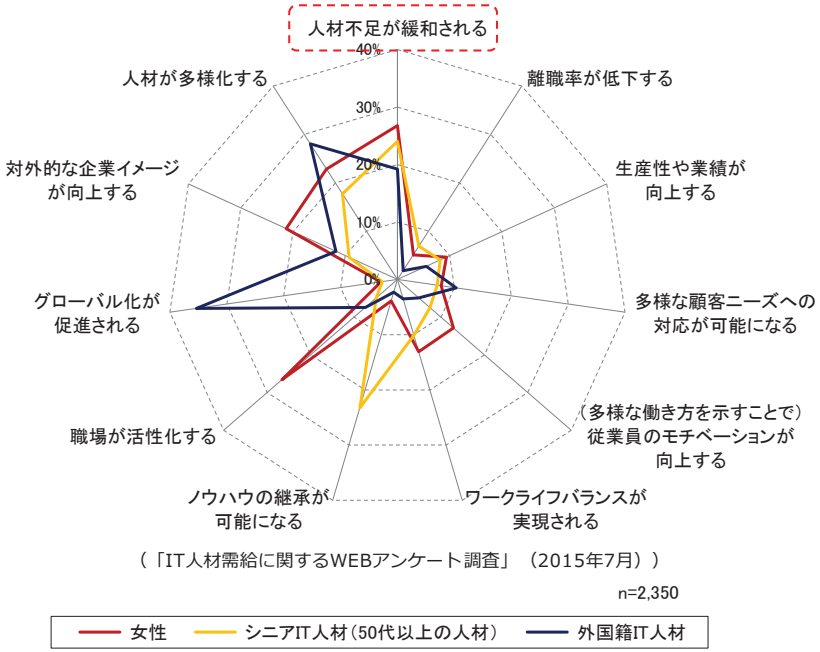
①より多様な人材の活用促進

■ 将来的に我が国全体の人口がさらに減少し、新たな人材の獲得がより一段と困難になることを踏まえると、**現在、産業に所属している既存のIT人材の活躍を促進する**ことは重要な方策である。特に、今後の増加がほぼ確実視されるシニアIT人材や現在のIT人材の約４分の１を占める女性IT人材が、より一層活躍できるよう環境を整備することは、今後のIT関連業界にとっても必須の課題であるといえる。

■ 本調査において、**女性・シニア・外国籍IT人材の活用によるメリットを尋ねたところ、「人材不足が緩和される」という回答が最多となった**。人材不足を解消するための方策として、これらの人材の活用が有効であると認識されていることが分かる。

■ また、今回の調査では、先端IT技術に携わる外国籍IT人材も増加傾向にあることが把握されたが、現時点で外国籍IT人材が活躍しているという回答は、まだ２割前後に留まっている。**今後は、先端IT技術を担う外国籍IT人材の獲得・活用も重要な課題になる**と考えられる。

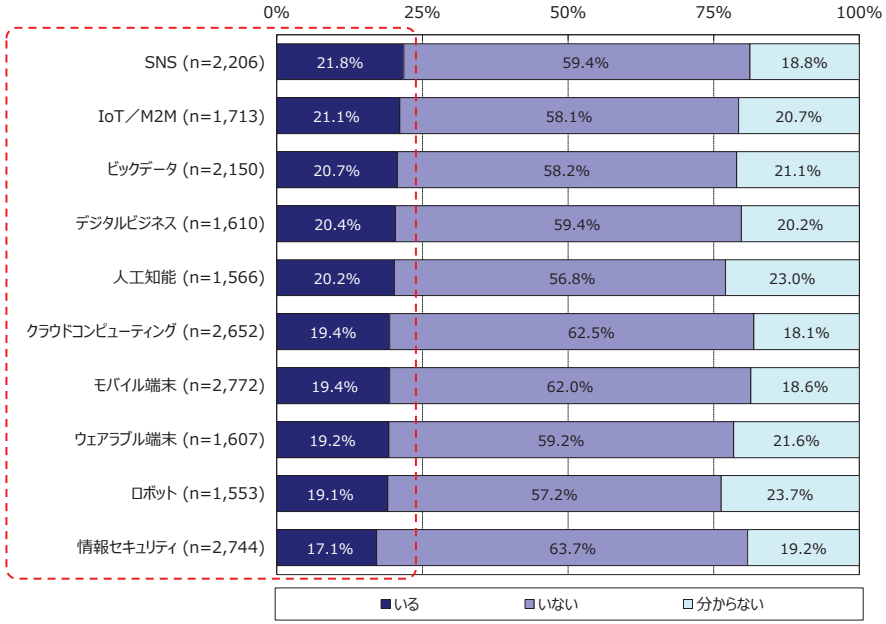
女性・シニアIT人材・外国籍IT人材の活用のメリット



（「IT人材需給に関するWEBアンケート調査」（2015年7月））

▲ **人材不足を解消するための方策として、女性・シニア・外国籍IT人材の活用が有効であるといえる。**

先端IT技術に携わる外国籍IT人材の有無



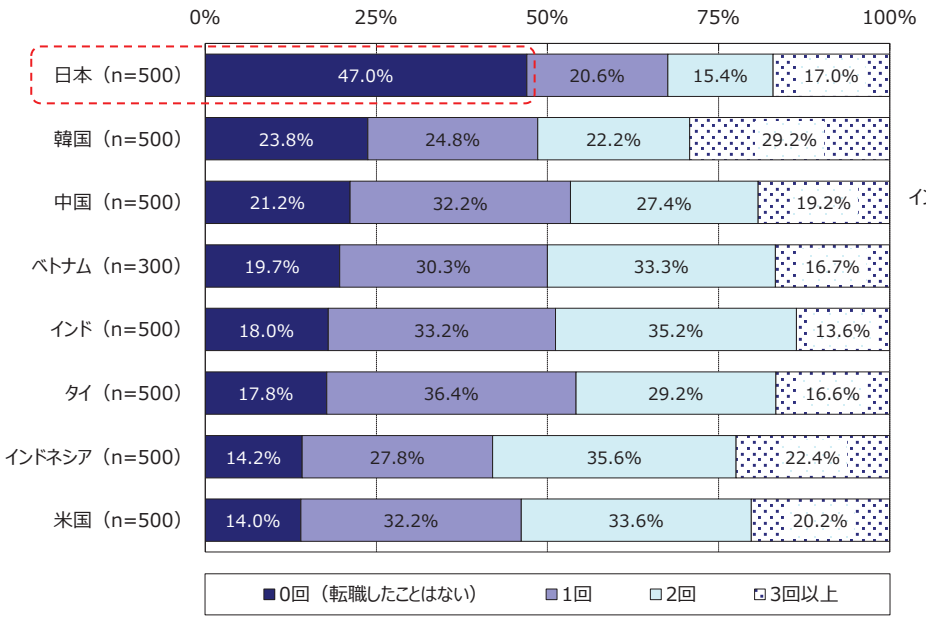
（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

▲ **先端IT技術に関する分野において、外国籍IT人材がすでに活躍しているという回答は、まだ２割前後に留まっている。**

②人材の流動性の向上

- より多様なIT人材をこれまで以上に活用したとしても、我が国の労働人口全体が減少するという長期的なトレンドの中では、将来的にIT人材の不足が続く可能性が高い。そのため、これまで以上に多様なIT人材を活用した上で、さらに**産業全体として、限られた人材リソースの高付加価値領域への戦略的な配置を実現する**ことが重要となる。
- 本調査において実施した「IT人材に関する各国比較調査」の結果を見ても、**日本のIT人材は際立って転職経験が少ない（＝人材の流動性が低い）**ことが読み取れる。
- その実現のためには、今後、高付加価値を生み出すことが期待される先端分野におけるIT人材の育成・確保に重点的に取り組むとともに、**IT人材の最適配置を実現するための、人材の流動性の向上策も必要である**と考えられる。

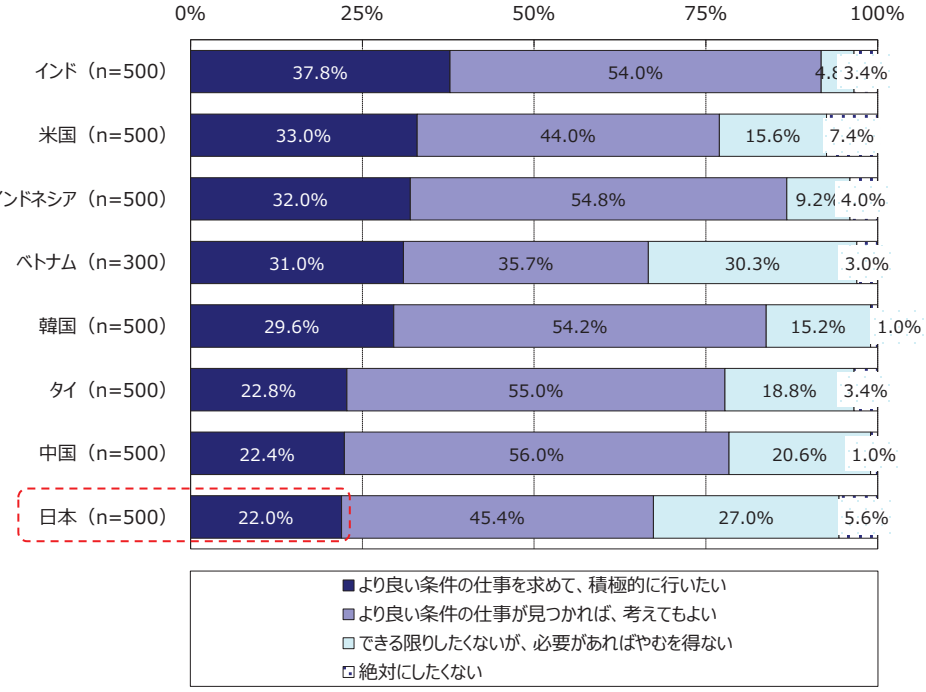
これまでに経験した転職の回数



（「IT人材に関する各国比較調査」2016年3月）

▲ 日本のIT人材は、約半数が「転職したことはない」と回答。諸外国と比較すると、人材の流動性が低い状況にある。

転職に対する考え方



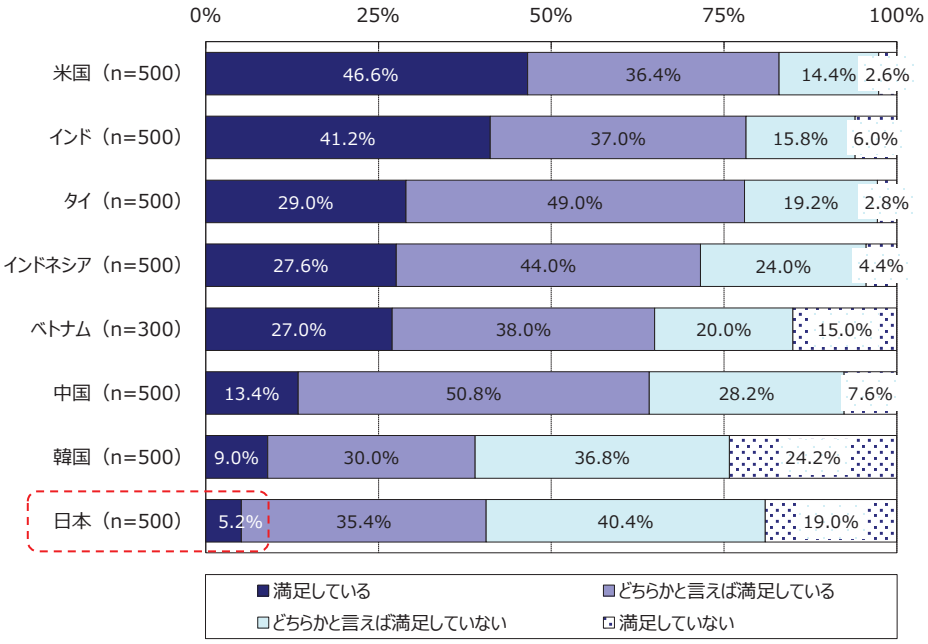
（「IT人材に関する各国比較調査」　2016年3月）

▲ 日本のIT人材の転職に対する考え方は、最も保守的。

③個人のスキルアップ支援の強化

- より多様なIT人材の活躍を促進し、流動性を高めてIT人材の最適配置を実現するとともに、**個々のIT人材の生産性を高める**ことも重要である。
- 我が国の産業全体におけるIT利活用の高度化とともに、IT関連産業に期待される役割や能力も高度化しているが、それに伴って、**IT関連産業内の個々のIT人材に対して求められるスキルや能力も高度かつ広範なものとなりつつある**。
- 本調査において実施した「IT人材に関する各国比較調査」の結果を見ると、日本のIT人材は、会社の教育・研修制度や自己研鑽支援制度に対する満足度がかなり低いほか、**「自主的に勉強している」と回答した割合も最も低い**という結果となっている。
- このような状況において、個々のIT人材に対する十分な教育・研修の機会を、企業が自社だけで提供することは、もはや難しくなっている。IT人材個人は企業が提供する機会・手段を十分に活用するだけではなく、**自ら積極的に学習の機会・手段を模索し、活用する**ことが重要となっている。

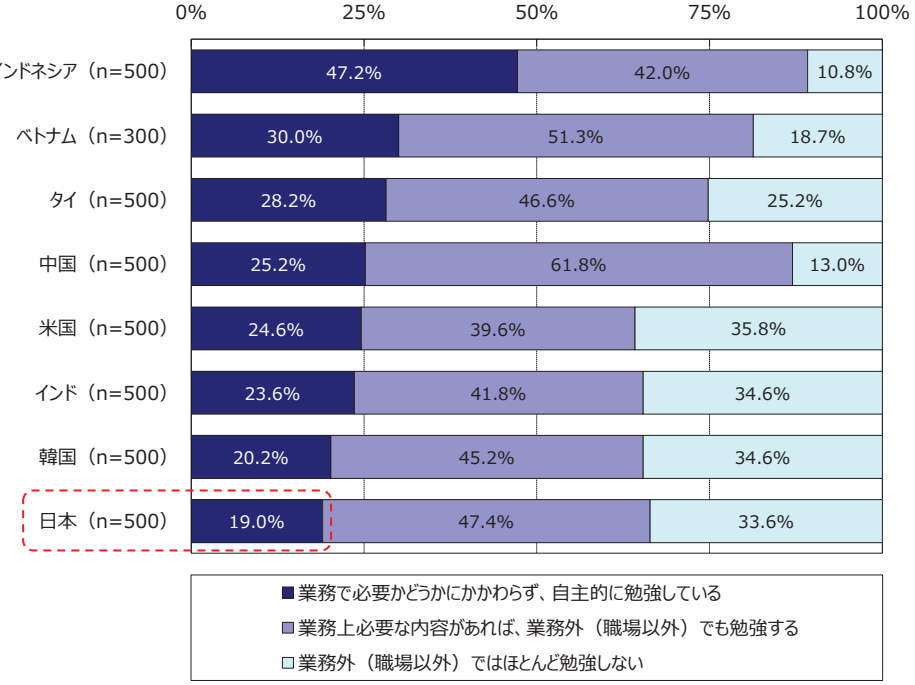
会社の教育・研修制度や自己研鑽支援制度に対する満足度



（「IT人材に関する各国比較調査」　2016年3月）

▲日本のIT人材は、会社の教育・研修制度や自己研鑽支援制度に対する満足度がかなり低く、「満足している」「どちらかと言えば満足している」の合計が半数を下回っている。

日頃の自己研鑽の程度



（「IT人材に関する各国比較調査」　2016年3月）

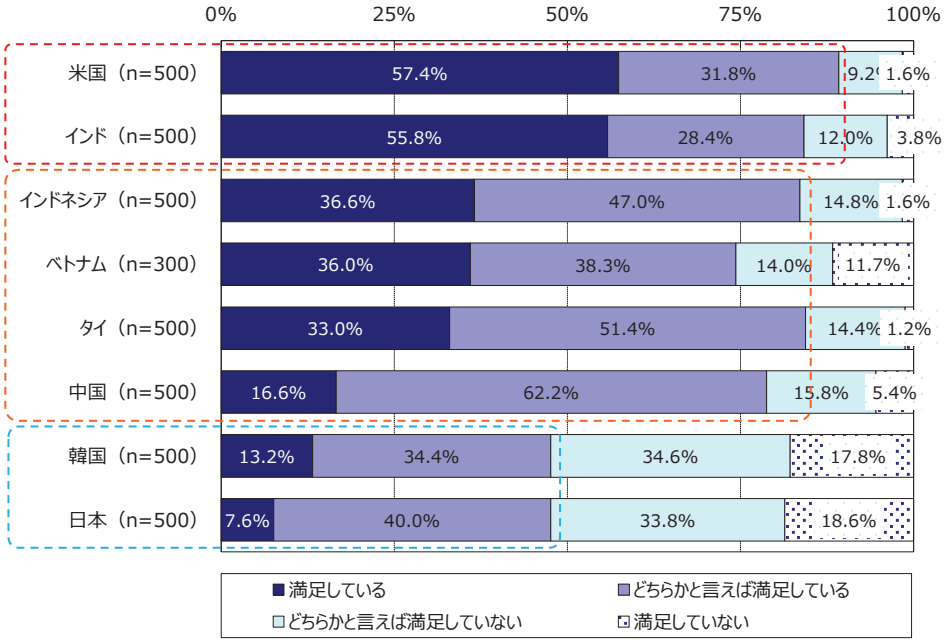
▲日本のIT人材は、「自主的に勉強している」と回答した割合も最も低く、唯一２割を下回った。

④処遇・キャリアの改革（産業の魅力の向上）

■ 今後ますます激化すると予想される企業・産業間の人材獲得競争に打ち勝ち、優秀なIT人材を獲得するためには、**産業の魅力を高める**ことが非常に重要である。魅力の高い産業には優秀な人材が就職し、優秀な人材が高い付加価値を創出することによってその産業の競争力がさらに高まる。米国のIT関連産業では、まさにこのような正のスパイラルが働いていると考えられる。

■ こうした**“産業の魅力”を形成する重要な要因となっているのが処遇（報酬）の問題である**と言われてきた。本調査において実施した「IT人材に関する各国比較調査」の結果を見ても、**日本のIT人材の給与に対する満足度は非常に低い**ことが読み取れる。なお、今回の調査結果からは、給与の満足度は、**国内他産業の給与水準との差**に影響されている可能性も考えられる。

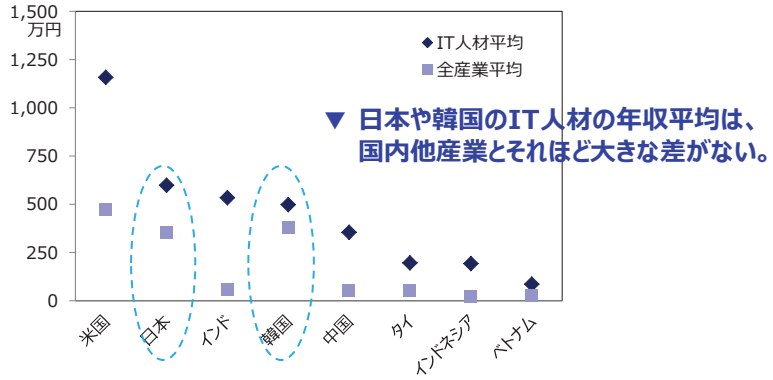
給与・報酬に対する満足度



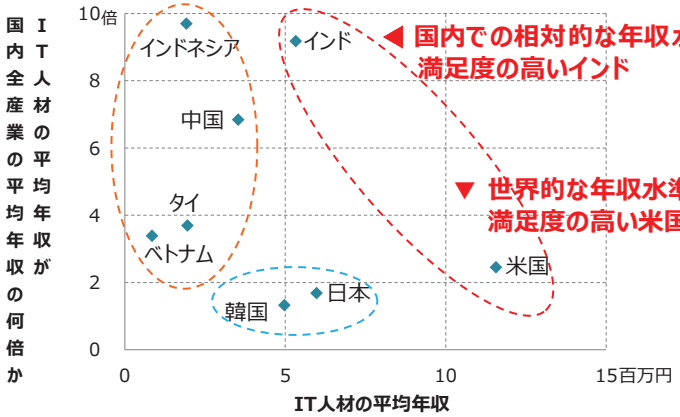
（「IT人材に関する各国比較調査」2016年3月）

▲ 日本のIT人材の給与に対する満足度は非常に低い。「満足している」「どちらかと言えば満足している」という回答の合計は、半数を下回っている。

IT人材の平均年収比較



▼ 日本や韓国のIT人材の年収平均は、国内他産業とそれほど大きな差がない。



◀ 国内での相対的な年収水準も高く、満足度の高いインド

▼ 世界的な年収水準が高く、満足度の高い米国

（「IT人材に関する各国比較調査」2016年3月）

⑤重点的な強化が必要なIT人材に関する取組 ～ 先端IT人材・情報セキュリティ人材

- 今後のIT関連市場では、IoTやビッグデータ、人工知能等の先端IT技術のほか、情報セキュリティ等の重要性が増大し、これらの分野を担うIT人材に対するニーズが大きく拡大することが予想される。
- このような今後のIT需要の動向を踏まえると、**新たな需要に応えるためのIT人材として、ビッグデータやIoT、人工知能等の分野を担う先端IT人材や情報セキュリティ人材等を重点的に育成・確保することは、今後の重要な課題である**といえる。
- こうした課題を踏まえて、以下には、先端IT人材や情報セキュリティ人材の育成に向けた今後の取組例を示す。

今後重要となる人材	特に重要な人材／具体的な人材の役割	育成に向けた取組例
先端IT人材	■ ビッグデータの分析・活用を担う人材 ■ IoTを活用した新たなビジネス創出を主導するプロデューサーとしての役割を果たす人材 ■ 組込みソフトウェアからネットワーク、アプリケーションに携わる人材 ■ 機器やデバイスからネットワークを経由し、データ処理までを考慮した広範なアーキテクチャを設計できるシステムアーキテクト ■ 広範な知識やスキルを持ち、スピーディにシステムを構築できる“フルスタック人材”	✓ 先端IT人材を含むIT人材の新たなフレームワークの整備 ✓ 優秀なIT人材に対する適切な処遇 ✓ 外国籍IT人材を含むグローバルな規模での優秀な人材の確保 ✓ 大企業とITベンチャーとの連携促進 ✓ 大学等の高等教育機関での専門教育の強化
情報セキュリティ人材	**＜自社向けの情報セキュリティ対策を担う人材＞** ■ 全社的・部署横断的な情報セキュリティ対策の統括者 ■ 部署内の情報セキュリティ管理者 **＜自社向け及び社外向け情報セキュリティ対策を担う人材＞** ■ 開発系情報セキュリティ業務従事者 ■ 運用系情報セキュリティ業務従事者 ■ 検査・監査系情報セキュリティ業務従事者 ■ コンサルティング系情報セキュリティ業務従事者	✓ サイバー攻撃や情報セキュリティインシデントに対する対処方法を学ぶための研修サービスの活性化 ✓ 情報セキュリティ分野の専門性を有する人材のキャリアパスの整備 ✓ 実践経験を積んだ情報セキュリティ人材の流動化が自然に促されるような人材市場の形成 ✓ 企業・産業別の情報セキュリティ人材配置モデルの提示

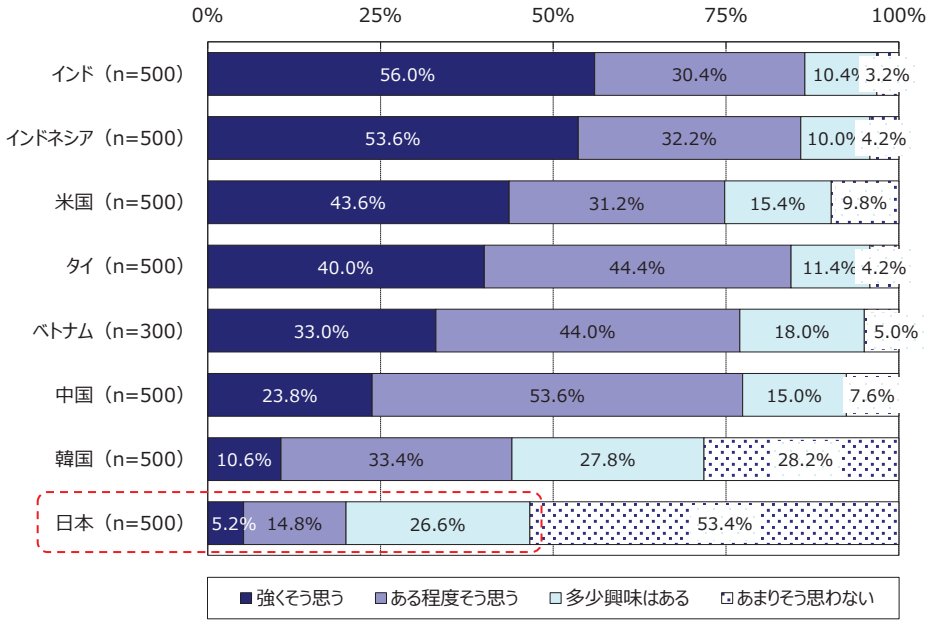
⑤重点的な強化が必要なIT人材に関する取組 ～ IT起業家人材

■ 新しい発想による創造的な製品・サービスを世に問うITベンチャー企業は、我が国のIT関連産業を大きく変革する可能性を持った重要な存在である。よって、先端IT人材や情報セキュリティ人材の育成に加え、**大きな可能性を有するITベンチャーの起業・成長の促進**も、我が国における重要な課題の一つとして位置付けられる。

■ しかし、近年、我が国においても先進的なITベンチャーが徐々に注目を集めているものの、本調査において実施した「IT人材に関する各国比較調査」の結果によれば、**「ITに関する分野で起業・独立したいか」**という設問に対して、「強くそう思う」「ある程度そう思う」「多少興味はある」と回答した人材は、**日本のみ半数を下回る結果**になっている。

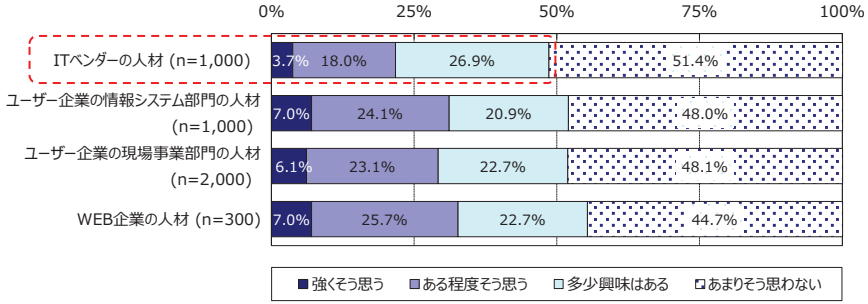
■ 今後、我が国発のITベンチャーの起業・成長の促進と、我が国のIT関連産業の変革に向けて、さらなる意欲の喚起や環境整備が求められる。

ITに関する分野で起業・独立したいか



（「IT人材に関する各国比較調査」2016年3月）

ITに関する分野で起業・独立したいか（国内IT人材向け調査）



（「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」2016年3月）

▲ 日本のIT人材の中でも、特にITベンダーの人材は、最も起業・独立に対する関心が薄く、興味・関心を有する人材が半数を下回っている。

◀ 日本のIT人材の起業・独立に対する関心の度合いは、諸外国に比べると非常に低い。

おわりに　～ IT関連産業及び我が国の産業の競争力の強化に向けて ～

- 米国IT企業の高い競争力は、結果として、企業の収益性の高さにつながり、それが優秀なITエンジニアに対する高い処遇を可能にする要因の一つとなっている。よって、例えば前掲のような日本のIT関連産業における処遇の問題を解決するためには、**産業の競争力強化という根本的な課題に正面から向き合い、解決を図ることが必要となる**。
- 例えばGoogleやAmazon、Microsoft、Facebookなどの米国のIT企業は、従来は存在しなかった新しい製品・サービスの提供に挑戦し、今やそれぞれの領域においてトップブランドを築いている。こうした事実を踏まえると、米国のIT企業の高い競争力を実現しているのは、新たな領域への挑戦とそこでの勝利であり、また、それを可能にした**革新的な発想力と高い技術力、そして未知の市場への挑戦意欲**であるといえる。日本のIT企業が米国のIT企業のような処遇等を実現するためには、**米国IT企業に高い競争力をもたらしたこれらの性質を、日本のIT企業もまずは備える必要がある**。
- 今回の調査では、我が国のITベンダーに所属する人材が、IT関連産業が今後目指すべき姿として、グローバルな競争力を持つ“トップ産業”を志向していることが明らかになった。また、近年、国内でも起業当初からグローバル市場を視野に入れて意欲的な挑戦を続けるITベンチャーへの注目が増えつつある。このように考えると、我が国のIT関連産業で活躍する個人は、一定の“挑戦意欲”を有しているといえる。**産業を構成する個人がすでに有しているこれらの意欲を引き出し、企業や産業全体としての競争力に結び付けていくこと**が、今後の我が国の企業や政府にとっての重要な課題である。

本事業で開催された研究会の有識者の意見から

※ 本事業では、「IT人材の活用と確保に関する研究会」を計５回開催し、各回異なるテーマの有識者を招いて、我が国のIT人材に関する課題等に関する議論を行った。

日本でも、最近は多彩なベンチャーが登場しており、若い世代はクリエイティブな能力を持っていると感じている。実際には、人材の能力面での課題よりも、**環境面での課題が多い**のではないか。

今の日本には人材がいないのではなく、**構造や環境が新しいものを生み出しにくくしている**のだと思う。今のIT産業には「人材を活かす政策」が必要なのではないか。

これから育成が必要なのは、「現在のパラダイムを破壊できる人材」である。特に国策として求められるのは、**「既存のビジネスとは異なる新しいビジネスを生み出せる人材」**である。

技術力が付加価値を生むサービスを展開している企業では、エンジニアが持つ技術が企業の競争力の源泉となるため、エンジニアが高く尊敬され、高く処遇されている。

今後、社会におけるITやソフトウェアの重要性は、ますます高まっていくと予想される。そのような世界的な流れのなかで、日本の産業全体の競争力を高めるための鍵を握っているのが、**優秀なソフトウェア人材**である。

日本には、例えば Amazon や Google、Microsoft のように、ソフトウェア技術を強みとしてグローバルで成功している企業はない。日本にも、**技術力を強みとしてグローバルで勝てるIT企業**が出てこなければ、優秀なエンジニアが本当に活躍できる場は生まれない。

＜参考＞ 本調査で実施したアンケート調査一覧

No	調査名	実施時期	調査対象	調査方法
1	「IT人材需給に関するWEBアンケート調査」	2015年7月	• ITベンダーの人材 （1,000名） • WEB企業の人材 （350名） • ユーザー企業の情報システム部門の人材（1,000名）	WEB
2	「情報セキュリティ資格に関する調査」	2015年8月	• 情報セキュリティ業務に携わる可能性がある、かつ、高度資格を保有しているか、取得に関心がある個人（1,000名）	WEB
3	「自社向け情報セキュリティ対策業務に携わる人材に関するWEBアンケート調査」	2015年12月	• 従業員数5名以上の企業で情報セキュリティ対策に関する担当者・管理者、またはその状況を知る立場の個人（5,066名）	WEB
4	「社外向け情報セキュリティ対策業務に携わる人材に関する企業アンケート調査」	2015年12月	• 特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）の会員企業（140社） ※ 回答数 44社（回収率31.4%）	郵送
5	「今後のIT人材等に関するWEBアンケート調査」	2016年3月	• ITベンダーの人材（1,000名） • WEB企業の人材 （300名） • ユーザー企業の情報システム部門の人材（1,000名） • ユーザー企業の現場事業部門の人材 （2,000名）	WEB
6	「IT人材に関する各国比較調査」	2016年3月	• 日本を含む８か国のITエンジニア等（各国500名） ※ ベトナムのみ300名	WEB

近畿大学 新学部学科設置計画に係る

ニーズ調査報告書（事業所編）

2021年3月3日

丸善雄松堂株式会社
Research & Innovation本部
企画戦略部

MARUZEN-YUSHODO

目次

1. 調査概要 2

2. 調査・分析結果の要旨 3

3. 全体集計結果 6

4. 採用需要分析 19

5. 補記 21

1. 調査概要

(1)調査目的

近畿大学 新学部学科設置計画検討のため、本アンケート調査により事業所の人材需要等を把握し、設置計画の基礎資料とすることを目的とする。

(2)調査対象

設置が検討される新学部学科の専攻分野から選定した卒業生の就職先として考えられる事業所。

(3)実施時期

2020 年 9 月 1 日～2020 年 12 月 28 日

(4)回収状況

本調査では 902 事業所を対象にアンケート調査票を配布し、338 件のアンケートを回収することが出来た(回収率 37.4%)

(5)調査方法

調査票による定量調査(アンケート調査)

(6)利用調査票

添付アンケート調査票参照

＊理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)は計画検討過程において、計画当初の「エネルギー物質工学科(仮称) 学位分野 工学」から「エネルギー物質学科(仮称) 学位分野 工学・理学」へ変更されている。

2. 調査・分析結果の要旨

(1)調査結果の要旨

①事業所の種別

回答事業所の種別は、「製造業」101 事業所(29.9%)が最も多く、「情報通信」76 事業所(22.5%)、「建築・土木・住宅」52 事業所(15.4%)と続いている。

②事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「東京都」114 事業所(33.7%)が最も多く、3 割以上となっており、「大阪府」102 事業所(30.2%)、「愛知県」20 事業所(5.9%)と続いている。

③事業所の規模

回答事業所の規模は、「1,000-4,999 人」90 事業所(26.6%)が最も多く、「100～499 人」89 事業所(26.3%)、「500-999 人」60 事業所(17.8%)と続いている。

④過去 3 年間の採用職種

回答事業所の過去 3 年間の採用職種は、「技術・開発・研究」194 事業所(16.9%)が最も多く、「営業・販売」186 事業所(16.2%)、「総務・人事」131 事業所(11.4%)と続いている。

⑤過去 3 年間の採用人数

回答事業所の過去 3 年間の採用人数は、2018 年度 321 事業所 19,229 人、2019 年度 319 事業所 19,781 人、2020 年度 314 事業所 20,001 人で、2018 年度から 2020 年度でいずれも 19,000 人以上の採用となっている。

⑥人材充足状況

回答事業所の人材充足状況は、「不足している」が 44 事業所(13.0%)、「やや不足している」が 102 事業所(30.2%)で、これらの合計は 146 事業所(43.2%)となっている。一方、「ある程度充足している」が 124 事業所(36.7%)、「充足している」が 62 事業所(18.3%)で、これらの合計は 186 事業所(55.0%)となっている。

⑦人材採用時の重視要因

回答事業所の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」233 事業所(35.6%)が最も多く、「チャレンジ精神・積極性」135 事業所(20.6%)、「チームで働く力」113 事業所(17.3%)と続いており、「国際感覚(広い視野・価値観)」0 事業所(0.0%)や「語学力」2 事業所(0.3%)等についてはあまり重視されていない。

⑧-1 情報学部 情報学科(仮称)の設置の必要性

近畿大学 情報学部 情報学科の設置の必要性について、「必要性を感じる」が 197 事業所(58.3%)、「ある程度の必要性を感じる」が 100 事業所(29.6%)で、これらの合計が 297 事業所(87.9%)と、9 割近くの事業所が設置について何らかの必要性を感じている。

⑧-2 情報学部 情報学科(仮称)卒業生の採用意向・人数

近畿大学 情報学部 情報学科卒業生の採用意向について、「採用したい」が 130 事業所(38.5%)、「採用を検討したい」が 92 事業所(27.2%)で、何らかの採用意向を持つこれらの合計が 222 事業所(65.7%)となっている。また、採用希望人数は人数を回答した事業所のみで、「採用したい」が 314 人、「採用を検討したい」が 133 人となっている。

⑨-1 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)の設置の必要性

近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科の設置の必要性について、「必要性を感じる」が 120 事業所(35.5%)、「ある程度の必要性を感じる」が 127 事業所(37.6%)で、これらの合計 247 事業所(73.1%)と、7 割以上の事業所が設置について何らかの必要性を感じている。

⑨-2 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)卒業生の採用意向・人数

近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科卒業生の採用意向について、「採用したい」が 69 事業所(20.4%)、「採用を検討したい」が 95 事業所(28.1%)で、何らかの採用意向を持つこれらの合計が 164 事業所(48.5%)となっている。また、採用希望人数は人数を回答した事業所のみで、「採用したい」が 125 人、「採用を検討したい」が 110 人となっている。

(2)分析結果の要旨

○情報学部 情報学科（仮称）

回答事業所の近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）卒業生の採用意向は、「採用したい」が130事業所(内16事業所は人数未回答)314人、「採用を検討したい」が92事業所(内14事業所は人数未回答)133人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで447人となっている。また、採用選考の際には就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて「採用を検討したい」までを採用需要として定義し、採用意向で希望人数の記載がなかった事業所の採用意向人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、調査結果に基づく近畿大学 情報学部 情報学科の採用需要は「採用したい」のみで330人、「採用を検討したい」まで含めると477人で、「採用したい」が情報学部 情報学科の入学定員(330人)の1.0倍、採用したいまで含めると1.4倍となり、情報学部 情報学科卒業生への一定の採用需要があるといえる。

○理工学部 エネルギー物質工学科（仮称）

回答事業所の理工学部 エネルギー物質工学科卒業生の採用意向は、「採用したい」が69事業所(内13事業所は人数未回答)125人、「採用を検討したい」が95事業所(内20事業所は人数未回答)110人となっており、これらの合計は人数を回答した事業所のみで235人となっている。また、採用選考の際には就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて「採用を検討したい」までを採用需要として定義し、採用意向で希望人数の記載がなかった事業所の採用意向人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、調査結果に基づく近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科卒業生への採用需要は「採用したい」が138人「採用を検討したい」が130人で合計268人となり、「採用したい」のみで理工学部 エネルギー物質工学科の入学定員(120人)の1.2倍、「採用を検討したい」まで含めると2.2倍となり、理工学部 エネルギー物質工学科卒業生への一定の採用需要があるといえる。

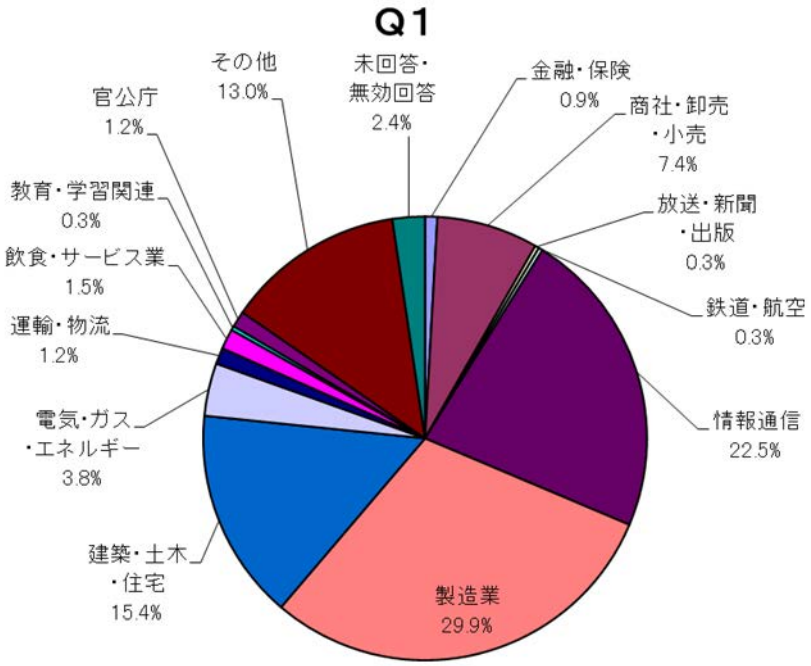
3. 全体集計結果

Q1)事業所の種別

回答事業所の種別は、「製造業」101 事業所(29.9%)が最も多く、「情報通信」76 事業所(22.5%)、「建築・土木・住宅」52 事業所(15.4%)と続いている。

Q1)貴事業所の主たる種別は次のどれですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	338	100.0%
金融・保険	3	0.9%
商社・卸売・小売	25	7.4%
放送・新聞・出版	1	0.3%
鉄道・航空	1	0.3%
情報通信	76	22.5%
製造業	101	29.9%
建築・土木・住宅	52	15.4%
電気・ガス・エネルギー	13	3.8%
運輸・物流	4	1.2%
飲食・サービス業	5	1.5%
旅行・宿泊	0	0.0%
教育・学習関連	1	0.3%
官公庁	4	1.2%
その他	44	13.0%
未回答・無効回答	8	2.4%



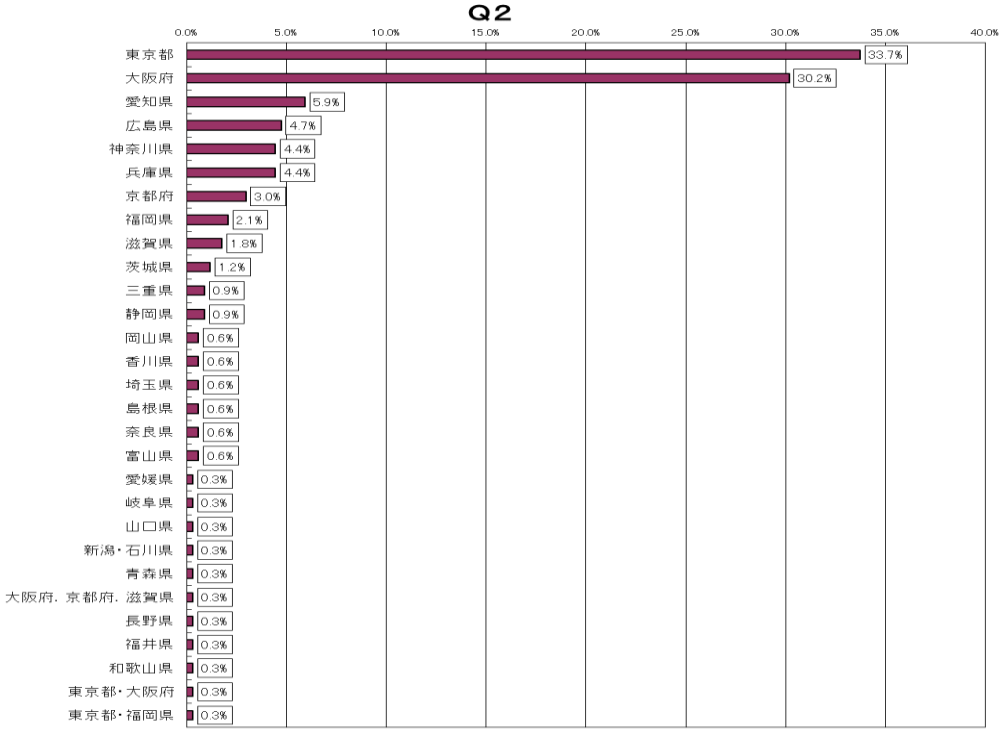
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q2)事業所の所在地

回答事業所の所在地は、「東京都」114 事業所(33.7%)が最も多く、3 割以上となっており、「大阪府」102 事業所(30.2%)、「愛知県」20 事業所(5.9%)と続いている。

Q2)貴事業所の主たる所在地をご記入ください。

	回答数（事業所）	構成比（%）
全体	338	100.0%
東京都	114	33.7%
大阪府	102	30.2%
愛知県	20	5.9%
広島県	16	4.7%
神奈川県	15	4.4%
兵庫県	15	4.4%
京都府	10	3.0%
福岡県	7	2.1%
滋賀県	6	1.8%
茨城県	4	1.2%
三重県	3	0.9%
静岡県	3	0.9%
岡山県	2	0.6%
香川県	2	0.6%
埼玉県	2	0.6%
島根県	2	0.6%
奈良県	2	0.6%
富山県	2	0.6%
愛媛県	1	0.3%
岐阜県	1	0.3%
山口県	1	0.3%
新潟・石川県	1	0.3%
青森県	1	0.3%
大阪府．京都府．滋賀県	1	0.3%
長野県	1	0.3%
福井県	1	0.3%
和歌山県	1	0.3%
東京都・大阪府	1	0.3%
東京都・福岡県	1	0.3%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

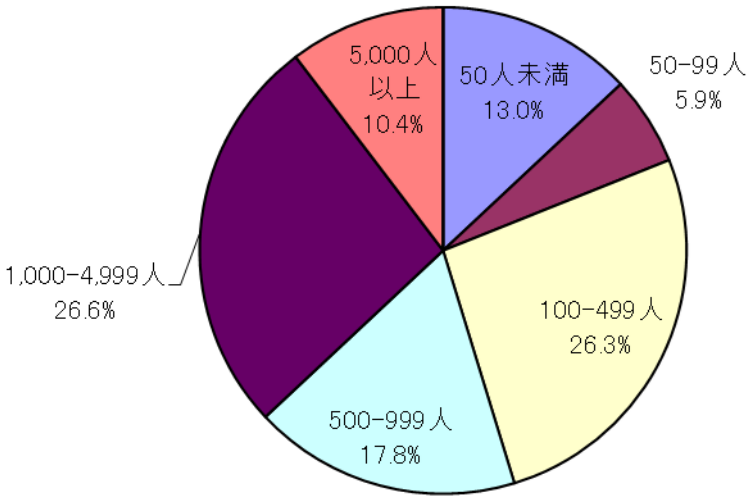
Q3)事業所の規模

回答事業所の規模は、「1,000-4,999 人」90 事業所(26.6%)が最も多く、「100～499 人」89 事業所(26.3%)、「500-999 人」60 事業所(17.8%)と続いている。

Q3) 貴事業所の従業員数(正規社員)について、該当するもの１つに○を付けてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	338	100.0%
50人未満	44	13.0%
50-99人	20	5.9%
100-499人	89	26.3%
500-999人	60	17.8%
1,000-4,999人	90	26.6%
5,000人以上	35	10.4%
未回答・無効回答	0	0.0%

Q3



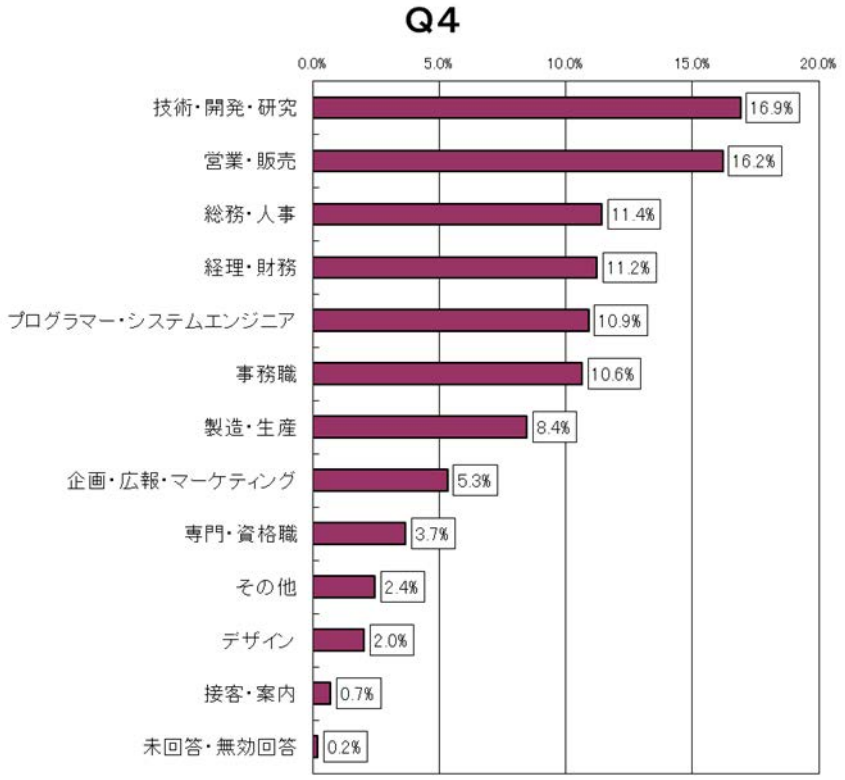
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q4)過去 3 年間の採用職種＊複数選択可(該当するもの全て)

回答事業所の過去 3 年間の採用職種は、「技術・開発・研究」194 事業所(16.9%)が最も多く、「営業・販売」186 事業所(16.2%)、「総務・人事」131 事業所(11.4%)と続いている。

Q4) 貴事業所では、過去 3 年間でどのような職種を採用されましたか？
該当するもの全てに○を付けてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	1,148	100.0%
営業・販売	186	16.2%
企画・広報・マーケティング	61	5.3%
総務・人事	131	11.4%
経理・財務	129	11.2%
接客・案内	8	0.7%
事務職	122	10.6%
技術・開発・研究	194	16.9%
製造・生産	97	8.4%
専門・資格職	42	3.7%
プログラマー・システムエンジニア	125	10.9%
デザイン	23	2.0%
その他	28	2.4%
未回答・無効回答	2	0.2%



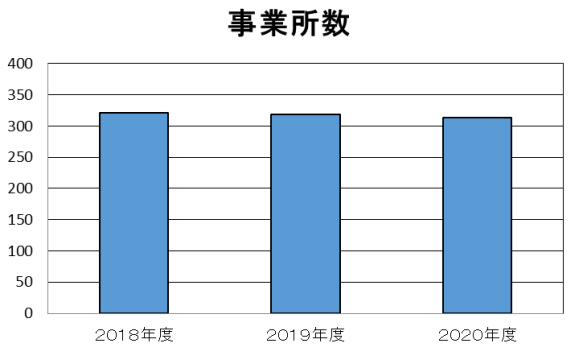
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

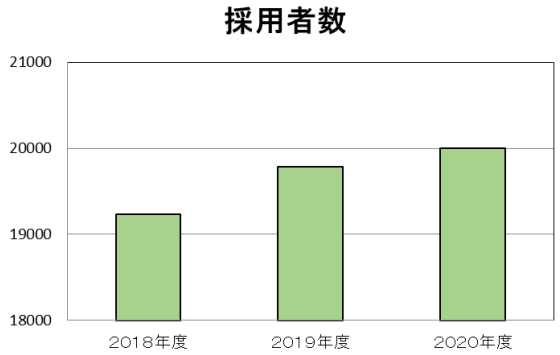
Q5)過去 3 年間の採用人数

回答事業所の過去 3 年間の採用人数は、2018 年度 321 事業所 19,229 人、2019 年度 319 事業所 19,781 人、2020 年度 314 事業所 20,001 人で、2018 年度から 2020 年度でいずれも 19,000 人以上の採用となっている。

Q5) 貴事業所では、質問 4 で回答された職種を過去 3 年間で何人採用されましたか？
採用人数をご記入ください。＊詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

2018年度			2019年度			2020年度		
	事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)		事業者数(事業所)	採用人数(人)
合計	321	19,229	合計	319	19,781	合計	314	20,001





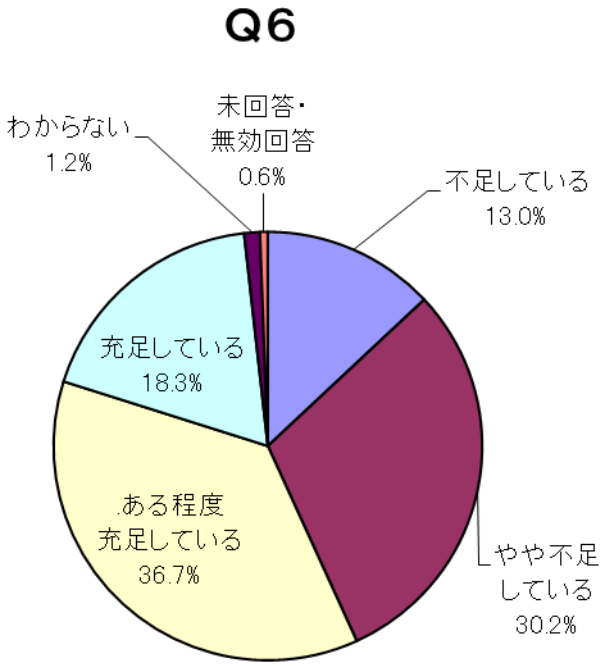
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q6) 過去 3 年間の採用職種充足状況

回答事業所の過去 3 年間の採用職種充足状況は、「不足している」が 44 事業所(13.0%)、「やや不足している」が 102 事業所(30.2%)で、これらの合計は 146 事業所(43.2%)となっている。一方、「ある程度充足している」が 124 事業所(36.7%)、「充足している」が 62 事業所(18.3%)で、これらの合計は 186 事業所(55.0%)となっている。

Q6)貴事業所では、質問 4 で回答された過去 3 年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	338	100.0%
不足している	44	13.0%
やや不足している	102	30.2%
ある程度充足している	124	36.7%
充足している	62	18.3%
わからない	4	1.2%
未回答・無効回答	2	0.6%



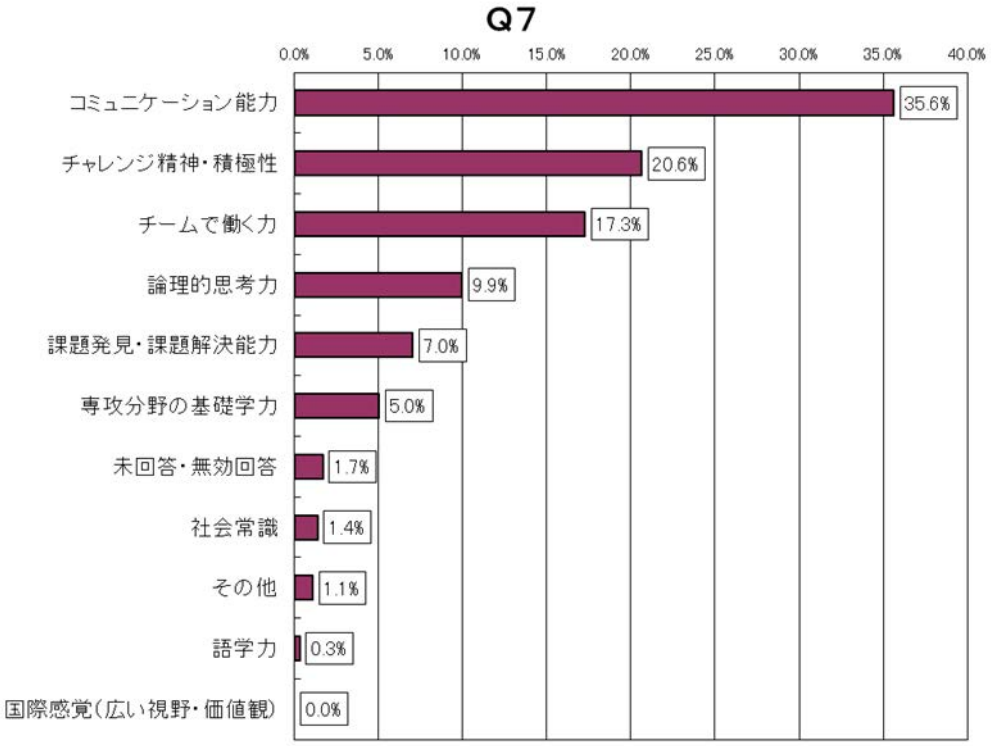
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q7)人材採用時の重視点　＊複数選択可（２つまで）

回答事業所の人材採用の際の重視点は、「コミュニケーション能力」233 事業所(35.6%)が最も多く、「チャレンジ精神・積極性」135 事業所(20.6%)、「チームで働く力」113 事業所(17.3%)と続いており、「国際感覚(広い視野・価値観)」0 事業所(0.0%)や「語学力」2 事業所(0.3%)等についてはあまり重視されていない。

Q7)貴事業所では人材採用の際、どのような点を重視されていますか。
次の中から 2 つまで選び○を付けてください。

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	654	100.0%
コミュニケーション能力	233	35.6%
語学力	2	0.3%
課題発見・課題解決能力	46	7.0%
チームで働く力	113	17.3%
チャレンジ精神・積極性	135	20.6%
国際感覚(広い視野・価値観)	0	0.0%
論理的思考力	65	9.9%
専攻分野の基礎学力	33	5.0%
社会常識	9	1.4%
その他	7	1.1%
未回答・無効回答	11	1.7%



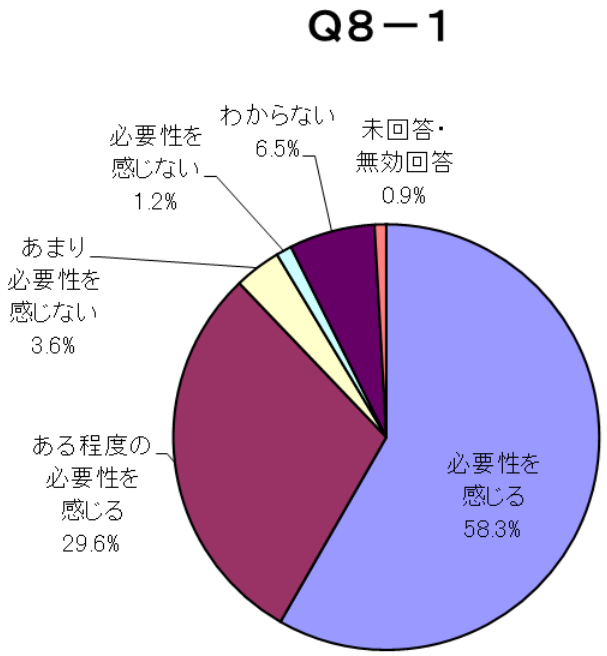
*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)-1 情報学部 情報学科(仮称)の設置の必要性

近畿大学 情報学部 情報学科の設置の必要性について、「必要性を感じる」が 197 事業所(58.3%)、「ある程度の必要性を感じる」が 100 事業所(29.6%)で、これらの合計が 297 事業所(87.9%)と、9 割近くの事業所が設置について何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は 12 事業所(3.6%)、「必要性を感じない」は 4 事業所(1.2%)でこれらの合計は 16 事業所(4.8%)となっており、22 事業所(6.5%)が「わからない」と回答している。

Q8)貴事業所では、近畿大学 情報学部 情報学科(仮称)についてどのようにお考えですか？
それぞれ次の中から 1 つ選び○を付けてください。
○設置の必要性について

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	338	100.0%
必要性を感じる	197	58.3%
ある程度の必要性を感じる	100	29.6%
あまり必要性を感じない	12	3.6%
必要性を感じない	4	1.2%
わからない	22	6.5%
未回答・無効回答	3	0.9%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

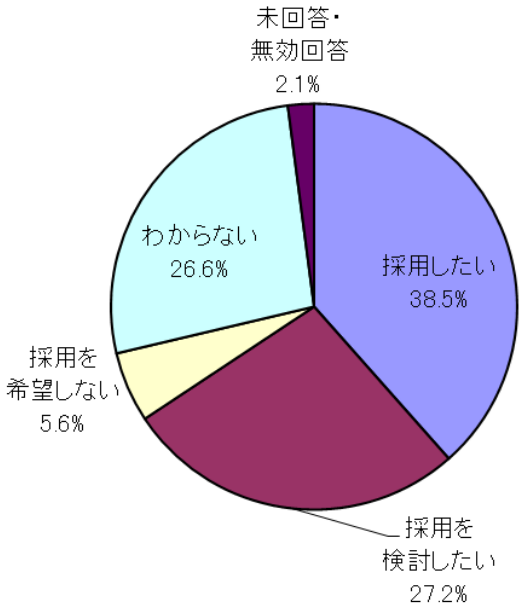
Q8)-2 情報学部 情報学科(仮称)卒業生の採用意向・採用希望人数

近畿大学 情報学部 情報学科卒業生の採用意向について、「採用したい」が 130 事業所(38.5%)、「採用を検討したい」が 92 事業所(27.2%)で、何らかの採用意向を持つこれらの合計が 222 事業所(65.7%)となっている。また、採用希望人数は人数を回答した事業所のみで、「採用したい」が 314 人、「採用を検討したい」が 133 人となっている。一方、「採用を希望しない」は 19 事業所(5.6%)で、90 事業所(26.6%)が「わからない」と回答している。

Q8)貴事業所では、近畿大学 情報学部 情報学科(仮称)についてどのようにお考えですか？
それぞれ次の中から 1 つ選び○を付けてください。
○卒業生の採用について

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	338	100.0%
採用したい	130	38.5%
採用を検討したい	92	27.2%
採用を希望しない	19	5.6%
わからない	90	26.6%
未回答・無効回答	7	2.1%

Q8－2



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	130事業所→計314人	内、16事業所→未回答
採用を検討したい	92事業所→計133人	内、14事業所→未回答

Q9)-1 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)の設置の必要性

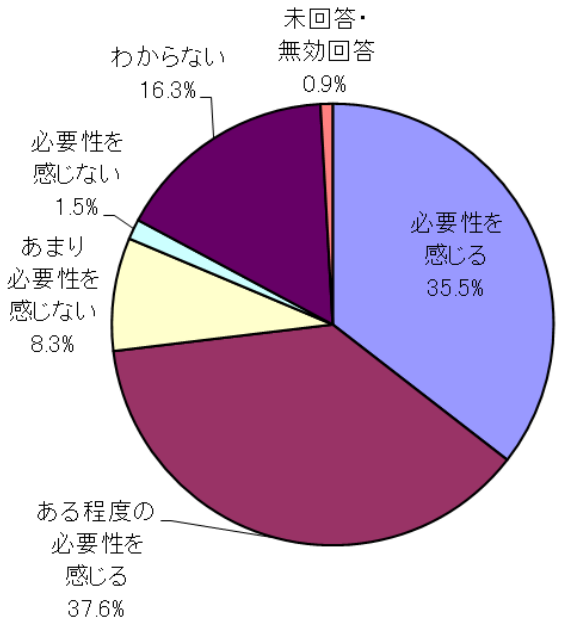
近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科の設置の必要性について、「必要性を感じる」が 120 事業所(35.5%)、「ある程度の必要性を感じる」が 127 事業所(37.6%)で、これらの合計 247 事業所(73.1%)と、7 割以上の事業所が設置について何らかの必要性を感じている。一方、「あまり必要性を感じない」は 28 事業所(8.3%)、「必要性を感じない」は 5 事業所(1.5%)でこれらの合計は 33 事業所(9.8%)となっており、55 事業所(16.3%)が「わからない」と回答している。

Q9)貴事業所では、近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)についてどのようにお考えですか？それぞれ次の中から 1 つ選び○を付けてください。

○設置の必要性について

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	338	100.0%
必要性を感じる	120	35.5%
ある程度の必要性を感じる	127	37.6%
あまり必要性を感じない	28	8.3%
必要性を感じない	5	1.5%
わからない	55	16.3%
未回答・無効回答	3	0.9%

Q9－1



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

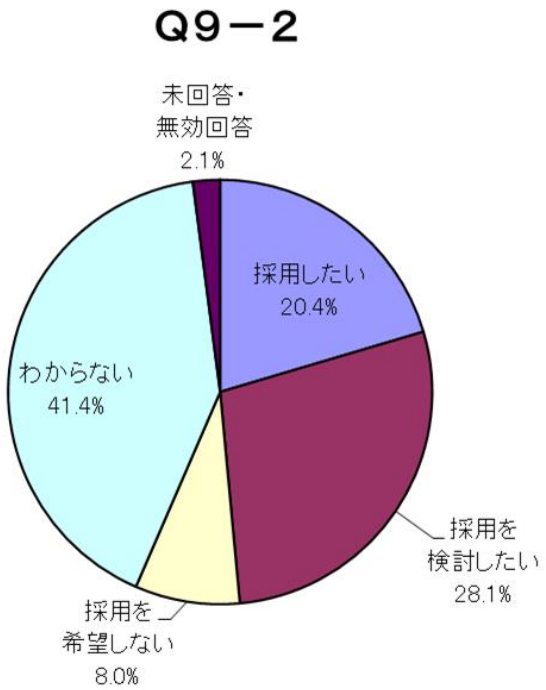
Q9)-2 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)卒業生の採用意向人数

近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科卒業生の採用意向について、「採用したい」が69事業所(20.4%)、「採用を検討したい」が95事業所(28.1%)で、何らかの採用意向を持つこれらの合計が164事業所(48.5%)となっている。また、採用希望人数は人数を回答した事業所のみで、「採用したい」が125人、「採用を検討したい」が110人となっている。一方、「採用を希望しない」は27事業所(8.0%)で、140事業所(41.4%)が「わからない」と回答している。

Q9)貴事業所では、近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)についてどのようにお考えですか？それぞれ次の中から1つ選び○を付けてください。

○卒業生の採用について

	回答数(事業所)	構成比(%)
全体	338	100.0%
採用したい	69	20.4%
採用を検討したい	95	28.1%
採用を希望しない	27	8.0%
わからない	140	41.4%
未回答・無効回答	7	2.1%



*パーセンテージは小数点以下第二位を四捨五入し記載

Q9)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	69事業所→計125人	内、13事業所→未回答
採用を検討したい	95事業所→計110人	内、20事業所→未回答

Q10)新学部学科への意見・要望

Q10)近畿大学新学部学科へのご意見・ご要望をお聞かせください。

新学部学科設置の必要性や期待についてのコメント （社会ニーズに合った設置が必要学部学科であり、期待する）
両学部ともこれから必要とされる、期待が大きい学部ではないでしょうか。
AI等の情報スキルやこれまでにない新しいエネルギー技術はこれからの弊社にも非常に重要な物と考えますので、新学科設置をとても期待しております。
デジタル化を進めるために情報系技術者の需要はますます高まると思われますので、学部として新設し、質・量ともに充実させていただければと思います。 また、持続可能な社会に向けてエネルギー問題も大きな課題の1つですので、需要が高まるように感じます。
近大の評価が近年ぐっとあがってきてると外からみていても確実に思えます。こういった新しい価値を生み出すための学部づくりをされることも素晴らしい取り組みだなと思います。 面白くたくさましい学生が近大から生み出されていくことを期待してます
御校の先進的な取り組みにいつも注目させて頂いております。 新学部学科の設置に関しましても大変興味がある内容になっている　ので今後も適宜情報の共有が出来ればと存じます。
時代にマッチした学部学科が増えるのは楽しみです。
時代に合った人材育成を進められていると感じます。
時代に即した計画とお見受けしました。知識のみならず考える力を養い、日本をリードする人材育成を期待しております。
時代に対応した計画であると感じました。
時代のニーズに合わせた学部設置は企業としても歓迎すべきことだと考えます。
社会的使命の高い新学部学科設置だと思います。
情報とエネルギーは中小企業の課題になっている。若い専門的な力が必要と感じています。
是非設置して頂きたい。
政府が掲げるデジタル社会の実現、グリーン社会の実現に向けた人材育成に必要な学科と思います。産学連携などの機会がありましたら検討させていただきたいと思っております。
当社の事業内容と親和性が高い印象があり、是非、このような人材育成して頂きたいと存じます。
変化の早い情勢をとらえて新しい学部、学科の設立は必要かと思われます。
両学部ともにこれからの時代にますます必要となる領域だと考えております。日本を支えていく人材であり、期待いたしております。
スマホ1台で面倒なことが全て解決出来る世の中が、近未来に実現可能な状況です。IOTやAIの技術は不
ソフトウェア業として、情報学部の新設には、おおいに期待しております。
今後の社会のニーズをとらえた学部であると思います。現在でもITエンジニアの不足が叫ばれる中、卒業後の活躍の場も数多いと考えます。
情報の分野を切り出して取り組んでいただけることは非常にうれしくおもいます。
情報系の人材が不足する中で、今後ますます情報系に精通した人材が世の中で必要になってくると考えるそういった背景のもと、新たに情報学部を設置する意義を感じる。
新学部の設立おめでとうございます。情報学部の設立は時代の流れにあった素晴らしいものだと思います。沢山のデータ分析ができる人材輩出をお願いします。
世の中に求められているニーズに対応する人材育成、また卒業後の活躍フィールドについても幅広いため、学生の方にとってはキャリア形成する際に役立つ知識が得られる学部だと思います。また、情報学部情報学科に関しては、我々の業界の中でもターゲットとしている学部なので、学んでいただく学生が多いのは企業にとっても、大変魅力的です。
中小企業レベルでAIについて専門部署がある会社は少ない。特に製造業となると指導者の選定も必要になる。大学4年間でどれだけ実務に通用するカリキュラムを組めるかで、存在価値は決まる。結局、通常の営業職になってしまっては意味がない。産学の強みを活かしてほしい。
弊社の事業においても大変興味深い計画です。数年後、社内のシステム部門や製造・技術部門で活躍する人材と出会えることを楽しみにしています。
建築関係設備（電気・機械）技術者の、優秀な人材が不足。業界的特に電気関係の専門大学校は少ないと思います。

新学部学科設置の必要性や期待についてのコメント （社会ニーズに合った設置が必要学部学科であり、期待する）
弊事業所は、火力発電所向け大型ボイラを主に製造しており、理工学部について、機械工学の知識も身に付くのであれば、大変興味深いと感じる。
弊社では、発電所の建設・メンテナンス等を行っています。近頃、温暖化問題等でエネルギー問題が議論されており、電気エネルギーについても化石燃料の廃止に向けての取り組みがなされており、未来に向けて化石燃料に変わる新エネルギーの開発と原子力発電の有り方についての正しい方針を考える時期である。 従って、未来のエネルギー問題を担う若者の育成は欠かすことの出来ない事である。また、近代社会に於いての情報処理・分析能力は重要と思われる。以上の事から近畿大学　新学部学科設置計画は重要と考えます。
卒業生への採用意向についてのコメント （採用したい・採用を検討したい）
昨年度は1名内定を出させて頂きましたが、貴学の学生は当社の採用人材像ととてもマッチしており、是非積極的に採用をさせて頂きたいと考えております。学内合説など弊社の説明機会が有りましたら、ぜひお願い致します。
ぜひ学内企業説明会などでお話したく考えております。よろしくお願いいたします。
貴学学生の採用に撃がるよう、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。
採用したく思います。
採用人数は目安としています。良い学生さんがいらっしゃれば積極的に採用させていただきたいと考えております。
情報系学生の応募が少なく採用に苦慮しているところであり、また、エネルギープラントの設計を生業としている当社にとって、新設される学部・学科については、非常に興味がある。
2021年度の入社予定者には、貴学の学生様にご入社いただくことが決定し、とても嬉しく思っております。情報学部の設置により、ITのスペシャリストとしてご活躍いただけることを心より楽しみにしております。
デジタル人材の必要性は今後も益々増えていくと思われます。設置の際にはぜひご縁ができますよう、お取り計らいの程、宜しくお願いします。
貴学新設予定の情報学部にて、AIやIoT、サイバーセキュリティに力を入れていくとのことで、最先端にも挑戦していく学部として非常に期待します。 弊社はブロックチェーン技術を中心とした会社ですが、AI・IoT・サイバーセキュリティとも密接に関係分野なので、即戦力として情報学部で先端技術を学んだ学生を採用できることを願っております。
貴校につきましては、毎年多くの学生に説明会等に参加いただき、また入社していただく学生もおり、大変お世話になっております。今後とも、よろしくお願いいたします。新学部の設置計画につきましても、特にIT系の知見を持つ学生の採用に苦戦している為、大変興味深く感じております。
昨今ITに対する需要は非常に高まっていると弊社としても感じております。 その中で、これからの学生様には実務に近い能力を持たれる方に期待をしており、貴学が計画しておられる新学部学科（情報学部）を拝見したところ、知能情報やサイバーセキュリティとこれからの世の中にマッチした学問であると感じております。 新学部設置の際には、是非とも貴学学生様の就職活動のお手伝いを今以上にご協力させて頂ければと存じます。
情報セキュリティの需要は高まっており、資格（セキュリティスペシャリストなど）をもった方はぜひ採用したい
情報学部　情報学科に非常に興味があります。当社ではそういったことに興味関心を持つ学生を積極的に採用していきたいと考えております。
情報学部に関しましては、「電子回路」を必修科目として設定されますと「情報系」「マイコンシステム系」のどちらでも採用ができるようになります。
情報学部は、当社業務にマッチしており、学生時代に学んだことが非常に役立つことだと思います。特にサイバーセキュリティコースは、ニーズが高まっております。
人材不足の情報技術者を多く養成していただきたい。採用も前向きに考えていきたいので、応援しております。
弊社の事業内容ともマッチするかと思いますので、2学部のうち情報学部情報学科の方の採用を検討したいと回答させて頂いた次第です。何卒宜しくお願い致します。

4. 採用需要分析

○情報学部 情報学科(仮称)卒業生の採用需要

近畿大学 情報学部 情報学科の卒業生の採用需要は下記のとおり。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	130事業所→計314人	内、16事業所→未回答
採用を検討したい	92事業所→計133人	内、14事業所→未回答

実際に採用に至るか否かについては就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて、「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q8)採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい 130事業所	114事業所314人+16事業所16人=330人
採用を検討したい 92事業所	78事業所133人+14事業所14人=147人
合計	477人

調査結果に基づく**近畿大学 情報学部 情報学科の採用需要は「採用したい」のみで330人、「採用を検討したい」まで含めると477人で、「採用したい」が情報学部 情報学科の入学定員(330人)の1.0倍、採用したいまで含めると1.4倍となり、情報学部 情報学科卒業生への一定の採用需要があるといえる。**

○理工学部 エネルギー物質工学科(仮称)卒業生の採用需要

近畿大学 理工学部 エネルギー物質工学科の卒業生の採用需要は下記のとおり。

Q9)採用意向	採用希望人数内訳(人)	
採用したい	69事業所→計125人	内、13事業所→未回答
採用を検討したい	95事業所→計110人	内、20事業所→未回答

実際に採用に至るか否かについては就職希望者個人の人格や能力が大きく影響することから、ここでは「採用したい」に加えて、「採用を検討したい」までを採用需要として定義する。上記の採用意向で人数が未回答であった事業所の採用希望人数を保守的に1事業所当たり1人と仮定した場合、推計採用意向人数(採用の可能性のある人数)は下記のとおりとなる。

Q9)採用意向	採用希望人数内訳(人)
採用したい 69事業所	56事業所125人+13事業所13人=138人
採用を検討したい 95事業所	75事業所110人+20事業所20人=130人
合計	268人

調査結果に基づく**理工学部 エネルギー物質工学科卒業生への採用需要は「採用したい」が138人「採用を検討したい」が130人で合計268人となり、「採用したい」のみでエネルギー物質工学科の入学定員(120人)の1.2倍、「採用を検討したい」まで含めると2.2倍となり、理工学部 エネルギー物質工学科卒業生への一定の採用需要があるといえる。**

5.補記

アンケート説明文 1/4

近畿大学

情報学部 情報学科（仮称）

理工学部 エネルギー物質工学科（仮称）

令和4年4月設置構想中

近畿大学
KINDAI UNIVERSITY

＊ 新学部･学科に関わる名称、人数、教育内容等は現時点での計画であり,今後変更となる可能性があります。

アンケート説明文 2/4

情報学部（仮称）とは？

「Society5.0」の実現に向けて第4次産業革命が進展する中、AI活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、人間中心のシステムデザインなど、第4次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を養成します。

学部・学科の構成

学部名	学科名	入学定員（収容定員）	学位の種類
情報学部	情報学科	330名（1,320名）	学士（工学）

学部・学科の特色

- IoT、AI、クラウドコンピューティングなど最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う講義科目がバランスよく配置され、数学や人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための基礎学力に加え、それら諸技術を組み合わせてシステムを構築するための応用力を習得することができます。
- 1年次は数学、プログラミング、コンピュータなどの基礎を講義や実習を通じて学び、2年次以降は各コースで専門的な学修を行います。

〈知能システムコース〉
AI技術の基礎となる数理・統計の素養を身に付け、今後も技術革新が続くAIの本質を理解し、AIを活用する事で、社会の様々な問題の解決に貢献する技術者を育成します。

〈サイバーセキュリティコース〉
安心安全なIoT社会を実現するために必要不可欠なネットワーク技術やセキュリティ対策技術、クラウド技術を身に付け、IT企業やサイバーセキュリティ対策の専門組織で広範に活躍できる技術者を育成します。

〈実世界コンピューティングコース〉
人間中心のシステム設計論を基礎に、AI、IoT、サイバーセキュリティ技術を組み合わせる事で、実世界と計算機世界の融合が急速に進む現代における新たな情報価値創造に貢献できる技術者を育成します。

● 目標とする資格・検定

基本情報技術者 / 応用情報技術者 / 情報処理安全確保支援士 / ネットワークスペシャリスト
情報セキュリティマネジメント試験 / ITストラテジスト試験 /システムアーキテクト試験
Apple Inc.資格認定App Development with Swift（App Development with Swift Level 1）
シスコ技術者認定CCNA / シスコ技術者認定CCNP / Oracle Academy Java SE 7/8 Bronze
OracleAcademy Oracle Database 12c Bronze / 情報検定 情報システム試験 / 情報検定 情報デザイン試験
CG クリエイター検定 / CG エンジニア検定 / Web デザイナー検定/ 画像処理エンジニア検定 / マルチメディア検定
図書館司書 / 高等学校教諭一種免許状（情報）

養成する人材像 >>>

- IoT社会で活躍するデータ・サイエンティスト
- 高度情報セキュリティに精通したエンジニア
- コンテンツ産業における情報クリエーター
- AI技術に精通したセキュリティエンジニア
- Society5.0を支える情報基盤デザイナー

>>> 卒業後の活躍フィールド

ソフトウェア・ネットワークなどのIT業界だけでなく、
メーカー、サービス業、金融業、
交通や空港等の運輸業、
官公庁などIT技術を活用するすべての業種

アンケート説明文 3/4

エネルギー物質工学科(仮称)とは？

「持続可能な社会基盤エネルギー」「医療センサ・デバイス等へのエネルギー供給」「それらを支えるマテリアル」は、今後のSDGs達成とSociety5.0構築を支える、エネルギー分野の３本柱です。本学科では、化学・電気電子工学・原子核エネルギー理工学・機械工学・生命科学が密接に連携した「共創的なモノづくり」のための実践力育成型カリキュラムを通じて、エネルギー分野の将来像を描き、その実現に貢献する人材を育成します。

学部・学科の構成

学部名	学科名	入学定員（収容定員）	学位の種類
理工学部	エネルギー物質工学科	120名（480名）	学士（工学）

学部・学科の特色

- 化学、電気電子工学、原子核エネルギー理工学、機械工学、生命科学の5分野を融合した「１.次世代インフラエネルギー領域」「２.ライフデバイスエネルギー領域」「３.マテリアル創製領域」の３領域からなるカリキュラムで学ぶことができます。

  1.次世代インフラエネルギー領域では、持続可能エネルギーとしての太陽由来エネルギー（核融合、太陽光、熱）や地球由来エネルギー（風力、地熱、核分裂など）、高効率エネルギー変換・貯蔵技術について学びます。
  2.ライフデバイスエネルギー領域では、生体におけるエネルギー変換・利用や、医療センサ・デバイス等へのエネルギー供給のための微小エネルギーの活用について学びます。
  3.マテリアル創製領域では、上記２つの領域を支える高機能マテリアルについて学びます。

- まずは３領域全ての基礎を学び、その上で各領域の専門科目を学ぶことで、エネルギーに関する広い視野と高い専門性を身に着けることができます。様々な分野（化学、電気電子工学、原子核エネルギー理工学、機械工学、生命科学）の教員が密接に連携し、教育・研究の共創を通じて将来のエネルギー人材を育成します。

- シミュレーション、インフォマティックス、精密合成技術といった、将来のモノづくりに不可欠な技術を習得できます。

● 目標とする資格・検定

高等学校教諭一種免許状（理科）/中学校教諭一種免許状（理科）/図書館司書/ITパスポート/基本情報技術者

養成する人材像 >>>

「エネルギー関連技術の将来像を描き、
その実現に貢献する技術者」

① さまざまな事象（化学反応、情報伝達、太陽光利用、原子核エネルギー利用、動力、生命現象など）を「エネルギー変換」に結び付けて理解できる人材
② シミュレーション・インフォマティックスといった最新のモノづくり支援ツールを活用できる人材
③ 物質合成やデバイス構築といったモノづくり実践力をもつ人材

>>> 卒業後の活躍フィールド

エネルギー関連企業（電力、ガス、石油）、
公的機関、電気設備、自動車産業、
建設・設備、住宅、医療機器、
情報通信、家電メーカー、
素材メーカー、化学企業

≫ 初年度学納金（想定）≪

情報学部 情報学科（仮称）

¥ 1,718,500.-

近隣同分野の学部・学科の初年度学納金（※2020年度）

大学名	学部学科名	初年度学納金
関西大学	システム理工学部 電気電子情報工学科	¥ 1,780,000.-
関西学院大学	理工学部 情報科学科	¥ 1,698,000.-
同志社大学	理工学部 インテリジェント情報工学科 情報システムデザイン学科	¥ 1,736,000.-
立命館大学	情報理工学部	¥ 1,766,200.-
京都産業大学	情報理工学部	¥ 1,523,500.-
甲南大学	知能情報学部 知能情報学科	¥ 1,584,000.-
龍谷大学	先端理工学部 知能情報メディア課程 電子情報通信課程	¥ 1,562,600.-

理工学部 エネルギー物質工学科（仮称）

¥ 1,718,500.-

近隣同分野の学部・学科の初年度学納金（※2020年度）

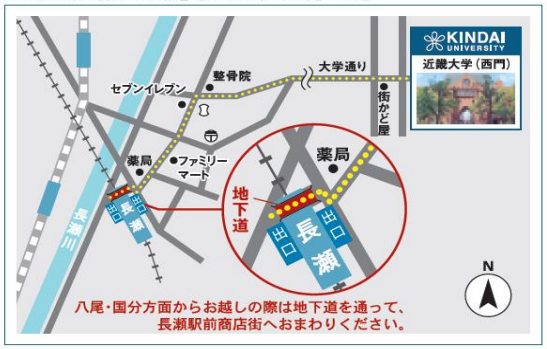
大学名	学部学科名	初年度学納金
関西学院大学	理工学部 先端エネルギーナノ工学科	¥ 1,698,000.-
関西大学	環境都市工学部 エネルギー・環境工学科	¥ 1,780,000.-
大阪工業大学	工学部 電子情報システム工学科	¥ 1,640,000.-
龍谷大学	先端理工学部 電子情報通信課程	¥ 1,562,600.-
同志社大学	理工学部 環境システム学科	¥ 1,736,000.-
立命館大学	理工学部 電子システム系電気電子工学科	¥ 1,766,200.-
大和大学	理工学部 理工学科 電気電子工学専攻	¥ 1,660,000.-

≫ 設置予定地 ≪

【東大阪キャンパス】 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1

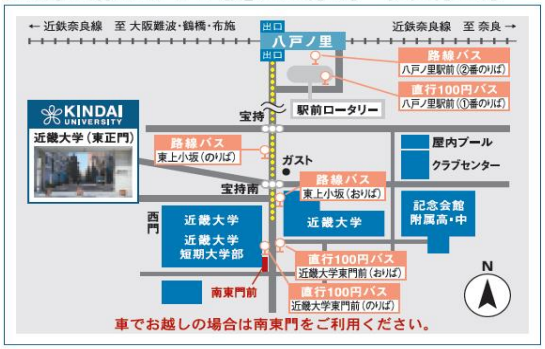
【アクセス-1】

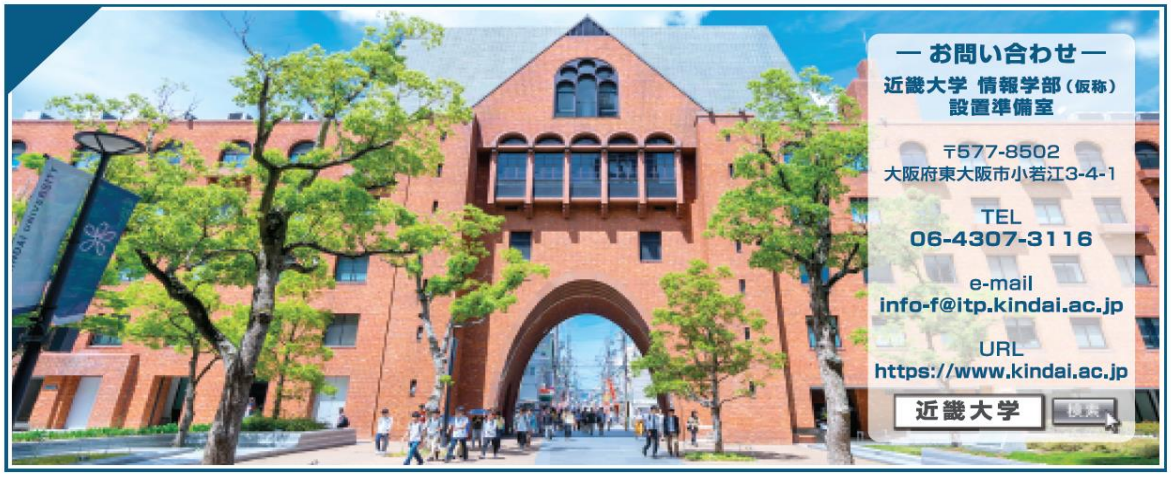
近鉄大阪線「長瀬」駅より徒歩約10分



【アクセス-2】

近鉄奈良線「八戸ノ里駅」バス約6分　徒歩約20分





アンケート調査票 1/2

近畿大学 新学部学科設置に係る事業所採用需要調査

＊ｗｅｂによるご回答の場合はこちらからお願いします⇒https://questant.jp/q/kindai_info

近畿大学では、これまでの学部学科に加えて、新たに２つの学部学科の設置を検討しています。設置計画検討の参考として、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

【質問 1】貴事業所の主たる種別は次のうちどれですか？１つ選び○を付けてください。

1 金融・保険　2 商社・卸売・小売　3 放送・新聞・出版
4 鉄道・航空　5 情報通信　6 製造業
7 建築・土木・住宅　8 電気・ガス・エネルギー　9 運輸・物流
10 飲食・サービス業　11 旅行・宿泊　12 教育・学習関連
13 官公庁　14 その他（　　）

【質問 2】貴事業所の主たる所在地をご記入ください。

（　　）都・道・府・県

【質問 3】貴事業所の従業員数（正規社員）について、該当するもの１つに○を付けてください。

1 50名未満　2 50～99名　3 100～499名
4 500～999名　5 1,000～4,999名　6 5,000名以上

【質問 4】貴事業所では、過去３年間でどのような職種を採用されましたか？
該当するもの全てに○を付けてください。

1 営業・販売　2 企画・広報・マーケティング　3 総務・人事
4 経理・財務　5 接客・案内　6 事務職
7 技術・開発・研究　8 製造・生産　9 専門・資格職
10 プログラマー・システムエンジニア　11 デザイン　12 その他（　　）

【質問 5】貴事業所では、質問４で回答された職種を過去３年間で何人採用されましたか？
採用人数をご記入ください。＊詳細がご不明な場合は概数をご記入ください。

年度	2018年度	2019年度	2020年度
採用人数	（　　）人	（　　）人	（　　）人

【質問 6】貴事業所では、過去３年間で採用された職種の充足状況についてどのようにお考えですか？
次の中から１つ選び○を付けてください。

1 不足している　2 やや不足している　3 ある程度充足している
4 充足している　5 わからない

裏面へ続く⇒

アンケート調査票 2/2

【質問 7】貴事業所では、人材採用の際にどのような点を重視されていますか？
次の中から 2 つまで選び○を付けてください。

1　コミュニケーション能力　　2　語学力　　3　課題発見・課題解決能力
4　チームで働く力　　5　チャレンジ精神・積極性　　6　国際感覚（広い視野・価値観）
7　論理的思考力　　8　専攻分野の基礎学力　　9　社会常識
10　その他（　　）

次の【質問 8】以降は、別紙「近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）、理工学部 エネルギー・物質工学科（仮称）」の概要をご覧いただき、ご記入ください。

近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）について

【質問 8】貴事業所では、近畿大学 情報学部 情報学科（仮称）についてどのようにお考えですか？
それぞれ次の中から 1 つ選び○を付けてください。

○設置の必要性について

1　必要性を感じる　　2　ある程度の必要性を感じる　　3　あまり必要性を感じない
4　必要性を感じない　　5　わからない

○卒業生の採用について

1　採用したい（　　）人程度　　2　採用を検討したい（　　）人程度
3　採用を希望しない　　4　わからない

近畿大学 理工学部 エネルギー・物質工学科（仮称）について

【質問 9】貴事業所では、近畿大学 理工学部 エネルギー・物質工学科（仮称）についてどのように
お考えですか？それぞれ次の中から 1 つ選び○を付けてください。

○設置の必要性について

1　必要性を感じる　　2　ある程度の必要性を感じる　　3　あまり必要性を感じない
4　必要性を感じない　　5　わからない

○卒業生の採用について

1　採用したい（　　）人程度　　2　採用を検討したい（　　）人程度
3　採用を希望しない　　4　わからない

【質問 10】近畿大学 新学部学科設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

近畿大学

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	ﾎｿｲ　ﾖｼﾋｺ 細井　美彦 ＜平成30年4月＞		博士 （農学）		近畿大学　学長 （平成30年4月～令和6年3月）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（情報学部情報学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 (学部長)	クタラギ　ケン 久尋良木　健 〈令和4年4月〉		工学士		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ エンターテインメントコンピューティング 人間中心設計論 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２	1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	サイバーアイ・エンタテインメント株式会社 代表取締役社長 (平成21.10) アセントロボティクス株式会社 代表取締役兼CEO (令和2.8)	4日
2	専	教授	タガワ　キヨハル 田川　聖治 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 確率統計 プログラミング実習１ 数理計画法 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 4 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 教授 (平19.4)	4日
3	専	教授	イグチ　ノブカズ 井口　信和 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 情報システム基礎 情報システム応用 ネットワーク技術 ネットワーク演習２ 情報と社会 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1前 1後 2前 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 教授 (平14.4)	4日
4	専	教授	サノ　イタル 佐野　到 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ コンピュータ基礎 プログラミング基礎１ コンピュータグラフィックス 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1前 1前 2後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 4 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 教授 (平4.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
5	専	教授	ヒグチ　マサヒロ 樋口　昌宏 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 教授 (平12.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							離散数学	2前	2	1		
							OSとコンピュータアーキテクチャ	2前	2	1		
							情報数学	2後	2	1		
							プログラミング実習２	2後	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
6	専	教授	ハンダ　ヒサシ 半田　久志 〈令和4年4月〉		博士 (情報学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 教授 (平24.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							オブジェクト指向プログラミング	1後	4	2		
							音声言語処理	3前	2	1		
							知能システムプロジェクト２	3後	2	1		
							医療情報学応用※	3後	1.2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
7	専	教授	キムラ　ユウイチ 木村　裕一 〈令和4年4月〉		工学博士 博士 (医学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 生物理工学部 教授 (平25.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							技術と倫理	1後	2	1		
							機械学習概論	1後	2	1		
							応用数学	2前	2	1		
							知能システムプロジェクト１	3前	2	1		
							医療情報学応用※	3後	0.4	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
8	専	教授	ミハラ　ケイ 三原　京 〈令和4年4月〉		修士※ (文学)		英語総合１	1前	4	2	近畿大学 理工学部 教授 (平10.4)	4日
							英語総合２	1後	4	2		
							TOEIC１	2前	1	1		
							TOEIC２	2後	1	1		
							ライティング１	2前	1	1		
							ライティング２	2後	1	1		
							海外語学研修（英語）	1･2･3･4通	2	1		
							海外語学研修（中国語）	1･2･3･4通	2	1		
							海外語学研修（韓国語）	1･2･3･4通	2	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	専	教授	ヤマダ　タケシ 山田　武士 〈令和4年4月〉		博士 (情報学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	NTTコミュニケーション 科学基礎研究所 所長 (平29.9)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング基礎２	1後	2	1		
							知能システムプロジェクト１	3前	2	1		
							知能システムプロジェクト２	3後	2	1		
							機械学習２	3後	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
10	専	教授	モウリ　マサミ 毛利　公美 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	岐阜大学 工学部 准教授 (平成19.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング基礎２	1後	2	1		
							サイバーセキュリティプロジェクト２	3後	2	1		
							情報セキュリティ	3後	4	2		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
11	専	教授	ストウ　ヒデツグ 須藤　秀紹 〈令和4年4月〉		博士 (情報学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	室蘭工業大学 大学院 工学研究科 教授 (平21.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング基礎１	1前	2	1		
							インタラクション設計	3前	2	1		
							実世界コンピューティングプロジェクト２	3後	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
12	専	教授	ナカニシ　ヒデユキ 中西　英之 〈令和4年4月〉		博士 (情報学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	大阪大学大学院 工学研究科 准教授 (平18.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング基礎２	1後	2	1		
							プログラミング実習２	2後	2	1		
							人工現実感	3前	2	1		
							実世界コンピューティングプロジェクト１	3前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
13	専	准教授	モリヤマ　マサミツ 森山　真光 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 准教授 (平15.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							ビジネスモデルとマネジメント	1後	2	1		
							プログラミング実習１	2前	2	1		
							Webシステム	2後	4	2		
							アドバンスドWebシステム	3前	2	1		
							情報と職業	4前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
14	専	准教授	アベ　コウジ 阿部　孝司 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 准教授 (平18.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							多変量解析	2前	2	1		
							知能システムプロジェクト１	3前	2	1		
							キャリアデザイン	3後	4	2		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
15	専	准教授	カトウ　トオル 加藤　暢 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 准教授 (平12.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング実習１	2前	2	1		
							プログラミング実習２	2後	2	1		
							人工知能	3前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
16	専	准教授	ミゾブチ　ショウジ 溝渕　昭二 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 准教授 (平13.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							自然言語処理	2後	2	1		
							ネットワーク演習１	3前	2	1		
							サイバーセキュリティプロジェクト１	3前	2	1		
							クラウドコンピューティング	3後	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
17	専	准教授	ハベ　ヒトシ 波部　斉 〈令和4年4月〉		博士 (情報学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ プログラミング基礎２ 機械学習１ 知能システムプロジェクト１ コンピュータビジョン 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1後 2後 3前 3前 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 准教授 (平24.4)	4日
18	専	准教授	タダ　マサヒロ 多田　昌裕 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 自校学習 コミュニケーション論 実世界コンピューティングプロジェクト１ 実世界コンピューティングプロジェクト２ HCI 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1前 2前 3前 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 准教授 (平25.4)	4日
19	専	准教授	タニグチ　ヨシアキ 谷口　義明 〈令和4年4月〉		博士 (情報科学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ サイバーセキュリティプロジェクト１ モバイル通信 組み込みシステム ネットワーク演習２ 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 3前 3前 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 准教授 (平26.4)	4日
20	専	准教授	シラハマ　キミアキ 白浜　公章 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 情報処理実習２ 実践機械学習 モデル最適化基礎 実世界コンピューティングプロジェクト１ 深層強化学習 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1後 2後 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 准教授 (平30.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
21	専	准教授	ツノダ　マサテル 角田　雅照 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 准教授 (平25.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング基礎２	1後	2	1		
							プログラミング実習１	2前	2	1		
							プログラミング実習２	2後	2	1		
							ソフトウェア工学	3前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
22	専	准教授	オチ　ヨウジ 越智　洋司 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 准教授 (平15.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング基礎２	1後	2	1		
							プログラミング実習１	2前	2	1		
							統計データ解析	2後	2	1		
							調査データ分析	2後	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
23	専	准教授	モリヤ　セン 守屋　宣 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	近畿大学 理工学部 准教授 (平14.4)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							基礎線形代数学２	1後	4	2		
							プログラミング実習１	2前	2	1		
							データ構造とアルゴリズム	2前	4	2		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		
24	専	准教授	シノザキ　タカシ 篠崎　隆志 〈令和4年4月〉		博士 (科学)		基礎ゼミ１	1前	2	1	情報通信研究機構 研究員 (平22.12)	4日
							基礎ゼミ２	1後	2	1		
							プログラミング基礎１	1前	2	1		
							プログラミング実習２	2後	2	1		
							深層学習	3前	2	1		
							知能システムプロジェクト２	3後	2	1		
							情報学基礎ゼミナール１	2前	2	1		
							情報学基礎ゼミナール２	2後	2	1		
							情報学応用ゼミナール１	3前	2	1		
							情報学応用ゼミナール２	3後	2	1		
							社会情報学実習１	2前	1	1		
							社会情報学実習２	2後	1	1		
							社会情報学実習３	3前	1	1		
							社会情報学実習４	3後	1	1		
							卒業研究	4通	8	1		

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
25	専	准教授	スギヤマ　オサム 杉山　治 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 実世界コンピューティングプロジェクト１ 実世界コンピューティングプロジェクト２ サービスコンピューティング 複合システムデザイン 医療情報学応用※ 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 3前 3後 3後 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 2 0.4 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	京都大学大学院 医学研究科 特定准教授 (令2.4)	4日
26	専	准教授	カシワザキ　ヒロキ 柏崎　礼生 〈令和4年4月〉		博士 (情報科学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 情報セキュリティ対策と管理１ 情報セキュリティ対策と管理２ ネットワーク演習１ サイバーセキュリティプロジェクト２ セキュリティ技術評価と実装技術 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 2後 3前 3前 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	国立情報学研究所 特任准教授 (平成31.4)	4日
27	専	講師	イシミズ　タカシ 石水　隆 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 基礎線形代数学１ プログラミング基礎１ プログラミング実習２ 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1前 1前 2後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 4 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 講師 (平12.4)	4日
28	専	講師	ヒロナガ　ミキヤ 広永　美喜也 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 基礎微分積分学 プログラミング実習２ オブジェクト指向設計 ネットワーク演習１ 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1前 2後 2後 3前 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 4 2 4 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 講師 (平5.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
29	専	講師	ハマスナ　ユキヒロ 濵砂　幸裕 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ プログラミング基礎１ ｅスポーツ データモデリング データマイニング 知能システムプロジェクト２ 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1前 1前 3前 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 講師 (平23.4)	4日
30	専	講師	フクタ　ヨウジ 福田　洋治 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 暗号と情報セキュリティ 情報理論 サイバーセキュリティプロジェクト２ ネットワーク演習２ 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 2前 3前 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 講師 (平28.4)	4日
31	専	講師	オオタニ　マサユキ 大谷　雅之 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ 情報処理実習１ プログラミング実習１ 知的エージェント 実世界コンピューティングプロジェクト２ 社会シミュレーション 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1前 2前 3後 3後 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 講師 (平29.4)	4日
32	専	講師	ミズタニ　キミヒロ 水谷　后宏 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ IoT サイバーセキュリティプロジェクト１ データベース論 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 1後 3前 3前 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 4 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 理工学部 講師 (平31.4)	4日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
33	専	講師	ヤマモト　ショウ 山元　翔 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ プログラミング実習１ プログラミング実習２ メディア処理 インタラクティブシステム 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	近畿大学 工学部 講師 (平27.4)	4日
34	専	講師	ナカガワ　ヒロシ 中川　浩 〈令和4年4月〉		Doctor of Education (ESL) (米国)		英語総合１ 英語総合２ TOEIC１ TOEIC２ アカデミックイングリッシュ１ アカデミックイングリッシュ２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	4 4 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	東海大学 国際教育センター 講師 (平28.4)	4日
35	専	講師	マーク　ドネラン Mark Donnellan 〈令和4年4月〉		Master of Arts (英国)		オーラルイングリッシュ１ オーラルイングリッシュ２ オーラルイングリッシュ３ オーラルイングリッシュ４ IT英語１ IT英語２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	関西学院大学 語学教育研究センター 言語特別講師 (平26.4)	4日
36	専	助教	ヨシハラ　カズアキ 吉原　和明 〈令和4年4月〉		博士 (教育学)		基礎ゼミ１ 基礎ゼミ２ ネットワークセキュリティ技術 セキュリティ解析技術 サイバーセキュリティプロジェクト１ サイバーセキュリティプロジェクト２ 情報学基礎ゼミナール１ 情報学基礎ゼミナール２ 情報学応用ゼミナール１ 情報学応用ゼミナール２ 社会情報学実習１ 社会情報学実習２ 社会情報学実習３ 社会情報学実習４ 卒業研究	1前 1後 2後 3前 3前 3後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4通	2 2 4 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 8	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	福山大学 工学部 助教 (令2.4)	4日
37	兼担	教授	コバシ　カオル 小橋　馨 〈令和6年4月〉		法学修士		企業倫理と知的財産	3後	2	1	近畿大学 法学部 教授 (令和3.4)	
38	兼担	教授	ヤマサキ　シゲイチロウ 山崎　重一郎 〈令和5年4月〉		博士 (情報科学)		ブロックチェーン	2後	2	1	近畿大学 産業理工学部 教授 (平16.4)	
39	兼担	教授	フセ　マサアキ 布施　匡章 〈令和5年4月〉		博士 (経済学)		ITビジネス基礎	2前	2	1	近畿大学 経営学部 教授 (平25.4)	
40	兼担	教授	スジ　イチロウ 筋　伊知朗 〈令和6年4月〉		経済学士		サイバー犯罪学	3前	2	1	近畿大学 情報学研究所 教授 (令2.5)	
41	兼担	教授	イダ　タミオ 井田　民男 〈令和4年4月〉		博士 (工学)		環境と社会	1前	2	1	近畿大学 バイオコークス研究所 教授 (平28.4)	
42	兼担	教授	イシイ　タカユキ 石井　隆之 〈令和4年4月〉		修士 (教育学)		教養特殊講義Ａ※	1後	1	1	近畿大学 総合社会学部 教授 (平9.4)	
43	兼担	教授	カンダ　ヒロシ 神田　宏 〈令和4年4月〉		法学修士		教養特殊講義Ｃ	1後	2	1	近畿大学 法学部 教授 (平5.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
44	兼担	教授	マツタニ　タカオミ 松谷　貴臣 〈令和4年4月〉		博士(工学)		教養特殊講義C	1後	2	1	近畿大学 理工学部 教授 (平19.4)	
45	兼担	教授	アツミ　ヒサオ 渥美　寿雄 〈令和5年4月〉		工学博士		資源とエネルギー	2前	2	1	近畿大学 理工学部 教授 (昭62.4)	
46	兼担	教授	タナカ　ヒカル 田中　ひかる 〈令和4年4月〉		修士 (体育学)		生涯スポーツ１ 生涯スポーツ２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 経営学部 教授 (平19.4)	
47	兼担	教授	ニシダ　ジュンイチ 西田　順一 〈令和4年4月〉		博士 (人間環境学)		生涯スポーツ１ 生涯スポーツ２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 経営学部 教授 (平29.4)	
48	兼担	教授	ヒライ　ダイスケ 平井　大輔 〈令和4年4月〉		博士 (英語学)		教養特殊講義B	1前	2	1	近畿大学 経営学部 教授 (平20.4)	
49	兼担	教授	マツムラ　ヒロシ 松村　博史 〈令和5年4月〉		文学修士		フランス語総合３ フランス語総合４	2前 2後	1 1	1 1	近畿大学 文芸学部 教授 (平12.4)	
50	兼担	教授	モク　チョンキュン 睦　宗均 〈令和4年4月〉		博士 (言語文化学)		韓国語総合１ 韓国語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 理工学部 教授 (平22.4)	
51	兼担	准教授	ハシモト　ケイコ 橋本　啓子 〈令和4年4月〉		博士 (学術)		教養特殊講義A※	1後	1	1	近畿大学 建築学部 准教授 (平28.4)	
52	兼担	准教授	ビョン　ソンウ 辺　成祐 〈令和4年4月〉		修士 (経済学)		国際経済と企業の国際化	1前	2	1	近畿大学 経営学部 准教授 (平成29.4)	
53	兼担	准教授	モリヤマ　トモヒロ 森山　智浩 〈令和4年4月〉		博士 (言語文化学)		教養特殊講義B	1前	2	1	近畿大学 法学部 准教授 (平20.4)	
54	兼担	准教授	ホウハラ　シンヤ 芳原　新也 〈令和6年4月〉		博士 (工学)		科学的問題解決法	3前	2	1	近畿大学 原子力研究所 准教授 (平18.4)	
55	兼担	准教授	コウノ　エイジ 河野　英二 〈令和4年4月〉		博士 (文学)		ドイツ語総合１ ドイツ語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 理工学部 准教授 (平23.4)	
56	兼担	准教授	アリマ　マリア 有馬　麻理亜 〈令和4年4月〉		博士 (文学)		フランス語総合１ フランス語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 経済学部 准教授 (平24.4)	
57	兼担	准教授	コウフク　カオリ 幸福　香織 〈令和4年4月〉		文学修士		中国語総合１ 中国語総合２ 中国語総合３ 中国語総合４	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	近畿大学 理工学部 准教授 (平9.4)	
58	兼担	准教授	ムライ　ヨシヒロ 村井　義洋 〈令和4年4月〉		薬学博士		基礎化学および演習	1前	3	1	近畿大学 全学共通教育 機構 准教授 (平4.4)	
59	兼担	講師	リ　カヨン 李　嘉永 〈令和4年4月〉		修士 (法学)		科学技術の進歩と人権	1後	2	1	近畿大学 人権問題研究所 准教授 (平31.4)	
60	兼担	講師	ナガタ　ミチ 長田　道 〈令和5年4月〉		Master of Education・Arts (米国)		心理と行動	2後	2	1	近畿大学 メディカル サポートセンター 講師 (平29.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
61	兼担	講師	マツシタ　セイ 松下　聖 〈令和4年4月〉		修士(国際学)		国際社会と日本	1前	2	1	近畿大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 特任講師 (令２．２)	
62	兼担	講師	オオムラ　ユウジ 大村　雄司 〈令和4年4月〉		博士(理学)		基礎物理学および演習	1前	3	1	近畿大学 理工学部 講師 (平31.4)	
63	兼担	講師	スズキ　ハル 鈴木　晴 〈令和4年4月〉		博士(理学)		化学	1後	2	1	近畿大学 理工学部 講師 (平30.4)	
64	兼担	講師	オカ　ケンゴ 岡　研吾 〈令和4年4月〉		博士(理学)		化学	1後	2	1	近畿大学 理工学部 講師 (平31.4)	
65	兼担	助教	イケダ　ヒロコ 池田　裕子 〈令和4年4月〉		博士(医学)		生物学	1後	2	1	近畿大学 理工学部 助教 (令2.4)	
66	兼任	講師	オオサカ　アキヒト 大坂　章仁 〈令和4年4月〉		法務博士		現代社会と法 暮らしのなかの憲法	1前 1後	2 2	1 1	辻田博子 法律事務所 弁護士 (平27.4)	
67	兼任	講師	ヒロセ　ミチヨ 広瀬　美千代 〈令和4年4月〉		博士(学術)		住みよい社会と福祉	1後	2	1	大阪市立大学 大学院 生活科学研究科 研究員 (令2.4)	
68	兼任	講師	ニシグチ　ヨシノリ 西口　善則 〈令和6年4月〉		法学士		メディアの読み方	3前	2	1	近畿大学 総合社会学部 客員教授 (平31.4)	
69	兼任	講師	ツヅキ　ユミ 都築　由美 〈令和4年4月〉		学士(文学)		日本語の技法	1前	2	1	フリーアナウンサー (平1.4)	
70	兼任	講師	モウリ　マサヒロ 毛利　在宏 〈令和6年4月〉		法務博士		プレゼンテーション技術	3後	2	1	天神橋行政書士 法務事務所 所長・行政書士 (令2.1)	
71	兼任	講師	イノウエ　タクヤ 井上　拓也 〈令和4年4月〉		修士(人間環境学)		英語総合１ 英語総合２ ライティング１ ライティング２ アカデミックイングリッシュ１ アカデミックイングリッシュ２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	4 4 2 2 1 1	2 2 2 2 1 1	近畿大学 非常勤講師 (令和2.4)	
72	兼任	講師	タカハシ　カズマ 髙橋　一馬 〈令和4年4月〉		修士(人間環境学)		英語総合１ 英語総合２ ライティング１ ライティング２ アカデミックイングリッシュ１ アカデミックイングリッシュ２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	4 4 2 2 1 1	2 2 2 2 1 1	近畿大学 非常勤講師 (平31.4)	
73	兼任	講師	トキサト　ユウコ 時里　祐子 〈令和4年4月〉		修士(文学)		英語総合１ 英語総合２ ライティング１ ライティング２ アカデミックイングリッシュ１ アカデミックイングリッシュ２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	4 4 2 2 1 1	2 2 2 2 1 1	近畿大学 非常勤講師 (平18.4)	
74	兼任	講師	コクボ　ユミ 小久保　有美 〈令和4年4月〉		修士(外国語教育学)		英語総合１ 英語総合２ ライティング１ ライティング２ アカデミックイングリッシュ１ アカデミックイングリッシュ２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	4 4 2 2 1 1	2 2 2 2 1 1	近畿大学 非常勤講師 (平28.4)	
75	兼任	講師	ショーン ホワイト Shawn White 〈令和4年4月〉		Master's of Education(カナダ)		オーラルイングリッシュ１ オーラルイングリッシュ２ オーラルイングリッシュ３ オーラルイングリッシュ４ IT英語１ IT英語２	1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	近畿大学 非常勤講師 (平26.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
76	兼任	講師	ウィリアム　ホワイト William White 〈令和4年4月〉		M.Ed. Educational Technology (米国)		オーラルイングリッシュ１ オーラルイングリッシュ２ オーラルイングリッシュ３ オーラルイングリッシュ４	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	近畿大学 非常勤講師 (平22.4)	
77	兼任	講師	デイビッド　サンドブルック David Sandbrook 〈令和4年4月〉		Master of Applied Linguistics (豪州)		オーラルイングリッシュ１ オーラルイングリッシュ２ オーラルイングリッシュ３ オーラルイングリッシュ４	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	近畿大学 非常勤講師 (平31.4)	
78	兼任	講師	アンドリュー　ナドゥー Andrew Nadeau 〈令和4年4月〉		Master of Science in Education (米国)		オーラルイングリッシュ１ オーラルイングリッシュ２ オーラルイングリッシュ３ オーラルイングリッシュ４	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	近畿大学 非常勤講師 (平30.4)	
79	兼任	講師	シェイン　ウォルシュ Shane Walsh 〈令和4年4月〉		M.Applied Linguistics (豪州)		オーラルイングリッシュ１ オーラルイングリッシュ２ オーラルイングリッシュ３ オーラルイングリッシュ４	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	近畿大学 非常勤講師 (平24.4)	
80	兼任	講師	スマ　ハジメ 須摩　肇 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		ドイツ語総合１ ドイツ語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平5.4)	
81	兼任	講師	ミヤモト　ハルミ 宮本　春美 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		ドイツ語総合３ ドイツ語総合４	2前 2後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平4.4)	
82	兼任	講師	ヤマモト　ヒロシ 山本　浩史 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		中国語総合１ 中国語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平28.4)	
83	兼任	講師	オカハラ　ツグハル 岡原　嗣春 〈令和4年4月〉		博士 (文学)		中国語総合１ 中国語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平26.4)	
84	兼任	講師	タナカ　ヤヨイ 田中　弥生 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		中国語総合１ 中国語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平31.4)	
85	兼任	講師	ノジマ　モトヤス 野島　本泰 〈令和4年4月〉		修士 (文学)		中国語総合１ 中国語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平29.4)	
86	兼任	講師	ニノミヤ　サトシ 二ノ宮　聡 〈令和5年4月〉		修士 (文学)		中国語総合３ 中国語総合４	2前 2後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平22.4)	
87	兼任	講師	ヒライ　セイミ 平井　清実 〈令和4年4月〉		文学修士		韓国語総合１ 韓国語総合２	1前 1後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平21.4)	
88	兼任	講師	ペ　ジョンウン 裵　貞銀 〈令和5年4月〉		修士 (言語文化学)		韓国語総合３ 韓国語総合４	2前 2後	1 1	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平27.4)	
89	兼任	講師	ササキ　タダヒロ 佐々木　正大 〈令和4年4月〉		博士 (保健学)		基礎生物学	1前	2	1	大阪大学 微生物病研究所 助教 (平31.6)	
90	兼任	講師	トダ　ケンタロウ 戸田　健太郎 〈令和4年4月〉		修士 (理学)		プログラミング基礎１ プログラミング基礎２	1前 1後	2 2	1 1	近畿大学 非常勤講師 (平26.4)	

別記様式第３号（その３）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　　位	学　　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　　授	博　　士	人	人	人	5 人	3 人	2 人	人	10 人	
	修　　士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	1 人	1 人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博　　士	人	人	5 人	8 人	1 人	人	人	14 人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　　師	博　　士	人	1 人	5 人	1 人	1 人	人	人	8 人	
	修　　士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　　教	博　　士	人	1 人	人	人	人	人	人	1 人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　　計	博　　士	人	2 人	10 人	14 人	5 人	2 人	人	33 人	
	修　　士	人	人	1 人	1 人	人	人	人	2 人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	1 人	1 人	
	短 期 大 学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

別記様式第3号・別添

（用紙　日本産業規格A4縦型）

（情報学部情報学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	採用根拠等
1	専任	教授	ｸﾀﾗｷﾞ ｹﾝ 久夛良木　健 ＜令和4年4月＞		学校法人近畿大学教・職員定年規程第3条 理事会（R3.2.25開催）承認